saxa

取扱説明書

多機能電話機編

ビジネスコミュニケーションシステム

PLATIA Ⅲ

このたびは、「PLATIA Ⅲ」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり正しくお使いください。

PLATIA Ⅲでは、用途と規模に応じて、以下の 3 つの機種を用意しております。

	PLATIA Ⅲ Standard (S タイプ)	PLATIA Ⅲ Professional (M タイプ)	PLATIA Ⅲ Ultimate (L タイプ)
総ポート 物理ポート数(論理ポート数)	22(26)	46(82)	384(768)
適用回線	デジタル回線(INS ネット 64) アナログ回線 IP 電話回線 SIP 専用線	デジタル回線(INS ネット 64) アナログ回線 IP 電話回線 SIP 専用線 OD 専用線 LD 専用線	デジタル回線(INS ネット 64/1500) アナログ回線 IP 電話回線 SIP 専用線 OD 専用線 LD 専用線
総外線 物理ポート数(論理ポート数)	4(16)	12(44)	192(192)
総内線 物理ポート数(論理ポート数)	18(26)	34(82)	288(768)

※本書では、PLATIA Ⅲを「主装置」、また Standard、Professional、Ultimate をそれぞれ「S タイプ」、「M タイプ」、「L タイプ」と記載しています。
※総外線の論理ポート数は、IP 電話回線と SIP 専用線を含んだ外線の合計数です。
※総内線の論理ポート数は、IP 内線とマルチラインシステムコードレス電話機(DECT-PS)内線、デジタルコードレス電話機(UM)内線を含んだ内線の合計数です。

ご注意

- 本製品は、電話番号に代表される、個人情報の保存または保持可能な商品です。設置工事、保守、廃棄、譲渡および返却される際は、本製品内に保存または保持された個人情報を消去する必要があります。
- ご使用の際は、本書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品は、日本国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
  This equipment is designed for in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本製品を分解したり改造することは、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。
- 本製品を設置するための配線工事および修理は、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は違法となり、また事故の元になりますので、絶対におやめください。
- 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、販売店にお申しつけください。
- 本書の内容、外観については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。
- その他、本書に記載されている会社名・ロゴ・製品名・ソフトウェア名は、各会社の商標または登録商標です。

免責事項

- 地震および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本装置の使用または使用不能から生じる付随的な損害(記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断、通信機会の喪失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 電話サービスを利用することによる金銭上の損害、および逸失利益について第三者からのいかなる請求についても当社はその責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

安全にお使いいただくために

必ずお読みください

本書には、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の説明

表　示	説　明
⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（※ 1）を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（※ 1）を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害（※ 2）を負う可能性が想定される内容および物的損害（※ 3）のみの発生が想定される内容を示しています。

※ 1：　重傷とは失明・けが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
※ 2：　傷害とは治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
※ 3：　物的損害とは家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

表　示	説　明
禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。 この記号のついた警告・注意文が指定する行為は絶対に行わないでください。
強制	強制（必ずすること）を示します。 この記号のついた警告・注意文が指定する行為は必ず実施してください。

⚠ 危険	
禁止	**電池パックの充電は、専用の充電器、AC アダプタを使用して行ってください** その他の充電条件で充電すると、電池パックの液もれ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
強制	**電池パックはプラス⊕・マイナス⊖の向きが決められています。コードレス電話機に接続するときは、プラス⊕、マイナス⊖の向きを確かめてください** 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。
禁止	**電池パックを単体では充電しないでください** 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。
禁止	**電池パックは、指定の電話機以外には使用しないでください** 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。
禁止	**電話機に使用する電池は同梱の電池パックまたは、同一の電池パックを使用してください**
強制	**電池パックを使用する場合は、以下のことを必ず守ってください** 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。 ・火の中に投入したり、加熱しない ・直接はんだ付けしない ・プラス⊕・マイナス⊖を針金などの金属類で接触させない ・水・雨水・海水・薬品などにつけたり、ぬらさない ・ネックレスなどの金属製品と一緒に持ち運んだり、保管しない ・針を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたり、投げつけない ・電池カバーを取り付けるとき、電池パックのコードを挟まない ・外装チューブ(被覆)をはがしたり、傷つけない
禁止 分解禁止	**電池パックを分解・改造しないでください** 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。
強制	**電池パック内部の液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください**
強制	**電池パックの液もれや異臭がするときは直ちに電源を切り、火気より遠ざけてください**
強制	**不要になったリチウムイオン電池を廃棄するときは、ショート防止のために、電極に絶縁テープを貼り、地方自治体の条例や規則に従うようにしてください** 電極がショートすると、破裂、発火の原因となります。

⚠ 警告	
禁止	**取付位置を変更しないでください** 火災・感電・けがの原因となります。 配線工事を行うには資格が必要です。販売店にご相談ください。
禁止 電源プラグを抜く	**主装置の通風孔や電話機の開口部などから、金属類を入れないでください** 火災・感電・故障の原因となります。万一、金属類が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。
禁止 ぬれ手禁止	**主装置をぬれた手で操作したり、ぬれた布でふかないでください** 感電の原因となります。
禁止 電源プラグを抜く	**万一、内部に水などが入った場合、そのまま使用しないでください** すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
禁止 電源プラグを抜く	**主装置、電話機の上や近くに液体の入った容器(花びん・植木鉢・コップ・化粧品・薬品など)、小さな金属などを置かないでください** 液体や金属が内部に入ると、火災・感電・故障の原因となります。万一、液体や金属が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。
禁止 接触禁止	**雷が鳴り出したら、主装置・電源コード・LAN ケーブル・USB メモリなどに触れないでください** 感電の原因となります。
禁止 電源プラグを抜く	**万一、煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなどの異常状態が発生した場合、そのまま使用しないでください** すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。なお、お客様による修理は危険ですからおやめください。
禁止	**一般のゴミとして放置しないでください** 火災・けがの原因となります。 廃棄するときは、販売店にご相談ください。
禁止	**AC100V ± 10V の商用電源以外は、絶対に使用しないでください** 火災・感電・故障の原因となります。
禁止	**内線・外線の各端子をショートさせないでください** 火災・故障の原因となります。
強制	**電源プラグを電源コンセントへ直接接続してください** 延長コードは過熱・発火の危険があるので使わないでください。

⚠ 警告	
禁止	**テーブルタップや分岐コンセント・分岐ソケットを使用したタコ足配線はしないでください** 火災・過熱の原因となります。
禁止 電源プラグを抜く	**主装置、電話機を傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに置かないでください** 落下・転倒により、けがの原因となります。万一、落下・転倒により破損したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
禁止 ぬれ手禁止	**ぬれた手で電源プラグ、LAN ケーブル、USB メモリを抜き差ししないでください** 感電・けがの原因となります。
禁止 火気禁止	**主装置、電話機に火の気を近づけたり、加熱しないでください** 鉛蓄電池（バッテリー）が液もれ・発熱・破裂し、火災・けがの原因となります。
禁止 電源プラグを抜く	**電源コード、電話機コード、LAN ケーブル、USB メモリを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工しないでください** コードや USB メモリが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだ場合は（芯線の露出、断線など）主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店に交換をご依頼ください。
禁止	**工事者以外は、装置の蓋などを開けないでください** 感電、故障の原因となります。
強制	**電源プラグは電源コンセントの奥までしっかり差し込んでください** 電源プラグの刃に、金属などが触れると火災・感電・故障の原因となります。
強制	**電源プラグの刃および刃の取付面に、ほこりが付着している場合は、よくふいてください** 火災の原因となります。
強制 電源プラグを抜く	**主装置に鉛蓄電池（バッテリー）を使用する場合、寿命は（使用頻度にもよりますが）設置後 2 ～ 3 年（長寿命バッテリーの場合は 6 年）です。交換時期になりましたら、販売店にまとめて交換をご依頼ください** 寿命が過ぎた鉛蓄電池（バッテリー）を使用し続けるとバッテリー内部の液もれの原因となります。万一、バッテリー内部からもれた液が皮膚や衣服についたときは、すぐきれいな水で洗い流してください。皮膚がかぶれることがあります。 また、バッテリー内部の液もれが発生したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
禁止	**機器で指定されていないバッテリーは使用しないでください。また、新しいバッテリーと古いバッテリーと混ぜての使用はしないでください** 電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。
禁止 分解禁止	**分解・改造・修理しないでください** 火災・感電・故障の原因となります。 電話機の改造は法令違反になります。故障のときは、販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 警告	
強制 電源プラグを抜く	**万一異物が、本装置および電話機の内部に入った場合は、まず本装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください** そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください。
強制	**主装置の内部の点検・修理は、販売店に依頼してください**
禁止	**歩行中に電話機を操作したり見たりしないでください** 転倒・交通事故などの原因となります。
禁止	**電話機を電子レンジや高圧容器に入れたりしないでください** 火災・故障の原因となります。
禁止	**引火性ガスが発生する場所では、電話機を絶対に充電しないでください** 火災の原因となります。
禁止 電源プラグを抜く	**万一、充電器が落下したり、破損した場合は、そのまま使用しないでください** 必ず AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
禁止	**本装置を医療用電子機器（ペースメーカーなど）の近くで使用しないでください** 電波により医療用電子機器に影響を与えることがあります。
禁止	**高精度な制御や、微弱な信号を取り扱う電子機器の近くで使用しないでください** 電子機器が誤動作するなど影響が出る可能性があります。また、使用を制限された場所での使用はお控えください。 （ご注意いただきたい電子機器の例：補聴器・医療用電子機器（ペースメーカーなど）・火災報知機・自動ドア・自動制御機器など）
禁止	**充電器の開口部から金属類を入れないでください** 万一、内部に異物が入った場合は、すぐに AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
禁止	**充電端子を金属でショートさせないでください** 火災・故障の原因となります。
禁止	**充電端子に水滴のついたまま充電しないでください** 火災・故障の原因となります。
禁止	**無接点充電器や電話機に水滴のついたまま充電しないでください** 火災・故障の原因となります。
禁止	**膨れた電池パックを無理に取り付けないでください** 電池パックが変形し、電池パック内部の保護機構が壊れることで、発熱、破裂、発火の原因となります。 電池パックが膨張した場合は、速やかに新しい電池パックと交換してください。
強制	**電池パックが液もれしたり、異臭がするときは、すぐに火気から遠ざけてください**
強制	**所定の充電時間を越えても充電が完了しない場合には、すぐに充電をやめて、お買い求めの販売店にご連絡ください**

⚠ 警告	
禁止 ぬれ手禁止	**ぬれた手で電池パックを交換したり、ぬれた手で充電器の AC アダプタを抜き差ししないでください** 感電の原因となります。
禁止	**付属の AC アダプタ、充電器以外を使用しないでください** 火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。
強制	**AC アダプタ、充電器は指定の電源コンセントに接続してください** それ以外の電源コンセントに接続すると火災・感電・故障の原因となります。
強制	**電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください**
禁止	**LAN ポートや PC ポートに接続したネットワークケーブルを電源コンセント、アナログ電話回線、デジタル電話回線（ISDN）、PBX デジタル電話回線には接続しないでください** 火災・感電・故障の原因となります。
強制	**LAN ケーブルのモジュラープラグおよび USB メモリのコネクタは、ほこりが付着していないことを確認してからモジュラージャックまたは USB ポートに差し込んでください。また、モジュラープラグやコネクタにほこりが付着している場合は、よくふいてください** ほこりにより火災・感電の原因となります。
注意	**動いている機械の近くでヘッドセットやイヤホンを使用している場合は、コード類の機械への巻き込みに十分注意してください** 大怪我の原因になります。
強制	**充電器や AC アダプタの電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また、半年から 1 年に 1 回は電源プラグを電源コンセントから抜いて点検、清掃をしてください** ほこりにより、火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関してはお買い求めの販売店にご相談ください。
強制	**故障したまま使用しないでください** 火災･感電の原因となります。電話機の場合は直ちに電源スイッチを切り電池パックを外し、充電器の場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いて修理をご依頼ください。
禁止	**電話機をねじったり、重い物をのせたり、強く押しつけたりして、圧迫しないでください** 破損して、火災・やけど・けがの原因となることがあります。
強制	**無接点充電器にアルミなどのシールや金属製のものや異物など、電話機以外を置かないでください** 金属が熱くなり、火災・やけどなどの原因となることがあります。

⚠ 注意	
強制	**必ずアースを接続してください** アース接続をしないで使用すると感電・故障の原因となることがあります。
強制	**主装置や電話機を壁掛けに変更するときは、販売店にご相談ください** 配線工事を行うには資格が必要です。また、主装置や電話機の重みに耐える専用壁掛け金具を使用して適正な取り付けが必要です。
禁止	**電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください** 電源コードが破損し､火災･感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

⚠ 注意	
禁止	**振動・衝撃の多い場所に置かないでください** 火災・感電・故障の原因となります。また落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
禁止	**主装置や電話機を上下逆さまの状態で設置しないでください** 火災・感電・故障の原因となることがあります。
禁止	**主装置、電話機の上に乗ったり、座ったりしないでください** けがや故障の原因となることがあります。
禁止	**直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところに置かないでください** 内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
禁止	**湿気やほこりの多い場所、潮風、腐食性ガスのかかる場所、化学反応を起こすような場所(化学実験室など)には置かないでください** 火災・感電・故障の原因となることがあります。
禁止	**風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください** 火災・感電・故障の原因となることがあります。
禁止	**調理台のそばなど油煙や湯気が当たるような場所、ほこりが多い場所に置かないでください** 火災・感電・故障の原因となることがあります。
禁止	**電源コード・電話機コード・LAN ケーブルを熱器具に近づけないでください** コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
禁止	**落下させるほどの強い衝撃を与えないでください**
強制	**移動させる場合は、電源プラグを電源コンセントから抜き、回線コードや電話機コードなど外部の接続線をはずしたことを確認の上、行ってください** コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
禁止	**主装置や電話機の開口部をふさがないでください** 開口部をふさぐと、内部の熱が上昇し、火災の原因となることがあります。
禁止	**電気雑音を発生するものに近い場所に置かないでください** 通話に雑音が入ったり、使用できなくなることがあります。 ＜電気雑音の原因としては＞ ・車やオートバイが近くを通る場合 ・放送局や無線局(アマチュア無線、CB 無線など)の近くで使用する場合 ・テレビ・ラジオ・蛍光灯・OA 機器・電子レンジ・電気コタツなどの近くで使用する場合 ・高周波溶接機・高周波ミシン・電気溶接機・ワイヤカッタなどの工作機械の近くで使用する場合
禁止	**強い磁界の発生源の近くに設置しないでください** 火災・感電・故障の原因となることがあります。
禁止	**火のそばや炎天下などの高温の場所や、布団等かぶせた状態で、充電はしないでください** 高温になると危険を防止する保護装置が働き、充電できなくなったり、保護装置が壊れる原因となります。
強制	**電池パックは、事故防止のため、小さいお子様の手の届かないところに保管してください** 誤飲、感電の原因となります。
注意	**初めてご使用になる場合や長時間使用されなかった場合は、必ず充電して異常のないことを確認してからお使いください**

⚠ 注意	
強制	**長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず充電器の AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください。また電話機の電源を切り、電池パックも取り出してください** 発火・故障の原因となります。 主装置については、常時電源を「ON」の状態にしておいても問題ありません。
強制	**AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず AC アダプタまたは電源プラグを持って抜いてください** 電源コードを引っ張ると、電源コードが傷つき、火災・感電・断線の原因となることがあります。
禁止	**コードレス電話機のアンテナを持って持ち運んだり、アンテナを無理に曲げたり引っ張ったりしないでください** 故障の原因となります。
注意	**電話機等の底面には、ゴム製のスベリ止めを使用しています。ゴムとの接触面がまれに変色することがあります**
注意	**コードレス電話機のアンテナを誤って目にささないようにしてください**
注意	**アンテナなどの突起物を目や口などに入れないようにしてください。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください**
強制	**充電器をお手入れする際は、安全のため、あらかじめ AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください** 感電の原因となることがあります。
禁止	**充電器の上に指輪、ネックレスなどの金属類を置かないでください** 金属が熱くなり、火災・やけどなどの原因となることがあります。
強制	**充電は周囲温度 5℃～ 35℃の範囲で行ってください** 正常な充電ができなかったり、故障の原因となります。
注意	**十分充電しても使用できる時間が短くなった場合は電池パックの寿命の可能性があります。お買い求めの販売店に電池パックの交換をお申し付けください**
禁止	**本製品の近くに、紙などの燃えやすいものを置かないでください** 発熱により火災、感電の原因となることがあります。
禁止	**磁気カードや磁気記録メディア、精密機器などを本製品に近づけないでください** キャッシュカードなどの登録情報が消去される場合があります。
強制	**充電器で充電する場合は、必ず正しい向きで充電してください** 機能が使えなかったり、充電できないことがあります。
強制	**コードレス電話機ご使用時は必ず専用の電池パックを取り付けてご使用ください** 電池パックが接続されていないと動作しません。
強制	**お手入れの際は安全のために、本装置の電源スイッチを切ってから電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください**
強制	**水滴がついた場合は、乾いた布でふき取ってください** 本装置および電話機の内部に水滴が入ると、火災・故障の原因となることがあります。
禁止	**表面が熱に弱い家具の上などの表面が熱に弱い場所には、本装置および電話機を置かないでください** 家具等の表面が変色・変形する場合があります。

⚠ 注意	
禁止	**本装置および電話機の上に手をついたり、ものを載せないでください** 火災や故障の原因となります。
禁止	**ぬれた雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールおよびシリコン系クリーナなどでふかないでください** 本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは水で薄めた中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、柔らかい布でからぶきしてください。
禁止	**受話器用カールコードやモジュラープラグで差し込まれている電話機コードを強く引っ張らないでください** 故障の原因となることがあります。

IP 回線の特性について

●下記のような場合には、IP 電話サービスの通話品質が劣化したり、通信が切断される場合があります。
- WAN（ブロードバンド）回線の接続状態によって十分な帯域がとれない場合
- インターネットで十分な帯域がとれない場合
- 主装置に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合

●相手の方からの音声品質がよい場合でも、こちらから相手への音声品質が劣化していることがあります。
- ADSL 回線をご利用の場合は、下りの伝送速度よりも上りの伝送速度のほうが低いため、通話中にインターネット上のサーバへ大きなファイルを送信したり、他拠点との間でファイルを転送することは避けてください。また、LAN 内に、インターネットにアクセスできる Web サーバ、FTP サーバなどを設置しないでください。

SIP 電話機および標準 IP 多機能電話機（NPKT）の特性について

●下記のような場合には、電話機の通話品質が劣化したり、通信が切断される場合があります。
- LAN の接続状態によって、十分な帯域がとれない場合
- LAN に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合

●相手の方からの音声品質がよい場合でも、こちらから相手への音声品質が劣化していることがあります。

取扱上のお願い / 主装置、電話機、他

停電などの外的要因、あるいは本装置の故障、誤動作、不具合によって通信などの機会を逸したために生じた逸失利益等の金銭的損害につきましては、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください

本装置を人命や、危害に直接的または、間接的に高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください

本装置に登録された内容は故障・修理のときに消失する場合があります

取扱上のお願い / 主装置、電話機、他
テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所や違法無線を受ける場所に設置した場合、ノイズや誤動作を引き起こすことがあります
放送局の近くや違法 CB 無線など、強い電波を受ける場所では通話中に雑音が入ることがあります。通話に支障をきたす場合には、販売店にご相談ください
別売品の停電用電源を接続している場合は、電源スイッチが「ON」のままで、電源プラグを抜いたり、配電盤などの電源を切らないでください バッテリーが放電してしまい、停電時に動作しなくなります。また、バッテリーの寿命を縮める原因となります。
コードレス電話機を設置するときは、親機から約 3m 以上離してください 親機にあまり近い場合は、コードレス電話機が正常に動作しないことがあります。
マルチラインシステムコードレス電話機を除く、コードレス電話機は、防水対応ではありません
寒い戸外から急に暖かい室内にコードレス電話機を持ち込むと、急激な温度変化により、コードレス電話機内部に水滴(結露)がつくことがあります。結露が生じたときは電源を切って、水滴が蒸発するまでしばらく放置しておいてください 結露したままで使用すると、故障の原因となります。
コードレス電話機の通話は盗聴されにくくなっていますが、電波を利用しているため、通常の手段を超えた方法で第三者が故意に通話の内容を傍受する場合があります。この点を十分に留意して使用してください

目 次

安全にお使いいただくために …… i

お使いになる前に xxvi

取扱説明書の見かた …… xxvi
略図の説明 …… xxvii
本書の構成 …… xxviii
構成図 …… xxx
主装置についてのご注意 …… xxxii

多機能電話機編

第 1 章　電話機の取り扱い 1

1-1 電話機の各部の説明 …… 2
各部の名称と説明 …… 2
●正面の説明 …… 2
●側面の説明（停電ユニット搭載時の電話機の場合） …… 3
●底面の説明（停電ユニット搭載時の電話機の場合） …… 3
ディスプレイ表示 …… 4
●ディスプレイの見かた …… 4
●ディスプレイ画面の例 …… 5
ランプ表示 …… 6
音の種類一覧 …… 7
システム管理電話機と一般ユーザ電話機 …… 7

1-2 電話機の調節 …… 8
電話機の角度調節 …… 8
電話機のパネル・記入シートの取り付けと取り外し …… 9
●多機能電話機 …… 9
音量の調節 …… 10
●受話音量を調節する …… 10
●スピーカ受話音量を調節する …… 11
●着信音量を調節する …… 12
●側音量を調節する（側音量調節） …… 13
●ボタンを押したときの音を調節する（ボタン押下音切替） …… 14
ディスプレイ表示の調整 …… 15
●ディスプレイの濃淡を調整する（LCD コントラスト調整） …… 15
●バックライトを設定する（LCD バックライト点灯調整） …… 16

1-3 サービスメニューの使いかた …… 17
サービスメニューに使用するボタンの使いかた …… 17
サービスメニューの構成 …… 18
●一般ユーザ電話機のサービスメニュー …… 18
●システム管理電話機のサービスメニュー …… 19

1-4 文字入力方法 …… 20
●文字入力モードの切り替え …… 20
●文字の入力方法 …… 21
●濁点・半濁点の入力方法 …… 21
●文字入力ボタン一覧 …… 22
●漢字（全角）の入力方法 …… 23
●文字の修正 / 挿入 / 削除方法 …… 24
●カナ（半角）の入力方法 …… 25

1-5 カレンダー / 時計の設定 …… 27
カレンダー / 時計の日時を変更する …… 27

1-6 電話機への機能の登録 …… 28
オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける …… 28
●オートダイヤルボタンに機能を登録する …… 28
●オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する …… 29
●オートダイヤルボタンに電話帳を登録する（電話帳ワンタッチ割付） …… 30
●オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付） …… 31
●オートダイヤルボタンに機能特番を登録する（ワンタッチ割付） …… 32
●オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する …… 33
●オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する …… 34
内線名称の登録 …… 35
●内線名称を登録する …… 35
●内線名称の登録を削除する …… 36

1-7 電話帳の登録 …… 37
電話帳に情報を登録する …… 37
●登録先のメモリ番号を指定する …… 38
●相手先の名前を入力する …… 39
●登録する電話帳グループを指定する …… 40
●相手先の電話番号を入力する …… 40
●着信音を選択する（着番号別） …… 41
●着信形式を指定する（共通電話帳のみ） …… 43
●発信付加情報を選択する …… 44
●メモを入力する …… 45
●電話帳を登録する …… 45
●発着信履歴から電話帳に登録する …… 46
電話帳を編集・削除する …… 47
●電話帳を編集する …… 47
●電話帳を削除する …… 48
電話帳グループの登録 …… 49
●電話帳グループの名前を登録する …… 50
●電話帳グループごとに着信ランプの色を切り替える（着信ランプ切替） …… 51

1-8 その他の機能 …… 52
保留音 / 着信音にメロディを設定する …… 52
保留音の設定 …… 54
●保留音を変更する …… 54
着信音色の選択 …… 55
●内線電話機ごとに着信音の音色を選択する（内線別着信音種） …… 55
●外線からかかってきた電話の着信音色を変更する（外線別着信音種） …… 57
着信ランプ表示色の設定（着信種別や各種状態別） …… 58

第２章　基本的な使いかた　59

2-1 外線にかける …… 60
電話番号をダイヤルしてかける …… 60
●外線ボタンを使ってかける（任意外線発信） …… 60
●発信ボタンを使ってかける（自動選局発信） …… 60
●受話器を上げてダイヤルするだけでかける（オフフック自動外線捕捉） …… 60
最後にかけた相手に再度かける（リダイヤル） …… 61
電話番号を確認してかける（プリセットダイヤル） …… 61
オートダイヤル機能を使ってかける（ワンタッチダイヤル） …… 62
電話帳を使って電話をかける（電話帳発信） …… 63
●電話帳メモリ番号を指定してかける …… 63
●電話帳に登録されている名前を検索してかける …… 65
発信履歴 / 着信履歴から電話する（履歴発信） …… 66

2-2 内線にかける …… 67
内線番号をダイヤルしてかける（内線個別呼出（音声 / 信号）） …… 67
電話番号を確認してかける（内線プリセット発信） …… 68
最後にかけた相手に再度かける（内線リダイヤル） …… 68
発信履歴 / 着信履歴から電話する（内線発着信履歴） …… 69

2-3 外線からの電話を受ける …… 70
外線ボタンを押して受ける（任意外線着信応答） …… 70
受話器を上げるだけで受ける（オフフック外線自動応答） …… 70
DIL/DID 着信に応答する …… 71

2-4 内線からの電話を受ける …… 72
受話器を上げるだけで受ける …… 72
音声呼出に応答する …… 72
受話器を置いたままで音声呼出に応答する（内線ハンズフリー応答） …… 72
同じグループ内の別の電話を受ける（代理応答（コールピックアップ）） …… 73
他のグループの電話を受ける（グループ指定代理応答） …… 73

2-5 通話を保留する …… 74
他の電話機で再応答できるように保留する（システム保留 / パーク保留） …… 75
他の電話機では再応答できないように保留する（自己保留） …… 76

2-6 通話を転送する（手動転送） …… 77
転送先に呼びかけて転送する（口頭転送） …… 77
転送先と通話してから転送する（ダイヤル転送） …… 78
転送先と通話しないで転送する（強制転送） …… 79
かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する（チェンジオーバー） …… 80

第３章　便利な使いかた（応用操作）　81

3-1 電話をかけるときの便利な使いかた …… 82
●受話器を上げずにダイヤルする（オンフックダイヤル） …… 82
●受話器を上げるだけでかける（オフフック自動ダイヤル） …… 82
外線にかけるとき …… 83
●指定した回線からかける（指定外線捕捉） …… 83
●指定した方路のうち空いている回線を自動捕捉して発信する（方路選局発信） …… 83
●外線へのかけ直しを繰り返す（オートリピート） …… 84
●複数の電話帳メモリ番号を組み合わせて発信する（ネスティングダイヤル） …… 84
●外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える …… 86
●指定した番号への発信を規制する（発信禁止番号登録） …… 87
●内線電話機から緊急ダイヤルへ電話をかける（緊急ダイヤル発信） …… 88

内線にかけるとき …… 89
●内線登録したオートダイヤルボタンでかける（内線ワンタッチコール） …… 89
●受話器を置かずに別の内線にかける（リセットコール） …… 89
●指定したグループの内線電話を音声で一斉に呼び出す（内線グループ音声呼出） …… 90
●指定したグループの内線電話を着信音で一斉に呼び出す（内線 DGL 呼出） …… 91
●内線へのかけ直しを繰り返す（内線オートリピート） …… 92
●内線電話を予約する（内線キャンプオン） …… 92

3-2 電話を受けるときの便利な使いかた …… 93
外線を受けるとき …… 93
●通話中に外線から電話がかかってきたことがわかるようにする（話中着信音） …… 93
●外線ごとに着信音を選択する（外線別着信音種指定） …… 94
●外線ごとに鳴動電話機を指定する …… 94
●特定のグループへ着信した電話に応答する（DGL 着信 /MSA 着信） …… 95
音声自動応答（IVR）機能を利用する …… 96
●IVR 機能が利用できる電話番号に電話する（お客様の操作） …… 96
●IVR 機能で設定できる着信先 …… 96

3-3 保留 / 転送操作時の便利な使いかた …… 97
●ワンタッチダイヤルボタンで内線に転送する …… 97
●外線からの着信を任意の外線に転送する（公一公接続） …… 98

3-4 通話中の便利な使いかた …… 99
●受話器を置いたままで通話する（ハンズフリー通話） …… 99
●相手の音声をスピーカで聞く（スピーカ受話） …… 100
●通話相手にこちらの音声を聞こえないようにする（送話ミュート） …… 100
●フックフラッシュ信号（フッキング信号）を送る（フックフラッシュ送出） …… 101
●プッシュホン信号を送る（PB エンド・ツー・エンド通信） …… 101

3-5 電話に応答できないときの便利な機能 …… 102
外線からの着信を自動で転送する（外線自動転送） …… 103
●外線自動転送の設定 …… 103
●転送先の電話番号を登録・変更 / 削除する（相手先登録） …… 105
●回線グループの転送設定を外線自動転送モードに登録する（転送先指定） …… 107
●外線自動転送の起動時間を設定する（外線転送起動時間） …… 109
●外線自動転送中に転送先と着信先の内線を同時に呼び出す（転送中着信鳴動） …… 109
●外線自動転送モードを手動で ON/OFF する …… 110
●外線自動転送モードを自動で ON/OFF するように設定する（外線自動転送モード自動切替） …… 111
不在時にかかってきた電話を転送する（不在転送） …… 113
●不在転送先を設定する（不在転送設定）－サービスメニュー－ …… 113
●不在転送の設定項目 －サービスメニュー－ …… 114
●不在転送先を設定する（不在転送設定）－特番－ …… 115
●不在 ON/OFF を設定する …… 119
●不在理由を編集する …… 120
●転送先を移動先の内線に変更する（フォロミー） …… 121
一定時間応答しないときに転送する（無応答転送） …… 122
●無応答時に転送されるまでの時間（無応答タイマ）を設定する（個別着信時） …… 122
●無応答転送先を設定する（個別着信時） …… 123
●無応答転送の設定項目（個別着信時） …… 124
一定時間応答しないときに転送する（一般系無応答転送） …… 125
●無応答時に転送されるまでの時間（無応答タイマ）を設定する（一般系着信時） …… 125
●無応答転送の転送先を設定する（一般系着信時） …… 127
●無応答転送の設定項目（一般系着信時） …… 128
圏外の電話機にかかってきた電話を転送する（圏外転送） …… 129
●圏外転送の転送先を設定する …… 129
●圏外転送の設定項目 …… 130
自動転送時の転送先 / 転送元ガイダンスを設定する …… 131

3-6 通話中に着信があったときの便利な機能 …… 132
通話中の着信相手に一時待ってもらう（着信ウェイトメッセージ） …… 132
●着信ウェイトメッセージを利用する…… 132
●着信ウェイトメッセージを設定する…… 133
通話中にかかってきた電話を転送する（話中転送） …… 134
●話中転送の転送先を設定する…… 134
●話中転送の設定項目…… 135
3-7 外出先からの便利な機能 …… 136
外出先から設定を変更する（転送リモコン） …… 136
●外出先から会社に電話をかけて転送リモコンを開始する…… 136
●外出先から外線自動転送モードを変更する…… 137
●外出先から不在設定の ON/OFF を切り替える …… 137
●転送リモコン用暗証番号を登録 / 変更する…… 138
外出先から留守番電話機能を利用する（留守リモコン） …… 139
●外出先から会社に電話をかけて留守リモコンを開始する…… 139
●外出先から留守番モードを切り替える…… 140
●外出先から利用 / 切替できる留守番電話機能…… 141
●留守リモコン用暗証番号を登録 / 変更する…… 142
外出先から電話して各種機能を利用する（付加番号 DID） …… 143
●外出先から直接内線に電話する…… 143
●外出先から直接電話できる着信先…… 143
外出先から会社のシステムを使って電話をかける（リモートコールバック） …… 144
●電話帳グループにリモートコールバック機能を設定する…… 144
●リモートコールバック応答後の電話のかけかた…… 145
3-8 便利な機能設定 …… 146
時間帯により着信形式を切り替える（夜間モード切替） …… 146
●夜間モードを手動で切り替える…… 147
●夜間モードを自動で切り替える…… 148
1 台の電話機に着信させる（集中着信） …… 148
●集中着信モードの ON/OFF を切り替える …… 148
システムカレンダーを利用する …… 149
●システム全体の毎年決まった祝祭日を設定する…… 150
●テナントで使用する休日パターンを指定する…… 152
●自テナントの毎年決まった休日（特定日）を登録する …… 153
2 つの機能を 1 つの操作で設定できるようにする（W 機能セット） …… 154
●2 つの機能モードを同時に設定 / 解除する…… 154
電話機のボタン操作をロックする（電話機操作規制（キーロック）） …… 155
●キーロックを設定 / 解除する…… 155
3-9 便利なお知らせ機能 …… 156
応答できなかった着信のお知らせ機能を利用する（不応答着信（個別）お知らせ） … 156
FAX に着信があったことを内線電話機で表示する（FAX 着信お知らせ） …… 157
●FAX 着信のお知らせを表示 / 確認する …… 157
●自分の内線電話機で使用する FAX を設定する（内線毎 FAX 指定） …… 158
設定した時刻にアラーム音やチャイム音を鳴らす …… 159
●アラーム時刻を設定 / 解除する（時刻アラーム） …… 159
●チャイム音を鳴らす時刻を設定する（チャイムタイマ連動） …… 160
内線の現在の状態を一覧表示する（内線一覧） …… 161
●内線一覧 / 詳細画面を表示する…… 161
●内線一覧 / 詳細画面から内線を呼び出す…… 162
●内線一覧 / 詳細画面から内線名称を登録 / 削除する…… 162

3-10 電話機使用中に使えるメニュー …… 163
内線捕捉中メニュー …… 163
●内線捕捉状態について…… 164
●内線一覧…… 164
●応答関係…… 165
●呼出関係…… 167
●ドアホンモニタ…… 169
●指定外線捕捉…… 169
外線通話中メニュー …… 170
●外線通話中にできる操作…… 171
●共通電話帳 / 個別電話帳を表示・検索する…… 172

第 4 章　その他の便利な機能　175

4-1 便利な機能を使いこなす …… 176
迷惑電話 / 非通知電話を拒否する …… 176
●着信履歴の電話番号を迷惑電話番号として登録する…… 176
●通話中の相手の電話番号を迷惑電話番号として登録する…… 177
●電話番号を指定して迷惑電話番号として登録する…… 177
●迷惑電話に登録された電話番号を変更する…… 178
●迷惑電話・非通知電話の着信拒否モードをオンにする…… 178
3 人以上で通話をする（多者通話） …… 179
●会議通話を招集する（会議通話） …… 179
●外線通話中に他者を割り込ませる（外線秘話解除） …… 180
●他者の通話に割り込む（割込通話） …… 180
●他の電話の通話内容を聞く（通話モニタ） …… 181
自分が待機中であることを相手に知らせる …… 182
●相手の操作が終わり次第、着信音を鳴らす（コールウェイティング）…… 182
●他者と通話中の相手にブザー音を鳴らして知らせる（トーンオーバーライド） …… 183
回線の使用を一時的に制限する …… 184
●外線 / 専用線からの着信を一時的に制限する（回線使用制限） …… 184
●外線の着信音を一時的に鳴らさない（外線着信鳴動拒否） …… 185
●DGL グループ電話機への着信呼数を制限する（DGL 呼数制限） …… 186
4-2 公衆網サービスの利用 …… 187
アナログ外線サービスを利用する …… 187
●ナンバーディスプレイを利用する…… 187
●キャッチホンを利用する…… 188
●モデムダイヤルインを利用する…… 188
●ボイスワープを利用する…… 189
ISDN 外線サービスを利用する …… 190
●INS ナンバーディスプレイを利用する …… 190
●INS ボイスワープおよび INS ボイスワープセレクトを利用する …… 190
●転送元電話番号受信サービスを利用する…… 192
●ｉ・ナンバーを利用する…… 192
●迷惑電話お断りサービスを利用する…… 193
4-3 外部ネットワークとの接続 …… 194
VoIP 外線の各種サービスを利用する …… 194
●IP 電話サービスを利用する …… 194
ルータ機能を利用する …… 195
●LAN インターフェース接続 …… 195
●WAN インターフェース接続…… 195
SIP 専用線を利用する …… 196
ビハインド接続時の便利な機能 …… 197
●ポーズ信号を自動挿入する（オートポーズ） …… 197
●PBX 外線接続について（ビハインド） …… 197

4-4 インターネット機能の利用 …… 198
インターネット機能を便利に使う …… 198
●コンテンツ情報を電話機に表示する（ですく deRSS） …… 198
●着信履歴をメールで送信する（着信履歴メール送信） …… 199
●外線転送結果をメールで送信する（外線転送メール送信） …… 200
●緊急地震速報を受信する（緊急地震速報） …… 200

4-5 外部機器との接続 …… 201
外部機器を利用する …… 201
●構内放送装置との接続 …… 201
●ドアホンとの接続 …… 202
●ヘッドセットとの接続 …… 205
●外部音源との接続 …… 206
●コールスピーカとの接続 …… 206

4-6 停電時の機能と省電力機能 …… 207
停電時の対応機能について …… 207
●停電中に一定時間電話の機能を維持する …… 207
●停電用電話機について …… 207
省エネ機能について（S/M タイプ主装置のみ） …… 208
●省エネモード …… 208
●バッテリーパワーセーブ …… 208

4-7 主装置の設定 …… 209
主装置の各種設定について …… 209
●パソコンの Web ブラウザで Web 設定を利用する …… 209
●主装置の IP アドレスを確認する …… 210
●代行 / 留守番 /IVR の応答ガイダンスを録音する（ユーザガイダンス録音） …… 211

第 5 章　ボイスメールの使いかた　215

5-1 お使いになる前に …… 216
ボイスメールのシステム概要 …… 216
ボイスメールシステムを利用する機能 …… 217
ボイスメールの取扱上のご注意 …… 217
ボイスメールの用語と説明 …… 218
ボイスメールで使用するボタン …… 219
メッセージの状態表示 …… 220
ボタンとランプ動作一覧 …… 221

5-2 暗証番号の設定 …… 222
暗証番号を登録する（新規） …… 222
暗証番号を変更する …… 223

5-3 基本的な使いかた …… 224
留守番機能 …… 224
留守番機能の設定と使いかた（手動切替） …… 225
●手動で留守番モードを設定 / 解除する …… 225
●手動切替時の留守番機能の動作を設定する …… 228
留守番機能の設定と使いかた（自動切替） …… 233
●自動で留守番モードを設定 / 解除する（留守番モード自動切替） …… 233
●自動切替時の留守番機能の動作を設定する …… 233
留守番機能の設定と使いかた（共通） …… 237
●留守番モードの自動切替と手動切替の優先順位を指定する …… 237
●留守番起動時間を設定する …… 238
●外出先から留守番モードや留守番機能を設定する …… 239
●留守番録音されたメッセージの有無を確認する …… 239

留守番モニタ（居留守応答） …… 240
●手動切替時の留守番モニタ機能を設定する …… 240
●留守番モニタの状態と表示（居留守応答） …… 241
●留守番電話機を切り替える …… 241
ワンショット留守番 …… 242
●ワンショット留守番の動作を設定する …… 242
●ワンショット留守番機能で応答する …… 244
各種代行機能 …… 245
●不在代行を設定する …… 245
●話中代行を設定する …… 249
●無応答代行を設定する …… 250
●圏外代行を設定する …… 251
●外線着信代行を設定する …… 252
通話録音（通話メモ） …… 253
●通話を録音する …… 253
●自動で通話が録音されるように設定 / 解除する（自動通話録音） …… 256
メールボックス用電話帳を利用する …… 257
●通話録音の録音先をメールボックス用電話帳で指定する …… 257
●メールボックスへの録音先や転送先をメールボックス用電話帳から指定する …… 258
メールサービスを利用する …… 259
●メールセンターへ接続してメールボックスにログオンする …… 260
●メールボックスからログオフしてメールセンターから切断する …… 261
●外出先からメールボックスを利用する …… 262
●録音されているメッセージを再生する …… 263
●メッセージ再生中にできる操作と内容 …… 264
●メッセージ一覧表示画面からできる操作と内容 …… 265
●メッセージを削除する …… 265
●録音されているメッセージを他のメールボックスへ転送する（メールボックス間メッセージ転送） …… 266
●ボイスメールシステムの動作条件を設定する …… 267
メールボックスにメッセージを録音する …… 268
●メールボックスにメッセージを録音する（クイックメッセージ録音） …… 268
5-4 便利な使いかた …… 269
メッセージが録音されたことを通知する（メッセージ録音通知） …… 269
●メッセージ録音の電話での通知先を登録する（録音通知設定） …… 270
●メッセージ録音の E メールでの通知先を登録する（録音通知設定） …… 271
●各録音機能でメッセージ録音通知の有無と録音通知方法を選択する …… 272
録音メッセージにコメントを追加する（コメント登録） …… 273
●再生中のメッセージにコメントを付ける …… 273
●メッセージ一覧からコメントを付ける …… 273
操作ガイドを表示して操作する …… 274
録音メッセージを外部に保存する …… 275
●Web 設定を利用してメッセージを保存 / 削除する（メッセージ外部保存（手動）） …… 275
●外部 FTP サーバへの自動保存を設定する（メッセージ外部保存（自動）） …… 275

第 6 章　コードレスセット編　277

6-1 お使いになる前に …… 278
略図の説明 …… 278
●カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）…… 278
各部の名称とはたらき …… 279
●カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）…… 279
●コードレス電話機（WSd）（充電器） …… 280
●カールコードレス電話機（CL）（親機） …… 280
●コードレス電話機（WSd）（親機） …… 280
ディスプレイ表示 …… 281
●ディスプレイの見かた…… 281
●ディスプレイ画面の例…… 282
ランプ表示 …… 283
音の種類一覧 …… 283

6-2 使用上のご注意 …… 284
無線に関するご注意 …… 284
電波に関するご注意 …… 285
●子機が圏外にでると…… 285
電池パックの取り付け …… 286
●電池パックの交換…… 286
充電と接続のしかた …… 288
●カールコードレス電話機（CL） …… 288
●コードレス電話機（WSd） …… 288
充電端子のお手入れ …… 289
電波の強さ …… 289
電池残量 …… 289

6-3 電話機の調節 …… 290
電話機ディスプレイの表示形式を設定する …… 290
●ディスプレイのコントラストを調整する…… 290
●ディスプレイのバックライトを設定する…… 290
音量を調節する …… 291
●着信音量を調節する…… 291
●受話音量を調節する（ハンドセット受話音量） …… 292
●スピーカ受話音量を調節する…… 293
●ボタン押下音を切り替える…… 293
●話中に別の着信があったときの着信音を設定する…… 294
便利な機能を設定する …… 295
●FAX 内線を設定する …… 295
●内線ハンズフリー応答を設定する…… 295
●子機サイレントを設定する…… 296

6-4 サービスメニューの使いかた …… 297
サービスメニュー一覧 …… 297
サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける …… 298
●オートダイヤルボタンに機能を登録する…… 298
●オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する…… 299
●オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する…… 300
●オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する …… 301
●オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付） …… 302
●オートダイヤルボタンに電話帳を登録する（電話帳ワンタッチ割付） …… 304

6-5 カールコードレス電話機(CL)の独自機能 …… 305
●カールコードレス電話機(CL)(親機 / 子機)のメニュー操作について …… 305
●カールコードレス電話機(CL)(子機)から(親機)へ通話を切り替える …… 305
●カールコードレス電話機(CL)(親機)から(子機)へ通話を切り替える …… 306

6-6 電話のかけかた …… 307
外線にかける …… 307
●電話をかける(外線発信) …… 307
●最後にかけた相手に再度かける(リダイヤル) …… 308
●電話帳から電話をかける(電話帳発信) …… 309
●オートダイヤル機能を使ってかける(電話帳ワンタッチ / ワンタッチボタン) …… 311
●発信履歴 / 着信履歴から電話する(履歴発信) …… 311
便利な外線発信機能 …… 312
●外線で会議する(会議通話) …… 312
内線にかける …… 313
●内線番号をダイヤルしてかける(内線発信) …… 313
便利な内線発信機能 …… 313
●続けて別の内線を呼び出す(リセットコール) …… 313
●グループ内の内線電話を一斉に呼び出す(内線グループ音声呼出) …… 314
●構内放送する(構内放送呼出) …… 315
●ドアホンを呼び出す(ドアホン呼出) …… 316

6-7 電話の受けかた …… 317
外線を受ける …… 317
●外線ボタンを押して受ける(任意外線着信応答) …… 317
●通話ボタンを押して受ける…… 317
内線を受ける …… 317
便利な内線受信機能 …… 318
●代理応答グループ内の別の電話を受ける(代理応答) …… 318
●他の代理応答グループの電話を受ける(グループ指定代理応答) …… 318
●ドアホンからの呼び出しで通話する(ドアホン着信) …… 319

6-8 保留のしかた …… 320
システム保留 …… 320
●システム内の他の電話機でも再応答できるように保留する(システム保留) …… 320
自己保留 …… 321
●他の電話機では再応答できないように保留する(自己保留) …… 321
パーク保留 …… 322
●パークグループ内の他の電話機でも再応答できるように保留する(パーク保留) … 322

6-9 転送のしかた …… 324
ダイヤル転送 …… 324
●現在通話中の相手を内線通話後に転送する(ダイヤル転送) …… 324
口頭転送 …… 325
●システム保留 / パーク保留した外線を転送する(口頭転送) …… 325
不在転送の設定 …… 326
●不在転送の設定をする…… 326
チェンジオーバー …… 327
●かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する(チェンジオーバー) … 327

第 7 章　アナログ電話機編　329

7-1 アナログ電話機の利用 …… 330
アナログ電話機を利用する …… 330
アナログ電話機の基本操作 …… 331
●フッキング操作について …… 331
●特番ダイヤルについて …… 331
アナログ電話機特有の機能について …… 331
●ナンバーディスプレイについて …… 331
●切断信号の送出について …… 331
ファクシミリを利用する …… 332
●FAX を自動受信する（TEL/FAX 自動切替） …… 332
●転送先ファクシミリを指定する（FAX 転送先指定） …… 332
●FAX 着信を手動で転送する …… 333

7-2 電話のかけかた …… 334
外線にかける …… 334
●受話器を上げて電話をかける（自動選局発信） …… 334
●最後にかけた相手に再度かける（リダイヤル） …… 334
●受話器を上げてダイヤルするだけでかける（オフフック自動外線捕捉） …… 334
便利な外線発信機能を利用する …… 335
●電話帳メモリ番号から電話をかける（電話帳発信） …… 335
●外線で会議する（会議通話） …… 335
内線にかける …… 336
●内線番号をダイヤルしてかける（内線発信） …… 336
便利な内線発信機能を利用する …… 336
●グループ内の内線電話を一斉に呼び出す（内線グループ音声呼出） …… 336
●構内放送する（構内放送呼出） …… 337

7-3 電話の受けかた …… 338
外線を受ける …… 338
●受話器を上げて外線を受ける …… 338
内線を受ける …… 338
●受話器を上げて内線を受ける …… 338
便利な受信機能を利用する …… 339
●代理応答グループ内の他の電話を受ける（代理応答） …… 339
●他の代理応答グループの電話を受ける（グループ指定代理応答） …… 339
●通話中に他の電話を受ける（キャッチホン） …… 340
●ドアホンからの呼び出しに応答する（ドアホン着信） …… 340

7-4 保留のしかた …… 341
電話を一時的に保留する …… 341
●外線 / 内線を保留する（一時保留） …… 341
パーク保留機能を利用する …… 342
●外線 / 内線を保留する（パーク保留） …… 342

7-5 転送のしかた …… 343
電話を転送する …… 343
●転送先と通話してから転送する（ダイヤル転送） …… 343
電話を強制的に転送する …… 344
●内線通話をしないで直接外線を転送する（強制転送） …… 344
不在転送を利用する …… 345
●不在転送の設定をする …… 345
チェンジオーバー機能を利用する …… 346
●かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する（チェンジオーバー） … 346

第 8 章　マルチラインシステムコードレス電話機編　347

8-1 お使いになる前に …… 348
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の特長 …… 348
略図の説明 …… 349
各部の名称とはたらき …… 350
●マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 350
●充電器 …… 351
●マルチラインシステムコードレス接続装置（DECT-CS） …… 351
●イヤホンマイクとハンドストラップの取り付け …… 352
ディスプレイ表示 …… 353
●ディスプレイの見かた …… 353
●ディスプレイ画面の例 …… 354
ランプ表示 …… 355
音の種類一覧 …… 355

8-2 使用上のご注意 …… 356
無線に関するご注意 …… 356
電波に関するご注意 …… 357
●電話機が圏外にでると …… 358
●接続装置が混み合っているときは …… 358
●利用可能な接続装置を選択するには（アンテナサーチ）（電話機独自機能） …… 358
防水 / 防塵性能について …… 360
●防水 / 防塵性能について …… 360
●ご使用の前には …… 360
●電話機本体の防水 / 防塵上の注意事項 …… 361
●濡れたときには …… 361
●利用シーン別の注意事項 …… 362
●充電する際の注意事項 …… 363
●ゴムパッキンについての注意事項 …… 363
●イヤホンマイクコネクタのキャップについての注意事項 …… 363
電池パックの取り付け …… 364
●電池パックの交換 …… 364
充電と接続のしかた …… 367
電源を入れる / 電源を切る …… 368
スリープ状態の解除について …… 368
無線接続開始音について …… 369
電波の強さ …… 369
電池残量 …… 369

8-3 サービスメニュー / ローカルメニューの使いかた …… 370
サービスメニュー / ローカルメニュー一覧 …… 370
サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける …… 371
●オートダイヤルボタンに機能を登録する …… 371
●オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する …… 372
●オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する …… 373
●オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する …… 374
●オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付） …… 375
●オートダイヤルボタンに電話帳を登録する（電話帳ワンタッチ割付） …… 377

8-4 電話機の調節 …… 378
音量を調節する …… 378
●着信音量を調節する …… 378
●受話音量を調節する（ハンドセット受話音量） …… 379
●スピーカ受話音量を調節する …… 380
●ボタン押下音を切り替える …… 380
●マナーモードを設定する（電話機独自機能） …… 381
●着信を振動で知らせる（バイブレータ着信）（電話機独自機能） …… 382
●無線接続開始音を切り替える（電話機独自機能） …… 382

電話機のディスプレイとボタンの明るさを調節する …… 383
●ディスプレイのコントラストを調整する …… 383
●ディスプレイのバックライトを設定する …… 383
●ボタンのバックライトを設定する（ダイヤルライト）（電話機独自機能） …… 384

8-5 電話のかけかた …… 385
外線にかける …… 385
●電話をかける（外線発信） …… 385
●最後にかけた相手に再度かける（リダイヤル） …… 386
●電話帳から電話をかける（電話帳発信） …… 387
●オートダイヤル機能を使ってかける（電話帳ワンタッチ / ワンタッチボタン） …… 390
●発信履歴 / 着信履歴から電話する（履歴発信） …… 390
内線にかける …… 391
●内線番号をダイヤルしてかける（内線発信） …… 391
便利な内線発信機能 …… 391
●続けて別の内線を呼び出す（リセットコール） …… 391
●グループ内の内線電話を一斉に呼び出す（内線グループ音声呼出） …… 392
●構内放送する（構内放送呼出） …… 393
●ドアホンを呼び出す（ドアホン呼出） …… 394

8-6 電話の受けかた …… 395
外線を受ける …… 395
●外線ボタンを押して受ける（任意外線着信応答） …… 395
●通話ボタンを押して受ける …… 395
内線を受ける …… 395
便利な内線受信機能 …… 396
●代理応答グループ内の別の電話を受ける（代理応答） …… 396
●他の代理応答グループの電話を受ける（グループ指定代理応答） …… 396
●ドアホンからの呼び出しで通話する（ドアホン着信） …… 397

8-7 保留のしかた …… 398
システム保留 …… 398
●システム内の他の電話機でも再応答できるように保留する（システム保留） …… 398
自己保留 …… 399
●他の電話機では再応答できないように保留する（自己保留） …… 399
パーク保留 …… 400
●パークグループ内の他の電話機でも再応答できるように保留する（パーク保留） … 400

8-8 転送のしかた …… 402
ダイヤル転送 …… 402
●現在通話中の相手を内線通話後に転送する（ダイヤル転送） …… 402
口頭転送 …… 403
●システム保留 / パーク保留した外線を転送する（口頭転送） …… 403
チェンジオーバー …… 404
●かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する（チェンジオーバー） … 404

8-9 便利な機能 …… 405
●充電器から上げるだけで電話をかけられるように設定する（クイック通話）（電話機独自機能） …… 405
●ダイヤルボタンを押すだけで着信に応答する（エニーキー応答設定） …… 406
●誤操作を防止する（キーロック）（電話機独自機能） …… 406
●他人に電話をかけられないようにする（ダイヤルロック）（電話機独自機能） …… 407
●ダイヤルロックの暗証番号を設定する（暗証番号登録）（電話機独自機能） …… 408
●イヤホンマイク接続時の着信音等の出力先を変更する（トーン送出先）（電話機独自機能） …… 409
●話中に別の着信があったときの着信音を設定する …… 409
●相手の音声をスピーカで聞く（スピーカ受話） …… 410
●FAX 内線を設定する …… 410
●接続システムを確認 / 選択する（システム選択）（電話機独自機能） …… 411

付録 A 413

A-1 用語説明 …… 414
A-2 特番一覧 …… 418
A-3 各種機能の初期設定値 …… 422
A-4 登録モード一覧表 …… 423
A-5 機能特番の一覧 …… 424
A-6 メロディー覧 …… 426
A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表 …… 427
A-8 メニューショートカット一覧表 …… 432

付録 B 437

B-1 故障かな？とお考えになる前に …… 438
●機能ランプをリセットするには …… 440
●誤動作防止機能について …… 441

索 引 443

操作早見表 451

多機能電話機
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）
デジタルコードレス電話機（UM）
アナログ電話機

※「お問い合わせ窓口のご案内」は、最終ページをご覧ください。

お使いになる前に

取扱説明書の見かた

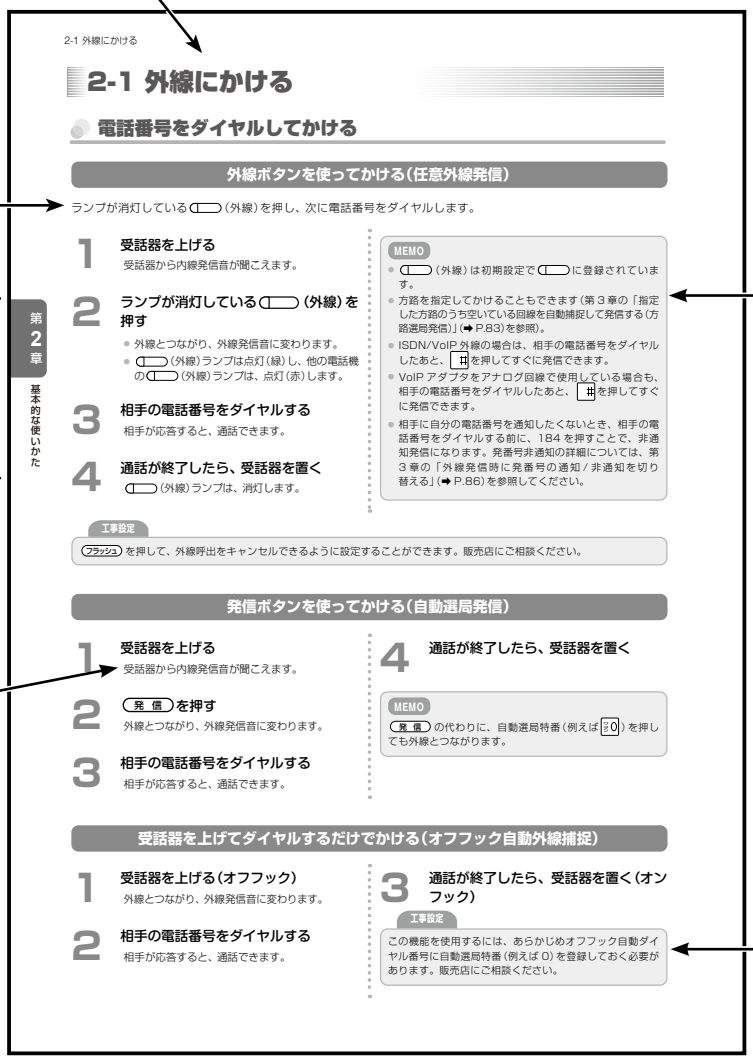
この取扱説明書は次のフォーマットをベースに記載してあります。

見出し
機能を示す見出しタイトルです。

機能概要
機能の内容を簡単に説明しています。

章タイトル

補足説明
操作手順の補足的な内容を説明しています。



MEMO
関連項目や注意点を説明しています。

操作手順説明
操作や表示内容を簡単に説明しています。

工事設定
工事者による設定が必要なため、販売店にご相談いただきたいことを説明しています。

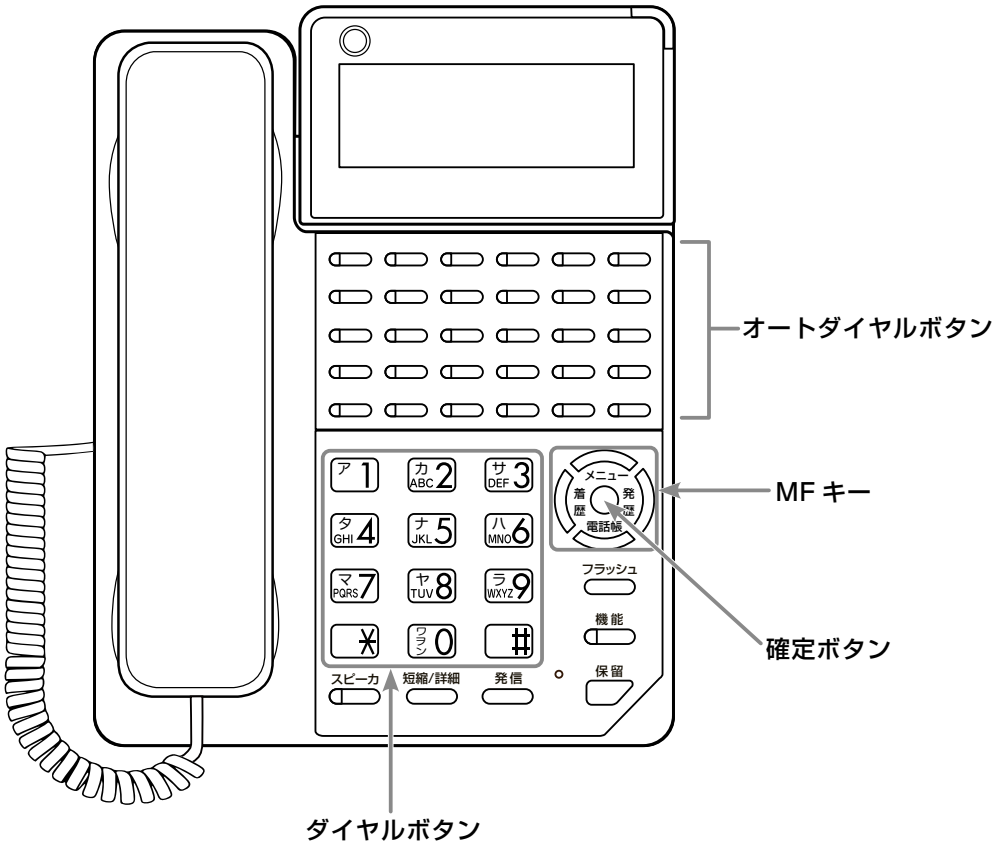
略図の説明

多機能電話機

受話器を置いている状態を基本とします。

略図	説明
ア1 カABC2 サDEF3 タGHI4 ナJKL5 ハMNO6 マPQRS7 ヤTUV8 ラWXYZ9 ワヲン0 # ＊	ダイヤルボタン
保留 発信 短縮/詳細 機能 フラッシュ スピーカ	各機能名称のボタン / ランプ
(XXX)	機能を割り付けられた オートダイヤルボタン / ランプ （XXX は機能名）
確定	MF キーの確定ボタン

略図	説明
	MF キーの上下左右
	MF キーの左
	MF キーの右
	MF キーの上
	MF キーの下



- 各ボタンの操作の詳細やディスプレイの見かたについては、「1-1 電話機の各部の説明」（➡ P.2）を参照してください。

本書の構成

安全にお使いいただくために

安全にお使いいただくための注意事項について、記載してあります。ご使用の前に必ずお読みください。

お使いになる前に（本章）

本書の見かたと多機能電話機編での表記の説明について、まとめてあります。

多機能電話機編

１章～５章では、多機能電話機の取り扱いと操作手順について説明しています。

第１章　電話機の取り扱い

多機能電話機の各部の名称やランプ表示、ディスプレイの見かたなど、本システムをご利用いただく上で必要な予備知識を説明しています。

また、日時や電話機の角度、音量など、電話機の調節のしかたについても説明します。

さらに、電話機のサービスメニューの使いかたや文字入力の方法、電話帳への登録方法についても説明します。

第２章　基本的な使いかた

電話のかけかた、受けかた、通話を保留して転送する方法など、多機能電話機の基本的な操作方法を説明しています。

第３章　便利な使いかた（応用操作）

電話をかけるときや受けるとき、また通話中などに利用できる便利な機能、夜間や留守中など電話に出られない場合に利用できる便利な機能などを説明しています。

また、外出先から利用できる設定機能や、便利な設定やお知らせ機能、通話中などに電話機から利用できるメニュー操作についても説明します。

第４章　その他の便利な機能

会議通話や回線数の制限、公衆網や外部ネットワーク、インターネットとの接続など、さらに便利な機能について説明しています。また、構内放送装置などの外部機器を接続しているときの操作や、停電時の省電力機能、主装置の設定を行える「Web 設定」についても紹介しています。

第５章　ボイスメールの使いかた

音声のメッセージを利用できるボイスメールについて、機能と使いかたを説明しています。

留守や不在、通話中などで着信に応答できなかったときに、留守番電話のように代わりに応答してメッセージを録音できるような機能（留守番機能、代行機能）や、通話中の音声を録音できる機能、内線相手がいなかったときに、相手のメールボックスに音声メッセージを録音しておくことができる機能などについても、説明します。

その他の電話機

6 章～ 8 章では、多機能電話機以外の電話機の取り扱いと操作手順について説明しています。

第 6 章　コードレスセット編

カールコードレス電話機（CL）（子機）とコードレス電話機（WSd）（親機・子機）の取り扱いや、各部の名称、ディスプレイの見かた、電話機の音量などの調節のしかたについて説明します。

また、カールコードレス電話機（CL）（子機）とコードレス電話機（WSd）（子機）でのサービスメニューの使いかたや電話のかけかた、受けかた、保留して転送する方法などの基本操作と、不在転送などの便利な機能についても説明しています。

第 7 章　アナログ電話機編

アナログ電話機を使った電話のかけかた、受けかた、保留と転送のしかたについて説明しています。また、アナログ電話機として扱われるファクシミリ（FAX）の接続と利用方法についても説明します。

第 8 章　マルチラインシステムコードレス電話機編

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の取り扱いや、各部の名称、ディスプレイの見かた、電話機の音量などの調節のしかたについて説明します。

また、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）でのサービスメニューの使いかたや電話のかけかた、受けかた、保留して転送する方法などの基本操作と、不在転送や会議通話などの便利な機能、ローカルメニューやマナーモード設定などこの電話機独自の機能についても説明しています。

付録 A

電話の操作で利用できる特番や機能特番、および電話に登録できる機能の一覧などを掲載しています。また、メニューショートカットや登録モード、用語解説などについても、一覧にして掲載しています。

また、特番や機能の初期設定の値なども掲載しています。

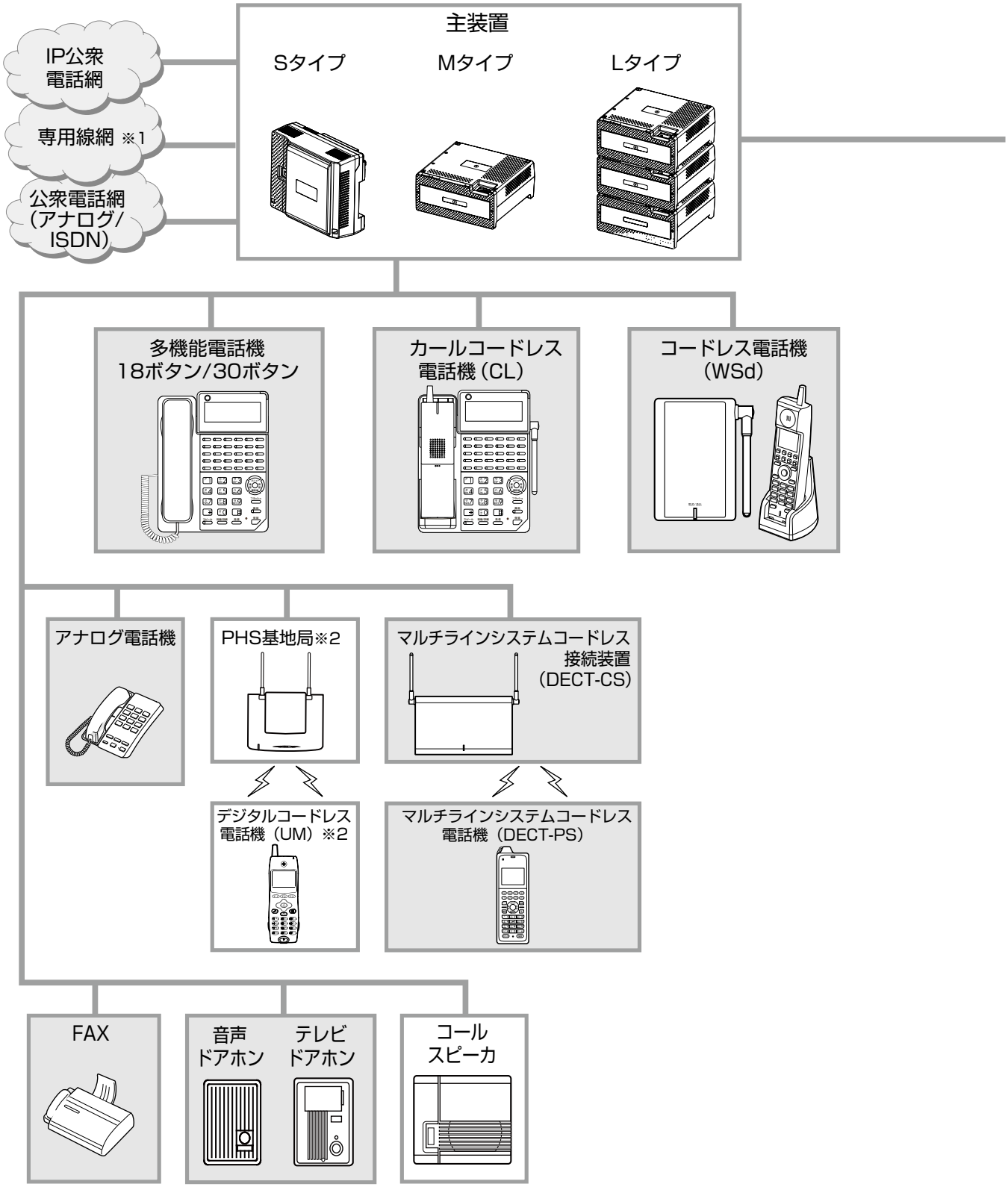
付録 B

電話がかけられなかったり、着信音が鳴らないなど、お困りのときに、故障とお考えになる前にご確認いただきたいことを説明しています。

操作早見表

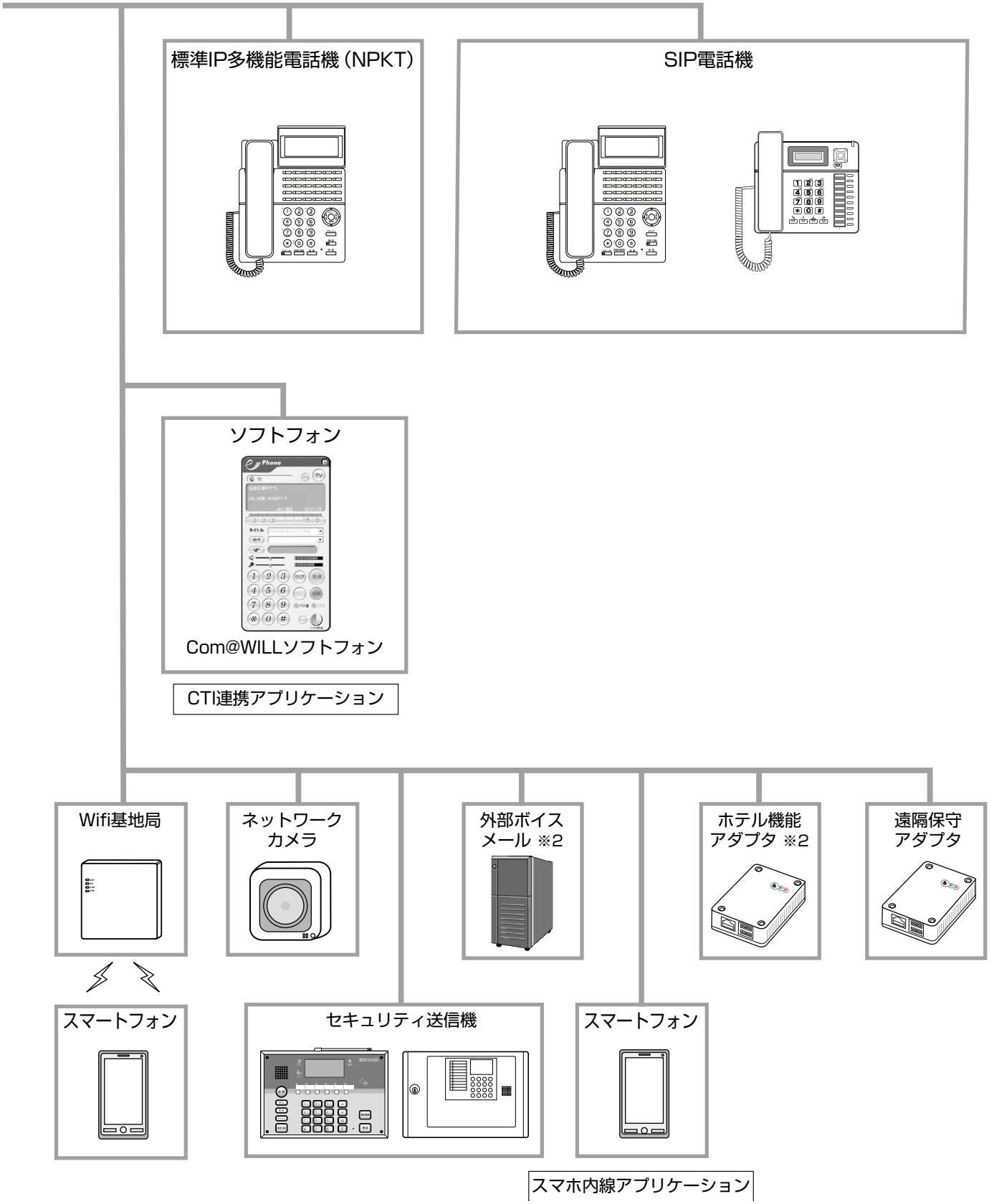
本システムで利用できる電話機ごとに、電話のかけかたや受けかた、保留・転送などの基本操作が一目で分かるような早見表を掲載しています。

構成図


IP公衆
電話網
専用線網 ※1
公衆電話網
(アナログ/
ISDN)
主装置
Sタイプ
Mタイプ
Lタイプ
多機能電話機
18ボタン/30ボタン
カールコードレス
電話機（CL）
コードレス電話機
（WSd）
アナログ電話機
PHS基地局※2
マルチラインシステムコードレス
接続装置
（DECT-CS）
デジタルコードレス
電話機（UM）※2
マルチラインシステムコードレス
電話機（DECT-PS）
FAX
音声
ドアホン
テレビ
ドアホン
コール
スピーカ

※ 1：アナログ（OD/LD）専用線は、M/L タイプ主装置でのみ利用できます。SIP 専用線は S/M/L タイプ主装置で利用できます。
※ 2：この端末は、M/L タイプ主装置の場合のみ接続可能です。

本書では、□で囲んだ端末について説明しています。その他の端末については、各端末の取扱説明書を参照してください。



主装置についてのご注意

主装置の電源を OFF にする前に

長期休暇の前など、主装置の電源を OFF にする場合は、事前に、以下の手順で主装置の設定データ（例えば、登録した電話帳データなど）を保存してから電源を OFF にしてください。
この操作は、多機能電話機（システム管理電話機）で行います。

注意

主装置の設定データの保存は、特定の周期ごとに実行されています。主装置の電源を OFF にする前には、必ずデータ保存操作を行ってください。この操作を行わずに電源を OFF にした場合は、設定データ保存周期の間に登録されたデータが消えてしまいます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [0：その他] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
0 その他
1 履歴（発信 / 着信）
2 電話帳

3 で [9：手動バックアップ] を選択して、確定を押す

≪その他≫
7 名称設定
8 ｺﾝﾃﾝﾂ設定
9 手動ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ

4 確定（実行）を押す

≪手動ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ≫
ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟしますか？
(USB 接続無し)
確定 実行 保留 ｷｬﾝｾﾙ

保留 を押すと、「その他」メニューへ戻ります。

↓ 確定

≪手動ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ≫
ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ中
完了するまでそのまま
お待ちください

↓

≪手動ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ≫
ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ完了
内蔵：OK/USB：－

バックアップ完了画面が表示されます。

MEMO

USB メモリが接続されている場合は、USB メモリにも設定データが保存されます。USB メモリが接続されているかどうかは電話機のディスプレイの 3 行目に表示されます。

注意

バックアップが終了するまで、電話機での操作はしないようにしてください。バックアップの完了がわからなくなります。

第 1 章　電話機の取り扱い

1-1 電話機の各部の説明 …… 2
1-2 電話機の調節 …… 8
1-3 サービスメニューの使いかた ……17
1-4 文字入力方法 ……20
1-5 カレンダー / 時計の設定 ……27
1-6 電話機への機能の登録 ……28
1-7 電話帳の登録 ……37
1-8 その他の機能 ……52

1-1 電話機の各部の説明

各部の名称と説明

正面の説明

人感センサ
人感センサが異常を検知するとランプが点滅したり、威嚇音などが鳴ります。
また、通報先へ異常を知らせることができます。

受話器

スピーカ
着信音やスピーカ受話の音が聞こえます。

ダイヤルボタン
ダイヤル時やカナ/漢字文字入力などに使います。

スピーカボタン / ランプ(赤色)
スピーカ受話などをするときに使います。

短縮 / 詳細ボタン
短縮ダイヤルで電話をかけるときなどに使います。

発信ボタン
電話をかけるときに発信ボタンを押すと、未使用の外線を自動的に捕捉します。

着信ランプ
外線着信と内線着信など、7 色の点滅をします。

ディスプレイ
・相手の電話番号や日付・時刻などを表示します。
・ディスプレイの表面をきれいに保つようにしてください。
・表面を傷つけたり、変質させないようにしてください。

オートダイヤルボタン(※)
ボタン 1 ～ 30 は外線ボタンとして利用できます。また、未使用外線ボタンは、オートダイヤルボタンとして利用できます。

MF キー
ディスプレイのメニュー選択や、電話帳検索のスクロールなどに使います。

確定ボタン
ディスプレイのメニュー選択や、電話帳検索など確定ボタンとして使います。

フラッシュボタン
キャッチホンサービスなどを受けるときに使います。

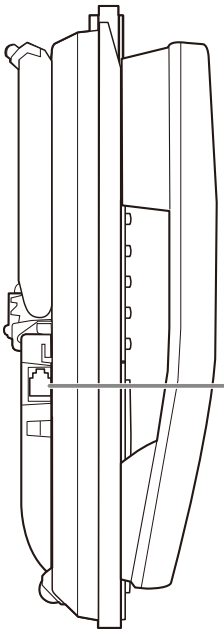
機能ボタン / ランプ(赤色)
機能ボタンなどを利用するときに使います。

保留ボタン
外線、内線通話を保留にするときに使います。

マイク
ハンズフリー通話、内線ハンズフリー応答のときに使います。

(※)多機能電話機には、30 個の外線・オートダイヤルボタンを持つ機種と 18 個の外線・オートダイヤルボタンを持つ機種があります。2 つの機種は、外線・オートダイヤルボタンの数以外の使いかたは同じです。上図は、30 個の外線・オートダイヤルボタンを持つ機種の絵です。

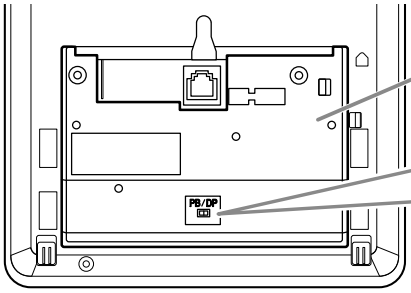
側面の説明（停電ユニット搭載時の電話機の場合）



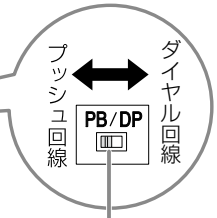
受話器 接続口

受話器を差し込みます。

底面の説明（停電ユニット搭載時の電話機の場合）



アナログ停電ユニット
または ISDN 停電ユニット

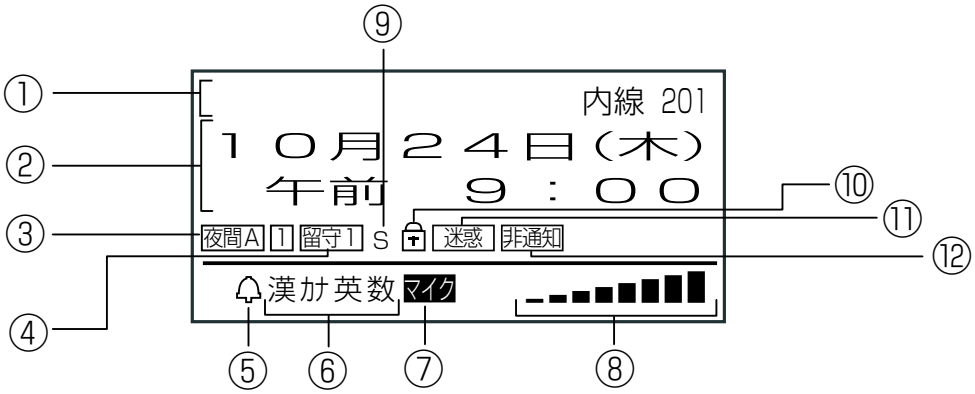


DP（20PPS）/PB 切替スイッチ
（アナログ停電用ユニットのみ）

電話回線に合わせてダイヤル回線（DP）または
プッシュ回線（PB）に設定します。停電用電話機
として使用する場合、正しく設定しないと停電中
にダイヤルできません。
お買い上げ時は「PB」です。

ディスプレイ表示

ディスプレイの見かた



番号	表示例	内容
①	内線 201（待機状態）	内線番号が表示される
	外線通話　0：01（外線通話中）	呼種別、通話時間などが表示される
	留守録 A　T　内線 201（留守番状態）	留守番動作と留守番グループ名、切替方式（T：自動）、内線番号が表示される
②	１０月２４日（木） 午前　９：００	カレンダー、時計が表示される。 設定により横倍、縦倍、標準の表示ができる。 **参照：**「カレンダー / 時計の日時を変更する」（➡ P.27）
③	夜間A 1	夜間モード A-1 が設定されたときに表示される
	夜間A 2	夜間モード A-2 が設定されたときに表示される
	夜間A 3	夜間モード A-3 が設定されたときに表示される
	夜間B	夜間モード B が設定されたときに表示される
④	留守1 留守2 留守3	留守番モードが設定されたときに表示される。 番号は設定されているガイダンスパターン（1 ～ 3）に対応。 **参照：**「留守番機能の設定と使いかた（手動切替）」（➡ P.225）
⑤	🔔	時刻アラームが設定されたときに表示される
⑥	漢 カ 英 数	文字入力時のモードが表示される
⑦	マイク	ハンズフリー通話が設定されたときに表示される
⑧	▁▂▃▄▅▆▇	各種音量の大きさを調節すると表示が変わる
⑨	S	留守番サイレントモード（第５章の「留守番モニタ（居留守応答）」（➡P.240））のときに表示される
⑩	🔒	キーロック状態のときに表示される
⑪	迷惑	非通知や迷惑電話の着信拒否モードを（着信拒否切替）で ON に切り替えたときに表示される ※（着信拒否切替）を押すごとに、非通知→迷惑→迷惑 非通知（両方）が順に表示されます（テナントごと）。 **参照：**第 4 章の「迷惑電話・非通知電話の着信拒否モードをオンにする」（➡ P.178）
⑫	非通知	

≪電話帳一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
0002: 支社

画面の右上に⬍が表示されたときは、で画面をスクロールして、表示されていない項目を表示することができます（例：電話帳一覧画面）。

共通 :0002
01234567
支社
ｼｼｬ

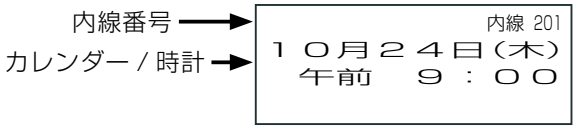
画面の右上に ▶ が表示されたときは、で次ページを表示することができます（例：電話帳詳細画面）。電話帳詳細画面では、電話番号 2、電話番号 3 が表示されます（1 つの電話帳項目に複数の電話番号が登録されている場合）。

MEMO

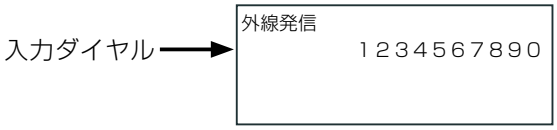
名称が長くて、画面に表示できない部分がある場合は、右端に「>>」が表示されます。（拡張表示）または を押すと、画面が切り替わり、残りの部分を表示することができます。

ディスプレイ画面の例

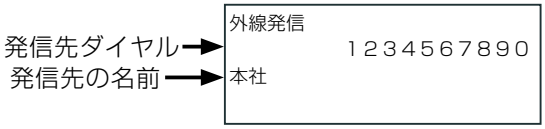
■通常表示（待機状態）



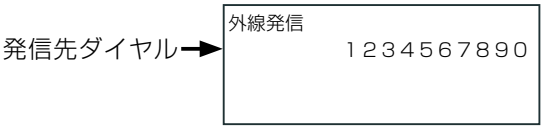
■外線ダイヤル入力中



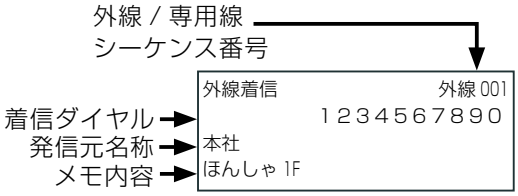
■外線発信中：電話帳に名前の登録があるとき



■外線発信中：電話帳に名前の登録がないとき

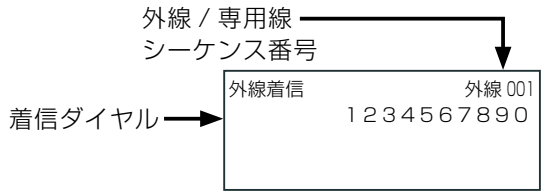


■外線着信中：電話帳に名前の登録があるとき



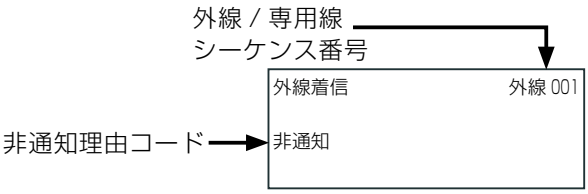
※メモ内容の部分は、ボイスワープ表示になることもあります。

■外線着信中：電話帳に名前の登録がないとき



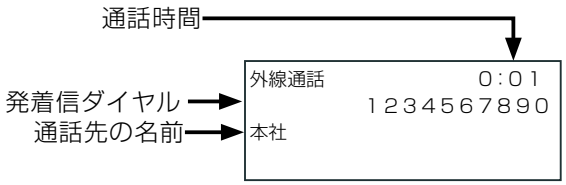
※電話会社が提供する番号表示サービス契約回線からの着信時は、相手の電話番号が「着信ダイヤル」として表示されます。

■外線着信中：非通知のとき

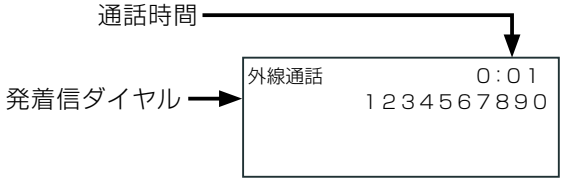


※非通知理由コードには、「表示圏外」「非通知」「公衆電話」のいずれかが表示されるか、コードなし（何も表示されない）の場合があります。

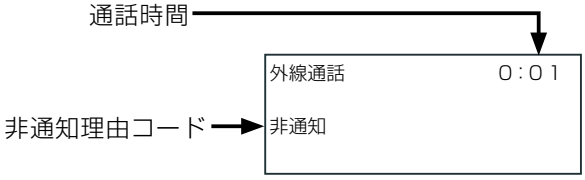
■外線通話中：電話帳に名前の登録があるとき



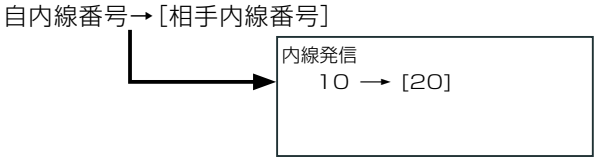
■外線通話中：電話帳に名前の登録がないとき



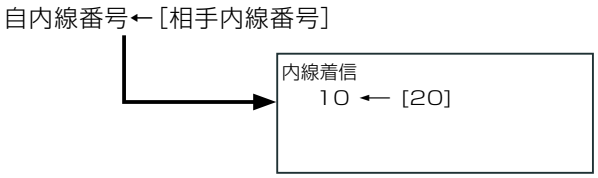
■外線通話中：非通知のとき



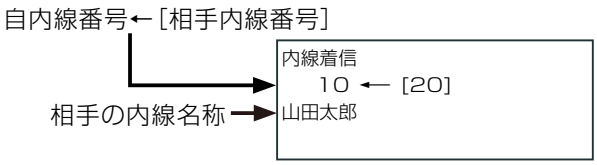
■内線発信中：相手内線に内線名称が登録されていないとき



■内線着信中：相手内線に内線名称が登録されていないとき



■内線着信中：相手内線に内線名称が登録されているとき



MEMO

- 内線名称の登録については「内線名称の登録」（➡ P.35）を参照してください。
- 電話帳の登録については「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。
- ボイスワープについては第４章の「ボイスワープを利用する」（➡ P.189）を参照してください。

ランプ表示

ランプの種類	ランプのつきかた（色）	ランプの意味（電話機の状態）
着信ランプ	速点滅（※）	時刻アラーム鳴動中。または、以下のような着信あり ● 外線一般系着信 ● 外線個別着信 ● 専用線着信 ● 内線着信 ● ドアホン着信 ● 強制転送による着信
	遅点滅（※）	不応答着信（お知らせ）、FAX 着信（お知らせ）
	点灯（※）	録音表示（ボイスメールメッセージありのとき）
	点灯（7 色連続切り替え表示）	ハウラ音が鳴っている
	速点滅（7 色）	セーフティ威嚇中、緊急地震速報
外線ランプ	点灯（緑）	自分の電話機で使用中
	点灯（赤）	他の電話機で使用中、回線使用中、使用制限中
	速点滅（赤）	外線着信中
	間隙速点滅（緑）	保留警告音が鳴っている。または、 強制転送された着信あり
	間隙速点滅（赤）	秘話解除中
	中点滅（緑）	自分の電話機で保留した通話あり
	中点滅（赤）	他の電話機で保留した通話あり。または、 強制転送した通話あり（操作した電話機の表示）
	間隙点灯 2（緑）	着信ウェイト中（応答操作した電話機の表示）
	間隙点灯 2（赤）	着信ウェイト中（応答操作していない電話機の表示）
スピーカランプ	点灯（赤）	スピーカ受話中

（※）色について記載していない着信ランプは、8 種類の色パターンから 1 つを選択できます。着信ランプの切替方法については「着信ランプ表示色の設定（着信種別や各種状態別）」（➡ P.58）を参照してください。

MEMO

- 速点滅：
  0.1 秒間隔で点滅する光りかたを示しています。
- 遅点滅：
  0.5 秒間隔で点滅する光りかたを示しています。
- 間隙点灯 2：
  0.7 秒点灯のあと、0.1 秒間隔で 2 回点滅
- 間隙速点滅：
  1 秒ごとに速点滅が 2 回ずつ点滅
- 中点滅：
  0.25 秒間隔で点滅

音の種類一覧

種類			音	発生源
発信音	外線発信音		ツーーー	受話器またはスピーカ
	内線発信音		ツーツー…	
呼出音 (➡P.417)	音声呼び		プー	
	信号呼び		プルルルル・・・プルルルル…	
着信音	内線着信音	音声呼び	プープープー	スピーカ
		信号呼び	プルプル・・・プルプル…	
	外線、PBX 経由外線		プルルルル・・・プルルルル…	
	DIL、DID、外線の強制転送 PBX 経由の DIL、DID		プルプルプル・・・プルプルプル…	
	PBX 経由内線、 内線の強制転送		プルプル・・・プルプル…	
	通話中の外線		着信音と同じ	
	通話中のドアホン		ピンポーン (通常のドアホン着信時とは異なる)	
話中音			ツーッツーッ…	受話器またはスピーカ
登録完了音			ピー	
保留音			メロディ♪	受話器またはスピーカ
保留警告音			ピリリリ・・・ピリリリ…	スピーカ
エラー音			ピーピー	受話器またはスピーカ
付加番号 DID の内線発信音、 リモートコールバックの内線発信音			プププププ・・・	外線に送出
付加番号 DID の話中音			プップーッ(3 回繰り返し)	
付加番号 DID の呼出音			プルルルル・・・プルルルル…	

※上の表の「…」は、音の繰り返しを示しています。「・・・」は音が鳴っていない状態を示しています。

システム管理電話機と一般ユーザ電話機

電話機は工事設定により、システム管理者が使用するシステム管理電話機と、それ以外の利用者が使用する一般ユーザ電話機に分かれています。

■ システム管理電話機
システム共通の設定や、データの表示・変更などができます。

■ 一般ユーザ電話機
自身の電話機についての設定やデータの表示・変更などができます。

それぞれのタイプの電話機から設定できる機能や操作は、あらかじめ決まっています。
例えば、システムで共通に使用する共通電話帳への登録は、システム管理電話機からは行うことができますが、一般ユーザ電話機からは登録することはできません。

※システム管理電話機の台数を増やしたい場合は、システム管理電話機からサービスメニューを使って、一般ユーザ電話機をシステム管理電話機として設定変更することができます(待受画面で、確定→[0:その他]→[2:システム設定]→[1:システム管理電話機設定])。

1-2 電話機の調節

ここでは、多機能電話機の角度の調節方法や、パネルの取り付け、取り外し方法、音量の調節方法、電話機のディスプレイの調節方法について説明します。

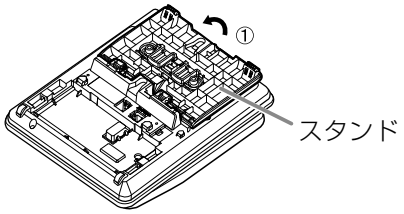
電話機の角度調節

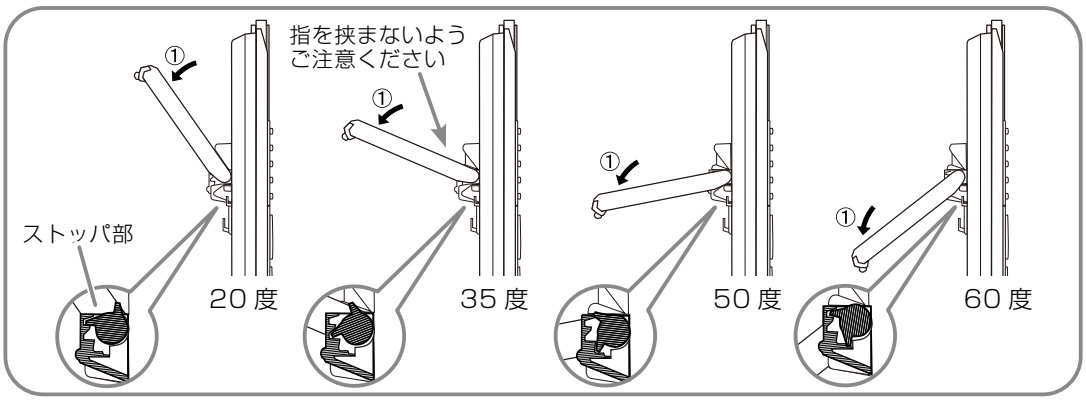
電話機本体の角度調節

本電話機は、20 度 /35 度 /50 度 /60 度の 4 段階で角度調節ができます。

1. スタンドの角度を合わせる

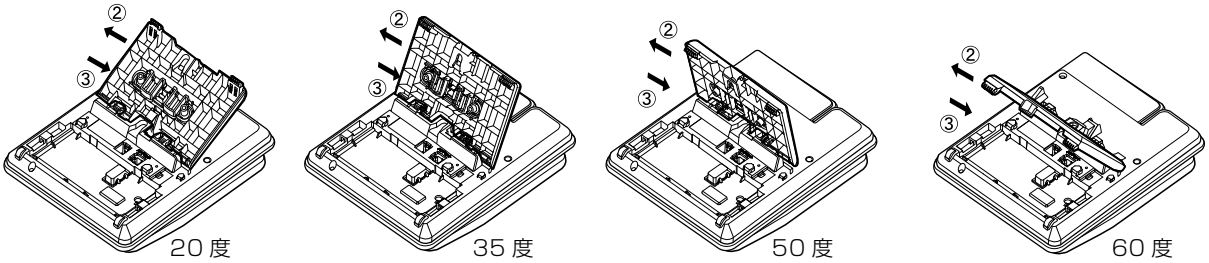
- ご使用状況に合わせ、スタンドを①の方向に引き上げ、ストッパ部を下図の位置に合わせます。
（無理に引き上げると破損するおそれがあります。）





2. スタンドを固定する

- スタンドを②の方向にスライドさせ、固定します。
スタンドを戻すときは、スタンドを③の方向にスライドさせて引き上げます。

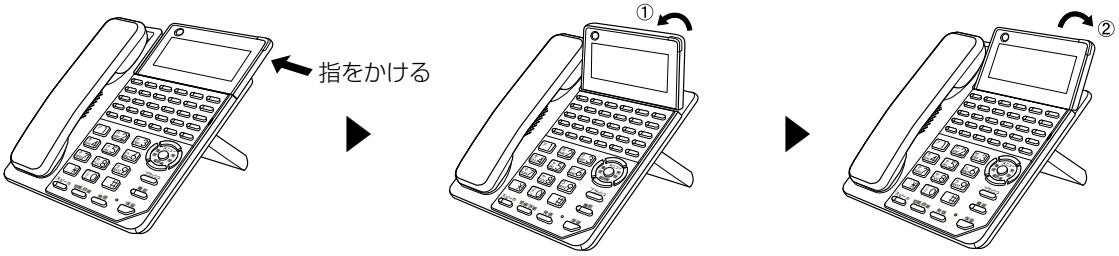


ディスプレイの角度調節

1. ディスプレイの端に指をかける

2. ①方向に持ち上げ、好みの角度で止める

3. 角度を小さくする場合は②方向に押して、好みの角度で止める



電話機のパネル・記入シートの取り付けと取り外し

多機能電話機

シートの交換の際は、ラインコードを抜き、受話器を外してから作業を行ってください。

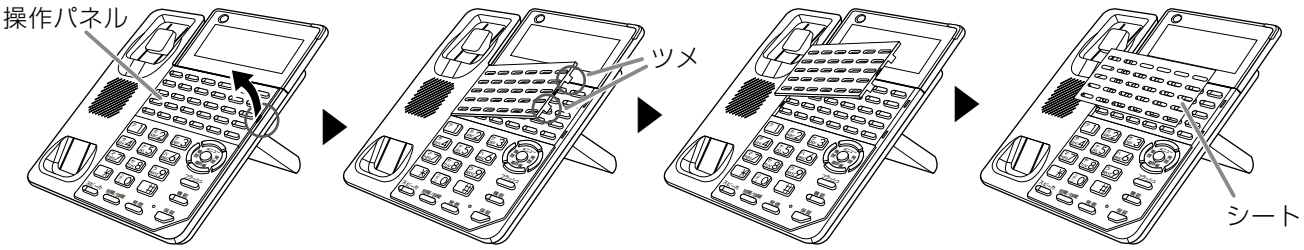
操作パネルの取り付け後は、キー操作の確認を行ってください。
操作パネルが正しく取り付けられていないと、キーが押されたままの部分があり、キー操作できないことがあります。

■操作パネルの取り外し方法

1. 操作パネルの右側の突起に指をかけ、矢印の方向に持ち上げて、ツメ（2 箇所）を外す

2. 操作パネルを上に持ち上げて、取り外す

3. シートを上に持ち上げて、取り外す

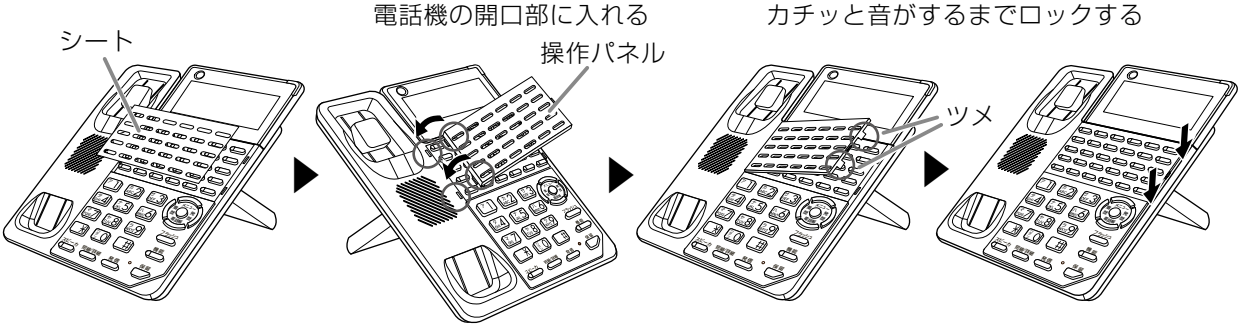


■操作パネルの取り付け方法

1. シートを取り付ける

2. 操作パネルの左側の突起を電話機の開口部に入れる

3. ツメ（2箇所）を矢印の方向へ軽く押し込み、カチッと音がするまでロックする



音量の調節

ここでは、電話機の音量調節について、以下のことを説明します。

- 「受話音量を調節する」(➡ P.10)
- 「スピーカ受話音量を調節する」(➡ P.11)
- 「着信音量を調節する」(➡ P.12)
- 「側音量を調節する(側音量調節)」(➡ P.13)
- 「ボタンを押したときの音を調節する(ボタン押下音切替)」(➡ P.14)

MEMO

音量調節は、電話機のサービスメニューを使って調節できます。サービスメニューについては、「1-3 サービスメニューの使いかた」(➡ P.17)を参照してください。

受話音量を調節する

受話器から聞こえる音量を調節することができます。

通話中に受話音量を調節するには

1 受話器で通話中

2 を押して受話音量を調節する

- を押すと、受話器から聞こえる音声が大きくなります。
- を押すと、受話器から聞こえる音声が小さくなります。

待受中に受話音量を調節するには

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で[8:音設定]を選択して、確定を押す

システム管理電話機では[8:音設定]、一般ユーザ電話機では[7:音設定]を選択します。

```
≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定
```

3 で[2:ハンドセット受話音量]を選択して、確定を押す

```
≪音設定≫
1着信音量
2ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量
3ｽﾋﾟｰｶ受話音量
```

4 を押して受話音量を調節する

```
≪ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量≫
△:大 ▽:小
ﾚﾍﾞﾙ:9 <3-16>
```

- 大きくする場合はを押します。
- 小さくする場合はを押します。
- お買い上げ時は「レベル 9」です。
- 調節範囲はレベル 3(最小)〜レベル 16(最大)です。
- カールコードレス電話機(CL)(親機)の場合は、調節範囲はレベル 1(最小)〜レベル 3(最大)です。

5 確定を押す

受話音量が設定され、「音設定」メニュー画面に戻ります。

スピーカ受話音量を調節する

スピーカから聞こえる音量を調節することができます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [8：音設定] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [8：音設定]、一般ユーザ電話機では [7：音設定] を選択します。

≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定

3 で [3：スピーカ受話音量] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
1着信音量
2ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量
3ｽﾋﾟｰｶ受話音量

4 を押してスピーカ受話音量を調節する

≪ｽﾋﾟｰｶ受話音量≫
△：大 ▽：小
ﾚﾍﾞﾙ:5 <1-8>

- 大きくする場合は を押します。
- 小さくする場合は を押します。
- お買い上げ時は「レベル 5」です。
- 調節範囲はレベル 1（最小）～レベル 8（最大）です。

5 確定を押す

スピーカ受話音量が設定され、「音設定」メニュー画面に戻ります。

MEMO

スピーカ受話中に を押して、スピーカ受話音量を調節することもできます。

着信音量を調節する

外線、内線、ドアホンなどからの着信音量を調節することができます。

外線着信の場合

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［8：音設定］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［8：音設定］、一般ユーザ電話機では［7：音設定］を選択します。

≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定

3 で［1：着信音量］を選択して、確定を押す

≪音設定≫
1着信音量
2ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量
3ｽﾋﾟｰｶ受話音量

4 で［1：外線着信音量］を選択して、確定を押す

≪着信音量≫
1外線着信音量
2内線着信音量
3ﾄﾞｱﾎﾝ着信音量

5 を押して外線着信音量を調節する

≪外線着信音量≫
△：大 ▽：小
ﾚﾍﾞﾙ:9 <4-16>

- 大きくする場合はを押します。
- 小さくする場合はを押します。
- お買い上げ時は「レベル 9」です。
- 調節範囲はレベル 4（最小）～レベル 16（最大）です。

6 確定を押す

外線着信音量が設定され、「着信音量」メニュー画面に戻ります。

MEMO

着信音が鳴っているときにを押して、着信音量を調節することもできます。ただし、一般系着信（一般着信、MSA 着信、DGL 着信）のときは、この方法で着信音量を調節することはできません。

内線着信の場合

1 上記の「外線着信の場合」の手順 1 ～ 3 の操作をする

2 ［2：内線着信音量］を選択して、確定を押す

≪着信音量≫
1外線着信音量
2内線着信音量
3ﾄﾞｱﾎﾝ着信音量

3 を押して内線着信音量を調節する

≪内線着信音量≫
△：大 ▽：小
ﾚﾍﾞﾙ:9 <4-16>

- 大きくする場合はを押します。
- 小さくする場合はを押します。
- お買い上げ時は「レベル 9」です。
- 調節範囲はレベル 4（最小）～レベル 16（最大）です。

4 確定を押す

内線着信音量が設定され、「着信音量」メニュー画面に戻ります。

MEMO

着信音が鳴っているときにを押して、着信音量を調節することもできます。

ドアホン着信の場合

1 「外線着信の場合」(➡ P.12) の手順 1 ～ 3 の操作をする

2 で [3：ドアホン着信音量] を選択して、確定を押す

≪着信音量≫
1外線着信音量
2内線着信音量
3ﾄﾞｱﾎﾝ着信音量

3 を押してドアホン着信音量を調節する

≪ﾄﾞｱﾎﾝ着信音量≫
△：大 ▽：小
ﾚﾍﾞﾙ :9 <4-16>

- 大きくする場合は を押します。
- 小さくする場合は を押します。
- お買い上げ時は「レベル 9」です。
- 調節範囲はレベル 4（最小）～レベル 16（最大）です。

4 確定を押す

ドアホン着信音量が設定され、「着信音量」メニュー画面に戻ります。

側音量を調節する（側音量調節）

側音量とは、通話中に自分の音声が受話器から自分の耳に入ってくる音のことです。
※この設定は、ISDN 回線の場合のみ有効です。アナログ回線の通話では、側音量は自動的にオフになります。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [8：音設定] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [8：音設定]、一般ユーザ電話機では [7：音設定] を選択します。

≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定

3 で [6：側音量] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [6：側音量]、一般ユーザ電話機では [5：側音量] を選択します。

≪音設定≫
4ﾒﾛﾃﾞｨ設定
5ﾎﾞﾀﾝ押下音設定
6側音量

4 を押して側音量を調節する

≪側音量≫
△：大 ▽：小
ﾚﾍﾞﾙ :7 <1-8>

- 大きくする場合は を押します。
- 小さくする場合は を押します。
- お買い上げ時は「レベル 7」です。
- 調節範囲はレベル 1（最小）～レベル 8（最大）です。

5 確定を押す

側音量が設定され、「音設定」メニュー画面に戻ります。

ボタンを押したときの音を調節する（ボタン押下音切替）

ボタンを押したときの音を鳴らすか鳴らさないか、ON/OFF で設定できます。

セット / 解除のしかた

1 **待受画面で、確定を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 **で [8：音設定] を選択して、確定を押す**

システム管理電話機では [8：音設定]、一般ユーザ電話機では [7：音設定] を選択します。

≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定

3 **で [5：ボタン押下音設定] を選択して、確定を押す**

システム管理電話機では [5：ボタン押下音設定]、一般ユーザ電話機では [4：ボタン押下音設定] を選択します。

≪音設定≫
3ｽﾋﾟｰｶ受話音量
4ﾒﾛﾃﾞｨ設定
5ﾎﾞﾀﾝ押下音設定

4 **を押して、ボタン押下音の [1:ON] または、[2:OFF] を選択して、確定を押す**

≪ﾎﾞﾀﾝ押下音設定≫
1ON＊
2OFF

- 現在設定されている所に「＊」が表示されます。
- お買い上げ時は「ON」です。
- 設定できた場合は、登録完了音が鳴ります。
- ボタン押下音の切替が設定され、「音設定」メニュー画面に戻ります。

ディスプレイ表示の調整

ディスプレイの濃淡を調整する（LCD コントラスト調整）

電話機のディスプレイのコントラストを 8 段階で調節することができます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [9：表示設定] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [9：表示設定]、一般ユーザ電話機では [8：表示設定] を選択します。

≪ﾒﾆｭｰ≫
8音設定
9表示設定
0その他

3 で [3：表示形式設定] を選択して、確定を押す

一般ユーザ電話機では、「表示設定」メニュー画面が表示されないので、手順 4 へ進みます。

≪表示設定≫
1着信ﾗﾝﾌﾟ
2履歴表示設定
3表示形式設定

4 で [5：LCD コントラスト調整] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [5：LCD コントラスト調整]、一般ユーザ電話機では [1：LCD コントラスト調整] を選択します。

≪表示形式設定≫
3時刻表示設定
4表示文字設定
5LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整

5 を押して LCD コントラストを調整する

≪ LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整≫
△：濃 ▽：薄
ﾚﾍﾞﾙ :5 <1-8>

- を押すとディスプレイ画面が濃くなります。
- を押すとディスプレイ画面が薄くなります。
- お買い上げ時は「レベル 5」です。
- 調節範囲はレベル 1（薄）～レベル 8（濃）です。

6 確定を押す

LCD コントラストが調整され、「表示形式設定」メニュー画面に戻ります。

バックライトを設定する（LCD バックライト点灯調整）

ディスプレイのバックライトは、3 つの状態に変更できます。

バックライトの状態	内容
都度点灯	電話をかけたり、受けたりするときなどに一時的に点灯します。（待機中は消灯）
常時点灯	使用中または待機中、常に点灯状態です。
常時消灯	使用中または待機中、常に消灯状態です。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [9：表示設定] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [9：表示設定]、一般ユーザ電話機では [8：表示設定] を選択します。

≪ﾒﾆｭｰ≫
8 音設定
9 表示設定
0 その他

3 で [3：表示形式設定] を選択して、確定を押す

一般ユーザ電話機では、「表示設定」メニュー画面が表示されないので、手順 4 へ進みます。

≪表示設定≫
1 着信ﾗﾝﾌﾟ
2 履歴表示設定
3 表示形式設定

4 で [6：LCD バックライト設定] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [6：LCD バックライト設定]、一般ユーザ電話機では [2：LCD バックライト設定] を選択します。

≪表示形式設定≫
4 表示文字設定
5 LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整
6 LCD ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ設定

5 を押してバックライトの点灯の設定を選択する

≪ LCD ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ設定≫
1 都度点灯*
2 常時点灯
3 常時消灯

- お買い上げ時は都度点灯です。
- バックライトの設定は、「都度点灯」、「常時点灯」、「常時消灯」のいずれかを選択します。

6 確定を押す

- LCD バックライト設定が設定され、「表示形式設定」メニュー画面に戻ります。
- 設定できた場合は、登録完了音が鳴ります。

1-3 サービスメニューの使いかた

サービスメニューに使用するボタンの使いかた

システム短縮ダイヤル、発信履歴、着信履歴などの各種登録・情報参照をメニュー選択から操作することができます。サービスメニューは、次のボタンを使用して操作できます。

ボタン	操作のタイミング	操作内容	説明
確定 または	待受状態	メインメニューの表示	サービスメニューのメインメニューを表示します。
	待受状態	電話帳カナ検索画面の表示	電話帳のカナ検索画面を表示します。
	メニュー操作中	項目の選択とデータの検索	メニュー内の項目の選択とデータの検索に使用します。
確定	メニュー操作中	設定・登録・変更の決定	設定・登録・変更の内容を決定します。 漢字入力の変換最終決定に使用します。
	待受状態	発信履歴 / 着信履歴の表示	ボタンを押すと発信履歴を表示します。 ボタンを押すと着信履歴（共通着信履歴）を表示します。
	文字入力中	文字入力時のカーソル移動	文字入力時のカーソルの移動、変換対象の変更に使用します。
フラッシュ	文字入力中	文字の削除	文字入力時に、入力した文字を 1 文字削除、またカーソル位置の 1 文字を削除するときに使用します。長押しで入力した文字をすべて削除することもできます。
短縮/詳細	文字入力中	入力切替 特殊コード入力	文字入力する場合、入力モード（「漢字」「カナ」「（全角 / 半角）英字」「（全角 / 半角）数字」）の切り替えに使用します。 電話番号を入力する場合、「PB 信号」「ポーズ」などを入力するときに使用します。
保 留	待受状態	登録モード	さらにダイヤルボタンなどを押すと、対応したメニュー画面が表示されます。「A-4 登録モード一覧表」（➡P.423）を参照してください。
	メニュー操作中	メニューの上位画面へ戻る	サービスメニューを操作中、1 つ前のメニュー画面に戻ります（メインメニューを除く）。
スピーカ	メニュー操作中	サービスメニューの終了	サービスメニューを終了して、待機画面に戻ります。

※上記ボタンのほか、メニュー番号に対応するダイヤルボタンを使って、メニュー項目を選択することができます。

MEMO

サービスメニューの画面が表示されているときに、機 能 を押したあと、未登録のオートダイヤルボタン を押すと、そのボタンを、表示中のメニュー画面への**メニューショートカットボタン**として割り付けることができます。

にメニューショートカットを登録しておくと、待機中に該当する（メニューショートカット）を押すことで、そのボタンに登録された任意のメニュー画面を 1 つの操作で表示することができ、メニュー操作の各階層をショートカットで起動することができます。

メニューショートカットに登録できるメニュー画面については、「A-8 メニューショートカット一覧表」（➡ P.432）を参照してください。

サービスメニューの構成

サービスメニューのメインメニューおよびサブメニューのメニュー項目を以下に示します。
（ページは、詳細説明が記載されているページです。）

- 待受画面で（確定）を押すと、メインメニュー画面が表示されます。
- （▼）で後続の項目を、（▲）で前の項目を表示します。また、［保留］を押すと 1 つ前のメニュー項目画面に戻ります。また、（フラッシュ）で入力文字を削除することができます。
- 各メニューを選択するには、メニューから（◆）で項目を選択して（確定）を押すか、または各メニューの先頭に表示されるメニュー番号を押します。
- 何も押さずに一定時間経つと、待受画面に戻ります。
- 特定のメニュー画面はメインメニューを経由せずにメニューショートカットボタンから 1 つの操作で表示することができます（前ページのメモを参照）。

一般ユーザ電話機のサービスメニュー

メインメニュー

≪ﾒﾆｭｰ≫
1 履歴（発信 / 着信）
2 電話帳
3 内線一覧
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7 音設定
8 表示設定
9 その他

サブメニュー

1 ≪履歴（発信 / 着信）≫
- 1 発信履歴 ➡ P.66 ※1
- 2 共通着信履歴 ※1
- 3 個別着信履歴

2 ≪電話帳≫
- 1 新規登録 ➡ P.37 ※2
- 2 一覧表示 ※2
- 3 番号検索 ➡ P.65 ※2
- 4 電話帳ｸﾞﾙｰﾌﾟ ➡ P.49

3 ≪内線一覧≫
- 1 一覧表示 ➡ P.161
- 2 内線検索 ➡ P.161
- 3 内線ｶﾅ検索 ➡ P.161

4 ≪転送設定≫
- 1 不在転送設定 ➡ P.113
- 2 話中転送設定 ➡ P.134
- 3 無応答転送設定 ➡ P.122

5 ≪録音関連設定≫
- 1 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知 ➡ P.269
- 2 ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除
- 3 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ暗証番号 ➡ P.222

6 ≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
- 1 ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付 ➡ P.28
- 2 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付 ➡ P.33
- 3 DSS 割付 ➡ P.34
- 4 ﾜﾝﾀｯﾁ割付 ➡ P.31
- 5 電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付 ➡ P.30
- 6 割付ｸﾘｱ ➡ P.29

7 ≪音設定≫
- 1 着信音量 ➡ P.12
- 2 ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量 ➡ P.10
- 3 ｽﾋﾟｰｶ受話音量 ➡ P.11
- 4 ﾎﾞﾀﾝ押下音設定 ➡ P.14
- 5 側音量 ➡ P.13
- 6 各種音種 ➡ P.55

8 ≪表示形式設定≫
- 1 LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整 ➡ P.15
- 2 LCD ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ設定 ➡ P.16

9 ≪その他≫
- 1 ｼｽﾃﾑ情報
- 2 ｼｽﾃﾑ設定 ➡ P.87
- 3 電話機 ➡ P.205
- 4 ﾈｯﾄﾜｰｸ ➡ P.210
- 5 ｺﾝﾃﾝﾂ設定 ➡ P.198

※1：共通着信履歴の削除はシステム管理電話機のみが可能
※2：一般ユーザ電話機では自内線のみ登録・変更・削除可能

システム管理電話機のサービスメニュー

メインメニュー

≪ﾒﾆｭｰ≫
1 履歴（発信 / 着信）
2 電話帳
3 内線一覧
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7 応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8 音設定
9 表示設定
0 その他

サブメニュー

1 ≪履歴（発信 / 着信）≫
- 1 発信履歴 ➡ P.66 ※1
- 2 共通着信履歴 ※1
- 3 個別着信履歴

2 ≪電話帳≫
- 1 新規登録 ➡ P.37
- 2 一覧表示
- 3 番号検索 ➡ P.65
- 4 電話帳ｸﾞﾙｰﾌﾟ ➡ P.49

3 ≪内線一覧≫
- 1 一覧表示 ➡ P.161
- 2 内線検索 ➡ P.161
- 3 内線ｶﾅ検索 ➡ P.161

4 ≪転送設定≫
- 1 不在転送設定 ➡ P.113
- 2 話中転送設定 ➡ P.134
- 3 無応答転送設定 ➡ P.122
- 4 圏外転送設定 ➡ P.129
- 5 外線転送設定 ➡ P.103
- 6 DGL 無応答転送設定 ➡ P.125
- 7 MSA 無応答転送設定 ➡ P.125
- 8 一般無応答転送設定 ➡ P.125
- 9 転送ﾘﾓｺﾝ用暗証番号 ➡ P.138

5 ≪録音関連設定≫
- 1 留守番設定 ➡ P.238
- 2 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知 ➡ P.269
- 3 ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除
- 4 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ暗証番号 ➡ P.222
- 5 ﾎﾞｲｽﾒｰﾙ属性 ➡ P.267

6 ≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
- 1 ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付 ➡ P.28
- 2 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付 ➡ P.33
- 3 DSS 割付 ➡ P.34
- 4 ﾜﾝﾀｯﾁ割付 ➡ P.31
- 5 電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付 ➡ P.30
- 6 割付ｸﾘｱ ➡ P.29

7 ≪応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理≫
- 1 転送元ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ設定 ➡ P.131
- 2 転送先ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ設定 ➡ P.131
- 3 ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理 ➡ P.211
- 4 着信ｳｪｲﾄｶﾞｲﾀﾞﾝｽ ➡ P.133

8 ≪音設定≫
- 1 着信音量 ➡ P.12
- 2 ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量 ➡ P.10
- 3 ｽﾋﾟｰｶ受話音量 ➡ P.11
- 4 ﾒﾛﾃﾞｨ設定 ➡ P.56 ※2
- 5 ﾎﾞﾀﾝ押下音設定 ➡ P.14
- 6 側音量 ➡ P.13
- 7 各種音種 ➡ P.55

9 ≪表示設定≫
- 1 着信ﾗﾝﾌﾟ ➡ P.58
- 2 履歴表示設定
- 3 表示形式設定 ➡ P.15

0 ≪その他≫
- 1 ｼｽﾃﾑ情報
- 2 ｼｽﾃﾑ設定 ➡ P.87
- 3 ｶﾚﾝﾀﾞｰ / 時計設定 ➡ P.149
- 4 電話機 ➡ P.205
- 5 ﾈｯﾄﾜｰｸ ➡ P.210
- 6 ｾｰﾌﾃｨ設定
- 7 名称設定 ➡ P.203
- 8 ｺﾝﾃﾝﾂ設定 ➡ P.198
- 9 手動ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ ➡ P.xxxii

：一般ユーザ電話機で操作できない項目

※1：共通着信履歴の削除はシステム管理電話機のみが可能

※2：メロディ設定は、着信と保留の曲目を設定します。保留音種は保留メロディ、外部音源などの音源を選択します。

1-4 文字入力方法

電話帳の名前を登録する場合など、電話機から文字入力が必要なときがあります。
ここでは、以下の漢字、カタカナ、英字、数字の文字入力の操作について説明します。

- 「文字入力モードの切り替え」(➡ P.20)
- 「文字の入力方法」(➡ P.21)
- 「濁点・半濁点の入力方法」(➡ P.21)
- 「文字入力ボタン一覧」(➡ P.22)
- 「漢字(全角)の入力方法」(➡ P.23)
- 「文字の修正 / 挿入 / 削除方法」(➡ P.24)
- 「カナ(半角)の入力方法」(➡ P.25)

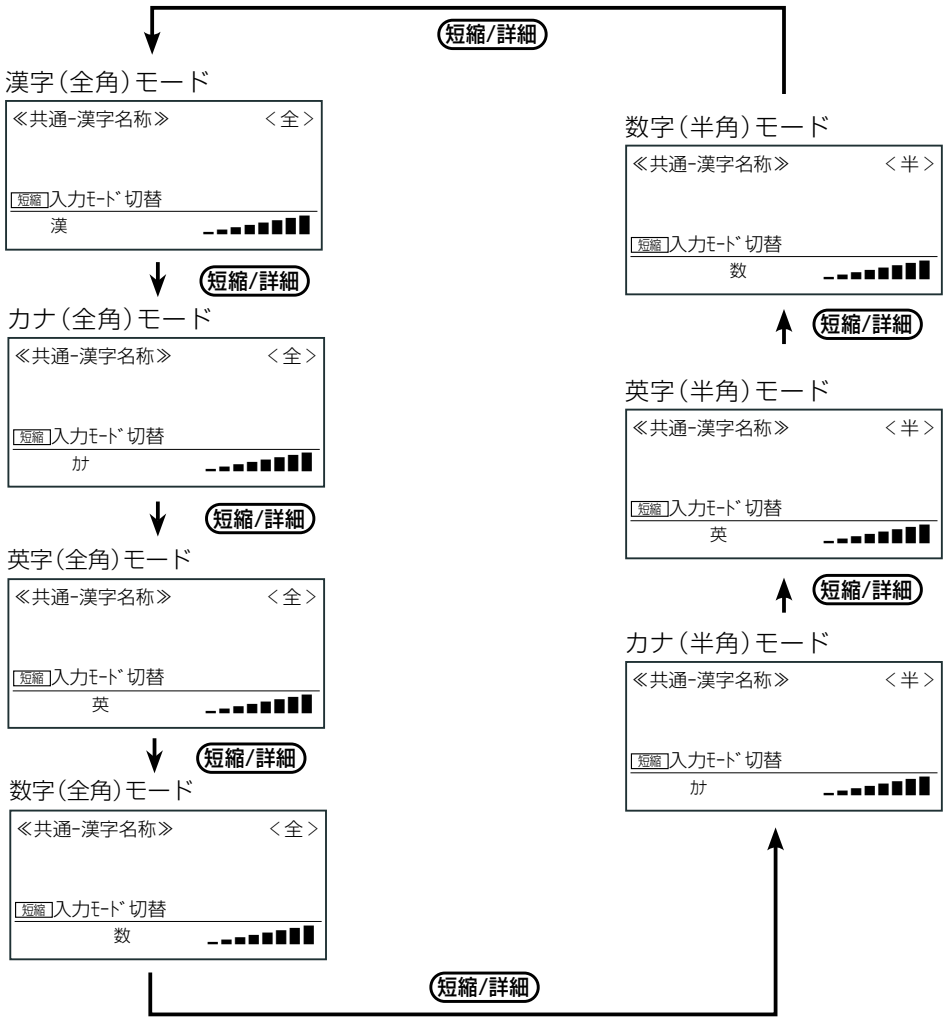
文字入力モードの切り替え

漢字(全角)入力のできる画面では、英字や数字を入力するために入力モードを切り替えることができます。例えば、漢字の名前の途中にアルファベットや数字、半角文字を入力する必要がある場合は、入力モードを切り替えます。

(短縮/詳細) を押すごとに、下図のように入力モードが切り替わります。ただし、各画面で無効な入力モードの場合は、その無効な入力モードがスキップされます。

1 行目の右端の表示と、5 行目のピクト表示で現在の入力モードを確認できます。

- ＜全＞:全角、＜半＞:半角
- ピクト表示:漢、カ、英、数



文字の入力方法

文字を入力するには、入力画面で入力モードを選択し、ダイヤルボタンを押して文字を入力します。
入力モードによって、入力できる文字が異なります。
同じ文字を続けて入力する場合は、◎を押してカーソルを右移動してから 2 文字目を入力します。

例：サ3を押すたびに、文字が次のように順番に表示されます。

- **漢字モードの場合**

1 回目　2 回目　3 回目　4 回目　5 回目
さ → し → す → せ → そ

- **カタカナ（全角）モードの場合**

1 回目　2 回目　3 回目　4 回目　5 回目
サ → シ → ス → セ → ソ

- **英字（全角）モードの場合**

1 回目　2 回目　3 回目　4 回目　5 回目　6 回目
D → E → F → d → e → f

- **数字（全角）モードの場合**

数字モードの場合は、押した回数分同じ数字が入力されます。

1 回目　2 回目　3 回目　4 回目
３ → ３３ → ３３３ →３３３３

- **カタカナ（半角）モードの場合**

1 回目　2 回目　3 回目　4 回目　5 回目
ｻ → ｼ → ｽ → ｾ → ｿ

- **英字（半角）モードの場合**

1 回目　2 回目　3 回目　4 回目　5 回目　6 回目
D → E → F → d → e → f

- **数字（半角）モードの場合**

数字モードの場合は、押した回数分同じ数字が入力されます。

1 回目　2 回目　3 回目　4 回目
3 → 33 → 333 → 3333

濁点・半濁点の入力方法

1 つ前の入力文字に結合される濁点、半濁点を入力するには、0または＊を使います。

例：ば、ぱ

ば：　ハ6 1 回 →0 4 回　　または　　ハ6 1 回 → ＊ 1 回

ぱ：　ハ6 1 回 →0 5 回　　または　　ハ6 1 回 → ＊ 2 回

独立した 1 文字分の濁点、半濁点を入力する場合も、0 または ＊ を使います。

例：う゛

う゛：　ア1 3 回 →0 4 回　　または　　ア1 3 回 → ＊ 1 回

文字入力ボタン一覧

各ダイヤルボタンには、それぞれ複数の文字が割り当てられており、ボタンを押した回数により表示文字が切り替わります。また、入力モードによって、各ボタンで入力できる文字が変わります。

例：漢字モードで カ ABC 2 を続けて押したときに表示される文字

押した回数　　：1回 → 2回 → 3回 → 4回 → 5回 → 6回・・・・
表示される文字：　か → き → く → け → こ → か・・・・

※文字はすべて全角で入力されます。

各ダイヤルボタンで入力できる文字と、文字入力時に使用するボタンについて、下表に示します。

ボタン操作	入力モード	表示される文字
ア 1	漢字(全)	あいうえお　ぁぃぅぇぉ
	カナ(全)	アイウエオ　ｱｲｳｴｵ
	英字(全)	―
	数字(全)	1
	カナ(半)	ｱｲｳｴｵ　ｱｲｳｴｵ
	英字(半)	―
	数字(半)	1
カ ABC 2	漢字(全)	かきくけこ
	カナ(全)	カキクケコ
	英字(全)	ＡＢＣ ａｂｃ
	数字(全)	2
	カナ(半)	ｶｷｸｹｺ
	英字(半)	ABC abc
	数字(半)	2
サ DEF 3	漢字(全)	さしすせそ
	カナ(全)	サシスセソ
	英字(全)	ＤＥＦ ｄｅｆ
	数字(全)	3
	カナ(半)	ｻｼｽｾｿ
	英字(半)	DEF def
	数字(半)	3
タ GHI 4	漢字(全)	たちつてと　っ
	カナ(全)	タチツテト　ッ
	英字(全)	ＧＨＩ ｇｈｉ
	数字(全)	4
	カナ(半)	ﾀﾁﾂﾃﾄ ｯ
	英字(半)	GHI ghi
	数字(半)	4
ナ JKL 5	漢字(全)	なにぬねの
	カナ(全)	ナニヌネノ
	英字(全)	ＪＫＬ ｊｋｌ
	数字(全)	5
	カナ(半)	ﾅﾆﾇﾈﾉ
	英字(半)	JKL jkl
	数字(半)	5
ハ MNO 6	漢字(全)	はひふへほ
	カナ(全)	ハヒフヘホ
	英字(全)	ＭＮＯ ｍｎｏ
	数字(全)	6
	カナ(半)	ﾊﾋﾌﾍﾎ
	英字(半)	MNO mno
	数字(半)	6
マ PQRS 7	漢字(全)	まみむめも
	カナ(全)	マミムメモ
	英字(全)	ＰＱＲＳ ｐｑｒｓ
	数字(全)	7
	カナ(半)	ﾏﾐﾑﾒﾓ
	英字(半)	PQRS pqrs
	数字(半)	7

ボタン操作	入力モード	表示される文字
ヤ TUV 8	漢字(全)	やゆよ　ゃゅょ
	カナ(全)	ヤユヨ　ｬｭｮ
	英字(全)	ＴＵＶ ｔｕｖ
	数字(全)	8
	カナ(半)	ﾔﾕﾖ ｬｭｮ
	英字(半)	TUV tuv
	数字(半)	8
ラ WXYZ 9	漢字(全)	らりるれろ
	カナ(全)	ラリルレロ
	英字(全)	ＷＸＹＺ ｗｘｙｚ
	数字(全)	9
	カナ(半)	ﾗﾘﾙﾚﾛ
	英字(半)	WXYZ wxyz
	数字(半)	9
ワヲン 0	漢字(全)	わをん　゛゜ー・！？、。(スペース)
	カナ(全)	ワヲン　゛゜ー・！？、。(スペース)
	英字(全)	＠．　～／：＿　！　？　’　－　＆　（　）　”　＄　％　＋　，　；　＜　＝　＞　［　￥　］　＾　｀　｛　｜　｝　「　」　＊　＃　(スペース)
	数字(全)	0
	カナ(半)	ﾜﾖﾝ ﾞﾟ -･!?、.(ｽﾍﾟｰｽ)
	英字(半)	@ . ￣ / : _ ! ? ' - & ( ) " $ % + , ; < = > [¥] ^ ` { ¦ } 「 」 * #(ｽﾍﾟｰｽ)
	数字(半)	0
＊	漢字(全)	゛゜
	カナ(全)	゛゜
	英字(全)	＊
	数字(全)	＊
	カナ(半)	ﾞﾟ
	英字(半)	*
	数字(半)	*
#	漢字(全)	―
	カナ(全)	―
	英字(全)	＃
	数字(全)	＃
	カナ(半)	―
	英字(半)	#
	数字(半)	#
フラッシュ	―	文字削除 (ボタン長押しで全削除)
短縮/詳細	電話番号入力モード	P、E、-、[] (特殊コード)
	電話番号入力モード以外	文字入力モード切替
確定	―	文字確定

漢字（全角）の入力方法

漢字を入力するときの操作を説明します。
ここでは、電話帳の登録画面を例に説明します。電話帳を登録するまでの操作は「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

■ 入力例：「鈴木」と登録

1 サ DEF 3 を 3 回押して「す」を入力する

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
す
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

2 ◎ を押してカーソルを移動する

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
す
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

3 サ DEF 3 を 3 回押し、ワ 0 を 4 回（または ＊ を 1 回）押して「ず」を入力する

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
すず
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

4 カ ABC 2 を 2 回押して「き」を入力する

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
すずき
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

5 ◎ を押して漢字に変換する

文節が漢字変換されます。

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
鈴木
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

6 続けて ◎ を押す

反転部分の次候補が表示されます。

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
スズキ
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

7 ◎ を押して文節を変更する

「す」、「すず」だけの候補を表示させたい場合は、◎ を押して変換する範囲（文節）を変更し、再度 ◎ を押します。

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
素すき
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

8 希望する漢字が表示されたら 確定 を押す

漢字が確定されます。

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
鈴木
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

MEMO

- 一度に変換可能な文字数は全角 15 文字です。
- ◎ で、変換する文字範囲を変更できます。
- 短縮/詳細 で文字入力モードを切り替えます。
- 入力できる文字については、「文字入力ボタン一覧」（➡ P.22）を参照してください。
- 表示された候補の次候補を表示させたいときは ◎ を押してください。

文字の修正 / 挿入 / 削除方法

■ 修正例：伊東一郎 → 伊藤一郎に修正

1 を押して文字を修正 / 挿入 / 削除する位置にカーソルを移動する

≪共通-漢字名称≫　＜全＞
伊東一郎

短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

2 フラッシュ を押す

カーソルの部分の文字が削除され、カーソルは右隣の文字に移動します。

≪共通-漢字名称≫　＜全＞
伊一郎

短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

3 漢字を入力する

漢字の入力例で行った、漢字の文節変換、確定方法を使って、希望する漢字を入力します。

≪共通-漢字名称≫　＜全＞
伊藤一郎

短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

MEMO

- 漢字名称の入力時に、カナ名称が未入力だった場合、漢字変換時に入力した全角かな文字を全て半角カナにした文字列が、カナ名称に自動的に反映されます。
  正式な読み仮名と違うときは、カナを修正します。

  例　入力かな：すずきいちろう
  → カナ名称：ｽｽﾞｷｲﾁﾛｳ
  　漢字名称：鈴木一郎

  ただし、カナ名称にすでに何らかの入力がある場合は反映されません。
- 文字入力中に、フラッシュ を長押しすると、入力した文字がすべて削除されます。

カナ（半角）の入力方法

カナを入力するときの操作を説明します。
ダイヤルボタンを押して、希望する文字が表示されたら、次の文字を入力するか◎を押すと、その文字が採用されます。
ここでは、電話帳の登録画面を例に説明します。電話帳を登録するまでの操作は「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

■ 入力例：スズキイチロウ

1 サ DEF 3 を 3 回押して「ス」を入力する

≪共通-ｶﾅ名称≫ ＜半＞
ｽ
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
ｶﾅ

2 ◎を押してカーソルを移動する

≪共通-ｶﾅ名称≫ ＜半＞
ｽ
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
ｶﾅ

3 サ DEF 3 を 3 回押して「ス」を入力し、フリガナ 0 を 4 回（または ＊ を 1 回）押して「゛」を入力する

≪共通-ｶﾅ名称≫ ＜半＞
ｽｽ
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
ｶﾅ

4 カ ABC 2 を 2 回押して「キ」を入力する

≪共通-ｶﾅ名称≫ ＜半＞
ｽｽﾞｷ
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
ｶﾅ

5 ア 1 を 2 回押して「イ」を入力する

≪共通-ｶﾅ名称≫ ＜半＞
ｽｽﾞｷｲ
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
ｶﾅ

6 タ GHI 4 を 2 回押して「チ」を入力する

≪共通-ｶﾅ名称≫ ＜半＞
ｽｽﾞｷｲﾁ
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
ｶﾅ

7 ラ WXYZ 9 を 5 回押して「ロ」を入力する

≪共通-ｶﾅ名称≫ ＜半＞
ｽｽﾞｷｲﾁﾛ
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
ｶﾅ

8 ア 1 を 3 回押して「ウ」にする

≪共通-ｶﾅ名称≫ ＜半＞
ｽｽﾞｷｲﾁﾛｳ
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
ｶﾅ

9 確定 を押す

カナ名称が設定され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

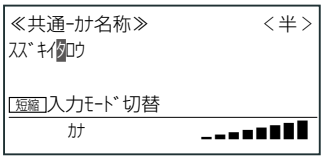
MEMO

- ◎でカーソルを移動し、カナを編集できます。
- 短縮/詳細 で文字入力モードを切り替えます。
- 入力できる文字は、「文字入力ボタン一覧」（➡ P.22）を参照してください。

カナ入力の修正例

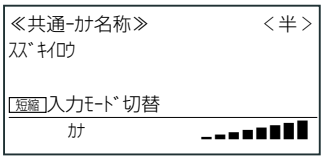
■ 修正例：スズキイタロウ→スズキイチロウ

1 文字入力画面で◀を押し、カーソルを「タ」に移動する

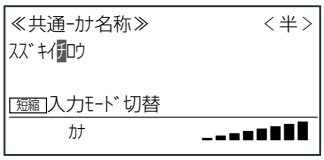


2 フラッシュを押す

「タ」が削除されます。



3 タ GHI 4 を 2 回押す



4 確定を押す

カナ名称が設定され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

1-5 カレンダー / 時計の設定

カレンダー / 時計の日時を変更する

システム共通のカレンダー / 時計の年、月、日、時刻を変更することができます。この設定はシステム管理電話機から行います。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [0：その他] を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
8音設定
9表示設定
0その他

3 で [3：カレンダー / 時計設定] を選択して、確定を押す

≪その他≫
1システム情報
2システム設定
3カレンダー / 時計設定

4 で [1：日時変更] を選択して、確定を押す

≪カレンダー / 時計設定≫
1日時変更
2祝祭日登録
3特定日登録

5 0～9で、日時を入力する

≪日時変更≫
2013 年 10 月 24 日
00 時 00 分

	設定範囲	説明
年	13 ～ 37	西暦の下 2 桁を入力します
月	01 ～ 12	月を入力します
日	01 ～ 31	日付を入力します。 月により設定範囲が変わります（うるう年対応）
時	00 ～ 23	時刻を 24 時間制で入力します
分	00 ～ 59	分を入力します

MEMO

2 行目末尾の入力が完了すると、確定を押さなくても 3 行目にカーソルが移動します。

6 確定を押す

- 入力した日時でカレンダー / 時計が更新され、「カレンダー / 時計設定」メニュー画面に戻ります。
- 設定できた場合は、登録完了音が鳴ります。

MEMO

手順 1 ～ 4 の代わりに 保留 ＋ 8 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

待受画面のカレンダー / 時計表示

システム管理電話機の「表示形式設定」メニュー画面から、待機表示を縦倍、横倍、標準に変更したり、時刻表示を 24 時間制から 12 時間制に変更したり、月日の表示を英語表示に変更することができます。

- 「表示形式設定」メニューの表示
  メインメニュー→ [9：表示設定] → [3：表示形式設定]
- 「表示形式設定」メニューでの操作
  [2：待機表示設定] → [1：横倍]、[2：縦倍]、[3：標準] から選択
  [3：時刻表示設定] → [1：12 時間]、[2：24 時間] から選択
  [4：表示文字設定] → [1：漢字]、[2：英大文字]、[3：英小文字] から選択

＜ 横倍、12 時間制、漢字表示 ＞

内線 201
１０月２４日（木）
午前　９：００

＜ 縦倍、24 時間制、漢字表示 ＞

内線 201
10月24日(木)　21:00

＜ 標準、12 時間制、英小文字 ＞

内線 201
10／24 Thr pm 9:00

1-6 電話機への機能の登録

オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける

電話機ごとに(　)に特定の機能や電話番号などを割り付けて使用することができます。初期設定では、上段の一番右側に(　)(自己保留)が自動で割り付けられています。

オートダイヤルボタンに機能を登録する

オートダイヤルボタンに、代理応答などの機能を登録することができます。
オートダイヤルボタンに登録できる機能や付加情報については「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。

1 待受画面で、(確定)を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 (◆)で[6:オートダイヤル]を選択して、(確定)を押す

≪メニュー≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 オートダイヤル

3 (◆)で[1:ファンクション割付]を選択して、(確定)を押す

≪オートダイヤル≫
1 ファンクション割付
2 メールボックス割付
3 DSS 割付

4 機能を登録する(　)を押す

《ファンクション割付》
F--:--
オートダイヤルボタンを選択

↓(　)

《ファンクション割付》
F19:--
未登録
↑↓:候補選択

- (　)のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

- 事前に、(　)に割り付けられている機能を確認するには、[保留]+[0]のあとに、調べたい(　)を押します。電話機のディスプレイに、機能名が表示されます。
- 手順1～3の代わりに[保留]+[0]を押すこともできます(「A-4 登録モード一覧表」(➡ P.423)を参照)。

5 機能種別番号を入力する

- 機能種別番号については、「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。
  例えば、代理応答であれば、機能種別番号[0][3]を入力します。
- 機能種別番号を入力する代わりに(◆)で機能名の候補を表示して選択することもできます。

≪ファンクション割付≫
F19:03
代理応答
↑↓:候補選択

6 (確定)を押す

- 機能種別によっては、このあと付加情報を設定する必要があります。付加情報の入力が必要な場合は、手順7へ進みます。
- 付加情報が必要でない機能種別の場合は、機能が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

7 (付加情報が必要な機能種別の場合)付加情報を入力する

必要な付加情報については、「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。
例えば、代理応答であれば、「1:全て」、「2:内線のみ」、「3:内線+専用線」、「4:外線のみ」から選択します。

8 (確定)を押す

(　)に機能が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

工事設定

(　)(外線)が割り付けられているボタンには機能を登録することはできません。(　)(外線)の割り付けを解除してオートダイヤルボタンとして使用したい場合は、販売店にご相談ください。

オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する

MEMO

工事設定により（　）に割り付けられた機能は、この操作では削除できません。工事設定で削除してください。

1 待受画面で、（確定）を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 （◀▶）で［6：オートダイヤル］を選択して、（確定）を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 （◀▶）で［6：割付クリア］を選択して、（確定）を押す

≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
4 ﾜﾝﾀｯﾁ割付
5 電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付
6 割付ｸﾘｱ

4 登録を削除する（　）を押す

≪割付ｸﾘｱ≫
F--->

ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾎﾞﾀﾝを選択

↓（　）

≪割付ｸﾘｱ≫
F 9>
ﾘﾀﾞｲﾔﾙ
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾎﾞﾀﾝを選択

（　）のファンクション番号が表示されます。画面は、リダイヤル機能が登録されている 19 番の（　）を押した場合の例です。3 行目に機能名が表示されます。

MEMO

事前に、（　）に割り付けられている機能を確認するには、［保留］＋［0］のあとに、調べたい（　）を押します。電話機のディスプレイに、機能名が表示されます。

5 登録を削除する機能名が表示されていることを確認して、（確定）を押す

≪割付ｸﾘｱ≫
F 9>
ﾘﾀﾞｲﾔﾙ
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾎﾞﾀﾝを選択

（　）に登録されていた機能がクリアされ、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

オートダイヤルボタンに電話帳を登録する（電話帳ワンタッチ割付）

電話帳にあらかじめ電話番号を登録しておき、登録先の電話帳メモリ番号を（　）に登録します。これにより、登録された（　）はワンタッチダイヤルボタンと同じように使うことができます。
電話帳への登録や電話帳メモリ番号については、「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［6：オートダイヤル］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［5：電話帳ワンタッチ割付］を選択して、確定を押す

≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
3 DSS 割付
4 ﾜﾝﾀｯﾁ割付
5 電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付

4 登録する（　）を押す

≪電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
F■->
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾎﾞﾀﾝを選択

↓（　）

≪電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
F19>
未登録
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾎﾞﾀﾝを選択

- （　）のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3 行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO
事前に、（　）に割り付けられている機能を確認するには、［保留］＋［0］のあとに、調べたい（　）を押します。電話機のディスプレイに、機能名が表示されます。

5 ファンクション番号を確認または変更して、確定を押す

「電話帳指定」画面が表示されます。

6 で［1：共通電話帳］または［2：個別電話帳］を選択して、確定を押す

≪電話帳指定≫
1 共通電話帳
2 個別電話帳

MEMO
共通電話帳と個別電話帳については「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

7 電話帳メモリ番号（0000 ～ 9999）を入力して電話帳を検索する

メモリ番号を入力する代わりに（　）ボタンで、前候補 / 次候補を表示することもできます。
（メモリ番号 0001 を指定するときの入力例）

≪共通-ﾒﾓﾘ No 指定≫
0001
本社
↑↓：候補検索

入力したメモリ番号に登録されている名称または電話番号が 3 行目に表示されます。

8 確定を押す

9 検索結果一覧から登録対象を選択して、確定を押す

≪共通電話帳一覧≫
0001: 本社
0002: 支社
0003: 株式会社

（　）に電話帳メモリ番号が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

MEMO
登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.29）を参照してください。

オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）

に外線番号 / 内線番号を割り付けて、オートダイヤル発信することができます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［6：オートダイヤル］を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
4転送設定
5録音関連設定
6オートダイヤル

3 を押し［4：ワンタッチ割付］を選択して、確定を押す

≪オートダイヤル≫
2メールボックス割付
3DSS 割付
4ワンタッチ割付

4 登録するを押す

≪ワンタッチ割付≫
F■->
オートダイヤルボタンを選択

↓

≪ワンタッチ割付≫
F■9>
未登録
オートダイヤルボタンを選択

- のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3 行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

事前に、に割り付けられている機能を確認するには、保留 ＋ カ ABC 2 のあとに、調べたいを押します。電話機のディスプレイに、機能名が表示されます。

5 ファンクション番号を確認または変更して、確定を押す

「ワンタッチ割付」編集メニューが表示されます。

6 で［1：Tel No］を選択して、確定を押す

≪ワンタッチ割付≫
1Tel No>
2発信付加情報

7 登録する電話番号を入力する

電話番号は最大 32 桁まで入力できます（0 ～ 9、＊、＃）。

≪ Tel No 指定≫
短縮 特殊コード入力

短縮/詳細 で特殊コード（-、P、E、[ ]）の入力（切替）が可能です（「電話帳に情報を登録する」の「相手先の電話番号を入力する」（➡ P.40）を参照）。

8 確定を押す

9 で番号種別を選択して、確定を押す

［1：外線］［2：特番展開］［3：PBX］［4：方路指定］のいずれかを選択します。

主装置に接続されている内線の場合は［2：特番展開］、構内交換機（PBX）に接続されている内線 / 専用線の場合は、［3：PBX］を選択します。

≪番号種別≫
1外線＊
2特番展開
3PBX

- ［4：方路指定］以外を選択した場合は、に電話番号が登録され、「ワンタッチ割付」編集画面に戻ります。発信付加情報を設定する場合は、手順 12 へ進んでください。
- ［4：方路指定］を選択した場合は、手順 10 へ進みます。

10 （［4：方路指定］を選択した場合）方路番号（00 ～ 63）を指定する

方路番号を入力する代わりにで方路番号を順番に検索することもできます。

≪方路指定≫
No>■-
↑↓：候補検索

11 確定を押す

- 発信付加情報の設定が不要の場合は、ここで登録は完了です。
- 発信付加情報を設定する場合は、手順 12 へ進んでください。

つづく➡

12 で［2：発信付加情報］を選択して、確定を押す

≪ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
1 Tel No>1234567890
2 発信付加情報

13 で［1：ACR 利用］を選択して、確定を押す

≪発信付加情報≫
1 ACR 利用
2 発番号通知

14 で ACR を利用するかどうかを選択して、確定を押す

≪ ACR 利用≫
1 利用しない
2 利用する*

ACR の利用の有無が設定され、「発信付加情報」画面に戻ります。

15 で［2：発番号通知］を選択して、確定を押す

≪発信付加情報≫
1 ACR 利用
2 発番号通知

16 で発番号の通知設定を指定して、確定を押す

≪発番号通知≫
1 通知しない
2 通知する
3 網に従う*

発番号通知が設定され、「発信付加情報」画面に戻ります。

MEMO

- 登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.29）を参照してください。
- 手順 1 ～ 3 の代わりに 保留 ＋ カ ABC 2 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

オートダイヤルボタンに機能特番を登録する（ワンタッチ割付）

機能 を押したあと、特定のダイヤル番号を押すと、対応する機能を操作することができます。これを機能特番といいます。

この機能特番を、 にワンタッチダイヤルとして登録すると、ボタン 1 つで機能特番を操作できます。また、機能 ボタンがない場合でも、 に （機能）を割り付けることで機能特番を操作できます。

使用できる機能特番については、「A-5 機能特番の一覧」（➡ P.424）を参照してください。

1 「オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）」（➡ P.31）の手順 1 ～ 6 を操作する

2 登録する機能特番を入力して、確定を押す

≪ Tel No 指定≫

短縮 特殊ｺｰﾄﾞ入力

3 で［5：機能特番］を選択して、確定を押す

≪番号種別≫
3 PBX
4 方路指定
5 機能特番*

に機能特番が登録され、「ワンタッチ割付」編集画面に戻ります。

オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する

メールボックスとは、電話の音声メッセージを録音して格納しておくことができる箱のようなものです。それぞれの箱には、番号（メールボックス番号）が付けられ、番号を指定して、メールボックス内のメッセージを再生したり、削除したりすることができます。メールボックスについての詳細は「第５章　ボイスメールの使いかた」（➡P.215）を参照してください。

にメールボックス番号を登録しておくと、を押すことで、登録した番号のメールボックスにアクセスすることができます。また、メールボックスに未聴取のメッセージがあるときは、（メールボックス）のランプが点滅（緑）するので、メールボックスにメッセージがあるかどうかを確認することができます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［6：オートダイヤル］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4転送設定
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［2：メールボックス割付］を選択して、確定を押す

≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
1ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付
2ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付
3DSS 割付

4 メールボックスを登録するを押す

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付≫
F--->MBX----

ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾎﾞﾀﾝを選択

↓

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付≫
F19>MBX----
未登録
↑↓：候補検索

- のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、３行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

事前に、に割り付けられている機能を確認するには、保留＋タ4のあとに、調べたいを押します。電話機のディスプレイに、機能名が表示されます。

5 メールボックス番号を入力する

- 主装置内蔵のメールボックスのメールボックス番号は、１～４桁です。
- メールボックス番号を入力する代わりにでメールボックス番号を順番に検索することができます。

（メールボックス番号 1000 の入力例）

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付≫
F19>MBX1000
未登録
↑↓：候補検索

6 確定を押す

7 メールボックス表示種別を選択して、確定を押す

登録後のを押したとき、メールの内容を一覧で表示するか、詳細画面で１件ずつ表示するかを選択します。

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ表示種別≫
1詳細*
2一覧

にメールボックス番号が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

MEMO

- 登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.29）を参照してください。
- 手順１～３の代わりに保留＋タ4を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する

に内線番号を登録すると、内線相手の使用状態のわかる BLF（Busy Lamp Field）ランプとして、また登録された内線にワンタッチで電話をかけられる DSS（Direct Station Selection）ボタンとして使用することができます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［6：オートダイヤル］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［3：DSS 割付］を選択して、確定を押す

≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
1 ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付
2 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付
3 DSS 割付

4 内線番号を登録するを押す

≪ DSS 割付≫
F■->

ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾎﾞﾀﾝを選択

↓

≪ DSS 割付≫
F19>
未登録
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾎﾞﾀﾝを選択

- のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3 行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

事前に、に割り付けられている機能を確認するには、保留 ＋ ラ WXYZ 9 のあとに、調べたいを押します。電話機のディスプレイに、機能名が表示されます。

5 ファンクション番号を確認または変更して、確定を押す

「内線対象指定」画面が表示されます。

6 登録する内線番号を入力する

内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
1000
↑↓：候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

7 確定を押す

に内線 DSS（内線番号）が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

MEMO

- 登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.29）を参照してください。
- 手順 1 ～ 3 の代わりに 保留 ＋ ラ WXYZ 9 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。
- DSS のランプ表示の種類は以下のとおりです。

相手内線の状態	ランプの光りかた
待機状態	消灯
登録相手からの着信中	速点滅（赤）
使用中 / 不在設定中	点灯（赤）
受話器を戻し忘れたとき（相手内線がアナログ電話機のときのみ）	間隙速点滅（赤）

内線名称の登録

内線名称を登録しておくと、内線への発着信時に相手の電話機のディスプレイに自分の内線名称を表示させることができます。また、相手内線に内線名称が登録されている場合は、発着信時に相手の内線名称が表示されます。

内線名称を登録するには、まず全内線（自テナントグループ（➡P.416）に所属する内線）を一覧表示して、該当する内線を選択します。登録した内線名称は、削除することもできます。

システム管理電話機（➡P.7）では、すべての内線名称を登録 / 削除することができます。一般ユーザ電話機（➡P.7）では、自内線名称のみ登録 / 削除できます。

※内線の一覧表示についての詳細は第３章の「内線の現在の状態を一覧表示する（内線一覧）」（➡P.161）を参照してください。

内線名称を登録する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［3：内線一覧］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
1履歴（発信 / 着信）
2電話帳
3内線一覧

3 で［1：一覧表示］を選択して、確定を押す

≪内線一覧≫
1一覧表示
2内線検索
3内線ｶﾅ検索

4 内線一覧から、内線名称を登録・修正したい内線を選択して、確定を押す

≪内線一覧≫
内線 10：山田太郎
内線 11：田中信夫
内線 12：高橋花子

MEMO

内線一覧の見かたについては、第３章の「内線一覧画面の表示内容」（➡P.162）を参照してください。

5 で［2：名称登録］を選択して、確定を押す

内線 10
山田太郎
1呼び出し
2名称登録

一般ユーザ電話機で他内線を選択した場合は、［2：名称登録］［3：名称削除］は表示されません。

6 で［1：漢字名称］を選択して、確定を押す

≪名称登録≫
1漢字名称＞山田太郎
2ｶﾅ名称　＞ﾔﾏﾀﾞﾀﾛｳ
#登録

7 漢字で名称を入力して、確定を押す

≪漢字名称≫　＜全＞
山田一郎

短縮入力ﾓｰﾄﾞ切替

MEMO

- 短縮/詳細 を押すと、文字入力モードを切り替えることができます。［全角］漢→カナ→英→数→［半角］カナ→英→数の順に切り替わります。
- 文字の入力方法は、「1-4 文字入力方法」（➡P.20）を参照してください。
- カナは、未入力の場合、漢字で入力した文字列の半角カナが自動的に反映されます。

8 で［#：登録］を選択して、確定を押す

≪名称登録≫
1漢字名称＞山田一郎
2ｶﾅ名称　＞ﾔﾏﾀﾞｲﾁﾛｳ
#登録

↓ 確定

≪内線一覧≫
内線 10：山田一郎
内線 11：田中信夫
内線 12：高橋花子

名称が登録され、「内線一覧」画面が表示されます。

MEMO

手順１～５の代わりに、保留 ＋ 7 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡P.423）を参照）。

内線名称の登録を削除する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [3：内線一覧] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
1履歴 (発信 / 着信)
2電話帳
3内線一覧

3 で [1：一覧表示] を選択して、確定を押す

≪内線一覧≫
1一覧表示
2内線検索
3内線ｶﾅ検索

4 内線一覧から、内線名称を削除したい内線を選択して、確定を押す

≪内線一覧≫
内線 10：山田太郎
内線 11；田中信夫
内線 12：高橋花子

MEMO

内線一覧の見かたについては、第 3 章の「内線一覧画面の表示内容」(➡ P.162) を参照してください。

5 で [3：名称削除] を選択して、確定を押す

内線 10
山田太郎
2名称登録
3名称削除

一般ユーザ電話機で他内線を選択した場合は、[2：名称登録] [3：名称削除] は表示されません。

6 で [＊：はい] を選択して、確定を押す

≪名称削除≫
削除しますか？
1いいえ
＊はい

↓ 確定

≪内線一覧≫
内線 10：
内線 11；田中信夫
内線 12：高橋花子

1-7 電話帳の登録

相手の電話番号と名前を電話帳メモリに登録しておくと、電話をかけたいときに番号をダイヤルしなくても、相手の名前を電話帳から検索して電話番号を表示し、電話をかけることができます。

電話帳には、自テナントに所属している全電話機が使用できる**共通電話帳**と、電話機単位で使用できる**個別電話帳**があります。電話帳に登録できる件数は、システム全体で 10000 件です。

共通電話帳と個別電話帳は、システム管理電話機または一般ユーザ電話機（➡ P.7）から、以下のように登録、編集、削除、閲覧が可能です。

電話帳の種類	システム管理電話機	一般ユーザ電話機
共通電話帳	登録、編集、削除、閲覧が可能	閲覧のみ可能
個別電話帳	登録、編集、削除、閲覧が可能	自身の電話帳のみ登録、編集、削除、閲覧が可能

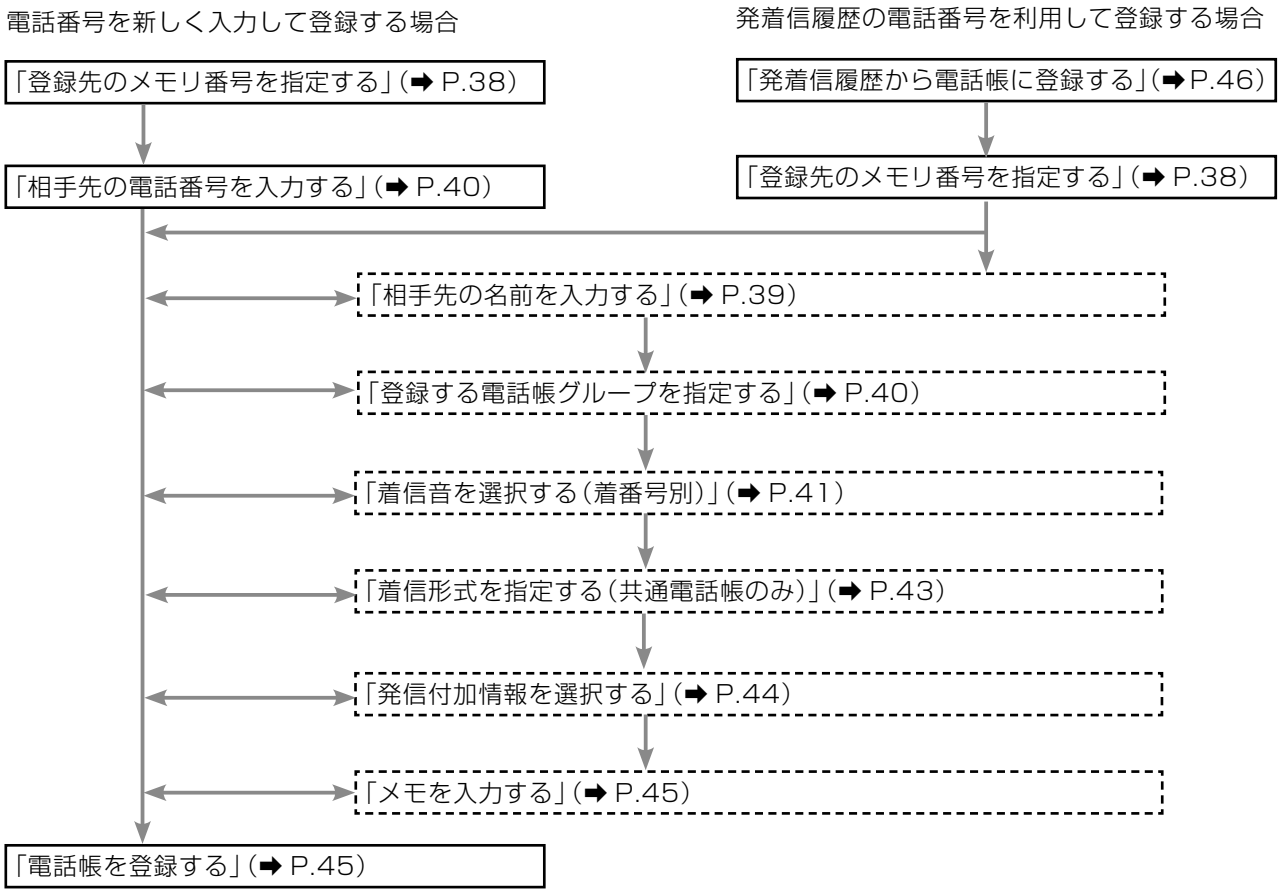
ここでは、電話帳の操作に関する以下の項目について説明します。

- 「電話帳に情報を登録する」（➡ P.37）
- 「電話帳を編集・削除する」（➡ P.47）
- 「電話帳グループの登録」（➡ P.49）

電話帳に情報を登録する

電話帳には、相手の名前と電話番号を登録するとともに、登録した相手から電話がかかってきたときの着信音や着信形式などの情報も合わせて登録することができます。いったん登録した電話帳データを編集したり、削除することもできます。電話帳の登録、編集、削除は、**サービスメニュー**と **Web 設定**から行うことができます。

ここでは、サービスメニューから電話帳に新規登録する手順について説明します。



MEMO

Web 設定での操作については『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

登録先のメモリ番号を指定する

電話帳のメモリ番号は、電話帳データを格納する領域 1 件ごとに割り付けられた番号です。電話帳に電話番号や名前を登録するときは、まず登録先のメモリ番号を指定します。

■ 電話帳 1 件（1 つのメモリ番号）に登録できる項目

項目	説明
名称（漢字）	最大全角 16 文字：全角（カナ・英数・記号）、半角（カナ・英数・記号）が入力可能
名称（カナ）	最大半角 32 文字：半角（カナ・英数・記号）が入力可能
グループ	グループ 0 ～ 9：グループ名称は、最大全角 5 文字（半角 10 文字）
電話番号	それぞれ最大 32 桁：1 つのメモリ番号で最大 3 つの電話番号登録が可能
番号種別	次のいずれかを選択：外線、特番展開、PBX、方路指定（方路番号指定）
識別着信音	次のいずれかを選択： 無し、トーン 1 ～ 8、着信メロディ（1 ～ 2）、保留メロディ（1 ～ 2）、外部音源 1 ～ 3
着信形式	昼夜モードごとに次のいずれかを指定（共通電話帳のみ登録可能）： 無し、内線、DGL グループ、MSA グループ、閉番号、付加番号 DID、着信代行、転送リモコン、留守リモコン、一般着信
発信付加情報	発番号通知や ACR 利用の有無など
メモ	最大全角 16 文字：全角（カナ・英数・記号）、半角（カナ・英数・記号）が入力可能

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で、[2：電話帳] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
1 履歴 (発信 / 着信)
2 電話帳
3 内線一覧

3 で、[1：新規登録] を選択して、確定を押す

≪電話帳≫
1 新規登録
2 一覧表示
3 番号検索

- システム管理電話機では、「電話帳指定」メニュー画面が表示されます。手順 4 に進んでください。
- 一般ユーザ電話機では、操作している内線の個別電話帳の「メモリ No 指定」画面が表示されます。手順 5 へ進んでください。

4 システム管理電話機の場合、で、[1：共通電話帳] または [2：個別電話帳] を選択して、確定を押す

≪電話帳指定≫
1 共通電話帳
2 個別電話帳

- [2：個別電話帳] を選択した場合は、「内線対象指定」画面が表示されます。内線を指定して、確定を押したあと手順 5 へ進んでください。

5 メモリ番号 (0000 ～ 9999) を入力して、確定を押す

電話帳メモリ番号のうち、まだ電話帳データが登録されていないメモリ番号が自動的に表示されますが、修正する場合は番号を入力します。

メモリ番号を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示することもできます。

共通電話帳を選択した場合の画面：

≪共通-ﾒﾓﾘ No 指定≫
0005
↑ ↓ :候補検索

↓ 確定

≪共通-電話帳登録≫
1 ﾒﾓﾘ No>0005
2 名称 >
3 ｸﾞﾙｰﾌﾟ > グループ 0

登録先のメモリ番号が指定され、「電話帳登録」メニュー画面が表示されます。

MEMO

- すでに情報が登録されているメモリ番号を指定すると、登録されている情報が、「電話帳登録」メニュー画面に表示されます。メモリ番号を修正するには、「メモリ No」を選択して確定を押します。「メモリ No 指定」画面が再度表示されるので、メモリ番号を入力し直してください。
- 手順 1 ～ 4 の代わりに、共通電話帳登録（システム管理電話機のみ）の場合は 保留 ＋ 短縮/詳細 または 保留 ＋ （共通電話帳）、個別電話帳登録の場合は 保留 ＋ （個別電話帳）を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

相手先の名前を入力する

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[2：名称] を選択して、(確定) を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」(➡ P.38) を参照してください。

≪共通-電話帳登録≫
1 ﾒﾓﾘ No>0000
2 名称 >
3 ｸﾞﾙｰﾌﾟ > グループ 0

2 (◆) で、[1：漢字名称] を選択して、(確定) を押す

≪共通-名称≫
1 漢字名称 >
2 ｶﾅ名称 >

3 名称を入力して、(確定) を押す

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
本社

短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替

4 (◆) で、[2：名称] を選択して、(確定) を押す

≪共通-電話帳登録≫
2 名称 > 本社
3 ｸﾞﾙｰﾌﾟ > グループ 0
4 Tel No>

5 (◆) で、[2：カナ名称] を選択して、(確定) を押す

≪共通-名称≫
1 漢字名称 > 本社
2 ｶﾅ名称 > ﾎﾝｼｬ

6 カナ名称を確認して、(確定) を押す

≪共通-ｶﾅ名称≫ ＜半＞
ﾎﾝｼｬ

短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替

(確定)

- 漢字名称を入力すると、カナ名称も入力された状態になります。
- カナ名称を変更する場合は、変更してから (確定) を押します。

≪共通-電話帳登録≫
1 ﾒﾓﾘ No>0000
2 名称 > 本社
3 ｸﾞﾙｰﾌﾟ > グループ 0

名称が指定され、「電話帳登録」メニュー画面が表示されます。

MEMO

- 漢字名称に入力できる文字数は全角で最大 16 文字です。
- カナ名称に入力できる文字数は半角で最大 32 文字です。
- (短縮/詳細) で文字入力モードを切り替えることができます。
- (◆) でカーソルを移動し、文字を編集します。
- 表示された候補の次候補を表示させたいときは (◆) を押します。
- 入力できる文字については、「文字入力ボタン一覧」(➡ P.22) を参照してください。
- 文字入力方法については、「1-4 文字入力方法」(➡ P.20) を参照してください。

MEMO

電話帳への名称登録時は、最大全角 16 文字（全角（カナ・英数・記号）、半角（カナ・英数・記号））が入力可能ですが、電話帳検索時や着信時などに電話機のディスプレイに表示できる文字数は、登録文字数よりも短いのでご注意ください。

電話機の機種	ディスプレイ表示可能文字数（全角）	
	電話帳検索時（一覧表示）、発着信履歴表示時	着信時
多機能電話機	12 ～ 13 文字	16 文字
カールコードレス電話機（CL）（子機） コードレス電話機（WSd）（子機） マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）	6 ～ 7 文字	10 文字

※電話帳検索時や履歴表示時は表示可能文字数を超えた文字数の名称が登録されている場合、右端に続きがあることを示す「>>」が表示されるため、表示文字数は 1 文字短くなります。(拡張表示) を押すと、続きを表示できます。

登録する電話帳グループを指定する

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[3：グループ] を選択して、(確定) を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」(➡ P.38) を参照してください。

```
≪共通-電話帳登録≫
1メモリ No>0000
2名称 >
3グループ > グループ 0
```

MEMO

電話帳グループの名称が未登録の場合は、「グループ 0」～「グループ 9」が表示されます。グループ名称は、「電話帳」メニュー画面から変更できます。(➡ P.50)

2 (◆) で、電話帳グループを選択して、(確定) を押す

```
≪共通-グループ指定≫
0グループ 0*
1グループ 1
2グループ 2
```

↓ (確定)

```
≪共通-電話帳登録≫
3グループ > グループ 1
4Tel No>
5着信音 > 無し
```

所属する電話帳グループが設定され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

相手先の電話番号を入力する

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[4：Tel No] を選択して、(確定) を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」(➡ P.38) を参照してください。

```
≪共通-電話帳登録≫
2名称 >本社
3グループ > グループ 0
4Tel No>
```

2 (◆) で、[1：] (または [2：] [3：]) を選択して、(確定) を押す

```
≪共通- Tel No ≫
1未登録
2未登録
3未登録
```

MEMO

電話番号が登録済みの場合には以下のような表示になります。

```
≪共通- Tel No ≫
1 1234567890
2 0987654321
3未登録
```

3 電話番号を入力して、(確定) を押す

```
≪共通- Tel No 指定≫
1234567890

短縮 特殊コード入力
```

↓ (確定)

```
≪共通-電話帳登録≫
4Tel No>1234567890
5着信音 > 無し
6着信形式
```

電話番号が指定され、「電話帳登録」メニュー画面が表示されます。

MEMO

- 電話番号はそれぞれ最大 32 桁まで入力できます。
- 1 つのメモリ番号に対して最大 3 つまで電話番号を登録することができます。
- 入力できる文字は、0 ～ 9、*、#、特殊コードです。
- 特殊コードは、(短縮/詳細) を押して入力します。入力できる特殊コードは次のとおりです。

P：PB 切替	(短縮/詳細)	1 回(5 回)
E：自動終話コード	(短縮/詳細)	2 回
-：オートポーズ	(短縮/詳細)	3 回
[] ：ネスティング	(短縮/詳細)	4 回

※ E（自動終話コード）は、電話番号の先頭には入力できません。

- ネスティングダイヤルについては、第 3 章の「複数の電話帳メモリ番号を組み合わせて発信する（ネスティングダイヤル）」(➡ P.84) を参照してください。
- 入力した番号を間違えた場合は (フラッシュ) を押して 1 文字削除します。入力した値すべてを削除する場合は、(フラッシュ) を長押しします。

着信音を選択する（着番号別）

登録する電話番号から着信があったときの着信音を設定することができます。トーン、メロディ、外部音源の 3 種類の選択方法を説明します。

工事設定

この機能を使用するには、電話会社が提供する番号表示サービスの契約と工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

トーンで指定する

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[5：着信音] を選択して、確定を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」（➡ P.38）を参照してください。

≪共通-電話帳登録≫
3ｸﾞﾙｰﾌﾟ＞グループ 0
4Tel　No>1234567890
5着信音＞無し

2 で、[2：トーン] を選択して、確定を押す

≪共通-識別着信音≫
1無し*
2ﾄｰﾝ
3ﾒﾛﾃﾞｨ

3 で、トーンを選択して、確定を押す

≪共通-識別着信音≫
1ﾄｰﾝ 1 *
2ﾄｰﾝ 2
3ﾄｰﾝ 3

4 で、[1：試聴] を選択して、確定を押す

トーンを聞きたい場合は試聴できます。試聴しない場合は、手順 6 へ進んでください。

≪共通-識別着信音≫
ﾄｰﾝ 1
1試聴
#設定

MEMO

試聴中に を押すと、試聴する音量を調節することができます。

5 で、[1：停止] を選択して 、確定を押す

≪共通-識別着信音≫　＜再生＞
ﾄｰﾝ 1
1停止

6 で、[#：設定] を選択して、確定を押す

≪共通-識別着信音≫
ﾄｰﾝ 1
1試聴
#設定

↓確定

≪共通-電話帳登録≫
5着信音＞ﾄｰﾝ 1
6着信形式
7発信付加情報

着信音が指定され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

メロディで指定する

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[5：着信音] を選択して、確定を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」（➡ P.38）を参照してください。

≪共通-電話帳登録≫
3ｸﾞﾙｰﾌﾟ＞グループ 0
4Tel　No>1234567890
5着信音＞無し

2 で、[3：メロディ] を選択して、確定を押す

≪共通-識別着信音≫
1無し*
2ﾄｰﾝ
3ﾒﾛﾃﾞｨ

3 で、[1：着信メロディ 1]（または [2：着信メロディ 2]）を選択して、確定を押す

≪共通-識別着信音≫
1着信ﾒﾛﾃﾞｨ1*
2着信ﾒﾛﾃﾞｨ2
3保留ﾒﾛﾃﾞｨ1

4 で、[#：設定] を選択して、確定を押す

設定する前にメロディを聞きたい場合は試聴できます。試聴する場合は、「トーンで指定する」（➡ P.41）の手順 4 を参照してください。

≪共通-識別着信音≫
着信ﾒﾛﾃﾞｨ1
1試聴
#設定

↓確定

≪共通-電話帳登録≫
5着信音＞着信ﾒﾛﾃﾞｨ1
6着信形式
7発信付加情報

着信音が指定され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

MEMO

- 着信メロディ 1 ～ 2 には、あらかじめお気に入りのメロディを設定しておきます。「保留音 / 着信音にメロディを設定する」（➡ P.52）を参照してください。
- 試聴中にを押すと、試聴する音量を調節することができます。

外部音源で指定する

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[5：着信音] を選択して、確定を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」（➡ P.38）を参照してください。

≪共通-電話帳登録≫
3ｸﾞﾙｰﾌﾟ＞グループ 0
4Tel　No>1234567890
5着信音＞無し

2 で、[4：外部音源] を選択して、確定を押す

≪共通-識別着信音≫
2ﾄｰﾝ
3ﾒﾛﾃﾞｨ
4外部音源

3 外部音源を選択して、確定を押す

≪共通-識別着信音≫
1外部音源 1*
2外部音源 2
3外部音源 3

MEMO

- 外部音源が存在しない場合は、設定（仮登録）することはできますが、試聴操作を行うとエラー音が鳴ります。
- 外部音源を使用したい場合は、販売店にご相談ください。

4 で、[#：設定] を選択して、確定を押す

設定する前にメロディを聞きたい場合は試聴できます。試聴する場合は、「トーンで指定する」（➡ P.41）の手順 4 を参照してください。

≪共通-識別着信音≫
着信ﾒﾛﾃﾞｨ1
1試聴
#設定

↓確定

≪共通-電話帳登録≫
5着信音＞外部音源 1
6着信形式
7発信付加情報

着信音が指定され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

着信形式を指定する（共通電話帳のみ）

共通電話帳の場合には、電話帳 1 件に対して、それぞれ着信形式を設定することができます。
個別電話帳では、着信形式を設定できません。

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[6：着信形式] を選択して、確定を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」（➡ P.38）を参照してください。

≪共通-電話帳登録≫
4Tel　No>1234567890
5着信音＞ﾄｰﾝ 1
6着信形式

2 で、[1：着信形式（昼）] を選択して、確定を押す

≪共通-着信形式≫
1着信形式（昼）
2着信形式（夜間 A-1）
3着信形式（夜間 A-2）

MEMO

着信形式は、夜間モード（昼、夜間 A-1 ～ A-3、夜間 B）ごとに設定できます。

3 選択した夜間モードのときの着信先の形式（例えば [1：内線]）を選択して、確定を押す

≪共通-着信形式編集≫
着信形式（昼）
0無し
1内線

4 （[1：内線] を選択した場合）着信先の内線番号を指定して、確定を押す

- 内線名称が登録済みの場合には 3 行目に内線名称が表示されます。
- で、前候補 / 次候補を表示できます。

≪内線対象指定≫

山田太郎
↑↓：候補検索

- 着信形式が設定され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

MEMO

手順 3 の「着信形式の編集」画面では以下の項目から選択できます。

	項目	項目選択後の画面と設定項目
0	無し	選択した着信形式が設定され、前の画面に戻る
1	内線	「内線対象指定」画面が表示され、着信先の内線番号を指定する
2	DGL グループ	「DGL グループ指定」画面が表示され、着信先の DGL グループを指定する
3	MSA グループ	「MSA グループ指定」画面が表示され、着信先の MSA グループを指定する
4	閉番号	「閉番号」指定画面が表示され、着信先の閉番号を指定する
5	付加番号 DID	選択した着信形式が設定され、前の画面に戻る
6	着信代行	「メールボックス指定」画面が表示され、着信先のメールボックス番号を指定する
7	転送リモコン	選択した着信形式が設定され、前の画面に戻る （着信時に、転送リモコンが使用できるようになります）
8	留守リモコン	選択した着信形式が設定され、前の画面に戻る （着信時に、留守リモコンが使用できるようになります）
9	一般着信	選択した着信形式が設定され、前の画面に戻る

※着信代行については、第 5 章の「各種代行機能」（➡ P.245）を参照してください。
※転送リモコン、留守リモコンについては、「3-7 外出先からの便利な機能」（➡ P.136）を参照してください。

発信付加情報を選択する

ACR 利用を設定する

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[7：発信付加情報] を選択して、確定を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」（➡ P.38）を参照してください。

≪共通-電話帳登録≫
5着信音＞トーン 1
6着信形式
7発信付加情報

2 で、[1：ACR 利用] を選択して、確定を押す

≪共通-発信付加情報≫
1ACR 利用
2発番号通知

3 で、ACR の利用の有無を選択して、確定を押す

≪共通- ACR 利用≫
1利用しない
2利用する*

発信付加情報が選択され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

発番号通知を設定する

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[7：発信付加情報] を選択して、確定を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」（➡ P.38）を参照してください。

≪共通-電話帳登録≫
5着信音＞トーン 1
6着信形式
7発信付加情報

2 で、[2：発番号通知] を選択して、確定を押す

≪共通-発信付加情報≫
1ACR 利用
2発番号通知

3 発番号の通知設定を指定して、確定を押す

≪共通-発番号通知≫
1通知しない
2通知する
3網に従う*

発信付加情報が選択され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

MEMO

発信時の ACR 利用（➡ P.414）の有無は、新規登録時は ACR を「利用する」に設定されます。また、発番号の通知の有無は、新規登録時は「網に従う」に設定されます。

ACR 利用設定や発番号通知設定を変更する場合は、一度電話帳に登録後、検索、または一覧表示から変更できます。

メモを入力する

メモを入力しておくと、電話帳に登録した電話番号の相手から着信があったとき、内線電話機にメモの内容が表示されます。

1 「電話帳登録」メニューで、[8：メモ] を選択して、(確定)を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」(➡ P.38) を参照してください。

```
≪共通-電話帳登録≫
6着信形式
7発信付加情報
8ﾒﾓ      >
```

2 メモを入力して、(確定)を押す

例えば、「本社 1F 総務」のように入力します。メモに入力できる文字数は全角で最大 16 文字です。

```
≪共通-ﾒﾓ≫                <全>
本社 1F 総務

短縮入力ﾓｰﾄﾞ切替
```

メモが指定され、「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

電話帳を登録する

1 「電話帳登録」メニュー画面で、[#：登録] を選択して、(確定)を押す

「電話帳登録」メニュー画面の表示方法は、「登録先のメモリ番号を指定する」(➡ P.38) を参照してください。

```
≪共通-電話帳登録≫
7発信付加情報
8ﾒﾓ      >
#登録
```

電話帳に情報が登録されます。

- システム管理電話機では、「登録先のメモリ番号を指定する」(➡ P.38) の指定に応じて、共通電話帳または指定した内線の個別電話帳に情報が登録されます。
- 一般ユーザ電話機では、自身の電話帳（操作している内線の個別電話帳）に情報が登録されます。

MEMO

各項目の操作の途中でも、[#：登録] を選んだ時点で登録が完了します。

発着信履歴から電話帳に登録する

発信履歴から電話帳に登録する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で[1：履歴（発信 / 着信）]を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
1履歴（発信 / 着信）
2電話帳
3内線一覧

3 で[1：発信履歴]を選択して、確定を押す

≪履歴（発信 / 着信）≫
1発信履歴
2共通着信履歴
3個別着信履歴

4 登録したい履歴を選択して、確定を押す

短縮/詳細 を押すたびに、一覧表示と詳細表示が切り替わります。

≪発信履歴一覧≫
0000：01234567
0001：本社
0002：高橋花子

（一覧表示）

短縮/詳細

0000:01234567
１０月２４日（木）　午前１０：１５

（詳細表示）

発信履歴がない場合、「登録無し」が数秒間表示されます。電話帳に名前が登録されている場合は、名前が表示されます。

5 で登録先の電話帳（[4：共通電話帳登録]または[5：個別電話帳登録]）を選択して、確定を押す

- 一般ユーザ電話機の場合は、共通電話帳登録は表示されません。[4：個別電話帳登録]を選択してください。
- [5：個別電話帳登録]を選択した場合は、「内線対象指定」画面が表示されます。内線を指定して、確定を押したあと手順６へ進んでください。

≪発信履歴≫　No:0000
01234567
4共通電話帳登録
5個別電話帳登録

6 電話帳に登録する

- 新規に登録する場合には、電話帳を新規登録する画面が表示されます（➡ P.38）。
- すでに電話帳に登録されている番号を選択した場合には、電話帳を編集する画面が表示されます（➡ P.47）。
- 電話帳の登録手順については、「電話帳に情報を登録する」（➡ P.37）を参照してください。

MEMO

手順１～３の代わりに を押しても発信履歴を表示することができます。

着信履歴から電話帳に登録する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で[1：履歴（発信 / 着信）]を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
1履歴（発信 / 着信）
2電話帳
3内線一覧

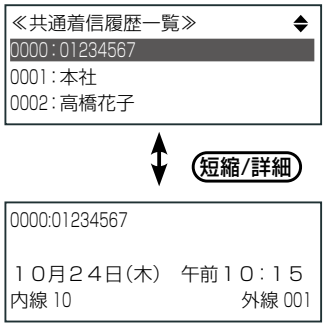
3 で[2：共通着信履歴]を選択して、確定を押す

≪履歴（発信 / 着信）≫
1発信履歴
2共通着信履歴
3個別着信履歴

つづく➡

4 登録したい履歴を選択して、(確定)を押す

(短縮/詳細) を押すたびに、一覧表示と詳細表示が切り替わります。



(一覧表示)

(詳細表示)

着信履歴がない場合、「登録無し」が数秒間表示されます。電話帳に名前が登録されている場合は、名前が表示されます。

5 で登録先の電話帳（[4：共通電話帳登録] または [5：個別電話帳登録]）を選択して、(確定)を押す

- 一般ユーザ電話機の場合は、共通電話帳登録は表示されません。[4：個別電話帳登録] を選択してください。
- [5：個別電話帳登録] を選択した場合は、「内線対象指定」画面が表示されます。内線を指定して、(確定)を押したあと手順 6 へ進んでください。

6 電話帳に登録する

- 新規に登録する場合には、電話帳を新規登録する画面が表示されます（➡ P.38）。
- すでに電話帳に登録されている番号を選択した場合には、電話帳を編集する画面が表示されます（➡ P.47）。
- 電話帳の登録手順については、「電話帳に情報を登録する」（➡ P.37）を参照してください。

MEMO

手順 1 ～ 3 の代わりに を押しても着信履歴を表示することができます。

電話帳を編集・削除する

いったん登録した電話帳データを編集したり、削除することができます。電話帳の編集、削除は、**サービスメニュー**と **Web 設定**から行うことができます。
ここでは、サービスメニューからの操作について説明します。

システム管理電話機の場合は、共通電話帳と自テナント内の各個別電話帳を編集、削除が可能です。
一般ユーザ電話機の場合、自内線の個別電話帳のみ編集、削除が可能です。

電話帳を編集する

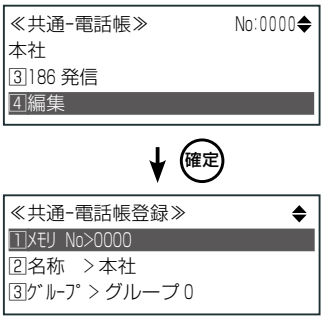
1 電話帳の「一覧」画面または「詳細」画面を表示して、編集したい電話番号を選択して、(確定)を押す

電話帳の「一覧」または「詳細」画面の表示方法は、第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63）を参照してください。

MEMO

発着信履歴から、登録されている電話帳情報を編集することもできます。その場合は、発着信履歴の「一覧」または「詳細」画面を表示して、すでに電話帳に登録されている番号から編集したい番号を選択して(確定)を押してください。

2 で [4：編集] を選択して、(確定)を押す



編集する項目を選択して、(確定)を押します。
これ以降の操作は、電話帳の登録時の操作と同じです。「電話帳に情報を登録する」（➡ P.37）のそれぞれの説明を参照してください。

電話帳を削除する

電話帳を 1 件削除する

1 電話帳の「一覧」画面または「詳細」画面表示中に、確定を押す

電話帳の「一覧」または「詳細」画面の表示方法は、第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63）を参照してください。

2 で [6：登録削除] を選択して、確定を押す

≪共通-電話帳≫ No:0000
本社
5番号種別変更
6登録削除

3 で [#：一件削除] を選択して、確定を押す（一件削除する場合）

≪共通-登録削除≫
#一件削除
*全件削除

選択した電話帳が一件削除され、「電話帳」メニュー画面が表示されます。

電話帳を全件削除する

1 電話帳の「一覧」画面または「詳細」画面表示中に、確定を押す

電話帳の「一覧」または「詳細」画面の表示方法は、第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63）を参照してください。

2 で [6：登録削除] を選択して、確定を押す

≪共通-電話帳≫ No:0000
本社
5番号種別変更
6登録削除

3 で [＊：全件削除] を選択して、確定を押す（全件削除する場合）

≪共通-登録削除≫
#一件削除
*全件削除

4 で [＊：はい] を選択して、確定を押す

≪共通-電話帳≫
全件削除しますか？
1いいえ
*はい

電話帳が全件削除され、「電話帳」メニュー画面が表示されます。

電話帳グループの登録

共通電話帳 / 個別電話帳は、グループ０～グループ９の 10 のグループに分けることができます（電話帳グループ）。電話帳 1 件ごとに、所属するグループ（電話帳グループ）を設定しておくと、グループごとの操作を行うのに便利です。また、電話帳を用途や相手先に合わせてグループ分けしておくと、電話帳を利用するときに便利です。

1 つの電話帳グループには、以下の項目を設定します。

項目	設定範囲	初期値	備考
グループ名（漢字）	最大全角 5 文字	グループ０～グループ９	
グループ名（カナ）	最大半角 10 文字		
リモートコールバック	次のどちらかを選択：しない、する	ない	共通電話帳のみ設定可能
着信ランプ	次のいずれかを選択： 設定無し、シグナルレッド、ライトブルー、レモンイエロー、ロイヤルブルー、バイオレット、グラスグリーン、ピーチホワイト、7 色レインボー	設定無し	

電話帳グループごとに操作できる便利な機能は以下のとおりです。

便利な機能	説明
着信時の着信ランプ色指定	電話帳グループごとに着信ランプの色を変えることができます。 グループごとに外線着信時の着信ランプの色を設定しておくことにより、グループごとに色分けすることができます。 **参照：**「電話帳グループごとに着信ランプの色を切り替える（着信ランプ切替）」（➡ P.51）
リモートコールバック	電話帳グループごとにリモートコールバック指定の有無を設定することができます。 グループに設定されているリモートコールバックの設定が「する」の場合は、システムから着信した電話機にコールバックします。リモートコールバックの設定が「しない」の場合は通常の着信動作を行います。 **参照：**第 3 章の「電話帳グループにリモートコールバック機能を設定する」（➡ P.144）
電話帳グループ着信動作	電話帳グループごとに、外線自動転送または留守番録音（応答録音）を動作させなくしたり、動作させたりすることができます（工事設定）。共通電話帳グループのみ設定可能です。 **参照：**第 3 章の「外線からの着信を自動で転送する（外線自動転送）」（➡ P.103） **参照：**第 5 章の「留守番機能」（➡ P.224）
IP 電話自動交換	電話帳グループごとに VoIP 外線着信時に指定した内線を個別に呼び出すことができます（工事設定で「自動交換指定」にグループ番号を指定します）。

MEMO

上記機能は、外線着信時に発信者番号と電話帳に登録されている電話番号が一致した場合に動作します。これらの機能を利用する場合は、電話会社との発信者情報通知契約などにより、発番号が通知されて着信する必要があります。

電話帳グループの名前を登録する

電話帳グループ（グループ 0 ～グループ 9）に、それぞれのグループの特徴を示すような名前を登録しておくと、電話帳登録時に所属するグループを選択するときなどに便利です。
共通電話帳グループの名前の登録は、システム管理電話機で行います。個別電話帳グループの名前の登録は、システム管理電話機と、一般ユーザ電話機の両方から行えます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［2：電話帳］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
1履歴（発信 / 着信）
2電話帳
3内線一覧

3 で［4：電話帳グループ］を選択して、確定を押す

≪電話帳≫
2一覧表示
3番号検索
4電話帳ｸﾞﾙｰﾌﾟ

4 で［1：共通電話帳］または［2：個別電話帳］を選択して、確定を押す

- 一般ユーザ電話機では、「電話帳指定」メニュー画面が表示されずに、直接、個別電話帳の「グループ指定」画面が表示されます。手順 5 へ進んでください。
- ［2：個別電話帳］を選択した場合は、「内線対象指定」画面が表示されます。内線を指定して、確定を押したあと手順 5 へ進んでください。

≪電話帳指定≫
1共通電話帳
2個別電話帳

5 で、名前を登録したいグループを選択して、確定を押す

電話帳グループの名前が未登録の場合は、「グループ 0」～「グループ 9」が表示されます。「グループ 0」～「グループ 9」のいずれかを選択します。

共通電話帳を選択した場合の画面：

≪共通-ｸﾞﾙｰﾌﾟ指定≫
0ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0
1ｸﾞﾙｰﾌﾟ 1
2ｸﾞﾙｰﾌﾟ 2

6 で、［1：グループ名称］を選択して、確定を押す

共通電話帳のグループ設定メニュー画面：

≪共通-ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0≫
1ｸﾞﾙｰﾌﾟ名称
2ﾘﾓｰﾄｺｰﾙﾊﾞｯｸ
3着信ﾗﾝﾌﾟ

7 で［1：漢字名称］を選択して、確定を押す

≪共通-ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0≫
1漢字名称 ＞グループ0
2ｶﾅ名称 ＞ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0
#登録

8 漢字名称を入力して、確定を押す

- 初期値が入力されているため、フラッシュを押して削除してください。
- グループ名には、全角漢字、カナ、英、数、半角カナ、英、数を入力できます（最大全角 5 文字）。
- グループ名の入力方法は、「1-4 文字入力方法」（➡ P.20）を参照してください。

≪共通-漢字名称≫ ＜全＞
本社

短縮入力ﾓｰﾄﾞ切替

グループ名（漢字名称）が登録され、グループ設定メニュー画面に戻ります。

9 で［2：カナ名称］を選択して、確定を押す

≪共通-ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0≫
1漢字名称＞本社
2ｶﾅ名称 ＞ﾎﾝｼｬ
#登録

つづく➡

10 カナ名称を確認または修正して、確定を押す

カナ名称が何も入力されていない状態から漢字名称を入力すると、カナ名称も入力された状態になります。必要に応じて修正してください（最大半角 10 文字）。

```
≪共通-ｶﾅ名称≫          ＜半＞
ﾎﾝｼｬ

短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替
```

11 で［#：登録］を選択して、確定を押す

```
≪共通-本社≫
1 本社
8 ﾎﾝｼｬ
# 登録
```

グループ名が登録され、名称設定メニュー画面に戻ります。

電話帳グループごとに着信ランプの色を切り替える（着信ランプ切替）

電話帳グループごとに外線着信時の着信ランプの色を設定することができます。
例えば、電話帳グループを得意先の番号ごとに分類しておき、電話帳グループごとに着信ランプを色分けしておけば、着信ランプの色だけでどの得意先からの電話かを区別することができます。

1 「電話帳グループの名前を登録する」（➡ P.50）の手順 1 ～ 4 を操作する

2 で、着信ランプ色を設定したいグループを選択して、確定を押す

電話帳グループの名前が未登録の場合は、「グループ 0」～「グループ 9」が表示されます。いずれかのグループを選択します。

```
≪共通-ｸﾞﾙｰﾌﾟ指定≫
0 ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0
1 ｸﾞﾙｰﾌﾟ 1
2 ｸﾞﾙｰﾌﾟ 2
```

3 で、［3：着信ランプ］を選択して、確定を押す

```
≪共通-ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0 ≫
1 ｸﾞﾙｰﾌﾟ名称
2 ﾘﾓｰﾄｺｰﾙﾊﾞｯｸ
3 着信ﾗﾝﾌﾟ
```

4 で、着信ランプの色を選択して、確定を押す

```
≪共通-着信ﾗﾝﾌﾟ≫
1 設定無し*
2 ｼｸﾞﾅﾙﾚｯﾄﾞ
3 ﾗｲﾄﾌﾞﾙｰ
```

- カーソルで選択中の表示色で着信ランプが点滅し、表示色を確認しながら設定できます。
- 選択した着信ランプの色が設定されます。

MEMO

電話帳グループごとの着信ランプは、初期設定では「設定無し」です。以下の 8 種類から選択できます。

```
≪共通-着信ﾗﾝﾌﾟ≫
1 設定無し*
2 ｼｸﾞﾅﾙﾚｯﾄﾞ
3 ﾗｲﾄﾌﾞﾙｰ
4 ﾚﾓﾝｲｴﾛｰ
5 ﾛｲﾔﾙﾌﾞﾙｰ
6 ﾊﾞｲｵﾚｯﾄ
7 ｸﾞﾗｽｸﾞﾘｰﾝ
8 ﾋﾟｰﾁﾎﾜｲﾄ
9 7 色ﾚｲﾝﾎﾞｰ
```

1-8 その他の機能

保留音 / 着信音にメロディを設定する

保留音や着信音として、メロディを流すように設定することができます。保留音・着信音としてメロディを設定するには、まずメロディ設定で保留メロディ 1 ～ 2 および着信メロディ 1 ～ 2 にお気に入りのメロディを登録しておきます。14 曲の保留メロディ、20 曲の着信メロディから、使用する曲を選択します。
この操作ができるのは、システム管理電話機のみです。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [8：音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定

3 で [4：メロディ設定] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
2ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量
3ｽﾋﾟｰｶ受話音量
4ﾒﾛﾃﾞｨ設定

4 で [3:保留メロディ 1] を選択して、確定を押す

設定する項目に応じて、[保留メロディ 2]、[着信メロディ 1]、[着信メロディ 2] を選択してください。

≪ﾒﾛﾃﾞｨ設定≫
1着信ﾒﾛﾃﾞｨ1
2着信ﾒﾛﾃﾞｨ2
3保留ﾒﾛﾃﾞｨ1

5 でメロディを選択して、確定を押す

≪保留ﾒﾛﾃﾞｨ1≫
愛の挨拶♪
さくら
夏を抱きしめて

確定

≪保留ﾒﾛﾃﾞｨ1≫
さくら
1試聴
#登録

（試聴）確定

≪ﾒﾛﾃﾞｨ試聴≫ ＜再生＞
さくら
1停止

#（登録）

（停止）確定

≪保留ﾒﾛﾃﾞｨ1≫
さくら
1試聴
#登録

（登録）#

≪ﾒﾛﾃﾞｨ設定≫
3保留ﾒﾛﾃﾞｨ1
4保留ﾒﾛﾃﾞｨ2
1着信ﾒﾛﾃﾞｨ1

選択したメロディが設定され、「メロディ設定」メニューが表示されます。

すでに保留音接続中の場合は、試聴することはできません。保留音を使用していないときに変更するようにしてください。

MEMO

試聴中にを押すと、試聴する音量を調節することができます。

つづく➡

MEMO

- 選択できる保留メロディは、次の 14 曲です。

No	保留メロディ	作曲者名
1	愛の挨拶	ELGAR EDWARD
2	さくら	森山 直太郎
3	夏を抱きしめて	春畑 道哉
4	秋桜	さだ まさし
5	Everything	松本 俊明
6	花	ORANGE RANGE
7	世界に一つだけの花	槙原 敬之
8	ニューヨーク・シティ・セレナーデ	ALLEN PETER W
9	組曲「惑星」の木星	Gustav Holst
10	カノン	Johann Pachelbel
11	ユーザメロディ 1	−
12	ユーザメロディ 2	−
13	ユーザメロディ 3	−
14	ユーザメロディ 4	−

- 現在設定中のメロディの末尾には「♪」が付きます。
- メロディ選択画面では、現在設定中のメロディが 1 行目に表示されます。

- 選択できる着信メロディは、次の 20 曲です。

No	着信メロディ	作曲者名
1	愛の挨拶	ELGAR EDWARD
2	さくら	森山 直太郎
3	夏を抱きしめて	春畑 道哉
4	秋桜	さだ まさし
5	Everything	松本 俊明
6	花	ORANGE RANGE
7	世界に一つだけの花	槙原 敬之
8	ニューヨーク・シティ・セレナーデ	ALLEN PETER W
9	組曲「惑星」の木星	Gustav Holst
10	カノン	Johann Pachelbel
11	黒電話	−
12	ステーション	−
13	ハープ	−
14	朝	−
15	ネクストステージ	−
16	琴	−
17	ユーザメロディ 1	−
18	ユーザメロディ 2	−
19	ユーザメロディ 3	−
20	ユーザメロディ 4	−

- **Web 設定**を使って、メロディファイルを転送することができます。
- システムに登録できるメロディは 4 つで、Web 設定で転送したメロディファイルをユーザメロディ 1 ～ 4 に格納することができます。それぞれに漢字名称、カナ名称を登録できます（全角 10 文字まで）。
- 登録されたメロディ名は、ユーザメニュー操作でのメロディ設定時に参照できます。
- ユーザメロディとして登録されたメロディファイルは、着信音や保留音に設定することができます。
- Web 設定の使いかたについては、「パソコンの Web ブラウザで Web 設定を利用する」（➡ P.209）および『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

保留音の設定

保留音をメロディや外部音源の音に変更することができます。

保留音種にメロディを選択したい場合には、はじめにメロディ設定で保留メロディ 1 ～ 2 にお気に入りのメロディを登録してから、保留音種選択の操作をします。14 曲の保留メロディと外部音源 1 ～ 3 から選択します。保留音を設定、変更できるのはシステム管理電話機のみです。

保留メロディ 1 の初期値は「愛の挨拶」、保留メロディ 2 の初期値は「さくら」です。保留メロディ 1 ～ 2 へのメロディの登録については、「保留音 / 着信音にメロディを設定する」(➡ P.52) を参照してください。

保留音を変更する

1 待受画面で、(確定)を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 (◆)で [8：音設定] を選択して、(確定)を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定

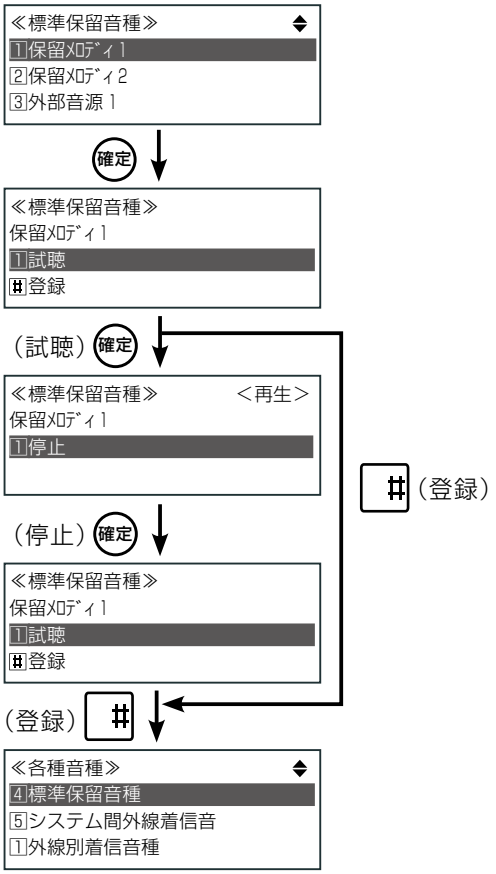
3 (◆)で [7：各種音種] を選択して、(確定)を押す

≪音設定≫
5ﾎﾞﾀﾝ押下音設定
6側音量
7各種音種

4 (◆)で [4：標準保留音種] を選択して、(確定)を押す

≪各種音種≫
2内線別着信音種
3話中着信音設定
4標準保留音種

5 (◆)で [1：保留メロディ 1] を選択して、(確定)を押し、[#：登録] を選択して、(確定)を押す



メロディ設定で選択したメロディが保留音として設定されます。

MEMO

- すでに保留音接続中の場合は、試聴することはできません。保留音を使用していないときに変更するようにしてください。
- 試聴中に(◆)を押すと、試聴する音量を調節することができます。

着信音色の選択

内線電話機ごとに、着信音（信号呼出）の音色を選択することができます。また、外線からかかってきた電話の着信音の音色を着信回線ごとに選択することができます。

着信音の音色には、トーン、メロディ、外部音源から選択することができます。

ここでは、電話帳に登録されていない電話番号からの着信に対して、着信音を選択する方法を説明します。

電話帳に登録されている電話番号からの着信音の選択については、「着信音を選択する（着番号別）」（➡ P.41）を参照してください。

工事設定

外部音源を使用したい場合は、販売店にご相談ください。

内線電話機ごとに着信音の音色を選択する（内線別着信音種）

内線電話機の着信音色は、システム管理電話機と一般ユーザ電話機の両方から設定できます。

着信音にトーンを設定する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［8：音設定］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［8：音設定］、一般ユーザ電話機では［7：音設定］を選択します。

≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定

3 で［7：各種音種］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［7：各種音種］、一般ユーザ電話機では［6：各種音種］を選択します。

≪音設定≫
5ﾎﾞﾀﾝ押下音設定
6側音量
7各種音種

4 で［2：内線別着信音種］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［2：内線別着信音種］、一般ユーザ電話機では［1：内線別着信音種］を選択します。

≪各種音種≫
1外線別着信音種
2内線別着信音種
3話中着信音設定

5 着信音色を変更する電話機の内線番号を指定して、確定を押す

内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫

↑↓：候補検索

一般ユーザ電話機では、「内線対象指定」画面が表示されないので、手順６へ進みます。

6 で［1：トーン］を選択して、確定を押す

≪内線別着信音種≫
1ﾄｰﾝ*
2ﾒﾛﾃﾞｨ
3外部音源

7 でトーンの種類を選択して、確定を押し、［#：登録］を選択して、確定を押す

≪ﾄｰﾝ選択≫
1ﾄｰﾝ 1 *
2ﾄｰﾝ 2
3ﾄｰﾝ 3

確定

≪ﾄｰﾝ選択≫
ﾄｰﾝ 1
1試聴
#登録

（試聴）確定

≪ﾄｰﾝ選択≫ ＜再生＞
ﾄｰﾝ 1
1停止

（停止）確定

≪ﾄｰﾝ選択≫
ﾄｰﾝ 1
1試聴
#登録

（登録）#

≪各種音種≫
2内線別着信音種
3話中着信音設定
4標準保留音種

- 試聴中にを押すと、試聴する音量を調節することができます。
- トーンの種類が確定され、「各種音種」メニュー画面が表示されます。

着信音にメロディを設定する

着信音にメロディを選択したい場合には、はじめにメロディ設定で着信メロディ 1 ～ 2 にお気に入りのメロディを登録してから、着信音種選択の操作をします。20 曲の着信メロディから、使用する曲を選択します。

着信メロディ 1 の初期値は「夏を抱きしめて」、着信メロディ 2 の初期値は「秋桜」です。着信メロディ 1 ～ 2 へのメロディの登録については、「保留音 / 着信音にメロディを設定する」(➡ P.52) を参照してください。

1 「着信音にトーンを設定する」(➡ P.55) の手順 1 ～ 5 を操作する

「外線別着信音種」メニュー画面が表示されます。

2 で [2：メロディ] を選択して、確定 を押す

≪外線別着信音種≫
1 トーン*
2 メロディ
3 外部音源

MEMO

手順 3 で、試聴中に を押すと、試聴する音量を調節することができます。

3 でメロディを選択して、確定 を押し、 で [#：登録] を選択して、確定 を押す

≪メロディ選択≫
1 着信メロディ 1 *
2 着信メロディ 2
3 保留メロディ 1

確定

≪メロディ選択≫
着信メロディ 1
1 試聴
登録

(登録) 確定

≪各種音種≫
1 外線別着信音種
2 内線別着信音種
3 話中着信音設定

- 試聴する場合は、「着信音にトーンを設定する」(➡ P.55) の手順 7 を操作します。
- メロディが確定され、「各種音種」メニュー画面が表示されます。

着信音に外部音源を設定する

1 「着信音にトーンを設定する」(➡ P.55) の手順 1 ～ 5 を操作する

「外線別着信音種」メニュー画面が表示されます。

2 で [3：外部音源] を選択して、確定 を押す

≪外線別着信音種≫
1 トーン*
2 メロディ
3 外部音源

工事設定

外部音源を使用したい場合は、販売店にご相談ください。

3 で外部音源の種類を選択して、確定 を押し、 で [#：登録] を選択して、確定 を押す

≪外部音源選択≫
1 外部音源 1
2 外部音源 2
3 外部音源 3

確定

≪外部音源選択≫
外部音源 1
1 試聴
登録

(登録) 確定

≪各種音種≫
1 外線別着信音種
2 内線別着信音種
3 話中着信音設定

- 試聴する場合は、「着信音にトーンを設定する」(➡ P.55) の手順 7 を操作します。
- 外部音源が確定され、「各種音種」メニュー画面が表示されます。

MEMO

試聴中に を押すと、試聴する音量を調節することができます。

外線からかかってきた電話の着信音色を変更する（外線別着信音種）

外線からかかってきた電話の着信音色を着信回線ごとに設定します。システム管理電話機からのみ操作できます。

工事設定

この操作では、着信音色は回線番号ごとに選択できますが、ダイヤルイン番号または DGL/MSA グループごとに選択することはできません。外線からのダイヤルイン着信の音色をダイヤルイン番号ごとまたは DGL/MSA グループへの着信の音色をグループごとに変えたい場合は、販売店にご相談ください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［8：音設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定

3 で［7：各種音種］を選択して、確定を押す

≪音設定≫
5ﾎﾞﾀﾝ押下音設定
6側音量
7各種音種

4 で［1：外線別着信音種］を選択して、確定を押す

≪各種音種≫
1外線別着信音種
2内線別着信音種
3話中着信音設定

5 着信音色を変更する回線の外線番号（外線 / 専用線シーケンス番号（➡ P.415））を指定して、確定を押す

外線番号を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示することもできます。

≪外線 No 指定≫
↑ ↓：候補検索

工事設定

外線シーケンス番号については、販売店にお問い合わせください。

6 で［1：トーン］、［2：メロディ］、［3：外部音源］のいずれかを選択して、確定を押す

≪外線別着信音種≫
1ﾄｰﾝ*
2ﾒﾛﾃﾞｨ
3外部音源

以降の操作は、「内線電話機ごとに着信音の音色を選択する（内線別着信音種）」（➡ P.55）を参照してください。

着信ランプ表示色の設定（着信種別や各種状態別）

着信種別や時刻アラーム、録音状態等により着信ランプの色を変えることができます。この操作ができるのは、システム管理電話機のみです。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で、[9：表示設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定
9表示設定

3 で、[1：着信ランプ] を選択して、確定を押す

≪表示設定≫
1着信ﾗﾝﾌﾟ
2履歴表示設定
3表示形式設定

4 で、着信種別などを選択して、確定を押す

[1：外線一般系着信] [2：外線個別着信] [3：専用線着信] [4：内線着信] [5：ドアホン着信] [6：録音表示] [7：時刻アラーム] [8：FAX 着信] [9：不応答着信] のいずれかから選択します。

≪着信ﾗﾝﾌﾟ≫
1外線一般系着信
2外線個別着信
3専用線着信

MEMO

着信ランプは、以下の 9 種類の着信種別や状態などについて設定できます。それぞれのお買い上げ時の表示色の設定は次のとおりです。

No	着信の種類や状態	表示色
1	外線一般系着信	シグナルレッド
2	外線個別着信	ライトブルー
3	専用線着信	バイオレット
4	内線着信	ライトブルー
5	ドアホン着信	レモンイエロー
6	録音表示	ロイヤルブルー
7	時刻アラーム	ピーチホワイト
8	FAX 着信	グラスグリーン
9	不応答着信	7 色レインボー

5 で、着信ランプ表示色を選択して、確定を押す

≪外線一般系着信≫
1ｼｸﾞﾅﾙﾚｯﾄﾞ＊
2ﾚﾓﾝｲｴﾛｰ
3ｸﾞﾗｽｸﾞﾘｰﾝ

着信ランプの表示色が登録され、「着信ランプ」メニュー画面が表示されます。

MEMO

- 着信ランプの色は、次の 8 種類から選択できます。
  1：シグナルレッド
  2：ライトブルー
  3：レモンイエロー
  4：ロイヤルブルー
  5：バイオレット
  6：グラスグリーン
  7：ピーチホワイト
  8：7 色レインボー
- あらかじめ電話帳に割り当てたグループごとに外線着信時の着信ランプの色を変えることもできます。設定方法については「電話帳グループごとに着信ランプの色を切り替える（着信ランプ切替）」（➡ P.51）を参照してください。

第 2 章　基本的な使いかた

2-1 外線にかける ……60
2-2 内線にかける ……67
2-3 外線からの電話を受ける ……70
2-4 内線からの電話を受ける ……72
2-5 通話を保留する ……74
2-6 通話を転送する（手動転送） ……77

2-1 外線にかける

電話番号をダイヤルしてかける

外線ボタンを使ってかける（任意外線発信）

ランプが消灯している（外線）を押し、次に電話番号をダイヤルします。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 ランプが消灯している（外線）を押す

- 外線とつながり、外線発信音に変わります。
- （外線）ランプは点灯（緑）し、他の電話機の（外線）ランプは、点灯（赤）します。

3 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話できます。

4 通話が終了したら、受話器を置く

（外線）ランプは、消灯します。

MEMO

- （外線）は初期設定で に登録されています。
- 方路を指定してかけることもできます（第３章の「指定した方路のうち空いている回線を自動捕捉して発信する（方路選局発信）」（➡ P.83）を参照）。
- ISDN/VoIP 外線の場合は、相手の電話番号をダイヤルしたあと、 # を押してすぐに発信できます。
- VoIP アダプタをアナログ回線で使用している場合も、相手の電話番号をダイヤルしたあと、 # を押してすぐに発信できます。
- 相手に自分の電話番号を通知したくないとき、相手の電話番号をダイヤルする前に、184 を押すことで、非通知発信になります。発番号非通知の詳細については、第３章の「外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える」（➡ P.86）を参照してください。

工事設定

（フラッシュ）を押して、外線呼出をキャンセルできるように設定することができます。販売店にご相談ください。

発信ボタンを使ってかける（自動選局発信）

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 （発信）を押す

外線とつながり、外線発信音に変わります。

3 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話できます。

4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

（発信）の代わりに、自動選局特番（例えば 0）を押しても外線とつながります。

受話器を上げてダイヤルするだけでかける（オフフック自動外線捕捉）

1 受話器を上げる（オフフック）

外線とつながり、外線発信音に変わります。

2 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話できます。

3 通話が終了したら、受話器を置く（オンフック）

工事設定

この機能を使用するには、あらかじめオフフック自動ダイヤル番号に自動選局特番（例えば 0）を登録しておく必要があります。販売店にご相談ください。

最後にかけた相手に再度かける(リダイヤル)

最後にかけた電話番号は、次に電話をかけるまで(リダイヤル)に記憶されています。(リダイヤル)を押すことで最後にかけた電話番号に再度かけることができます。また、最後にかけた電話番号を含む 20 件までの電話番号(発信履歴)を呼び出してかけることもできます(➡ P.66)。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 (リダイヤル)を押す

- 自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。
- ディスプレイ2段目に電話番号が表示されます。
- (リダイヤル)を押す前に(外線)を押すと、外線を指定して発信することができます。
- 相手が応答すると、通話ができます。

工事設定

(リダイヤル)、または(短縮/詳細)→[#]を押したあと、即時発信ではなく発信先を電話機のディスプレイに表示し、相手の電話番号を確認してから発信するように設定することができます。販売店にご相談ください。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- (リダイヤル)の代わりに(短縮/詳細)→[#]でも発信できます。
- この機能を使う前に、リダイヤル機能をあらかじめに登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。
- (外線)の代わりに(発信)でも外線とつながります。
- 最後にかけた電話番号を削除する場合には、発信履歴の削除機能を使います(➡ P.66)。

電話番号を確認してかける(プリセットダイヤル)

相手の電話番号をダイヤルし、次に発信操作をします。

1 電話番号をダイヤルする

- 入力した番号を間違えた場合は、(フラッシュ)を押して削除してから修正してください。
- (機能)でポーズを入力することができます。

2 (発信)を押すか、ランプが消灯している(外線)を押す

- ダイヤルした電話番号に電話をかけます。
- 相手の応答する声がスピーカから聞こえます。
- 通話できる状態です。

3 受話器を上げる

通話します。

4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

VoIP アダプタをアナログ回線で使用している場合、相手の電話番号の後ろに[#]をつけてダイヤルすると、すぐに発信できます。

工事設定

VoIP アダプタをアナログ回線で使用している場合、設定により、[#]を押さなくてもすぐに発信できるようにすることができます。販売店にご相談ください。

オートダイヤル機能を使ってかける(ワンタッチダイヤル)

相手先の電話番号(外線 / 内線 / 専用線)をあらかじめ に登録しておくことで、 (ワンタッチボタン)または (電話帳ワンタッチ)を押すだけで相手に電話をかけられます。

1 **受話器を上げる**

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 **(ワンタッチボタン)または (電話帳ワンタッチ)を押す**

- 電話番号がダイヤルされます。
- 相手が応答すると、通話できます。

3 **通話が終了したら、受話器を置く**

MEMO

- (ワンタッチボタン)、 (電話帳ワンタッチ)には、あらかじめ電話番号を登録しておきます。
- 登録方法については、第 1 章の「オートダイヤルボタンに電話番号を登録する(ワンタッチ割付)」(➡ P.31)、または「オートダイヤルボタンに電話帳を登録する(電話帳ワンタッチ割付)」(➡ P.30)を参照してください。
- 第 3 章の「内線登録したオートダイヤルボタンでかける(内線ワンタッチコール)」(➡ P.89)も参照してください。

電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）

電話帳に電話番号や名前を登録しておくことで、電話帳から電話をかけることができます。
以下の 2 種類のかけかたがあります。それぞれ 2 つの方法があります。

- 「電話帳メモリ番号を指定してかける」（➡ P.63）
- 「電話帳に登録されている名前を検索してかける」（➡ P.65）

MEMO

電話帳には、共通電話帳と個別電話帳があります。電話帳への登録については、「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

電話帳メモリ番号を指定してかける

短縮ボタンですばやくメモリ番号を指定する

電話帳のメモリ番号を指定して、登録されている電話番号から電話をかけます。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 （短縮/詳細）を押す

電話機のディスプレイに次のような画面が表示されます。

```
≪共通-ﾒﾓﾘ No 発信≫
----

[*]個別切替 [#]ﾘﾀﾞｲﾔﾙ
```

MEMO

上の画面で [*] を押すと、共通電話帳と個別電話帳を切り替えることができます。また、[#] を押すと、リダイヤル発信（➡ P.61）が可能です。

3 電話帳メモリ番号（2 ～ 4 桁）を入力する

例えば、0002 のように入力します。

（メモリ番号 0002 を指定するときの入力例）

```
≪共通-ﾒﾓﾘ No 発信≫
0002

[*]個別切替 [#]ﾘﾀﾞｲﾔﾙ
```

4 かけたい相手が選択されていることを確認または変更して、（確定）を押す

（短縮/詳細）を押すたびに、一覧表示と詳細表示を切り替えられます。詳細表示で（◎）を押すと、電話番号 2、電話番号 3（電話番号が複数登録されている場合）を表示できます。

```
≪共通電話帳一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
0002: 支社
```

（一覧表示）

↕ （短縮/詳細）

```
共通 :0002
01234567
支社
ｼｼｬ
```

（詳細表示）

5 （◎）で［1：発信］を選択して、（確定）を押す

```
≪共通-電話帳≫          No:0002
支社
[1]発信
[2]184 発信
```

- 電話番号が複数（最大 3 件）登録されている場合は、（確定）を押したあと、電話帳番号選択メニューが表示されます。
- 複数登録されていない場合は、（確定）を押したあと、「外線発信」画面が表示されダイヤルをはじめます。

6 （番号選択メニューが表示された場合）（◎）で電話番号を選択して、（確定）を押す

```
≪共通- Tel No ≫        No:0002
支社
[1]0123456789
[2]9876543210
```

↓ （確定）

```
外線発信
          0123456789
支社
```

- 画面の 2 段目に電話番号、3 段目に相手の名前が表示されます。
- 「外線発信」画面が表示されると同時に、外線とつながりダイヤルをはじめます。
- 相手が応答すると、通話できます。

7 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 手順 4 で、（確定）の代わりに、（発 信）を押すと、手順 5 を省略して、ダイヤルをはじめます。
- 発信時に、自分の電話番号を相手に知らせないか（発番号非通知）知らせるか（発番号通知）を選ぶことができます。第 3 章の「外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える」（➡ P.86）を参照してください。

サービスメニューを使ってメモリ番号を指定する

サービスメニューを使用して、電話帳メモリ番号を検索します。サービスメニューについては「1-3 サービスメニューの使いかた」(➡ P.17)を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [2：電話帳] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
1履歴(発信 / 着信)
2電話帳
3内線一覧

3 で [3：番号検索] を選択して、確定を押す

≪電話帳≫
1新規登録
2一覧表示
3番号検索

4 で [1：共通電話帳] または [2：個別電話帳] を選択して、確定を押す

[2：個別電話帳] を選択した場合は、「内線対象指定」画面が表示されます。内線を指定して、確定を押したあと手順 5 へ進んでください。

≪電話帳指定≫
1共通電話帳
2個別電話帳

5 で [1：メモリ No 検索] を選択して、確定を押す

≪共通-電話帳検索≫
1ﾒﾓﾘ No 検索
2ｶﾅ検索

6 検索するメモリ番号を入力して、確定を押す

- 例えば、0002 のように入力します。
- メモリ番号をダイヤルする代わりに で、メモリ番号を順番に表示することもできます。

(メモリ番号 0002 を指定するときの入力例)

≪共通-ﾒﾓﾘ No 検索≫
0002

#:ﾘﾀﾞｲﾔﾙ

7 かけたい相手が選択されていることを確認して、確定を押す

短縮/詳細 を押すたびに、一覧表示と詳細表示を切り替えられます。詳細表示で を押すと、電話番号 2、電話番号 3(電話番号が複数登録されている場合)を表示できます。

≪共通電話帳一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
0002: 支社

(一覧表示)

短縮/詳細

共通 :0002
01234567
支社
ｼｼｬ

(詳細表示)

確定の代わりに、発信 を押すと、手順 8 の操作を省略して、ダイヤルをはじめます。

8 で [1：発信] を選択して、確定を押す

≪共通-電話帳≫ No:0002
支社
1発信
2184 発信

- 電話番号が複数(最大 3 件)登録されている場合は、確定を押したあと、電話帳番号選択メニューが表示されます。
- 複数登録されていない場合は、確定を押したあと、「外線発信」画面が表示されダイヤルをはじめます。

9 (番号選択メニューが表示された場合) で電話番号を選択して、確定を押す

≪共通- Tel No ≫ No:0002
支社
1 0123456789
2 9876543210

確定

外線発信
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
支社

- 画面の 2 段目に電話番号、3 段目に相手の名前が表示されます。
- 「外線発信」画面が表示されると同時に、外線とつながりダイヤルをはじめます。

10 受話器を上げる

相手が応答すると、通話できます。

11 通話が終了したら、受話器を置く

電話帳に登録されている名前を検索してかける

検索画面をすばやく表示して検索する（共通電話帳）

電話帳に登録されている名前をカナ検索して電話をかけます。

1 待受画面で、を押す

電話機のディスプレイに電話帳のカナ検索画面が表示されます。

```
≪共通-ｶﾅ検索≫          ＜半＞
◁ ＞

短縮：入力ﾓｰﾄﾞ切替
```

2 検索する名称の先頭から１～５文字を入力して、確定を押す

例えば「スズキイチロウ」を「スズキ」でカナ検索する場合

```
≪共通-ｶﾅ検索≫          ＜半＞
＜ｽｽﾞｷ＞

短縮：入力ﾓｰﾄﾞ切替
```

3 かけたい相手が選択されていることを確認して、発信を押す

```
≪共通電話帳一覧≫
0010: 支社２
0011: 鈴木一郎
0012: 支社３
```

- 外線とつながりダイヤルをはじめます。
- 登録されている番号が複数の場合、一番若番に登録されている電話番号がダイヤルされます。

4 受話器を上げる

相手が応答すると、通話できます。

5 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- カナ入力の方法は「1-4 文字入力方法」（➡ P.20）を参照してください。
- 手順３で発信の代わりに確定を押したあと、「サービスメニューを使ってメモリ番号を指定する」（➡ P.64）の手順８～10と同じ操作で、電話をかけることができます。

サービスメニューを使って検索する（共通電話帳 / 個別電話帳）

サービスメニューを使用して、電話帳に登録されている名前をカナ検索します。サービスメニューについては「1-3 サービスメニューの使いかた」（➡ P.17）を参照してください。

1 サービスメニューで［電話帳検索］画面を表示する

「サービスメニューを使ってメモリ番号を指定する」（➡ P.64）の手順１～４を操作します。

2 で［2：カナ検索］を選択して、確定を押す

```
≪共通-電話帳検索≫
1ﾒﾓﾘ No 検索
2ｶﾅ検索
```

「カナ検索」画面が表示されます。

```
≪共通-ｶﾅ検索≫          ＜半＞
◁ ＞

短縮：入力ﾓｰﾄﾞ切替
```

3 名前を検索して、電話をかける

上記の「検索画面をすばやく表示して検索する（共通電話帳）」の手順２～３を操作します。

4 受話器を上げる

相手が応答すると、通話できます。

5 通話が終了したら、受話器を置く

発信履歴 / 着信履歴から電話する（履歴発信）

電話をかけた相手やかかってきた相手の電話番号を日時とともに発信履歴 / 着信履歴として記録することができます。記録した発信履歴や着信履歴の電話番号で、電話をかけることができます。
ただし、着信時は利用する回線で、電話会社が提供する番号表示サービスの契約が必要です。

1 待受画面で、着信履歴の場合は◀を、発信履歴の場合は▶を押す

履歴が記録されている場合は、電話機のディスプレイに一覧表示されます（内線と外線の履歴は混在して表示されます）。

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
0002:3123456780

2 ◀▶で、かけたい相手の履歴を選択して、確定を押す

短縮/詳細 を押すたびに、一覧表示と詳細表示を切り替えられます。

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
0002:3123456780
（一覧表示）

↕ 短縮/詳細

0000:12345670
本社
１０月２４日(木) 午前１０：１５
（詳細表示）

3 ▲▼で［1：発信］を選択して、確定を押す

≪発信履歴≫ No:0000
本社
1発信
2184 発信

↓ 確定

外線発信
１２３４５６７０
本社

この画面が表示されると同時に、自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。

4 受話器を上げる

相手が応答すると通話ができます。

5 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 着信履歴には、共通着信履歴と個別着信履歴の 2 種類があります。
- 手順２で、確定の代わりに 発 信 または（外線）を押すと、手順 3 の操作を行わずにダイヤルすることができます。
- 手順 3 で［2：184 発信］または［3：186 発信］を選択すると、発信時に、自分の電話番号を相手に知らせないか（発番号非通知）知らせるか（発番号通知）を選ぶことができます。詳細は第 3 章の「外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える」（➡ P.86）を参照してください。

履歴を削除するには

1 待受画面で、着信履歴の場合は◀を、発信履歴の場合は▶を押す

電話機のディスプレイに一覧表示されます（内線と外線の履歴は混在して表示されます）。

2 ▲▼で、削除したい履歴を選択して、確定を押す

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 内線 田中
0002:0312345678

3 ▲▼で［#：一件削除］を選択して、確定を押す

≪発信履歴≫ No:0000
本社
#一件削除
*全件削除

選択した履歴が削除されます。

MEMO

- 履歴をすべて削除する場合は、手順 3 で、［＊：全件削除］を選択します。
- 一般ユーザ電話機では、共通着信履歴を削除することはできません。

2-2 内線にかける

内線番号をダイヤルしてかける（内線個別呼出（音声 / 信号））

ここでは、受話器を上げたあと、内線番号をダイヤルして内線にかける、一般的な操作について説明します。

内線にかけるときは、着信音を鳴らして相手を呼び出す（信号呼出）以外に、音声で相手を呼び出す（音声呼出）ことができます。倉庫内の内線電話や、1 つの電話を数人で共有している場合などに、音声で呼び出すことにより、誰にかかってきた電話かがすぐにわかり便利です。

MEMO

- 内線電話をダイヤルしたときに、信号呼出になるか、音声呼出になるかは、初期設定によって異なります。音声呼出 / 信号呼出の初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。

  ただし、呼出先がアナログ電話機、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）、SIP 電話機の場合は、音声で呼び出すことはできません。
- オフフック自動外線捕捉またはオフフック自動ダイヤルが設定されているときは、以下の操作で受話器を上げる前に（スピーカ）を押してください。

工事設定

- オフフック自動外線捕捉またはオフフック自動ダイヤルを使用するには工事設定が必要です。販売店にご相談ください。
- 信号呼出 / 音声呼出の初期設定の値を電話機ごとに切り替えることができます。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 相手の内線番号をダイヤルする

受話器から相手を呼び出す音が聞こえます。

3 （初期設定以外の方法で呼び出したい場合）[＊]を押す

- 例えば、初期設定が信号呼出のときに音声呼出をしたい場合や、逆に初期設定が音声呼出のときに信号呼出をしたい場合は、この操作で切り替えます。
- 音声呼出と信号呼出は、[＊]を押すたびに交互に切り替えることができます（アナログ電話機と SIP 電話機では切り替えられません）。

4 （音声呼出の場合）受話器に向かって呼びかける

- 受話器に向かって、音声で相手を呼び出します。例えば「田中さん、田中さん」と呼ぶと、相手の電話機のスピーカから音声が流れます。
- 信号呼出の場合は、相手の電話機のスピーカから着信音が流れます。

5 相手と通話する

相手が応答すると、通話ができます。

6 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 内線発信時や通話中の電話機のディスプレイ表示については、第 1 章の「ディスプレイ表示」（➡ P.4）を参照してください。
- 内線発信でダイヤルを操作しないで、一定時間経過するとハウラ音が鳴り、着信ランプが 7 色に点灯します。画面には「受話器はずれ」と表示されます（マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は除く）。

電話番号を確認してかける(内線プリセット発信)

相手の内線番号をダイヤルしてから、発信操作をします。

1 **相手の内線番号をダイヤルする**

入力した番号を間違えた場合は(フラッシュ)を押して削除します。

2 **(スピーカ)を押す**

- ダイヤルした内線番号に電話がかかります。
- 相手の応答する声がスピーカから聞こえます。
- 通話できる状態です。

3 **受話器を上げる**

通話します。

4 **通話が終了したら、受話器を置く**

最後にかけた相手に再度かける(内線リダイヤル)

最後にかけた電話番号が内線番号だった場合は、(リダイヤル)を押すことで最後にかけた内線番号に再度かけることができます。

1 **受話器を上げる**

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 **(リダイヤル)を押す**

- 自動的にダイヤルをはじめます。
- 相手が応答すると、通話ができます。

3 **通話が終了したら、受話器を置く**

MEMO

- この機能を使う前に、リダイヤル機能をあらかじめに登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。
- 内線リダイヤルは、内線呼出中や内線通話中、外線通話中などの状態からは行えません。
- (リダイヤル)の代わりに(短縮/詳細)+[#]でも発信できます。
- (リダイヤル)の代わりに、リダイヤル特番を押しても同じ操作が行えます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。
- 最後にかけた電話番号を削除する場合には、発信履歴の削除機能を使います(➡ P.69)。

発信履歴 / 着信履歴から電話する（内線発着信履歴）

内線電話をかけた相手やかかってきた相手の内線番号を日時とともに発信履歴 / 着信履歴として記録することができます。記録した発信履歴や着信履歴の内線番号で、電話をかけることができます。

1 待受画面で、着信履歴の場合は◀を、発信履歴の場合は▶を押す

履歴が記録されている場合は、電話機のディスプレイに一覧表示されます（内線と外線の履歴は混在して表示されます）。

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 内線 田中
0002:0312345678

2 ▲▼で、かけたい相手の履歴を選択して、確定を押す

短縮/詳細 を押すたびに、一覧表示と詳細表示を切り替えられます。

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 内線 田中
0002:0312345678

（一覧表示）

↕ 短縮/詳細

0001: 内線 11
田中
１０月２４日(木)　午後１０：１５

（詳細表示）

3 ◀▶で［1：発信］を選択して、確定を押す

≪発信履歴≫　No:0001
田中
1発信
2184 発信

↓ 確定

内線発信
　１０→［１１］
田中

この画面が表示されると同時に、自動的にダイヤルをはじめます。

4 受話器を上げる

相手が応答すると通話ができます。

5 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 手順 2 で、確定の代わりに 発 信 を押すと、手順 3 の操作を行わずにダイヤルすることができます。
- 内線発信で 184 発信、186 発信を選択するとエラーになります。
- 外部スピーカ、一斉放送、ドアホンなどへの発信履歴も記録されます。これらの履歴からそれぞれを呼び出すことができます。

履歴を削除するには

1 待受画面で、着信履歴の場合は◀を、発信履歴の場合は▶を押す

電話機のディスプレイに一覧表示されます（内線と外線の履歴は混在して表示されます）。

2 ▲▼で、削除したい履歴を選択して、確定を押す

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 内線 田中
0002:0312345678

3 ◀▶で［#：一件削除］を選択して、確定を押す

≪発信履歴≫　No:0001
田中
#一件削除
*全件削除

選択した履歴が削除されます。

MEMO

- 履歴をすべて削除する場合は、手順 3 で、［＊：全件削除］を選択します。
- 一般ユーザ電話機では、共通着信履歴を削除することはできません。

2-3 外線からの電話を受ける

外線ボタンを押して受ける（任意外線着信応答）

かかってきた外線が割り当てられている（外線）を押すだけで、外線着信に応答することができます。

1 着信音が鳴る

- 外線着信音が鳴ります。
- かかってきた外線の（外線）ランプは点滅（赤）します。

2 点滅している（外線）を押して、受話器を上げる

- 通話ができる状態になります。
- （外線）ランプは点灯（緑）に変わります。

3 通話が終了したら、受話器を置く

（外線）ランプは、消灯します。

MEMO

- （外線）は初期設定で に登録されています。
- 電話番号ごとに着信音を指定することができます（識別着信）。電話番号はあらかじめ共通電話帳 / 個別電話帳に登録しておきます。
  また、電話帳グループごとに着信時の着信ランプ色を指定することができます。
  指定方法については、第 1 章の「電話帳グループごとに着信ランプの色を切り替える（着信ランプ切替）」（➡ P.51）を参照してください。

受話器を上げるだけで受ける（オフフック外線自動応答）

受話器を上げるだけで外線着信に応答することができます。

1 着信音が鳴る

- 外線着信音が鳴ります。
- かかってきた外線の（外線）ランプは点滅（赤）します。

2 受話器を上げる

- 通話ができる状態になります。
- （外線）ランプは点灯（緑）に変わります。

3 通話が終了したら、受話器を置く

（外線）ランプは、消灯します。

工事設定

着信音が鳴らない設定になっている電話機（非鳴動電話機）で（（外線）ランプは点滅）、受話器を上げるだけで電話を受けられる（オフフック外線自動応答）ようにするには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

DIL/DID 着信に応答する

以下の機能を利用すると、特定の内線電話機に外線電話を直接着信させるように設定することができます。

No.	機能名	説明
1	外線別個別着信（DIL）	外線着信時の呼出先内線を指定することで、内線に個別着信させる方法です。
2	着番号 DID	外線着信時に受信した着番号（ダイヤルイン番号）によって、着信先の内線電話を指定する方法です。この機能を利用する場合は、契約回線に対して、着番号が通知されて着信する必要があります。
3	モデムダイヤルイン	アナログ外線の着信時に受信したダイヤルイン番号によって、着信先を指定することができます。この機能を利用する場合は、アナログ外線のダイヤルイン契約が必要です。
4	付加番号 DID	指定外線の着信に自動応答し、外線からの PB 信号（内線番号）を受信することにより内線に直接着信させます。

このような電話がかかってきたときでも、以下のような通常の操作で電話を受けることができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 着信音が鳴る

- 外線着信音が鳴ります。
- 電話機のディスプレイの上段に「個別着信」と表示されます。

```
個別着信          外線 001
        0123456789
```

かかってきた外線の（外線）ランプは、点滅（赤）します。

2 受話器を上げる

通話ができる状態になります。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

手順 2 で、（スピーカ）、（外線）、（応答）のいずれかを押しても応答することができます。

2-4 内線からの電話を受ける

受話器を上げるだけで受ける

自分にかかってきた電話は、受話器を上げるだけで応答することができます。

1 着信音が鳴る

内線着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる

通話ができる状態になります。

3 通話が終了したら、受話器を置く

音声呼出に応答する

スピーカから音声で呼び出しを受けた場合に、受話器を上げるだけで電話を受けることができます。

1 音声呼出が聞こえる

スピーカから呼びかけられます。

2 受話器を上げる

通話ができる状態になります。

3 通話が終了したら、受話器を置く

受話器を置いたままで音声呼出に応答する（内線ハンズフリー応答）

スピーカから音声で呼び出しを受けた場合に、応答操作を行わずにマイクとスピーカで通話することができます。この機能を利用するには、あらかじめマイクをオン状態にしておきます。

1 マイクをオン状態にしておく

- 受話器を置いたままで、（機能）＋［ア1］を押します。
- 電話機のディスプレイには、マイクがピクト表示されます。
- （マイク）ランプが点灯（赤）します。

2 音声呼出が聞こえる

スピーカから呼びかけられます。

3 マイクに向かって話す

MEMO

- 再度、（機能）＋［ア1］を押すと、マイクはオフ状態になります。
- （機能）＋［ア1］の代わりに、（マイク）でもマイクのオン / オフを切り替えられます。（マイク）はあらかじめ（　）に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- ハンズフリーでの通話中に受話器を上げると、通常の受話器による通話になります。受話器による通話からマイクによる通話には戻れません。
- 内線グループ音声呼出のときは、ハンズフリーで応答することはできません。

同じグループ内の別の電話を受ける(代理応答(コールピックアップ))

同じグループ内の別の電話機にかかってきた着信を受けることができます。

1 別の電話機の着信音が鳴る

別の内線電話機から着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

3 (代理応答)を押す

- (代理応答)の代わりに、代理応答特番を押しても電話を受けられます。
- 通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- (代理応答)はあらかじめに登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。

工事設定

ここでのグループは「代理応答グループ」です。グループ設定については販売店にご相談ください。

他のグループの電話を受ける(グループ指定代理応答)

他のグループの電話機にかかってきた着信を受けることができます。

1 他のグループの電話機で着信音が鳴る

他のグループの内線電話機から着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

3 (指定代理応答)を押す

(指定代理応答)の代わりに、グループ指定代理応答特番を押すこともできます。

4 着信中のグループ番号をダイヤルする

- グループ番号は、00 ～ 99 の番号です。
- ＊を押すと全グループ、#を押すと同じグループへの着信を代理応答することができます。

5 確定を押す

通話ができる状態になります。

6 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- (指定代理応答)はあらかじめに登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。

工事設定

この機能を利用するには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

また、ここでのグループは「代理応答グループ」です。代理応答グループは最大 100 グループ(00 ～ 99)です。全内線の所属グループ番号は初期設定では 00 です。グループ設定については販売店にご相談ください。

2-5 通話を保留する

通話相手に一時お待ちいただく場合は、保留機能を使用します。保留には、以下のような種類があります。状況に応じて使い分けてください。

保留の種類	保留操作で使用するボタン	再応答(保留解除)で使用するボタン	説明
システム保留	保留	(外線) (専用線) (MSA)	システム内の他の電話機からでも再応答(保留解除)できるように保留します(外線通話のみ)。 保留操作は、保留で行います。 (外線)、(専用線)、(MSA)が割り付けられている電話機であれば、システム内のすべての電話機で応答可能です。
パーク保留	保留 (パーク)	(パーク)	パークグループ内の他の電話機からでも再応答(保留解除)できるように保留します。 保留または(パーク)を押すことで、内線外線通話をパーク保留状態にすることができます。 同じグループ内で同じパーク番号のボタンを割り当てることによってグループ内共有の保留として使用できます。同じパーク番号の(パーク)が割り付けられている電話機であれば、パークグループ内のすべての電話機で応答可能です。
自己保留	(自己保留) 保留	(自己保留)	保留したのと同じ電話機からのみ再応答(保留解除)できるように保留します。 (自己保留)または保留を押すことで、内線外線通話を自己保留状態にすることができます。 自分の電話機でのみ、再応答ができます。
一時保留	保留	―	(自己保留)を割り付けられていない電話機でも、保留を押すことにより、通話を自己保留(一時保留)状態にすることができます。 一時保留の場合は、内線捕捉中メニューから「自己保留再応答」を選択、またはいったん受話器を置いたあとの呼び返しに応答することで再応答(保留解除)することができます。

他の電話機で再応答できるように保留する(システム保留 / パーク保留)

システム内やパークグループ内の他の電話機で保留の再応答ができるように、通話を保留することができます。

保留を押すと、(外線)、(専用線)、(MSA)が割り付けられている電話機のあるシステムでは、システム保留になります。システム保留にならない場合は、パーク保留となり、(パーク)がない場合は自己保留になります。
ただし、システム保留できるのは外線通話のみです。

工事設定

- この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
- (パーク)はあらかじめに登録しておきます。登録方法は販売店にご相談ください。

MEMO

同じ番号の(パーク)がに割り付けられた電話機どうしでパーク保留を共有できます。課内、グループなど共有したいグループ単位で同一のパーク番号を割り付けることで効果的に運用できます。

通話を保留する

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 保留を押す

- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- (外線)ランプ、(パーク)ランプ、(自己保留)ランプのいずれかが点滅します。

3 受話器を置く

保留したのと同じ電話機で再応答する

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 点滅(緑)している(外線)、(パーク)、(自己保留)のいずれかを押す

- 通話ができる状態になります。
- (外線)を押した場合、ランプは点灯(緑)に変わります。
- (パーク)、(自己保留)を押した場合、ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

点灯していたランプは消灯します。

MEMO

- 保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、(外線)ランプを間隙速点滅(緑)にして知らせます(長時間保留警報)。
- 最終保留応答特番を押すことで再応答することもできます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。

他の電話機で保留を再応答する

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 点滅(赤)している(外線)または(パーク)を押す

- 通話ができる状態になります。
- (外線)を押した場合、ランプは点灯(緑)に変わります。
- (パーク)を押した場合、ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

点灯していたランプは消灯します。

他の電話機では再応答できないように保留する(自己保留)

保留した電話機以外では、保留の再応答ができないようにすることができます。

通話を保留する

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 (自己保留)を押す

- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- (自己保留)ランプは点滅(緑)します。

3 受話器を置く

MEMO

- (自己保留)は初期設定で に登録されています。
- 保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、(自己保留)ランプを間隙速点滅(緑)にして知らせます。

保留したのと同じ電話機で再応答する

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 点滅(緑)している (自己保留)を押す

- 通話ができる状態に戻ります。
- (自己保留)ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

最終保留応答特番を押すことで再応答することもできます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡P.418)を参照してください。

2-6 通話を転送する（手動転送）

転送先に呼びかけて転送する（口頭転送）

外線を保留してから転送先に呼びかけます。転送先は内線電話のみです。

転送する側

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 保留を押す

- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- 保留した（外線）ランプは点滅（緑）します。

3 転送先に呼びかける

例えば、「田中さん、5番にお電話です。」と呼びかけます。

4 受話器を置く

MEMO

- 転送先が一定時間内に応答しない場合は、スピーカから警告音が鳴ります。この場合は、ランプが点滅（緑）している（外線）を押すと、保留が解除され相手との通話に戻ることができます。
- 手順2で、保留の代わりに（パーク）を押しても転送することができます。その場合は、口頭で転送先にパーク番号を伝えてください。
- 内線通話はシステム保留できません。内線通話を口頭転送する場合は、パーク保留を利用してください（保留の代わりに（パーク）を押して転送）。

転送される側

1 呼びかけられた人が受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 点滅している（外線）を押す

- この場合は、呼ばれた田中さんは（外線）を押します。
- 通話ができる状態になります。
- （外線）ランプは点灯（緑）に変わります。

3 通話が終了したら、受話器を置く

（外線）ランプは消灯します。

MEMO

- 呼びかけられた人の電話機が、受話器を上げると自動的に登録された番号にダイヤルする設定（オフフック自動ダイヤル）をしている場合は、（外線）を押したあと、受話器を上げます。
- 転送する側が、（パーク）を押して転送した場合は、手順2で、（外線）の代わりに該当するパーク番号の（パーク）を押します。

転送先と通話してから転送する（ダイヤル転送）

転送先の電話番号をダイヤルして、相手が応答してから転送します。

転送する側

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 保留 を押す

- 通話が保留されます。
- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- （外線）ランプは点滅（緑）に変わります。

3 転送先の電話番号をダイヤルする

- 転送先が外線の場合は、（外線）を押したあと、電話番号をダイヤルします。
- 転送先が応答します。

4 転送先に用件を伝える

例えば、「・・・から電話が入っています」と伝えます。

5 フラッシュ を押す

- 通話が転送されます。
- 転送した外線の（外線）ランプは点灯（赤）に変わります。

6 受話器を置く

MEMO

- 転送先が電話に出なかったときは、（外線）、（パーク）、（自己保留）、（MSA）のいずれか点滅（緑）しているボタンを押すと、再度元の相手と通話することもできます。点滅しているボタンがない場合（一時保留の場合）は、保留 を押して、再度元の相手と通話できます。
- 設定によっては、手順 5 で受話器を置いて転送することもできます。初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。

転送される側

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる

転送する側と通話します。

転送する側が フラッシュ を押すと、自動的に転送されます。

3 転送された相手と通話する

4 通話が終了したら、受話器を置く

転送先と通話しないで転送する（強制転送）

通話を保留して、転送先に転送することを伝えずに転送します。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

転送する側

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 保留を押す

- 通話が保留されます。
- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 転送先の内線番号をダイヤルする

外線には転送できません。

4 転送先が応答する前にフラッシュを押す

- 通話が自動的に転送されます。
- （外線）ランプは中点滅（赤）に変わります（元の相手が外線の場合）。
- （自己保留）ランプは中点滅（赤）に変わります（元の相手が内線の場合）。

5 受話器を置く

MEMO

- 受話器を置いたあと、転送した相手が応答すると、（外線）ランプは中点滅（赤）から点灯（赤）に変わります。（自己保留）ランプは消灯します。
- 転送操作のあと、一定時間待っても転送先が電話に出なかったときは、転送元に呼び返しがあり、着信音が鳴ります（強制転送警報）。（外線）ランプは中点滅（緑）に変わり、（自己保留）ランプも中点滅（緑）に変わります。

  受話器を上げると、元の相手と通話できます。呼び返しまでの秒数は設定により異なります。
- 呼び返しを待たずに、（外線）、（パーク）、（自己保留）、（MSA）のいずれか点滅しているボタンを押すと、再度元の相手と通話することもできます。点滅しているボタンがない場合（一時保留の場合）は、保留を押して、再度元の相手と通話できます。

転送される側

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる

通話が自動的に転送され、相手と通話できます。

3 転送された相手と通話する

4 通話が終了したら、受話器を置く

かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する（チェンジオーバー）

電話をかけてきた人と、転送先（取次ぎ先）の人と交互に通話することができます（内線 / 外線 / 専用線との通話中）。

MEMO

チェンジオーバー機能を使用する場合は、（自己保留）の付加情報（動作指定）として、「チェンジオーバー」を選択してください（初期設定では付加情報として「乗り換え」が設定されています）。オートダイヤルボタンの登録方法および付加情報については、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」（➡ P.28）および「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」（➡ P.427）を参照してください。

チェンジオーバーを使用するときは、通話をまず自己保留（一時保留）した状態で、他の相手（取次ぎ先）と通話を開始します。（自己保留）を押すことで双方の相手と交互に切り替えて話すことができます。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 （自己保留）を押す

- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 取次ぎ先の電話番号をダイヤルする

- 取次ぎ先が外線の場合は、（外線）を押したあと、電話番号をダイヤルします。
- 取次ぎ先が応答します。

4 取次ぎ先に用件を伝える

例えば、「･･･から電話が入っています」と伝えます。

5 （自己保留）を押して、かかってきた相手と再び通話する

例えば、「申し訳ありません。・・・はただ今、電話に出ることができません。ご用件をお聞かせください。」と伝えます。ご用件を伺ったあと、再度待っていただくよう伝えます。

6 （自己保留）を押して、取次ぎ先との通話を再開して用件を伝える

- 保留の相手には、保留音が流れます。
- 以降も（自己保留）を押す操作を繰り返すことで、取次ぎ先とかかってきた相手と交互に通話ができます。

7 かかってきた相手と取次ぎ先で話してもらう場合は、（フラッシュ）を押す

かかってきた相手と取次ぎ先がつながります（転送）。

8 受話器を置く

取次ぎ先の人の操作

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 受話器を上げて用件を聞く

3 例えば、発信元にどのような用件か聞いて欲しいと返答する

電話を受けた人が（自己保留）を押すと、保留音が流れます。

4 保留が解除され、電話がつながるので、用件を聞く

電話を受けた人が（フラッシュ）を押すと、かかってきた相手（発信元）と自動的につながります（転送）。

5 発信元と通話する

6 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 取次ぎ先が電話に出なかったときは、点滅（緑）している（自己保留）を押すと、再度元の相手と通話することができます。
- 通話録音中の場合はチェンジオーバーできません。取次ぎ先との通話中に（自己保留）を押した時点で乗り換え（➡ P.416）となり、取次ぎ先との通話は終了します。その後、かかってきた相手との間で通話録音を再開できます。
- 設定によっては、手順 7 で受話器を置いて転送することもできます。初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。また、チェンジオーバー中に転送するときの操作はダイヤル転送（➡ P.78）と同じです。

第 3 章　便利な使いかた（応用操作）

3-1 電話をかけるときの便利な使いかた ……82
3-2 電話を受けるときの便利な使いかた ……93
3-3 保留 / 転送操作時の便利な使いかた ……97
3-4 通話中の便利な使いかた ……99
3-5 電話に応答できないときの便利な機能 …… 102
3-6 通話中に着信があったときの便利な機能 …… 132
3-7 外出先からの便利な機能 …… 136
3-8 便利な機能設定 …… 146
3-9 便利なお知らせ機能 …… 156
3-10 電話機使用中に使えるメニュー …… 163

3-1 電話をかけるときの便利な使いかた

受話器を上げずにダイヤルする（オンフックダイヤル）

受話器を上げずに外線、内線に電話をかけることができます。相手が応答したら、受話器を上げて通話することができます。

1 待受状態で、（スピーカ）を押す

スピーカから内線発信音が聞こえます。

2 外線または内線の電話番号をダイヤルする

- 電話帳を使用する場合は、（短縮/詳細）を押して、電話帳メモリ番号を入力します。
- 外線にかける場合は、（発 信）またはランプが消えている（外線）を押してから、電話番号をダイヤルします。

  または、電話番号の先頭に、自動選局特番（例えば 0）をダイヤルしてかけることもできます。

- 相手の声がスピーカから聞こえます。

3 受話器を上げる

通話をします。

4 通話が終了したら、受話器を置く

受話器を上げるだけでかける（オフフック自動ダイヤル）

受話器を上げるだけで、あらかじめ登録した電話番号に自動でダイヤルして電話をかけることができます。

工事設定

- この機能を使用するには、あらかじめオフフック自動ダイヤル番号に電話番号を登録しておく必要があります。販売店にご相談ください。
- オフフック自動ダイヤル開始タイマの初期値は 0 秒です。変更したい場合は、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 自動的にダイヤルされるのを待つ

- 指定されている時間（オフフック自動ダイヤル開始タイマ）が経過すると、登録されている電話番号に電話がかかります。
- オフフック自動ダイヤル開始タイマが 0 秒に指定されているときは、受話器を上げるとすぐにダイヤルされます。
- 相手が応答すると、通話できます。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- オフフック自動ダイヤル開始タイマが経過する前に電話番号をダイヤルすれば、登録した以外の電話番号に電話がかけられます。
- 受話器を上げる代わりに、（スピーカ）を押した場合は、自動ダイヤルは使用できません。

外線にかけるとき

指定した回線からかける（指定外線捕捉）

この機能を利用すると、オートダイヤルボタンに（外線）を割り付けなくても、指定した回線を使って外線に電話をかけることができます。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 指定外線捕捉特番を押す

指定外線捕捉特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 外線 / 専用線シーケンス番号（➡ P.415）を押す

4 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話できます。

5 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

指定した回線を捕捉して外線発信するほかに、以下の操作を行うことができます。

①システム保留中の回線を捕捉して、保留再応答する
②着信中の回線を捕捉して、応答する
③外線秘話解除中の回線を捕捉して、会議通話に参加する（第 4 章の「外線通話中に他者を割り込ませる（外線秘話解除）」（➡ P.180）を参照）

工事設定

外線 / 専用線シーケンス番号は、工事設定により異なります。販売店にお問い合わせください。

指定した方路のうち空いている回線を自動捕捉して発信する（方路選局発信）

指定した方路の中で、空いている外線 / 専用線を自動的に捕捉して発信することができます。

例えば、電話番号によって電話料金が安い方路が用意されているような場合や、専用線にかけるためだけにオートダイヤルボタンを割り当てたくないような場合に便利です。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。（方路発信）をあらかじめに登録する必要があります。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 （方路発信）を押す

（方路発信）に付加情報として設定されている方路番号の空き回線につながり、外線発信音に変わります。

3 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話できます。

4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

手順 2 で、（方路発信）を押す代わりに、方路選局特番を押すこともできます。方路選局特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

外線へのかけ直しを繰り返す（オートリピート）

外線発信した相手先が話し中のときなどに、一定時間ごとに自動的にかけ直すことができます。

1 **受話器を上げて、外線に電話をかける**

2 **相手が他の電話と通話中**

相手が他の電話と通話中のときは話中音が受話器から聞こえます。

3 **（機 能）を押したあと、（短縮/詳細）を押す**

オートリピートがセットされ、一定時間ごとに、手順 1 と同じ電話番号にダイヤルされます。

4 **（スピーカ）を押したあと、受話器を置いて、相手の応答を待つ**

（スピーカ）を押す前に受話器を置くと、オートリピートがキャンセルされます。

5 **相手の応答する声が聞こえる**

相手の声がスピーカから聞こえます。

6 **受話器を上げて、通話する**

7 **通話が終了したら、受話器を置く**

MEMO

- （機 能）＋（短縮/詳細）の代わりに、（リダイヤル）でも同じ操作ができます。このボタンを使用する場合は、あらかじめ（リダイヤル）を に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- オートリピートは発信履歴がある場合に利用できます。発信履歴がない場合はオートリピートはできません。
- 呼出中の間に（機 能）＋（短縮/詳細）または（リダイヤル）を押しても、オートリピートをセットできます。
- オートリピートの回数は初期設定で 15 回です（5 秒間隔）。1 ～ 15 回の間で変更可能です。変更したい場合は、販売店にご相談ください。
- （スピーカ）または（リダイヤル）を再度押すとオートリピートが解除されます。
- オートリピート待ち中に、該当の回線に着信が入った場合は、着信を優先しオートリピートを終了します。

複数の電話帳メモリ番号を組み合わせて発信する（ネスティングダイヤル）

電話帳に、電話番号やいくつかの電話帳メモリ番号を組み合わせて登録しておくと、電話帳からの 1 回の発信操作で、登録された電話番号と各メモリ番号に登録された電話番号を組み合わせた電話番号へかけることができます（ネスティングダイヤル）。

1 つの電話帳メモリ番号には最大 4 つのネスティングを登録できます。ただし、ネスティングを登録できる電話帳は、共通電話帳のみです。個別電話帳には登録できません。また、ネスティングに登録できるメモリ番号も、共通電話帳に登録されているメモリ番号のみです。

■ 使用例：

以下の番号を電話帳に登録します。[　]内の番号は電話帳メモリ番号で、この部分がネスティングと呼ばれる部分です（電話帳メモリ番号 1111 に登録）。

03　[0001]　[0003]　[1001]　[1003]

各メモリ番号に登録されている電話番号が、それぞれ以下の番号だった場合、

メモリ番号	登録されている電話番号
[0001]	123456789
[0003]	0023
[1001]	3456
[1003]	56789123

電話帳メモリ番号 1111 で発信操作を行うと、以下の電話番号に発信されます。

03　123456789　0023　3456　56789123

ネスティングダイヤルの発信と登録方法については、次ページを参照してください。

ネスティングダイヤルでの発信のしかた

ネスティングダイヤルを使った電話のかけかたは、通常の電話帳からの電話のかけかたと同じです。
第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63）を参照してください。

ネスティングダイヤルの登録のしかた

電話帳に、03 ［0001］［0003］［1001］［1003］を登録する場合の例で説明します。電話帳への登録方法については、「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

1 電話機のサービスメニューで「電話番号指定」画面を表示する

第 1 章の「相手先の電話番号を入力する」（➡ P.40）を参照してください。

2 ネスティング以外の部分の電話番号を入力する（例：03）

```
≪共通- Tel No 指定≫
03
短縮 特殊ｺｰﾄﾞ入力
```

3 ◎で、カーソルを右に移動する

```
≪共通- Tel No 指定≫
03
短縮 特殊ｺｰﾄﾞ入力
```

4 短縮/詳細 を 4 回押す

画面には ［ が表示されます。

```
≪共通- Tel No 指定≫
03[
短縮 特殊ｺｰﾄﾞ入力
```

短縮/詳細 を押すたびに、P、E、－、［ が画面に繰り返し表示されます。

5 ネスティングさせたい電話帳メモリ番号を入力する（例：0001）

```
≪共通- Tel No 指定≫
03[00 ]
短縮 特殊ｺｰﾄﾞ入力
```

↓

```
≪共通- Tel No 指定≫
03[0001]
短縮 特殊ｺｰﾄﾞ入力
```

6 メモリ番号を 2 つ以上ネスティングさせる場合は、手順 4、5 を繰り返す（例：0003、1001、1003）

```
≪共通- Tel No 指定≫
03[0001][0003][1001][1003]
短縮 特殊ｺｰﾄﾞ入力
```

7 確定 を押す

入力が終了し、仮登録され「電話帳登録」メニュー画面に戻ります。

8 必要に応じて、名前や電話帳グループなどを設定する

「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

9 # （登録）を押す

```
≪電話帳登録≫
7 発信付加情報
8 ﾒﾓ　　>
# 登録
```

電話帳に情報が登録されます。

MEMO

- ネスティングダイヤルの登録は、通常の電話番号との混在が可能です。
- 電話帳の登録ダイヤルの最大桁数（32 桁）以内でネスティングダイヤルの登録が可能です。
  ただし、ネスティングダイヤルを登録する場合の 1 つのネスティングの桁数は、メモリ番号の桁数にネスティングコードの桁数（1 桁）を加えた桁数になります。この操作の例は、電話番号部分 2 桁＋（メモリ番号 4 桁＋ネスティングコード 1 桁）× 4 ＝ 22 桁です。
- 手順 4 の画面で 短縮/詳細 を押すと、特殊コード（P：PB 切替、E：自動終話コード、-：オートポーズ、［ ］：ネスティング）を入力できます。
- ネスティングを登録した電話帳メモリ番号にも名称登録は可能です。名前を登録すると、通常の電話番号の登録と同様に、登録した電話帳メモリ番号で電話をかけたとき電話機のディスプレイに名前が表示されます。
- ネスティングでメモリ番号を入力する場合は、メモリ番号の桁数分入力する必要があります。例えば、0002 の場合は、2 ではなく 0002 と入力します（先頭の 0 も入力）。

外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える

外線に電話をかけるときに、自分の電話番号を相手に知らせないか（発番号非通知）知らせるか（発番号通知）を選ぶことができます。
発着信履歴や電話帳からの発信のように、電話機のディスプレイで電話番号を確認してからかける（確かめダイヤル）ときと、外線ボタンなどを押して電話をかけるときでは、操作が異なります。

発着信履歴からの発信の場合

1 待受画面で、着信履歴の場合は◀を、発信履歴の場合は▶を押す

履歴が記録されている場合は、電話機のディスプレイに一覧表示されます（内線と外線の履歴は混在して表示されます）。

2 ▲▼で、かけたい相手を選択して、確定を押す

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
0002:0312345678

3 相手に電話番号を通知したくないとき（発番号非通知）は、◀▶で［2：184 発信］を選択して、確定を押す

≪発信履歴≫ No:0000
本社
1 発信
2 184 発信

↓ 確定

外線発信
1234567890
本社

この画面が表示されると同時に、外線とつながりダイヤルをはじめます。

MEMO

- 相手に電話番号を通知するときは、手順 3 で［3：186 発信］を選択します。

≪発信履歴≫ No:0000
本社
2 184 発信
3 186 発信

- 電話帳からの発信の場合は、電話帳メモリ検索のあと、手順 2、手順 3 の操作を行います（第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63）を参照）。
- 着信履歴には、共通着信履歴と個別着信履歴の 2 種類があります。

外線ボタンを使用した発信の場合

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 ランプが消灯している（外線）を押す

- 外線とつながり、外線発信音に変わります。
- （外線）ランプは点灯（緑）し、他の電話機の（外線）ランプは、点灯（赤）します。

3 フラッシュを押す

電話機のディスプレイに［非通知］と表示され、発番号非通知の状態になります。

外線発信
発信者番号：非通知 フラッシュ変更

4 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話できます。

5 通話が終了したら、受話器を置く

（外線）ランプは、消灯します。

MEMO

- 手順 3 で、フラッシュを押すたびに［非通知］→［通知］→［契約］に切り替わります。［契約］を選択したときの発番号の通知は、回線契約時の条件に従います。
- 手順 4 で電話番号が登録されている（ワンタッチボタン）または（電話帳ワンタッチ）を押した場合、（ワンタッチボタン）または（電話帳ワンタッチ）に通知 / 非通知設定が登録されていなくても、発番号通知または非通知で電話をかけることができます。

指定した番号への発信を規制する（発信禁止番号登録）

あらかじめ発信を禁止する電話番号を登録しておくことにより、禁止された電話番号への発信を規制することができます。外線 / 専用線への発信時にダイヤルした電話番号が、発信禁止番号として登録した番号と一致すると、電話機のディスプレイに「Ｅｒｒｏｒ」と表示されます。

発信禁止番号は、サービスメニューまたは発着信履歴から登録することができます。

サービスメニューからの登録

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［0：その他］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［0：その他］、一般ユーザ電話機では［9：その他］を選択します。

≪ﾒﾆｭｰ≫
8音設定
9表示設定
0その他

3 で［2：システム設定］を選択して、確定を押す

≪その他≫
1ｼｽﾃﾑ情報
2ｼｽﾃﾑ設定
3ｶﾚﾝﾀﾞｰ / 時計設定

4 で［6：発信禁止番号］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［6：発信禁止番号］、一般ユーザ電話機では［2：発信禁止番号］を選択します。

≪ｼｽﾃﾑ設定≫
4理由表示設定
5迷惑電話番号
6発信禁止番号

5 で［1：登録］を選択して、確定を押す

≪発信禁止番号≫
1登録
2一覧表示

6 発信禁止番号を入力して、確定を押す

入力できる文字は、0～9、＊、＃です。

≪発信禁止番号登録≫
0123456789

桁数：最大 20 桁

発信を禁止する電話番号が登録され、「発信禁止番号」メニュー画面に戻ります。

発着信履歴からの登録

1 待受画面で、着信履歴の場合は を、発信履歴の場合は を押す

履歴が記録されている場合は、電話機のディスプレイに一覧表示されます（内線と外線の履歴は混在して表示されます）。

2 で、登録したい履歴を選択して、確定を押す

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
0002:0312345678

3 で［6：発信禁止番号登録］を選択して、確定を押す

≪発信履歴≫ No:0000
本社
5個別電話帳登録
6発信禁止番号登録

（履歴編集画面）

4 表示された電話番号を発信禁止番号として登録してよいかどうかを確認して、確定を押す

選択した履歴の電話番号が表示されるので、確認して、必要な場合は電話番号を修正します。

≪発信禁止番号登録≫
0123456789

桁数：最大 20 桁

発信を禁止する電話番号が登録され、「発信禁止番号」メニュー画面に戻ります。

MEMO

- 登録する電話番号は市外局番を含めて全桁入力してください。同一市外局番への通話を規制したい場合は、市外局番を含まない番号も登録してください。
- 発信禁止番号と迷惑電話番号を合わせて、システム全体で 10000 件登録されている場合は、エラー音が鳴ります。

内線電話機から緊急ダイヤルへ電話をかける（緊急ダイヤル発信）

緊急ダイヤル発信は、警察や消防 / 救急などへすばやく電話をかけるのに便利な機能です（警察や消防 / 救急などの電話番号を緊急ダイヤルと呼びます）。

この機能を利用すると、外線発信操作をしなくても、登録されている緊急番号をダイヤルするだけで、緊急番号に発信できます。

工事設定

緊急ダイヤルの電話番号は、工事者が登録作業を行います。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

また、登録されている緊急ダイヤルについては、販売店またはシステム管理者にお問い合わせください。最大 16 件登録することができます。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

```
内線発信
  20→[■  ]
```

2 緊急ダイヤル番号をダイヤルする

受話器から相手を呼び出す音が聞こえます。

```
外線発信
                    110
```

相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 緊急ダイヤルをオートダイヤルボタンに登録しておくとオートダイヤルボタンを押すだけで発信することができます。また、電話帳に登録しておくと、必要なときに検索して発信することができます。
- 緊急ダイヤル発信での通話中は、以下の機能を行うことはできません。
  - ・通話中からの保留操作
    （自己保留、パーク保留、回線保留）
  - ・秘話解除（➡ P.417）、会議通話（➡ P.415）
  - ・外線乗り換え（➡ P.416）

内線にかけるとき

内線登録したオートダイヤルボタンでかける（内線ワンタッチコール）

内線番号を登録したオートダイヤルボタンを押すだけで、ワンタッチで電話をかけることができます（第 2 章の「オートダイヤル機能を使ってかける（ワンタッチダイヤル）」（➡ P.62）も参照してください）。

1 （ワンタッチボタン）、（DSS）、（電話帳ワンタッチ）のいずれかを押す

内線に電話がかかります。

2 受話器を上げる

相手が応答すると通話ができます。

3 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

（ワンタッチボタン）、（DSS）、（電話帳ワンタッチ）は、あらかじめに登録しておきます。には内線番号を登録します。登録方法については、それぞれ以下のいずれかを参照してください。

- 第 1 章の「オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）」（➡ P.31）
- 第 1 章の「オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する」（➡ P.34）
- 第 1 章の「オートダイヤルボタンに電話帳を登録する（電話帳ワンタッチ割付）」（➡ P.30）

受話器を置かずに別の内線にかける（リセットコール）

内線電話をかけた相手が話し中のときなど、受話器を置かずにそのまま別の内線番号をダイヤルして、別の内線相手に電話をかけることができます。最初の相手を呼び出している間でも、別の内線番号をダイヤルできます。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を押す

受話器から呼出音または話中音が聞こえます。

3 相手が応答する前に、別の内線番号を押す

受話器から呼出音が聞こえます。

相手が応答したら通話します。

4 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

相手が応答して通話したあとは、この機能は無効になります。

指定したグループの内線電話を音声で一斉に呼び出す（内線グループ音声呼出）

内線グループ番号を指定することにより、グループごと（一斉呼出も含む）に音声呼出ができます。
内線グループ内の内線電話が一斉呼出を受けた場合は、グループ内のどの電話機でも応答できます。

工事設定

グループ番号については、販売店にお問い合わせください。

呼び出す側

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 内線グループ音声呼出特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

3 内線グループ番号（000 ～ 127）を押す

指定したグループに所属する内線電話が一斉に呼び出されます。初期設定では、グループ番号 000 には、すべての内線電話が登録されています。

4 相手に呼びかける

相手が応答したら、通話ができる状態になります。

5 終了したら受話器を置く

MEMO

- 内線グループ呼出中の音声 / 信号の切替はできません。
- 外線、アナログ専用線からの内線グループ音声呼出はできません。

応答する側

1 グループ内の電話機から一斉に音声呼出が聞こえる

スピーカから呼びかけられます。

2 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

3 内線グループ音声呼出応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

4 内線グループ番号（3 桁）を入力する

- 呼び出されているグループ番号がディスプレイに表示されます。
- 呼び出されているグループの番号を入力します。
- 通話ができる状態になります。

5 通話が終了したら受話器を置く

指定したグループの内線電話を着信音で一斉に呼び出す（内線 DGL 呼出）

DGL グループ番号を指定することにより、グループごとに一斉に着信音で呼び出すことができます。

工事設定

- DGL グループの設定と（DGL）の登録は、工事設定で行います。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
- 着信音を鳴らす / 鳴らさない電話機を昼夜モードごとに切り替えることもできます。設定については販売店にご相談ください。また、昼夜モードについては第 3 章の「時間帯により着信形式を切り替える（夜間モード切替）」（➡ P.146）を参照してください。

呼び出す側

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 DGL グループ呼出特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 DGL グループ番号（2 桁または 3 桁）を押す

相手が応答したら、通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

音声呼出への切替はできません。

応答する側

1 （DGL）ランプが速点滅（赤）する

```
内線着信                DGL 01
    内線１０
田中
```

電話機のディスプレイには DGL グループ番号と相手の内線番号が表示されます。

※ DGL グループ名称が登録されている場合は、グループ番号の代わりに DGL グループ名称が表示されます。

2 速点滅（赤）している（DGL）を押す

3 受話器を上げる

通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

DGL グループの名称登録方法については、第 4 章の「ドアホン名を表示する（ドアホン名称設定）」（➡ P.203）の手順 4 で［1：DGL グループ名称］を選択します。

内線へのかけ直しを繰り返す（内線オートリピート）

内線電話した相手が話し中のときなどに、一定時間ごとに自動的にかけ直すことができます。

1 受話器を上げて、内線に電話をかける

2 相手が話し中

相手が話し中のときは、受話器から話中音が聞こえます。

3 機能を押したあと、短縮/詳細を押す

オートリピートがセットされ、一定時間ごとに、手順 1 と同じ電話番号にダイヤルされます。

4 スピーカを押したあと、受話器を置いて、相手の応答を待つ

スピーカを押す前に受話器を置くと、オートリピートがキャンセルされます。

5 相手の応答する声が聞こえる

相手の声がスピーカから聞こえます。

6 受話器を上げて、通話する

7 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 機能 ＋ 短縮/詳細 の代わりに、（リダイヤル）でも同じ操作ができます。このボタンを使用する場合は、あらかじめ（リダイヤル）を に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- 受話器を置いた状態で、スピーカ または（リダイヤル）を再度押すとオートリピートが解除されます。

工事設定

オートリピートの回数は初期設定で 15 回です（5 秒間隔）。1 ～ 15 回の間で変更可能です。変更したい場合は、販売店にご相談ください。

内線電話を予約する（内線キャンプオン）

内線電話した相手が話し中のとき、相手先の内線を予約（内線キャンプオン）しておくと、相手の通話が終わったときに空いたことを知らせる着信音が鳴り、受話器を上げると相手を呼び出すことができます。

1 受話器を上げて、内線に電話をかける

2 相手が話し中

相手が話し中のときは、受話器から話中音が聞こえます。

3 （内線予約）を押す

- （内線予約）の代わりに、内線予約特番を押すこともできます。
- （内線予約）が赤点灯し、手順 1 でかけた内線が予約されます。

4 受話器を置いて、相手の通話が終わるのを待つ

（相手の通話が終わり受話器を置きます。）

5 呼び返しの着信音が聞こえる

スピーカから呼び返し音（着信音）が聞こえ、着信ランプが点滅します。

6 受話器を上げる

- 手順 1 と同じ相手に自動的に電話がかかり、受話器から相手を呼び出す音が聞こえます。
- （内線予約）が消灯し、内線キャンプオンが解除されます。

7 相手が応答したら、通話する

8 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- この操作の前に、あらかじめ（内線予約）を に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 相手が話し中の間に、再度（内線予約）または内線予約特番を押すと、内線キャンプオンが解除されます。
- 相手先内線にコールウェイティング（➡ P.182）が設定されている場合は、コールウェイティングが優先されます。

3-2 電話を受けるときの便利な使いかた

外線を受けるとき

通話中に外線から電話がかかってきたことがわかるようにする（話中着信音）

通話中に外線から着信（一般系着信）があったとき、通常よりも小さな着信音（話中着信音）を鳴らして着信がわかるようにできます。話中着信音のオン / オフは、内線ごとに指定することができます（初期設定はオン）。

※この機能が使用できる着信は、一般着信、DGL 着信、MSA 着信、ドアホン着信です。

話中着信音の鳴動をオン / オフする

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［8：音設定］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［8：音設定］、一般ユーザ電話機では［7：音設定］を選択します。

≪ﾒﾆｭｰ≫
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定

3 で［7：各種音種］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［7：各種音種］、一般ユーザ電話機では［6：各種音種］を選択します。

≪音設定≫
5ﾎﾞﾀﾝ押下音設定
6応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
7各種音種

4 で［3：話中着信音設定］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［3：話中着信音設定］、一般ユーザ電話機では［2：話中着信音設定］を選択します。

≪各種音種≫
1外線別着信音種
2内線別着信音種
3話中着信音設定

5 で［1：着信音有り］または［2：着信音無し］を選択して、確定を押す

≪話中着信音設定≫
1着信音有り*
2着信音無し

話中着信音のオン / オフが設定され、「各種音種」画面に戻ります。

MEMO

- 話中着信音の音種は、通常の着信時の音種に従います。
- 話中着信音量はサービスメニューから変更できます。第 1 章の「着信音量を調節する」（➡ P.12）を参照してください。
- 電話機の設定で「鳴動無し」や「鳴動拒否」が設定されている内線では、話中着信音は鳴りません。
- カールコードレス電話機（CL）（親機）では、話中着信音の設定はできません。

外線ごとに着信音を選択する（外線別着信音種指定）

外線ごとに着信音を変えることができます。また、発信者番号により、着信音を変えることができます。
外線ごとの着信音を指定は、システム管理電話機のサービスメニューからのみ行うことができます。

操作方法については、第１章の「外線からかかってきた電話の着信音色を変更する（外線別着信音種）」（➡P.57）を参照してください。

MEMO

「外線別着信音種指定」機能では、回線番号またはダイヤルイン番号ごとに着信音を選択することができます。

工事設定

DGL/MSA グループへの着信で、グループごとに着信音を変えたい場合は、販売店にご相談ください。

外線ごとに鳴動電話機を指定する

外線ごとに外線着信音が鳴動する電話機を指定することができます。

外線着信音が鳴動しない指定の電話機に着信があった場合でも、（外線）ランプは点滅しますので、着信を知ることができます。

工事設定

外線ごとに鳴動電話機を指定する場合は、販売店にご相談ください。

特定のグループへ着信した電話に応答する（DGL 着信 /MSA 着信）

外線 / 専用線からの着信を、特定のグループ（DGL グループや MSA グループ）の電話機に着信させることができます。

工事設定

- この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
- 着信音を鳴らす / 鳴らさない電話機を昼夜モードごとに切り替えることができます。設定については販売店にご相談ください。また、昼夜モードについては第 3 章の「時間帯により着信形式を切り替える（夜間モード切替）」（➡ P.146）を参照してください。

DGL グループ（➡ P.414）や MSA グループ（➡ P.414）は、テナントとは別の着信グループです。テナント内で組織を細分化し、着信先を選択するような場合に便利です。DGL グループや MSA グループへの着信 / 応答は、外線の着信テナントに関係なく行うことができます。

ここでは、特定のグループにかかってきた電話に応答する操作について説明します。

1 着信音が鳴る

- （DGL）ランプまたは（MSA）ランプが速点滅（赤）します。
- LCD ディスプレイの 1 段目に「DGLnn」または「MSAnn」と表示されます（nn はグループ番号）。

（DGL グループ 01 への外線着信時の表示例）

```
外線着信          DGL 01
        0123456789
```

電話機のディスプレイには DGL グループ番号と相手の外線番号が表示されます。

※ DGL グループの名称が登録されている場合は、DGL 番号の代わりに名称が表示され、相手の名称が電話帳に登録されている場合は、3 行目に名称が表示されます。

2 速点滅（赤）している（DGL）または（MSA）を押す

3 受話器を上げる

通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

- （DGL）または（MSA）はあらかじめ（オートダイヤル）に登録しておきます。登録方法は販売店にご相談ください。
- （DGL）または（MSA）が登録されていない場合は、鳴動していれば受話器を上げるだけで応答できます。
- DGL/MSA 表示の着信は不在転送できません。

音声自動応答(IVR)機能を利用する

音声自動応答(IVR:Interactive Voice Response)機能を利用すると、お客様から電話がかかってきたときに、あらかじめ用意した音声案内(操作ガイダンス)を自動再生し、お客様のダイヤル操作に応じて、目的の部署(問い合わせ窓口など)に着信させたり、音声ガイダンスを流したりすることができます。

MEMO

- この機能を利用する場合は、お客様にはプッシュ信号(PB)を送ることができる電話機をご使用いただく必要があります。
- IVR 機能を利用する場合は、IVR のシナリオ(応答後の動作)の設定や音声ガイダンスの準備が必要です。詳細は『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

工事設定

- この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。
- お客様には着信形式に「IVR 着信」が設定されている電話番号に電話していただく必要があります。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。
- ダイヤル操作後に電話がつながらないとき、ガイダンスが流れるように設定できます。販売店にご相談ください。

IVR 機能が利用できる電話番号に電話する(お客様の操作)

IVR 機能が利用できる電話番号にお客様が電話をかけると、自動応答して音声ガイダンスが流れます。音声ガイダンスに従ってダイヤルすることにより、目的の問合せ窓口を直接呼び出すことができます。

1 (お客様が)会社に電話をかける

- この機能が利用できる電話番号に電話していただいてください。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。
- 電話がつながると、自動応答して次のようなガイダンスが流れます。

  例:『お電話ありがとうございます。音声案内に従ってご希望の番号を押してください。なお、ダイヤル回線をお使いの場合は、「＊」またはトーンボタンを押してから、操作してください。新規のお客様は「1」を、ご利用中の製品のお問い合わせは「2」を、その他のお問い合わせは「9」を押してください。』

2 ご希望の番号をダイヤルする

ダイヤル操作に応じて、IVR シナリオに設定されたとおりに、音声ガイダンスが流れたり、問い合わせ窓口等に着信します。

MEMO

- 一定時間以内に番号をダイヤルしなかった場合(タイムアウト時)は、設定により以下のいずれかになります。
  - ・再度同じガイダンスが流れる
  - ・最初の音声案内が流れる
  - ・いずれかの部署に着信する
  - ・電話が切れる
- 設定されていない番号をダイヤルした場合は、エラー音が鳴ります。

IVR 機能で設定できる着信先

IVR 機能では、お客様のダイヤル操作後の着信先として、時間帯により、以下のような着信形式(= 実際の着信先)が選択できます(工事設定)。時間帯は、昼夜モード(「昼間」「夜間 A-1」「夜間 A-2」「夜間 A-3」「夜間 B」)で設定します。詳細については、本章の「時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)」(➡ P.146)を参照してください。

着信形式 (実際の着信先)	説明
一般着信	同一テナント内のすべての内線電話に着信します。
内線	指定した内線電話に個別に着信します。
DGL	DGL グループに登録されたすべての内線電話に着信します。 **参照:**本章の「指定したグループの内線電話を着信音で一斉に呼び出す(内線 DGL 呼出)」(➡ P.91)
MSA	MSA グループに登録されたすべての内線電話に着信します。
閉番号	専用線で複数のシステムを接続している場合、内線番号をダイヤルするだけで、他システムの内線電話に接続することができます。離れた拠点の内線電話に転送することができます。
開番号	専用線で複数のシステムを接続している場合、拠点番号+内線番号をダイヤルして、他システムの内線電話に接続することができます。離れた拠点の内線電話に転送することができます。
メールアクセス	ボイスメールシステム(メールセンター)に着信します。 「こちらはメールセンターです。・・・」というガイダンスが流れ、社内 / 外からのメールアクセス時と同じ操作でメールボックスにログオンすることが可能です。社員向けの着信先として利用できます。 **参照:**第 5 章の「メールサービスを利用する」(➡ P.259)
着信代行	指定したメールボックスに着信します。着信に自動応答してガイダンスを流したり、相手にメッセージを録音してもらうことができます。時間外や休日などに指定して利用します。 **参照:**第 5 章の「外線着信代行を設定する」(➡ P.252)

3-3 保留 / 転送操作時の便利な使いかた

ワンタッチダイヤルボタンで内線に転送する

内線通話中に、内線番号を登録したオートダイヤルボタンを押すだけで、ワンタッチで登録した内線へ電話を転送することができます。

第２章の「オートダイヤル機能を使ってかける（ワンタッチダイヤル）」（➡ P.62）や本章の「内線登録したオートダイヤルボタンでかける（内線ワンタッチコール）」（➡ P.89）も参照してください。

転送する側

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 （ワンタッチボタン）または（DSS）を押す

- 受話器は呼出音に変わり、通話は保留されます。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- 保留されると同時に、押したボタンに登録されている内線番号にダイヤルされます。

3 転送先が応答したら、転送先に用件を伝える

例えば、「・・・から電話が入っています」と伝えます。

4 フラッシュを押す

通話が自動的に転送されます。

5 受話器を置く

MEMO

- この機能を使用するには、あらかじめ内線番号を（ワンタッチボタン）/（DSS）に登録しておきます。登録方法については、以下を参照してください。
  - ・第１章の「オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）」（➡ P.31）
  - ・第１章の「オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する」（➡ P.34）
- 設定によっては、手順４で受話器を置いて転送することもできます。初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。
- 転送先が電話に出なかったときは、（自己保留）（点滅（緑）しているボタン）を押すと、再度元の相手と通話することもできます。点滅（緑）しているボタンがない場合（一時保留の場合）は、保留を押して、再度元の相手と通話できます。

転送される側

1 着信音が鳴る

内線着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる

転送する側と通話します。

転送する側がフラッシュを押すと、自動的に転送されます。

3 転送された相手と通話する

4 通話が終了したら、受話器を置く

外線からの着信を任意の外線に転送する（公ー公接続）

外線との通話中に、通話を任意の外線へ転送し、外線と外線を接続することができます（手動転送）。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

転送の操作方法については、第２章の「転送先と通話してから転送する（ダイヤル転送）」（➡P.78）を参照してください。

MEMO

外線からの着信を自動的に任意の外線に転送する設定については、本章の「外線からの着信を自動で転送する（外線自動転送）」（➡ P.103）を参照してください。

3-4 通話中の便利な使いかた

受話器を置いたままで通話する（ハンズフリー通話）

受話器を使わずに電話機内蔵のマイクとスピーカで通話できます（ハンズフリー通話）。この機能を利用するには、あらかじめマイクをオンに設定しておく必要があります。

かかってきた電話に受話器を置いたままで応答する

1 マイクがオンの状態

電話機のディスプレイには、マイクがピクト表示されています。

2 着信音が鳴る

内線着信音が鳴ります。

3 スピーカを押す

スピーカから相手の音声が聞こえます。

4 電話機のマイクに向かって話す

マイクとスピーカを使って、通話ができます。

5 通話が終了したら、スピーカを押す

MEMO

- 「マイクのオン / オフを切り替えるには」（➡次の項）の操作で、あらかじめマイクをオン状態にしておきます。
- ハンズフリー通話の状態で、マイクをオフにすると、送話ミュートの状態になります（➡ P.100）。
- この機能を利用して電話をかけるには、マイクがオンの状態で、電話番号をダイヤルしたあと、受話器を上げずにスピーカを押します（多機能電話機のみ）。

マイクのオン / オフを切り替えるには

1 待受状態のとき、機能を押したあと、ア1を押す

- マイクがオンになり、マイクを使って通話ができる状態になります。
- 電話機のディスプレイには、マイクがピクト表示されます。
- （マイク）が割り当てられている場合は、（マイク）ランプが点灯（赤）します。
- 通話中にマイクをオンにすることもできます。

2 マイクをオフにする場合は、再度機能を押したあと、ア1を押す

- マイクがオフになります。
- 電話機のディスプレイのピクト表示マイクは表示されなくなります。
- 点灯（赤）していた（マイク）ランプは消灯します。
- 機能＋ア1を押すたびに、マイクのオン / オフが切り替えられます。

MEMO

機能＋ア1の代わりに、（マイク）でも同じ操作ができます。このボタンを使用する場合は、あらかじめ（マイク）を に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。

相手の音声をスピーカで聞く（スピーカ受話）

相手との通話中に、相手の音声を電話機のスピーカを通して聞こえるように、切り替えることができます（受話器での通話からスピーカでの受話への切替）。

1 **通話中に（スピーカ）を押す**

2 **受話器を置く**

相手の声がスピーカから聞こえます。

3 **（スピーカ受話から通常の通話に戻す場合）受話器を上げる**

受話器を上げるとスピーカ受話が解除され、通常の受話器による通話に戻ります。

MEMO

- スピーカ受話中は（▲▼）を押して、スピーカの音量が調節できます。
- マイクがオンの状態でスピーカ受話を行うとハンズフリー通話状態となります。詳細は「受話器を置いたままで通話する（ハンズフリー通話）」（➡ P.99）を参照してください。
- スピーカ受話中に（スピーカ）を押すと、通話は切断されます（多機能電話機のみ）。

通話相手にこちらの音声を聞こえないようにする（送話ミュート）

受話器での通話中またはハンズフリーでの通話中に、相手にこちらの音声を聞こえないように切り替えることができます。

1 **通話中、（機能）を押したあと、［カ ABC 2］を押す**

- 送話ミュートがオンになり、こちらの音声が相手に聞こえなくなります。
- 電話機のディスプレイに「送話ミュート　ON」と表示されます（5 秒間）。
- （　）（送話ミュート）が割り当てられている場合は、（　）（送話ミュート）ランプが点灯（赤）します。

2 **解除する場合は、再度（機能）を押したあと、［カ ABC 2］を押す**

- 送話ミュートがオフになり、こちらの音声が相手に聞こえるようになります。
- 電話機のディスプレイに「送話ミュート　OFF」と表示されます（5 秒間）。
- （機能）＋［カ ABC 2］を押すたびに、送話ミュートのオン / オフが切り替えられます。

MEMO

- （機能）＋［カ ABC 2］の代わりに、（　）（送話ミュート）でも同じ操作ができます。このボタンを使用する場合は、あらかじめ（　）（送話ミュート）を（　）に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- （機能）＋［カ ABC 2］を（　）（オートダイヤル）に登録することもできます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。

フックフラッシュ信号(フッキング信号)を送る(フックフラッシュ送出)

アナログ回線で通話中に(フラッシュ)を押すことでフックフラッシュ信号(フッキング信号)を外線に送出することができます。アナログ回線のみ送出可能です。
他回線では操作無効です。
アナログ回線のキャッチホンサービスを受けるとき、通話中の回線に対しフッキング信号を送出することができます。そのほか、構内交換機(PBX)に内線電話が接続されている場合に、PBX のサービスを利用するときに使用します。

1 **通話中に(フラッシュ)を押す**

MEMO
- PB 信号または DP 信号の送出中は、この操作は無効です。
- フックフラッシュ信号を送出できる回数に制限はありません。
- 最終保留があるときに(フラッシュ)を押すと、転送機能が優先されます。転送できなかった場合はエラー音が鳴ります。転送機能の詳細については、第 2 章の「転送先と通話してから転送する(ダイヤル転送)」(➡ P.78)を参照してください。

プッシュホン信号を送る(PB エンド・ツー・エンド通信)

外線 / 専用線 / 内線通話中に、手動でプッシュホン(PB)信号を送出できるモード(PB 送信モード)を ON に切り替えることができます(PB 信号手動切替)。これにより、ダイヤル回線でもプッシュホン(PB)信号を送ることができるようになり、銀行の残高照会などのプッシュホンサービスを受けられます。

1 **通話中**

2 **(PB 信号)を押す**

- PB 送信モードが ON になり、PB 信号を送ることができるようになります。
- 電話機のディスプレイには、「PB」と表示されます(2 行目左側)。
- アナログ外線、アナログ専用線の場合は、[＊]+[#]を押しても同じ操作ができます。

3 **PB 送信を解除したい場合は、再度(PB 信号)を押す**

- PB 送信モードが OFF になります。
- [＊]+[#]では、PB 送信モードを OFF にすることはできません。

MEMO
- 外線にこちらから電話をかけたときは、相手が応答した時点で自動的に PB 送信モードが ON になるため(PB 信号自動切替)、手動で切り替える必要はありません。ただし、外線以外は初期設定が「PB 信号自動切替なし」に設定されています。販売店にご相談ください。
- (PB 信号)は、あらかじめ(　)に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。
- [＊]+[#]のダイヤル操作による PB 送信モード ON の切り替えは、[＊]がダイヤルされてから[#]のダイヤルが有効な時間は、10 秒間です。
- 外線 / 専用線通話中(PB 送信モード ON 切替後)に、番号種別が「外線」「PBX」「方路指定」で登録されているワンタッチボタンを押すと、ワンタッチのダイヤルを PB 送信します(通話録音中を除く)。
- 電話帳登録、ワンタッチダイヤル登録時、PB 信号切替コード「P」を入れることができます。PB 信号切替コード「P」は外線 / 専用線のみ挿入可能です。内線に対しては行えません。

3-5 電話に応答できないときの便利な機能

席を外しているときや、手が離せないとき、出勤時間外など、電話がかかってきても応答できないようなときがあります。
ここでは、いろいろな場面で電話に応答できないときに利用できる便利な機能について説明します。

■ 留守番機能

留守番モードを設定しておくことで、かかってきた電話にメッセージを流したり、留守番電話のようにメッセージ（ボイスメール）を録音してもらうことができます。この機能はテナントごとに設定します。
この機能は例えば、事務所に全員がいない時間帯（出勤時間外）などにかかってくる電話に便利です。

参照：第 5 章の「留守番機能」（➡ P.224）

■ 代行機能（外線着信代行、不在代行、無応答代行、圏外代行、話中代行）

自動転送の 1 つの種類です。代行設定をしておくことで、かかってきた電話にメッセージを流したり、留守番電話のようにメッセージ（ボイスメール）を録音してもらうことができます。この機能は内線電話ごとに設定できます。

参照：第 5 章の「各種代行機能」（➡ P.245）

■ 自動転送

自動転送設定をしておくことで、かかってきた電話を自動的に他へ転送することができます。
転送先として、他の内線電話や外出先で使用する携帯電話などを選択することができます。また、転送先としてボイスメールを選択すると、代行機能として動作します。この機能は内線電話ごとに設定できます。
この機能は例えば、席を外しているときや、手が離せないときなどにかかってくる電話に便利です。

自動転送には、次のような種類があります。

種類	説明箇所
外線自動転送	「外線からの着信を自動で転送する（外線自動転送）」（➡ P.103）
不在転送	「不在時にかかってきた電話を転送する（不在転送）」（➡ P.113）
無応答転送	「一定時間応答しないときに転送する（無応答転送）」（➡ P.122）
圏外転送	「圏外の電話機にかかってきた電話を転送する（圏外転送）」（➡ P.129）
話中転送	「通話中にかかってきた電話を転送する（話中転送）」（➡ P.134）

以降では、自動転送の各機能について説明します。留守番機能と代行機能については、第５章の「留守番機能」（➡ P.224）と「各種代行機能」（➡ P.245）を参照してください。

MEMO

自動転送（外線自動転送、無応答転送、不在転送、圏外転送）により外線着信を外線転送したとき、転送元と転送先に、以下のような固定ガイダンスまたは録音したガイダンスを流すことができます。

- 転送元へのガイダンス：「電話を転送します。そのままお待ちください。」（繰り返し：2 回）
- 転送先へのガイダンス：「転送電話です。電話を転送します。」（繰り返し：2 回）

転送ガイダンスはテナントごとに設定できます。設定については、「自動転送時の転送先 / 転送元ガイダンスを設定する」（➡ P.131）を参照してください。

外線からの着信を自動で転送する（外線自動転送）

外線からの一般着信、DGL/MSA 着信時に、あらかじめ登録していた転送先に着信を自動的に転送することができます（外線自動転送）。
外線自動転送は、外線自動転送モードが ON に設定されているテナントに着信したときに行われます。外線自動転送モードの ON/OFF は、手動または自動で行うことができます。

外線自動転送の設定

外線自動転送の転送方法（**転送種別**）には、「**通常**」転送（1：1 転送）、「**順次**」転送（順次 2 箇所呼び出し）、「**同時**」転送（同時 2 箇所呼び出し）、または「**転送無し**」（着信継続）の 4 パターンがあります。

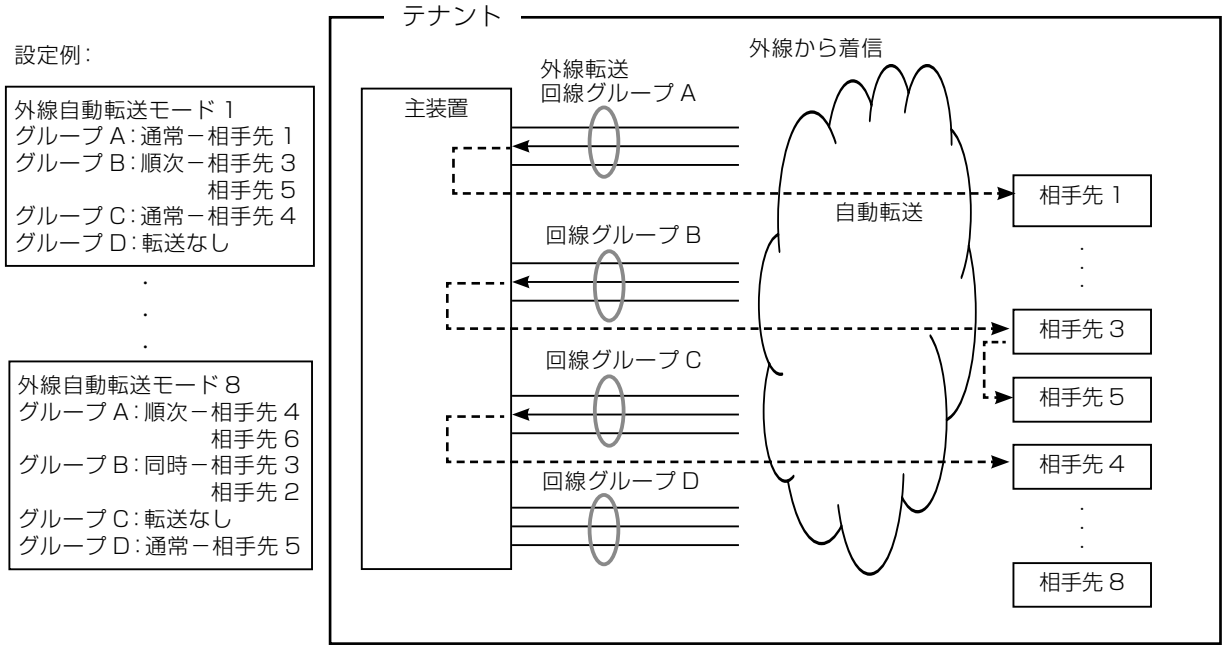
テナント内の回線をグループ A ～ D にグループ分けして（工事設定）、グループ A の回線は通常転送、グループ B の回線は同時 2 箇所呼びなど、回線のグループごとに転送方法が別になるように設定できます。グループごとに転送方法を設定するときは、あらかじめ登録しておいた転送先の電話番号（**相手先**）も指定します。

また、グループ A ～ D の転送方法の組み合わせを「**外線自動転送モード**」として 8 つ登録しておくことができます。外線自動転送モード 1 ～ 8 を登録して、それぞれ（外線転送 1）～（外線転送 8）に割り付けておくと、ボタンを押しただけで、各外線自動転送モードの ON/OFF が切り替えられ（手動切替）、各回線グループの転送方法と相手先も、指定した外線自動転送モードに登録されたものに切り替えることができます。タイマ連動設定（スケジュール設定）を行うと、外線自動転送モードの ON/OFF を自動切替することもできます。1 つのテナントで、複数の外線自動転送モードを ON にすることはできません。

※オートダイヤルへの機能の割り付けについては第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。

MEMO

（外線転送 1）～（外線転送 8）の代わりに外線転送特番を押すこともできます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。



外線自動転送モード 1 を設定した場合

外線自動転送の設定は、電話機のサービスメニュー（システム管理電話機のみ）または Web 設定を使用して操作することができます（管理ユーザレベル）。ここでは、電話機での操作について説明します。Web 設定での操作について、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

外線自動転送で設定する項目は以下のとおりです。

設定項目	説明
相手先 1 ～ 8	転送相手先の電話番号を設定します。
外線転送回線グループ A ～ D	テナント内の回線をグループ A ～ D にグループ分けして（工事設定）、グループ A の回線は通常転送、グループ B の回線は同時 2 箇所呼びなど、回線のグループごとに転送方法が別になるように設定できます。
転送種別 （4 パターン）	転送動作の種別を以下の 4 パターンから選択できます。 ①「通常」転送：1 箇所呼び ：1 箇所の転送先へ転送します。 ②「順次」転送：2 箇所順次呼び ：2 箇所の転送先へ順次転送を行います（1 箇所目の相手が話中や無応答の場合に、1 箇所目を放棄して 2 箇所目へ発信します）。 ③「同時」転送：2 箇所同時呼び ：2 箇所の転送先へ同時転送を行います。先に応答を検出した回線に接続します。 ④「転送なし」：着信継続
外線自動転送モード 1 ～ 8	転送条件、転送動作、相手先を設定します。 グループ A ～ D の転送方法の組み合わせを「外線自動転送モード」として 8 つ登録しておくことができます。
転送中着信鳴動	転送先の外線と着信先（着信設定に従った着信先）の内線を同時に呼び出すかどうかを選択します。

それぞれの設定項目について、以下の順番で説明します。

- 「転送先の電話番号を登録・変更 / 削除する（相手先登録）」（➡ P.105）
- 「回線グループの転送設定を外線自動転送モードに登録する（転送先指定）」（➡ P.107）
- 「外線自動転送の起動時間を設定する（外線転送起動時間）」（➡ P.109）
- 「外線自動転送中に転送先と着信先の内線を同時に呼び出す（転送中着信鳴動）」（➡ P.109）
- 「外線自動転送モードを手動で ON/OFF する」（➡ P.110）
- 「外線自動転送モードを自動で ON/OFF するように設定する（外線自動転送モード自動切替）」（➡ P.111）

転送先の電話番号を登録・変更 / 削除する（相手先登録）

自動転送先の電話番号を登録します。「相手先 1」～「相手先 8」に対してそれぞれ、電話番号を登録します。この操作は、システム管理電話機または **Web 設定**（管理ユーザレベル）で行うことができます。ここでは電話機での操作について説明します。

転送先の電話番号の登録・変更

1 **待受画面で、確定を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 **で［4：転送設定］を選択して、確定を押す**

≪ﾒﾆｭｰ≫
4転送設定
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 **で［5：外線転送設定］を選択して、確定を押す**

≪転送設定≫
4圏外転送設定
5外線転送設定
6DGL 無応答転送設定

4 **設定するテナントを指定し、確定を押す**

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>--
↑↓：候補検索

入力したテナント番号にテナント名称が登録済みの場合には３行目にテナント名称が表示されます。

5 **で［2：相手先登録］を選択して、確定を押す**

≪外線転送設定≫
1転送先指定
2相手先登録
3外線転送起動時間

6 **で相手先 1 ～ 8 のいずれかを選択して、確定を押す**

≪外線転送相手先≫
7相手先 7
8相手先 8
9削除

選択した「相手先 n」にすでに電話番号が登録されている場合は、次の編集画面で、登録されている電話番号が表示されます。

7 **電話番号を入力して、確定を押す**
または
電話帳から選択する場合はを押す

≪ Tel No 指定≫
↑↓：電話帳指定

- 電話番号を入力して確定を押した場合は、次に「番号種別」画面が表示されます。
  「■手順 7 で電話番号を入力した場合」（➡次ページ）へ進みます。
- 電話番号を入力しないでを押した場合は、次に「電話帳指定」画面が表示されます。
  「■手順 7 で電話帳からの指定を選んだ場合」（➡次ページ）へ進みます。

MEMO

- 電話番号はそれぞれ最大 32 桁まで入力できます。
- 入力できる文字は、0 ～ 9、*、#、特殊コードです。
- 特殊コードは、短縮/詳細 を押して入力します。入力できる特殊コードは次のとおりです。
  P：PB 切替　短縮/詳細 1 回
  -：オートポーズ　短縮/詳細 2 回
- 入力した番号を間違えた場合は フラッシュ を押して 1 文字削除します。入力した値すべてを削除する場合は、フラッシュ を長押しします。

つづく➡

■手順 7 で電話番号を入力した場合

8 で番号種別を選択して、確定を押す

[1：外線] [2：特番展開] [3：PBX] [4：方路指定] のいずれかを選択します。

閉番号(➡P.417)を入力して専用線で転送する場合は [2：特番展開]、構内交換機（PBX）に接続されている内線 / 専用線の場合は、[3：PBX] を選択します。

≪番号種別≫
1外線＊
2特番展開
3PBX

- [4：方路指定] 以外を選択した場合は、転送先（相手先）の電話番号が登録され、「外線転送設定」メニュー画面に戻ります。
- [4：方路指定] を選択した場合は、手順 9 へ進みます。

工事設定

[2: 特番展開] は、電話番号として閉番号を利用する場合に選択します。閉番号の設定については、販売店にご確認ください。

9 （[4：方路指定] を選択した場合）方路番号（00 ～ 63）を指定する

方路番号を入力する代わりに で方路番号を順番に検索することもできます。

≪方路指定≫
No>

↑↓：候補検索

工事設定

設定されている方路番号については、販売店にご確認ください。

10 確定を押す

転送先（相手先）の電話番号が登録され、「外線転送設定」メニュー画面に戻ります。

引き続き、転送先（相手先）の電話番号を登録する場合は、手順 6 以降を繰り返します。

MEMO

不在やそのほかの理由で応答できないときの転送設定については、それぞれ「不在転送」「無応答転送」「話中転送」を参照してください。このような場合、転送先として、外線・内線電話のほかに、メールボックスを選択することもできます（代行機能）。

■手順 7 で電話帳からの指定を選んだ場合

8 で検索する電話帳を選択して、確定を押す

≪電話帳指定≫
1共通電話帳
2個別電話帳

9 電話帳メモリ番号を入力して、確定を押す

- メモリ番号を入力する代わりに で、前候補 / 次候補を表示することもできます。
- 例えば、0002 のように入力します。

（メモリ番号 0002 を指定するときの入力例）

≪共通-ﾒﾓﾘ No 指定≫
0002

↑↓：候補検索

10 で登録したい相手先が選択されていることを確認して、確定を押す

≪共通電話帳一覧≫
0002：支社 2
0003：支社 3
0004：支社 4

11 電話番号が複数登録されている場合は、で電話番号を選択して、確定を押す

≪共通- Tel No ≫
1 0123456789
2 9876543210
3 未登録

12 転送先の外線を指定し、確定を押す

≪ Tel No 指定≫
0120444555

↑↓：電話帳指定

13 「■手順 7 で電話番号を入力した場合」（左記）の手順 8 ～ 10 を操作する

転送先の電話番号の削除

1 「転送先の電話番号の登録・変更」(➡ P.105)の手順 1 ～ 4 を操作する

2 で [2：相手先登録] を選択して、確定を押す

≪外線転送設定≫
1 転送先指定
2 相手先登録
3 外線転送起動時間

3 で [9：削除] を選択して、確定を押す

≪外線転送相手先≫
7 相手先 7
8 相手先 8
9 削除

4 で削除する相手先を選択して、確定を押す

≪転送相手先削除≫
1 相手先 1
2 相手先 2
3 相手先 3

選択した相手先に登録された電話番号が削除され、「外線転送相手先」メニュー画面に戻ります。

回線グループの転送設定を外線自動転送モードに登録する（転送先指定）

テナント内でグループ分けされた回線のグループ A ～ D の転送設定の組み合わせを「**外線自動転送モード**」として 8 つまで登録しておくことができます。
ここでは、外線自動転送モード 1 ～ 8 のそれぞれに対して、回線のグループ A ～ D（外線転送グループ）の転送種別と相手先電話番号を設定する操作について説明します。
この操作は、システム管理電話機または **Web 設定**（管理ユーザレベル）で行うことができます。ここでは電話機での操作について説明します。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [4：転送設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で [5：外線転送設定] を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
4 圏外転送設定
5 外線転送設定
6 DGL 無応答転送設定

4 設定するテナントを指定し、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりに で、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>
↑↓：候補検索

入力したテナント番号にテナント名称が登録済みの場合には 3 行目にテナント名称が表示されます。

5 で [1：転送先指定] を選択して、確定を押す

≪外線転送設定≫
1 転送先指定
2 相手先登録
3 外線転送起動時間

つづく➡

6 で、設定対象の外線自動転送モード(1 ～ 8)を選択して、確定を押す

[外線転送モード 1] ～ [外線転送モード 8] のいずれかを選択します。

≪外線転送先指定≫
1外線転送ﾓｰﾄﾞ 1
2外線転送ﾓｰﾄﾞ 2
3外線転送ﾓｰﾄﾞ 3

7 で、転送種別と相手先を登録する対象の回線グループを選択して、確定を押す

[グループ A] ～ [グループ D] のいずれかから選択します。

≪外線転送ｸﾞﾙｰﾌﾟ≫
1ｸﾞﾙｰﾌﾟ A
2ｸﾞﾙｰﾌﾟ B
3ｸﾞﾙｰﾌﾟ C

8 で、選択した回線グループに設定する転送種別を選択して、確定を押す

[1：通常]、[2：順次]、[3：同時]、[4：転送無し] のいずれかから選択します。

≪外線転送種別≫
1通常*
2順次
3同時

「通常」転送	1 箇所の転送先へ転送します。
「順次」転送	2 箇所の転送先へ順次転送を行います(1 箇所目の相手が話中や無応答の場合に、1 箇所目を放棄して 2 箇所目へ発信します)。
「同時」転送	2 箇所の転送先へ同時転送を行います。先に応答を検出した回線に接続します。
「転送無し」	着信が継続されます。

MEMO

- 手順 9 のように、電話機のサービスメニューを使って、「順次」転送の 2 つの相手先を選択した場合は、1 箇所目の転送先として、若番の相手先が割り当てられます。
  例えば「相手先 5」と「相手先 7」を選択した場合は、最初に「相手先 5」に対して転送を試みます。
- Web 設定では、「順次」転送の 1 箇所目と 2 箇所目の相手先を個別に選択できます(『取扱説明書(Web 設定編)』を参照)。1 箇所目の転送先を老番の相手先に変更したい場合は、Web 設定で選択してください。

9 で、選択した回線グループに設定する相手先を選択して、確定を押す

- 「転送先の電話番号を登録・変更 / 削除する(相手先登録)」(➡ P.105)で電話番号を登録した相手先([相手先 1] ～ [相手先 8])のいずれかを選択します。
- 相手先を選択して、確定を押すと□にチェックが入り、カーソルが自動的に下へ移動します。
- 転送種別として「順次」転送または「同時」転送を選択した場合は、相手先を 2 つ選択します。「通常」転送を選択した場合は、相手先を 1 つ選択します。

≪相手先選択≫
☑相手先 7
□相手先 8
#登録

10 相手先をすべて選択したら、#を押す

- 手順 8 で選択した回線グループに、選択した相手先が設定され、また、手順 6 で選択した外線自動転送モードにその設定が登録されたあと、「外線転送先指定」の画面に戻ります。
- テナント内の回線が複数グループにグループ化されている場合は、外線自動転送モード 1 つにつき、すべてのグループの転送種別と相手先を登録します。その場合は、手順 6 で同じ外線自動転送モードを選択したあと、手順 7 ～ 10 を操作します。
- また、必要に応じて、残りの外線自動転送モードを登録します。その場合は、手順 6 で、まだ登録していない外線自動転送モード(1 ～ 8)を選択します。

MEMO

以下の場合は、手順 10 でエラー音が鳴り、転送種別も相手先も登録されません。

- 転送種別で「通常」を選択し、相手先の選択が 0 または 2 個以上の場合。
- 転送種別で「順次」または「同時」を選択し、相手先の選択が 1 個以下または 3 個以上の場合。

外線自動転送の起動時間を設定する（外線転送起動時間）

外線着信の検出から転送を起動するまでの時間を設定します（テナントごと）。この操作は、システム管理電話機または **Web 設定**（管理ユーザレベル）で行うことができます。ここでは電話機での操作について説明します。

1 「回線グループの転送設定を外線自動転送モードに登録する（転送先指定）」（➡ P.107）の手順 1 ～ 4 を操作する

2 ◎で［3：外線転送起動時間］を選択して、確定を押す

≪外線転送設定≫
1転送先指定
2相手先登録
3外線転送起動時間

3 外線転送起動時間を入力して、確定を押す

≪外線転送起動時間≫
09 秒

(000 ～ 180 秒)

入力した時間が設定され、「外線転送設定」メニュー画面に戻ります。

MEMO

設定できる時間は、0 ～ 180 秒です（0 秒＝即時転送起動、初期値：9 秒）。

外線自動転送中に転送先と着信先の内線を同時に呼び出す（転送中着信鳴動）

外線自動転送中に転送先と着信先（着信設定に従った着信先）の内線を同時に呼び出す（内線が「鳴動する」）か、転送先のみ呼び出す（内線は「鳴動しない」）か、どちらかに設定することができます（テナントごと）。

同時に呼び出す設定の場合は、転送開始後も着信先（着信設定に従った着信先）の内線の着信音が鳴り続けます。転送先のみ呼び出す設定の場合は、転送が開始されるとともに内線の着信音は鳴り止みます。

1 「回線グループの転送設定を外線自動転送モードに登録する（転送先指定）」（➡ P.107）の手順 1 ～ 4 を操作する

2 ◎で［5：転送中着信鳴動］を選択して、確定を押す

≪外線転送設定≫
3外線転送起動時間
4外線転送自動切替
5転送中着信鳴動

3 ◎で、［2：鳴動する］を選択して、確定を押す

≪転送中着信鳴動≫
1鳴動しない＊
2鳴動する

MEMO

- 「転送中着信鳴動」の初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。
- 「転送中着信鳴動」を「鳴動する」に設定していても、転送元ガイダンスが「あり」の場合は、転送開始とともに着信先（着信設定に従った着信先）の内線の着信音は鳴り止みます。
- 着信先（着信設定に従った着信先）の内線が呼び出されたとき、着信ウェイト（➡ P.132）やワンショット留守番（➡ P.242）などを使用することもできますが、その場合は外線（転送先）への自動転送は停止します。

外線自動転送モードを手動で ON/OFF する

「回線グループの転送設定を外線自動転送モードに登録する（転送先指定）」（➡ P.107）で登録した外線自動転送モード 1 ～ 8 を、それぞれ（外線転送 1）～（外線転送 8）に割り付けておくと、ボタンを押しただけで、外線自動転送モードが ON に設定され、指定した外線自動転送モードに合わせて各回線グループの転送方法および相手先が設定されます。

ボタンを押すたびに外線自動転送モードの ON/OFF がトグル式に切り替わります。外線自動転送の ON/OFF は、システム管理電話機と一般ユーザ電話機の両方で操作でき、テナントごとに設定されます。

※オートダイヤルへの機能の割り付けについては第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。

外線自動転送モードを ON にする

1 待受状態で、（外線転送 1）～（外線転送 8）のいずれかを押す

- 押したボタンに登録されている外線自動転送モードが ON になり、電話機のディスプレイには「自動転送 1」～「自動転送 8」のいずれかが表示されます。

  「自動転送 1」～「自動転送 8」は、それぞれ、外線自動転送モード 1 ～外線自動転送モード 8 に対応しています。
- 押したボタンのランプは点灯（赤）します。

（（外線転送 1）を押した場合の例）

```
自動転送 1          内線 10
 １０月２４日（木）
   午前　 ９ ： ００
```

外線自動転送モードを解除（OFF）する

1 転送モードを解除するには、点灯（赤）している（外線転送）を押す

- 電話機のディスプレイから「自動転送 1」～「自動転送 8」の表示が消えます。

```
              内線 10
 １０月２４日（木）
   午前　 ９ ： ００
```

- 押したボタンのランプは消灯します。

MEMO

同時に複数の外線自動転送モードを起動することはできません。あとから起動した外線自動転送モードが有効になります。

例えば、モード 1 が ON のときにモード 2 を ON すると、モード 1 は OFF となり、モード 2 が ON となります。

外線自動転送モードを自動で ON/OFF するように設定する（外線自動転送モード自動切替）

タイマ連動設定（スケジュール設定）を利用すると、外線自動転送モードの ON/OFF が曜日と時間帯により自動的に切り替わるように設定できます。この操作は、システム管理電話機または **Web 設定**（管理ユーザレベル）で行うことができます。ここでは電話機での操作について説明します。
タイマ連動設定では、日～土と休日 / 祝祭日のそれぞれに対して、1 日を 1 ～ 10 の時間帯に分けて、時間帯ごとに動作を設定します。祝祭日 / 休日の設定については、「システムカレンダーを利用する」（➡P.149）を参照してください。

1 「回線グループの転送設定を外線自動転送モードに登録する（転送先指定）」（➡P.107）の手順 1 ～ 4 を操作する

2 で [4：外線転送自動切替] を選択して、確定を押す

≪外線転送設定≫
2 相手先登録
3 外線転送起動時間
4 外線転送自動切替

3 で、曜日を選択して、確定を押す

≪外線転送自動切替≫
1 日曜日
2 月曜日
3 火曜日

4 で [1：動作選択] を選択して、確定を押す

≪曜日動作≫
1 動作選択
2 ｽｹｼﾞｭｰﾙ設定

5 で、動作モードを選択して、確定を押す

手順 3 で選択した曜日の 00：00 に切り替わる動作モードを選択します。

≪動作選択≫
1 ｽｹｼﾞｭｰﾙに従う*
2 前日ﾓｰﾄﾞを継続

「曜日動作」メニュー画面に戻ります。

6 で [2：スケジュール設定] を選択して、確定を押す

≪曜日動作≫
1 動作選択
2 ｽｹｼﾞｭｰﾙ設定

7 で、[1：時間帯 1] ～ [0：時間帯 10] のいずれかを選択して、確定を押す

≪ｽｹｼﾞｭｰﾙ設定≫
1 時間帯 1
2 時間帯 2
3 時間帯 3

8 で [1：開始時間] を選択して、確定を押す

≪時間帯設定≫
1 開始時間
2 外線転送ﾓｰﾄﾞ指定

9 開始時間を入力して、確定を押す

[1：時間帯 1] の開始時間は、00:00 に固定されています。

≪開始時間≫
--：--

(00：01 ～ 23:59)

手順 7 で選択した時間帯の開始時刻が設定され、「時間帯設定」メニュー画面に戻ります。

つづく➡

10 で [2：外線転送モード指定] を選択して、確定を押す

≪時間帯設定≫
1 開始時間
2 外線転送ﾓｰﾄﾞ指定

11 で、転送モードを選択して、確定を押す

- **転送無し**：外線自動転送を OFF に設定します。
- **外線転送 1 ～外線転送 8**：「転送先指定」で設定した外線自動転送モード 1 ～外線自動転送モード 8 にそれぞれ対応しています（➡ P.107）。

≪外線転送ﾓｰﾄﾞ指定≫
1 転送無し*
2 外線転送 1
3 外線転送 2

手順 7 で選択した時間帯の転送モードが設定され、「時間帯設定」メニュー画面に戻ります。

必要に応じて、他の曜日や他の時間帯の開始時間や転送モードを指定します。

※他の曜日、時間帯を選択する場合は、それぞれ手順 3、手順 7 から操作を繰り返します（前の画面には 保留 で戻ります）。

不在時にかかってきた電話を転送する(不在転送)

席を外しているときに、外線 / 専用線または内線からの個別着信があったとき、あらかじめ設定した転送先に転送することができます。転送先として、ボイスメールを選択すると、留守番電話のように使用することもできます(不在代行)。この機能を利用するには、まず不在転送設定で転送先を設定してから、実際に不在になるときに「不在 ON」(➡ P.119)に切り替えます。

転送先は、電話機のサービスメニュー、特番、および Web 設定から、内線電話機ごとに設定します。ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

不在転送先を設定する(不在転送設定) ーサービスメニューー

着信回線の種別ごとに不在転送の転送先を設定します。一般ユーザ電話機では自内線のみ、システム管理電話機では自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。不在転送先の登録・変更の操作は、「不在 ON」の間でも可能です。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [4:転送設定] を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
4転送設定
5録音関連設定
6オートダイヤル

3 で [1:不在転送設定] を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
1不在転送設定
2話中転送設定
3無応答転送設定

4 不在転送を設定する内線電話を指定して、確定を押す

- 一般ユーザ電話機の場合、「内線対象指定」画面は表示されません。手順 5 へ進みます。
- 内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
1000
↑↓:候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

5 で着信種別を選択して、確定を押す

[1:内線着信転送]、[2:外線着信転送]、[3:専用線着信転送]、[4:発番号別転送]、[5:不在転送一括設定] のいずれかから選択します。

※ [5:不在転送一括設定] を選択すると、すべての着信に対して、同じ転送先を設定できます。

※ [4:発番号別転送] を選択したときは、受信した発番号に対応する転送先を設定できます。

≪不在転送設定≫
1内線着信転送
2外線着信転送
3専用線着信転送

6 で転送先種別を選択して、確定を押す

- 手順 5 で [1:内線着信転送] を選択した場合は、[1:内線転送]、[2:外線転送]、[3:内線代表転送]、[4:DGL グループ]、[5:転送無し<切断>]、[6:転送無し<着信>] のいずれかから選択します。
- 手順 5 で [1:内線着信転送] 以外を選択した場合の転送先種別の選択肢とそれ以降の設定項目については、「不在転送の設定項目 ーサービスメニューー」(➡ P.114)を参照してください。

≪内線着信転送≫
1内線転送*
2外線転送
3内線代表転送

以降の操作は、選択した転送先種別によって異なります。ここでは、[1:内線転送] を選択した場合の例で説明します。

7 (手順 6 で [1:内線転送] を選択した場合) 転送先の内線番号を指定して、確定を押す

内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
1020
↑↓:候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

8 転送時にツインコール(同時呼出)をするかどうかを選択して、確定を押す

[1:ツインコール有り] を選択すると、転送時に、転送先と転送元(内線)を同時に呼び出すことができます。

※ツインコールは、転送先が内線または外線のときに選択できます。

≪ツインコール指定≫
1ツインコール有り
2ツインコール無し*

不在時に着信したときの転送先設定が登録され、「不在転送設定」画面に戻ります。

不在転送の設定項目 －サービスメニュー－

不在転送の設定内容は、選択した着信種別や転送先種別によって異なります。以下の表を参照して設定してください。

着信種別	転送先種別	転送先と設定内容		
[1：内線着信転送]	[1：内線転送]	転送先の内線番号	ツインコールあり	指定した内線へ転送します。（転送元は着信継続）
			ツインコールなし	指定した内線へ転送します。（転送元は着信停止）
	[2：外線転送]	転送先の相手先番号	番号種別（外線 / 特番展開 / PBX/ 方路選択）※ 1	ツインコールあり
				ツインコールなし
	[3：内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[4：DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
	[5：転送無し < 切断 >]	転送せずに切断します。		
	[6：転送無し < 着信 >]	どこにも転送されません。		
[2：外線着信転送]	[1：内線転送]	転送先の内線番号	ツインコールあり	
			ツインコールなし	
	[2：外線転送]	相手先番号	番号種別（外線 / 特番展開 / PBX/ 方路選択）※ 1	ツインコールあり
				ツインコールなし
	[3：ガイダンス応答録音]（ボイスメールへ転送）	応答ガイダンス	固定ガイダンス 1/2（録音有り）	録音先のメールボックス番号 1 ～ 4 桁
				メッセージ録音通知の有無と録音通知方法
			固定ガイダンス 1/2（録音無し）	応答ガイダンスのみ流します。
			ユーザガイダンス（録音有り）	ガイダンス番号 00 ～ 99。録音先のメールボックス番号 1 ～ 4 桁。
				メッセージ録音通知の有無と録音通知方法
			ユーザガイダンス（録音無し）	ガイダンス番号 00 ～ 99
		終了ガイダンス	固定ガイダンス	終了ガイダンスのみ流します。
			ユーザガイダンス	ガイダンス番号 00 ～ 99
	[4：内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[5：一般着信]	個別着信として受けた着信を着信テナントへの一般着信に変換します。		
	[6：DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
	[7：MSA グループ]	転送先の MSA グループ番号		
	[8：転送無し < 切断 >]	転送せずに切断します。		
[3：専用線着信転送]	[1：内線転送]	転送先の内線番号	ツインコールあり	
			ツインコールなし	
	[2：外線転送]	転送先の相手先番号	番号種別（外線 / 特番展開 / PBX/ 方路選択）※ 1	ツインコールあり
				ツインコールなし
	[3：ガイダンス応答録音]（ボイスメールへ転送）	選択できる転送先と設定内容は、[2：外線着信転送] － [3：ガイダンス応答録音] と同じです。		
	[4：内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[5：DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
	[6：転送無し < 切断 >]	転送せずに切断します。		
	[7：転送無し < 着信 >]	どこにも転送されません。		
[4：発番号別転送]	[1：電話帳指定]	電話帳を検索して発番号を選択したあと、転送先種別を選択する画面が表示されます。選択できる転送先種別は、[2：外線着信転送] と同じです。		
	[2：転送指定一覧]	登録されている転送設定（発番号ごと）が一覧表示されます。一覧から転送設定を選択して、編集 / 削除することができます。編集時に選択できる転送先種別は、[2：外線着信転送] と同じです。		
[5：不在転送一括設定]	[1：内線転送]	内線番号		
	[2：外線転送]	相手先番号	番号種別（外線 / 特番展開 / PBX/ 方路選択）※ 1	ツインコールあり
				ツインコールなし
	[3：内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[4：DGL グループ]	DGL グループ番号		
	[5：転送無し < 切断 >]	転送せずに切断します。		
	[6：不在転送一括解除]	すべての着信に対する転送設定を解除します。		

（※ 1）[外線] は、回線を指定せず、使用できるいずれかの外線で転送したいときに選択します。
[特番展開] は、電話番号として閉番号を利用する場合に選択します。また、外線着信の場合は転送リモコン特番を指定して転送リモコンを開始（➡ P.136）することもできます（特番については「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照）。
[PBX] は、主装置に接続されている構内交換機（PBX）を経由して外線へ転送するときに選択します。
[方路選択] は、方路を指定して転送したいときに選択します（方路 = 回線の束）。
閉番号と方路番号の設定については、販売店にご確認ください。

つづく➡

MEMO

- 転送先を外線にした場合、相手先番号入力時に、を押すと電話帳に登録されている相手先電話番号を入力することができます。
- [転送先種別] は初期設定では、[5:転送無し < 切断 >] が選択されていて、不在時には転送せずに切断されます。
- 不在時に留守番電話のようにボイスメールが応答（不在代行）するように設定するには、転送先種別として「ガイダンス応答録音」を選択し、着信時に流す応答ガイダンスを選択したあと、「録音あり」を選択して録音先のメールボックス番号を入力します。詳細は第 5 章の「各種代行機能」（➡ P.245）を参照してください。

不在転送先を設定する（不在転送設定）－特番－

ここでは、特番を使って不在転送先を設定する操作について説明します。特番を使った場合は自内線の不在転送先のみ設定できます。不在転送先の設定方法には、「簡易設定」と「詳細設定」があります（初期設定では「詳細設定」）。

- 「簡易設定」の場合、すべての着信の転送先を一括で設定し、同時に「不在 ON」に切り替えることができます。
- 「詳細設定」の場合、転送先は着信回線の種別ごとに設定します。不在転送先の登録・変更の操作は、「不在 ON」の間でも可能です。

工事設定

- この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
- 不在転送先の設定方法（「簡易設定」と「詳細設定」）の切り替えは工事者が行います。販売店にご相談ください。

簡易設定の場合

1 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 不在転送登録特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 （転送先が外線の場合）外線発信特番を押す

MEMO

専用線の場合は、専用線の番号（方路番号）を押します。

4 転送先の電話番号を入力する

5 最後の区切り文字 ＊ を押す

- 登録完了音が鳴り、操作した電話機の不在転送先が登録され、不在設定状態（不在 ON）に切り替わります
- （不在）ランプは点灯（赤）します。
- 電話機のディスプレイには、「不在登録< xxx >」と表示されます（xxx は 1 番に登録された不在理由。初期設定では「1: 外出中」）。不在理由を設定していない場合は、「不在登録<不在>」と表示されます。

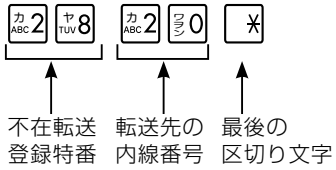
6 受話器を置く

MEMO

不在設定を解除（不在 OFF）するときは、不在転送登録特番を押したあとすぐに ＊ を押します。

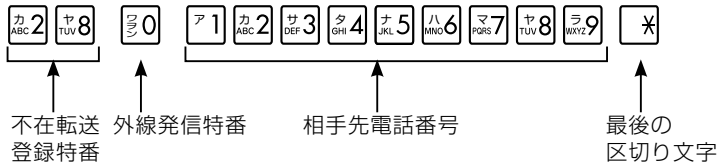
■ 入力例 1：

不在転送登録特番が 28 で、内線番号 20 に転送する場合



■ 入力例 2：

不在転送登録特番が 28、外線発信特番が 0、外線（123456789）に転送する場合



詳細設定の場合

1 **受話器を上げる**

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 **不在転送登録特番を押す**

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

3 **着信回線種別（0 ～ 4）を押す**

一括登録の場合は［マジ0］、内線着信の場合は［ア1］、外線着信の場合は［カ2］、専用線着信の場合は［サ3］、発番号別の場合は［タ4］を押します。

4 **転送先の各設定項目を選択する**

「不在転送の設定項目と入力する番号」（➡P.117）に従って、各設定項目の番号と区切り文字［＊］を入力します。

5 **最後の区切り文字［＊］を押す**

登録完了音が鳴り、操作した電話機の不在転送先が登録されます。

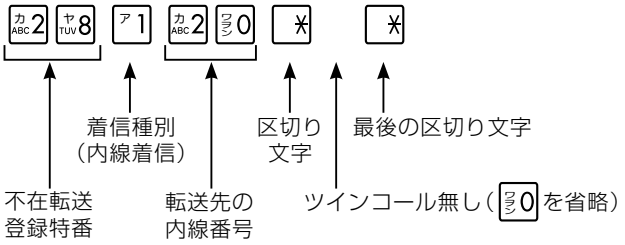
6 **受話器を置く**

MEMO

プリセットダイヤルのように、受話器を上げずに入力して、最後に［スピーカ］を押しても登録できます。

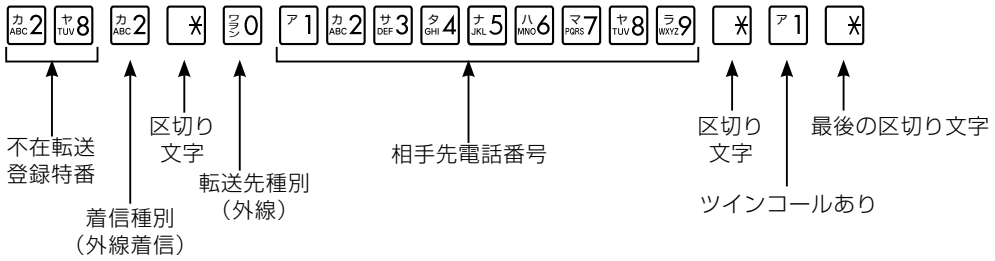
■ **入力例 1：**

不在転送登録特番が 28 で、内線着信を内線番号 20 に転送する場合（ツインコール無し）



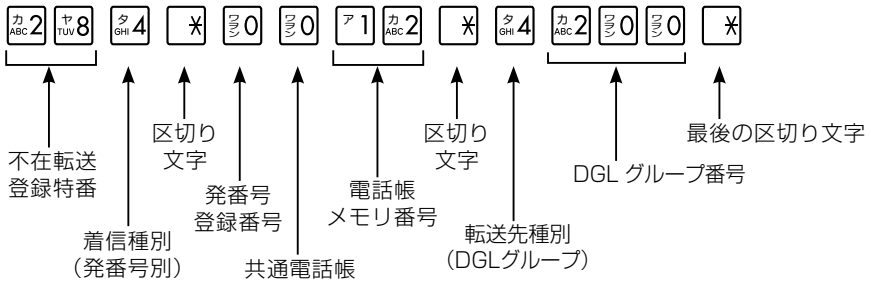
■ **入力例 2：**

不在転送登録特番が 28 で、外線着信を外線（123456789）に転送する場合（ツインコールあり）



■ **入力例 3：**

不在転送登録特番が 28 で、特定の電話番号の相手（共通電話帳のメモリ番号 12［2 桁設定の場合］に登録されている電話番号）からの着信を DGL グループ（グループ番号 200）に転送する場合



不在転送の設定項目と入力する番号

不在転送登録特番を押したあと、設定項目に従い、以下の表の左から右へ順に番号を入力します。

■ 着信種別が内線着信、外線着信、専用線着信、一括登録の場合

<table>
<tr><th rowspan="2">着信種別</th><th rowspan="2">区切り文字</th><th colspan="2">転送先</th><th rowspan="2">区切り文字</th><th rowspan="2">ツインコールの有無（省略可）
省略した場合は「なし」</th><th rowspan="2">最後の区切り文字</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>転送先種別</th><th>転送先番号</th></tr>
<tr><td rowspan="13">ア1（内線着信）
/
カ2（外線着信）
/
サ3（専用線着信）
/
マ0（一括登録）</td><td>－</td><td>－
（内線）</td><td>内線番号</td><td rowspan="5">＊</td><td rowspan="5">マ0 / ア1
（なし / あり）</td><td rowspan="13">＊</td><td rowspan="13"></td></tr>
<tr><td rowspan="12">＊</td><td>マ0
（外線）</td><td>相手先番号</td></tr>
<tr><td>ア1
（外線：特番展開）</td><td>特番 ＋ 相手先番号</td></tr>
<tr><td>カ2
（外線：PBX）</td><td>相手先番号</td></tr>
<tr><td>サ3
（外線：方路指定）</td><td>方路番号 ＋ 相手先番号</td></tr>
<tr><td>タ4
（DGL グループ）</td><td>DGL グループ番号</td><td colspan="2">※転送先が DGL グループの場合はこの部分は不要です。</td></tr>
<tr><td>ナ5
（MSA グループ）
※外線着信時のみ</td><td>MSA グループ番号</td><td colspan="2">※転送先が MSA グループの場合はこの部分は不要です。</td></tr>
<tr><td>ハ6
（内線代表転送）</td><td colspan="3">※転送先が内線代表の場合はこの部分は不要です。</td></tr>
<tr><td>マ7
（一般着信）
※外線着信時のみ</td><td colspan="3">※転送先が一般着信の場合はこの部分は不要です。</td></tr>
<tr><td>ヤ8
（ガイダンス応答録音）
※外線着信時 /
専用線着信時のみ</td><td colspan="3">応答ガイダンス種別＋ガイダンス番号※1
➡ ＊終了ガイダンス種別＋ガイダンス番号※2
➡ ＊ MBX 番号※3 ➡ ＊録音通知の有無※4
※「メッセージ録音無し」（応答ガイダンスのみを流す）を設定する場合は、「MBX 番号」と「録音通知の有無」の両方（および 2 つの間の区切り文字）を省略してください。
※ガイダンス応答録音（不在代行）の詳細は第 5 章の「不在代行を設定する」（➡ P.245）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>ラ9
（転送無し）</td><td colspan="3">マ0 / ア1 / カ2
（＜切断＞/＜着信継続＞鳴動なし / 鳴動あり）
※省略可（省略した場合は＜切断＞）
※着信種別が「一括登録」または「外線着信」の設定時は、0 ＜切断＞以外は入力不可</td></tr>
</table>

※1：応答ガイダンス種別には、マ0（固定ガイダンス 1）/ ア1（固定ガンダンス 2）/ カ2（ユーザガイダンス）のいずれかを入力します。カ2（ユーザガイダンス）のときはガイダンス番号（00 ～ 99）を入力します。

※2：終了ガイダンス種別には、マ0（固定ガイダンス）、ア1（ユーザガイダンス）のいずれかを入力します。ア1（ユーザガイダンス）のときはガイダンス番号（00 ～ 99）を入力します。

※3：MBX 番号には、代行録音先のメールボックス番号を入力します。

※4：録音通知の有無には、マ0（通知無し）/ ア1（電話呼出）/ カ2（E メール通知）/ サ3（電話呼出＋ E メール通知）のいずれかを入力します。

つづく➡

■着信種別が発番号別の場合

着信種別	区切り文字	発番号			区切り文字	転送先		区切り文字	ツインコールの有無(省略可) 省略した場合は「なし」	最後の区切り文字
		登録番号	電話帳種別	電話帳メモリ番号		転送先種別	転送先番号			
[タ GHI 4] (発番号別)	ー	[ワ 0] ～ [ラ WXYZ 9]	[ワ 0] (共通電話帳) / [ア 1] (個別電話帳)	電話帳メモリ番号	[＊]	ー (内線)	内線番号	[＊]	[ワ 0] / [ア 1] (なし / あり)	[＊]
	[＊]					[ワ 0] (外線)	相手先番号			
						[ア 1] (外線:特番展開)	特番 ＋相手先番号			
						[カ ABC 2] (外線:PBX)	相手先番号			
						[サ DEF 3] (外線:方路指定)	方路番号 ＋相手先番号			
						[タ GHI 4] (DGL グループ)	DGL グループ番号	※転送先が DGL グループの場合はこの部分は不要です。		
						[ナ JKL 5] (MSA グループ)	MSA グループ番号	※転送先が MSA グループの場合はこの部分は不要です。		
						[ハ MNO 6] (内線代表転送)	※転送先が内線代表の場合はこの部分は不要です。			
						[マ PQRS 7] (一般着信)	※転送先が一般着信の場合はこの部分は不要です。			
						[ヤ TUV 8] (ガイダンス応答録音)	応答ガイダンス種別＋ガイダンス番号※1 ➡ [＊] 終了ガイダンス種別＋ガイダンス番号※2 ➡ [＊] MBX 番号※3 ➡ [＊] 録音通知の有無※4 ※「メッセージ録音無し」(応答ガイダンスのみを流す)を設定する場合は、「MBX 番号」と「録音通知の有無」の両方(および 2 つの間の区切り文字)を省略してください。 ※ガイダンス応答録音(不在代行)の詳細は第 5 章の「不在代行を設定する」(➡ P.245)を参照してください。			
						[ラ WXYZ 9] (転送無し)	[ワ 0] ＜切断＞ ※省略可(省略した場合は＜切断＞)			

※1:応答ガイダンス種別には、[ワ 0](固定ガイダンス 1)/[ア 1](固定ガンダンス 2)/[カ ABC 2](ユーザガイダンス)のいずれかを入力します。[カ ABC 2](ユーザガイダンス)のときはガイダンス番号(00 ～ 99)を入力します。

※2:終了ガイダンス種別には、[ワ 0](固定ガイダンス)、[ア 1](ユーザガイダンス)のいずれかを入力します。[ア 1](ユーザガイダンス)のときはガイダンス番号(00 ～ 99)を入力します。

※3:MBX 番号には、代行録音先のメールボックス番号を入力します。

※4:録音通知の有無には、[ワ 0](通知無し)/[ア 1](電話呼出)/[カ ABC 2](E メール通知)/[サ DEF 3](電話呼出＋ E メール通知)のいずれかを入力します。

不在 ON/OFF を設定する

内線電話を不在設定状態（不在 ON）または不在設定解除状態（不在 OFF）にする操作を説明します。内線電話機ごとに設定します。
不在 ON にするときには、不在理由も選択します。選択した不在理由は自内線の電話機のディスプレイ、および電話をかけてきた相手の電話機のディスプレイにも表示されます。

不在設定状態（ON）にする

1 **待受状態で、消灯している（不在）を押す**

2 **で不在理由を選択して、確定を押す**

不在理由は、9 種類（1: 外出中、2: 会議中、3: 来客中、4: 食事中、5: 出張中、6: 休暇中、7: 帰宅、8: 直帰、9: 直行直帰）の中から選択できます（初期設定の場合）。

```
不在理由選択
1外出中
2会議中
3来客中
```

↓ 確定

```
                    内線 10
10月24日(木)  午前  9：00
不在登録〈外出中〉
```

- 登録完了音が鳴り、不在設定状態（不在 ON）となります。
- （不在）ランプは点灯（赤）します。
- 電話機のディスプレイには、
  「不在登録< xxx >」
  と表示されます（xxx は不在理由）。不在理由を設定していない場合は、「不在登録<不在>」と表示されます。

不在設定解除状態（OFF）にする

1 **待機状態で、点灯（赤）している（不在）を押す**

```
                    内線 10
10月24日(木)  午前  9：00
不在登録〈外出中〉
```

↓ （不在）

```
                    内線 10
10月24日(木)
午前  9：00
```

- 登録完了音が鳴り、不在解除状態（不在 OFF）となります。
- （不在）ランプは消灯します。

MEMO

- あらかじめ（不在）を に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- 特番で操作する場合は、不在設定を ON にするときは、受話器を上げて不在特番を押したあと、不在理由（1 ～ 9）を押します。
  不在設定を解除（OFF）するときは、受話器を上げて不在特番を押したあと、0 を押します。
  不在特番については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 不在理由（1：外出中、2：会議中、3：来客中、4：食事中、5：出張中、6：休暇中、7：帰宅、8：直帰、9：直行直帰）の名称は編集することができます。詳細は「不在理由を編集する」（➡ P.120）を参照してください。
- 外出先から不在設定を ON/OFF することもできます。詳細は、「外出先から設定を変更する（転送リモコン）」（➡ P.136）を参照してください。

不在理由を編集する

初期設定されている不在理由の名称を編集することができます。編集は、一般ユーザ電話機とシステム管理電話機から操作できます。不在理由に使用できる文字は、全角文字（漢字、カナ、英字、数字）では 10 文字まで、半角文字（カナ、英字、数字）では 20 文字までです。

【初期設定値】

不在理由 1	外出中
不在理由 2	会議中
不在理由 3	来客中
不在理由 4	食事中
不在理由 5	出張中

不在理由 6	休暇中
不在理由 7	帰宅
不在理由 8	直帰
不在理由 9	直行直帰

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4転送設定
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［1：不在転送設定］を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
1不在転送設定
2話中転送設定
3無応答転送設定

4 不在転送を設定する内線電話を指定して、確定を押す

- 一般ユーザ電話機の場合、「内線対象指定」画面は表示されません。手順 5 へ進みます。
- 内線番号を入力する代わりに で内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
1000
↑↓：候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

5 で［6：不在理由設定］を選択して、確定を押す

≪不在転送設定≫
4発番号別転送
5不在転送一括設定
6不在理由設定

6 編集する不在理由（1 ～ 9 のいずれか）を選択して、確定を押す

- 理由が登録されている場合、項目名は登録された文字列で表示されます。
- 初期設定では、1：外出中、2：会議中、3：来客中、4：食事中、5：出張中、6：休暇中、7：帰宅、8：直帰、9：直行直帰が表示されます。
- 不在理由の名称が未登録の場合「不在理由 1」～「不在理由 9」のように表示されます。

≪不在理由≫
1外出中
2会議中
3来客中

7 で［1：登録］を選択して、確定を押す

≪不在理由 1 ≫
外出中
1登録
2削除

8 不在理由を編集 / 入力して、確定を押す

- 文字入力の操作については、「1-4 文字入力方法」（➡ P.20）を参照してください。

≪不在理由 1 ≫　＜全＞
外出中で
短縮：入力ﾓｰﾄﾞ切替
漢

↓ 確定

≪不在理由≫
1外出中です
2会議中
3来客中

- 編集 / 入力した不在理由が保存され、「不在理由」メニュー画面が表示されます。
- 未入力状態で確定を押した場合は、不在理由が削除されます。

転送先を移動先の内線に変更する（フォロミー）

自分の席の電話機にかかってくる内線着信を、移動先の内線に転送するように登録することができます（フォロミー）。フォロミー操作を行うと、自分の席の電話機が不在 ON に設定されます。フォロミー操作は、移動先の内線電話機から行います。
以下の操作説明では、自分の内線番号は 10、移動先の内線番号は 11 として説明します。

1 **移動先の内線電話機（例：内線 11）で、（不在）を押す**

2 **で不在理由を選択して、＊を押す**

- 自分の席の電話機（内線 10）にかかってきた電話の相手に知らせたい不在理由を選択します。
- 不在理由は、9 種類（1：外出中、2：会議中、3：来客中、4：食事中、5：出張中、6：休暇中、7：帰宅、8：直帰、9：直行直帰）の中から選択できます（初期設定の場合）。

```
不在理由選択
1外出中
2会議中
3来客中
```

3 **自身の内線番号をダイヤル（例：内線番号 10）して、確定を押す**

```
≪内線対象指定≫
10

↑↓：候補検索
```

↓ 確定

```
                    内線 11
１０月２４日（木）
 午前　９：００
```

- 登録完了音が鳴ります。
- 自分の席の電話機が不在 ON に設定されます（転送先は移動先の内線電話）。
- 自分の席の電話機のディスプレイには、手順 2 で選択した不在理由が表示されます。不在理由を設定していない場合は、「不在登録＜不在＞」と表示されます。

```
                    内線 10
１０月２４日（木）　午前　９：００
不在登録〈外出中〉
```

MEMO

- 移動先または自分の席の電話機で、不在理由が初期設定値から変更されている場合は、移動先の電話機で選択した不在理由（手順 2）と自内線の電話機のディスプレイに表示される不在理由に相違が発生します。自内線の電話機のディスプレイには、手順 2 で選択した「不在理由番号」と一致した不在理由が表示されます。
- フォロミー操作は、所属テナントに関係なく操作することができます。
- フォロミー操作では、自内線を不在 OFF に設定することはできません。
- アナログ電話機、デジタルコードレス電話機（UM）、SIP 電話機でのフォロミー登録はできません。

一定時間応答しないときに転送する（無応答転送）

外線 / 専用線または内線からの着信に一定時間応答しなかったとき、あらかじめ設定した転送先へ転送することができます（無応答転送）。ここでは、個別着信への無応答転送の設定について説明します。
一般系着信（一般着信、DGL 着信、MSA 着信）への無応答転送については、「一定時間応答しないときに転送する（一般系無応答転送）」（➡ P.125）を参照してください。

無応答転送の設定では、転送先と、着信後に無応答転送されるまでの時間（無応答タイマ）を設定します。無応答転送の設定は内線電話機ごとに設定します。電話機のサービスメニューおよび Web 設定から設定できます。一般ユーザ電話機では自内線のみ設定でき、システム管理電話機では自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。

ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

無応答時に転送されるまでの時間（無応答タイマ）を設定する（個別着信時）

個別着信後に無応答転送されるまでの時間（無応答タイマ）を設定します。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［3：無応答転送設定］を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
1 不在転送設定
2 話中転送設定
3 無応答転送設定

4 無応答転送を設定する内線電話を指定して、確定を押す

- 一般ユーザ電話機の場合、「内線対象指定」画面は表示されません。手順 5 へ進みます。
- 内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
1000
↑↓：候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

5 で［5：個別無応答タイマ設定］を選択して、確定を押す

≪無応答転送設定≫
3 専用線着信転送
4 無応答転送一括設定
5 個別無応答ﾀｲﾏ設定

6 個別無応答タイマ（3 桁）を入力して、確定を押す

001 ～ 180 秒の間の値を入力します。初期設定は 30 秒です。

≪個別無応答ﾀｲﾏ≫
030 秒

(001 ～ 180 秒)

指定した内線電話にタイマが設定され、「無応答転送設定」メニュー画面に戻ります。

無応答転送先を設定する（個別着信時）

着信回線の種別ごとに無応答転送の転送先を設定します。
システム管理電話機と一般ユーザ電話機の両方から設定できます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4転送設定
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［3：無応答転送設定］を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
1不在転送設定
2話中転送設定
3無応答転送設定

4 無応答転送を設定する内線電話を指定して、確定を押す

- 一般ユーザ電話機の場合、「内線対象指定」画面は表示されません。手順５へ進みます。
- 内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
1000
↑↓：候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、３行目に内線名称が表示されます。

5 で着信回線の種別を選択して、確定を押す

［1：内線着信転送］、［2：外線着信転送］、［3：専用線着信転送］、［4：無応答転送一括設定］のいずれかから選択します。

※［4：無応答転送一括設定］を選択すると、すべての着信に対して、同じ転送先を設定できます。

≪無応答転送設定≫
1内線着信転送
2外線着信転送
3専用線着信転送

6 で転送先種別を選択し、確定を押す

- 手順５で［1：内線着信転送］を選択した場合は、［1：内線転送］、［2：外線転送］、［3：内線代表転送］、［4：DGL グループ］、［5：転送無し＜着信＞］のいずれかから選択します。
- 手順５で［1：内線着信転送］以外を選択した場合の転送先種別の選択肢とそれ以降の設定項目については、「無応答転送の設定項目（個別着信時）」（➡ P.124）を参照してください。

≪内線着信転送≫
1内線転送＊
2外線転送
3内線代表転送

以降の操作は、選択した転送先種別によって異なります。ここでは、［1：内線転送］を選択した場合の例で説明します。

7 （手順６で［1：内線転送］を選択した場合）転送先の内線電話を指定して、確定を押す

内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫

↑↓：候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、３行目に内線名称が表示されます。

8 転送時にツインコール（同時呼出）をするかどうかを選択して、確定を押す

［1：ツインコール有り］を選択すると、転送時に、転送先と転送元（内線）を同時に呼び出すことができます。

※ツインコールは、転送先が内線または外線のときに選択できます。

≪ﾂｲﾝｺｰﾙ指定≫
1ﾂｲﾝｺｰﾙ有り
2ﾂｲﾝｺｰﾙ無し＊

指定した内線の無応答転送の転送先設定が登録され、「無応答転送設定」画面に戻ります。

無応答転送の設定項目（個別着信時）

無応答転送（個別着信）の設定内容は、選択した着信種別や転送先種別によって異なります。以下の表を参照して設定してください。

着信種別	転送先種別	転送先と設定内容		
[1：内線着信転送]	[1：内線転送]	転送先の内線番号	ツインコールあり	指定した内線へ転送します。（転送元は着信継続）
			ツインコールなし	指定した内線へ転送します。（転送元は着信停止）
	[2：外線転送]	転送先の相手先番号	番号種別（外線 / 特番展開 /PBX/ 方路選択）※ 1	ツインコールあり
				ツインコールなし
	[3：内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[4：DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
	[5：転送無し＜着信＞]	どこにも転送されません。		
[2：外線着信転送]	[1：内線転送]	転送先の内線番号	ツインコールあり	
			ツインコールなし	
	[2：外線転送]	相手先番号	番号種別（外線 / 特番展開 /PBX/ 方路選択）※ 1	ツインコールあり
				ツインコールなし
	[3：ガイダンス応答録音]（ボイスメールへ転送）	応答ガイダンス	固定ガイダンス 1/2（録音有り）	録音先のメールボックス番号 1 ～ 4 桁
				メッセージ録音通知の有無と録音通知方法
			固定ガイダンス 1/2（録音無し）	応答ガイダンスのみ流します。
			ユーザガイダンス（録音有り）	ガイダンス番号 00 ～ 99。録音先のメールボックス番号 1 ～ 4 桁。
				メッセージ録音通知の有無と録音通知方法
			ユーザガイダンス（録音無し）	ガイダンス番号 00 ～ 99
		終了ガイダンス	固定ガイダンス	終了ガイダンスのみ流します。
			ユーザガイダンス	ガイダンス番号 00 ～ 99
	[4：内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[5：一般着信]	個別着信として受けた着信を着信テナントへの一般着信に変換します。		
	[6：DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
	[7：MSA グループ]	転送先の MSA グループ番号		
	[8：転送無し＜着信＞]	どこにも転送されません。		
[3：専用線着信転送]	[1：内線転送]	転送先の内線番号	ツインコールあり	
			ツインコールなし	
	[2：外線転送]	転送先の相手先番号	番号種別（外線 / 特番展開 /PBX/ 方路選択）※ 1	ツインコールあり
				ツインコールなし
	[3：ガイダンス応答録音]（ボイスメールへ転送）	選択できる転送先と設定内容は、[2：外線着信転送] － [3：ガイダンス応答録音] と同じです。		
	[4：内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[5：DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
	[6：転送無し＜着信＞]	どこにも転送されません。		
[4：無応答転送一括設定]	[1：内線転送]	内線番号		
	[2：外線転送]	相手先番号	番号種別（外線 / 特番展開 /PBX/ 方路選択）※ 1	ツインコールあり
				ツインコールなし
	[3：内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[4：DGL グループ]	DGL グループ番号		
	[5：転送無し＜着信＞]	どこにも転送されません。		
	[6：無応答転送一括解除]	すべての着信に対する転送設定を解除します。		
[5：個別無応答タイマ設定]		個別無応答タイマの値を設定します。		

（※ 1）[外線] は、回線を指定せず、使用できるいずれかの外線で転送したいときに選択します。
[特番展開] は、電話番号として閉番号を利用する場合に選択します。また、外線着信の場合は転送リモコン特番を指定して転送リモコンを開始（➡ P.136）することもできます（特番については「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照）。
[PBX] は、主装置に接続されている構内交換機（PBX）を経由して外線へ転送するときに選択します。
[方路選択] は、方路を指定して転送したいときに選択します（方路 = 回線の束）。
閉番号と方路番号の設定については、販売店にご確認ください。

MEMO

- 転送先を外線にした場合、相手先番号入力時に、を押すと電話帳に登録されている相手先電話番号を入力することができます。
- [転送先種別] は初期設定では、[転送無し＜着信＞] が選択されていて、無応答時でも転送せずに着信します。
- 無応答時に留守番電話のようにボイスメールが応答（無応答代行）するように設定するには、転送先種別として「ガイダンス応答録音」を選択し、着信時に流す応答ガイダンスを選択したあと、「録音あり」を選択して録音先のメールボックス番号を入力します。詳細は第 5 章の「各種代行機能」（➡ P.245）を参照してください。

一定時間応答しないときに転送する(一般系無応答転送)

外線 / 専用線または内線からの着信に一定時間応答しなかったとき、あらかじめ設定した転送先へ転送することができます(一般系無応答転送)。ここでは、一般系着信(一般着信、DGL 着信、MSA 着信)への無応答転送の設定について説明します。個別着信への無応答転送については、「一定時間応答しないときに転送する(無応答転送)」(➡P.122)を参照してください。

無応答転送の設定では、転送先と、着信後に無応答転送されるまでの時間(無応答タイマ)を設定します。
無応答転送の設定は、着信の種類によって、以下の単位で設定します。

- 一般着信 → 外線ごと(一般着無応答転送設定)
- DGL 着信 → DGL グループごと(DGL 無応答転送設定)
- MSA 着信 → MSA グループごと(MSA 無応答転送設定)

システム管理電話機のサービスメニューから設定できます。

無応答時に転送されるまでの時間(無応答タイマ)を設定する(一般系着信時)

一般系着信(一般着信、DGL 着信、MSA 着信)の着信後に無応答転送されるまでの時間(無応答タイマ)を設定します。外線 / 専用線からの着信(一般着信 /DGL 着信 /MSA 着信)と、内線からの着信(DGL 着信)に分けて設定します。システム管理電話機から設定します。

外線 / 専用線からの着信の場合(一般着信 /DGL 着信 /MSA 着信)

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [4 : 転送設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4転送設定
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で [8 : 一般無応答転送設定] を選択して、確定を押す

[6 : DGL 無応答転送設定] (DGL 着信時の無応答転送を設定する場合)、[7 : MSA 無応答転送設定] (MSA 着信時の無応答転送を設定する場合)、[8 : 一般無応答転送設定] (一般着信時の無応答転送を設定する場合)のいずれかから選択します。

≪転送設定≫
6DGL 無応答転送設定
7MSA 無応答転送設定
8一般無応答転送設定

以降の操作は、選択した転送先種別によって異なります。ここでは、[8 : 一般無応答転送設定] を選択した場合の例で説明します。

4 タイマを設定する回線(回線シーケンス番号)を指定して、確定を押す

回線シーケンス番号(外線 No)を入力する代わりにで番号を順番に検索することができます。

≪外線 No 指定≫
--
↑↓ : 候補検索

5 で [2 : 一般無応答タイマ指定] を選択して、確定を押す

≪一般無応答設定≫
1一般無応答転送
2一般無応答ﾀｲﾏ指定

6 無応答タイマ(3 桁)を入力して、確定を押す

001 ～ 180 秒の間の値を入力します。初期設定は 30 秒です。

≪一般無応答ﾀｲﾏ≫
030 秒
(001 ～ 180 秒)

指定した回線(回線シーケンス番号)に無応答タイマが設定され、「一般無応答設定」メニュー画面に戻ります。

MEMO

外線 / 専用線からの DGL 着信時の無応答転送の設定では、000 ～ 180 秒の間の値を入力します(初期値:0 秒)。DGL 無応答タイマの値を 0 秒に設定すると、転送されず着信したままの状態になります。

内線からの着信の場合（DGL 着信）

内線からの DGL 着信時の無応答タイマの値は、昼夜モードごとに設定することができます。昼夜モードについては「時間帯により着信形式を切り替える（夜間モード切替）」（➡ P.146）を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4転送設定
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［6：DGL 無応答転送設定］を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
6DGL 無応答転送設定
7MSA 無応答転送設定
8一般無応答転送設定

4 タイマを設定する DGL グループを指定して、確定を押す

DGL グループ番号を入力する代わりに で DGL グループ番号を順番に検索することができます。

≪ DGL ｸﾞﾙｰﾌﾟ指定≫
No>--
↑↓：候補検索

入力したグループ番号に名称が登録されている場合には、3 行目に DGL グループ名称が表示されます。

5 で［3：内線無応答タイマ指定］を選択して、確定を押す

≪ DGL 無応答設定≫
1DGL 無応答転送
2DGL 無応答ﾀｲﾏ指定
3内線無応答ﾀｲﾏ指定

6 でタイマを設定する昼夜モードを選択して、確定を押す

［1：昼］、［2：夜間 A-1］［3：夜間 A-2］［4：夜間 A-3］［5：夜間 B］のいずれかから選択します。

≪昼夜ﾓｰﾄﾞ指定≫
1昼
2夜間 A－1
3夜間 A－2

7 内線無応答タイマ（3 桁）を入力して、確定を押す

000 ～ 180 秒の間の値を入力します。初期設定は 0 秒です。

≪昼-無応答ﾀｲﾏ≫
000 秒

(000 ～ 180 秒)

指定した DGL グループに内線無応答タイマが設定され、「DGL 無応答設定」メニュー画面に戻ります。

MEMO

内線無応答タイマの値を 0 秒に設定すると、転送されず着信したままの状態になります。

無応答転送の転送先を設定する（一般系着信時）

一般着信、DGL 着信、MSA 着信に対する無応答転送先をそれぞれ設定します。
システム管理電話機から設定します。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4転送設定
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［6：DGL 無応答転送設定］を選択して、確定を押す

［6：DGL 無応答転送設定］（DGL 着信時の無応答転送を設定する場合）、［7：MSA 無応答転送設定］（MSA 着信時の無応答転送を設定する場合）、［8：一般無応答転送設定］（一般着信時の無応答転送を設定する場合）のいずれかから選択します。

≪転送設定≫
6DGL 無応答転送設定
7MSA 無応答転送設定
8一般無応答転送設定

以降の操作は、選択した転送先種別によって異なります。ここでは、［6：DGL 無応答転送設定］を選択した場合の例で説明します。
他の着信種別を選択した場合の設定項目については、「無応答転送の設定項目（一般系着信時）」（➡P.128）を参照してください。

4 転送先を設定する DGL グループを指定して、確定を押す

DGL グループ番号を入力する代わりにで DGL グループを順番に検索することができます。

≪ DGL ｸﾞﾙｰﾌﾟ指定≫
No>---
↑↓：候補検索

入力したグループ番号に DGL グループ名称が登録されている場合には、3 行目に DGL グループ名称が表示されます。

5 で［1：DGL 無応答転送］を選択して、確定を押す

≪ DGL 無応答設定≫
1DGL 無応答転送
2DGL 無応答ﾀｲﾏ指定
3内線無応答ﾀｲﾏ指定

6 で転送先種別を選択し、確定を押す

［1：内線転送］、［2：DGL グループ］、［3：MSA グループ］、［4：一般着信］、［5：外線転送］、［6：ガイダンス応答録音］、［7：転送無し＜着信＞］のいずれかから選択します。

≪ DGL 無応答転送≫
1内線転送
2DGL ｸﾞﾙｰﾌﾟ
3MSA ｸﾞﾙｰﾌﾟ

以降の操作は、選択した転送種別によって異なります。ここでは、［1：内線転送］を選択した場合について説明します。
他の種別を選択した場合の設定項目については、「無応答転送の設定項目（一般系着信時）」（➡P.128）を参照してください。

7 （手順 6 で［1：内線転送］を選択した場合）転送先の内線電話を指定して、確定を押す

内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫

↑↓：候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

指定した DGL グループの転送設定が登録され、「DGL 無応答設定」画面に戻ります。

無応答転送の設定項目（一般系着信時）

一般系着信の無応答転送の設定内容は、着信種別や転送先種別によって異なります。以下の表を参照して設定してください。

着信種別	設定対象	設定項目	転送先種別	転送先と設定内容		
[6：DGL 無応答転送設定]（DGL 着信）						
	DGL グループ	[1：DGL 無応答転送]	[1：内線転送]	転送先の内線番号		指定した内線へ転送します。
			[2：DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
			[3：MSA グループ]	転送先の MSA グループ番号		
			[4：一般着信]	受けた着信を着信テナントへの一般着信に変換します。		
			[5：外線転送]	相手先番号	番号種別（外線 / 特番展開 /PBX/ 方路選択）※ 1	
			[6：ガイダンス応答録音] （ボイスメールへ転送）	応答ガイダンス	固定ガイダンス 1/2（録音有り）	録音先のメールボックス番号 1 ～ 4 桁
						メッセージ録音通知の有無と録音通知方法
					固定ガイダンス 1/2（録音無し）	応答ガイダンスのみ流します。
					ユーザガイダンス（録音有り）	ガイダンス番号 00 ～ 99。録音先のメールボックス番号 1 ～ 4 桁
						メッセージ録音通知の有無と録音通知方法
					ユーザガイダンス（録音無し）	ガイダンス番号 00 ～ 99
				終了ガイダンス	固定ガイダンス	終了ガイダンスのみ流します。
					ユーザガイダンス	ガイダンス番号 00 ～ 99
			[7：転送無し ＜ 着信 ＞]	どこにも転送されません。		
		[2：DGL 無応答タイマ指定]	着信後に無応答転送するまでの時間を 0 ～ 180 秒の間で指定します（初期値：0 秒、転送無し）。			
		[3：内線無応答タイマ指定]	内線からの着信後に無応答転送するまでの時間を、昼夜モードごとに 0 ～ 180 秒の間で指定します（初期値：0 秒、転送無し）。 昼夜モード（0: 昼 /1: 夜間 A-1/2: 夜間 A-2/3: 夜間 A-3/4: 夜間 B）			
[7：MSA 無応答転送設定]（MSA 着信）						
	MSA グループ	[1：MSA 無応答転送]	選択できる転送先種別および設定内容は、DGL 無応答転送と同じです。			
		[2：MSA 無応答タイマ指定]	着信後に無応答転送するまでの時間を 1 ～ 180 秒の間で指定します（初期値：30 秒）。			
[8：一般無応答転送設定]（一般着信）						
	外線番号	[1：一般無応答転送]	選択できる転送先種別および設定内容は、DGL 無応答転送と同じです			
		[2：一般無応答タイマ指定]	着信後に無応答転送するまでの時間を 1 ～ 180 秒の間で指定します（初期値：30 秒）。			

（※ 1）[外線] は、回線を指定せず、使用できるいずれかの外線で転送したいときに選択します。
[特番展開] は、電話番号として閉番号を利用する場合に選択します。また、外線着信の場合は転送リモコン特番を指定して転送リモコンを開始（➡ P.136）することもできます（特番については「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照）。
[PBX] は、主装置に接続されている構内交換機（PBX）を経由して外線へ転送するときに選択します。
[方路選択] は、方路を指定して転送したいときに選択します（方路 = 回線の束）。
閉番号と方路番号の設定については、販売店にご確認ください。

MEMO

- 転送先を外線にした場合、相手先番号入力時に、を押すと電話帳に登録されている相手先電話番号を入力することができます。
- [転送先種別] は初期設定では、[7：転送無し ＜ 着信 ＞] が選択されていて、無応答時でも転送せずに着信します。
- 無応答時に留守番電話のようにボイスメールが応答（無応答代行）するように設定するには、転送先種別として「ガイダンス応答録音」を選択し、着信時に流す応答ガイダンスを選択したあと、「録音あり」を選択して録音先のメールボックス番号を入力します。詳細は第 5 章の「各種代行機能」（➡ P.245）を参照してください。

圏外の電話機にかかってきた電話を転送する（圏外転送）

無線圏外にあるか、または電源が OFF の電話機（マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）、デジタルコードレス電話機（UM）、または SIP 電話機）に、外線 / 専用線または内線からの個別着信があったとき、あらかじめ設定した転送先へ着信を転送することができます（圏外転送）。

圏外転送の設定は、システム管理電話機のサービスメニューおよび Web 設定から、自テナントグループ内の内線を指定して、内線ごとに設定できます。

ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

圏外転送の転送先を設定する

着信回線の種別ごとに圏外転送の転送先を設定します。システム管理電話機から設定します。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4転送設定
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［4：圏外転送設定］を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
4圏外転送設定
5外線転送設定
6DGL 無応答転送設定

4 圏外転送を設定する内線電話を指定して、確定を押す

内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
1000
↑↓：候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

5 で着信種別を選択して、確定を押す

［1：内線着信転送］、［2：外線着信転送］、［3：専用線着信転送］、［4：圏外転送一括設定］のいずれかから選択します。

※［4：圏外転送一括設定］を選択すると、すべての着信に対して、同じ転送先を設定できます。

≪圏外転送設定≫
1内線着信転送
2外線着信転送
3専用線着信転送

6 で転送先種別を選択し、確定を押す

- 手順 5 で［1：内線着信転送］を選択した場合は、［1：内線転送］、［2：外線転送］、［3：内線代表転送］、［4：DGL グループ］、［5：転送無し＜切断＞］のいずれかから選択します。
- 手順 5 で［1：内線着信転送］以外を選択した場合の転送先種別の選択肢とそれ以降の設定項目については、「圏外転送の設定項目」（➡ P.130）を参照してください。

≪内線着信転送≫
1内線転送*
2外線転送
3内線代表転送

以降の操作は、選択した転送先種別によって異なります。ここでは、［1：内線転送］を選択した場合について説明します。

7 （手順 6 で［1：内線転送］を選択した場合）転送先の内線電話を指定して、確定を押す

内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫

↑↓：候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

圏外転送の転送先設定が登録され、「圏外転送設定」画面に戻ります。

圏外転送の設定項目

圏外転送の設定内容は、選択した着信種別や転送先種別によって異なります。以下の表を参照して設定してください。

着信種別	転送先種別	転送先と設定内容		
[1:内線着信転送]	[1:内線転送]	転送先の内線番号	指定した内線へ転送します。	
	[2:外線転送]	転送先の 相手先番号	番号種別(外線 / 特番展開 /PBX/ 方路選択)※ 1	
	[3:内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[4:DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
	[5:転送無し < 切断 >]	転送せずに切断します。		
[2:外線着信転送]	[1:内線転送]	転送先の内線番号		
	[2:外線転送]	相手先番号	番号種別(外線 / 特番展開 /PBX/ 方路選択)※ 1	
	[3:ガイダンス応答録音] (ボイスメールへ転送)	応答ガイダンス	固定ガイダンス 1/2 (録音有り)	録音先のメールボックス番号 1 ～ 4 桁
				メッセージ録音通知の有無 と録音通知方法
			固定ガイダンス 1/2 (録音無し)	応答ガイダンスのみ流します。
			ユーザガイダンス (録音有り)	ガイダンス番号 00 ～ 99。録音先の メールボックス番号 1 ～ 4 桁
				メッセージ録音通知の有無 と録音通知方法
			ユーザガイダンス (録音無し)	ガイダンス番号 00 ～ 99
		終了ガイダンス	固定ガイダンス	終了ガイダンスのみ流します。
			ユーザガイダンス	ガイダンス番号 00 ～ 99
	[4:内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[5:一般着信]	個別着信として受けた着信を着信テナントへの一般着信に変換します。		
	[6:DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
	[7:MSA グループ]	転送先の MSA グループ番号		
	[8:転送無し < 切断 >]	転送せずに切断します。		
[3:専用線着信転送]	[1:内線転送]	転送先の内線番号		
	[2:外線転送]	転送先の 相手先番号	番号種別(外線 / 特番展開 /PBX/ 方路選択)※ 1	
	[3:ガイダンス応答録音] (ボイスメールへ転送)	選択できる転送先と設定内容は、[2:外線着信転送] − [3:ガイダンス応答録音] と同じです。		
	[4:内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[5:DGL グループ]	転送先の DGL グループ番号		
	[6:転送無し < 切断 >]	転送せずに切断します。		
[4:圏外転送一括設定]	[1:内線転送]	内線番号		
	[2:外線転送]	相手先番号	番号種別(外線 / 特番展開 /PBX/ 方路選択)※ 1	
	[3:内線代表転送]	自内線が所属する内線グループへ転送されます。		
	[4:DGL グループ]	DGL グループ番号		
	[5:転送無し < 切断 >]	転送せずに切断します。		
	[6:圏外転送一括解除]	すべての着信に対する転送設定を解除します。		

(※ 1) [外線] は、回線を指定せず、使用できるいずれかの外線で転送したいときに選択します。
[特番展開] は、電話番号として閉番号を利用する場合に選択します。
[PBX] は、主装置に接続されている構内交換機(PBX)を経由して外線へ転送するときに選択します。
[方路選択] は、方路を指定して転送したいときに選択します(方路 = 回線の束)。
閉番号と方路番号の設定については、販売店にご確認ください。

MEMO

- 転送先を外線にした場合、相手先番号入力時に、を押すと電話帳に登録されている相手先電話番号を入力することができます。
- [転送先種別] は初期設定では、[転送無し < 切断 >] が選択されていて、圏外転送時でも転送せずに切断します。このとき、発信者側には「電波が届かないか子機の電源が切られております。」の圏外ガイダンスが流れます。圏外ガイダンスが流れない場合は、販売店にご相談ください。
- 圏外転送時に留守番電話のようにボイスメールが応答(圏外代行)するように設定するには、転送先種別として「ガイダンス応答録音」を選択し、着信時に流す応答ガイダンスを選択したあと、「録音あり」を選択して録音先のメールボックス番号を入力します。詳細は第 5 章の「各種代行機能」(➡ P.245)を参照してください。

自動転送時の転送先 / 転送元ガイダンスを設定する

自動転送（一般系着信および個別系着信）により、外線着信を外線転送したときに、転送元や転送先にガイダンスを流すことができます。転送元 / 転送先ガイダンスには、固定ガイダンスやユーザが録音したガイダンスを指定することができます。転送元 / 転送先ガイダンスの設定は、システム管理電話機でのみ行うことができます。

- 自動転送（一般系着信）：外線自動転送、一般系着信無応答転送
- 自動転送（個別系着信）：無応答転送、不在転送、圏外転送

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［7：応答ガイダンス管理］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定
9表示設定

3 で［1：転送元ガイダンス設定］または［2: 転送先ガイダンス設定］を選択して、確定を押す

≪応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理≫
1転送元ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ設定
2転送先ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ設定
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>
↑↓：候補検索

入力したテナント番号にテナント名称が登録済みの場合には 3 行目にテナント名称が表示されます。

MEMO

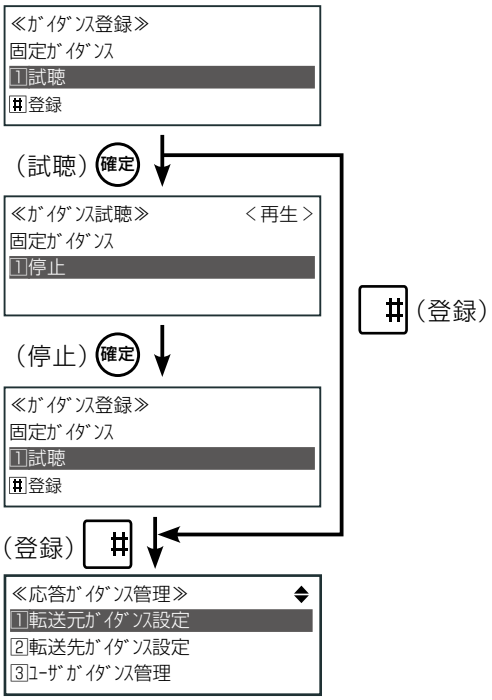
手順 6 で、試聴中にを押すと、試聴する音量を調節することができます。

5 でガイダンスを選択して、確定を押す

≪転送元ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ≫
1ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ無し
2固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ*
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

- ［2: 固定ガイダンス］を選択した場合は「ガイダンス登録」メニューが表示されます。
- ［3: ユーザガイダンス］を選択した場合は「ユーザガイダンス指定」画面が表示されます。

6 で［1：試聴］または［#：登録］を選択して、確定を押す



転送元または転送先へのガイダンスが設定され、「応答ガイダンス管理」画面に戻ります。

ガイダンスの種類		ガイダンス
固定ガイダンス	転送元へのガイダンス	「電話を転送します。そのままお待ちください。」
	転送先へのガイダンス	「転送電話です。電話を転送します。」
ユーザガイダンス	ユーザガイダンス	ユーザガイダンス 00 ～ 99 ※ユーザガイダンスを選択する場合は、事前に、ガイダンスを録音しておいてください。ユーザガイダンスの録音については、第４章の「代行 / 留守番 / IVRの応答ガイダンスを録音する（ユーザガイダンス録音）」（➡P.211）を参照してください。

3-6 通話中に着信があったときの便利な機能

通話中の着信相手に一時待ってもらう（着信ウェイトメッセージ）

通話中に他の外線 / 専用線からの着信があったとき、通話中の電話機でボタンを押すことにより、ガイダンスを送ってその相手に一時待ってもらうようにして保留状態にしておき、通話終了後にその相手の電話に応答することができます（着信ウェイトメッセージ）。

この機能が使用できる着信は、外線 / 専用線からの一般着信、DGL 着信、MSA 着信です。

着信ウェイトメッセージを利用する

通話中に着信が入ると、着信ランプが点滅し、話中着信音が鳴ります。
着信ウェイトメッセージが流れたあと、システム保留、またはパーク保留状態になります。
ここでは、外線 1 の相手と通話中に外線 2 への一般着信があった場合の例で説明します。

1 外線 1 の相手と通話中

（外線 1）ランプは点灯（緑）しています。

2 外線 2 に着信

- （外線 2）ランプと着信ランプが速点滅（赤）します。
- スピーカから話中着信音が聞こえます。

3 （着信ウェイト）を押す

（着信ウェイト）ランプが点灯（赤）します。

4 速点滅（赤）している（外線 2）を押す

- （外線 2）ランプは間隙点灯 2（緑）になります。
- （着信ウェイト）ランプは消灯します。
- かかってきた外線の相手には、着信ウェイトメッセージ（例：「ただいま大変電話が混み合っております。順番におつなぎしますので、そのままお待ちください」）が流れたあと、保留音が流れます。

5 外線 1 の相手との通話が終了したら、いったん受話器を置く

6 再度、受話器を上げて、（外線 2）を押す

- 保留している外線 2 の相手と通話ができる状態になります。
- （外線 2）ランプは点灯（緑）に変わります。

7 通話が終了したら受話器を置く

（外線 2）ランプは消灯します。

MEMO

- （着信ウェイト）は、あらかじめ に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- DGL 着信、MSA 着信のときは、（外線 2）の代わりに、それぞれ（DGL）、（MSA）を押します。
- 手順 4 で、（外線 2）の代わりに（応答）を押しても同じ操作が行えます。
- 間隙点灯 2（緑）などのランプ表示については、第 1 章の「ランプ表示」（➡ P.6）を参照してください。
- 通話中の着信だけでなく、待受状態のときの着信に対しても、同じ操作で着信ウェイトメッセージを流して保留することができます。
- 着信ウェイトメッセージの設定については「着信ウェイトメッセージを設定する」（➡ P.133）を参照してください。
- 話中着信音のオン / オフの設定については、「通話中に外線から電話がかかってきたことがわかるようにする（話中着信音）」（➡ P.93）を参照してください。
- 保留時に流れる保留音や保留メロディの設定については、第 1 章の「保留音の設定」（➡ P.54）を参照してください。

着信ウェイトメッセージを設定する

着信ウェイトメッセージ（ガイダンス）には、固定ガイダンスやユーザが録音したガイダンスを指定することができます。着信ウェイトメッセージの設定は、システム管理電話機でのみ行うことができます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［7：応答ガイダンス管理］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定
9表示設定

3 で［4：着信ウェイトガイダンス］を選択して、確定を押す

≪応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理≫
2転送先ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ設定
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
4着信ｳｪｲﾄｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>

↑↓：候補検索

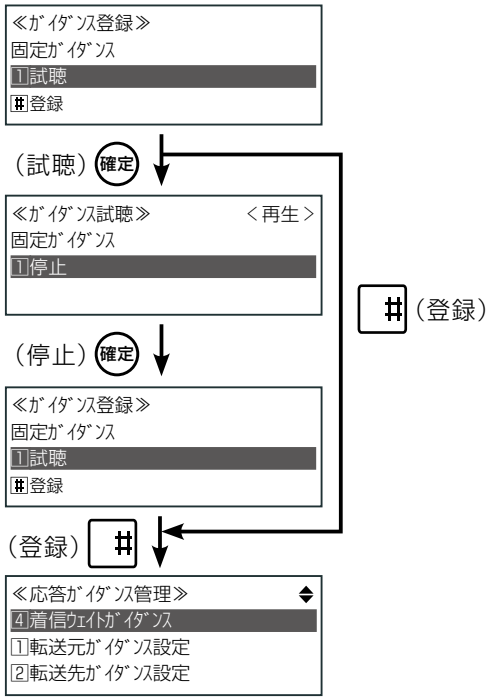
入力したテナント番号にテナント名称が登録済みの場合には 3 行目にテナント名称が表示されます。

5 でガイダンスを選択して、確定を押す

≪着信ｳｪｲﾄｶﾞｲﾀﾞﾝｽ≫
1ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ無し
2固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ*
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

- 「2: 固定ガイダンス」を選択した場合は「ガイダンス登録」メニューが表示されます。
- 「3: ユーザガイダンス」を選択した場合は「ユーザガイダンス指定」画面が表示されます。

6 で［1：試聴］または［#：登録］を選択して、確定を押す



着信ウェイトガイダンスが設定され、「応答ガイダンス管理」画面に戻ります。

MEMO

手順 6 で、試聴中にを押すと、試聴する音量を調節することができます。

ガイダンスの種類	ガイダンス
固定ガイダンス	「ただいま大変電話が混み合っております。順番におつなぎしますので、そのままお待ちください。」（初期設定）
ユーザガイダンス	ユーザガイダンス 00 ～ 99 ※ユーザガイダンスを選択する場合は、事前に、ガイダンスを録音しておいてください。ユーザガイダンスの録音については、第 4 章の「代行 / 留守番 /IVR の応答ガイダンスを録音する（ユーザガイダンス録音）」（➡ P.211）を参照してください。

通話中にかかってきた電話を転送する(話中転送)

通話中に外線 / 専用線または内線からの個別着信があったとき、あらかじめ設定した転送先へ転送することができます(話中転送)。

話中転送の設定は内線電話機ごとに設定します。電話機のサービスメニューおよび Web 設定から設定できます。一般ユーザ電話機では自内線のみ設定でき、システム管理電話機では自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

話中転送の転送先を設定する

着信回線の種別ごとに転送先を設定します。システム管理電話機と一般ユーザ電話機の両方から設定できます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [4:転送設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4転送設定
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で [2:話中転送設定] を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
1不在転送設定
2話中転送設定
3無応答転送設定

4 話中転送を設定する内線電話を指定して、確定を押す

- 一般ユーザ電話機の場合、「内線対象指定」画面は表示されません。手順 5 へ進みます。
- 内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
100
↑↓:候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

5 で着信種別を選択して、確定を押す

[1:内線着信転送]、[2:外線着信転送]、[3:専用線着信転送]、[4:話中転送一括設定] のいずれかから選択します。

※ [4:話中転送一括設定] を選択すると、すべての着信に対して、同じ転送先を設定できます。

≪話中転送設定≫
1内線着信転送
2外線着信転送
3専用線着信転送

6 で転送先種別を選択し、確定を押す

- 手順 5 で [1:内線着信転送] を選択した場合は、[1:内線転送]、[2:内線代表転送]、[3:DGL グループ]、[4:転送無し <CW>] (通話が終わるまで相手に待っていただく(コールウェイティング))、[5:転送無し < 切断 >] のいずれかから選択します。
- 手順 5 で [1:内線着信転送] 以外を選択した場合の転送先種別の選択肢とそれ以降の設定項目については、「話中転送の設定項目」(➡ P.135)を参照してください。

≪内線着信転送≫
1内線転送*
2内線代表転送
3DGL ｸﾞﾙｰﾌﾟ

以降の操作は、選択した転送先種別によって異なります。ここでは、[1:内線転送] を選択した場合の例で説明します。

7 (手順 6 で [1:内線転送] を選択した場合) 転送先の内線電話を指定して、確定を押す

内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
102
↑↓:候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

通話中の転送先が登録され、「話中転送設定」画面に戻ります。

話中転送の設定項目

話中転送の設定内容は、着信種別や転送先種別によって異なります。以下の表を参照して設定してください。

<table>
<tr><th>着信種別</th><th>転送先種別</th><th colspan="3">転送先と設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="5">[1:内線着信転送]</td><td>[1:内線転送]</td><td>転送先の内線番号</td><td colspan="2">指定した内線へ転送します。</td></tr>
<tr><td>[2:内線代表転送]</td><td colspan="3">自内線が所属する内線グループへ転送されます。</td></tr>
<tr><td>[3:DGL グループ]</td><td colspan="3">転送先の DGL グループ番号</td></tr>
<tr><td>[4:転送無し <CW>]</td><td colspan="3">転送せずに、通話が終わるまで相手に待っていただく(コールウェイティング)状態になります。</td></tr>
<tr><td>[5:転送無し < 切断 >]</td><td colspan="3">転送せずに切断します。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">[2:外線着信転送]</td><td>[1:内線転送]</td><td>転送先の内線番号</td><td colspan="2">指定した内線へ転送します。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">[2:ガイダンス応答録音]
(ボイスメールへ転送)</td><td rowspan="6">応答ガイダンス</td><td rowspan="2">固定ガイダンス 1/2(録音有り)</td><td>録音先のメールボックス番号
1 ～ 4 桁</td></tr>
<tr><td>メッセージ録音通知の有無
と録音通知方法</td></tr>
<tr><td>固定ガイダンス 1/2(録音無し)</td><td>応答ガイダンスのみ流します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ユーザガイダンス(録音有り)</td><td>ガイダンス番号 00 ～ 99。録音先のメールボックス番号 1 ～ 4 桁。</td></tr>
<tr><td>メッセージ録音通知の有無
と録音通知方法</td></tr>
<tr><td>ユーザガイダンス(録音無し)</td><td>ガイダンス番号 00 ～ 99</td></tr>
<tr><td rowspan="2">終了ガイダンス</td><td>固定ガイダンス</td><td>終了ガイダンスのみ流します。</td></tr>
<tr><td>ユーザガイダンス</td><td>ガイダンス番号 00 ～ 99</td></tr>
<tr><td>[3:内線代表転送]</td><td colspan="3">自内線が所属する内線グループへ転送されます。</td></tr>
<tr><td>[4:一般着信]</td><td colspan="3">個別着信として受けた着信を着信テナントへの一般着信に変換します。</td></tr>
<tr><td>[5:DGL グループ]</td><td colspan="3">転送先の DGL グループ番号</td></tr>
<tr><td>[6:MSA グループ]</td><td colspan="3">転送先の MSA グループ番号</td></tr>
<tr><td>[7:転送無し < 切断 >]</td><td colspan="3">転送せずに切断します。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">[3:専用線着信転送]</td><td>[1:内線転送]</td><td>転送先の内線番号</td><td colspan="2">指定した内線へ転送します。</td></tr>
<tr><td>[2:ガイダンス応答録音]
(ボイスメールへ転送)</td><td colspan="3">選択できる転送先と設定内容は、[2:外線着信転送] − [3:ガイダンス応答録音] と同じです。</td></tr>
<tr><td>[3:内線代表転送]</td><td colspan="3">自内線が所属する内線グループへ転送されます。</td></tr>
<tr><td>[4:DGL グループ]</td><td colspan="3">転送先の DGL グループ番号</td></tr>
<tr><td>[5:転送無し < 切断 >]</td><td colspan="3">転送せずに切断します。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">[4:話中転送一括設定]</td><td>[1:内線転送]</td><td colspan="3">内線番号</td></tr>
<tr><td>[2:内線代表転送]</td><td colspan="3">自内線が所属する内線グループへ転送されます。</td></tr>
<tr><td>[3:DGL グループ]</td><td colspan="3">DGL グループ番号</td></tr>
<tr><td>[4:転送無し < 切断 >]</td><td colspan="3">転送せずに切断します。</td></tr>
<tr><td>[5:話中転送一括解除]</td><td colspan="3">すべての着信に対する転送設定を解除します。</td></tr>
</table>

MEMO

- メニュー操作中の着信も話中転送の対象となります。ただし、電話機独自のローカルメニュー中(機種依存)は除きます。
- 通話中に着信したときに、留守番電話のようにボイスメールが応答(話中代行)するように設定するには、転送先種別として「ガイダンス応答録音」を選択し、着信時に流す応答ガイダンスを選択したあと、「録音あり」を選択して録音先のメールボックス番号を入力します。詳細は第 5 章の「各種代行機能」(➡ P.245)を参照してください。

3-7 外出先からの便利な機能

外出先から設定を変更する(転送リモコン)

外出先から、外線自動転送モード(➡ P.110)や不在設定の ON/OFF(➡ P.119)を変更することができます。
この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号(PB)を送ることができるものを使用してください。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

外出先から会社に電話をかけて転送リモコンを開始する

1 外出先から会社に電話をかける

- この機能が使用できる電話番号に電話してください。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。
- 電話がつながったあとは、それぞれ場合により以下の手順へ進んでください。

電話の状態	操作手順
付加番号 DID ガイダンス中	手順 2 へ
着サブ DID 外線別個別着信(DIL) モデムダイヤルイン /i・ナンバー 一般系着信に一定時間無応答(➡P.125)(外線自動転送モードが OFF の場合) 発番号 DID	手順 3 へ

※上の電話機の状態の詳細については、「A-1 用語説明」(➡P.414)のそれぞれの項を参照してください。

2 転送リモコン特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡P.418)を参照してください。
- 特番を押すと、転送リモコンが開始され、「内線番号を入力してください。」というガイダンスが流れます。

3 (自分の)内線番号をダイヤルする

- 先頭の「0」は無効です。
- [＊]を押すと、入力したダイヤル番号を取り消して、再度ダイヤルすることができます。
- [#]を押すと、転送リモコンを終了して、電話が切れます。
- 転送リモコン用暗証番号が設定されていない場合は、内線番号の最後の桁のダイヤルが終わると、「サービス番号をどうぞ」というガイダンスが流れます。手順 5 へ進んでください。
- 転送リモコン用暗証番号が設定されている場合は、「暗証番号を入力してください」というガイダンスが流れます。手順 4 へ進んでください。

MEMO

発番号 DID のときは、転送リモコン用暗証番号を入力する必要はありません。手順 5 へ進んでください。

4 転送リモコン用暗証番号(4 桁)を入力する

- 転送リモコン用暗証番号はテナントごとに設定されています(0 ～ 9 の 4 桁の番号)。
- 最後の桁の入力が終わると、「サービス番号をどうぞ」というガイダンスが流れます。

5 各サービスを選択して操作する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

サービス番号	操作
0	外線自動転送モードの選択(➡P.137)
1	不在モードON/OFFの選択(➡P.137)
2 ～ 9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
[＊]	内線番号の入力に戻り、ガイダンスが流れます。
[#]	転送リモコンを終了します。

MEMO

初期設定では、転送リモコン用暗証番号は設定されていません。「転送リモコン用暗証番号を登録 / 変更する」(➡P.138)を参照して、設定してください。

外出先から外線自動転送モードを変更する

1 外出先から会社に電話をかけて、転送リモコンを開始する

「外出先から会社に電話をかけて転送リモコンを開始する」（➡ P.136）の手順 1 ～ 4 を操作します。

2 [0] を押す（外線自動転送モード切替）

外線自動転送モード選択のためのガイダンス「番号を入力してください」が流れます。

3 外線自動転送モードの番号を入力する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

番号	操作
0	外線自動転送モードが解除されます。
1 ～ 8	外線自動転送モードをモード 1 ～ 8 に切り替えます。
9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
[＊]	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
[#]	転送リモコンを終了します。

番号を入力すると、確認音が鳴ります。

4 操作を終了する場合は、[#] を押す

選択した設定は保存され、転送リモコンを終了して、電話が切れます。

MEMO

転送リモコンで変更できる外線自動転送モードは、リモコン開始時に指定した内線が所属するテナントのモードになります。外線自動転送を行うには外線自動転送設定（➡ P.103）が必要です。

外出先から不在設定の ON/OFF を切り替える

1 外出先から会社に電話をかけて、転送リモコンを開始する

「外出先から会社に電話をかけて転送リモコンを開始する」（➡ P.136）の手順 1 ～ 4 を操作します。

2 [1] を押す（不在モード切替）

不在モード選択のためのガイダンス「番号を入力してください」が流れます。

3 不在モード選択の番号を入力する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

番号	操作
0	不在モードを OFF に設定します。
1 ～ 9	不在モードを ON を設定すると同時に、不在理由 1 ～ 9 を指定します。
[＊]	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
[#]	転送リモコンを終了します。

番号を入力すると、確認音が鳴ります。

4 操作を終了する場合は、[#] を押す

選択した設定は保存され、転送リモコンを終了して、電話が切れます。

MEMO

- 不在転送設定は転送リモコンで設定することはできません。「不在転送先を設定する（不在転送設定）－サービスメニュー－」（➡ P.113）を参照して設定してください。
- 不在理由 1 ～ 9 は、初期設定では、1：外出中、2：会議中、3：来客中、4：食事中、5：出張中、6：休暇中、7：帰宅、8：直帰、9：直行直帰です。

転送リモコン用暗証番号を登録 / 変更する

テナントごとに転送リモコン用暗証番号を持つことができます。暗証番号により他テナントの人が無断で、外出先から操作を行うのを防ぐことができます。システム管理電話機からのみ登録 / 変更が可能です。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [4：転送設定] を選択して、確定を押す

```
≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
```

3 で [9：転送リモコン用暗証番号] を選択して、確定を押す

```
≪転送設定≫
7 MSA 無応答転送設定
8 一般無応答転送設定
9 転送リモコン用暗証番号
```

4 暗証番号を登録 / 変更するテナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

```
≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>■---

↑↓：候補検索
```

入力したテナント番号にテナント名称が登録済みの場合は、3 行目にテナント名称が表示されます。

5 暗証番号（4 桁）を入力して、確定を押す

- 暗証番号には、0 ～ 9 の 4 桁の数字を登録できます。
- 新規登録の場合は、以下の画面が表示されます。登録する暗証番号を入力したあと、確認用に再度同じ暗証番号を入力してください。

```
≪暗証番号設定≫
新暗証番号＞＊＊＊＊
確認　　＞＊＊＊＊
```

- すでに登録されている場合は、以下のような画面が表示されます。旧暗証番号と新暗証番号、および確認用に再度、新暗証番号を入力してください。

```
≪暗証番号設定≫
旧暗証番号＞＊＊＊＊
新暗証番号＞＊＊＊＊
確認　　＞＊＊＊＊
```

- 暗証番号を入力すると画面には「＊」が表示されます。
- 登録が終わると、登録完了音が鳴り、「転送設定」メニュー画面に戻ります。

MEMO

- 手順 5 で、旧暗証番号を入力したあと、新暗証番号を入力しないで確定を押すことで、暗証番号なしが設定できます。
- 暗証番号が分からなくなった場合は、初期化することができます。初期化は工事者が行います。販売店にご相談ください。

外出先から留守番電話機能を利用する(留守リモコン)

外出先から、留守番モードの切替や、留守番で指定したメールボックスのメッセージの再生 / 削除ができます。
この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号(PB)を送ることができるものを使用してください。

外出先から会社に電話をかけて留守リモコンを開始する

1 外出先から会社に電話をかける

留守番モードになっている外線の電話番号に電話してください。

留守番モードの設定は、社内の多機能電話機または**Web設定**から行います。第5章の「留守番機能」(➡ P.224)を参照してください。

※留守リモコンを使用すると、外出先からでも留守番モードを設定 / 解除することができます(サービス番号 1)。

2 電話がつながったら、留守番ガイダンスが流れている間に [＊] を押す

留守リモコンが開始され、「留守番設定モードです。内線番号を入力してください。」というガイダンスが流れます。

3 (自分の)内線番号をダイヤルする

- 先頭の「0」は無効です。
- [＊] を押すと、入力したダイヤル番号を取り消して、再度ダイヤルすることができます。
- [#] を押すと、留守リモコンを終了して、電話が切れます。

- 留守リモコン用暗証番号が設定されていない場合は、内線番号の最後の桁のダイヤルが終わると、「サービス番号をどうぞ」というガイダンスが流れます。手順 5 へ進んでください。
- 留守リモコン用暗証番号が設定されている場合は、「暗証番号を入力してください」というガイダンスが流れます。手順 4 へ進んでください。

4 留守リモコン用暗証番号(4 桁)を入力する

- 留守リモコン用暗証番号はテナントごとに設定されています(0 ～ 9 の 4 桁の番号)。
- 最後の桁の入力が終わると、「サービス番号をどうぞ」というガイダンスが流れます。

MEMO

初期設定では、留守リモコン用暗証番号は設定されていません。「留守リモコン用暗証番号を登録 / 変更する」(➡ P.142)を参照して、設定してください。

5 各サービスを選択して操作する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

サービス番号	操作
1	留守番モード変更(➡ P.140)
2	応答ガイダンス変更(➡ P.141)
3	終了ガイダンス変更(➡ P.141)
4 ～ 7	留守番グループ A ～ D の動作選択(➡ P.141)
8	メッセージ録音通知の有無と録音通知方法(➡ P.141)
9	留守番録音用メールボックスへのアクセス(➡ P.141)
0	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
[＊]	内線番号の入力に戻り、ガイダンスが流れます。
[#]	留守リモコンを終了します。

MEMO

手順 2 で、会社の電話が留守番モードではなく、以下のような状態だった場合は、それぞれの操作手順へ進んでください。

電話の状態	操作手順
付加番号 DID ガイダンス中	留守番リモコン特番を押したあと、手順 3 へ
着サブ DID 外線別個別着信(DIL) モデムダイヤルイン /i・ナンバー 発番号 DID	手順 3 へ

- 電話の各状態の詳細については、「A-1 用語説明」(➡ P.414)のそれぞれの項を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。
- 発番号 DID のときは、留守リモコン用暗証番号を入力する必要はありません。手順 3 で内線番号をダイヤルしたあと、手順 5 へ進んでください。

外出先から留守番モードを切り替える

在宅モード、留守番モードを切り替えます。

1 外出先から会社に電話をかけて、留守リモコンを開始する

「外出先から会社に電話をかけて留守リモコンを開始する」（➡ P.139）の手順 1 ～ 4 を操作します。

2 サービス番号 1 を押す（留守番モード変更）

留守番モード選択のためのガイダンス「番号を入力してください」が流れます。

3 留守番モードの番号を入力する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

番号	操作
1	在宅モードにします。
2	留守番モードにします。
0、3 ～ 9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
＊	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
#	留守リモコンを終了します。

番号を入力すると、確認音が鳴ります。

4 操作を終了する場合は、# を押す

選択した設定は保存され、留守リモコンを終了して、電話が切れます。

MEMO

- 留守リモコンで変更できる留守番モードは、リモコン開始時に指定した内線が所属するテナントのモードになります。
- 留守リモコンで指定した内線番号が未登録だったり、暗証番号の入力誤り、無効のサービス番号を指定した場合などは、エラー音が鳴り、それぞれの入力待ち状態に戻ります。3 回入力に失敗すると、その時点で回線が切断されます。入力に成功すると、失敗回数は初期化されます。

外出先から利用 / 切替できる留守番電話機能

留守リモコンでは、留守番モードの切り替えのほかに、以下のようなサービス機能を利用できます。
各機能を利用するには、「外出先から会社に電話をかけて留守リモコンを開始する」(➡P.139)の手順１～４を操作したあと、以下のそれぞれのサービス番号と機能番号を入力します。

■ 応答ガイダンス変更(サービス番号:2)

留守番応答(応答録音 / 応答専用共通)時の応答ガイダンスを変更します。

機能番号	操作
1	固定ガイダンス 1 に変更します。
2	固定ガイダンス 2 に変更します。
3	ユーザ録音ガイダンスの選択をします。(ガイダンス番号の入力待ちとなります)
0、4～9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
＊	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
#	留守リモコンを終了します。

■ 終了ガイダンス変更(サービス番号:3)

録音終了時の終了ガイダンスを変更します。

機能番号	操作
1	なしにします。
2	固定ガイダンスにします。
3	ユーザ録音ガイダンスの選択をします。(ガイダンス番号入力待ちとなります)
0、4～9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
＊	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
#	留守リモコンを終了します。

■ 留守番グループ A ～ D の動作選択(サービス番号:4 ～ 7)

留守番グループ A ～ D の動作(なし / 応答録音 / 応答専用)をそれぞれ変更します。

機能番号	操作
1	なし(在宅)にします。
2	応答録音にします。
3	応答専用にします。
0、4～9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
＊	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
#	留守リモコンを終了します。

■ メッセージ録音通知の有無と録音通知方法(サービス番号:8)

メッセージ録音通知の有無と録音通知方法を指定します。

機能番号	操作
1	なしにします。
2	電話呼出にします。
3	E メール通知にします。
4	電話呼出・E メール両方通知にします。
0、5～9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
＊	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
#	留守リモコンを終了します。

■ 留守番録音用メールボックスへのアクセス(サービス番号 9)

留守番録音用メールボックスにアクセスします。

留守リモコンからメールボックスへアクセスする場合は、テナント内で共通に利用できる「共通メールボックス」に直接アクセスします(クイックログオン)。メールボックス番号は指定する必要はありません。共通メールボックス番号としてシステムで指定されています。

メールボックスへ接続したあとの操作については、第５章の「メールサービスを利用する」(➡P.259)を参照してください。

MEMO

留守リモコンからメールアクセスを選択したあとは、留守リモコンに戻ることはできません。

留守リモコン用暗証番号を登録 / 変更する

テナントごとに留守リモコン用暗証番号を持つことができます。暗証番号により他テナントの人が無断で、外出先から操作を行うのを防ぐことができます。システム管理電話機からのみ登録 / 変更が可能です。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [5：録音関連設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で [1：留守番設定] を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
1 留守番設定
2 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3 ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除

4 暗証番号を登録 / 変更するテナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>---
↑↓：候補検索

入力したテナント番号のテナント名称が登録済みの場合は、3 行目にテナント名称が表示されます。

5 で [6：留守番リモコン暗証番号] を選択して、確定を押す

≪留守番設定≫
4 留守番動作（自動）
5 留守番切替指定
6 留守番ﾘﾓｺﾝ暗証番号

6 暗証番号（4 桁）を入力して、確定を押す

- 暗証番号には、0 ～ 9 の 4 桁の数字を登録できます。
- 新規登録の場合は、以下の画面が表示されます。登録する暗証番号を入力したあと、確認用に再度同じ暗証番号を入力してください。

≪暗証番号設定≫
新暗証番号＞＊＊＊＊
確認　　＞＊＊＊＊

- すでに登録されている場合は、以下のような画面が表示されます。旧暗証番号と新暗証番号、および確認用に再度、新暗証番号を入力してください。

≪暗証番号設定≫
旧暗証番号＞＊＊＊＊
新暗証番号＞＊＊＊＊
確認　　＞＊＊＊＊

- 暗証番号を入力すると画面には「＊」が表示されます。
- 登録が終わると、登録完了音が鳴り、「留守番設定」メニュー画面に戻ります。

MEMO

- 手順 6 で、旧暗証番号を入力したあと、新暗証番号を入力しないで確定を押すことで、暗証番号なしが設定できます。
- 暗証番号が分からなくなった場合は、初期化することができます。初期化は工事者が行います。販売店にご相談ください。

外出先から電話して各種機能を利用する(付加番号 DID)

着信形式として「付加番号 DID」が設定されていると、外出先から、指定された電話番号に電話をかけると、自動応答してダイヤル入力を促すガイダンスが流れます。
ガイダンスが流れたあと、内線番号や各種特番をダイヤル入力して、外出先から直接社内の着信先を選ぶことができます(ダイヤルイン着信)。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号(PB)を送ることができるものを使用してください。

外出先から直接内線に電話する

外出先から、指定された電話番号に電話をかけて、内線番号をダイヤルすることにより、内線を直接呼び出すことができます。この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号(PB)を送ることができるものを使用してください。

1 外出先から会社に電話をかける

- この機能が使用できる電話番号に電話してください。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。
- 電話がつながると、自動応答して次のようなガイダンスが流れます。

  例:『こちらはダイヤルイン電話です。プッシュホンでおかけの方は続けて内線番号をダイヤルしてください。ダイヤルでおかけの方はしばらくお待ちください。』

2 内線番号をダイヤルする

相手が電話に出ると、通話できる状態になります。

MEMO

- 一定時間以内に内線番号をダイヤルしなかった場合は、以下のようなリトライガイダンスが流れます。
  例 1:「別の内線番号をダイヤルしてください」
  例 2:「もう一度ダイヤルしてください」
- ダイヤル先の内線番号の相手が、一定時間、電話に出なかった場合は、設定により以下のいずれかになります。
  ・リトライガイダンスが流れる
  ・無応答転送(➡ P.122)が動作し、電話が転送される
  ・電話が切れる

外出先から直接電話できる着信先

付加番号 DID 機能を使用すると、内線以外にも、外出先から以下のような着信先に電話することができます。

着信先	自動応答後にダイヤルする番号
内線	内線番号
外線 / 専用線(閉番号)	閉番号、迂回閉番号(専用線のみ)
外線 / 専用線(開番号)	方路選局特番+相手番号、迂回方路選局+相手番号(専用線のみ) 共通電話帳特番+電話帳メモリ番号(SIP 専用線は対象外) **参照:**「1-7 電話帳の登録」(➡ P.37)
DGL グループ	DGL グループ呼出特番+ DGL グループ番号 **参照:**「指定したグループの内線電話を着信音で一斉に呼び出す(内線 DGL 呼出)」(➡ P.91)
MSA グループ	MSA グループ呼出特番+ MSA グループ番号
ボイスメールシステム	メールアクセス特番 **参照:**第 5 章の「メールサービスを利用する」(➡ P.259)
リモコン	各種リモコン特番 **参照:** ●「外出先から設定を変更する(転送リモコン)」(➡ P.136) ●「外出先から留守番電話機能を利用する(留守リモコン)」(➡ P.139)
外部スピーカ	外部スピーカ呼出特番+外部スピーカ番号 **参照:**第 4 章の「構内放送装置との接続」(➡ P.201)

※上記の各特番については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。
※自動応答後のダイヤル番号として、[*]を押した場合はリトライ、[#]を押した場合は着信テナントへの一般着信となります。

外出先から会社のシステムを使って電話をかける(リモートコールバック)

外出しているときでも、会社のシステム(主装置)を使って電話をかけることができます。これにより自分の携帯電話での課金を避けることができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

この機能を利用するには、以下の操作を順に行います。

1. 共通電話帳グループの 1 つにリモートコールバック機能を設定します(以下の項を参照)。
2. 外出先で利用する携帯電話の電話番号を共通電話帳に登録しておきます。
   登録時は 1 で設定したグループを選択してください。
   ※電話帳への登録方法については、「1-7 電話帳の登録」(➡ P.37)を参照してください。
3. 登録した携帯電話で外出先から会社に電話をかけて、すぐに切ります(ワン切り)。
4. 会社のシステム(主装置)は、登録された携帯電話の電話番号からの着信が途中で放棄(ワン切り)されたことを検知すると、折り返し携帯電話に発信します(リモートコールバック)。
5. 携帯電話で応答したあと、プッシュ信号(PB 信号)で電話番号をダイヤルします(次ページの項を参照)。
   これで、会社のシステム(主装置)を使って電話をかけることになります。

電話帳グループにリモートコールバック機能を設定する

リモートコールバック機能を利用するには、まず、特定の共通電話帳グループにリモートコールバック機能を設定しておく必要があります。ここではその設定方法について説明します。この操作は、システム管理電話機からのみ行うことができます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [2:電話帳] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
1 履歴(発信 / 着信)
2 電話帳
3 内線一覧

3 で [4:電話帳グループ] を選択して、確定を押す

≪電話帳≫
2 一覧表示
3 番号検索
4 電話帳ｸﾞﾙｰﾌﾟ

「電話帳指定」メニューが表示されます。

4 で [1:共通電話帳] を選択して、確定を押す

≪電話帳指定≫
1 共通電話帳
2 個別電話帳

5 でグループ番号またはグループ名を選択して、確定を押す

≪共通-ｸﾞﾙｰﾌﾟ指定≫
1 ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0
2 ｸﾞﾙｰﾌﾟ 1
3 ｸﾞﾙｰﾌﾟ 2

※グループ名称が登録済みの場合にはグループ名称が表示されます。

6 で [2:リモートコールバック] を選択して、確定を押す

≪共通-グループ 1≫
1 ｸﾞﾙｰﾌﾟ名称
2 ﾘﾓｰﾄｺｰﾙﾊﾞｯｸ
3 着信ﾗﾝﾌﾟ

7 で [1:する] を選択して、確定を押す

≪共通-ﾘﾓｰﾄｺｰﾙﾊﾞｯｸ≫
1 する
2 しない*

※リモートコールバック設定の初期値は [2:しない] です。

指定したグループに対して、リモートコールバックが設定され、手順 6 の画面に戻ります。

リモートコールバック応答後の電話のかけかた

外出先で携帯電話でリモートコールバックに応答したあとは、プッシュ信号（PB）で電話番号をダイヤルします。以下の表に示すような操作を行うと、社内から電話をかけるのと同じように「内線呼出」、「DGL 呼出」、「MSA 呼出」、「外線 / 専用線発信」、「一般着信」を行うことができます。

機能	ダイヤルする番号	動作
内線呼出	内線番号	内線を呼び出します。
DGL 呼出	DGL グループ呼出特番 + グループ番号	DGL グループを呼び出します。
MSA 呼出	MSA グループ呼出特番 + グループ番号	MSA グループを呼び出します。
外線 / 専用線発信	方路選局特番 + 電話番号	指定した方路から外線 / 専用線へ発信します。
一般着信	[#]	着信テナントへ一般着信します。
キャンセル	[*] + [*]	リモコン操作をキャンセルします。
リモコン終了	[*] + [#]	リモコン操作を終了します。

※ 外出先からの操作のことを「リモコン」と記載しています。
※ 各特番については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

MEMO

- リモートコールバックに応答すると、リモートコールバックであることを伝えるガイダンス「会社からのコールバックです。続けて内線番号を入力してください。」が流れ、そのあと、リモートコールバックの内線発信音が聞こえてプッシュホン信号（PB）待ちとなります。
- リモートコールバック応答後は、内線 / 外線 / 専用線にかけることができます。

3-8 便利な機能設定

時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)

昼休みや夜間などの特定の時間帯に、着信先を切り替えたり、着信音を鳴らす電話機 / 鳴らさない電話機を指定することができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

この機能を利用するには、「昼間」「夜間 A-1」「夜間 A-2」「夜間 A-3」「夜間 B」の 5 種類のモード(昼夜モード)にそれぞれ着信形式や着信鳴動指定などを指定します(着信先の設定・切替などは工事者が行います)。
各モードの切替方法には、特定の時間帯で切り替わるようにスケジューリングで設定する自動切替と、電話機のメニューで切り替えたり、機能を登録したオートダイヤルボタン(または特番)を押すことによって切り替える手動切替があります。各モード中はそれぞれの設定に従って着信します。
昼夜モードは、テナントごとに切り替えることができます。

夜間モードがセットされると、電話機のディスプレイに以下のようなマークがピクト表示されます。また、(夜間切替)ランプが点灯(赤または緑)します。自テナント以外の(夜間切替)ランプも、テナントのモードに連動し点灯します。外字ピクトについては、以下の表と第 1 章の「ディスプレイ表示」(➡ P.4)を参照してください。

モード	ピクト表示	(夜間切替)ランプ
昼間		消灯
夜間 A-1、夜間 A-2、夜間 A-3	夜間A 1、夜間A 2、夜間A 3	点灯(赤)
夜間 B	夜間B	点灯(緑)

夜間モードを手動で切り替える

夜間モードの手動切替は、（夜間切替）を押すことにより行います。（夜間切替）が割り付けてある、どの電話機からでも切り替え可能です。また、自テナント以外の夜間モードを切り替えることもできます。

MEMO

この機能を使う前に、あらかじめ（夜間切替）を に登録しておきます。「夜間切替」を に割り付けるとき、付加情報 1 に対象のテナント（テナント番号 00 ～ 99）を登録し、付加情報 2（ワンタッチ切替）にボタンを押したときの動作（以下のいずれか）を登録します（登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照）。

- ディスプレイに昼夜モードの一覧を表示する（「ワンタッチ切替」に「なし」を登録）
- 指定した夜間モードに切り替える（「ワンタッチ切替」に「夜間 A-1」「夜間 A-2」「夜間 A-3」「夜間 B」のいずれかを登録）

ワンタッチで切り替える

1 **（夜間モードに切り替えるには）消灯している（夜間切替）を押す**

- （夜間切替）に登録されている夜間モードに切り替わります。
- （夜間切替）ランプは点灯します（赤または緑）。
- 電話機のディスプレイに夜間モードを示す外字ピクトが表示されます。

2 **（昼間モードに戻すには）点灯している（夜間切替）を押す**

- 昼間モードに切り替わります。
- （夜間切替）ランプは消灯します。
- ディスプレイに表示されていた夜間モードを示す外字ピクトは表示されなくなります。

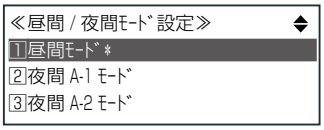
MEMO

- スケジュールに設定されている現在の時間帯のモードとこの操作で設定したモードに相違があっても、切替時間が来るまでは、選択したモードが保たれます。その後、スケジュールに設定された切替時間になったとき、昼夜モードの切替設定が「自動優先」に設定されている場合は、スケジュールに従ったモードに切り替わります。
- （夜間切替）の代わりに夜間切替特番を押すこともできます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

モード一覧から選択して切り替える（ワンタッチ切替なし）

1 **（夜間切替）を押す**

- 電話機のディスプレイに夜間モード一覧が表示されます。
- 現在選択されているモードが、＊が付いた状態で 1 番上の行に選択状態で表示されます。



2 **指定したい夜間モードを選択して、（確定）を押す**

選択できる項目は以下のとおりです。

1：昼間モード	4：夜間 A-3 モード
2：夜間 A-1 モード	5：夜間 B モード
3：夜間 A-2 モード	＊：スケジュールに従う

「スケジュールに従う」を選択した場合、「手動優先」でもスケジュールに従います。

夜間モードを自動で切り替える

あらかじめ昼間モードと夜間モードの切替時間をスケジュール設定しておくことにより、曜日と時間帯により夜間モードが自動的に切り替わるように設定できます。

スケジュール設定では、日～土と休日 / 祝祭日のそれぞれに対して、1 日を 1 ～ 10 の時間帯に分けて、時間帯ごとに動作を設定します。

工事設定

昼夜モードの切替設定（自動優先 / 手動優先）の初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。設定変更については、販売店にご相談ください。

昼間 / 夜間モードの切替時間（夜間自動切替時間帯）スケジュールについては、販売店にご相談ください。

MEMO

- 祝祭日 / 休日の設定については、「システムカレンダーを利用する」（➡ P.149）を参照してください。
- 夜間 B は手動切替専用モードです。自動切替は行えません。

1 台の電話機に着信させる（集中着信）

1 台の内線電話に、すべての一般系着信（一般着信、DGL/MSA 着信、ドアホン着信）を着信させることができます（集中着信モード）。集中着信モードとなった内線電話では、同一**テナントグループ**（➡ P.416）内へのすべての一般系着信に、受話器を上げるだけで応答できます。

工事設定

テナントグループの設定については販売店にご相談ください。

この機能は、例えば、すべての従業員が退社したあとかかってきた電話に、守衛室で応答できるようにしたい場合などに便利です。

※集中着信モードが設定されていても、本来の着信先の電話は鳴動します。

集中着信モードの ON/OFF を切り替える

1 **（集中着信モードを ON にするには）消灯している（集中着信）を押す**

- ボタンを押した内線電話が、集中着信モード ON（登録）になります。
- （集中着信）ランプは点灯（赤）します。

2 **（集中着信モードを OFF にするには）点灯している（集中着信）を押す**

- ボタンを押した内線電話が、集中着信モード OFF（解除）になります。
- （集中着信）ランプは消灯します。

MEMO

- この機能を使う前に、あらかじめ（集中着信）を に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- （集中着信）を押す代わりに、集中着信特番を押して集中着信モードの ON/OFF を切り替えることができます。受話器を上げたあと、「集中着信特番」+ ア1（ON）または 0（OFF）を押して、集中着信モードの ON/OFF ができます。
  特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 集中着信モードの内線で応答すると、内線が所属するテナントの共通着信履歴に蓄積されます。

システムカレンダーを利用する

会社や部門ごとの営業形態に合わせ、特定の日にちや曜日を休日としてカレンダーに登録できます。さらに、会社の創立記念日など、特定の日を祝祭日として登録することもできます。祝祭日の設定も、毎年固定の日付にするか、第一月曜日など、変動する形式にするかを選ぶことができます。また、年により変動する休日や祝祭日は、年月日を指定して設定することができます。

祝祭日(祝祭日登録)はシステム単位、休日(特定日登録(➡P.416))はテナント単位で設定します。これにより、着信設定や自動転送などを動作させるとき、任意の日や曜日を休日モードまたは平日モードとして動作させることができます。

また、タイマ連動機能(スケジュール設定)を利用すると、着信設定や夜間モード、留守モードなど、以下の表の各種機能の動作を曜日(および休日 / 祝祭日)と時間帯により自動で切り替えることができます。

毎年決まった祝祭日や特定日の登録、休日 / 平日パターンの登録(システムカレンダーの設定)は、電話機のサービスメニューと Web 設定から設定できます。また、年月日で指定する祝祭日や特定日の登録、およびタイマ連動機能の設定は、Web 設定からのみ設定できます。

ここでは、サービスメニューを使用したシステムカレンダーの設定について説明します。Web 設定での操作については『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

※ サービスメニューでの変更・登録は、システム管理電話(➡ P.7)からのみ行うことができます。

■ システムカレンダーとタイマ連動設定を利用して自動切替できる機能

	機能名	参照先
①	留守番モード自動切替	第 5 章の「自動で留守番モードを設定 / 解除する(留守番モード自動切替)」(➡ P.233) および、『取扱説明書(Web 設定編)』
②	外線自動転送モード自動切替	本章の「外線自動転送モードを自動で ON/OFF するように設定する(外線自動転送モード自動切替)」(➡ P.111) および、『取扱説明書(Web 設定編)』
③	夜間モード切替(自動 / 手動)	本章の「時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)」(➡ P.146)
④	サービスクラス切替(自動 / 手動)	−
⑤	チャイムタイマ連動	本章の「チャイム音を鳴らす時刻を設定する(チャイムタイマ連動)」(➡ P.160) および、『取扱説明書(Web 設定編)』
⑥	セーフティタイマ連動	『取扱説明書(セーフティ編)』および、『取扱説明書(Web 設定編)』

MEMO

- 祝祭日および特定日の各設定で同じ日が重複して登録されている場合は、以下の優先順位で休日または平日として扱われます。

優先順位	設定	参照先
高 ↑	特定日設定(年月日指定)	『取扱説明書(Web 設定編)』
	特定日設定(月日指定)	P.153
	祝祭日設定(年月日指定)	『取扱説明書(Web 設定編)』
	祝祭日設定(月日指定)	P.150
	祝祭日設定(変動日指定)	P.151
↓ 低	特定日設定(曜日指定)	P.153

<例>同じ日がそれぞれ以下のように設定されているとき

(A) 対象日は「休日」として扱われます。
- 特定日設定(年月日指定):休日
- 特定日設定(月日指定):平日

(B) 対象日は「平日」として扱われます。
- 特定日設定(年月日指定):平日
- 祝祭日設定(年月日指定):祝祭日

- 振替休日は、登録した祝祭日に応じて自動的に設定されます。振替休日が特定日設定と重なった場合は、特定日設定が優先されます。
- 初期設定では、土曜日と日曜日は休日として設定されています。土曜日または日曜日が営業日の場合は、休日設定を変更してください。
- 祝祭日が休日の場合は、翌日が振り替え休日に設定され休日設定となります。土曜日(または日曜日)を営業日に変更すると、土曜日(または日曜日)が祝祭日の場合でもその翌日は振り替え休日になりませんので、ご注意ください。
- うるう年でも自動的に日付が更新されます。

システム全体の毎年決まった祝祭日を設定する

祝祭日は、年間で最大 64 日まで登録できます。国民の祝日などはあらかじめ初期設定値として登録されています。ただし、春分の日と秋分の日は、年により日付が前後するので登録し直す必要があります。

※ Web 設定を使用すると、春分の日と秋分の日を 10 年分まとめて登録することができます(『取扱説明書(Web 設定編)』参照)。

祝祭日を日付ごとに登録する(祝祭日設定(月日指定))

指定した日付を祝祭日として登録できます。日付はシステムカレンダーの各登録エリア(00 ~ 31)に登録します。お買い上げ時の設定では、以下の日付が祝祭日としてあらかじめ登録されています。

登録エリア番号	日付	祝祭日
00	1 月 1 日	元日
01	2 月 11 日	建国記念の日
02	3 月 21 日	春分の日
03	4 月 29 日	昭和の日
04	5 月 3 日	憲法記念日
05	5 月 4 日	みどりの日
06	5 月 5 日	こどもの日
07	8 月 11 日	山の日
08	9 月 23 日	秋分の日
09	11 月 3 日	文化の日
10	11 月 23 日	勤労感謝の日
11	2 月 23 日	天皇誕生日
12	未登録	−
:	:	−
31	未登録	−

※重複登録はできません。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [0:その他] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
8音設定
9表示設定
0その他

3 で [3:カレンダー / 時計設定] を選択して、確定を押す

≪その他≫
1ｼｽﾃﾑ情報
2ｼｽﾃﾑ設定
3ｶﾚﾝﾀﾞｰ / 時計設定

4 で [2:祝祭日登録] を選択して、確定を押す

≪ｶﾚﾝﾀﾞｰ / 時計設定≫
1日時変更
2祝祭日登録
3特定日登録

5 で [1:固定月日登録] を選択して、確定を押す

≪祝祭日登録≫
1固定月日登録
2変動日登録

6 登録エリア番号を指定して、確定を押す

登録エリア番号の代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪固定月日登録≫
No>31
未登録
↑↓:候補検索

指定したエリア番号(00 ~ 31)に日付が登録済みの場合は、3 行目に日付が表示されます。

つづく➡

7 ◎で[2:日付]を選択して、確定を押す

エリア番号を修正する場合は、日付の前に[1:No]を選択して、番号を修正してください。

≪固定月日登録≫
1No　>31
2日付>未登録
#登録

8 日付を入力して、確定を押す

≪固定月日登録≫
10月24日

- 月の入力範囲:01 ～ 12
- 日の入力範囲:01 ～ 31

9 ◎で[#:登録]を選択して、確定を押す

≪固定月日登録≫
1No　>31
2日付>10月24日
#登録

指定した日付が祝祭日として登録され、「祝祭日登録」メニュー画面に戻ります。

ただし、重複登録の場合はエラー音が鳴り、登録されません。

MEMO

ここで設定した祝祭日は自動的に翌年に引き継がれます。Web 設定を使用すると、テナントごとに年月日を指定して祝祭日を設定し直すことができます(『取扱説明書(Web 設定編)』参照)。

祝祭日を曜日ごとに登録する(祝祭日設定(変動日指定))

ハッピーマンデー(1 月第 2 月曜日の成人の日など)のように、毎年変動する日を祝祭日として登録できます。
祝祭日としたい月、週、曜日(例えば、1 月第 2 月曜日など)をシステムカレンダーの各登録エリア(00 ～ 31)に登録します。
以下の変動日が祝祭日としてあらかじめ登録されています。

登録エリア番号	変動日	祝祭日
00	1 月第 2 月曜日	成人の日
01	10 月第 2 月曜日	スポーツの日
02	7 月第 3 月曜日	海の日
03	9 月第 3 月曜日	敬老の日
04	未登録	−
:	:	−
31	未登録	−

※重複登録はできません。

1 サービスメニューで「祝祭日登録」メニュー画面を表示する

上の操作手順 1 ～ 4 を操作します。

2 ◎で[2:変動日登録]を選択して、確定を押す

3 登録エリア番号を指定して、確定を押す

4 ◎で[2:日付]を選択して、確定を押す

5 月、週、曜日を入力して、確定を押す

≪変動日登録≫
--月. 第-. 一曜日

0～6: 日曜日～土曜日

- 月の入力範囲:01 ～ 12
- 第の入力範囲:1 ～ 5
- 曜日の入力範囲:0<日>～6<土>

6 ◎で[#:登録]を選択して、確定を押す

指定した月、週、曜日が祝祭日として変動日登録され、「祝祭日登録」メニュー画面に戻ります。

テナントで使用する休日パターンを指定する

システム全体で 8 パターンの平日 / 休日の組み合わせを登録することができます。
平日 / 休日パターンは、テナントごとに設定します。ここでは、パターン番号 00 ～ 07 をテナントに設定する操作について説明します。

1 サービスメニューで「カレンダー / 時計設定」画面を表示する

「システム全体の毎年決まった祝祭日を設定する」の「祝祭日を日付ごとに登録する（祝祭日設定（月日指定））」（➡ P.150）の手順 1 ～ 3 を操作します。

2 で [4：休日パターン] を選択して、確定を押す

≪ｶﾚﾝﾀﾞｰ / 時計設定≫
2 祝祭日登録
3 特定日登録
4 休日ﾊﾟﾀｰﾝ

3 パターン番号を設定するテナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりに で、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>01
技術開発グループ
↑↓：候補検索

入力したテナント番号にテナント名称が登録済みの場合は、3 行目にテナント名称が表示されます。

4 でパターン番号を選択して、確定を押す

- パターンは、00 ～ 07 までの 8 パターンから選択できます。
- 現在、テナントで選択されていたパターンには「＊」が付いています。

≪休日ﾊﾟﾀｰﾝ≫
1 ﾊﾟﾀｰﾝ 00
2 ﾊﾟﾀｰﾝ 01
3 ﾊﾟﾀｰﾝ 02 ＊

- 選択したパターンが登録され、「カレンダー / 時計設定」メニュー画面に戻ります。

MEMO

各テナントに設定した休日パターンは自動的に翌年に引き継がれます。Web 設定を使用すると、テナントごとに年月日を指定して特定日（休日 / 平日のパターン）を設定し直すことができます（『取扱説明書（Web 設定編）』参照）。

自テナントの毎年決まった休日(特定日)を登録する

自テナントの休日 / 平日パターンを変更・登録します。以下の 2 通りの方法で設定できます。

休日 / 平日を曜日ごとに登録する(特定日設定(曜日指定))

1 サービスメニューで「カレンダー / 時計設定」画面を表示する

「システム全体の毎年決まった祝祭日を設定する」の「祝祭日を日付ごとに登録する(祝祭日設定(月日指定))」(➡ P.150)の手順 1 ～ 3 を操作します。

2 で [3:特定日登録] を選択して、確定を押す

≪カレンダー / 時計設定≫
1日時変更
2祝祭日登録
3特定日登録

MEMO

初期設定では、土曜日と日曜日は休日として設定されています。土曜日または日曜日が営業日の場合は、休日設定を変更してください。

3 で [1:曜日指定] を選択して、確定を押す

≪特定日登録≫
1曜日指定
2固定月日登録

4 各曜日に平日 0 か休日 1 かを指定して、確定を押す

≪曜日指定≫
日 月 火 水 木 金 土
1 0 0 0 0 0 1
0 / 1:平日 / 休日

「曜日指定」画面では、0 または 1 を入力すると自動的にカーソルが次の曜日へ移動します。

指定した曜日の平日 / 休日が特定日登録され、「特定日登録」メニュー画面に戻ります。

休日 / 平日を日付ごとに登録する(特定日設定(月日指定))

指定した日付を休日または平日として、年間で最大 64 日まで登録できます。日付は 64 の登録エリア(00 ～ 63)に登録することができます(重複登録はできません)。

1 サービスメニューで「特定日登録」画面を表示する

上記の操作手順 1 ～ 2 を操作します。

2 で [2:固定月日登録] を選択して、確定を押す

≪特定日登録≫
1曜日指定
2固定月日登録

3 登録エリア番号(00 ～ 63)を指定して、確定を押す

で、前候補 / 次候補を表示できます。

≪固定月日登録≫
No>01
未登録
↑↓:候補検索

4 で [2:日付] を選択して、確定を押す

登録エリア番号を修正する場合は、日付の前に [1:No] を選択して、番号を修正してください。

≪固定月日登録≫
1No　>01
2日付>未登録
3種別>平日

5 日付を入力して、確定を押す

≪固定月日登録≫
10 月 24 日

- 月の入力範囲:01 ～ 12
- 日の入力範囲:01 ～ 31

6 で [3:種別] を選択して確定を押す

≪固定月日登録≫
1No　>01
2日付>10 月 24 日
3種別>平日

7 で [1:平日] または [2:休日] を選択して、確定を押す

≪固定月日登録≫
1平日*
2休日

8 で [#:登録] を選択して、確定を押す

≪固定月日登録≫
2日付>10 月 24 日
3種別>平日
#登録

指定した日付が休日または平日として特定日登録され、「特定日登録」メニュー画面に戻ります。

2 つの機能を 1 つの操作で設定できるようにする(W 機能セット)

2 つの機能モードを同時に設定したり解除することができます。

W 機能で組み合わせができるのは以下の機能です。以下の組み合わせの機能が登録された W 機能の機能特番、W 機能の特番、または (W 機能)を押すことで、登録された 2 つの機能を同時に設定 / 解除することができます。

W 機能種別	設定できる 2 つの機能
外線自動転送&留守番	・外線自動転送モード(1 ～8) ・留守番モード
外線自動転送&手動夜間設定	・外線自動転送モード(1 ～8) ・手動夜間設定(1 ～ 5)
留守番&手動夜間設定	・留守番モード ・手動夜間設定(1 ～ 5)
着信鳴動拒否&不在モード	・外線着信鳴動拒否設定 ・不在設定(不在モード)(1 ～ 9)

2 つの機能モードを同時に設定 / 解除する

1 **(設定する場合)**
消灯している (W 機能)を押す

登録されている 2 つの機能モードが設定状態になり、 (W 機能)ランプは点灯(赤)します。

※ 留守番や外線転送など、モードを設定する際に必要な設定が行われていない場合は、エラー音が鳴り、設定状態になりません。

2 **(解除する場合)**
遅点滅(赤)中または点灯(赤)中の (W 機能)を押す

登録されている 2 つの機能が解除され、 (W 機能)ランプは消灯します。

MEMO

- この機能を使う前に、あらかじめ (W 機能)を に登録しておきます。W 機能ボタンを登録する場合は、付加情報として 2 機能を指定します。登録方法および付加情報については、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)、「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。
- (W 機能)を押す代わりに W 機能の機能特番を押すこともできます。「A-5 機能特番の一覧」(➡ P.424)を参照してください。
- に、機能特番を登録してワンタッチダイヤルとして使用することもできます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能特番を登録する(ワンタッチ割付)」(➡ P.32)を参照してください。
- W 機能に登録されている 2 つの機能のうちの片方が設定状態(W 機能以外の操作またはスケジュールにより)になった場合は、 (W 機能)ランプは遅点滅(赤)します。
- (W 機能)の代わりに、W 機能の特番を押すこともできます。「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。

電話機のボタン操作をロックする(電話機操作規制(キーロック))

キーロック操作により、電話機からのボタン操作を規制できます。

MEMO

この機能は、多機能電話機とコードレス電話機(WSd)のみ操作可能です。

キーロックを設定 / 解除する

キーロックを設定する

1 (フラッシュ)を押したままにする(5 秒以上)

- 電話機のディスプレイに「キーロック」画面が表示されます。
- 「キーロック」画面が表示されたら、ボタンを離します。

2 ◎で[はい]を選択して、(確定)を押す

≪キーロック≫
設定しますか?
はい
いいえ

↓ (確定)

≪キーロック≫
設定しました

↓

内線 10
１０月２４日(木)
午前　９：００
🔒

ディスプレイにキーロックされていることを示す🔒がピクト表示されます。

キーロックを解除する

1 キーロックされている電話機で、(フラッシュ)を押したままにする(5 秒以上)

- 電話機のディスプレイに「キーロック」画面が表示されます。
- 「キーロック」画面が表示されたら、ボタンを離します。

≪キーロック≫
解除しました

↓

内線 10
１０月２４日(木)
午前　９：００

- ディスプレイに表示されていたキーロックのピクト表示🔒が消えます。

MEMO

キーロック中に有効な操作は以下のとおりです。無効な操作を行った場合は、電話機のディスプレイに「キーロック中です この電話機は現在使用できません」と表示されます。

①キーロック解除操作
②内線発信操作
③各種着信自動応答操作
④終話操作
⑤音量調節操作

3-9 便利なお知らせ機能

応答できなかった着信のお知らせ機能を利用する(不応答着信(個別)お知らせ)

応答できなかった外線個別着信があったことを、着信ランプおよび電話機のディスプレイに表示するように設定して、不応答着信があったことが分かるようにできます。

この機能を設定しておくと、不応答着信があったときには、着信ランプ・電話機のディスプレイに以下のように表示されます。

- 着信ランプ:遅点滅(7 色)(初期値)
- ディスプレイ表示:「個別着信あり」

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

不応答着信お知らせ表示がキャンセルされる(ランプおよびディスプレイ表示が消える)タイミングは、以下のとおりです。

	キャンセルされるタイミング	参照先
①	個別着信履歴を表示したとき	履歴の表示については、1 章または 2 章の該当する説明(➡P.46、P.66)を参照してください。
②	個別着信履歴を全消去したとき	第2章の「発信履歴/着信履歴から電話する(履歴発信)」(➡P.66)を参照してください。
③	不在転送、無応答転送、話中転送で転送先を呼び出したとき	それぞれ、この章の以下の項を参照してください。 「不在時にかかってきた電話を転送する(不在転送)」(➡P.113) 「一定時間応答しないときに転送する(無応答転送)」(➡P.122) 「通話中にかかってきた電話を転送する(話中転送)」(➡P.134)

MEMO

- 不在代行、話中代行、無応答代行で、「メールボックスへの録音なし」で応答した場合(ガイダンス応答のみの場合)についても、お知らせ表示します。
- 着信ランプ表示色は、システム管理電話機のサービスメニューから変更することができます。着信ランプの変更方法については、第 1 章の「着信ランプ表示色の設定(着信種別や各種状態別)」(➡ P.58)を参照してください。

FAX に着信があったことを内線電話機で表示する(FAX 着信お知らせ)

FAX に外線着信があったことを、内線電話機のボタンのランプ表示、ディスプレイ表示、着信ランプ表示で知らせするように設定することができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

FAX 着信お知らせのタイミングは、内線ごとに指定した FAX が外線着信に応答したときです。テナントごとの FAX 転送先に指定された FAX(第 7 章の「ファクシミリを利用する」(➡ P.332)を参照)とは関係なく、内線ごとに指定した FAX が応答した場合に、お知らせ表示を行います。

この機能を利用する前に、内線ごとに、使用する FAX を指定しておく必要があります。操作方法については「自分の内線電話機で使用する FAX を設定する(内線毎 FAX 指定)」(➡ P.158)を参照してください。

MEMO

- 着信ランプ表示色は、システム管理電話機(➡ P.7)のサービスメニューから変更することができます。着信ランプの変更方法については、第 1 章の「着信ランプ表示色の設定(着信種別や各種状態別)」(➡ P.58)を参照してください。
- FAX の接続と着信設定については、第 7 章の「ファクシミリを利用する」(➡ P.332)を参照してください。

FAX 着信のお知らせを表示 / 確認する

FAX へ着信があったとき、電話機のボタンランプ、着信ランプ、ディスプレイに表示されるように、設定することができます。

1 FAX に着信する

- 電話機の(FAX)ランプは、以下のように点灯 / 点滅します。
  着信中:速点滅(赤)→点灯(赤)
  通信後:遅点滅(緑)
- 着信ランプは、遅点滅(赤)(初期設定)します。
- 電話機のディスプレイには、以下のように表示されます。

```
FAX着信あり          FAX1
 10月24日(木)
  午前   9:00
```

※ FAX2 への着信時は「FAX 2」が表示されます。

2 (FAX お知らせ表示を確認 / 終了するには)待受状態で、遅点滅(緑)している(FAX)を押す

ランプおよびディスプレイ表示が消えて、通常の待受状態に戻ります。

※待受状態ではなく、通話中に(FAX)を押した場合は、FAX 転送動作(➡ P.333)となります。

MEMO

- この機能を使う前に、自分の内線電話機で使用する FAX(FAX1、FAX2 の 2 台まで)を設定しておく必要があります。設定方法については、「自分の内線電話機で使用する FAX を設定する(内線毎 FAX 指定)」(➡ P.158)を参照してください。
- 内線電話機で使用する FAX を指定したあと、この機能を使う前に、あらかじめ(FAX)を に登録しておきます。登録時に付加情報として、FAX(FAX1 または FAX2)を割り付けます。登録方法および付加情報については「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。

■ FAX ボタンのランプ表示とボタンを押したときの動作

ボタンのランプ表示	ランプ表示の意味	ボタンを押したときの動作(待受中)	ボタンを押したときの動作(通話中)
消灯	FAX 空き状態	FAX 内線呼出動作(※)	FAX 転送動作(➡ P.333)
遅点滅(緑)	FAX 空き状態(FAX 着信お知らせ表示中)	お知らせ確認動作	FAX 転送動作(➡ P.333)
速点滅(赤)	FAX から自内線へ内線個別呼出中	着信応答動作(※)	着信応答動作(通話呼は保留される)(※)
点灯(赤)	FAX 使用中 / 不在設定中	FAX 内線呼出動作(ビジー状態となる)(※)	FAX 転送動作(ビジー状態となる)(➡ P.333)

※お知らせ確認操作と FAX 転送操作以外は、(DSS)(➡ P.414)と同様の動作となります。(DSS)の詳細は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する」(➡ P.34)を参照してください。

自分の内線電話機で使用する FAX を設定する（内線毎 FAX 指定）

内線電話機ごとに、使用する FAX を 2 台まで指定できます。FAX の指定は、サービスメニューの操作で設定できます。この設定は、システム管理電話機からでも一般ユーザ電話機からでも、操作可能です。
FAX の接続については、第 7 章の「ファクシミリを利用する」（➡ P.332）を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [0：その他] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
8音設定
9表示設定
0その他

システム管理電話機では [0：その他]、一般ユーザ電話機では [9：その他] を選択します。

3 で [2：システム設定] を選択して、確定を押す

≪その他≫
1ｼｽﾃﾑ情報
2ｼｽﾃﾑ設定
3ｶﾚﾝﾀﾞｰ / 時計設定

4 で [7：FAX 設定] を選択して、確定を押す

≪ｼｽﾃﾑ設定≫
5迷惑電話番号
6発信禁止番号
7FAX 設定

システム管理電話機では [7：FAX 設定]、一般ユーザ電話機では [3：FAX 設定] を選択します。

5 で [1：FAX1]（または [2：FAX2]）を選択して、確定を押す

≪ FAX 設定≫
1FAX1
2FAX2

6 この内線電話機で使用する FAX の内線番号を指定し、確定を押す

≪内線対象指定≫

開発第 1 部 2 階 FAX
↑↓：候補検索

- FAX の内線名称が登録済みの場合には 3 行目に内線名称が表示されます。
- ボタンで、前候補 / 次候補を表示できます。
- 選択した FAX（の内線番号）が FAX1（または FAX2）として指定され、この内線電話機で使用できるようになります。「FAX 設定」メニュー画面に戻ります。

MEMO

使用できる FAX の内線番号については、実際に接続されている FAX をご確認ください。

設定した時刻にアラーム音やチャイム音を鳴らす

電話機ごとに設定した時刻に多機能電話機のスピーカからアラーム音を鳴らして、着信ランプを指定した色の点滅で表示することができます。
また、あらかじめ設定した時刻に、多機能電話機のスピーカおよび外部スピーカからチャイム音を鳴らすこともできます。

アラーム時刻を設定 / 解除する（時刻アラーム）

時刻アラームの設定（ON/OFF）は、サービスメニュー、（時刻アラーム）で行うことができます。
アラーム時刻が設定されると、毎日設定した時刻のたびに、電話機のスピーカからアラーム音が数秒間鳴り、着信ランプが設定した色で点滅します（初期設定は白）。
ここでは、（時刻アラーム）で、アラーム時刻を設定する操作を説明します。

1 （アラーム時刻を設定するには）待受状態で、消灯している（時刻アラーム）を押す

電話機のディスプレイに、時刻入力待ちの画面が表示されます。

2 アラーム音を鳴らしたい時刻を入力して、確定を押す

- 時刻は、24 時間制（00：00 ～ 23：59）で入力してください。

≪時刻アラーム≫
０６時００分
（00:00 ～ 23:59）

↓ 確定

内線 10
１０月２４日（木）
午前　９：００

- 登録完了音が鳴り、時刻アラームがセットされます。
- ディスプレイには、アラームがセットされていることを示す「🔔」ピクトが表示されます。
- （時刻アラーム）ランプは点灯（赤）します。

3 （アラーム時刻を解除するには）点灯（赤）している（時刻アラーム）を押す

MEMO

- この機能を使う前に、あらかじめ（時刻アラーム）を に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- 着信ランプの色は、シグナルレッド、ライトブルー、レモンイエロー、ロイヤルブルー、バイオレット、グラスグリーン、ピーチホワイト（初期値）、7 色（計 8 種類）から選択することができます。ただし、着信ランプの色の設定は、システム管理電話機からのみ設定することができ、設定は全電話機共通となります。着信ランプの色の設定については第 1 章の「着信ランプ表示色の設定（着信種別や各種状態別）」（➡ P.58）を参照してください。

チャイム音を鳴らす時刻を設定する(チャイムタイマ連動)

あらかじめ設定した時刻になると、多機能電話機のスピーカおよび外部スピーカからチャイム音を鳴らすように設定することができます。

この機能では、各テナント(00 ～ 99)のチャイム鳴動時刻を 8 曜日(日～土と休日 / 祝祭日)ごとに最大 20 個(01 ～ 20)まで設定することができます。祝祭日 / 休日の設定については、「システムカレンダーを利用する」(➡ P.149)を参照してください。

工事設定

この機能を使用するには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

チャイム音を鳴らす時刻の設定(ON/OFF)は、電話機のサービスメニューまたは **Web 設定**から設定できます。一般ユーザ電話機(一般ユーザレベル)では自テナントのみ設定でき、システム管理電話機(管理ユーザレベル)では他のテナントを指定して設定できます。ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [0 : その他] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
8 音設定
9 表示設定
0 その他

システム管理電話機では [0 : その他]、一般ユーザ電話機では [9 : その他] を選択します。

3 で [2 : システム設定] を選択して、確定を押す

≪その他≫
1 ｼｽﾃﾑ情報
2 ｼｽﾃﾑ設定
3 ｶﾚﾝﾀﾞｰ / 時計設定

4 で [8 : チャイムタイマ設定] を選択して、確定を押す

≪ｼｽﾃﾑ設定≫
6 発信禁止番号
7 FAX 設定
8 ﾁｬｲﾑﾀｲﾏ設定

システム管理電話機では [8 : チャイムタイマ設定]、一般ユーザ電話機では [4 : チャイムタイマ設定] を選択します。

5 テナントを指定して、確定を押す

- 一般ユーザ電話機の場合、「テナント指定」画面は表示されません。手順 6 へ進みます。
- テナント番号(00 ～ 99)を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>--
↑↓：候補検索

入力したテナント番号にテナント名称が登録済みの場合には 3 行目にテナント名称が表示されます。

6 で、曜日を選択して、確定を押す

≪曜日指定≫
1 日曜日
2 月曜日
3 火曜日

7 鳴動タイマ (01 ～ 20) のいずれかを指定して、確定を押す

鳴動タイマ(01 ～ 20)を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示することもできます。

≪ﾀｲﾏ指定≫
No>--
↑↓：候補検索

8 で [1 : 鳴動有り] を選択して、確定を押す

≪ﾁｬｲﾑﾀｲﾏ設定≫
1 鳴動有り
2 鳴動無し*

[2 : 鳴動無し] を選択すると、「曜日指定」メニュー画面に戻ります。

9 鳴動時刻を指定して、確定を押す

≪鳴動時刻≫
--:--
(00 : 00 ～ 23:59)

※指定した時刻が他のタイマ指定と重複する場合は、エラー音が鳴り、設定できません。

選択したテナントおよび曜日のチャイム音の鳴動時刻が登録され、「曜日指定」メニュー画面に戻ります。必要に応じて、他の曜日、時刻を指定します。

以降、対象の曜日でこの時刻になると、チャイムが鳴ります。

内線の現在の状態を一覧表示する（内線一覧）

自テナントグループ（➡ P.416）に所属する内線を一覧で表示し、内線の状態（在席・不在・圏外・子機給電停止中）を確認することができます。また一覧から、選択した内線の内線呼出や、内線名称の登録 / 削除、給電停止中の内線電話機への給電開始を行うことができます。
この機能では、システムに接続された内線で、自テナントグループに所属している内線を表示します。他テナントグループの内線は表示できません。

内線一覧 / 詳細画面を表示する

サービスメニューの「内線一覧」を選択することで、現在の内線（テナントに所属する内線）の状態を一覧で表示することができます。
内線番号順に表示し、所属テナントにない内線番号は詰めて表示します。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◀▲▶▼で［3：内線一覧］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
1履歴（発信 / 着信）
2電話帳
3内線一覧

3 ◀▲▶▼で［1：一覧表示］を選択して、確定を押す

≪内線一覧≫
1一覧表示
2内線検索
3内線ｶﾅ検索

↓ 確定

≪内線一覧≫
内線 10　?山田太郎
内線 11　：佐藤部長
内線 12　X鈴木

自テナント所属の内線が内線番号順に表示されます。

MEMO

- 手順 3 で［2：内線検索］を選択すると内線一覧を内線番号で検索することができます。
- 手順 3 で［3：内線カナ検索］を選択すると、登録されている内線名称で検索することができます。内線の状態を表示したい内線名称の一部（検索キーワード）を入力して確定を押すと、検索キーワードに一致する情報、またはキーワード候補で最も近い情報から五十音順に表示されます。短縮/詳細を押すと、詳細画面に切り替えられます。

≪内線-ｶﾅ検索≫　＜半＞
＜ｻ　＞
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替

↓ 確定

≪内線一覧≫
内線 11　：佐藤部長
内線 12　X鈴木
内線 10　?山田太郎
（一覧表示）

↕ 短縮/詳細

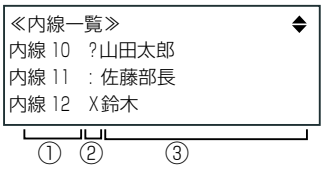
内線 11：在席
佐藤部長
テナント 1
0更新
（詳細表示）

※一覧表示 / 詳細表示の各画面の表示内容については、次ページを参照してください。

- カナ検索で入力できる検索キーワードの文字数は、半角で最大 5 文字までです（カナ、英字、数字で入力可能）。入力した文字を修正したい場合は、フラッシュを押して 1 文字ずつ削除してから入力し直してください。

つづく➡

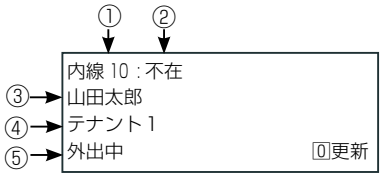
■ 内線一覧画面の表示内容



①内線番号が 1 ～ 4 桁で表示されます。
②在席 / 不在情報を次のような記号で表示されます。
　：　‥‥ 在席中（話中も含む）
　? ‥‥ 不在モードが ON になっている（不在）
　X ‥‥ オフラインまたは給電停止中
③内線名称が表示されます（全角 10 文字以内）。

- この画面で 0 を押すと、表示されている内線番号情報（在席 / 不在、内線名称）が更新されます。
- この画面で 短縮/詳細 を押すと、選択した内線の「詳細」画面が表示されます。

■ 詳細画面の表示内容



①内線番号が 1 ～ 4 桁で表示されます。
②在席 / 不在情報が表示されます（「在席」「不在」「オフライン」「給電停止中」）。
③内線名称が表示されます（全角 10 文字以内）。
④所属テナントの名称が表示されます（全角 10 文字以内）。
⑤不在設定が不在モードの場合、設定されている不在理由が表示されます（全角 10 文字以内）。不在設定が転送設定有りの場合は、「不在転送」が表示されます。

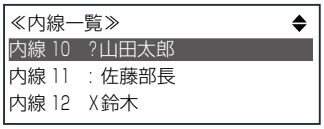
- この画面で 0 を押すと、表示されている内線情報（在席 / 不在情報、内線名称、不在理由）が更新されます。
- この画面で 短縮/詳細 を押すと、再度、一覧画面に戻ります。

内線一覧 / 詳細画面から内線を呼び出す

内線一覧または詳細画面で内線を選択して、呼び出すことができます。

1 内線一覧または詳細画面で、呼び出したい内線を選択して、確定 を押す

内線一覧または詳細画面の表示については、「内線一覧 / 詳細画面を表示する」（➡ P.161）を参照してください。



2 で［1：呼び出し］を選択して、確定 を押す

選択した内線が呼び出され、内線発信中の画面が表示されます（内線 20 で操作したときの画面例）。

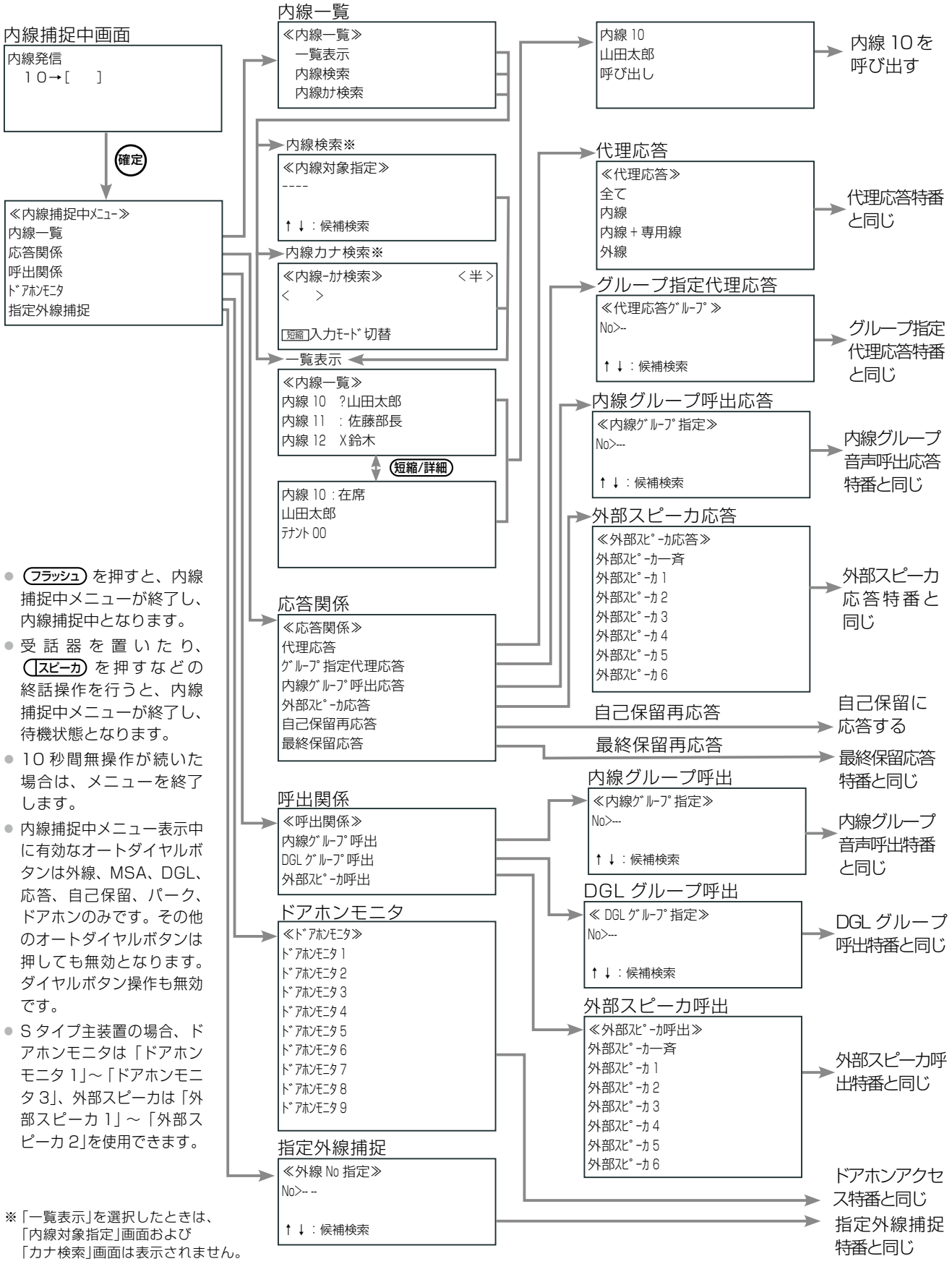
内線一覧 / 詳細画面から内線名称を登録 / 削除する

内線一覧または詳細画面で内線を選択して、内線名称を登録したり、削除することができます。
システム管理電話機（➡ P.7）では、すべての内線名称を登録 / 削除することができます。それ以外の電話機では、自内線名称のみ登録 / 削除できます。
操作手順については、第 1 章の「内線名称の登録」（➡ P.35）を参照してください。

3-10 電話機使用中に使えるメニュー

内線捕捉中メニュー

内線捕捉中に（通常は受話器を上げた直後）、(確定)を押すと、内線捕捉中メニューを表示することができます。内線捕捉中メニューでは、以下のような操作（内線一覧や特番サービスと同じ操作）を行うことができます。



- (フラッシュ)を押すと、内線捕捉中メニューが終了し、内線捕捉中となります。
- 受話器を置いたり、(スピーカ)を押すなどの終話操作を行うと、内線捕捉中メニューが終了し、待機状態となります。
- 10 秒間無操作が続いた場合は、メニューを終了します。
- 内線捕捉中メニュー表示中に有効なオートダイヤルボタンは外線、MSA、DGL、応答、自己保留、パーク、ドアホンのみです。その他のオートダイヤルボタンは押しても無効となります。ダイヤルボタン操作も無効です。
- S タイプ主装置の場合、ドアホンモニタは「ドアホンモニタ 1」～「ドアホンモニタ 3」、外部スピーカは「外部スピーカ 1」～「外部スピーカ 2」を使用できます。

※「一覧表示」を選択したときは、「内線対象指定」画面および「カナ検索」画面は表示されません。

内線捕捉状態について

内線捕捉中メニューは、内線捕捉状態であれば、着信中または保留中の通話の有無にかかわらず表示可能です。

内線捕捉状態にするには、待機状態からは、(スピーカ)を押したり、受話器を上げる操作で、内線捕捉中の状態になります。通話中状態からは、[保留]、(自己保留)、(パーク)のいずれかを押す保留操作、またはフッキングによる保留操作で内線捕捉中の状態になります。

内線一覧

内線捕捉中に、自テナントグループ(➡P.416)に所属する内線を一覧で表示し、内線の状態を確認したり、呼び出したりすることができます。

内線一覧を表示する

1 **内線捕捉中に、(確定)を押す**

内線捕捉中メニューが表示されます。

2 **(◎)で[内線一覧]を選択して、(確定)を押す**

≪内線捕捉中メニュー≫
内線一覧
応答関係
呼出関係

3 **(◎)で[一覧表示]を選択して、(確定)を押す**

(短縮/詳細)を押すたびに、一覧表示と詳細表示が切り替わります。

≪内線一覧≫
一覧表示
内線検索
内線カナ検索

↓(確定)

≪内線一覧≫
内線 10　?山田太郎
内線 11　: 佐藤部長
内線 12　X鈴木

(一覧画面)

↕(短縮/詳細)

内線 10　: 在席
山田太郎

(詳細画面)

MEMO

- [内線検索]を選択すると内線一覧を内線番号で検索することができます。
- [内線カナ検索]を選択すると、登録されている内線名称で検索することができます。
- 内線一覧で表示される内容や、この画面の操作についての詳細は「内線の現在の状態を一覧表示する(内線一覧)」(➡P.161)を参照してください。

内線一覧から内線を呼び出す

例:内線 10 の電話機から内線 20 を呼び出す場合

1 **左記の手順 1 ～ 3 を操作して、内線一覧の画面を表示する**

2 **(◎)で呼び出したい内線を選択して、(確定)を押す**

≪内線一覧≫
内線 20　: 田中次郎
内線 21　X鈴木一郎
内線 22　? 高橋花子

(一覧画面)

3 **(◎)で[呼び出し]を選択し、(確定)を押す**

内線 20
田中次郎
呼び出し

↓(確定)

内線発信
　10→[20]
田中次郎

選択した内線が呼び出され、内線発信中の画面が表示されます。

MEMO

保留中の通話がある場合は、この操作により、ダイヤル転送(➡P.78)や強制転送(➡P.79)が可能です。

応答関係

内線捕捉中に、応答に関する以下の操作をメニューで行うことができます。
各操作と同じ操作をそれぞれ対応する特番を使用して行うことができます。各特番の初期設定の値や付加情報などについては、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。

ここでは、以下の項目のうち代理応答、グループ指定代理応答の操作手順について説明します。
各機能の詳細については、それぞれの参照先を参照してください。

メニュー項目	対応する特番	参照先
代理応答	代理応答特番	第 2 章の「同じグループ内の別の電話を受ける(代理応答(コールピックアップ))」(➡ P.73)
グループ指定代理応答	グループ指定代理応答特番	第 2 章の「他のグループの電話を受ける(グループ指定代理応答)」(➡ P.73)
内線グループ呼出応答	内線グループ音声呼出応答特番	本章の「指定したグループの内線電話を音声で一斉に呼び出す(内線グループ音声呼出)」(➡ P.90)
外部スピーカ応答	外部スピーカ応答特番	第 4 章の「構内放送装置との接続」(➡ P.201)
自己保留再応答	なし (ただし、最後の保留が自己保留の場合は、最終保留応答特番が使用できる)	第 2 章の「他の電話機では再応答できないように保留する(自己保留)」(➡ P.76)
最終保留応答	最終保留応答特番	「保留したのと同じ電話機で再応答する」(➡ P.76)

代理応答

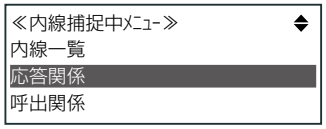
例: 内線 20 から内線 30(同じグループ)へかけられた電話に、内線 10 の電話機で応答する場合

1 内線 30 の電話機が鳴る

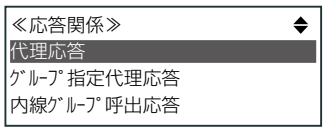
2 受話器を上げて、確定を押す

内線捕捉中メニューが表示されます。

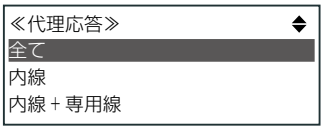
3 で[応答関係]を選択して、確定を押す



4 で[代理応答]を選択して、確定を押す



5 で[全て](または[内線]、[内線+専用線])を選択して、確定を押す



↓ 確定

内線 20 から内線 30 へかけられた電話に応答できます。内線 10 と 20 での内線通話中の画面が表示されます。

MEMO

- この操作は、内線捕捉中に代理応答特番を押したときと同じ操作です。特番の初期設定の値については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。
- 代理応答については、第 2 章の「同じグループ内の別の電話を受ける(代理応答(コールピックアップ))」(➡ P.73)を参照してください。

グループ指定代理応答

例：内線 20 から内線 50（他のグループ）へかけられた電話に、内線 10 の電話機で応答する場合

1 **内線 50 の電話機が鳴る**

2 **受話器を上げて、確定を押す**

内線捕捉中メニューが表示されます。

3 **で［応答関係］を選択して、確定を押す**

```
≪内線捕捉中ﾒﾆｭｰ≫
内線一覧
応答関係
呼出関係
```

4 **で［グループ指定代理応答］を選択して、確定を押す**

```
≪応答関係≫
代理応答
ｸﾞﾙｰﾌﾟ指定代理応答
内線ｸﾞﾙｰﾌﾟ呼出応答
```

5 **着信中のグループ（グループ番号 00 ～ 99）を指定して、確定を押す**

```
≪代理応答ｸﾞﾙｰﾌﾟ≫
No>--

↑↓：候補検索
```

- グループの名称が登録済みの場合には 3 行目に名称が表示されます。
- ボタンで、前候補 / 次候補を表示できます。

6 **で［全て］（または［内線］、［内線＋専用線］）を選択して、確定を押す**

```
≪代理応答≫
全て
内線
内線＋専用線
```

↓ 確定

```
内線通話
  10＝[20]
高橋三郎
```

内線 20 から内線 50 へかけられた電話に応答できます。内線 10 と 20 での内線通話中の画面が表示されます。

MEMO

- この操作は、内線捕捉中にグループ指定代理応答特番を押したときと同じ操作です。特番の初期設定の値については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- グループ指定代理応答については、第 2 章の「他のグループの電話を受ける（グループ指定代理応答）」（➡ P.73）を参照してください。

呼出関係

内線捕捉中に、呼出しに関する以下の操作をメニューで行うことができます。

各操作と同じ操作をそれぞれ対応する特番を使用して行うことができます。各特番の初期設定の値や付加情報などについては、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。

ここでは、以下の項目のうち内線グループ呼出、外部スピーカ呼出の操作手順について説明します。
各機能の詳細については、それぞれの参照先を参照してください。

メニュー項目	対応する特番	参照先
内線グループ呼出	内線グループ音声呼出特番	本章の「指定したグループの内線電話を音声で一斉に呼び出す(内線グループ音声呼出)」(➡ P.90)
DGL グループ呼出	DGL グループ呼出特番	本章の「指定したグループの内線電話を着信音で一斉に呼び出す(内線 DGL 呼出)」(➡ P.91)
外部スピーカ呼出	外部スピーカ呼出特番	第 4 章の「構内放送装置との接続」(➡ P.201)

内線グループ呼出

1 **内線捕捉中に、確定を押す**

内線捕捉中メニューが表示されます。

2 **で[呼出関係]を選択して、確定を押す**

```
≪内線捕捉中ﾒﾆｭｰ≫
内線一覧
応答関係
呼出関係
```

3 **で[内線グループ呼出]を選択して、確定を押す**

```
≪呼出関係≫
内線ｸﾞﾙｰﾌﾟ呼出
DGL ｸﾞﾙｰﾌﾟ呼出
外部ｽﾋﾟｰｶ呼出
```

4 **呼び出したい内線グループを指定して、確定を押す**

グループ番号(000～127)を入力する代わりに、で、前候補 / 次候補を表示できます。

```
≪内線ｸﾞﾙｰﾌﾟ指定≫
No>---

↑↓：候補検索
```

入力したグループ番号に、グループの名称が登録済みの場合には 3 行目に名称が表示されます。

5 **で内線グループと一緒に呼び出したい外部スピーカを選択して、確定を押す**

「外部スピーカ無し」、「外部スピーカ一斉」、「外部スピーカ 1」～「外部スピーカ 6」のいずれかを選択します(S タイプ主装置の場合、「外部スピーカ 1」～「外部スピーカ 2」)。

```
≪外部ｽﾋﾟｰｶ呼出≫
外部ｽﾋﾟｰｶ無し
外部ｽﾋﾟｰｶ一斉
外部ｽﾋﾟｰｶ 1
```

↓ 確定

```
グループ呼出
  グループ００１
```

- 「グループ呼出」画面が表示されます。
- 指定したグループに所属する内線電話が一斉に呼び出されます。初期設定では、グループ番号 000 には、すべての内線電話が登録されています。

MEMO

- この操作は、内線捕捉中に内線グループ音声呼出特番を押したときと同じ操作です。特番の初期設定の値については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。
- 内線グループ音声呼出については、「指定したグループの内線電話を音声で一斉に呼び出す(内線グループ音声呼出)」(➡ P.90)を参照してください。

工事設定

外部スピーカの接続については、販売店にご相談ください。

外部スピーカ呼出

1 **内線捕捉中に、確定を押す**

内線捕捉中メニューが表示されます。

2 **で［呼出関係］を選択して、確定を押す**

≪内線捕捉中ﾒﾆｭｰ≫
内線一覧
応答関係
呼出関係

3 **で［外部スピーカ呼出］を選択して、確定を押す**

≪呼出関係≫
内線ｸﾞﾙｰﾌﾟ呼出
DGL ｸﾞﾙｰﾌﾟ呼出
外部ｽﾋﾟｰｶ呼出

4 **で呼び出したい外部スピーカを選択して、確定を押す**

「外部スピーカ一斉」、「外部スピーカ 1」～「外部スピーカ 6」のいずれかを選択します（S タイプ主装置の場合、「外部スピーカ 1」～「外部スピーカ 2」）。

≪外部ｽﾋﾟｰｶ呼出≫
外部ｽﾋﾟｰｶ一斉
外部ｽﾋﾟｰｶ 1
外部ｽﾋﾟｰｶ 2

↓ 確定

放送呼出
一斉放送

- 「放送呼出」画面が表示されます。
- 選択した外部スピーカが呼び出されます。

MEMO

- この操作は、内線捕捉中に外部スピーカ呼出特番を押したときと同じ操作です。特番の初期設定の値については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 外部スピーカ呼出については、第 4 章の「構内放送装置との接続」（➡ P.201）を参照してください。

工事設定

外部スピーカの接続については、販売店にご相談ください。

ドアホンモニタ

内線捕捉中に、ドアホンモニタの操作をメニューで行うことができます。
この機能を利用すると、電話機からドアホンを音声で呼び出して、そのあと、ドアホンの周辺音をモニタすることができます。

1 **内線捕捉中に、(確定)を押す**

内線捕捉中メニューが表示されます。

2 **(◆)で［ドアホンモニタ］を選択して、(確定)を押す**

```
≪内線捕捉中ﾒﾆｭｰ≫
応答関係
呼出関係
ﾄﾞｱﾎﾝﾓﾆﾀ
```

工事設定

ドアホンの接続については、販売店にご相談ください。

3 **(◆)で呼び出してモニタしたいドアホンを選択して、(確定)を押す**

「ドアホンモニタ 1」～「ドアホンモニタ 9」から選択できます（S タイプ主装置の場合、「ドアホンモニタ 1」～「ドアホンモニタ 3」）。

```
≪ﾄﾞｱﾎﾝﾓﾆﾀ≫
ﾄﾞｱﾎﾝﾓﾆﾀ 1
ﾄﾞｱﾎﾝﾓﾆﾀ 2
ﾄﾞｱﾎﾝﾓﾆﾀ 3
```

↓ (確定)

```
ドアホン通話
  ドアホン 1
```

選択したドアホンが呼び出されます。そのあと、ドアホンの周辺の音をモニタすることができます。

MEMO

- この操作は、内線捕捉中にドアホンアクセス特番を押したときと同じ操作です。特番の初期設定の値については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- ドアホンモニタについては、第 4 章の「ドアホンとの接続」（➡ P.202）を参照してください。

指定外線捕捉

内線捕捉中に、指定外線捕捉の操作をメニューで行うことができます。
この機能を利用すると、オートダイヤルボタンに（外線）を割り付けなくても、指定した回線を使って外線に電話をかけることができます。

1 **内線捕捉中に、(確定)を押す**

内線捕捉中メニューが表示されます。

2 **(◆)で［指定外線捕捉］を選択して、(確定)を押す**

```
≪内線捕捉中ﾒﾆｭｰ≫
呼出関係
ﾄﾞｱﾎﾝﾓﾆﾀ
指定外線捕捉
```

MEMO

- この操作は、内線捕捉中に指定外線捕捉特番を押したときと同じ操作です。特番の初期設定の値については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 指定外線捕捉については、本章の「指定した回線からかける（指定外線捕捉）」（➡ P.83）を参照してください。

工事設定

外線 / 専用線シーケンス番号は、工事設定により異なります。販売店にお問い合わせください。

3 **外線 / 専用線シーケンス番号（➡ P.415）を指定し、(確定)を押す**

シーケンス番号を入力する代わりに(◆)で前候補 / 次候補を表示できます。

```
≪外線 No 指定≫
No>001

↑↓：候補検索
```

入力したシーケンス番号の回線の名称が登録済みの場合は、3 行目に名称が表示されます。

4 **外線番号（電話番号）をダイヤルして、(確定)を押す**

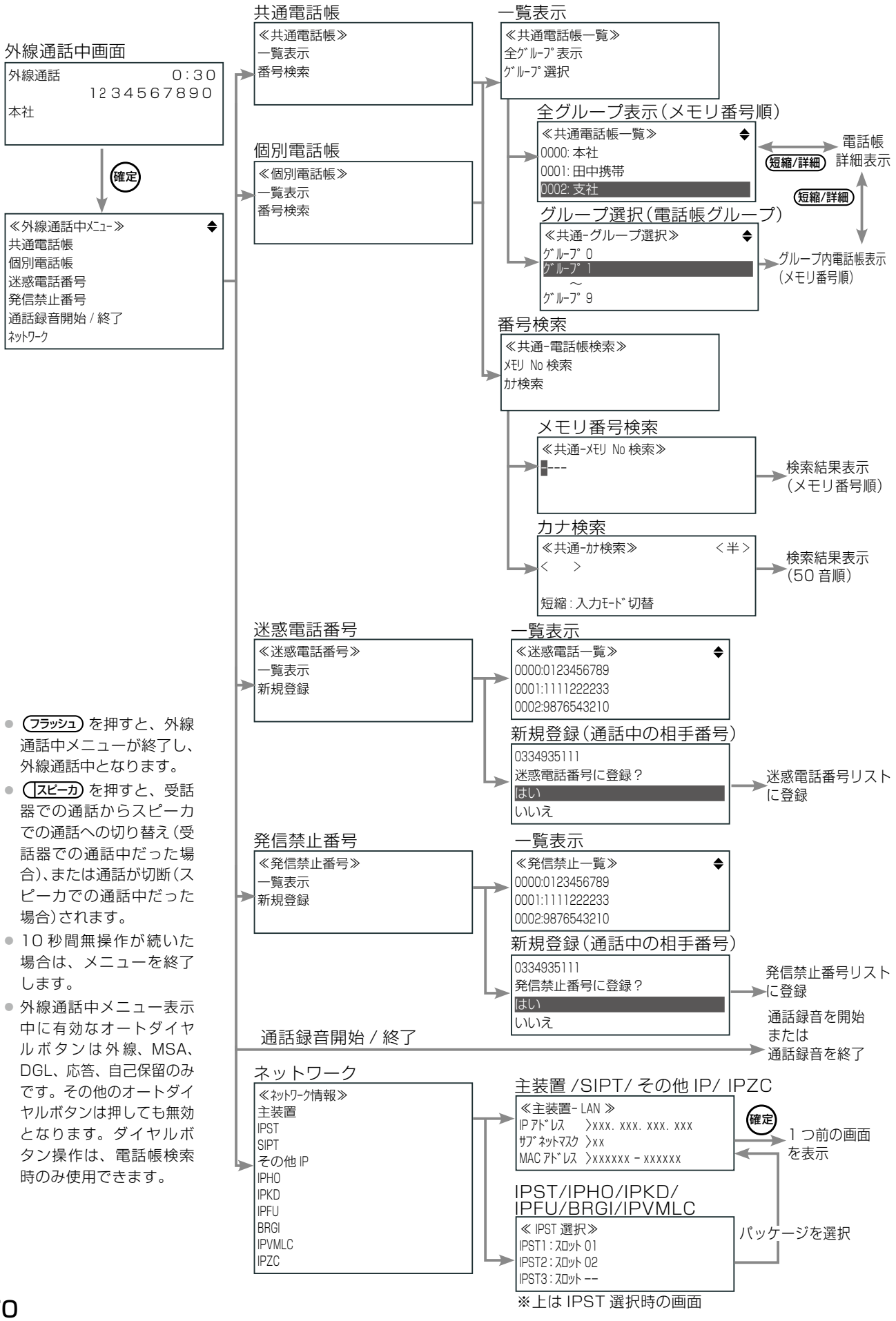
<外線 1（ひかり電話外線）を捕捉した場合>

```
外線発信
          0123456789
ひかり電話  アクセス
発信者番号：契約        [ﾌｯｸｵﾌ]変更
```

指定した回線から外線へ発信されます。

外線通話中メニュー

外線 / 専用線通話中に、確定を押すと、外線通話中メニューを表示することができます。外線通話中メニューでは、共通電話帳・個別電話帳の検索・閲覧、通話録音の開始、迷惑電話や発信禁止番号の登録などの操作を行うメニューを表示することができます。



- フラッシュを押すと、外線通話中メニューが終了し、外線通話中となります。
- スピーカを押すと、受話器での通話からスピーカでの通話への切り替え（受話器での通話中だった場合）、または通話が切断（スピーカでの通話中だった場合）されます。
- 10 秒間無操作が続いた場合は、メニューを終了します。
- 外線通話中メニュー表示中に有効なオートダイヤルボタンは外線、MSA、DGL、応答、自己保留のみです。その他のオートダイヤルボタンは押しても無効となります。ダイヤルボタン操作は、電話帳検索時のみ使用できます。

外線通話中にできる操作

外線 / 専用線通話中にメニューを表示して、以下の操作を行うことができます。

No.	操作	説明	参照先
①	共通電話帳一覧表示	共通電話帳に登録されている電話帳を閲覧することができます。 登録内容の表示のみ行い、編集、発信は非対応です。	第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63） 「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）
②	共通電話帳番号検索	共通電話帳に登録されている電話帳をメモリ番号、カナで検索することができます。	第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63） 「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）
③	個別電話帳一覧表示	操作している電話機の個別電話帳に登録されている電話帳を閲覧することができます。 登録内容の表示のみ行い、編集、発信は非対応です。	第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63） 「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）
④	個別電話帳検索	操作している電話機の個別電話帳に登録されている電話帳をメモリ番号、カナで検索することができます。	第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63） 「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）
⑤	迷惑電話番号一覧表示	迷惑電話番号に登録されている電話番号を閲覧することができます。	第 4 章の「迷惑電話 / 非通知電話を拒否する」（➡ P.176）
⑥	迷惑電話番号新規登録	現在通話中の相手番号を、迷惑電話番号に登録することができます。	第 4 章の「迷惑電話 / 非通知電話を拒否する」（➡ P.176）
⑦	発信禁止番号一覧表示	発信禁止番号に登録されている電話番号を閲覧することができます。	本章の「指定した番号への発信を規制する（発信禁止番号登録）」（➡ P.87）
⑧	発信禁止番号新規登録	現在通話中の相手番号を、発信禁止番号に登録することができます。	本章の「指定した番号への発信を規制する（発信禁止番号登録）」（➡ P.87）
⑨	通話録音の開始と終了	通話録音の開始、終了を行うことができます。 通話中に選択すると通話録音を開始し、通話録音中に選択すると通話録音を終了（保存終了）します。 （通話録音）による通話録音開始操作と同じです。	第 5 章の「通話録音（通話メモ）」（➡ P.253）
⑩	ネットワーク	主装置、各種 IP 電話サービス対応パッケージの IP アドレス、MAC アドレス情報などを電話機から確認できます。	第４章の「主装置のIPアドレスを確認する」（➡ P.210）

共通電話帳 / 個別電話帳を表示・検索する

外線との通話中に、共通電話帳や個別電話帳のメニューを操作して、電話帳に登録されている電話番号を一覧表示したり、検索することができます。通話中に話題になった人や部門などの電話番号をその場で調べたいときに便利です。ここでは、共通電話帳について、表示と検索の操作を説明します。

MEMO

通話中の電話帳の表示・検索では、登録内容の表示のみで、電話帳を編集したり、電話帳から発信することはできません。ただし、ボイスメールアクセス中または外線 / 専用線の通話録音中のときは、メールボックス番号が登録されたメールボックス用電話帳を検索して一覧表示したあと、保存先のメールボックスを指定することができます。メールボックスを指定するには、電話帳の一覧表示または詳細表示で(確定)を押します。詳細は第 5 章の「メールボックス用電話帳を利用する」(➡ P.257)を参照してください。

電話帳の表示(一覧 / 詳細)

1 外線通話中に、(確定)を押す

外線通話中メニューが表示されます。

2 (◎)で [共通電話帳] を選択して、(確定)を押す

≪外線通話中ﾒﾆｭｰ≫
共通電話帳
個別電話帳
迷惑電話番号

3 (◎)で [一覧表示] を選択して、(確定)を押す

≪共通電話帳≫
一覧表示
番号検索

4 (◎)で [全グループ表示] を選択して、(確定)を押す

≪共通電話帳一覧≫
全ｸﾞﾙｰﾌﾟ表示
ｸﾞﾙｰﾌﾟ選択

↓ (確定)

(一覧表示)
メモリ番号順

≪共通電話帳≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
0002: 支社

↕ (短縮/詳細)

共通 :0000 ▶
1234567890
本社
ﾎﾝｼｬ

(詳細表示)

一覧表示で選択した電話帳の詳細画面が表示されます。(短縮/詳細)を押すたびに、一覧表示と詳細表示が切り替わります。

MEMO

- 電話帳の一覧表示や詳細表示で表示される項目については、「1-7 電話帳の登録」(➡ P.37)を参照してください。
- 手順 4 で [グループ選択] を選択すると、電話帳グループを選択できる画面が表示されます。表示したいグループを選択して(確定)を押すと、選択した電話帳グループに登録されている電話帳がメモリ番号順に一覧表示されます。(短縮/詳細)を押すと、詳細画面に切り替えられます。

≪共通ｸﾞﾙｰﾌﾟ選択≫
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 1
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 2

↓ (確定)

≪共通ｸﾞﾙｰﾌﾟ 0 ≫
0002: 支社 2
0004: 支社 4
9988: 支社 9

(一覧表示)

↕ (短縮/詳細)

共通 :0002 ▶
1234567778
支社 2
ｼｼｬ 2

(詳細表示)

電話番号検索

電話帳グループ内に登録されている電話帳をメモリ番号、カナで検索することができます。

1 **外線通話中に、確定を押す**

外線通話中メニューが表示されます。

2 **で［共通電話帳］を選択して、確定を押す**

≪外線通話中ﾒﾆｭｰ≫
共通電話帳
個別電話帳
迷惑電話番号

3 **で［番号検索］を選択して、確定を押す**

≪共通電話帳≫
一覧表示
番号検索

4 **で［メモリ No 検索］を選択して、確定を押す**

≪共通-電話帳検索≫
ﾒﾓﾘ No 検索
ｶﾅ検索

5 **電話帳情報を表示したいメモリ番号を入力して、確定を押す**

≪共通-ﾒﾓﾘ No 検索≫
0005

↓ 確定

（一覧表示）
メモリ番号順

≪共通電話帳一覧≫
0005: 安部支社
0006: 支社 6
0007: 支社 7

↕ 短縮/詳細

共通 :0005
1234567500
安部支社
ｱﾍﾞｼｼｬ

（詳細表示）

一覧表示で選択した電話帳の詳細画面が表示されます。短縮/詳細を押すたびに、一覧表示と詳細表示が切り替わります。

MEMO

- 手順 4 で［カナ検索］を選択すると、電話帳に登録されている名前で、電話帳を検索することができます。電話帳情報を表示したい名前の一部（検索キーワード）を入力して確定を押すと、検索キーワードに一致する情報、またはキーワード候補で最も近い情報から五十音順に表示されます。短縮/詳細を押すと、詳細画面に切り替えられます。

≪共通-ｶﾅ検索≫ ＜半＞
＜ｱﾍﾞ ＞
短縮 入力ﾓｰﾄﾞ切替

↓ 確定

≪共通電話帳一覧≫
0005: 安部支社
0006: 支社 6
0007: 支社 7

（一覧表示）

↕ 短縮/詳細

共通 :0005
1234567500
安部支社
ｱﾍﾞｼｼｬ

（詳細表示）

- カナ検索で入力できる検索キーワードの文字数は、半角で最大 5 文字までです（カナ、英字、数字で入力可能）。入力した文字を修正したい場合は、フラッシュを押して 1 文字ずつ削除してから入力し直してください。

第 4 章　その他の便利な機能

4-1 便利な機能を使いこなす …… 176
4-2 公衆網サービスの利用 …… 187
4-3 外部ネットワークとの接続 …… 194
4-4 インターネット機能の利用 …… 198
4-5 外部機器との接続 …… 201
4-6 停電時の機能と省電力機能 …… 207
4-7 主装置の設定 …… 209

4-1 便利な機能を使いこなす

ここでは、以下の機能について説明します。

- 「迷惑電話 / 非通知電話を拒否する」(➡ P.176)
- 「3 人以上で通話をする(多者通話)」(➡ P.179)
- 「自分が待機中であることを相手に知らせる」(➡ P.182)
- 「回線の使用を一時的に制限する」(➡ P.184)

迷惑電話 / 非通知電話を拒否する

あらかじめ迷惑電話として登録されている電話番号から電話がかかってきた場合や、非通知で電話がかかってきた場合に、着信を拒否することができます。
迷惑電話として登録する電話番号は、テナントごとに以下の方法で登録できます。

- 「着信履歴の電話番号を迷惑電話番号として登録する」(➡ P.176)
- 「通話中の相手の電話番号を迷惑電話番号として登録する」(➡ P.177)
- 「電話番号を指定して迷惑電話番号として登録する」(➡ P.177)

迷惑電話に登録した電話番号は、必要に応じていつでも変更、削除することができます。
また、以下の方法で一時的に迷惑電話・非通知電話を拒否する / しないモードを切り替えることができます。

- 「迷惑電話・非通知電話の着信拒否モードをオンにする」(➡ P.178)

工事設定

- この機能を利用するには、電話会社が提供する番号表示サービスの契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。
- 非通知電話の着信拒否については、販売店にご相談ください。
- 迷惑電話に登録された電話番号から電話がかかってきたときや非通知電話がかかってきたときに、ガイダンスを流すかどうかを設定できます。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

登録できる電話番号は、発信禁止番号と合わせて 10,000 件、最大桁数は 20 桁です。発信禁止番号の登録は第 3 章の「指定した番号への発信を規制する(発信禁止番号登録)」(➡ P.87)を参照してください。

着信履歴の電話番号を迷惑電話番号として登録する

1 待受画面で、◀を押す

共通着信履歴が表示されます。

2 ◎で、着信拒否をする着信履歴を選択して、確定を押す

3 ◎で [7 : 迷惑電話番号登録] を選択して、確定を押す

- システム管理電話機では [7 : 迷惑電話番号登録]、一般ユーザ電話機では [6 : 迷惑電話番号登録] を選択します。
- 迷惑電話に登録する電話番号が表示されます。

4 必要に応じて、電話番号(最大 20 桁)を修正する

5 確定を押す

設定完了音が聞こえます。

通話中の相手の電話番号を迷惑電話番号として登録する

1 通話中

2 (着信拒否)を押す

設定完了音が聞こえます。

MEMO

(着信拒否)はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。

電話番号を指定して迷惑電話番号として登録する

サービスメニューから登録する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [0 : その他] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [0 : その他]、一般ユーザ電話機では [9 : その他] を選択します。

3 で [2 : システム設定] を選択して、確定を押す

4 で [5 : 迷惑電話番号] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [5 : 迷惑電話番号] を、一般ユーザ電話機では [1 : 迷惑電話番号] を選択します。

5 で [1 : 登録] を選択して、確定を押す

6 着信拒否する電話番号を入力して、確定を押す

- 電話番号の入力を間違えた場合には、フラッシュを押すと入力した番号を 1 文字削除することができます。
- 設定完了音が聞こえます。

オートダイヤルを使って登録する

1 待受画面で、(着信拒否)を押す

2 着信拒否する電話番号を入力する

市外局番から入力します。

3 確定を押す

設定完了音が聞こえます。

MEMO

(着信拒否)はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。

工事設定

迷惑電話番号の登録は、初期設定では、全桁の電話番号を入力して登録する必要がありますが、先頭の数桁を登録し、着信拒否できるように設定することもできます。例えば、0120 を登録し、0120 から始まるすべての電話番号を着信拒否することができます。設定については、販売店にご相談ください。

迷惑電話に登録された電話番号を変更する

1 **待受画面で、(確定)を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 **(◎)で[0：その他]を選択して、(確定)を押す**

システム管理電話機では[0：その他]、一般ユーザ電話機では[9：その他]を選択します。

3 **(◎)で[2：システム設定]を選択して、(確定)を押す**

4 **(◎)で[5：迷惑電話番号]を選択して、(確定)を押す**

システム管理電話機では[5：迷惑電話番号]を、一般ユーザ電話機では[1：迷惑電話番号]を選択します。

5 **(◎)で[2：一覧表示]を選択して、(確定)を押す**

6 **(◎)で、変更する電話番号を選択して、(確定)を押す**

7 **(◎)を押し[1：編集]を選択し、(確定)を押す**

8 **電話番号を修正する**

修正箇所まで(◎)でカーソルを移動し、(フラッシュ)で削除し、再入力します。

9 **(確定)を押す**

設定完了音が聞こえます。

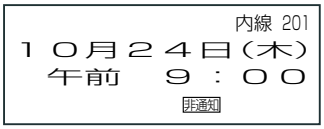
MEMO

削除する場合は、手順7で[1：編集]の代わりに、[#：一件削除]または[＊：全件削除]を選択して、(確定)を押したあと、確認画面で[＊：はい]を選択します。

迷惑電話・非通知電話の着信拒否モードをオンにする

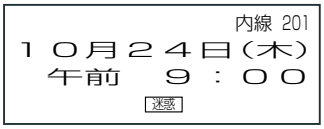
1 **待受画面で、(▭)(着信拒否切替)を押す**

設定完了音が鳴り、非通知電話着信拒否モードに切り替わります。



2 **もう一度、(▭)(着信拒否切替)を押す**

設定完了音が鳴り、迷惑電話着信拒否モードに切り替わります。



工事設定

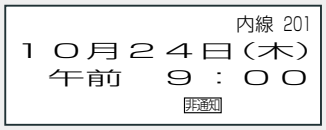
この機能を利用するには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

MEMO

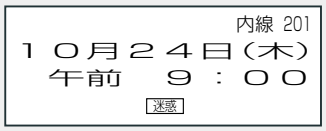
(▭)(着信拒否切替)はあらかじめ(▭)に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。

待受画面で(▭)(着信拒否切替)を押すごとに、着信拒否モードが切り替わり、電話機のディスプレイ画面にはそれに応じたピクトが表示されます。

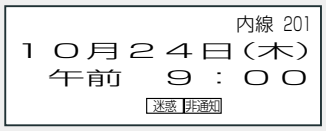
※利用しない着信拒否モードはスキップされます。



↓(▭)(着信拒否切替)



↓(▭)(着信拒否切替)



↓(▭)(着信拒否切替)

着信拒否モードが解除されてピクトが消え、待受画面に戻ります。

3 人以上で通話をする(多者通話)

電話機は通常 1 対 1 の通話で、他人が聞くことができない秘話モードになっています。
秘話モードを解除することで、3 人以上で通話ができるようになります(多者通話)。
多者通話には、以下の機能が用意されています。

- 「会議通話を招集する(会議通話)」(➡ P.179)
- 「外線通話中に他者を割り込ませる(外線秘話解除)」(➡ P.180)
- 「他者の通話に割り込む(割込通話)」(➡ P.180)
- 「他の電話の通話内容を聞く(通話モニタ)」(➡ P.181)

会議通話を招集する(会議通話)

外線または内線で通話中に電話をかけ、他者を通話に加えて 3 人以上で同時に通話できます。会議通話には、最大 4 人まで参加できます。

1 通話相手に会議通話を始めることを伝え(自己保留)を押す

(自己保留)ランプが中点滅(緑)します。

2 会議召集する相手の外線または内線の電話番号をダイヤルする

3 応答した相手に会議通話に加わるように伝える

例えば、「いま○○の件で田中さんと話しています。山田さんも加わってください。」のように伝えます。

4 了解を得てから(会議)を押す

- 電話機のディスプレイの 1 段目に、「会議通話」と表示されます。
- (会議)ランプが点灯(赤)します。
- (自己保留)ランプは消灯します。
- 3 者で会議通話することができます。

5 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

- (自己保留)は初期設定で に登録されています。
- (会議)はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。
- SIP 電話機は会議に参加することはできますが、会議を招集することはできません。
- 3 人で会議通話を行っているときに、手順 1 ～ 4 の操作を再度行うと、4 人による会議通話ができます。
- 他の参加者が外線 / 専用線のみの場合に自分だけが抜けるには、フラッシュ を押します。
- 会議通話している内線の電話を切ると、他に内線の参加者がいる場合は通話がそのまま継続されます。他の参加者が外線 / 専用線のみの場合、すべての通話が終了します。

外線通話中に他者を割り込ませる（外線秘話解除）

外線通話中に、他の内線を割り込ませることができます。

割り込まれる側

1 外線で通話中の相手に内線通話を割り込ませることを伝え（会議）を押す

- （会議）ランプが遅点滅（赤）し、秘話モードが解除されます。
- もう一度（会議）を押すと、通話中の外線が秘話モードに戻ります。

割り込む内線側

1 間隙速点滅（赤）している（外線）または（専用線）を押す

- 外線通話に割り込むことができます。
- （会議）ランプを割り付けている場合には（会議）ランプが遅点滅（赤）し、（外線）ランプが点灯（緑）します。

MEMO

- （会議）はあらかじめに登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- アナログ電話機、SIP 電話機をご使用の場合、通話に割り込むことはできますが、ご自分の通話に他者を割り込ませることはできません。アナログ電話機、SIP 電話機から通話に割り込む場合、手順 1 の前に割り込み先の外線を指定する必要があります。詳しくは、第 3 章の「指定した回線からかける（指定外線捕捉）」（➡ P.83）を参照してください。
- 外線秘話解除モードで通話できるのは 3 人までです。4 人目が割り込むと、秘話解除モードが解除されます。

他者の通話に割り込む（割込通話）

他の電話の通話に割り込んで、通話に加わることができます。

工事設定

この機能を使用するには工事設定が必要です。割り込みができる内線は特定の内線だけです。販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 内線割り込み通話特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 内線番号を押す

- 通話中の 2 人には、通話割込み音が聞こえます。
- （会議）ランプが点灯（赤）し、2 人の通話に加わることができます。

4 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

- 手順 3 で（DSS）または（ワンタッチボタン）を押しても割り込むことができます。
- 割り込み先が通話録音中のときは、割り込むことができません。
- ご自分の通話を終了しても、割り込み先の通話は継続されます。

他の電話の通話内容を聞く（通話モニタ）

指定した内線や外線、専用線の通話を聞くことができます。通話モニタ中は、相手に自分の声は聞こえません。

内線通話を聞く

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 （通話モニタ）を押す

（通話モニタ）ランプが中点滅（赤）します。

3 内線番号を押す

（通話モニタ）ランプが点灯（赤）し、指定した内線の通話内容が聞こえます。

4 モニタが終了したら、受話器を置く

外線 / 専用線の通話を聞く

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 （通話モニタ）を押す

（通話モニタ）ランプが中点滅（赤）します。

3 （外線）または（専用線）を押す

- （通話モニタ）ランプが点灯（赤）し、（外線）ランプが点灯（緑）します。
- 指定した外線または専用線の通話内容が聞こえます。

4 モニタが終了したら、受話器を置く

工事設定

通話モニタができる内線は特定の内線だけです。この機能を使用するには、販売店にご相談ください。

MEMO

- （通話モニタ）はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- 通話モニタ中に（会議）を押すと、会議通話に切り替わり、通話に割り込むことができます。

自分が待機中であることを相手に知らせる

内線呼出している相手が電話機を使用していても、ご自分が待っていることを知らせることができます。
以下の 2 つの機能が用意されています。

- 「相手の操作が終わり次第、着信音を鳴らす（コールウェイティング）」（➡ P.182）
- 「他者と通話中の相手にブザー音を鳴らして知らせる（トーンオーバーライド）」（➡ P.183）

相手の操作が終わり次第、着信音を鳴らす（コールウェイティング）

内線呼出している相手が電話機を使用している場合、そのまま待っているだけで、相手の電話操作が終わり次第、自動的に呼び出しが始まる機能です。

MEMO

- この機能を使用する場合は、あらかじめ相手側内線の話中転送設定が「転送無し（コールウェイティング）」（[4：転送無し<CW>]）になっている必要があります。設定方法は、第 3 章の「通話中にかかってきた電話を転送する（話中転送）」（➡ P.134）を参照してください。
- 内線呼出している相手が以下の状態の場合に、コールウェイティング機能が働きます。
  内線通話中、外線通話中、サービスメニュー操作中、電話機の設定中、ボイスメール利用中など

呼び出す側

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を押す

内線相手が通話中の場合、話中音が聞こえます。

3 そのまま待っていると

- 内線相手が通話終了後、話中音も同時に終わり、呼出音が聞こえます。
- 相手が応答したら通話します。

呼び出される側

1 通話中

2 通話が終了し受話器を置くと、着信音が鳴る

- 電話機の使用が終わると着信音が鳴ります。
- 着信ランプがコールウェイティング着信のランプの色で点滅します。

3 受話器を上げる

受話器を上げると、内線相手と通話できます。

工事設定

多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）、コードレス電話機（WSd）をご使用の場合、コールウェイティング着信のランプの色を変更できます。詳しくは販売店にご相談ください。

他者と通話中の相手にブザー音を鳴らして知らせる（トーンオーバーライド）

内線呼出している相手が通話中の場合、通話中の相手に特別なブザー音を鳴らし、ご自分が待っていることを知らせることができます。呼び出された相手は、通話中の電話を一時的に保留にし、応答することができます。

呼び出す側

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を押す

受話器からの音が話中音に変わります。

3 トーンオーバーライド特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 相手が（自己保留）を押すか、またはフッキング操作によって応答すると、通話することができます。

呼び出される側

1 通話中にトーンオーバーライド音が鳴る

10 秒ごとにトーンオーバーライド音が聞こえます（初期設定の場合）。

2 通話中の相手に保留することを伝えて、保留 または（自己保留）を押す

- かかってきた内線電話とつながります。
- 通話中だった相手には、保留音が流れます。

3 呼び出した相手と通話する

4 前の相手に戻る場合は、（自己保留）を押す

現在の通話が切断され、前の相手との通話に戻ります。

工事設定

トーンオーバーライド機能を利用できる内線は特定の内線だけです。この機能を使用するには、販売店にご相談ください。

MEMO

- この機能を使用する場合は、あらかじめ相手側内線の話中転送設定が「転送無し（コールウェイティング）」になっている必要があります。設定方法は、第 3 章の「通話中にかかってきた電話を転送する（話中転送）」（➡ P.134）を参照してください。
- （自己保留）は初期設定で に登録されています。
- SIP 電話機に対して、トーンオーバーライド機能は利用できません。

回線の使用を一時的に制限する

指定した外線や専用線からの着信を一時的に制限できます。着信を制限せずに、外線からの着信音を一時的に鳴らないように設定することもできます。また、特定のグループ(MSA(➡P.414)またはDGL(➡P.414))の電話機への着信を一時的に制限することもできます。

工事設定

昼夜モードごとに、回線の使用を一時的に制限する対象を指定することができます。設定については販売店にご相談ください。また、昼夜モードについては、第3章の「時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)」(➡P.146)を参照してください。

外線/専用線からの着信を一時的に制限する(回線使用制限)

指定した外線、専用線からの着信、またはMSAグループの電話機への着信を一時的に制限できます。

1 待受状態で、(機能)を押してから、回線使用制限機能特番(8 4)を押す

(機能)ランプが中点滅(赤)します。

2 着信を制限するすべての(外線)または(専用線)を押す

- MSAグループへの着信を制限する場合は(MSA)を押します。
- 登録完了音が鳴り、着信が制限された回線に対応するランプ(押したボタン)が点灯(赤)します。
- (外線)/(専用線)/(MSA)を押すたびに設定/解除が切り替わります。設定が解除されると対象のボタンが消灯します。

3 (機能)を押す

- (機能)ランプが消灯します。
- この状態で制限した回線からの着信、またはMSAグループ電話機への着信があると、発信者側には話中音が聞こえます。

MEMO

- 回線の使用制限を解除するには、手順1～3と同じ操作を行います。
- 使用制限の対象回線は、ISDN回線、VoIP回線、ひかり電話、SIP専用線のみです。アナログ外線、アナログ専用線は対象外になります。
- モデム契約(ナンバーディスプレイ/ダイヤルイン)のアナログ外線以外では、MSAの使用制限を設定しないでください。
- コードレス電話機(WSd)、マルチラインシステムコードレス電話機(DECT-PS)からこの設定を行う場合、あらかじめ(機能)を に登録する必要があります。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡P.28)を参照してください。
- 機能特番については、「A-5 機能特番の一覧」(➡P.424)を参照してください。

外線の着信音を一時的に鳴らさない（外線着信鳴動拒否）

外線から電話がかかってきても、着信音を一時的に鳴らないようにすることができます。

MEMO

- 外線着信鳴動拒否の対象は、一般着信（➡ P.414）のみです。
- カールコードレス電話機（CL）の子機に対してこの機能は利用できません。子機の着信音を鳴らさないようにするには、子機サイレント機能を利用します。設定方法は第 6 章の「子機サイレントを設定する」（➡ P.296）を参照してください。

サービスメニューから登録する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［0：その他］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［0：その他］を、一般ユーザ電話機では［9：その他］を選択します。

3 で［4：電話機］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［4：電話機］を、一般ユーザ電話機では［3：電話機］を選択します。

4 で［1：外線着信鳴動拒否］を選択して、確定を押す

5 で［1：ON］を選択して、確定を押す

登録完了音が聞こえます。

MEMO

- 外線着信鳴動拒否の設定を解除するには、手順 5 で［2：OFF］を選択します。
- ON に設定すると、機能 ランプは間隙点灯（赤）します。OFF のときは、機能 ランプは消灯します。

オートダイヤルを使って登録する

1 待受状態で、（サイレント）を押す

- 外線着信鳴動拒否モードが設定され（ON になり）、機能 ランプが間隙点灯（赤）します。
- 登録完了音が聞こえます。
- もう一度（サイレント）を押すと、外線着信鳴動拒否モードが解除（OFF）され、機能 ランプが消灯します。

MEMO

（サイレント）はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。

DGL グループ電話機への着信呼数を制限する（DGL 呼数制限）

指定した DGL グループの電話機に着信させる呼数をあらかじめ設定されている呼数に制限できます。
DGL グループごとに着信呼数を制限することで、制限を超えた場合、着信させないように設定できます。
あらかじめ設定されている着信呼数を一時的に減らすこともできます。

MEMO

DGL/MSA 呼数制限により切断された着信は、履歴として保存され、着信履歴の詳細画面で「呼数制限（グループ毎）」/「総呼数制限」のように表示されます。着信履歴の表示については、第 2 章の「発信履歴 / 着信履歴から電話する（履歴発信）」（➡ P.66）を参照してください。

＜画面例＞

```
0000:12345670
本社
１０月２４日(木)　午前１０：１５
呼数制限(ｸﾞﾙｰﾌﾟ毎)　　外線 01
```

（詳細表示）

着信呼数を制限する

1 **待受画面で、着信呼数を制限する DGL グループ番号が登録されている（DGL 呼数制限）を押す**

- 登録完了音が鳴り、指定したグループへの着信呼数が制限されます。
- （DGL 呼数制限）ランプが点灯（赤）します。
- DGL 呼数制限特番 + [ア1] +DGL グループ番号を押すことでも設定できます。
- もう一度（DGL 呼数制限）を押すと、設定が解除され、（DGL 呼数制限）ランプが消灯します。DGL 呼数制限特番 + [0] +DGL グループ番号を押すことでも解除できます。

工事設定

DGL グループ番号は 2 桁（00 ～ 99）または 3 桁（000 ～ 254）に設定されています。DGL グループ番号については、販売店にお問い合わせください。

MEMO

- あらかじめ DGL グループごとに（DGL 呼数制限）を に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- DGL 呼数制限特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

着信呼数制限時の呼数を変更する

着信呼数が制限された DGL グループへの着信呼数を一時的に変更できます。

1 **待受画面で、（機 能）を押して、DGL 一時呼数変更機能特番（[ヤ TUV 8] [マ PQRS 7]）を押す**

2 **DGL グループ番号を入力する**

例えば、グループ番号が 000 のときは、[0] [0] [0] を入力します。

3 **着信呼数（0 ～ 255）を入力する**

例えば、呼数を 5 に変更したいときは、[0] [0] [ナ JKL 5] を入力します。

4 **（確定）または（機 能）を押す**

登録完了音が聞こえます。

MEMO

機能特番については、「A-5 機能特番の一覧」（➡ P.424）を参照してください。

4-2 公衆網サービスの利用

アナログ外線サービスを利用する

NTT が提供する各種アナログ外線サービスを利用できます。

ナンバーディスプレイを利用する

アナログ回線への着信時に、電話をかけてきた相手の電話番号や非通知理由などをディスプレイで確認できます。

発番号ダイヤルインについて

共通電話帳に登録された相手から電話がかかってきた場合、電話番号ごとに着信形式を設定することで、着信先を夜間モード(昼、夜間 A-1 ～ A-3、夜間 B)ごとに選択できます。共通電話帳への電話番号や着信形式の登録については、「1-7 電話帳の登録」(➡ P.37)を参照してください。
発番号ダイヤルインでは、以下の着信形式を設定できます。

① 無し(設定内容に従う)
② 内線
③ DGL グループ
④ MSA グループ
⑤ 閉番号
⑥ 付加番号 DID
⑦ 着信代行
⑧ 転送リモコン
⑨ 留守リモコン
⑩ 一般着信

※電話番号の登録は、市外局番から登録してください。

発番号別着信音について

共通電話帳または個別電話帳に登録された相手から電話がかかってきた場合、電話番号ごとに着信音を選択できます。
識別着信音無し、トーン、メロディ、外部音源の中から選択できます。

ナンバーディスプレイ情報について

アナログ回線から通知される発信者の電話番号が着信先の電話機に表示されます。

工事設定

- このサービスを利用するには、NTT ナンバーディスプレイの契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。
- 表示指定は、電話機ごとに設定できます。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

- 個別電話帳に登録された内容は、個別着信時に表示されます。
- 電話帳に名称が登録されている相手から電話がかかってきた場合は、登録された電話帳名称が優先的に表示されます。

キャッチホンを利用する

通話中の外線に別の着信が入ったときに、通話を保留して着信に応答することができます。また、ボタン操作で通話相手を切り替えることもできます。

1 **外線通話中にキャッチホン着信音が聞こえる**

キャッチホン着信音が聞こえます。

2 **(フラッシュ)を押す**

通話相手が切り替わります。

工事設定

- キャッチホンを利用するには、NTT とのキャッチホン契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。
- アナログ電話機でこのサービスをするには、あらかじめフックフラッシュ特番を設定する必要があります。販売店にご相談ください。

MEMO

- アナログ電話機では、手順 2 で(フラッシュ)の代わりにフッキング操作＋フックフラッシュ送出特番を押すことで通話相手を切り替えることができます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。
- 転送するために相手を保留し、転送先の外線と通話中にキャッチホンがきた場合、(フラッシュ)を押すと、転送機能が優先されます。転送機能については、「2-6 通話を転送する(手動転送)」(➡ P.77)を参照してください。

モデムダイヤルインを利用する

モデムダイヤルインは、NTT の交換機から構内交換機(PBX)に着信先の電話番号を通知するサービスです。NTT とのダイヤルイン契約を行うことで、内線でアナログ外線電話を直接受けられるようになります。

工事設定

モデムダイヤルインを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

- ダイヤルイン番号として登録できる電話番号は 1 ～ 20 桁です。
- 緊急電話番号(110、118、119)からの着信はサービス対象外で、一般着信として扱われます。

ボイスワープを利用する

NTT とのボイスワープ契約を行うことで、アナログ回線でもボイスワープサービスが利用できます。ボイスワープを利用すると、転送条件ごとに、あらかじめ登録されている電話番号に電話を転送できます。

転送サービスの開始

1 待受画面で、ボイスワープ契約している（外線）を押す

- （外線）ランプが点灯（緑）します。
- （スピーカ）ランプが点灯（赤）します。

2 ボイスワープサービス番号 ア1 タ4 カ2 を押す

3 ガイダンスに従って、転送開始特番 ア1 を押す

4 （スピーカ）を押す

- （外線）ランプが消灯します。
- （スピーカ）ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが始まります。

工事設定

ボイスワープを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

転送サービスの停止

1 待受画面で、ボイスワープ契約している（外線）を押す

- （外線）ランプが点灯（緑）します。
- （スピーカ）ランプが点灯（赤）します。

2 ボイスワープサービス番号 ア1 タ4 カ2 を押す

3 ガイダンスに従って、転送停止特番 マ0 を押す

4 （スピーカ）を押す

- （外線）ランプが消灯します。
- （スピーカ）ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが停止します。

MEMO

ボイスワープでは以下のサービスが利用できます。操作方法については、NTT のホームページを参照してください。

①無条件転送
転送元の電話を呼び出さずに、かかってきた電話を転送先へ直接転送します。

②無応答転送
転送元の電話を呼び出し、電話に出ない場合に転送先へ転送します。

③応答後転送
着信に応答したあと、転送先へ転送します。

④セレクト機能
あらかじめ登録されている電話番号から着信があった場合に転送先へ直接転送します。
また、あらかじめ登録されている電話番号を転送せずに着信させることもできです。

⑤リモートコントロール
外出先の電話から、転送の開始 / 停止、転送先の変更を行うことができます。この機能を使うときは、プッシュ信号（PB）を送ることができる電話機を使用してください。

ISDN 外線サービスを利用する

INS ナンバーディスプレイを利用する

INS ナンバーディスプレイは、かけてきた相手の電話番号や非通知の理由を電話機のディスプレイに表示する NTT のサービスです。
サービスの内容はアナログ外線サービスのナンバーディスプレイと同じです。詳しくは、「ナンバーディスプレイを利用する」(➡ P.187)を参照してください。

工事設定

INS ナンバーディスプレイを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

INS ボイスワープおよび INS ボイスワープセレクトを利用する

NTT との INS ボイスワープまたは INS ボイスワープセレクト契約を行うことで、ISDN 外線でボイスワープサービスを利用し、あらかじめ網サービスに登録した電話番号に電話を転送できます。INS ボイスワープの設定は、アナログ電話機からも変更できます。

※転送先の電話番号の登録については、NTT のホームページを参照してください。

工事設定

INS ボイスワープまたは INS ボイスワープセレクトを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

■ 自動転送機能

転送サービスの開始

1 待受画面で、INS ボイスワープ契約している(外線)を押す

- (外線)ランプが点灯(緑)します。
- スピーカ ランプが点灯(赤)します。

2 転送サービス番号 ア1 タ4 カ2 ア1 を押し、転送特番を押す

転送特番は以下のとおりです。

- ア1 :無条件転送特番
- カ2 :無応答転送特番
- サ3 :話中時転送特番
- タ4 :無応答時および話中時転送特番

3 # を押す

回線からガイダンスが聞こえます。

4 スピーカ を押す

- (外線)ランプが消灯します。
- スピーカ ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが始まります。

転送サービスの終了

1 待受画面で、INS ボイスワープ契約している(外線)を押す

- (外線)ランプが点灯(緑)します。
- スピーカ ランプが点灯(赤)します。

2 転送サービス番号 ア1 タ4 カ2 ワ0 を押す

3 # を押す

回線からガイダンスが聞こえます。

4 スピーカ を押す

- (外線)ランプが消灯します。
- スピーカ ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが停止します。

■ セレクト機能

INS ボイスワープセレクト契約を行うと、特定の相手（電話番号）からかかってきた電話のみを転送（または着信）させるサービス（セレクト機能）が追加されます。ここでは、セレクト機能の開始と終了の操作について説明します。転送または着信させる電話番号の登録については、NTT のホームページを参照してください。

セレクト機能の開始

1 待受画面で、INS ボイスワープ契約している（外線）を押す

- （外線）ランプが点灯（緑）します。
- スピーカ ランプが点灯（赤）します。

2 セレクト機能の開始番号 ア1 タ4 マ7 を押す

3 回線からガイダンスが聞こえたら、サ3 を押す

4 ア1 または カ2 を押す

- ア1：登録番号転送
  登録した電話番号からかかってきた電話だけを転送し、登録していない電話番号からかかってきた電話については着信します。
- カ2：登録番号着信
  登録した電話番号からかかってきた電話はそのまま着信し、登録していない電話番号からかかってきた電話についてはすべて転送します。

回線からガイダンスが聞こえ、開始の登録が完了します。

5 スピーカ を押す

- （外線）ランプが消灯します。
- スピーカ ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが始まります。

セレクト機能の終了

1 待受画面で、INS ボイスワープ契約している（外線）を押す

- （外線）ランプが点灯（緑）します。
- スピーカ ランプが点灯（赤）します。

2 セレクト機能の停止番号 ア1 タ4 マ7 を押す

3 回線からガイダンスが聞こえたら、サ3 ワ0 を押す

回線からガイダンスが聞こえ、停止の登録が完了します。

4 スピーカ を押す

- （外線）ランプが消灯します。
- スピーカ ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが停止します。

MEMO

INS ボイスワープでは以下のサービスが利用できます。操作方法については、NTT のホームページを参照してください。

①無条件転送
かかってきた呼を転送元の電話を呼び出さずに転送先へ直接転送します。
②無応答転送
最初に転送元の電話を呼び出し、電話に出ない場合に転送先へ転送します。
③話中時転送
ISDN 回線利用中に別の着信があった場合、その着信を転送先へ転送します。
④セレクト機能（INS ボイスワープセレクトの機能です）
あらかじめ登録されている電話番号から着信があった場合に転送先へ直接転送します（転送せずに着信させることも可能です）。
また、あらかじめ登録されている電話番号を転送せずに着信させることも可能です。
⑤リモートコントロール
外出先の電話から、転送の開始 / 停止、転送先の変更を行うことができます。

転送元電話番号受信サービスを利用する

転送元電話番号受信サービスは、INS ボイスワープと一緒に利用するサービスです。INS ボイスワープによる転送の着信を受けたときに、転送元の電話番号と転送理由を受信して、通常の着信なのか、転送された電話なのかを電話機のディスプレイで確認できます。

工事設定

転送元電話番号受信サービスを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

転送元電話番号と転送理由は以下の条件を満たしている場合に受信できます。

- 転送先が ISDN 回線で転送元電話番号受信サービスを契約している場合
- INS ボイスワープで「転送元案内トーキ」が設定されているか、または転送元番号常時通知サービスを契約している場合
- INS ボイスワープによる転送がある場合

i・ナンバーを利用する

i・ナンバーは、契約回線番号を含め、最大 3 つの電話番号を利用できる NTT のサービスです。NTT との i・ナンバー契約を行うことで、ISDN 回線からの着信時、ポート番号ごとに着信先を指定することができます。

工事設定

i・ナンバーを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

- i・ナンバーのポート番号ごとに異なる着信音を設定できます。設定方法は、第 1 章の「外線からかかってきた電話の着信音色を変更する（外線別着信音種）」（➡ P.57）を参照してください。
- 緊急電話番号（110、118、119）からの着信はサービス対象外で、一般着信として扱われます。

迷惑電話お断りサービスを利用する

迷惑電話お断りは、迷惑電話を受けている最中または直後に、電話機から登録操作を行い、以降同じ電話番号からかかってきたときに自動アナウンスで応答できる NTT のサービスです。

工事設定

迷惑電話お断りサービスを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

かかってきた相手を着信拒否リストに登録する

■ 通話中に登録（相手終話後に登録）

1 **通話中または終話後に（機能）を押してから、キーパッドファシリティ切替機能特番（0）を押す**

（キーパッド）ランプが点灯（赤）します。

2 **迷惑着信拒否特番 1 4 4 2 を押す**

3 **# を押す**

4 **受話器を置く**

- （外線）ランプと（キーパッド）ランプが消灯します。
- サービスが始まります。

■ 終話後の登録

1 **通話が終了して 1 分以内に、待受画面で、（外線）を押す**

（外線）ランプが点灯（緑）し、（スピーカ）ランプが点灯（赤）します。

2 **迷惑着信拒否特番 1 4 4 2 を押す**

3 **# を押す**

回線からガイダンスが聞こえます。

4 **（スピーカ）を押す**

- （外線）ランプと（スピーカ）ランプが消灯します。
- サービスが始まります。

MEMO

- 手順 1 で、（機能）＋ 0 の代わりに（キーパッド）を使用することもできます。
  （キーパッド）はあらかじめ（キーパッド）に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- 機能特番については、「A-5 機能特番の一覧」（➡ P.424）を参照してください。

登録を解除する

1 **（外線）を押す**

（外線）ランプが点灯（緑）し、（スピーカ）ランプが点灯（赤）します。

2 **登録解除要求番号 1 4 4 を押し、以下の特番を押す**

- 3：最新の登録を解除します。
- 9：すべての登録を解除します。

3 **# を押す**

回線からのガイダンスが聞こえます。

4 **（スピーカ）を押す**

（外線）ランプと（スピーカ）ランプが消灯します。

MEMO

手順 2 で確認特番 1 4 4 4 を押し、# を押すと、当月と前月のサービス対応件数がアナウンスされます。

4-3 外部ネットワークとの接続

VoIP 外線の各種サービスを利用する

VoIP（Voice over Internet Protocol）は、音声をパケット化し、データ系ネットワークで電話が利用できるデジタル通信技術です。

本システムは VoIP 機能に対応しています。VoIP 機能を使って、各事業者から提供されている IP 電話サービスを利用できます。

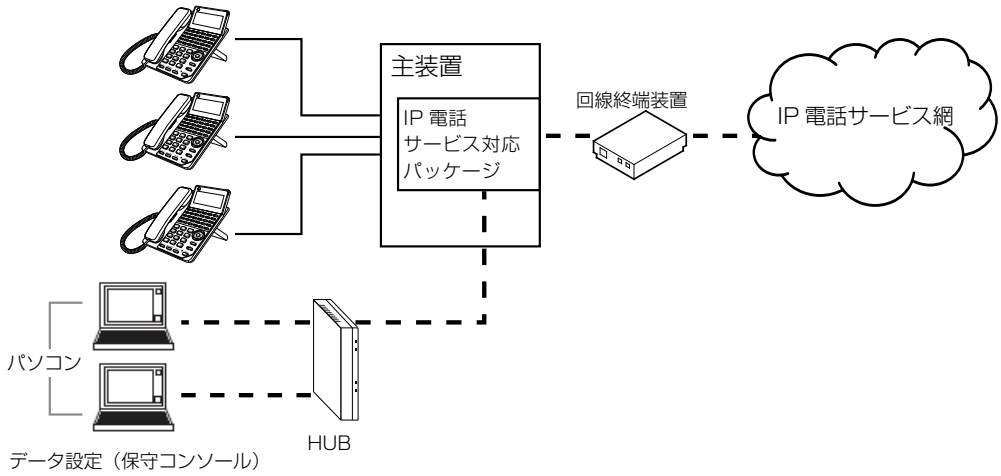
工事設定

IP ネットワークの構築にはルータが必要な場合があります。詳しくは販売店にご相談ください。

IP 電話サービスを利用する

接続構成例

主装置に IP 電話サービス対応パッケージを接続することで、IP ネットワーク上で音声通話を行うことができ、通信コストを削減できます。



MEMO

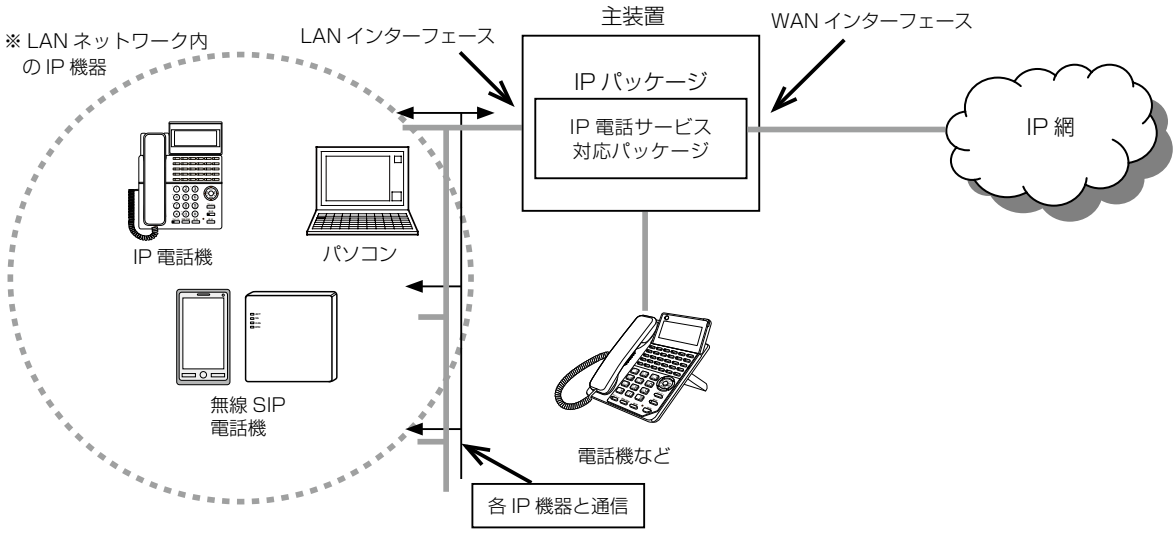
- 発信時、32 桁を超えるダイヤルを行った場合、33 桁以降の番号は削除して発信します。
- 発信時、IP 電話網からの応答がない場合は話中音となります。
- 発信時、相手ダイヤル桁数不足の場合は話中音となります。
- 発信時、先頭に＊をつけた場合は話中音となります。
- 上記以外で接続できない場合は誤操作音となります。

ルータ機能を利用する

ルータ機能の LAN 側と WAN 側の 2 つのインターフェースを介し、それぞれ異なるネットワークに接続することができます。

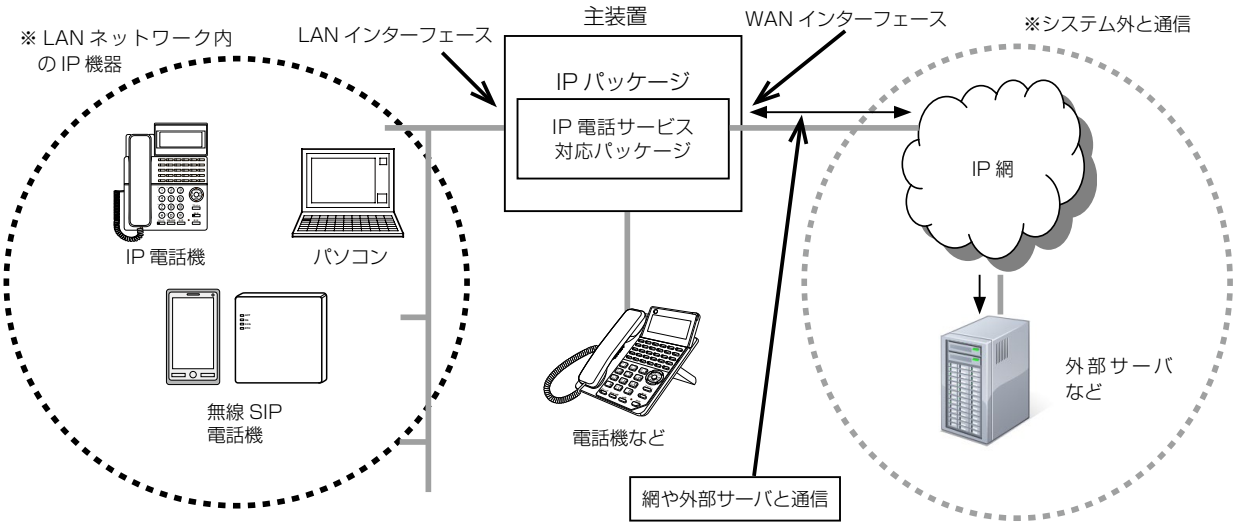
LAN インターフェース接続

LAN インターフェースを介し、パソコンや IP 電話機、SIP 電話機など、LAN ネットワーク内の IP 機器と通信することができます。LAN ネットワーク内の機器、および主装置との通信は IPv4 のみとなります。



WAN インターフェース接続

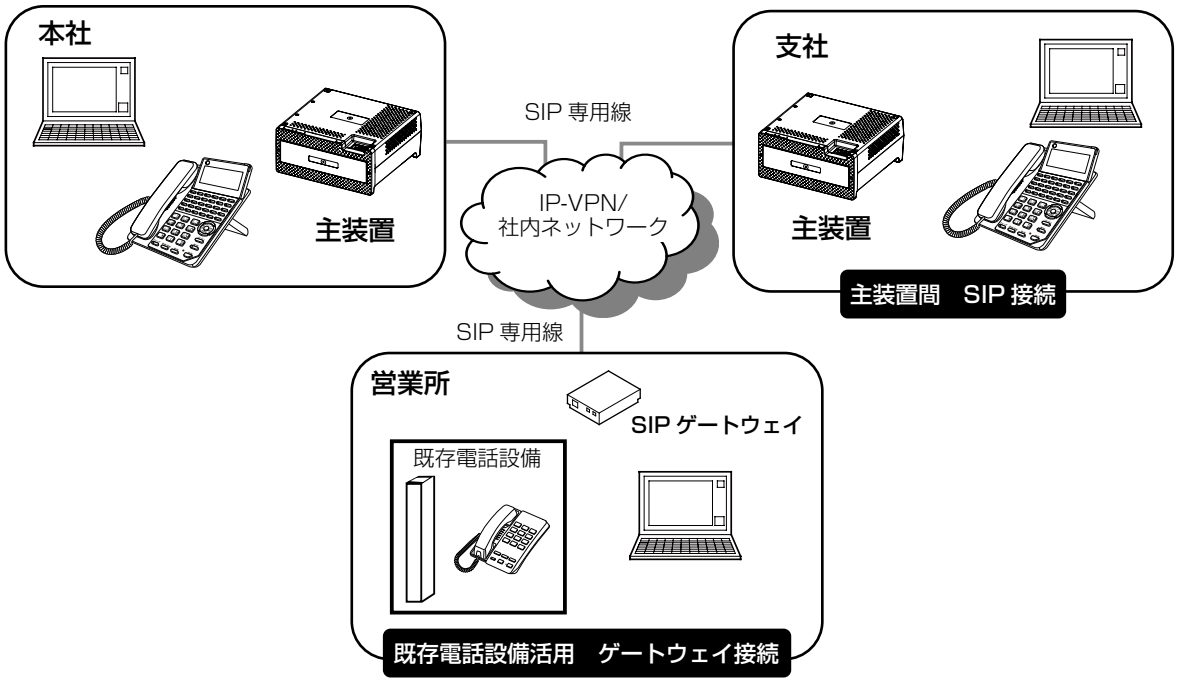
WAN インターフェースを介し、システム外のネットワーク機器や IP 網と通信することができます。WAN ネットワーク内の機器、および主装置との通信は IPv4 および IPv6 の通信に対応できます。



SIP 専用線を利用する

キャリアが提供する IP-VPN などのサービスを利用し、本社、支社、営業所などの拠点間を接続することで内線通話網を構築でき、通信コストの削減を実現します。また、主装置を別の拠点の主装置と連携する（システム間連携機能）ことで、外線ボタンまたは MSA ボタンを、拠点間で共有することができます。

※ IP-VPN を利用するためには、別途、提供キャリアとの契約が必要になります。



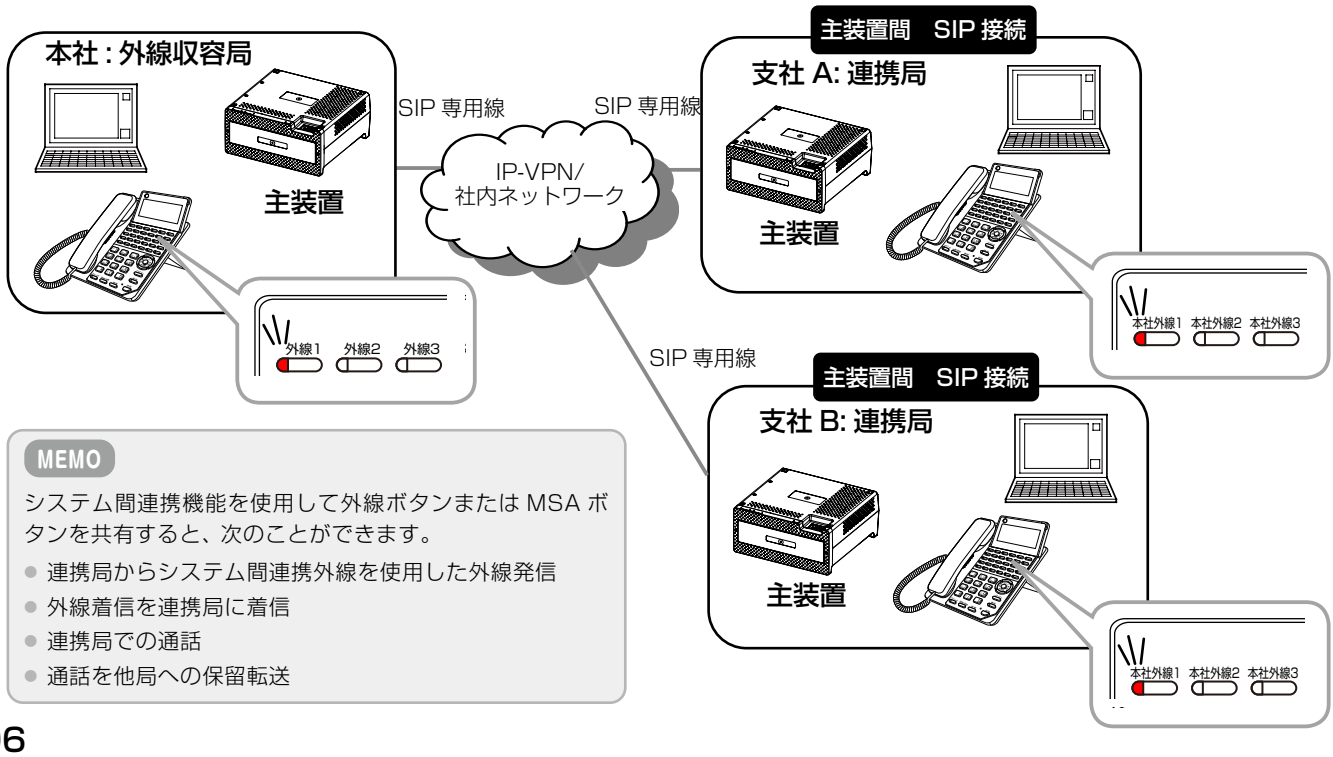
MEMO

SIP 専用線接続では、相手局の内線に対して以下の機能を利用できます。

- 内線音声呼出（➡ P.67）
- 発信者の名前を相手に通知できる「自ネーム情報表示」機能

■ システム間連携機能

連携している他拠点（支社 A、支社 B）の電話機の着信ランプの点滅で、本社の外線着信を知ることができ、応答することができます。



MEMO

システム間連携機能を使用して外線ボタンまたは MSA ボタンを共有すると、次のことができます。

- 連携局からシステム間連携外線を使用した外線発信
- 外線着信を連携局に着信
- 連携局での通話
- 通話を他局への保留転送

ビハインド接続時の便利な機能

ポーズ信号を自動挿入する（オートポーズ）

主装置に接続されている電話機で外線に発信する場合、自動的にポーズ信号が入るシステムになっています。わざわざ外線とつながるまでの間にポーズ（一定の時間を空けてからダイヤルを送出する）を入れる必要はありません。

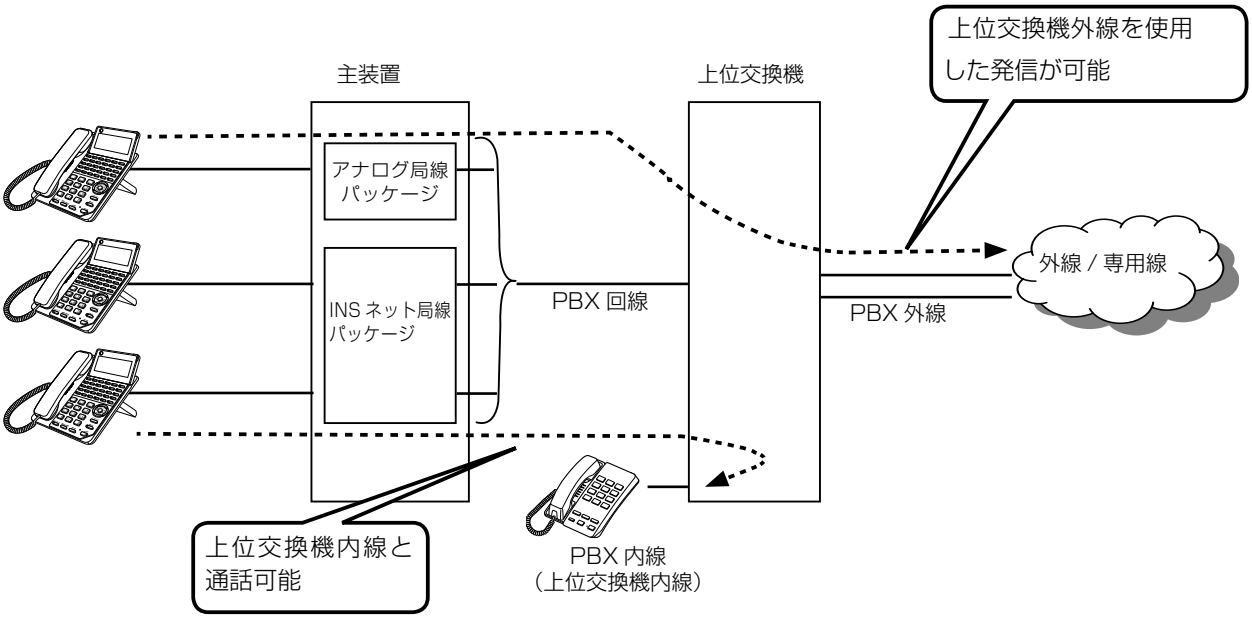
MEMO

- オートポーズはアナログ回線でのみ機能します。
- 電話帳やオートダイヤルに登録された番号に電話をかける際に、PBX 回線が使用された場合、PBX から外線に出される特番とポーズが自動的に挿入されます。

PBX 外線接続について（ビハインド）

ご利用のシステム内の内線を別のシステムの外線に接続し、内線通話や外線通話を行えるようにすることをビハインド接続といいます。

ビハインド接続で主装置を上位交換機に接続することで、PBX 回線が利用できるようになります。これにより、上位交換機内の内線と通話したり、上位交換機の PBX 外線や専用線を使って外線に発信したりすることができます。



4-4 インターネット機能の利用

インターネット機能を便利に使う

インターネット経由で、本システムが提供するネットワーク機能を利用できます。
ここでは、代表的な「ですく deRSS」、「着信履歴メール送信」、「外線転送メール送信」、「緊急地震速報」機能を紹介します。

コンテンツ情報を電話機に表示する（ですく deRSS）

インターネットの RSS サイトから新聞の見出しなどのコンテンツ情報を受信して、電話機のディスプレイにスクロール表示する機能です。

MEMO

ですく deRSS では、https から始まる URL のサイト（SSL/TLS で暗号化されている RSS サイト）の情報は表示できません。

ですく deRSS の利用設定をする（利用設定）

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［0：その他］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
8音設定
9表示設定
0その他

システム管理電話機では［0：その他］、一般ユーザ電話機では［9：その他］を選択します。

3 で［8：コンテンツ設定］を選択して、確定を押す

≪その他≫
7名称設定
8ｺﾝﾃﾝﾂ設定
9手動ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ

システム管理電話機では［8：コンテンツ設定］、一般ユーザ電話機では［5：コンテンツ設定］を選択します。

4 で［1：ですく deRSS 利用］を選択して、確定を押す

≪ｺﾝﾃﾝﾂ設定≫
1ですく deRSS 利用
2ｺﾝﾃﾝﾂ表示

5 テナントを指定して、確定を押す

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>
↑↓：候補検索

MEMO

テナント名称が登録済みの場合には 3 行目にテナント名称が表示されます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>01
○グループ
↑↓：候補検索

6 で利用の有無を選択して、確定を押す

≪利用設定≫
1利用する
2利用しない＊

↓ 確定

≪ｺﾝﾃﾝﾂ設定≫
1ですく deRSS 利用
2ｺﾝﾃﾝﾂ表示

MEMO

ですく deRSS 利用設定は、システム管理電話機でのみ行うことができます。

ですく deRSS のコンテンツ表示方法を設定する（コンテンツ表示）

1 **待受画面で、確定を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 **で [0：その他] を選択して、確定を押す**

システム管理電話機では [0：その他] を、一般ユーザ電話機では [9：その他] を選択します。

3 **で [8：コンテンツ設定] を選択して、確定を押す**

システム管理電話機では [8：コンテンツ設定] を、一般ユーザ電話機では [5：コンテンツ設定] を選択します。

4 **で [2：コンテンツ表示] を選択して、確定を押す**

- システム管理電話機では [2：コンテンツ表示] を選択します。
- 一般ユーザ電話機では、この画面は表示されないので、手順 5 へ進みます。

5 **コンテンツの表示方法を選択する**

- [1：一覧表示] を選択すると、ですく deRSS 利用時に、電話機のディスプレイにコンテンツのタイトル一覧が表示されます。
- [2：スクロール表示設定] を選択すると、スクロールのスピードを選択する画面が表示されます。[1：表示しない] / [2：遅い] / [3：標準] / [4：速い] から選択できます。
- [3：手動更新] を選択すると、コンテンツ情報を手動で更新することができます。

  ※ [3：手動更新] は、システム管理電話機のみ表示されます。一般ユーザ電話機では表示されません。

6 **確定を押す**

コンテンツの表示方法が設定されます。

着信履歴をメールで送信する（着信履歴メール送信）

外線からの不在着信履歴をあらかじめ登録してある E メールアドレスにメールで通知する機能です。
テナント（➡ P.416）ごとに以下の設定を行うことができます。

- 着信履歴のメール転送設定を行うことができます。
- 着信履歴の最大件数を設定できます。不在着信が設定した件数に達した際に通知先へメールが送信されます。設定範囲は 1 ～ 100（件）で、初期設定は 10 件です。
- 着信履歴メールの送信間隔を設定できます。設定範囲は 5/10/15/20/30/60（分）で、初期設定は 10 分です。
- 複数の通知先メールアドレスを設定できます。複数のメールアドレスを登録した場合、登録されたすべてのメールアドレスに、着信履歴メールが送信されます。
- 着信履歴メールには、送信対象のテナント番号が含まれます。

工事設定

着信履歴メール送信を利用するには、インターネット接続環境のほかに、メール送信サーバ情報の設定と E メール機能利用の設定が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

通知先の E メールアドレス編集と着信履歴の送信情報の詳細については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

外線転送結果をメールで送信する（外線転送メール送信）

外線自動転送の結果（成功 / 失敗 / 内線応答 / システム応答）をあらかじめ登録してあるＥメールアドレスに通知する機能です。

- 通知先メールアドレスは、システムで 20 件まで登録できます。
- 通知先メールアドレスは、外線転送の相手先（1 ～ 8）ごとに設定できます。複数のメールアドレスを登録した場合、登録されたすべてのメールアドレスに、外線転送メールが送信されます。
- 外線転送メールには、送信対象のテナント番号が含まれます。

工事設定

外線転送メール送信を利用するには、インターネット接続環境のほかに、メール送信サーバ情報の設定とＥメール機能利用の設定が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

- 通知先のＥメールアドレス編集の詳細については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。
- 外線自動転送中に着信設定に従った着信先の内線も呼び出す設定については、第 3 章の「外線自動転送中に転送先と着信先の内線を同時に呼び出す（転送中着信鳴動）」（➡ P.109）を参照してください。
- 外線自動転送中に着信設定に従った着信先の内線が呼び出されたとき、留守番や代行などの自動応答機能が設定されていると、システムが応答してガイダンスを流します。そのような場合には「システムが応答した」という結果がメールで送信されます。

緊急地震速報を受信する（緊急地震速報）

インターネット上の配信サーバから緊急地震速報を受信する機能です。
主装置に緊急地震速報配信システムを接続することにより、電話機のディスプレイおよび外部スピーカから緊急地震速報（高度利用者向け緊急地震速報）を確認することができます。

工事設定

緊急地震速報を利用するには、インターネットの常時接続環境が必要です。また、ルータに対してインターネット側（配信サーバ）から主装置へ UDP パケット通信ができるように設定する必要があります。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

緊急地震速報が流れた場合は以下のように動作します。

- 外線着信があった場合、地震速報が優先され、地震速報中の電話機の着信音は鳴りません。ただし、外線からの着信を受け付けることはできます。
- 電話機は使用中の状態になります。そのため、個別着信（内線 / 外線 / 専用線）は受けられません。
- 外線発信など、電話機を操作している場合、その操作が優先され、地震速報動作が停止します。ただし、未操作の電話機では緊急地震速報動作が継続します。また地震速報中に受話器を置いた場合は地震速報動作が再開しますが、緊急地震速報ガイダンスの再生は途中から始まります。
- 地震速報夜間時動作が「無し」に設定されていても、夜間モード切替時に地震速報動作は停止しません。
- 電話機のオートダイヤルボタンの偶数のボタンが点滅（赤）、奇数のボタンが点滅（緑）、着信ランプが速点滅（7 色）します。

4-5 外部機器との接続

外部機器を利用する

構内放送装置との接続

構内放送装置を接続し、電話機からの音声や着信音を外部スピーカから流すことができます。構内放送装置は 6 台（S タイプ主装置では 2 台）まで接続できます。構内放送装置との接続は販売店にご相談ください。

工事設定

構内放送機器の接続については、販売店にご相談ください。

構内放送で呼び出す

電話機からの操作で、構内放送から呼び出しを行います。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 外部スピーカ呼出特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 放送装置番号を押す

- 0：一斉放送
- 1～6：放送装置番号
  （S タイプ主装置の場合は、1～2）
- チャイム音が聞こえます。

4 受話器で呼びかける

例えば「○○さん」と呼びかけると、構内放送のスピーカから呼びかけた声が流れます。

相手が応答すると通話することができます。

5 放送を終わるときは受話器を置く

MEMO

外部スピーカ呼出特番と装置番号 0～6 を に登録することができます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）」（➡ P.31）を参照してください。

呼び出しに応答する（構内放送呼出応答）

構内放送の呼び出しを電話機から受けることができます。

1 外部スピーカから、呼び出された音声が聞こえる

2 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

3 外部スピーカ応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

4 放送装置番号を押す

- 1～6：放送装置番号
  （S タイプ主装置の場合は、1～2）
- 構内放送した相手とつながり、通話することができます。
- 一斉放送に応答する場合は、0～6（S タイプ主装置の場合は、0～2）のいずれかで応答できます。

5 通話が終了したら受話器を置く

ドアホンとの接続

主装置にドアホン / テレビドアホンを接続し、電話機を使ってドアホンとやり取りすることができます。

ドアホンを接続するパッケージには 3 台までドアホンを接続できます。

M/L タイプ主装置では、パッケージはシステムで 3 つまで接続できるため、最大 9 台のドアホンを接続できます。S タイプ主装置では、接続できるパッケージは 1 つのため、最大 3 台のドアホンを接続できます。

ただし、一度に通話できる台数は、1 つのパッケージにつき 1 台のみです。

工事設定

ドアホンの接続については、販売店にご相談ください。

ドアホンからの呼び出しを受ける（ドアホン着信応答）

ドアホンからの呼び出しに対して着信音を鳴らし、呼び出しに電話機で応答することができます。

1 ドアホンの着信音が鳴る

- ドアホンのチャイムが聞こえます。
- （ドアホン）ランプが点滅（赤）し、着信ランプが点滅（黄）します。

2 受話器を上げるか、ランプが点滅（赤）している（ドアホン）を押す

- （ドアホン）ランプが点灯（緑）します。
- ドアホンと通話できます。
- ドアホンのチャイムが鳴り始めてから約 25 秒以内に受話器を上げてください。

3 通話が終了したら、受話器を置く

工事設定

- ドアホンの音量や呼出回数、着信音、着信先などを変更することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。
- （ドアホン）はあらかじめ に登録しておきます。登録については、販売店にご相談ください。ドアホン番号は、M/L タイプ主装置の場合は、1 ～ 9、S タイプ主装置の場合は 1 ～ 3 を登録できます。
- ドアホンとの通話を録音することができます。詳細は第 5 章の「通話録音（通話メモ）」（➡ P.253）を参照してください。

MEMO

- ドアホン着信時のランプの色を変えることができます。初期設定は黄色です。変更方法は第 1 章の「着信ランプ表示色の設定（着信種別や各種状態別）」（➡ P.58）を参照してください。
- あらかじめドアホンに対応させて名前を登録しておくと、ドアホン着信またはドアホンモニタ時に登録されている内容が表示されます。登録方法は、「ドアホン名を表示する（ドアホン名称設定）」（➡ P.203）を参照してください。

ドアホン名を表示する（ドアホン名称設定）

あらかじめドアホンに対応させて名前を登録しておくと、ドアホン着信時やドアホンモニタ時に登録した名称が表示されます。この操作は、システム管理電話機からのみ行えます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［0：その他］を選択して、確定を押す

3 で［7：名称設定］を選択して、確定を押す

4 で［4：ドアホン名称］を選択して、確定を押す

```
≪名称設定≫
4ﾄﾞｱﾎﾝ名称
5外部ｽﾋﾟｰｶ名称
6ﾘﾙｰ名称
```

5 ドアホン番号を指定して、確定を押す

- ドアホン番号には、1～9（M/L タイプ主装置の場合）、または 1～3（S タイプ主装置の場合）のいずれかを入力します。
- で、ドアホン番号の候補を表示して選択することもできます。

```
≪ﾄﾞｱﾎﾝ指定≫
No>
↑↓：候補検索
```

MEMO

ドアホン名称が登録済みの場合には 3 行目にドアホン名称が表示されます。

```
≪ﾄﾞｱﾎﾝ指定≫
No>1
正面入り口
↑↓：候補検索
```

6 ［2：漢字名称］を選択して、確定を押す

```
≪ﾄﾞｱﾎﾝ名称≫
1ﾄﾞｱﾎﾝ No>1
2漢字名称 >
3ｶﾅ名称　>
```

7 漢字名称を入力して、確定を押す

全角 10 文字、半角 20 文字まで入力できます。

```
≪漢字名称≫　　＜全＞
正面入り
短縮：入力ﾓｰﾄﾞ切替
```

↓ 確定

```
≪ﾄﾞｱﾎﾝ名称≫
2漢字名称 > 正面入り口
3ｶﾅ名称　> ｼｮｳﾒﾝｲﾘｸﾞﾁ
#登録
```

8 （カナ名称を確認・変更したい場合）［3：カナ名称］を選択して、確定を押す

```
≪ﾄﾞｱﾎﾝ名称≫
2漢字名称 > 正面入り口
3ｶﾅ名称　> ｼｮｳﾒﾝｲﾘｸﾞﾁ
#登録
```

9 カナ名称を確認または変更して、確定を押す

```
≪ｶﾅ名称≫　　＜半＞
ｼｮｳﾒﾝｲﾘｸﾞﾁ
短縮：入力ﾓｰﾄﾞ切替
```

10 ［#：登録］を選択して、確定を押す

```
≪ﾄﾞｱﾎﾝ名称≫
3ｶﾅ名称　> ｼｮｳﾒﾝｲﾘｸﾞﾁ
#登録
1ﾄﾞｱﾎﾝ No >1
```

入力したドアホン名が登録され、「名称設定」メニュー画面に戻ります。

MEMO

漢字名称やカナ名称の入力方法については、「1-4 文字入力方法」（➡ P.20）を参照してください。

ドアホンを呼び出す（ドアホンモニタ）

電話機からドアホンを音声で呼び出すことができます。また呼び出したあと、ドアホンの周辺音をモニタすることができます。

1 **受話器を上げる**

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 **呼び出す（ドアホン）を押す**

- ドアホンの周辺音が聞こえます。
- 扉の外の人とドアホンで通話することができます。

3 **ドアホンとの通話またはモニタが終了したら、受話器を置く**

工事設定

- （ドアホン）はあらかじめに登録しておきます。登録については、販売店にご相談ください。ドアホン番号は、M/L タイプ主装置の場合は、1 ～ 9、S タイプ主装置の場合は 1 ～ 3 を登録できます。
- ドアホンモニタを録音することができます。詳細は第 5 章の「通話録音（通話メモ）」（➡ P.253）を参照してください。

MEMO

- 手順 2 で（ドアホン）の代わりにドアホンアクセス特番を押して 1 ～ 9（呼び出すドアホン番号）を押しても、ドアホンを呼び出すことができます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- マイクがオンになっている場合、ドアホンとハンズフリーで通話できます（カールコードレス電話機（CL）、コードレス電話機（WSd）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）では、ドアホンとのハンズフリー通話はできません）。

電気錠を解錠する（ドアロックリリース）

電気錠を接続して、ドアホン通話中または内線使用中にドアロックを解錠することができます。

工事設定

電気錠の接続については、販売店にご相談ください。

1 **受話器を上げる**

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 **（機能）を押して、ドアロック指定解錠機能特番（6 0）を押す**

3 **解錠する電気錠番号を押す**

電気錠番号には、1 ～ 9（M/L タイプ主装置の場合）、または 1 ～ 3（S タイプ主装置の場合）を指定できます。
指定した番号の電気錠が解除されます。

4 **電気錠が解錠されたら、受話器を置く**

MEMO

- 手順 1 で受話器を上げる代わりに（スピーカ）を押しても操作できます。その場合は、手順 4 で受話器を置く代わりに（スピーカ）を再度押します。
- ドアロック（電気錠）は自動的に施錠されます。
- 機能特番については、「A-5 機能特番の一覧」（➡ P.424）を参照してください。
- 機能特番の代わりに、ドアロックリリース特番を押すこともできます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

ヘッドセットとの接続

受話器の代わりにヘッドセットを接続して、受話器を置いたままで応答することができます。

MEMO

ヘッドセットモードでご使用中の場合は、受話器（ハンドセット）を電話機の所定の位置に置いておいてください。

工事設定

接続できるヘッドセット製品については、販売店にご相談ください。

ヘッドセットと接続する

1 **待受画面で、確定を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 **で［0：その他］を選択して、確定を押す**

システム管理電話機では［0：その他］を、一般ユーザ電話機では［9：その他］を選択します。

3 **で［4：電話機］を選択して、確定を押す**

システム管理電話機では［4：電話機］を、一般ユーザ電話機では［3：電話機］を選択します。

4 **で［4：ヘッドセット接続設定］を選択して、確定を押す**

≪電話機≫
2 ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰ設定
3 時刻ｱﾗｰﾑ
4 ﾍｯﾄﾞｾｯﾄ接続設定

5 **ヘッドセット接続設定で［1：接続する］を選択して、確定を押す**

≪ﾍｯﾄﾞｾｯﾄ接続設定≫
1 接続する
2 接続しない＊

ヘッドセットが接続できるようになります。

MEMO

カールコードレス電話機（CL）（親機）では、ヘッドセット接続を変更できません。

ヘッドセットを使用して電話をかける

■内線にかける場合

1 **(スピーカ)を押す**

- (スピーカ)ランプが点灯(赤)します。
- あとは、通常の電話のかけかたと同じです。「2-2 内線にかける」(➡ P.67)を参照してください。

2 **通話が終了したら、(スピーカ)を押す**

(スピーカ)ランプが消灯します。

■外線にかける場合

1 **(外線)を押す**

- (外線)ランプが点灯(緑)し、(スピーカ)ランプが点灯(赤)します。
- あとは、通常の電話のかけかたと同じです。「2-1 外線にかける」(➡ P.60)を参照してください。

2 **通話が終了したら、(スピーカ)を押す**

(外線)ランプと(スピーカ)ランプが消灯します。

ヘッドセットを使用して電話を受ける

■内線を受ける場合

1 **着信音が鳴る**

2 **(スピーカ)を押す**

(スピーカ)ランプが点灯(赤)します。

3 **通話が終了したら、(スピーカ)を押す**

(スピーカ)ランプが消灯します。

■外線を受ける場合

1 **着信音が鳴る**

(外線)ランプが点滅(赤)します。

2 **(外線)を押す**

(スピーカ)ランプが点灯(赤)し、(外線)ランプが点灯(緑)します。

3 **通話が終了したら、(スピーカ)を押す**

(外線)ランプと(スピーカ)ランプが消灯します。

外部音源との接続

主装置にオーディオプレイヤーなどの機器を接続して、内蔵メロディの代わりに音楽やメッセージを保留音や着信音として使用することができます。また、内線が待機状態のときに、スピーカや構内放送から BGM を流すことができます。
外部音源の機器との接続については、販売店にご相談ください。

コールスピーカとの接続

騒音のある場所でお使いの場合、主装置にコールスピーカを接続し、着信音や音声呼出をコールスピーカから流すことができます。コールスピーカとの接続については、販売店にご相談ください。

4-6 停電時の機能と省電力機能

停電時の対応機能について

停電中に一定時間電話の機能を維持する

オプションのバッテリーを主装置内に接続すると、停電中でも一定時間は電話をかけたり、受けたりすることができます。通常の使用状態で内蔵バッテリーの場合、S タイプ主装置では約 12 分、M/L タイプ主装置では約 26 分、電話の機能を維持することができます。

停電中（停電バッテリーに切り替わったとき）は、電話機のディスプレイに「バッテリー駆動中」と表示されます。また、（　）に（　）（停電）を登録しておくと、（　）（停電）ランプが点滅（赤）します（第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照）。

AC 電源が復旧すると、電話機のディスプレイから「バッテリー駆動中」の表示が消え、（　）（停電）ランプも消灯します。

停電用電話機について

停電用電話機を接続すれば、バッテリーが切れても外線と直通となっている停電用電話機で、通常どおりに電話をかけたり、受けたりすることができます。
停電用電話機としてアナログ用停電電話機と ISDN 用停電電話機が用意されています。

停電用電話機での電話のかけかた

1 受話器を上げる

外線発信音が聞こえます。

2 電話番号をダイヤルする

ダイヤルボタンで入力します。

3 #を押す

- すぐに電話がかかります。
- #を押さなくても約 5 秒後に電話がかかります。
- アナログ回線では#を押さないでください。

4 外線通話をする

相手先が応答したら通話します。

停電用電話機での電話の受けかた

1 着信音が鳴る

停電時は通常とは異なる着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる

相手と通話します。

MEMO

- 通話できるのは、一通話のみです。通話中の着信は受けられません（相手には話中音が聞こえます）。
- デジタル回線の場合、追加ダイヤルが必要な付加サービス（例えばボイスワープなど）は設定できません。
- 通話中に停電が復旧すると、通話中の電話は切れてしまいます。
- 電話機のディスプレイやランプは機能しません。
- 通話中に停電になった場合は局側（NTT）が回線を開放するまで利用できないことがあります。しばらくしてから、かけ直してください。
- アナログ回線の付加サービス（ダイヤルイン、ナンバーディスプレイなど）を契約している場合、停電用電話機からの応答は、最初の着信音が鳴ってから約 6 秒経過後（着信音が変わってから）に行ってください。それ以前に応答すると、電話を受けられないことがあります。

省エネ機能について（S/M タイプ主装置のみ）

省エネモード

指定した時刻に電話機を省エネモードに切り替えることができます。省エネモードに切り替わると、利用できる電話機が制限され、消費電力を抑えることができます。
省エネ対象モードを指定すると、省エネモードの対象になる夜間モードも指定できます。

工事設定

省エネモードの設定については、販売店にご相談ください。

バッテリーパワーセーブ

バッテリーパワーセーブを設定すると、停電時に内蔵または外部増設バッテリーで電話機を利用する際に、利用できる電話機や IP パッケージを制限し、バッテリーを長持ちさせることができます。

工事設定

バッテリーパワーセーブの設定については、販売店にご相談ください。

4-7 主装置の設定

主装置の各種設定について

パソコンの Web ブラウザで Web 設定を利用する

Web ブラウザを使用して、LAN 接続されたパソコンから主装置にアクセスすることで、内線の設定を変更したり、電話帳など各種情報を利用することができます（**Web 設定**）。
Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

1 主装置の IP アドレスを URL に入力する

- 主装置の IP アドレスについては、「主装置の IP アドレスを確認する」（➡ P.210）を参照してください。
- Web 設定のログイン画面が表示されます。

2 ユーザ名とパスワードを入力する

＜Microsoft Edge の画面例＞

- ユーザ名には、内線番号を入力します。
- パスワードは初期設定では「0000」が設定されています。Web 設定で変更できます。
- システム管理電話機の内線番号を入力すると、管理ユーザレベルとしてログインできます。
- 一般ユーザ電話機の内線番号（自内線番号）を入力すると、一般ユーザレベルとしてログインします。
- 管理ユーザレベルと一般ユーザレベルでは、ブラウザで設定できる項目が異なります（ユーザレベルは、ログインのときのユーザ名で決定されます）。

対象画面		管理ユーザ	一般ユーザ
パスワード変更		○	◎
時計設定		○	×
カレンダー設定		○	×
内線一覧		○	△（ドアホン名称設定不可）
電話帳			
	共通電話帳	○	△（参照のみ）
	個別電話帳	○	◎
電話帳転送		○	×
ボイスメール		○	△（外部保存設定不可）
留守番		○	×
ユーザガイダンス転送		○	×
電話機の各種転送			
	不在転送	○	◎
	話中転送	○	◎
	無応答転送	○	◎
	圏外転送	○	◎
外線転送		○	×
オートダイヤル登録		○	◎
メロディ転送		○	×
IVR		○	×
ですく deRSS		○	○
タイマ連動		○	○
Web カメラ		○	×
アドレス登録		○	×
MFP		○	×

○：操作可能　△：管理ユーザのみの機能あり
×：操作不可　◎：自内線のみ操作可能

主装置の IP アドレスを確認する

主装置に割り振られた IP アドレス、MAC アドレス情報などを電話機から確認できます。

IP アドレス情報などを確認する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [0：その他] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [0：その他] を、一般ユーザ電話機では [9：その他] を選択します。

≪その他≫
0 その他
1 履歴（発信 / 着信）
2 電話帳

3 で [5：ネットワーク] を選択して、確定を押す

システム管理電話機では [5：ネットワーク] を、一般ユーザ電話機では [4：ネットワーク] を選択します。

≪その他≫
5 ネットワーク
6 セーフティ設定
7 名称設定

4 で [1: 主装置] を選択して、確定を押す

≪ネットワーク情報≫
1 主装置
2 IPST
3 SIPT

↓ 確定

≪主装置 -LAN ≫
IP アドレス　>xxx. xxx. xxx. xxx
サブネットマスク >xx
MAC アドレス >xxxxxx-xxxxxx

工事設定

ネットワーク構成の変更により IP アドレスの変更が必要な場合は、販売店にご相談ください。

代行 / 留守番 /IVR の応答ガイダンスを録音する（ユーザガイダンス録音）

不在代行や留守番機能または IVR 機能で利用する応答用ガイダンスとして、システムで用意された固定ガイダンスのほかに、自分でガイダンスを録音して設定し、オリジナルのガイダンス（ユーザガイダンス）を流すことができます（IVR 機能の固定ガイダンスは用意されていません）。

不在代行や留守番機能および応答ガイダンスの設定については、「5-3 基本的な使いかた」（➡ P.224）を参照してください。IVR 機能と応答ガイダンスの設定については第 3 章の「音声自動応答（IVR）機能を利用する」（➡ P.96）を参照してください。

また、**Web 設定**を利用すると、録音したユーザガイダンスのファイルを主装置からパソコンへ転送することができます。また、パソコンに保存していたユーザガイダンスのファイルを主装置へ転送することもできます。

Web 設定の操作については『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

ユーザガイダンスを録音する

ユーザガイダンスの録音時間は、1 件につき最大 5 分です。録音時間が 5 分を超えた場合には、自動的に録音終了となります。主装置に録音・登録できるユーザガイダンスの数は、100 件（00 ～ 99）までです。

MEMO

- ユーザガイダンスの録音は、システム管理電話機でのみ行うことができます。
- 手順 1 ～ 3 の代わりに、保留 ＋ ハ MNO 6 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [7：応答ガイダンス管理] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
8音設定
9表示設定

3 で [3：ユーザガイダンス管理] を選択して、確定を押す

≪応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理≫
1転送元ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ設定
2転送先ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ設定
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

4 ガイダンス番号（00 ～ 99）を押して、確定を押す

でガイダンス番号の候補を表示して選択することもできます。

≪ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ指定≫
No>12
ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ 12
↑↓：候補検索

MEMO

ユーザガイダンス名称が登録済みの場合には 3 行目に名称が表示されます。

≪ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ指定≫
No>12
創業記念日ガイダンス
↑↓：候補検索

5 受話器を上げたあと、で [2：録音] を選択して、確定を押す

≪ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理≫
12:
1試聴＜録音無し＞
2録音

選択したガイダンス番号に、すでに他のガイダンスが録音されている場合は、受話器から警告音が鳴り、手順 4 に戻ります。

6 受話器からガイダンスを録音する

7 録音終了する場合には、ア 1（停止）を押す

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ録音≫ ＜録音＞
12: ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ 12
1停止

- 3 秒未満のときは、エラーになります。保留（キャンセル）を押して前の画面に戻り、録音し直してください。
- 3 秒以上録音したあと、マシ 0（停止）を押した場合は、正しく録音されて手順 8 に進みます。

MEMO

録音時間が 5 分以上になると、録音時間満了となり、以下の画面が表示されます。確定を押して手順 8 に進んでください。

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ録音≫
ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ録音終了
正常終了
確定 継続 / 保留 ｷｬﾝｾﾙ

つづく➡

8 で［2：録音登録］を選択して、確定を押す

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ録音≫
12: ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ 12
1キャンセル
2録音登録

録音したガイダンスが、指定したガイダンス番号に登録されます。

※［1：キャンセル］を選択した場合は、録音内容が破棄され、前の画面に戻ります。

9 で［1：名称登録する］または［2：名称登録しない］を選択して、確定を押す

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ登録≫
12: ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ 12
1名称登録する
2名称登録しない

- ［1：名称登録する］を選択した場合は、手順 10 へ進みます。
- ［2：名称登録しない］を選択した場合は、手順 14 へ進みます。

10 ［2：漢字名称］を選択して、確定を押す

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ名称≫
1漢字名称＞
2ｶﾅ名称　＞
#登録

11 漢字名称を入力して、確定を押す

全角 10 文字まで入力できます。

＜入力例＞

≪漢字名称≫　＜全＞
創業記念日ガイダンス

短縮：入力ﾓｰﾄﾞ切替

↓ 確定

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ名称≫
1漢字名称＞創業記念日ガイダンス
2ｶﾅ名称　＞ｿｳｷﾞｮｳｷﾈﾝﾋﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
#登録

12 （カナ名称を確認・変更したい場合）［3：カナ名称］を選択して、確定を押す

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ名称≫
2漢字名称＞創業記念日ガイダンス
3ｶﾅ名称　＞ｿｳｷﾞｮｳｷﾈﾝﾋﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
#登録

13 カナ名称を確認または変更して、確定を押す

＜入力例＞

≪ｶﾅ名称≫　＜半＞
ｿｳｷﾞｮｳｷﾈﾝﾋﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

短縮：入力ﾓｰﾄﾞ切替

↓ 確定

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ名称≫
1漢字名称＞創業記念日ガイダンス
2ｶﾅ名称　＞ｿｳｷﾞｮｳｷﾈﾝﾋﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
#登録

14 ［#：登録］を選択して、確定を押す

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ名称≫
1漢字名称＞創業記念日ガイダンス
2ｶﾅ名称　＞ｿｳｷﾞｮｳｷﾈﾝﾋﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
#登録

↓ 確定

≪ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理≫
12: 創業記念日ガイダンス
1試聴＜録音有り＞
2録音

録音したガイダンスが入力した名称で登録され、「ユーザガイダンス管理」メニュー画面に戻ります。

15 受話器を置く

MEMO

漢字名称やカナ名称の入力や変更については、「1-4 文字入力方法」（➡ P.20）を参照してください。

ユーザガイダンスを試聴する

1 **待受画面で、確定を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

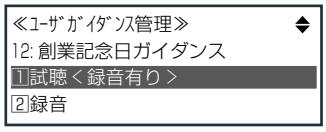
2 **で [7：応答ガイダンス管理] を選択して、確定を押す**

3 **で [3：ユーザガイダンス管理] を選択して、確定を押す**

4 **試聴するガイダンス番号 (00 ～ 99) を押して、確定を押す**

でガイダンス番号の候補を表示して選択することもできます。

5 **受話器を上げたあと、[1：試聴 ＜ 録音有り＞] を選択して、確定を押す**

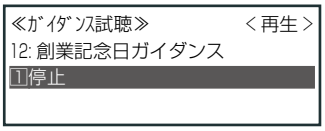


選択したガイダンス番号に録音されたガイダンスが再生されます。

MEMO

再生中にを押すと、試聴する音量を調節することができます。

6 **ガイダンスの再生が完了し、自動停止するのを待つ**



再生が終わると、「ユーザガイダンス管理」メニュー画面に戻ります。

MEMO

- 試聴を手動で終了する場合は、手順 6 で、[1：停止] を選択して、確定を押します。「ユーザガイダンス管理」メニュー画面に戻ります。
- ユーザガイダンスを削除する場合は、手順 5 の「ユーザガイダンス管理」メニュー画面で、[3：削除] を選択して確定を押します。削除の確認画面が表示されるので、[＊：はい] を選択すると、ガイダンスが削除されます。

第５章　ボイスメールの使いかた

5-1 お使いになる前に …… 216
5-2 暗証番号の設定 …… 222
5-3 基本的な使いかた …… 224
5-4 便利な使いかた …… 269

5-1 お使いになる前に

ボイスメールのシステム概要

ボイスメール機能を利用すると、相手のメールボックスに電話で音声のメッセージを送ることができます。E メールのように相手が不在のときにメッセージを送っておくこと（留守番機能、代行機能）や、受け取ったメッセージを他のメールボックスに転送することもできます。その他にも、通話を録音したり（通話録音）、外出先から自分のメールボックスを確認する（留守リモコン）など便利な機能があります。

メールボックスとは、音声のメッセージを録音して格納しておくことができる箱のようなものです。それぞれの箱には、番号（メールボックス番号）が付けられ、番号を指定して、メールボックス内のメッセージを再生したり、削除したりすることができます。

メールボックスには、**内線メールボックス**と**共通メールボックス**の 2 種類があります。

- 内線メールボックスは、各内線電話の利用者が留守番電話のように利用できるメールボックスで、メールボックス番号は内線番号と同じです。
- 共通メールボックスは、テナント内で共通に利用できるメールボックスで、メールボックス番号は共通メールボックス番号として指定された番号です。

MEMO

各メールボックス番号の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）で、「内線番号特番」と「共通メールボックス番号特番」を参照してください。

■特徴

- 外線 / 専用線 / 内線またはドアホンとの通話中、あるいは通話モニタ中に、電話機からのボタン操作により、通話内容を録音することができます（通話録音機能）。
- メッセージの録音 / 再生などのサービスを受けることができます（メールサービス）。
- 録音データは、主装置本体のフラッシュメモリ、または USB メモリのどちらか一方に保存します（データ設定で切り替えます）。
- 総録音時間は、主装置本体のフラッシュメモリの場合は約 60 分、4GB の USB メモリの場合は約 125 時間、64GB の USB メモリの場合は約 2,000 時間です。
- システム全体の総メールボックス数は、500 個までです。
- 1 つのメールボックスには、最大 1,000 件録音することができます（初期設定）。
- システム全体の総録音件数は、10,000 件までです。
- 録音メッセージ 1 件あたりの録音最大時間は 255 分です（1 ～ 255 分で指定）。

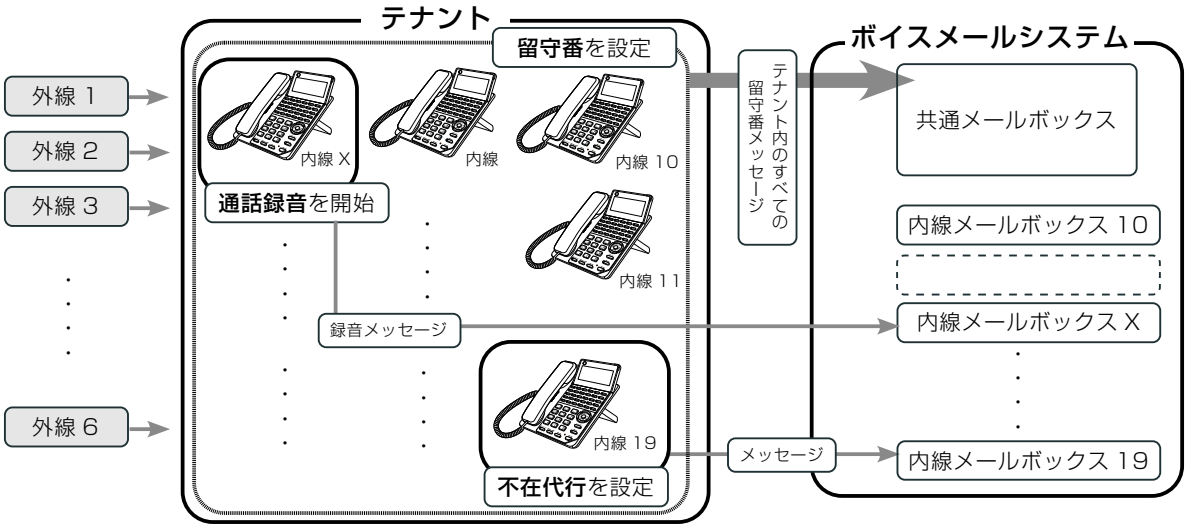
MEMO

USB メモリは特性上、繰り返し書き込んだり経年劣化によって読み出しや書き込みができなくなります。大切なファイルは定期的にパソコンなどにバックアップしてください。

工事設定

- この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
- 1 つのメールボックスの最大録音件数は、1,000 件から 9.900 件まで増やすことができます。販売店にご相談ください。

ボイスメールシステムを利用する機能



	ボイスメールシステムを利用する主な機能		
	留守番機能	代行機能	通話録音
設定範囲	テナント一括	電話機ごとに設定	通話中に電話機ごとに設定
メッセージを保存するメールボックス	テナントごとに、あらかじめ指定される共通メールボックス	内線メールボックス、または、共通メールボックス	内線メールボックス（共通メールボックスや他のメールボックスに変更できます）
参照ページ	P.224	P.245	P.253

ボイスメールの取扱上のご注意

主装置内蔵のボイスメールシステムは標準搭載です。

- **録音されているメッセージについて**
  本製品で万一故障が発生した場合、録音されているメッセージが再生できないことがありますのでご了承ください。

- **無断で通話録音しないこと**
  通話録音は、必ず相手の了解を得てから録音をはじめてください。個人のプライバシーの侵害にあたる場合があります。相手の了解を得られない場合は、[通話録音] をしないでください。

- **外出先からはプッシュホンでかける**
  外出先からメールセンターに接続する場合は、プッシュ信号（PB）に切り替えられる電話機をお使いください。

- **メールボックスの指定は忘れずに**
  工事設定で自分のメールボックスが設定されていないときは、通話録音時にメールボックスの指定を忘れないでください。

- **1 つのメールボックスに、同時に 2 人以上のログオンすることはできません。ただし、メッセージ録音では複数の利用者から 1 つのメールボックスに対する録音操作が可能です**

- **ボイスメールは、同時に 13 人以上では使用できません**
  ボイスメールは、12 人が使用中の場合、その他の人は使用できません。

- **録音時間はシステム管理電話機から設定できる**
  1 メッセージあたり、初期設定で 6 分間録音できます。メニューから 1 分単位に録音時間を変更できます。
  システム管理電話機のメニューからは、自動消去指定、自動再生指定、再生順序指定、連続再生指定なども変更できます。

- **メールボックスはスリムに**
  メールボックス 1 つには、最大 1,000 件のメッセージが録音できます（初期設定）。総録音時間は、主装置本体のフラッシュメモリの場合は 60 分、USB メモリの場合は約 2,000 時間（容量 64GB）です。新しいメッセージがいつでも録音できるように、「聞き終わって不要になったメッセージは、すぐ削除する」などのルールを決めて運用することをお勧めします。

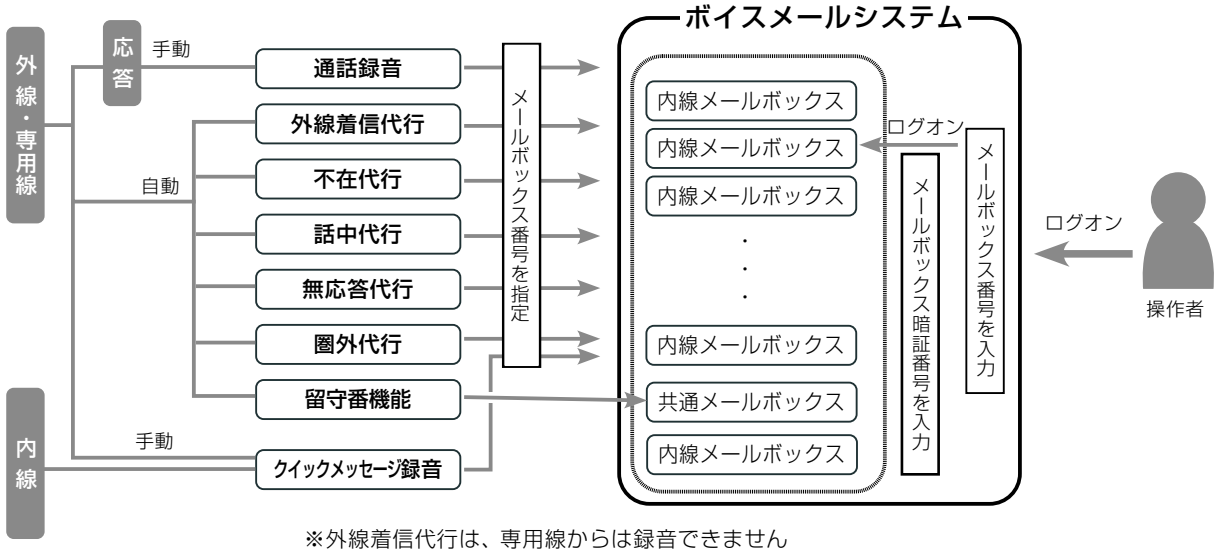
工事設定

- メッセージ自動削除機能を利用して、指定した件数を超えると古いメッセージから順に自動削除するように設定することができます。販売店にご確認ください。
- 1 つのメールボックスの最大録音件数は、1,000 件から 9.900 件まで増やすことができます。販売店にご相談ください。

ボイスメールの用語と説明

ここでは、ボイスメールで利用される主な用語と機能について、概念図とともに説明します。

■ 概念図



※外線着信代行は、専用線からは録音できません

■ **通話録音（➡ P.253）**
ボタン操作により通話を録音できます。

■ **外線着信代行（➡ P.252）**
外線着信にシステムが応答し、応答メッセージを流したあと、メッセージをメールボックスに録音します。

■ **不在代行（➡ P.245）、話中代行（➡ P.249）、無応答代行（➡ P.250）、圏外代行（➡ P.251）**
それぞれの転送先をガイダンス応答録音にしてメールボックスを指定することで、システムが応答し、応答メッセージを流したあと、メッセージをメールボックスに録音します。

■ **留守番機能（➡ P.224）**
留守ガイダンスを流したあと、メッセージを共通メールボックスに録音します。

■ **クイックメッセージ録音（➡ P.268）**
指定したメールボックスにメッセージを録音します。

■ **メールボックス**
メールボックスは、メッセージの録音 / 再生 / 消去ができる管理領域です。メールボックスを使用して、ボイスメール機能を提供します。メールボックスには内線メールボックスと共通メールボックスの 2 種類あります（両方合わせて 500 個）。
内線メールボックスの番号は内線番号と同じです。
共通メールボックスの番号は共通メールボックス番号として、システムで指定されています。

■ **メールボックスにログオン（➡ P.260）**
内線 / 外線 / 専用線からボイスメールを利用するには、メールセンターに接続したあと、メールボックス番号を入力して、メールボックスにログオンします。これにより、1 つのメールボックスに対して複数の操作者が同時にログオンすることを規制します。
あらかじめ（メールボックス）にメールボックス番号を登録しておくと、内線からは（メールボックス）を押すだけで、メールセンターへの接続とメールボックスへのログオンを同時に行うことができます（クイックログオン）。

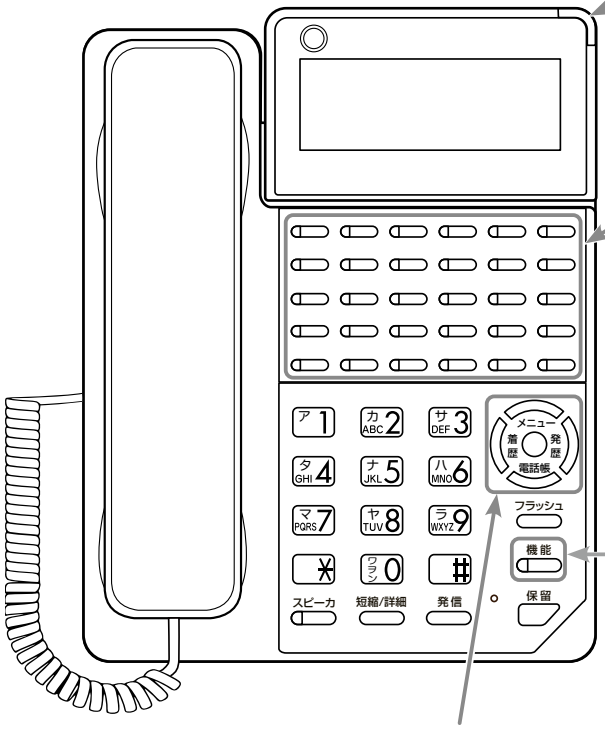
■ **メールボックス暗証番号（➡ P.222）**
メールボックスに暗証番号を登録することで、ログオン時に暗証番号入力が必要となり、他の人が無断でログオンすることを制限できます。暗証番号を設定しなくてもボイスメールを利用できます。

その他にも次のような便利な機能があります。

- メッセージ録音通知（➡ P.269）
- 留守番モニタ（➡ P.240）
- メールボックス用電話帳（➡ P.257）
- ワンショット留守番（➡ P.242）

ボイスメールで使用するボタン

メールボックスに録音されたメッセージの再生などの操作は、(メールボックス)を使用します。メッセージ再生中は、マルチファンクション(MF)キーで次のメッセージを再生したり、音量を調節したりできます。そのほかにも、以下のようなボタンを利用できます。



着信ランプ
自内線メールボックスにメッセージがあるとランプが点灯または遅点滅します(「ボタンとランプ動作一覧」(➡ P.221)を参照)。

(機能) ボタン
操作ガイドを表示するときに使います(➡ P.274)。

(オートダイヤル)

■設定例

①(通話録音)ボタン・ランプ
通話録音の開始 / 取消のときや、クイックメッセージ録音のときに使います。ランプは通話録音の状態を示します。

②(メールボックス)ボタン・ランプ
通話録音内容の録音先指定、メールボックスの再生 / 消去に使います。ランプは録音されているメッセージの状況を示します。

③(メールアクセス)ボタン
メールセンターへのワンタッチ接続に使います。

④(夜間切替)ボタン・ランプ
夜 A-1 ～ A-3、夜 B の切り替えに使います。また夜 A-1 ～ A-3、夜 B に外線着信代行を起動するときに使います。

⑤(不在)ボタン・ランプ
不在代行するときに使います。ランプは不在設定状況を示します。

⑥(録音終了)ボタン
通話録音を終了するときに使います。

⑦(一時停止)ボタン
通話録音を一時停止するときに使います。

⑧(留守番)ボタン・ランプ
留守番モードの ON/OFF に使います。ランプは留守番設定状況を示します。

⑨(ワン留守)ボタン
ワンショット留守番機能を起動するときに使います。

⑩(用件操作)ボタン
録音メッセージの再生中に使います。前後のメッセージの再生、一時停止、早送り、巻戻しなどの操作ができます。詳細は「メッセージ再生中にできる操作と内容」(➡ P.264)を参照してください。

■メッセージ再生中

	次のメッセージ再生
	再生停止中または再生後 3 秒以内であれば前のメッセージ再生 再生後 3 秒以降であれば再生中メッセージの頭出し再生
	音量を大きくする
	音量を小さくする

■メッセージ一覧表示中

	一覧表示中のメッセージを選択します。
確定	サブメニューを開く ①再生: 選択したメッセージ再生 ②消去: 選択したメッセージを消去指定(ログオフ時に消去) ③メッセージ転送: メールボックスを選択し、メッセージ転送

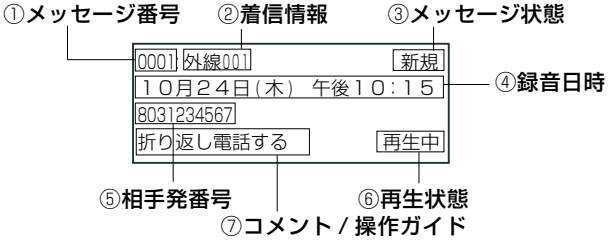
MEMO

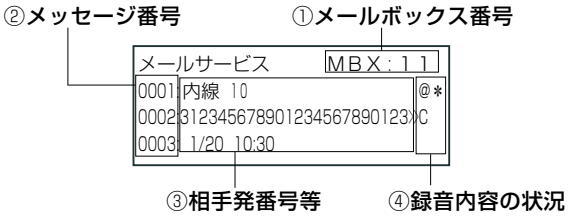
(通話録音)などのボイスメール関連機能は、あらかじめ に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。

メッセージの状態表示

メールセンターに接続してメールボックスにログオンすることにより、録音内容を再生したり消去したり、一覧表示したりすることができます。ログオン後には、録音件数を表示してから、そのメッセージの詳細を表示します。メッセージ詳細画面とメッセージ一覧画面は、(短縮/詳細) を押すたびに切り替わります。

詳細表示　　一覧表示





■1 行目

①メッセージ番号

②着信情報

メッセージを録音した相手の情報を示します。

外線のとき:外線番号を表示します。
内線のとき:内線番号または内線名称を表示します。
ドアホンのとき:ドアホン番号またはドアホン名称を表示します。

③メッセージ状態

新規:未再生メッセージです。
保存:保存指定したメッセージです。
消去:消去指定したメッセージです(ログオフ時に消去されます)。

■2 行目

④録音日時

録音開始の日時を表示します。

■3 行目

⑤相手発番号

メッセージを録音した相手の発番号を表示します。
メッセージの録音者が電話帳に登録されていれば、電話帳に登録されている漢字名称が表示されます。

■4 行目

⑥再生状態

停　　止:メッセージを再生していない状態です。
再　生　中:メッセージ再生中の状態です。
一時停止中:メッセージ再生を一時停止の状態です。

⑦コメント / 操作ガイド

- メッセージにコメントが付加されている場合は、コメント文が表示されます(「録音メッセージにコメントを追加する(コメント登録)」(➡ P.273) を参照)。
- メッセージにコメントが付加されていない場合は、「機能 操作ガイド」が表示されます(➡ P.274)。

■1 行目

タイトルとメールボックス番号を示します。

①メールボックス番号

ログオンしたメールボックスの番号を表示します。
メールボックスに名称が登録されている場合は、メールボックス番号の代わりにメールボックス名称を表示します。
メールボックス名称は全角 4 文字 / 半角 8 文字まで、メールボックスごとに登録できます。

■2 行目～4 行目

メッセージの一覧を表示します。

②メッセージ番号

③相手発番号等

メッセージを録音した相手の電話番号を表示します。

- 2 行目の例(0001):
  内線番号 10 の相手が録音したメッセージであることを示しています。
- 3 行目の例(0002):
  電話番号が長い外線相手が録音したメッセージを示しています。ディスプレイに表示されていない部分がある場合(25 桁以上のとき)、右端に ≫ を表示します(拡張表示ボタンを押すと、残りの番号を表示できます)。
- 4 行目の例(0003):
  発番号なしのメッセージについては、相手発番号の代わりに、録音日時を MM/DD　HH:MM 形式で表示します。

④録音内容の状況

各記号は以下のような意味を示しています。

＊　:未再生メッセージ(記号は画面の右端に表示)。
C　:消去指定のメッセージ(記号は画面の右端から 2 文字目に表示)。
@　:コメントが付加されたメッセージ(記号は画面の右端から 2 文字目に表示)。

- 画面の右端から 2 文字目の記号の表示は、「@」よりも「C」のほうが優先されます。

ボタンとランプ動作一覧

■ (メールボックス)ボタンとランプ

メールボックスに録音されているメッセージの状態を(メールボックス)ランプの表示で確かめることができます。

メールボックスの録音メッセージの状況	(メールボックス)ランプのつきかた(色)(初期設定)
録音メッセージあり(新規メッセージあり)	遅点滅(緑)
録音メッセージあり(新規メッセージなし)	点灯(赤)
録音メッセージなし	消灯

工事設定

(メールボックス)ランプのつきかたを変更したい場合は、販売店にご相談ください。

MEMO

(メールボックス)ランプは、新規メッセージ(まだ聞いていないメッセージ)がある場合は、遅点滅(緑)します(初期設定)。聞いていないメッセージがない場合でも、メールボックスに録音メッセージが残っている間は、点灯(赤)しています(初期設定)。メールボックスにメッセージが何も入っていない状態になると、消灯します。

■ 着信ランプ

メールボックスに録音されているメッセージの状態を着信ランプの表示で確かめることができます。
着信ランプは、自内線の内線メールボックスに登録されているメッセージの状況を示します。
メッセージが録音されているときの着信ランプのつきかたの初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」(➡ P.422)を参照してください。なお、着信が入っている場合には、速点滅します。

工事設定

着信ランプのつきかたを変更したい場合は、販売店にご相談ください。

MEMO

着信ランプの色は、7 色から選択することができます(初期設定ではロイヤルブルー)。着信ランプの変更方法については、第 1 章の「着信ランプ表示色の設定(着信種別や各種状態別)」(➡ P.58)を参照してください。

■ (通話録音)ボタンとランプ

(通話録音)ランプの点灯状態と色を示します。

(通話録音)ランプのつきかた(色)	動作状態		
	録音状態	録音先メールボックス指定	備考
消灯	録音していないとき	―	
点灯(赤)	録音中	未指定	メールボックス番号入力待ち
点灯(緑)		指定済	
速点滅(赤)	録音していないとき	―	通話録音開始不可(数秒で消灯します)

※「自動通話録音あり」に設定しているときは、(通話録音)ランプは、録音していないときでも点灯(緑)します。

5-2 暗証番号の設定

メールボックスごとに暗証番号を持つことができます。暗証番号により他の人が無断で、あなたのメールボックスのメッセージを聞くことを防ぐことができます。ここでは、暗証番号を登録、変更する操作を説明します。

暗証番号を登録する(新規)

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で[5:録音関連設定]を選択して、確定を押す

```
≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
```

「録音関連設定」メニューが表示されます。

3 で[4:メールボックス暗証番号]を選択して、確定を押す

システム管理電話機では[4:メールボックス暗証番号]を、一般ユーザ電話機では[3:メールボックス暗証番号]を選択します。

```
≪録音関連設定≫
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除
4ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ暗証番号
5ﾎﾞｲｽﾒｰﾙ属性
```

「メールボックス指定」画面が表示されます。

4 メールボックスを指定して、確定を押す

メールボックス番号を入力する代わりに、で、メールボックスを順番に検索することができます。

```
≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ指定≫
No>---
↑↓:候補検索
```

MEMO

- 一般ユーザ電話機の場合は自分のメールボックスのみ指定できます。
- メールボックス名称が登録済みの場合には、3行目にメールボックス名称が表示されます。

```
≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ指定≫
No>1234
山田 MBX
↑↓:候補検索
```

「暗証番号設定」画面が表示されます。

5 暗証番号(4桁)を入力し、確定を押す

暗証番号には、0～9の4桁の数字を登録できます。登録する暗証番号を入力したあと、確認用に再度同じ暗証番号を入力してください。

```
≪暗証番号設定≫
新暗証番号>---
確認      >----
```

暗証番号を入力すると画面には「＊」が表示されます。登録が終わると、完了音が鳴り、「録音関連設定」メニューに戻ります。

MEMO

- 暗証番号の4桁目を入力後、次の行へカーソルが移動します。
- 暗証番号入力時に、入力しないで確定を押すと、暗証番号なしに設定できます。

暗証番号を変更する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す

```
≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
```

「録音関連設定」メニューが表示されます。

3 で［4：メールボックス暗証番号］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［4：メールボックス暗証番号］を、一般ユーザ電話機では［3：メールボックス暗証番号］を選択します。

```
≪録音関連設定≫
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除
4ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ暗証番号
5ﾎﾞｲｽﾒｰﾙ属性
```

「メールボックス指定」画面が表示されます。

4 メールボックスを指定して、確定を押す

メールボックス番号を入力する代わりに、で、メールボックスを順番に検索することができます。

```
≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ指定≫
No>■---

↑↓：候補検索
```

MEMO

一般ユーザ電話機の場合は自分のメールボックスのみ指定できます。

「暗証番号設定」画面が表示されます。

5 暗証番号を入力し、確定を押す

暗証番号には、０～９の４桁の数字を登録できます。旧暗証番号と新暗証番号、および確認用に再度、新暗証番号を入力してください。

```
≪暗証番号設定≫
旧暗証番号>■－－－
新暗証番号>－－－－
確認      >－－－－
```

暗証番号を入力すると画面には「＊」が表示されます。登録が終わると、完了音が鳴り、「録音関連設定」メニューに戻ります。

MEMO

- 暗証番号はメールボックスの機密性保持のため参照することはできません。
- 新しい暗証番号入力時に、入力しないで確定を押すと、暗証番号なしに設定できます。

5-3 基本的な使いかた

ボイスメールシステムをご利用いただくときの基本的なサービス（留守番機能、通話内容の録音、メッセージの録音、再生）と、その使いかたについて説明します。

■ 留守番機能（➡ P.224）
- 「留守番機能の設定と使いかた（手動切替）」（➡ P.225）
- 「留守番機能の設定と使いかた（自動切替）」（➡ P.233）
- 「留守番機能の設定と使いかた（共通）」（➡ P.237）
- 「留守番モニタ（居留守応答）」（➡ P.240）
- 「ワンショット留守番」（➡ P.242）
- 「各種代行機能」（➡ P.245）

■ 通話内容の録音
- 「通話録音（通話メモ）」（➡ P.253）

■ メッセージの録音、再生
- 「メールボックス用電話帳を利用する」（➡ P.257）
- 「メールサービスを利用する」（➡ P.259）
- 「メールボックスにメッセージを録音する」（➡ P.268）

留守番機能

留守番機能を利用すると、外線 / 専用線からの着信に自動応答して、応答ガイダンスを流したあと、発信者にメッセージを録音してもらうことができます。また、「ご利用ありがとうございました。」などのガイダンスを流したあとに回線を切断することも、ガイダンスを流さずに切断することもできます。

この機能は、テナントごとに一括して設定します。録音されたメッセージは、共通メールボックスに保存されます。外出先から留守番モードを設定したり、メールボックスに録音されたメッセージを聞くこともできます。

工事設定

テナントごとの共通メールボックス番号、および回線切断前にガイダンスを流さないようにする設定については、販売店にご確認ください。

留守番機能を利用するには、留守番モードに手動または自動で切り替えます。留守番モードへの切り替え方法と、留守番モード中の各動作の設定については以下のとおりです。

■ 留守番モードへの切替

留守番モードへの切り替えは、以下の方法で行うことができます。

- （留守番）（または留守切替特番）を押して手動で切り替える
  参照：「手動で留守番モードを設定 / 解除する」（➡ P.225）
- 切替時刻を設定して自動で切り替える（留守番タイマ連動）
  参照：「自動で留守番モードを設定 / 解除する（留守番モード自動切替）」（➡ P.233）
- 外出先から手動で留守番モードに切り替える
  参照：「外出先から留守番モードや留守番機能を設定する」（➡ P.239）

■ 留守番モード中の各動作の設定

留守番モード中の各動作は、手動切り替え時 / 自動切り替え時のそれぞれに対して設定します。
留守番起動時間や留守番グループの動作、留守番モニタの有無、応答 / 終了ガイダンスの種類、録音通知の有無などを設定できます。

- 手動切り替え時の動作設定
  参照：「手動切替時の留守番機能の動作を設定する」（➡ P.228）
  ※手動切替時には、（留守番）を押すたびに、ガイダンスの種類や動作が切り替わります。
  参照：「外出先から留守番モードや留守番機能を設定する」（➡ P.239）
- 自動切り替え時の動作設定（各曜日の時間帯ごとに設定）
  参照：「自動切替時の留守番機能の動作を設定する」（➡ P.233）
- その他の設定項目
  参照：「留守番起動時間を設定する」（➡ P.238）
  参照：「留守番モードの自動切替と手動切替の優先順位を指定する」（➡ P.237）

■ 留守番録音の確認

留守番モード中に録音されたメッセージは以下の方法で確認できます。録音通知を設定しておくと、留守番録音されたときに通知を受け取ることができます。

参照：「留守番録音されたメッセージの有無を確認する」（➡ P.239）
参照：「メッセージが録音されたことを通知する（メッセージ録音通知）」（➡ P.269）

留守番機能の設定と使いかた（手動切替）

ここでは、手動で留守番モードに切り替えるときの操作と設定について説明します。

手動で留守番モードを設定 / 解除する

手動で留守番モードを設定 / 解除するには、（留守番）を押します。留守番モードはテナントごとに設定 / 解除されます。（留守番）を押したときの動作は、このボタンに登録されている動作指定により異なります。

- **動作指定が「設定に従う」の場合：**
  留守番モードの動作は、グループ（A ～ D）に指定されている留守番動作に従います。
- **動作指定が「ユーザ選択方式」の場合：**
  ボタンを押すたびに留守番モードの動作（留守録 / お知らせ、ガイダンス 1 ～ 3）を切り替えられます。

MEMO

- （留守番）は、あらかじめ に登録しておきます。登録するとき、付加情報 1 に対象のテナント（テナント番号 00 ～ 99）を登録し、付加情報 2（留守番動作指定）にボタンを押したときの動作（「0：設定に従う」または「1： ユーザ選択方式」）を登録します。登録方法と付加情報については、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）、「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」（➡ P.427）を参照してください。
- （留守番）の代わりに、留守切替特番を押すこともできます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。なお、留守切替特番を押したときの動作は、「設定に従う」になります。
- 留守番モードへの切替は、留守番グループ A ～ D のいずれか 1 グループの留守番動作の選択が、「応答録音」または「応答専用」の場合に有効です。留守番動作の選択については「留守番モード中に着信があったときの動作の選択（留守番グループごと）」（➡ P.228）を参照してください。

留守モードの設定：（留守番）の動作指定が「設定に従う」の場合

1 待受画面で、（留守番）を押す

- （留守番）の代わりに、留守切替特番を押すこともできます。
- 完了音が鳴り、留守番グループ A に指定されている留守番動作により、以下のいずれかの画面が表示されます。

「応答録音」が指定されている場合：

```
留守録 A ／ガイダンス 1
あと１０００件録音できます
```

「応答専用」が指定されている場合：

```
お知らせ A ／ガイダンス 1
```

2 数秒間、そのまま待つ

待受画面が表示され、1 行目に「留守録 A」または「お知らせ A」、4 行目に留守 1 が表示されます。

```
留守録 A              内線 11
１０月２４日（木）
 午前　 ９：００
 留守 1
```

留守番モードが設定され、同じテナントに所属するすべての電話機の待受画面に同じ留守番動作と留守 1 が表示されます。

また、留守番グループ A ～ D に指定されている留守番動作が各グループの外線で有効になります。

MEMO

留守番モード中に、例えば留守番グループ B に所属する外線から着信があった場合は、留守番グループ B に指定されている留守番動作に従います。「応答録音」（留守録）の場合は、応答録音ガイダンスが流れたあと、メッセージを録音します。「応答専用」（お知らせ）の場合は、応答専用ガイダンスが流れます。

なお、「設定に従う」の場合はガイダンス 1 に設定したガイダンスが使用されます。ガイダンスの設定については、「応答ガイダンスの選択（テナントごと）」（➡ P.229）を参照してください。

留守モードの解除：（留守番）の動作指定が「設定に従う」の場合

■録音メッセージのない場合

1 待受画面で、（留守番）を押す

操作する電話機が留守番電話機でない場合は、もう一度、（留守番）を押してください。

```
留守録 A              内線 11
１０月２４日（木）
午前　９：００
留守1
```

完了音が鳴り、留守番モードが解除されます。

↓

```
                      内線 11
１０月２４日（木）
午前　９：００
```

待受画面の１行目と４行目に表示されていた「留守録 A」および留守1が消えます。

MEMO

（留守番）の代わりに、留守切替特番を押すこともできます。ただし、留守切替特番を押した場合は、録音メッセージがあっても、メッセージ再生は行われません。

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

■録音メッセージのある場合

1 待受画面で、（留守番）を押す

操作する電話機が留守番電話機でない場合は、もう一度、（留守番）を押してください。

```
留守録 A              内線 11
１０月２４日（木）
午前　９：００
留守1
```

完了音が鳴り、留守番モードが解除されて、自動的にメールセンターに接続されます。

↓

```
メールサービス        ＭＢＸ：８０
 件数　　１件／新規　　１件

機能 操作ガイド
```

↓（件数読み上げのガイダンス終了後）

```
0001: 内線 11                 新規
１０月２４日（木）　午前　９：００

機能 操作ガイド          再生中
```

再生終了後にガイダンスが流れます。メールセンターから切断すると、待受画面に戻ります。

留守モードの設定：（留守番）の動作指定が「ユーザ選択方式」の場合

1 待受画面で、（留守番）を押す

完了音が鳴り、以下のような画面が表示されます。

＜表示例＞

```
留守録 A ／ガイダンス１
あと１０００件録音できます
```

2 （ほかの留守番動作に切り替えたい場合）再度、（留守番）を押す

完了音が鳴り、以下のような画面が表示されます。

＜表示例＞

```
お知らせ A ／ガイダンス１
```

（留守番）を押すたびに、留守番モードの動作パターン（留守番動作とガイダンス）が以下のように切り替わります。

留守録 A/ ガイダンス１→ 留守録 A/ ガイダンス２→留守録 A/ ガイダンス３→ お知らせ A/ ガイダンス１→お知らせ A/ ガイダンス２→お知らせ A/ ガイダンス３→解除

※ガイダンス１～３にそれぞれ応答録音ガイダンスが設定されている場合は「留守録」、応答専用ガイダンスが設定されている場合には「お知らせ」が表示されます。

※ガイダンスが設定されていない場合はスキップされます。例えば、ガイダンス１の応答専用ガイダンスが「なし」の場合は「お知らせ A/ ガイダンス１」がスキップされます。ガイダンスの設定については、「応答ガイダンスの選択（テナントごと）」（➡ P.229）を参照してください。

MEMO

この機能を使用する場合は、留守番グループ A の留守番動作の指定を「応答録音」または「応答専用」にしてください。

留守番モードへの切替は、留守番グループ A ～ D のいずれか１グループの留守番動作が「応答録音」または「応答専用」の場合であれば有効ですが、留守番グループ A が「在宅」の場合は、電話機のディスプレイに留守番動作（「留守録 A」「お知らせ A」）が表示されません。

つづく➡

3 選択したい動作パターンが表示されたときに、数秒間、そのまま待つ

待受画面が表示され、選択した動作パターンに応じて、1行目に「留守録 A」または「お知らせ A」、4行目に留守1～留守3のいずれかが表示されます。留守1～留守3はガイダンス1～3に対応します。

```
お知らせ A              内線 11
 １０月２４日(木)
   午前   ９：００
   留守3
```

留守番モードが設定され、同じテナントに所属するすべての電話機の待受画面に同じ留守番動作と留守1～留守3が表示されます。

また、ここで選択した留守番動作(およびガイダンス)が、同じテナント内のすべての留守番グループの外線で有効になります。

MEMO

留守番グループ A～D に指定されている留守番動作(「応答録音」または「応答専用」)よりも、手順3で選択した留守番動作のほうが優先されます。例えば、留守番グループ B の留守番動作に「応答録音」が指定されている場合でも、手順3で「お知らせ A/ ガイダンス 1」を選択すると、留守番グループ B の外線への着信時には応答専用ガイダンスが流れます。

ただし、留守番動作が「在宅」と指定されている留守番グループの外線には留守番モードが設定されないので、手順3での選択が「留守録」または「お知らせ」でも、外線着信時には留守応答できません。

留守モードの解除：(留守番)の動作指定が「ユーザ選択方式」の場合

■録音メッセージのない場合

1 待受画面で、(留守番)を押す

操作する電話機が留守番電話機でない場合は、もう一度、(留守番)を押してください。

(留守番)を押すたびに、完了音が鳴り、留守番モードの動作パターン(留守番動作とガイダンス)が切り替わります。

```
留守録 A                内線 11
 １０月２４日(木)
   午前   ９：００
   留守1
```

↓

```
留守録 A ／ガイダンス２
あと１０００件録音できます
```

↓ (留守番)

⋮

↓ (留守番)

```
お知らせ A ／ガイダンス３
```

↓ (留守番)

```
                        内線 11
 １０月２４日(木)
   午前   ９：００
```

留守番モードが解除されるまで(留守番)を数回押してください。

留守番モードが解除されると、待受画面の1行目と4行目に表示されていた「留守録 A」および留守1～留守3が消えます。

■録音メッセージのある場合

1 待受画面で、(留守番)を押す

操作する電話機が留守番電話機でない場合は、もう一度、(留守番)を押してください。

```
留守録 A                内線 11
 １０月２４日(木)
   午前   ９：００
   留守1
```

完了音が鳴り、留守番モードが解除されて、自動的にメールセンターに接続されます。

↓

```
メールサービス          ＭＢＸ：８０
 件数      １件／新規      １件

機能 操作ガイド
```

↓ (件数読み上げのガイダンス終了後)

```
0001: 内線 11                 新規
 10月24日(木)  午前  9:00

機能 操作ガイド          再生中
```

再生終了後にガイダンスが流れます。メールセンターから切断すると、待受画面に戻ります。

手動切替時の留守番機能の動作を設定する

留守番機能の各種設定や動作はテナントごとに設定します。この設定は、システム管理電話機または **Web 設定**（管理ユーザレベル）から操作できます。Web 設定については『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

以下の 4 項目のうち必要な項目を選んで設定してください。

項目	説明
「留守番モード中に着信があったときの動作の選択（留守番グループごと）」	留守番モード中に着信があったときの動作を、留守番グループ（A ～ D）ごとに設定することができます。
「応答ガイダンスの選択（テナントごと）」	留守番モード中に着信があったとき、相手に流すガイダンスを選択します。 ※電話機のサービスメニューから選択できるのは、ガイダンス 1 のみです。ガイダンス 2、3 の設定は **Web 設定**で行います。
「終了ガイダンスの選択（テナントごと）」	留守番モード中、相手がメッセージを録音しているとき、録音時間の制限で切断する際に、相手に流すガイダンスを選択します。
「留守モード中のメッセージ録音通知の有無と録音通知方法を選択する」	留守番モード中に留守録にメッセージが録音されたことを通知するかどうかと、通知する場合の通知方法（電話 /E メール）を選択します。

留守番モード中に着信があったときの動作の選択（留守番グループごと）

テナント内の回線を留守番グループ A ～ D にグループ分けして（工事設定）、留守番グループ（回線のグループ）ごとに、留守番モード中に着信があったときの留守番機能の動作（動作種別）を選択することができます。

グループごとに、留守番機能の動作（動作種別）として、以下の 3 つのいずれかの動作を選択できます。例えば、グループ A の回線は「応答録音」、グループ B の回線は「応答専用」のように選択できます。

- そのまま着信する（「在宅」）
- 応答ガイダンスを流したあと、着信相手に録音してもらう（「応答録音」）
- 応答ガイダンスを流したあと、回線を切断する（「応答専用」）

工事設定

- この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
- 応答後や録音後に回線を切断するかしないか、工事設定で選択することができます。販売店にご確認ください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◆で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

3 ◆で［1：留守番設定］を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
1留守番設定
2ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりに◆で、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>■-
↑↓：候補検索

テナントが設定され、「留守番設定」メニューが表示されます。

5 ◆で［3：留守番動作（手動）］を選択して、確定を押す

≪留守番設定≫
1留守番起動時間
2ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作
3留守番動作（手動）

6 ◆で［5：動作選択］を選択して、確定を押す

≪留守番動作（手動）≫
5動作選択
6録音通知の有無
1留守番ﾓﾆﾀ指定

つづく➡

7 で留守番グループを指定して、確定を押す

≪留守番ｸﾞﾙｰﾌﾟ選択≫
1留守番ｸﾞﾙｰﾌﾟ A
2留守番ｸﾞﾙｰﾌﾟ B
3留守番ｸﾞﾙｰﾌﾟ C

8 で動作種別を指定して、確定を押す

≪動作選択≫
1在宅*
2応答録音
3応答専用

留守番グループごとの留守番動作が設定され、「留守番動作（手動）」メニューに戻ります。

応答ガイダンスの選択（テナントごと）

留守番モード中に着信があったとき、相手に流すガイダンスを選択します。
電話機のサービスメニューから選択できるのは、ガイダンス 1 のみです。ガイダンス 2、3 の設定は **Web 設定**で行います。『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

3 で［1：留守番設定］を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
1留守番設定
2ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりに で、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>--
↑↓：候補検索

テナントが設定され、「留守番設定」メニューが表示されます。

5 で［3：留守番動作（手動）］を選択して、確定を押す

≪留守番設定≫
1留守番起動時間
2ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作
3留守番動作（手動）

6 で［2：応答録音ガイダンス］（または［3：応答専用ガイダンス］）を選択して、確定を押す

≪留守番動作（手動）≫
1留守番ﾓﾆﾀ指定
2応答録音ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
3応答専用ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

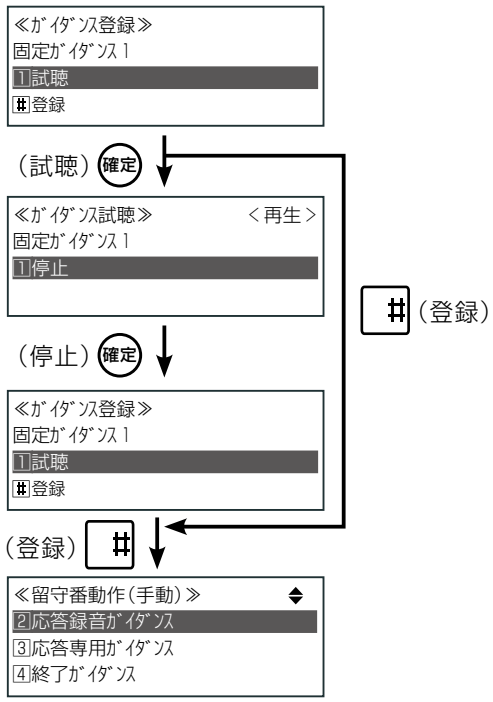
7 でガイダンスの種類を選択して、確定を押す

≪応答録音ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ≫
1固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ1*
2固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ2
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

- ［1: 固定ガイダンス 1］［2: 固定ガイダンス 2］を選択した場合は「ガイダンス登録」メニューが表示されます。
- ［3: ユーザガイダンス］を選択した場合は「ユーザガイダンス選択」画面が表示されます。
- 「4: なし」を選択した場合は、登録完了音のあと「留守番動作（手動）」メニューに戻ります。

つづく➡

8 で［1：試聴］または［#：登録］を選択して、確定を押す



応答ガイダンスが設定され、「留守番動作（手動）」メニューに戻ります。

MEMO

手順 8 で、試聴中に を押すと、試聴する音量を調節することができます。

応答録音ガイダンス、応答専用ガイダンスの各ガイダンスの再生内容は以下のとおりです。

ガイダンスの種類	応答録音ガイダンス	応答専用ガイダンス
固定ガイダンス 1	ただ今留守にしています。発信音の後にメッセージをお話しください。	ただ今、留守にしています。しばらくしてからおかけ直しください。
固定ガイダンス 2	お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを承ります。ピーという発信音の後に、お名前とご用件をお話しください。	お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。のちほど、お電話いただきますようお願いいたします。
ユーザガイダンス	ユーザガイダンス 00 ～ 99 ※ユーザガイダンスを選択する場合は、事前に、ガイダンスを録音しておいてください。ユーザガイダンスの録音については、第 4 章の「代行 / 留守番 /IVR の応答ガイダンスを録音する（ユーザガイダンス録音）」（➡ P.211）を参照してください。	
なし※	（応答ガイダンスが流れず、応答直後に録音開始告知音が「ピー」と鳴ります）	（応答ガイダンスが流れず無音のまま、PB 信号入力待ちになります）

※上記は、（留守番）の付加情報（留守番動作指定）が「設定に従う」の場合の動作です。

MEMO

（留守番）の付加情報（留守番動作指定）が「ユーザ選択方式」の場合は、ガイダンス 1 ～ 3 の応答録音ガイダンスまたは応答専用ガイダンスの中から「なし」が設定されていないものが選択できるようになります（すべて「なし」の場合は留守番モードを設定できません）。詳細は『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

終了ガイダンスの選択（テナントごと）

留守番モード中、相手がメッセージを録音しているとき、録音時間の制限で切断する際に、相手に流すガイダンスを選択します。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

3 で［1：留守番設定］を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
1留守番設定
2ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>--
↑↓：候補検索

テナントが設定され、「留守番設定」メニューが表示されます。

5 で［3：留守番動作（手動）］を選択して、確定を押す

≪留守番設定≫
1留守番起動時間
2ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作
3留守番動作（手動）

6 で［4：終了ガイダンス］を選択して、確定を押す

≪留守番動作（手動）≫
2応答録音ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
3応答専用ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
4終了ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

7 で［2：固定ガイダンス］または［3：ユーザガイダンス］を選択して、確定を押す

≪終了ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ≫
1なし
2固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ*
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

- 「1: なし」を選択した場合は、登録完了音のあと「留守番動作（手動）」メニューに戻ります。
- ［2: 固定ガイダンス］を選択した場合は「ガイダンス登録」メニューが表示されます。
- ［3: ユーザガイダンス］を選択した場合は「ユーザガイダンス選択」画面が表示されます。

8 で［1：試聴］または［#：登録］を選択して、確定を押す

- 表示されるディスプレイ画面は、「応答ガイダンスの選択（テナントごと）」（➡ P.229）の手順 5 と同じです。
- 終了ガイダンスが設定され、「留守番動作（手動）」メニューに戻ります。

MEMO

試聴中にを押すと、試聴する音量を調節することができます。

終了ガイダンスの各ガイダンスの再生内容は以下のとおりです。

ガイダンスの種類	再生内容
なし	（再生するガイダンスはなく、終了告知音のみとなります）
固定ガイダンス	制限時間になりましたので、録音を終了します。
ユーザガイダンス	ユーザガイダンス 00 ～ 99 ※ユーザガイダンスを選択する場合は、事前に、ガイダンスを録音しておいてください。ユーザガイダンスの録音については、第 4 章の「代行 / 留守番 /IVR の応答ガイダンスを録音する（ユーザガイダンス録音）」（➡ P.211）を参照してください。

留守モード中のメッセージ録音通知の有無と録音通知方法を選択する

留守モード中に、留守録にメッセージが録音されたことを通知するかどうかと、通知する場合の通知方法（電話 /E メール）を選択します。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7 応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

3 で［1：留守番設定］を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
1 留守番設定
2 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3 ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>--
↑↓：候補検索

テナントが設定され、「留守番設定」メニューが表示されます。

5 で［3：留守番動作（手動）］を選択して、確定を押す

≪留守番設定≫
1 留守番起動時間
2 ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作
3 留守番動作（手動）

6 で［6：録音通知の有無］を選択して、確定を押す

≪留守番動作（手動）≫
5 動作選択
6 録音通知の有無
1 留守番ﾓﾆﾀ指定

7 で録音通知の有無と録音通知方法を選択して、確定を押す

［1: 通知無し］、［2: 電話呼出］、［3:E メール通知］、［4: 電話呼・E メール通知］のいずれかから選択します。

≪録音通知指定≫
1 通知無し*
2 電話呼出
3 E ﾒｰﾙ通知

メッセージが録音されたときの録音通知方法が設定され、「留守番動作（手動）」メニューに戻ります。

MEMO

- 各録音通知方法の選択時の動作と通知先の登録については、「メッセージが録音されたことを通知する（メッセージ録音通知）」（➡ P.269）を参照してください。
- 留守番に関する設定は、Web 設定からも設定できます。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

留守番機能の設定と使いかた（自動切替）

自動で留守番モードを設定 / 解除する（留守番モード自動切替）

指定した曜日、時間に在宅モードと留守番モードを自動的に切り替えるように設定することができます。

この設定は、テナントごとに、システム管理電話機または **Web 設定**（管理ユーザレベル）から行います。電話機からの操作については、「自動切替時の留守番機能の動作を設定する」（➡ P.233）を参照してください。Web 設定に関する詳細については『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

MEMO

- 自動切替設定は、設定した時点から有効となります。したがって、現在時刻が開始時間を超えている場合はモードが切り替えられ、指定された動作パターンで動作します。
- 在宅自動応答時間（「留守番起動時間を設定する」（➡ P.238）を参照）を過ぎても応答しないでいると、在宅モードでも留守番応答し、留守モードに切り替わります（在宅自動応答）。

自動切替時の留守番機能の動作を設定する

留守番モード自動切替（留守番タイマ連動）の設定では、8 曜日（日～土と休日 / 祝祭日）のそれぞれに対して、1 日を 1 ～ 10 の時間帯に分けて、時間帯ごとに動作を設定します。祝祭日 / 休日の設定については、「システムカレンダーを利用する」（➡ P.149）を参照してください。

設定する項目は以下のとおりです。

項目と内容				
＜留守番動作（自動）＞				
1: 日曜日～ 8: 休日 / 祝祭日				
＜曜日動作＞				
1: 動作選択	1: 在宅		[時間帯 1]（0：00）の留守番機能を OFF に設定します。	
	2: 前日モードを継続		前日と同じモードに設定します。	
	3: スケジュールに従う		登録したスケジュールどおりに動作させます。	
2: スケジュール設定				
	1: 時間帯 1 ～ 0: 時間帯 10			
	＜時間帯設定＞			
		1: 開始時間	[時間帯 1] は 00：00 に固定されています。	
		2: 留守番モニタ指定	留守番モニタ動作を選択します。	
			サイレント	録音中に相手のメッセージが聞こえないように設定します。
			モニタ	録音中に相手のメッセージが聞こえるように設定します。
		3: 応答録音ガイダンス	応答録音ガイダンスの種類を選択します。	
			[固定ガイダンス 1]、[固定ガイダンス 2]、[ユーザガイダンス]、[なし] ※ [ユーザガイダンス] を選択したときはユーザガイダンス番号を入力します。	
		4: 応答専用ガイダンス	応答専用ガイダンスの種類を選択します。	
			[固定ガイダンス 1]、[固定ガイダンス 2]、[ユーザガイダンス]、[なし] ※ [ユーザガイダンス] を選択したときはユーザガイダンス番号を入力します。	
		5: 終了ガイダンス	最大録音時間を超えた状態で留守番タイマが起動したときに、「ピーピー」のお知らせ音のあとに流す終了ガイダンスを選択します。	
			[なし]、[固定ガイダンス]、[ユーザガイダンス] ※ [ユーザガイダンス] を選択したときはユーザガイダンス番号を入力します。	
		6: 動作選択	留守番グループごとの動作を選択します。	
			在宅	留守番機能を OFF に設定します。
			応答録音	外線着信に自動応答し、応答録音ガイダンスを流してガイダンス終了後にメッセージを録音します。
			応答専用	外線着信に自動応答し、応答専用ガイダンスを 2 回流します。
			※全グループで「在宅」を選択した場合は、留守番モードに切り替わりません。	
		7: 録音通知の有無	留守録にメッセージが録音されたことを通知するかどうかと、通知する場合の通知方法（電話 /E メール）を選択します。	
			[通知無し]、[電話呼出]、[E メール通知]、[電話呼・E メール通知]	

自動切替の留守番動作を設定する

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [5：録音関連設定] を選択して、確定を押す

```
≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理
```

3 で [1：留守番設定] を選択して、確定を押す

```
≪録音関連設定≫
1留守番設定
2ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除
```

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

```
≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>■-

↑↓：候補検索
```

入力したテナント番号にテナント名称が登録済みの場合には 3 行目にテナント名称が表示されます。

5 で [4：留守番動作（自動）] を選択して、確定を押す

```
≪留守番設定≫
2ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作
3留守番動作（手動）
4留守番動作（自動）
```

6 で曜日を選択して、確定を押す

```
≪留守番動作（自動）≫
1日曜日
2月曜日
3火曜日
```

7 で [1：動作選択] を選択して、確定を押す

```
≪曜日動作≫
1動作選択
2ｽｹｼﾞｭｰﾙ設定
```

8 で動作モード選択して、確定を押す

手順 6 で選択した曜日の 00：00 に切り替わる動作モードを選択します。

```
≪動作選択≫
1在宅*
2前日ﾓｰﾄﾞを継続
3ｽｹｼﾞｭｰﾙに従う
```

「曜日動作」メニュー画面に戻ります。

9 で [2：スケジュール設定] を選択して、確定を押す

```
≪曜日動作≫
1動作選択
2ｽｹｼﾞｭｰﾙ設定
```

10 で、[1：時間帯 1] ～ [0：時間帯 10] のいずれかを選択して、確定を押す

```
≪ｽｹｼﾞｭｰﾙ設定≫
1時間帯 1
2時間帯 2
3時間帯 3
```

＜各時間帯の開始時間の設定＞

11 で [1：開始時間] を選択して、確定を押す

```
≪時間帯設定≫
1開始時間
2留守番ﾓﾆﾀ指定
3応答録音ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
```

12 開始時間を入力して、確定を押す

[1：時間帯 1] の開始時間は、00:00 に固定されています。

```
≪開始時間≫
■-：--

(00：01 ～ 23:59)
```

手順 10 で選択した時間帯の開始時刻が設定され、「時間帯設定」メニュー画面に戻ります。

＜留守番モニタ / サイレントの設定＞

13 で [2：留守番モニタ指定] を選択して、確定を押す

```
≪時間帯設定≫
1開始時間
2留守番ﾓﾆﾀ指定
3応答録音ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
```

つづく➡

14 で [1: サイレント] または [2: モニタ] を選択して、確定を押す

相手がメッセージを録音しているときに、こちらに音が聞こえるようにしてモニタするか、音を聞こえないようにサイレントにするかを設定します。

≪留守番ﾓﾆﾀ指定≫
1ｻｲﾚﾝﾄ*
2ﾓﾆﾀ

手順 10 で選択した時間帯の留守番モニタ指定が設定され、「時間帯設定」メニューに戻ります。

※留守番モニタ（居留守応答）の詳細は「留守番モニタ（居留守応答）」（➡P.240）を参照してください。

＜応答録音 / 応答専用ガイダンスの設定＞

15 で [3：応答録音ガイダンス]（または [4：応答専用ガイダンス]）を選択して、確定を押す

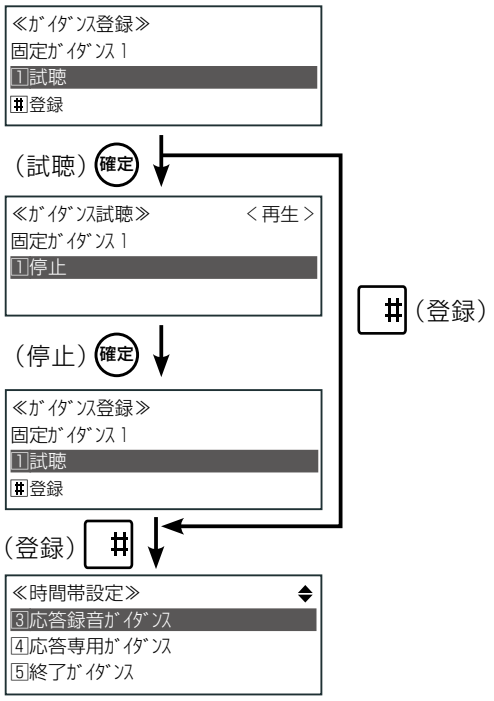
≪時間帯設定≫
1開始時間
2留守番ﾓﾆﾀ指定
3応答録音ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

16 でガイダンスの種類を選択して、確定を押す

≪応答録音ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ≫
1固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ 1*
2固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ 2
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

- [1: 固定ガイダンス 1] [2: 固定ガイダンス 2] を選択した場合は「ガイダンス登録」メニューが表示されます。
- [3: ユーザガイダンス] を選択した場合は「ユーザガイダンス選択」画面が表示されます。
- 「4: なし」を選択した場合は、手順 10 で選択した時間帯の応答録音または応答専用ガイダンスが「無し」に設定され、「時間帯設定」メニュー画面に戻ります。

17 で [1：試聴] または [#：登録] を選択して、確定を押す



手順 10 で選択した時間帯の応答ガイダンスが設定され、「時間帯設定」メニューに戻ります。

MEMO

- 手順 17 で、試聴中に を押すと、試聴する音量を調節することができます。
- 選択できるガイダンスの種類については、「手動切替時の留守番機能の動作を設定する」の「応答ガイダンスの選択（テナントごと）」（➡ P.229）を参照してください。

つづく➡

＜終了ガイダンスの設定＞

18 で［5：終了ガイダンス］を選択して、確定を押す

≪時間帯設定≫
3応答録音ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
4応答専用ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
5終了ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

19 で［1: なし］または［2：固定ガイダンス］または［3：ユーザガイダンス］を選択して、確定を押す

≪終了ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ≫
1なし
2固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ*
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

- 「1: なし」を選択した場合は、手順 10 で選択した時間帯の終了ガイダンスが「無し」に設定され、「時間帯設定」メニュー画面に戻ります。
- ［2: 固定ガイダンス］を選択した場合は「ガイダンス登録」メニューが表示されます。
- ［3: ユーザガイダンス］を選択した場合は「ユーザガイダンス選択」画面が表示されます。

20 で［1：試聴］または［#：登録］を選択して、確定を押す

- 表示されるディスプレイ画面は、手順 17 と同じです。
- 手順 10 で選択した時間帯の終了ガイダンスが設定され、「時間帯設定」メニューに戻ります。

MEMO

選択できるガイダンスの種類については、「手動切替時の留守番機能の動作を設定する」の「終了ガイダンスの選択（テナントごと）」（➡ P.231）を参照してください。

＜留守番グループの動作選択＞

21 で［6：動作選択］を選択して、確定を押す

留守番グループごとの留守番動作を設定します。

≪時間帯設定≫
4応答専用ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
5終了ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
6動作選択

22 で留守番グループを指定して、確定を押す

動作を選択する留守番グループ（A ～ D）を選択します。

≪留守番ｸﾞﾙｰﾌﾟ選択≫
1留守番ｸﾞﾙｰﾌﾟ A
2留守番ｸﾞﾙｰﾌﾟ B
3留守番ｸﾞﾙｰﾌﾟ C

23 で動作種別を指定して、確定を押す

≪動作選択≫
1在宅*
2応答録音
3応答専用

MEMO

留守番グループと動作については「留守番モード中に着信があったときの動作の選択（留守番グループごと）」（➡ P.228）を参照してください。

手順 10 で選択した時間帯の留守番グループごとの留守番動作が設定され、「時間帯設定」メニューに戻ります。

＜録音通知の有無と録音通知方法の設定＞

24 で［7：録音通知の有無］を選択して、確定を押す

留守番モード中にメッセージが録音されたことを、あらかじめ設定した通知先へ通知するかどうかを設定します。

≪時間帯設定≫
5終了ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
6動作選択
7録音通知の有無

25 で録音通知の有無と録音通知方法を選択して、確定を押す

［1: 通知無し］、［2: 電話呼出］、［3:E メール通知］、［4: 電話呼・E メール通知］のいずれかから選択します。

≪録音通知指定≫
1通知無し*
2電話呼出
3Eﾒｰﾙ通知

手順 10 で選択した時間帯の留守番モード時に留守録が録音されたときの録音通知方法が設定され、「時間帯設定」メニューに戻ります。

MEMO

- 各録音通知方法の選択時の動作と通知先の登録については、「メッセージが録音されたことを通知する（メッセージ録音通知）」（➡ P.269）を参照してください。
- 留守番に関する設定は、Web 設定からも設定できます。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

同じ曜日のほかの時間帯のガイダンスや留守番グループの動作を設定する場合は、手順 10 から、ほかの曜日の留守番動作を設定する場合は、手順 6 から操作を繰り返してください。

留守番機能の設定と使いかた（共通）

ここでは、留守番機能の手動切替と自動切替の両方に関連する機能や使いかたについて説明します。

- 「留守番モードの自動切替と手動切替の優先順位を指定する」（➡ P.237）
- 「留守番起動時間を設定する」（➡ P.238）
- 「外出先から留守番モードや留守番機能を設定する」（➡ P.239）
- 「留守番録音されたメッセージの有無を確認する」（➡ P.239）

留守番モードの自動切替と手動切替の優先順位を指定する

留守番モード切替の動作について手動切替 / 自動切替のどちらを優先するかを選択します。
この設定は、テナントごとに設定します。システム管理電話機または **Web 設定**（『取扱説明書（Web 設定編）』を参照）から操作できます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

3 で［1：留守番設定］を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
1留守番設定
2ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>--
↑↓：候補検索

入力したテナント番号にテナント名称が登録済みの場合には 3 行目にテナント名称が表示されます。

5 で［5：留守番切替指定］を選択して、確定を押す

≪留守番設定≫
3留守番動作（手動）
4留守番動作（自動）
5留守番切替指定

6 で留守番切替動作を指定して、確定を押す

≪留守番切替指定≫
1手動優先*
2自動優先

手動 / 自動のいずれが優先されるかが設定され、「留守番設定」メニューに戻ります。

留守番起動時間を設定する

在宅モード / 留守番モードで自動応答するまでの時間を指定します。在宅モードは在宅自動応答時間、留守番モードは留守番自動応答時間となります。
この設定は、テナントごとに設定します。システム管理電話機または **Web 設定**(『取扱説明書(Web 設定編)』を参照)から操作できます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で [5:録音関連設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

3 で [1:留守番設定] を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
1留守番設定
2ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号(00 ～ 99)を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>--
↑↓:候補検索

テナントが設定され、「留守番設定」メニューが表示されます。

5 で [1:留守番起動時間] を選択して、確定を押す

≪留守番設定≫
1留守番起動時間
2ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作
3留守番動作(手動)

6 でモードを指定して、確定を押す

≪留守番起動時間≫
1在宅ﾓｰﾄﾞ時
2留守番ﾓｰﾄﾞ時

7 留守番起動時間を入力して、確定を押す

≪留守番起動時間≫
009
(000 ～ 180 秒)

留守番起動時間が設定され、「留守番設定」メニューに戻ります。

MEMO

- 留守番起動時間は、留守番の自動切替 / 手動切替で共用されます。
- 在宅自動応答時間(在宅モード時の留守番起動時間)を 0 秒に指定すると、自動応答しません。
- 留守番自動応答時間(留守番モード時の留守番起動時間)を 0 秒に指定すると即時応答になります。

外出先から留守番モードや留守番機能を設定する

外出先からテナントの電話機の留守番モードを設定したり、留守番機能を変更したりできます。詳細については、第 3 章の「外出先から留守番電話機能を利用する（留守リモコン）」（➡ P.139）を参照してください。
留守番リモコンで変更できる留守番モードは、リモコン起動時に指定した内線が所属するテナントのモードになります。変更した内容は、手動切替時の動作に反映されます。

留守番録音されたメッセージの有無を確認する

留守番モードを ON にすると、それ以降の外線着信はボイスメールシステムで応答します。かけてきた相手には応答ガイダンスを流して、メッセージを録音してもらうことができます。留守モードでの録音メッセージは共通メールボックスに保存されます。

動作は、「手動切替時の留守番機能の動作を設定する」（➡ P.228）または「自動切替時の留守番機能の動作を設定する」（➡ P.233）の設定に従います。

在宅モード / 留守番モードの状態とテナント内の電話機のランプ表示は次のようになります。

※在宅モード中に（留守番）を押した電話機が留守番電話機になります。

状態	（留守番）ランプ	
	留守番電話機	同じテナントの留守番電話機以外の電話機
留守番モード ON（新規メッセージあり）	遅点滅（緑）	遅点滅（赤）
留守番モード ON（新規メッセージなし）	点灯（緑）	点灯（赤）
留守モード OFF（在宅モード）	消灯	消灯

留守番モード中に録音された新規メッセージを聞くには、点滅している（留守番）を押します。

MEMO

- 留守モード OFF（在宅モード）のときや、新規でない留守番メッセージを聞く場合は、メールセンターに接続して、留守番メッセージが保存されている共通メールボックスにログオンすれば、再生することができます。操作方法は「メールサービスを利用する」（➡ P.259）を参照してください。
- （留守番）は、あらかじめ に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。付加情報については「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」（➡ P.427）を参照してください。

■録音可能残り件数が 0 件のとき：

- メッセージ録音できないため、留守番モード中の動作種別は自動的に「応答専用」になります。
- メッセージ録音のできない状態のとき、動作種別が「応答録音」の留守番モードが ON になると、ディスプレイの 2 行目に『これ以上録音できません』と表示されます。
- 留守番モード中に録音できる状態に戻ると、動作種別が「応答専用」から「応答録音」に戻ります。

工事設定

メッセージ自動削除機能を利用すると、録音可能な状態を保つことができます。設定については、販売店にご確認ください。

留守番モニタ（居留守応答）

留守番応答し、相手がメッセージを録音しているときに、こちらに音が聞こえるようにしてモニタするか、音を聞こえないようにするか（サイレント）を設定することができます。

相手がメッセージを録音しているときでも留守番電話機の受話器を上げると録音を終了し、相手と通話できます（この場合、録音された内容は破棄されます）。

留守番モニタできる電話機は、留守番電話機として設定されている電話機です（テナント内で 1 台）。留守番電話機に指定されていると、その電話機では（留守番）ランプが点灯（緑）します。

MEMO

コードレス電話機（WSd）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）では、留守番モニタ機能を利用できません。

手動切替時の留守番モニタ機能を設定する

留守番モニタまたは留守番サイレントの設定（テナントごとに設定）は、システム管理電話機のサービスメニューから、または Web 設定から操作します。ここでは、サービスメニューからの操作を説明します。Web 設定については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7 応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

3 で［1：留守番設定］を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
1 留守番設定
2 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3 ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号（00 ～ 99）を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>
↑↓：候補検索

テナントが設定され、「留守番設定」メニューが表示されます。

5 で［3：留守番動作（手動）］を選択して、確定を押す

≪留守番設定≫
1 留守番起動時間
2 ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作
3 留守番動作（手動）

6 で［1：留守番モニタ指定］を選択して、確定を押す

≪留守番動作（手動）≫
1 留守番ﾓﾆﾀ指定
2 応答録音ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
3 応答専用ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

7 で［2：モニタ］を指定して、確定を押す

≪留守番ﾓﾆﾀ指定≫
1 ｻｲﾚﾝﾄ*
2 ﾓﾆﾀ

留守番モニタが設定され、「留守番動作（手動）」メニューに戻ります。

留守番モニタの状態と表示（居留守応答）

留守番モニタ指定で選択できるのは、「サイレント / モニタ」の 2 種類です。
それぞれの場合の動作や状況は、次の表のようになります。

	留守番モニタ	留守番サイレント
留守番ガイダンス / 発信者の音声	聞こえる	聞こえない
スピーカ	点灯（赤）（スピーカ受話状態）	消灯
（留守番）	点灯（緑）（自内線が留守番電話機の場合） 点灯（赤）（他の電話機が留守番電話機の場合でテナントが留守番モードの場合）	
ディスプレイ表示	留守録 A　内線 10 １０月２４日（木） 午前　９：００ 留守1	留守録 A　内線 10 １０月２４日（木） 午前　９：００ 留守1 S
備　考	留守番モニタ中に スピーカ を押すと、一時的に留守番サイレントに変わる。 ※この状態で スピーカ をもう一度押しても留守番モニタには戻りません。	

留守番電話機を切り替える

留守番電話機はテナント内で 1 台だけですが、留守番モード中（自動 / 手動）に、留守番電話機でない電話機で（留守番）を押すことにより、操作した電話機を一時的に留守番電話機として切り替えることができます。
切替操作可能な電話機は、留守番モードになっている同じテナント内の電話機のみです。

＜他の電話機が留守番電話機＞
（テナント内は留守番モード）

留守録 A　内線 10
１０月２４日（木）
午前　９：００
留守1

（留守番）を押す →

＜この電話機が留守番電話機＞

留守録 A　内線 10
１０月２４日（木）
午前　９：００
留守1

（留守番）ランプ：点灯（赤）　　（留守番）ランプ：点灯（緑）

MEMO

- （留守番）は、あらかじめ に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- （留守番）の代わりに、留守切替特番を押すこともできます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

ワンショット留守番

留守番応答可能な着信中に、(ワン留守)を押すことにより、強制的に留守番応答を起動します。テナント内の留守番応答可能な着信すべてに対して、留守番電話機でない電話機からでも留守番応答できます。ワンショット留守番での録音先は自動応答での録音先と同じです。

MEMO

- ワンショット留守番で応答する着信は、先着順となります。
- 操作する内線が通話中でも、着信中の外線があるとワンショット留守番を起動することができます。
- 設定については、「ワンショット留守番の動作を設定する」(➡ P.242)の設定に従います。

ワンショット留守番の動作を設定する

留守番応答可能な着信中に、(ワン留守)を押すことにより、強制的に留守番応答を起動できることを**ワンショット留守番**と呼びます。ここでは、ワンショット留守番機能で応答するときの応答ガイダンスの指定と、留守録にメッセージが録音されたときに通知する機能(メッセージ録音通知)を設定します。

この設定は、システム管理電話機または Web 設定(管理ユーザレベル)から操作できます。Web 設定については『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

MEMO

設定した機能の使いかたについては、「ワンショット留守番機能で応答する」(➡ P.244)を参照してください。

ワンショット留守番での応答ガイダンスの選択

ワンショット留守番機能で応答するときの応答ガイダンスを指定します。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で[5:録音関連設定]を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

3 で[1:留守番設定]を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
1留守番設定
2ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除

4 テナントを指定して、確定を押す

テナント番号(00 ～ 99)を入力する代わりにで、前候補 / 次候補を表示できます。

≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>--
↑↓:候補検索

テナントが設定され、「留守番設定」メニューが表示されます。

5 で[2:ワンショット留守番動作]を選択して、確定を押す

≪留守番設定≫
1留守番起動時間
2ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作
3留守番動作(手動)

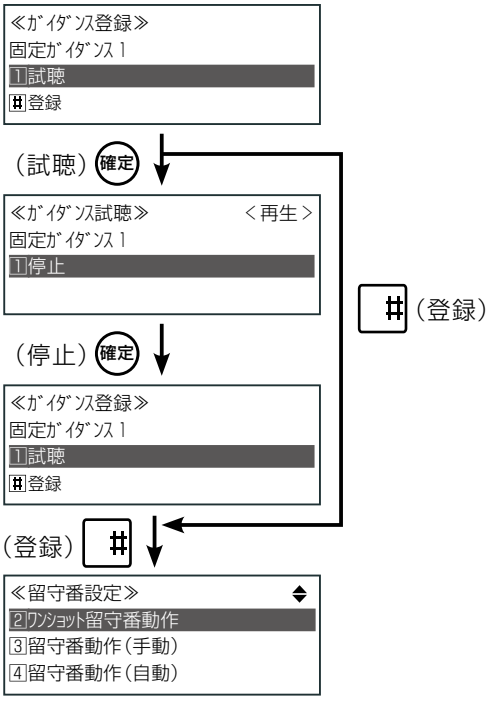
6 でガイダンスを選択して、確定を押す

≪ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作≫
1固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ1＊
2固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ2
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

- [1: 固定ガイダンス 1] [2: 固定ガイダンス 2]を選択した場合は「ガイダンス登録」メニューが表示されます。
- [3: ユーザガイダンス]を選択した場合は「ユーザガイダンス選択」画面が表示されます。

つづく➡

7 で［1：試聴］または［#：登録］を選択して、確定を押す



応答ガイダンスが設定され、「留守番設定」メニューに戻ります。

MEMO

手順 7 で、試聴中に を押すと、試聴する音量を調節することができます。

ワンショット留守番機能で応答するときの各応答ガイダンスの再生内容は以下のとおりです。

ガイダンスの種類	再生内容
固定ガイダンス 1	ただ今留守にしています。発信音のあとにメッセージをお話しください。
固定ガイダンス 2	お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを承ります。ピーという発信音の後に、お名前とご用件をお話しください。
ユーザガイダンス	ユーザガイダンス 00 ～ 99 ※ユーザガイダンスを選択する場合は、事前に、ガイダンスを録音しておいてください。ユーザガイダンスの録音については、第 4 章の「代行 / 留守番 /IVR の応答ガイダンスを録音する（ユーザガイダンス録音）」（➡ P.211）を参照してください。

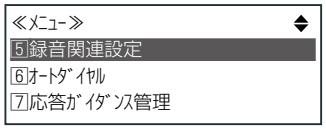
ワンショット留守番での録音通知の有無と録音通知方法の選択

ワンショット留守番中に、留守録にメッセージが録音されたことを通知する方法（電話 /E メール）を選択します。通知先の電話番号とメールアドレスは、あらかじめ登録しておきます（「メッセージが録音されたことを通知する（メッセージ録音通知）」（➡ P.269）を参照）。

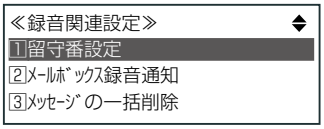
1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す



3 で［1：留守番設定］を選択して、確定を押す



つづく➡

4 テナントを指定して、(確定)を押す

テナント番号(00 ～ 99)を入力する代わりに(◎)で、前候補 / 次候補を表示できます。

```
≪ﾃﾅﾝﾄ指定≫
No>--

↑↓：候補検索
```

テナントが設定され、「留守番設定」メニューが表示されます。

5 (◎)で[2：ワンショット留守番動作]を選択して、(確定)を押す

```
≪留守番設定≫
1留守番起動時間
2ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作
3留守番動作(手動)
```

6 (◎)で[4：録音通知の有無]を選択して、(確定)を押す

```
≪ﾜﾝｼｮｯﾄ留守番動作≫
2固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ2
3ﾕｰｻﾞｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
4録音通知の有無
```

7 (◎)で録音通知の有無と録音通知方法を選択して、(確定)を押す

[1: 通知無し]、[2: 電話呼出]、[3:E メール通知]、[4: 電話呼・E メール通知] のいずれかから選択します。

```
≪録音通知指定≫
1通知無し*
2電話呼出
3Eﾒｰﾙ通知
```

録音通知方法が設定され、「ワンショット留守番動作」メニューに戻ります。

MEMO

各録音通知方法の選択時の動作と通知先の登録については、「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(➡ P.269)を参照してください。

ワンショット留守番機能で応答する

1 外線 2 に着信中

```
外線着信          外線002
```

(外線 2)ランプが点滅(赤)します。

2 (ワン留守)を押す

- (外線 2)ランプと(ワン留守)ランプが点灯(赤)します。
- 着信ランプは消灯します。
- 外線 2 の相手に次のような応答メッセージが 1 回アナウンスされたあと、用件録音を開始します。

『ただ今、留守にしています。発信音のあとにメッセージをお話しください。』

3 発信者の用件録音が終了する

(外線 2)ランプと(ワン留守)ランプは消灯します。

MEMO

- ワンショット留守番による録音は留守番モニタできません。
- この機能を使う前に、ワンショット留守番機能をあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。

各種代行機能

かかってきた電話に応答できないときの設定として利用する**自動転送**（不在転送、無応答転送、圏外転送、話中転送）の転送先として、ボイスメールシステムを指定しておくと（転送先種別に「ガイダンス応答録音」を指定する）、留守番電話と同じように、相手にメッセージを録音してもらうことができます。この機能を**代行機能**と呼びます（不在代行、無応答代行、圏外代行、話中代行）。ただし、代行機能が利用できるのは、外線 / 専用線からの着信のみです。

代行機能で録音されたメッセージは、メールボックスにログオンして、通常のボイスメールのメッセージと同じように社内または社外から聞くことができます。
ボイスメールのメッセージの操作については、「メールサービスを利用する」（➡ P.259）を参照してください。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

代行機能では、留守番メッセージの録音通知機能と同様に、メッセージが録音されると自動的に自分の携帯電話に着信や E メールが届くように設定することもできます（「メッセージが録音されたことを通知する（メッセージ録音通知）」（➡ P.269）を参照）。

代行以外の自動転送（不在転送、無応答転送、圏外転送、話中転送）の設定については、「3-5 電話に応答できないときの便利な機能」（➡ P.102）を参照してください。

不在代行を設定する

外出などで不在になるときに、着信相手にガイダンスを流して、自分のメールボックスにメッセージを残してもらうように設定することができます。

この機能を利用するには、まず不在転送設定で転送先をボイスメールに設定（転送先種別に「ガイダンス応答録音」を選択）してから、実際に不在になるときに「不在 ON」に切り替えます。不在モードの ON/OFF については、第 3 章の「不在 ON/OFF を設定する」（➡ P.119）を参照してください。

MEMO

不在転送の設定は内線電話機ごとに設定します。電話機のサービスメニューまたは特番、および Web 設定から設定できます。一般ユーザ電話機では自内線のみ設定でき、システム管理電話機では自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

サービスメニューを利用した手順

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［1：不在転送設定］を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
1 不在転送設定
2 話中転送設定
3 無応答転送設定

MEMO

- 手順 5 で［3：専用線着信転送］を選択した場合、手順 6 以降の手順は［2：外線着信転送］を選択したときと同じです。
- 手順 5 で［4：発番号別転送］を選択した場合、手順 6 の前に「発番号指定」画面が表示されます。電話帳または指定一覧から発番号を選択したあと、手順 6 に進んでください。

4 不在転送を設定する内線電話を指定して、確定を押す

- 一般ユーザ電話機の場合、「内線対象指定」画面は表示されません。手順 5 へ進みます。
- 内線番号を入力する代わりにで内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫

↑↓：候補検索

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

5 で着信種別を選択して、確定を押す

- 代行機能の操作ができるのは、［2：外線着信転送］、［3：専用線着信転送］、［4：発番号別転送］のいずれかの場合のみです。
  ※［4：発番号別転送］を選択した場合は、受信した発番号に対応する代行先を設定できます。
- ここでは、［2：外線着信転送］を選択した場合について説明します。

≪不在転送設定≫
1 内線着信転送
2 外線着信転送
3 専用線着信転送

つづく➡

6 で［3：ガイダンス応答録音］を選択して、確定を押す

転送先種別として、ガイダンス応答録音を選択します。

≪外線着信転送≫
1内線転送
2外線転送
3ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ応答録音

7 で［1：応答ガイダンス］または［2：終了ガイダンス］を選択して、確定を押す

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ種別≫
1応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
2終了ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ

8 で固定ガイダンスまたはユーザガイダンスを選択して、確定を押す

- 手順 7 で［1：応答ガイダンス］を選択した場合は、［1：固定ガイダンス 1（録音有）］、［2：固定ガイダンス 1（録音無）］、［3：固定ガイダンス 2（録音有）］、［4：固定ガイダンス 2（録音無）］、［5：ユーザガイダンス（録音有）］、［6：ユーザガイダンス（録音無）］のいずれかから選択します。
- 手順 7 で［2：終了ガイダンス］を選択した場合は、［1：固定ガイダンス］、［2：ユーザガイダンス］から選択します。

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ指定≫
1固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ1（録音有）＊
2固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ1（録音無）
3固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ2（録音有）

9 で［1：試聴］または［#：登録］を選択して、確定を押す

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ登録≫
固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ1（録音有）
1試聴
#登録

（試聴）確定

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ試聴≫　＜再生＞
固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ1（録音有）
1停止

（停止）確定

≪ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ登録≫
固定ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ1（録音有）
1試聴
#登録

（登録）#

#（登録）

- 録音有のガイダンスを選択した場合は、手順 10 へ進みます。
- 録音無のガイダンスを選択した場合は、「不在転送設定」メニューへ戻ります。

10 でメールボックス番号を指定して、確定を押す

不在時の着信相手にメッセージを録音してもらうメールボックスの番号を入力します。

メールボックス番号を入力する代わりに、で、メールボックスを順番に検索することができます。

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ指定≫
No>■---

↑↓：候補検索

入力したメールボックス番号にメールボックス名称が登録済みの場合には 3 行目にメールボックス名称が表示されます。

11 で録音通知の有無と録音通知方法を選択して、確定を押す

手順 10 で選択したメールボックスにメッセージが録音されたときの通知方法を［1: 通知無し］、［2: 電話呼出］、［3:E メール通知］、［4: 電話呼・E メール通知］のいずれかから選択します。

≪録音通知指定≫
1通知無し＊
2電話呼出
3 Eﾒｰﾙ通知

不在代行時に流れる応答ガイダンスと、指定したメールボックスにメッセージが録音されたときの録音通知方法が設定され、「不在転送設定」メニューに戻ります。

MEMO

- 手順 8 で、ユーザガイダンスを選択する場合は、事前に、ガイダンスを録音しておいてください。

  ユーザガイダンスの録音については、第 4 章の「代行 / 留守番 /IVR の応答ガイダンスを録音する（ユーザガイダンス録音）」（➡ P.211）を参照してください。
- 手順 9 で、試聴中にを押すと、試聴する音量を調節することができます。
- 各録音通知方法の選択時の動作と通知先の登録については、「メッセージが録音されたことを通知する（メッセージ録音通知）」（➡ P.269）を参照してください。

特番を利用した手順

ここでは、特番を使って不在代行を設定する操作について説明します。特番を使った場合は自内線のみ設定できます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 不在転送登録特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。

3 着信種別(2 ～ 4)と区切り文字 ＊ を押す

- 外線着信の場合は 2、専用線着信の場合は 3 を押し、区切り文字 ＊ を押したあと、手順 5 へ進みます。
- 発番号別の場合は 4 を押し、区切り文字 ＊ を押したあと、手順 4 へ進みます。

4 (「発番号別」を選択した場合) 転送元の電話番号を指定する

電話帳に登録されている番号を「発番号」として登録することで、転送元の電話番号として指定できます。発番号は 10 件まで登録できます。

以下の番号を順に入力したあと、区切り文字 ＊ を入力します。

- 発番号登録番号(0 ～ 9)
- 転送元の電話番号が登録されている電話帳種別: 0 (共通電話帳)/ 1 (個別電話帳)
- 転送元の電話番号が登録されている電話帳メモリ番号

5 8 を押して、転送先種別に「ガイダンス応答録音」を選択する

6 応答ガイダンス種別などを選択する

以下の番号と区切り文字 ＊ を順に入力します。

応答ガイダンス種別 ➡ ガイダンス番号 ➡ 区切り文字

0 (固定ガイダンス 1) 1 (固定ガンダンス 2) 2 (ユーザガイダンス)	※ユーザガイダンスのときのみ 0 0 ～ 9 9	＊

➡ 終了ガイダンス種別 ➡ ガイダンス番号 ➡ 区切り文字

0 (固定ガイダンス) 1 (ユーザガイダンス)	※ユーザガイダンスのときのみ 0 0 ～ 9 9	＊

➡ MBX 番号(※ 1)(※ 2) ➡ 区切り文字(※ 2)

0 0 ～ 9 9 (代行録音先のメールボックス番号)	＊

➡ 録音通知の有無(※ 2)

0 (通知無し)
1 (電話呼出)
2 (E メール通知)
3 (電話呼出＋ E メール通知)

(※ 1):MBX 番号の値の範囲は設定されている桁数により異なります(上記は 2 桁に設定されている場合の例)。

(※ 2):「メッセージ録音無し」(応答ガイダンスのみを流す)を設定する場合は、「MBX 番号」と「録音通知の有無」の両方(および 2 つの間の区切り文字)を省略してください。

7 最後の区切り文字 ＊ を押す

登録完了音が鳴り、操作した電話機の不在代行機能が登録されます。

8 受話器を置く

MEMO

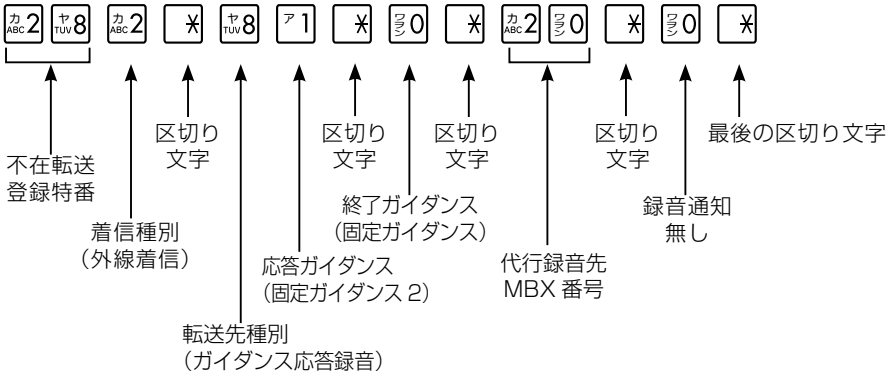
- プリセットダイヤルのように、受話器を上げずに入力して、最後に スピーカ を押しても登録できます。
- 各ガイダンスの詳細については、「応答ガイダンスの選択(テナントごと)」(➡ P.229)、「終了ガイダンスの選択(テナントごと)」(➡ P.231)を参照してください。
- メッセージ録音通知の機能を使用する場合は、メールボックスごとに通知先を登録する必要があります。メッセージ録音通知の詳細については、「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(➡ P.269)を参照してください。

つづく➡

■ **入力例 1：**

不在転送登録特番が 28 のときに、外線着信の不在代行を次のように設定する場合

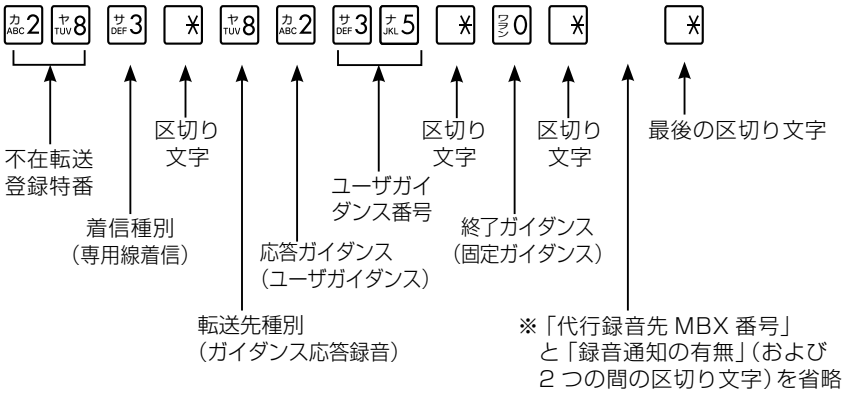
- 応答ガイダンス「固定ガイダンス 2」
- 終了ガイダンス「固定ガイダンス」
- 代行録音の保存先 MBX 番号 20
- 録音通知「無し」



■ **入力例 2：**

不在転送登録特番が 28 のときに、専用線着信の不在代行を次のように設定する場合

- 応答ガイダンス「ユーザガイダンス」、ガイダンス番号 35
- 終了ガイダンス「固定ガイダンス」
- メッセージ録音無し（応答ガイダンスのみ流す）



話中代行を設定する

話中代行を設定すると、通話中にかかってきた電話に応答できないときに、相手を待たせずにメッセージを録音してもらうことができます。

MEMO

話中転送の設定は内線電話機ごとに設定します。電話機のサービスメニューおよび Web 設定から設定できます。一般ユーザ電話機では自内線のみ設定でき、システム管理電話機では自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［2：話中転送設定］を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
1 不在転送設定
2 話中転送設定
3 無応答転送設定

4 不在代行（➡ P.245）の手順 4、5 と同様の操作をする

5 で［2：ガイダンス応答録音］を選択して、確定を押す

≪外線着信転送≫
1 内線転送
2 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ応答録音
3 内線代表転送

6 不在代行（➡ P.245）の手順 7 ～ 11 と同様の操作をする

話中代行が設定され、「話中転送設定」メニューに戻ります。

無応答代行を設定する

かかってきた電話に一定時間応答しなかったとき、相手に自分のメールボックスにメッセージを残してもらうことができます。
無応答代行の設定では、着信後に転送（代行）されるまでの時間（無応答タイマ）も設定します。無応答タイマの設定については、第３章の「無応答時に転送されるまでの時間（無応答タイマ）を設定する（個別着信時）」（➡P.122）を参照してください。

MEMO

無応答転送の設定は内線電話機ごとに設定します。電話機のサービスメニューおよび Web 設定から設定できます。一般ユーザ電話機では自内線のみ設定でき、システム管理電話機では自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［3：無応答転送設定］を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
1 不在転送設定
2 話中転送設定
3 無応答転送設定

4 不在代行（➡ P.245）の手順 4、5 と同様の操作をする

5 で［3：ガイダンス応答録音］を選択して、確定を押す

≪外線着信転送≫
1 内線転送
2 外線転送
3 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ応答録音

6 不在代行（➡ P.245）の手順 7 ～ 11 と同様の操作をする

無応答代行が設定され、「無応答転送設定」メニューに戻ります。

圏外代行を設定する

無線圏外にあるか、または電源が OFF の電話機（マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）、デジタルコードレス電話機（UM）、または SIP 電話機）に、外線 / 専用線からの個別着信があったとき、相手にメッセージを残してもらうことができます。

MEMO

圏外転送の設定は、システム管理電話機のサービスメニューおよび Web 設定から、自テナントグループ内の内線を指定して、内線ごとに設定できます。ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［4：転送設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
4 転送設定
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ

3 で［4：圏外転送設定］を選択して、確定を押す

≪転送設定≫
2 話中転送設定
3 無応答転送設定
4 圏外転送設定

4 不在代行（➡ P.245）の手順 4、5 と同様の操作をする

ただし、圏外代行の設定は、システム管理電話機からのみ操作できます。

5 で［3：ガイダンス応答録音］を選択して、確定を押す

≪外線着信転送≫
1 内線転送
2 外線転送
3 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ応答録音

6 不在代行（➡ P.245）の手順 7 ～ 11 と同様の操作をする

圏外代行が設定され、「圏外転送設定」メニューに戻ります。

外線着信代行を設定する

昼休みや夜間など特定時間帯の外線からの電話をメールボックスに着信するように指定すると、着信に自動応答してガイダンスを流したり、相手にメッセージを録音してもらうことができます。

この機能を利用するには、「昼間」「夜間 A-1」「夜間 A-2」「夜間 A-3」「夜間 B」の 5 種類のモード（昼夜モード）に対して、それぞれ着信先の設定を行います（工事者が行います）。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

各モードの切替方法には、特定の時間帯で切り替わるようにスケジューリングで設定する自動切替と、機能を登録したオートダイヤルボタンを押すことによって切り替える手動切替があります。
昼夜モードは、テナントごとに切り替えることができます。

昼夜モードの切り替え操作については、第３章の「時間帯により着信形式を切り替える（夜間モード切替）」（➡P.146）を参照してください。

通話録音(通話メモ)

外線 / 専用線 / 内線またはドアホンとの通話中、あるいは通話モニタ中に、電話機のボタン操作で通話内容の録音を開始することができます。
録音した内容はあとからメールボックスにログオンして再生することができます。

また、通話録音用の共通メールボックスをあらかじめ設定しておくと、まずは共通メールボックスに通話を録音しておき、電話の内容により必要な場合のみ、特定の内線(担当者)のメールボックスに保存(録音)できます。

そのときメッセージ録音通知機能を使用することで、重要な通話をメールボックスに録音したことを担当者に自動通知(電話または E メール)することができます。

工事設定

- 内線 / ドアホンの通話録音を使用するには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。
- 通話録音用の共通メールボックスの設定については、販売店にご相談ください。

注意

相手に無断で通話録音すると、個人のプライバシーの侵害にあたる場合があります。相手の方にお断りの上、通話録音するようにお願いします。

MEMO

- この機能を使う前に、(通話録音)、(一時停止)、(録音終了)、(PB 信号)をあらかじめに登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。
- 通話録音中に、(一時停止)、(録音終了)を押して、一時停止 / 再開、録音終了の操作をすることができます。

通話を録音する

外線 / 専用線 / 内線またはドアホンとの通話中、あるいは通話モニタ中に、電話機のボタンを押して、通話内容を録音します。

自内線のメールボックスまたはあらかじめ設定されているメールボックスに録音する

1 通話中に、相手に録音することを伝えてから、(通話録音)を押す

- 受話器で通話録音開始音が鳴り、録音が開始されます。また、(通話録音)ランプが点灯(緑)します。
- 録音開始時は、自内線のメールボックス、または設定されている場合は、通話録音用メールボックスに録音されます。
- ドアホン通話録音用メールボックスが設定されている場合は、ドアホンの通話録音はドアホン通話録音用メールボックスに録音されます。

工事設定

- 初期設定では、通話録音用メールボックス / ドアホン通話録音用メールボックス(通話録音用の共通メールボックス)は設定されていません。販売店にご相談ください。
- 初期設定では、(通話録音)を押した時点から録音されますが、通話の先頭から録音されるように設定することもできます。販売店にご相談ください。

MEMO

外線 / 専用線との通話中は、(通話録音)を登録していない場合でも、(確定)を押して、外線通話中メニューから通話録音を開始することもできます(第 3 章の「外線通話中にできる操作」(➡ P.171)を参照)。

2 (用件の録音を終了して電話を切る場合)受話器を置く

- メールボックスに録音内容が保存されます。
- (通話録音)ランプは消灯し、画面には「通話終了」と表示されます。

<外線通話録音終了時の画面例>

```
通話終了          3:03
        1234567890
本社
```

- 数秒経過すると、待受画面に戻ります。
- 録音先のメールボックス番号が登録された(メールボックス)ランプが遅点滅(緑)し、自内線メールボックスに録音した場合は、自内線の電話機の着信ランプが点灯(ロイヤルブルー(初期値))します(「ボタンとランプ動作一覧」(➡ P.221)を参照)。

MEMO

- 録音を終了したときに、電話を切りたくない場合は、手順 2 で受話器を置く代わりに、(録音終了)を押します。通常の通話の状態に戻れます。
- 最大録音時間はサービスメニューから指定します(➡ P.267)。

他のメールボックスに録音する

1 通話中に、相手に録音することを伝えてから、(通話録音)を押す

- 受話器で通話録音開始音が鳴り、録音が開始されます。また、(通話録音)ランプが点灯(緑)します。
- 録音開始時は、自内線のメールボックス、または設定されている場合は、通話録音用メールボックスに録音されます。
- ドアホン通話録音用メールボックスが設定されている場合は、ドアホンの通話録音はドアホン通話録音用メールボックスに録音されます。

工事設定

- 初期設定では、通話録音用メールボックス / ドアホン通話録音用メールボックス(通話録音用の共通メールボックス)は設定されていません。販売店にご相談ください。
- 初期設定では、(通話録音)を押した時点から録音されますが、通話の先頭から録音されるように設定することもできます。販売店にご相談ください。

2 (PB 送信モードが ON のとき)(PB 信号)を押す

- PB 送信モードが OFF になります。
- PB 送信モードについての詳細は第 3 章の「プッシュホン信号を送る(PB エンド・ツー・エンド通信)」(➡ P.101)を参照してください。

3 録音先(保存先)のメールボックス番号を入力する

<外線通話録音中の画面例>

```
通話録音              2:53
          1234567890
本社
MBX:12                 ー
```

※内線通話録音中は、画面の 2 行目に内線通話中と同じ内容(互いの内線番号)が表示されます。
例:　10=[11]

MEMO

- メールボックス番号の入力の途中で [*] を押すと、入力途中のメールボックス番号をクリアして前の状態に戻ります。
- 手順 2 と手順 3 の代わりに、録音先のメールボックス番号が登録された(メールボックス)を押すこともできます。
- 外線 / 専用線の通話録音の場合は、手順 3 の代わりにメールボックス用電話帳(➡ P.257)で検索して、メールボックス番号を指定することもできます。
- 外線 / 専用線との通話中は、(通話録音)を登録していない場合でも、(確定)を押して、外線通話中メニューから通話録音を開始することもできます(第 3 章の「外線通話中にできる操作」(➡ P.171)を参照)。

4 (用件の録音を終了して電話を切る場合)受話器を置く

- 指定したメールボックスに録音内容が保存されます。
- (通話録音)ランプは消灯し、画面には「通話終了」と表示されます。

<外線通話録音終了時の画面例>

```
通話終了              3:03
          1234567890
本社
```

- 数秒経過すると、待受画面に戻ります。
- 録音先のメールボックス番号が登録された(メールボックス)ランプが遅点滅(緑)します(「ボタンとランプ動作一覧」(➡ P.221)を参照)。

MEMO

- 録音を終了したときに、電話を切りたくない場合は、手順 4 で受話器を置く代わりに、(録音終了)または [#] + [#] (PB 送信モードが OFF の場合)を押します。通常の通話の状態に戻れます。
- 最大録音時間はサービスメニューから指定します(➡ P.267)。

MEMO

- ドアホン以外の通話録音中の通話を、[保留]、(パーク)、(自己保留)で保留することができます(システム保留 / パーク保留 / 一時保留 / 自己保留)。再応答の操作をすると、通話録音を再開できます。
- 保留したのと同じ電話機で再応答した場合、通話録音の保存先は再応答後も保留前と同じメールボックスになります。メッセージ録音通知の設定も、保留の前後で同じ設定のまま保たれます。
- 他の電話機で再応答の操作をした場合、再応答後の通話録音の保存先は「通話録音保留応答時の MBX 切替指定」で指定されているメールボックスに切り替わります。メッセージ録音通知の設定も、保存先のメールボックスで設定されている通知設定に切り替わります。「通話録音保留応答時の MBX 切替指定」の初期設定については「A-3 各種機能の初期設定値」(➡ P.422)を参照してください。

工事設定

「通話録音保留応答時の MBX 切替指定」の設定を変更したい場合は、販売店にご相談ください。

通話録音の録音通知の有無を一時的に切り替える

メッセージ録音通知は、メールボックスへの録音があったことを、指定した電話番号やＥメールアドレスへ通知する機能です。
通話録音中は、現在録音中または一時停止中のメッセージ（通話）に対して録音通知をするかしないか（録音通知の有無）を一時的に切り替えることができます。
※この方法では、通知先を切り替えることはできません。通知先の変更については、工事設定が必要です。
※録音通知の有無と通知先の初期設定は、それぞれ「通知無し」「電話呼出」です。

1 通話録音中、（録音通知）を押す

メッセージ録音通知の有無の設定が切り替わります。

＜外線通話録音中の画面例＞

```
通話録音          2:53
        1234567890
本社
MBX:12            A
```

電話機のディスプレイ画面の４行目右端の表示が「－」のときは「録音通知無し」（通知しない）、「A」のときは「録音通知有り」（通知する）を示しています。

工事設定

メッセージ録音通知の通知方法として、電話への通知、Ｅメールでの通知、電話とＥメールの両方での通知の３つから選択することができます。初期設定では、電話への通知（電話呼出）が選択されています。他の通知方法を選択したい場合は、販売店にご相談ください。

MEMO

- （録音通知）はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第１章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- メッセージ録音通知機能の詳細や通知先（電話番号／Ｅメールアドレス）の登録については、「メッセージが録音されたことを通知する（メッセージ録音通知）」（➡ P.269）を参照してください。

通話録音にコメントを付ける（コメント登録）

通話録音中、現在録音中のメッセージにあらかじめ登録しておいたコメントを付けることができます。
例えば、お客様から問い合わせがあったときなどに、「問い合わせ」というコメントをその場で付けておくと、あとでパソコン上で **Web 設定**を使ってメッセージを検索するときに便利です。
Web 設定でのボイスメール管理については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

1 通話録音中、（コメント n）を押す

- n はコメント番号（1 ～ 50）です。

＜外線通話録音中の画面例＞

```
通話録音          2:53
        1234567890
本社
MBX:12            －
```

↓（コメント n）

```
通話録音          2:53
        1234567890
本社
問い合わせ        －
```

- （コメント n）ランプが点灯（赤）します。
- （コメント n）に登録されているコメント文が、電話機のディスプレイの４行目に数秒間表示されます。

↓（数秒後）

```
通話録音          2:58
        1234567890
本社
MBX:12            －
```

MEMO

- （コメント n）はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第１章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- （コメント n）の登録時には、付加情報としてコメント番号（1 ～ 50）を選択します。各コメント番号にはあらかじめ、コメント文を登録しておきます。コメント文の登録は Web 設定で行います。『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。
- 通話録音中に、点灯している（コメント n）を再度押すと、メッセージからコメントを削除できます。
- ほかのコメントが登録されている（コメント n）を押すと、コメントを変更できます。最後に押されたボタンに登録されているコメントが優先されます。
- 保存されている録音メッセージにコメントを追加することもできます。「録音メッセージにコメントを追加する（コメント登録）」（➡ P.273）を参照してください。

※ n は 1 ～ 50 のいずれかの数字を示しています。

自動で通話が録音されるように設定 / 解除する（自動通話録音）

あらかじめ自動通話録音を設定しておくと、外線 / 専用線 / 内線またはドアホンと通話したとき、あるいは通話モニタを開始したとき、自動的に通話録音が開始されるようになります。

MEMO

（通話録音）はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。

工事設定

内線 / ドアホンの通話録音を使用するには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

ボタンによる操作

1 **待受画面で、保留 を押す**

登録モードに入ります。

2 **（通話録音）を押す**

登録完了音が鳴り、自動通話録音が設定されます。

MEMO

- 自動通話録音が設定されている状態で、同じ操作を行うと、設定が解除されます。
- 登録モードの状態から待受状態に戻る操作は、通常のサービスメニューと同じです。登録モードについては「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照してください。
- 通話録音開始後の操作については、「通話を録音する」（➡ P.253）を参照してください。

特番による操作

1 **受話器を上げる**

2 **自動録音特番を押す**

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 **ア1（設定）または マン0（解除）を押す**

登録完了音が鳴ります。

4 **受話器を置く**

MEMO

自動通話録音が設定されると、（通話録音）ランプが点灯（緑）し、解除されると消灯します。

メールボックス用電話帳を利用する

メールボックス用電話帳に、録音先のメールボックス番号と名前を登録しておくと、録音したいときや再生したいときにメールボックス番号をダイヤルしなくても、登録した名前をメールボックス用電話帳から検索して、保存先や再生先を指定することができます。

メールボックス用電話帳は、共通電話帳の一部として登録します。「電話番号」にはメールボックス番号（内線番号または共通メールボックスの番号）を登録し、「名前」にはメールボックスの持ち主の名前（例えば「開発田中さんのMBX」「開発部門共通 MBX」など）や、特定の製品名（お客様からのコメントなどを録音する場合など）を登録します。

また、電話帳を登録するときのグループ分けとして、メールボックス用電話帳を 1 つのグループとして作成しておくと、電話帳を利用するときに便利です（例えば、電話帳グループ名として「MBX 電話帳グループ」を設定するなど）。

共通電話帳への電話番号と名前の登録、およびグループ名の設定については、「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

ここでは、登録したメールボックス用電話帳を利用する方法について、説明します。

通話録音の録音先をメールボックス用電話帳で指定する

外線 / 専用線の通話録音で録音先を指定または変更するとき、メールボックス番号を入力する代わりに、メールボックス用電話帳で検索して、指定することができます。

MEMO

メールボックス用電話帳は、内線 / ドアホンの通話録音では利用できません。

1 通話録音を開始する（➡ P.253）

2 メールボックス番号を入力する画面、または録音中の画面で、確定を押す

例：「MBX10」のメールボックスへ通話録音中の画面

```
通話録音          2:53
        1234567890
お客様 A
MBX:10            ー
```

3 ［共通電話帳］を選択して、確定を押す

```
≪外線通話中ﾒﾆｭｰ≫
共通電話帳
個別電話帳
迷惑電話番号
```

4 ［一覧表示］を選択して、確定を押す

```
≪共通電話帳≫
一覧表示
番号検索
```

5 ［グループ選択］を選択して、確定を押す

```
≪共通電話帳一覧≫
全ｸﾞﾙｰﾌﾟ表示
ｸﾞﾙｰﾌﾟ選択
```

6 メールボックス用電話帳として作成された電話帳グループを選択して、確定を押す

```
≪共通-ｸﾞﾙｰﾌﾟ選択≫
社内
お客様の声
協力会社
```

7 録音先として指定したいメールボックス（例えば担当者 B）を選択して、確定を押す

```
≪共通-お客様の声≫
0005: 担当者 B
0006: 部門 1
0007: 部門 2
```

↓ 確定

```
通話録音          3:03
        1234567890
お客様 A
担当者 B          ー
```

録音先のメールボックスが指定または変更されます。

8 録音が終わったら、受話器を置く

ランプ表示などの詳細は、「ボタンとランプ動作一覧」（➡ P.221）を参照してください。

MEMO

グループ選択以外の操作方法については、第 3 章の「共通電話帳 / 個別電話帳を表示・検索する」（➡ P.172）を参照してください。

メールボックスへの録音先や転送先をメールボックス用電話帳から指定する

メッセージ録音で録音先を指定するとき、メールボックス番号を入力する代わりに、メールボックス用電話帳で検索して、指定することができます。

1 メールボックスへのログオン操作中(➡ P.260)、メールボックスへの録音操作中(➡ P.268)、またはメールボックスへの転送操作中(➡ P.266)

2 メールボックス番号を入力する画面で、(確定)を押す

```
メールサービス
        ＭＢＸ選択：ーーーー
```

3 [一覧表示] を選択して、(確定)を押す

```
≪共通電話帳≫
一覧表示
番号検索
```

4 [グループ選択] を選択して、(確定)を押す

```
≪共通電話帳一覧≫
全ｸﾞﾙｰﾌﾟ表示
ｸﾞﾙｰﾌﾟ選択
```

5 メールボックス用電話帳として作成された電話帳グループを選択して、(確定)を押す

```
≪共通-ｸﾞﾙｰﾌﾟ選択≫
社内
お客様の声
協力会社
```

6 録音先として指定したいメールボックス(例えば担当者 B)を選択して、(確定)を押す

```
≪共通-お客様の声≫
0005: 担当者 B
0006: 部門 1
0007: 部門 2
```

メールボックスが指定されます。

7 メールボックス指定後のそれぞれの操作をする

以下の各操作のメールボックス指定後の操作をします。

- メールボックスへのログオン操作(➡ P.260)
- メールボックスへの録音操作(➡ P.268)
- メールボックスへの転送操作(➡ P.266)

MEMO

- グループ選択以外の操作方法については、第3章の「共通電話帳 / 個別電話帳を表示・検索する」(➡ P.172)を参照してください。
- メールアクセス中にメールボックスを指定する場合は、必ずメールボックス指定待ちの状態で操作してください。

メールサービスを利用する

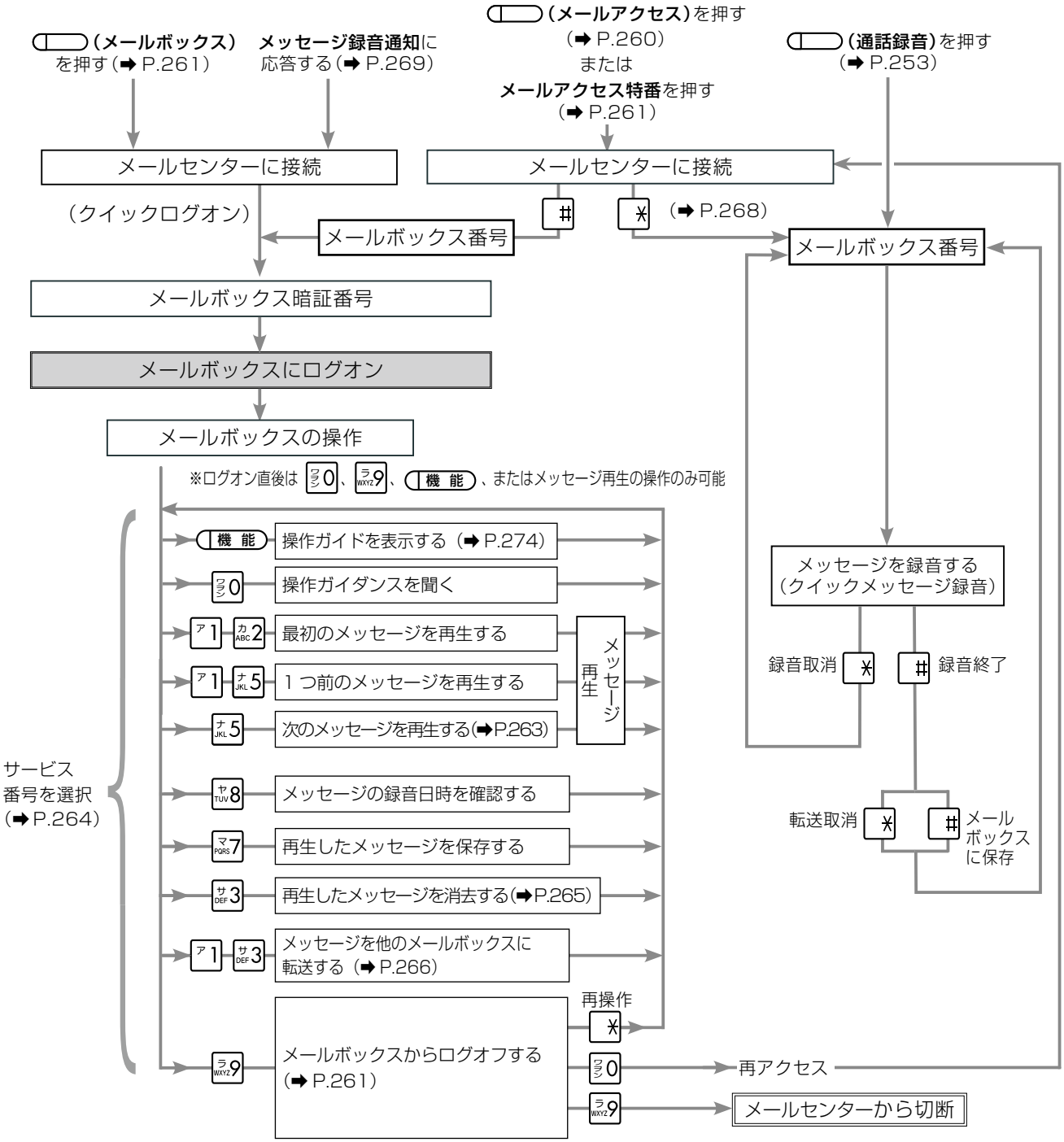
メールセンターに接続してメールボックスにログオンすることにより、録音内容の再生 / 消去 / 一覧表示、または他のメッセージボックスへの転送を行うことができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

MEMO

- 社外からメールセンターに接続する場合は、会社に電話したあと、メールアクセス特番を押してからガイダンスに従って暗証番号を押すと、メールボックスにログオンできます（➡ P.262）。
- アナログ電話機、デジタルコードレス電話機（UM）、SIP 電話機では、メールアクセス特番のみ使用できます。
- コードレス電話機（WSd）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）、デジタルコードレス電話機（UM）では、録音メッセージの一覧表示はできません。



MEMO

- メッセージ再生中のメールボックスの操作については、「メッセージ再生中にできる操作と内容」（➡ P.264）を参照してください。
- メールボックス暗証番号の設定については、「5-2 暗証番号の設定」（➡ P.222）を参照してください。

メールセンターへ接続してメールボックスにログオンする

メールセンターに接続してメールボックスにログオンすることにより、録音内容の再生 / 消去 / 一覧表示などを行うことができます。

(メールアクセス)でログオンする

1 **(メールアクセス)を押して、受話器を上げる**

メールセンターへの接続画面が表示され、次のようなガイダンスが受話器から流れます。

『こちらは、メールセンターです。相手のメールボックスに、直接メッセージを録音したいときは ＊ を、あなたのメールボックスをご利用するときは # を押してください。』

2 **# を押す**

```
メールサービス

＊MBX録音 #MBX選択
```

次のようなガイダンスが流れます。

『メールボックス番号を押してください。』

3 **メールボックス番号を入力する**

- メールボックス番号が登録された (メールボックス)を押すこともできます。
- メールボックス用電話帳(➡ P.257)で検索して指定することもできます。

```
メールサービス
          MBX選択: ————
```

次のようなガイダンスが流れます。

『暗証番号を押してください。』

4 **暗証番号を入力する**

```
メールサービス        MBX:11
          暗証番号:＊＊＊＊
```

↓

```
メールサービス        MBX:11
 件数      1件/新規      1件

機能 操作ガイド
```

(録音件数表示画面)

メールボックスにログオンし、次のようなガイダンスが流れます。

『メッセージが××件あります。(××=メールボックスの総録音件数)』

※録音用件が 0 件の場合は、『お伝えするメッセージはありません。』というガイダンスが流れます。

MEMO

- (メールアクセス)は、あらかじめ に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。
- 暗証番号を登録していない場合は、手順 3 でメールボックス番号を入力すると「録音件数表示」画面が表示されます。
- ログオン後の録音件数表示画面で 機能 を押すと、操作ガイドを画面表示することができます(➡ P.274)。

5 **ログオンしたメールボックスの操作をする**

操作ガイダンスまたは操作ガイドに従って、ダイヤルボタンで操作します(➡ P.259)。

MEMO

メールボックスにログオンしたとき、メールボックスの状態により次のようなガイダンスがあります。

メッセージの状態		ガイダンス内容
未再生メッセージ	保存メッセージ	
なし	なし	『お伝えするメッセージはありません。』 『サービス番号を押してください。』 (このとき、[0:ヘルプ] [9:終了]のダイヤル操作、または 機能 を押して操作ガイドを表示する操作のみ可能)
あり	なし	『メッセージが、xx 件あります。』 ※自動再生指定「あり」の場合は、ガイダンス再生終了後、録音内容を自動的に再生します。 ※自動再生指定「なし」の場合は、続けて『サービス番号を押してください。』というガイダンスが流れます。
なし	あり	
あり	あり	

メールアクセス特番でログオンする

1 受話器を上げる

2 メールアクセス特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.418)を参照してください。

3 #を押す

4 メールボックス番号を入力する

5 暗証番号を入力する

メールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。

6 ログオンしたメールボックスの操作をする

操作ガイダンスまたは操作ガイド(➡ P.274)に従って、ダイヤルボタンで操作します(➡ P.259)。

MEMO

暗証番号を登録していない場合は、手順 4 のあとメールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。手順 6 へ進んでください。

(メールボックス)でログオンする(クイックログオン)

1 待受画面で、(メールボックス)を押す

2 暗証番号を入力する

メールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。

3 ログオンしたメールボックスの操作をする

操作ガイダンスまたは操作ガイド(➡ P.274)に従って、ダイヤルボタンで操作します(➡ P.259)。

MEMO

- (メールボックス)は、あらかじめ に登録しておきます。メールボックス番号を割り付けます。登録方法については、第 1 章の「オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する」(➡ P.33)を参照してください。
- 暗証番号を登録していない場合は、手順 1 のあとメールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。手順 3 へ進んでください。

メールボックスからログオフしてメールセンターから切断する

操作が完了したら、メールボックスからログオフして、メールセンターから切断します。

1 メールボックスの操作中

操作ガイダンスまたは操作ガイド(➡ P.274)に従って、ダイヤルボタンで操作します(➡ P.259)。

2 すべての操作が完了したら、サービス番号 9(終了)を押す

次のようなガイダンスが流れたあと、メールボックスからログオフします。

『終了するときは、もう 1 度 9 を、最初からサービスを選択するときは 0 を押してください。』

3 サービス番号 9(切断)を押す

次のようなガイダンスが流れたあと、メールセンターから切断します。

『ご利用ありがとうございました。』

4 受話器を置く

外出先からメールボックスを利用する

社外から電話をかけて、メールボックスにログオンすることにより、録音内容の再生 / 消去 / 一覧表示などを行うことができます。以下の 2 つの方法があります。

MEMO

外出先から使用する電話機は、プッシュ信号（PB）を送ることができるものを使用してください。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

ダイヤルイン番号に電話をかけてメールアクセス特番を押す

1 外出先から会社に電話をかける

- 着信形式に付加番号 DID が設定されている電話番号に電話してください。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。
- 電話がつながると、自動応答して次のようなガイダンスが流れます。

  例：『こちらはダイヤルイン電話です。プッシュホンでおかけの方は続けて内線番号をダイヤルしてください。ダイヤルでおかけの方はしばらくお待ちください。』

2 メールアクセス特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 [#] を押す

メールセンターに接続します。

4 メールボックス番号を入力する

5 暗証番号を入力する

メールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。

6 ログオンしたメールボックスの操作をする

操作ガイダンスに従って、ダイヤルボタンで操作します（➡ P.259）。

MEMO

- 一定時間以内にメールアクセス特番を押さなかった場合は、以下のようなリトライガイダンスが流れます。
  例 1：「別の内線番号をダイヤルしてください」
  例 2：「もう一度ダイヤルしてください」
- ダイヤル先の内線番号の相手が、一定時間、電話に出なかった場合は、設定により以下のいずれかになります。
  ・リトライガイダンスが流れる
  ・無応答転送（➡ P.122）が動作し、電話が転送される
  ・電話が切れる
- その他の付加番号 DID の使いかたについては第 3 章の「外出先から電話して各種機能を利用する（付加番号 DID）」（➡ P.143）を参照してください。
- 暗証番号を登録していない場合は、手順 4 のあとメールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。手順 6 へ進んでください。

留守番電話（留守番 / 代行）の応答メッセージを利用する

1 外出先から会社に電話をかける

- 代行機能または留守番機能が設定されている電話番号に電話してください。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。
- 電話がつながると、自動応答して次のようなガイダンスが流れます。

  例：『ただいま留守にしています。メッセージを承ります。』

2 [#] を押す

それぞれ以下のメールボックスにアクセスします。

- 代行機能で録音されたメッセージが保存されているメールボックス
- 留守番メッセージが保存されている共通メールボックス

3 暗証番号を入力する

メールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。

4 ログオンしたメールボックスの操作をする

操作ガイダンスに従って、ダイヤルボタンで操作します（➡ P.259）。

録音されているメッセージを再生する

メールボックスに録音されているメッセージを再生します。再生したあとは、そのメッセージを削除するか、保存するかを選択することができます。

1 メールボックスにログオンする（➡ P.260）

```
メールサービス        MBX：11
 件数      1件／新規      1件

機能 操作ガイド
```

録音件数表示画面が表示されます。

2 ガイダンス終了を待つ

ガイダンスの途中で ▶ または ナ5（再生）または ▭（用件操作（次メッセージ））を押して、メッセージの再生を開始することもできます。

```
0001: 内線 10              新規
10月24日（木） 午後10：00

機能 操作ガイド        再生中
```

録音されている最初のメッセージが再生され、録音メッセージ（詳細表示）画面が表示されます。

3 （他のメッセージを再生したい場合は）短縮/詳細 を押す

詳細表示画面が一覧表示画面に切り替わり、メッセージ再生は停止します。

※ 短縮/詳細 を押すたびに詳細画面と一覧画面が切り替わります。

```
0001: 内線 10              新規
10月24日（木） 午後10：00

機能 操作ガイド        再生中
```

（詳細表示）

↕ 短縮/詳細

```
メールサービス        MBX：11
0001: 内線 10              *
0002:1234567890
0003:3876543210
```

（一覧表示）

MEMO

- 表示形式の詳細については、「メッセージの状態表示」（➡ P.220）を参照してください。
- 操作ガイドについては「操作ガイドを表示して操作する」（➡ P.274）を参照してください。

4 で一覧からメッセージ番号を選択して、確定 を押す

```
メールサービス        MBX：11
0001: 内線 10              *
0002:1234567890
0003:3876543210
```

（一覧表示）

5 で［1：再生］を選択して、確定 を押す

```
0002:1234567890            新規
10月24日（木） 午後10：15
1 再生
2 消去
```

↓ 確定

```
0002:1234567890            新規
10月24日（木） 午後10：15

機能 操作ガイド        再生中
```

（詳細表示）

再生が終わると、保存 / 消去のガイダンスが流れます。
再生したメッセージを保存したり、削除する場合は、ガイダンスが流れている間に手順 6 へ進んでください。
そのまま終了する場合は、手順 7 へ進んでください。その場合は、「メッセージ自動消去指定」の設定に従います。（➡ P.267）

6 サービス番号 サ3（消去）または マ7（保存）を押す

- 再生したメッセージを削除する場合は、サ3 または ▭（用件操作（消去））を押します。メッセージの削除を示すガイダンスが流れ、「操作時メッセージ消去」（➡ P.267）の設定に従って、メッセージが「消去指定」（ログアウト時に削除）または「即時削除」されます。
- 保存する場合は、マ7 または ▭（用件操作（保存））を押します。メッセージの保存を示すガイダンスが流れます。

7 メールボックスからログオフする（➡ P.261）

MEMO

- ▭（用件操作）には、あらかじめ使用する機能（次メッセージ、前メッセージ、頭出し、消去、保存など）を登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- 手順 4 で、メッセージ番号を選択したあと、確定 を押す代わりに ▭（用件操作（頭出し））を押して、メッセージを頭から再生することもできます。
- 再生中のメッセージを削除、保存したり、巻戻しや早送りをすることもできます。メッセージ再生中にできる操作については、「メッセージ再生中にできる操作と内容」（➡ P.264）を参照してください。なお、メッセージ再生中は、ディスプレイにメッセージの詳細情報が表示されます。
- 一覧表示画面では、選択したメッセージの再生のほかに、削除や MBX 転送などの操作をすることができます。一覧表示画面からできる操作については、「メッセージ一覧表示画面からできる操作と内容」（➡ P.265）を参照してください。
- ナ5（次のメッセージを再生）または ▭（用件操作（次メッセージ））、ア1 ナ5（1 つ前のメッセージを再生）または ▭（用件操作（前メッセージ））を押して、録音されている順に再生することもできます。

メッセージ再生中にできる操作と内容

以下の操作は、メッセージ再生中、停止中、一時停止中に操作できます。

操作	使用するボタン	動作
前メッセージ再生	ア1＋ナ5 ◀（再生開始後 3 秒以内） （用件操作（前メッセージ））	1 つ前のメッセージを再生します。 ※最初のメッセージから操作した場合は、操作ガイダンスが流れます。
次メッセージ再生	ナ5 ▶ （用件操作（次メッセージ））	次のメッセージを再生します。 ※メッセージ検索直後の場合は、そのメッセージを再生します。また、最後のメッセージから操作した場合は、操作ガイダンスが流れます。
頭から再生	ア1＋カ2 ◀（3 秒以上再生後） （用件操作（頭出し））	再生中のメッセージを頭から再生します。
メッセージ消去	サ3 （用件操作（消去））	再生中、または直前に再生したメッセージが、「操作時メッセージ消去」（➡ P.267）の設定に従い、「消去指定」または「即時削除」されます。 ※メッセージ検索直後の場合は、そのメッセージが対象となります。
メッセージ保存	マ7 （用件操作（保存））	再生中、または直前に再生したメッセージを保存します。 ※メッセージ検索直後の場合は、そのメッセージを保存します。
一時停止 / 再開	ア1＋ア1 （用件操作（一時停止））	再生中のメッセージを一時停止します。一時停止した状態で、もう一度押すと再開します。
メッセージ早送り	ハ6 （用件操作（早送り））	再生中のメッセージをメッセージ再生スキップタイマで指定された秒数分、先へ進めます。 ※メッセージ再生スキップタイマについては「ボイスメールシステムの動作条件を設定する」（➡ P.267）を参照してください。
メッセージ巻戻し	タ4 （用件操作（巻戻し））	再生中のメッセージをメッセージ再生スキップタイマで指定された秒数分、戻します。 ※メッセージ再生スキップタイマについては「ボイスメールシステムの動作条件を設定する」（➡ P.267）を参照してください。
他のメールボックスへ転送	ア1＋サ3 （用件操作（メッセージ転送））	再生中のメッセージを他のメールボックスに転送します。 ※メッセージ転送の詳細は「録音されているメッセージを他のメールボックスへ転送する（メールボックス間メッセージ転送）」（➡ P.266）を参照してください。
コメント付加	（コメント）	再生中のメッセージにコメントを付けることができます。 ※詳細は「録音メッセージにコメントを追加する（コメント登録）」（➡ P.273）を参照してください。
日時確認	ヤ8	再生中、または直前に再生したメッセージの録音日時をアナウンスします。 ※メッセージ検索直後の場合は、そのメッセージの録音日時がアナウンスされます。 ※操作時にメッセージ再生中（または一時停止中）だった場合は、録音日時をアナウンスしたあと、そのメッセージの先頭から再生されます。
ボリュームアップ	ア1＋マ7 ▲	再生中の音量が大きくなります。
ボリュームダウン	ア1＋ヤ8 ▼	再生中の音量が小さくなります。
ヘルプ	ワ0	操作ガイダンスが流れます。
操作ガイド	機能	電話機のディスプレイに操作ガイドを表示します（➡ P.274）。
再生停止	#	メッセージの再生を停止します。
サービス終了	ラ9	メールボックスからログオフします。

MEMO

上記の操作の前に、（用件操作）にそれぞれの付加情報（前メッセージ、次メッセージ、頭出し、消去、保存、一時停止、早送り、巻戻し、メッセージ転送など）を登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。

メッセージ一覧表示画面からできる操作と内容

操作	使用するボタン	動作
メッセージ選択	◎	上下にカーソルを移動して、前または後のメッセージを選択状態にします。一番最後のメッセージより下に移動した場合は、先頭のメッセージに移動します(上も同じ)。
ページスクロール	◎	前ページ(◎)または次ページ(◎)へ、ページスクロールします。
サブメニュー表示	確定	サブメニューを開きます。サブメニューからは以下の操作ができます。 ア1:再生　:選択したメッセージを再生します。 カ2:消去　:選択したメッセージを消去指定します。 サ3:MBX 転送　:選択したメッセージを他のメールボックスへ転送します。入力画面が表示されるので、転送先のメールボックス番号を入力します。
メッセージ再生	(用件操作(頭出し))	選択したメッセージを頭から再生します。
他のメールボックスへ転送	(用件操作(メッセージ転送))	選択したメッセージを他のメールボックスに転送します。 ※メッセージ転送の詳細は「録音されているメッセージを他のメールボックスへ転送する(メールボックス間メッセージ転送)」(➡ P.266)を参照してください。
コメント付加	(コメント)	選択したメッセージにコメントを付けることができます。 ※詳細は「録音メッセージにコメントを追加する(コメント登録)」(➡ P.273)を参照してください。

メッセージを削除する

メールボックスに録音されているメッセージを削除するには、再生後に操作するほかに、一覧表示で選択したメッセージを削除する方法もあります。ここでは、一覧表示から選択したメッセージを削除する方法を説明します。

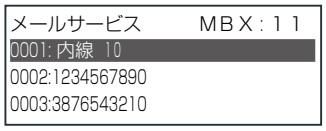
MEMO

設定により、メッセージを自動的に削除することもできます。「ボイスメールシステムの動作条件を設定する」(➡ P.267)を参照してください。

1 メールボックスにログオンして、メッセージを一覧表示する

「録音されているメッセージを再生する」(➡ P.263)の手順 1 ～ 3 を操作します。

2 削除するメッセージを選択して、確定を押す

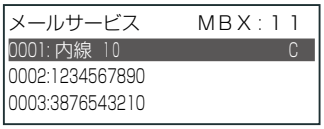


MEMO

- メッセージを再生中に、サ3(消去)または(用件操作(消去))を押した場合は、「操作時メッセージ消去」(➡ P.267)の設定に従い、メッセージが「消去指定」(ログオフ時に削除)または「即時削除」されます。
- 「消去指定」のメッセージは、ログオフするまで再生や転送が可能です。「即時削除」されたメッセージはその場で完全に削除され、復元することはできません。

3 ◎で[2:消去]を選択して、確定を押す

↓ 確定



選択したメッセージが「消去指定」されます。

消去指定されたメッセージには C が付きます(ログオフしたときに削除されます)。

4 (消去指定のメッセージを削除する場合)メールボックスからログオフする(➡ P.261)

録音されているメッセージを他のメールボックスへ転送する（メールボックス間メッセージ転送）

メールボックスに録音されているメッセージを他のメールボックスに転送することができます。
メッセージを再生中、再生一時停止中または再生後に操作するほかに、一覧表示で選択したメッセージを転送することもできます。ここでは、一覧表示から選択したメッセージを転送する方法を説明します。

1 メールボックスにログオンして、メッセージを一覧表示する

「録音されているメッセージを再生する」（➡ P.263）の手順 1 ～ 3 を操作します。

2 転送するメッセージを選択して、確定を押す

```
メールサービス        MBX：11
0001：内線 10              *
0002:1234567890
0003:3876543210
```

3 で［3：MBX 転送］を選択して、確定を押す

```
0001：内線 10              保存
10月24日（木） 午後10：15
2消去
3MBX転送
```

4 転送先のメールボックス番号を入力する

- 転送先のメールボックス番号が登録されたメールボックス（メールボックス）を押すこともできます。
- メールボックス用電話帳（➡ P.257）で検索して指定することもできます。

```
メッセージ転送
          MBX選択：————
```

5 #を押す

転送を取り消す場合は*を押します。

```
メッセージ転送        MBX：12

*転送取消 #実行
```

- 録音件数表示画面が表示されます。
- 転送を実行した場合には、内線 12 にメッセージが転送されます。ログオフすると、内線 12 のメールボックス（メールボックス）ランプが遅点滅（緑）します。

6 メールボックスからログオフする（➡ P.261）

MEMO

- メッセージを再生中または再生後に、1 3（メールボックスへ転送）または（用件操作（メッセージ転送））を押して転送することもできます。
- （用件操作（メッセージ転送））は、あらかじめに登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- （用件操作（メッセージ転送））には付加情報 2 として、転送先のメールボックス番号を登録することもできます。転送先が未登録の（用件操作（メッセージ転送））を押した場合は、メールボックス番号を選択する画面が表示されます。
- 転送された録音内容のタイムスタンプは、メッセージが転送された日時ではなく、録音された日時となります。
- 転送された録音内容は未再生の新規メッセージとして扱われます。転送元メッセージの状態（新規 / 保存 / 消去）は転送されません。
- 転送元で「消去指定」した録音内容でも、ログオフするまではメッセージ転送できます。

工事設定

- 転送先メールボックスへのメッセージの転送が完了したとき、指定した電話番号や E メールアドレスへ通知されるように設定することができます（メッセージ録音通知）。販売店にご相談ください。
- メッセージ録音通知機能の詳細については、「メッセージが録音されたことを通知する（メッセージ録音通知）」（➡ P.269）を参照してください。転送されたメッセージは転送先メールボックスで、新規メッセージとして扱われます。

ボイスメールシステムの動作条件を設定する

システム管理電話機からのみボイスメールシステムの動作条件を設定できます。設定できる項目は次のとおりです。

- 自動再生（自動再生する / 自動再生しない）
- 自動消去（自動消去する / 自動保存する）
- 再生順（新しい順 / 古い順）
- 連続再生（連続再生する / 連続再生しない）
- 留守番等のメッセージ録音最大時間（1 ～ 255 分）
- メッセージ録音最小時間（3 ～ 255 秒）
- メッセージ再生スキップタイマ（5 ～ 60 秒）
- 通話録音時メッセージ録音最大時間（1 ～ 255 分）
- 操作時メッセージ消去（ログオフ時 / 即時）

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5録音関連設定
6ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

「録音関連設定」メニューが表示されます。

3 で［5：ボイスメール属性］を選択して、確定を押す

≪録音関連設定≫
3ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除
4ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ暗証番号
5ﾎﾞｲｽﾒｰﾙ属性

「ボイスメール属性」メニューが表示されます。

4 属性を変更したい項目を選択して、確定を押す（［5：メッセージ録音最大時間］を選択した場合）

≪ﾎﾞｲｽﾒｰﾙ属性≫
3再生順序指定
4連続再生指定
5ﾒｯｾｰｼﾞ録音最大時間

「録音最大時間登録」画面が表示されます。

5 録音最大時間を入力して、確定を押す

≪録音最大時間登録≫
006 分

(001~255 分)

録音最大時間が設定され、「ボイスメール属性」メニューに戻ります。
必要に応じて、他のボイスメール属性についても設定してください。

MEMO

手順 4 のボイスメール属性メニューでは、次の項目を選択できます。各項目の設定範囲は次のとおりです。初期値については「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。

番号	項目	設定範囲
1	自動再生指定	自動再生する / 自動再生しない
2	自動消去指定	自動消去する / 自動保存する
3	再生順序指定	新しい順 / 古い順
4	連続再生指定	連続再生する / 連続再生しない
5	メッセージ録音最大時間 ※留守番等	1 ～ 255 分
6	メッセージ録音最小時間	3 ～ 255 秒
7	メッセージ再生スキップタイマ	5 ～ 60 秒
8	通話録音時メッセージ録音最大時間	1 ～ 255 分
9	操作時メッセージ消去	ログオフ時 / 即時

MEMO

メール属性の項目はボイスメールシステムを一括して設定されます。メールボックスごとに変更することはできません。

工事設定

ボイスメール属性メニューで「自動消去する」を設定すると、再生したメッセージが自動的に消去されます。
この機能とは別に、指定した件数を超えると古いメッセージから順に削除されるように設定することもできます（メッセージ自動削除機能）。メッセージ自動削除機能は工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

メールボックスにメッセージを録音する

メールボックスにメッセージを録音する(クイックメッセージ録音)

メールボックスを指定して、そのメールボックスにメッセージを録音することができます。内線 / 外線 / 専用線から個人にメッセージを送るにはクイックメッセージ録音が便利です。外線からの場合は、付加番号 DID を利用して社内に電話したあと、メールアクセス特番を押してください。「外出先からメールボックスを利用する」(➡ P.262)を参照してください。

1 (メールアクセス)を押して、受話器を上げる

メールセンターへの接続画面が表示され、次のようなガイダンスが受話器から流れます。

『こちらは、メールセンターです。相手のメールボックスに、直接メッセージを録音したいときは ＊ を、あなたのメールボックスをご利用するときは # を押してください。』

2 ＊ を押す

```
メールサービス

＊MBX録音 #MBX選択
```

メールボックスへの録音操作が選択され、次のようなガイダンスが流れます。

『メールボックス番号を押してください。』

3 録音先のメールボックス番号を入力する

- 録音先のメールボックス番号が登録された (メールボックス)を押すこともできます。
- メールボックス用電話帳(➡ P.257)で検索して指定することもできます。

```
メールサービス
          録音先MBX:10
```

4 メッセージを録音して、# を押す

```
メッセージ録音        MBX:12

＊録音取消 #録音終了
```

を押すと録音終了になり、次のようなガイダンスが流れます。

『メッセージを送信してよければ # を押してください。メッセージを消去するときは ＊ を押してください。』

(録音を取り消す場合は、＊ を押します)

5 # を押す

録音したメッセージが、指定したメールボックスへ転送されます。

(転送を取り消す場合は、＊ を押します)

```
メッセージ録音        MBX:12

＊転送取消 #実行
```

↓ #

```
メールサービス
          録音先MBX:ーーーー
```

メールボックス番号入力待ちの画面(手順 3 の画面)に戻ります。

6 終了する場合は、受話器を置く

メールセンターから切断され、待受画面に戻ります。

MEMO

- (メールアクセス)は、あらかじめ に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(➡ P.28)を参照してください。
- 録音先として指定できるメールボックスは、1 つの録音につき 1 メールボックスです。
- メッセージ録音後、該当する (メールボックス)ランプは遅点滅(緑)します。
- 手順 1 で (メールアクセス)の代わりにメールアクセス特番を押すこともできます。
- 内線から待受状態中に操作する場合、手順 1 ～2の代わりに (通話録音)を押しても同じ操作ができます。

工事設定

- 外線 / 専用線からメールボックスにメッセージが録音されたとき、指定した電話番号や E メールアドレスへ通知されるように設定することができます(メッセージ録音通知)。販売店にご相談ください。
- メッセージ録音通知機能の詳細については、「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(➡ P.269)を参照してください。

5-4 便利な使いかた

ここでは、ボイスメールを利用するときに便利な以下の機能について説明します。

- 「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(➡ P.269)
- 「録音メッセージにコメントを追加する(コメント登録)」(➡ P.273)
- 「操作ガイドを表示して操作する」(➡ P.274)
- 「録音メッセージを外部に保存する」(➡ P.275)

メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)

留守番や各種代行、通話録音などでメールボックスにボイスメール(メッセージ)が録音されたとき、指定したアドレスへ E メールでお知らせしたり、指定した電話番号へ決まった時間帯に電話でお知らせするように設定することができます。

この機能を使用するには、通知先や通知時間帯をあらかじめ登録しておき、留守番機能(➡ P.224)や代行機能(➡ P.245)、通話録音機能(➡ P.253)などで録音通知方法を次のいずれかから選択します。

- 電話での通知(電話呼出)
- E メールでの通知(E メール通知)
- 電話と E メールの両方での通知(電話呼・E メール通知)

工事設定

E メールでのお知らせ(E メール通知)を使用するにはインターネット接続環境、および E メール機能利用情報やメール送信 / 受信サーバ情報などの設定が必要です。販売店にご相談ください。

設定が完了すると、新着メッセージが録音されると同時に、指定した通知先に自動的に電話または E メールが発信され、新着メッセージが録音されたことを知らせます。

外出先で電話呼出による通知を受けた場合、通知後は自動的にボイスメールにクイックログオンします。ボイスメールからのガイダンスに従って操作することで、メッセージを再生することができます。クイックログオン後の操作については、「メールサービスを利用する」(➡ P.259)を参照してください。

E メール通知の場合は、録音されたメッセージの情報を示すメールが送信されます。

MEMO

- メッセージ再生終了後に未再生メッセージが残っていても、新たにメッセージ録音されるまでは、メッセージ録音通知は行われません。
- 新着メッセージが録音されたときメールボックスにログオン中の場合は、E メールのみが発信され、電話での通知は行われません。
- 通知のみに応答してメッセージを再生しなかった場合でも、すでに通知したとみなされ、新たにメッセージが録音されるまでは、メッセージ録音通知は再送されません。

ここでは、以下の操作について説明します。

- 「メッセージ録音の電話での通知先を登録する(録音通知設定)」(➡ P.270)
- 「メッセージ録音の E メールでの通知先を登録する(録音通知設定)」(➡ P.271)
- 「各録音機能でメッセージ録音通知の有無と録音通知方法を選択する」(➡ P.272)

MEMO

- メッセージ録音通知の設定は、電話機のサービスメニューおよび Web 設定から設定できます。本書では、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。
- 一般ユーザ電話機では、ご自分の内線または自テナントに指定された共通メールボックスへのメッセージ録音の通知について設定できます。また、システム管理電話機では、全メールボックスへのメッセージ録音の通知について設定できます。
- コードレス電話機(WSd)、マルチラインシステムコードレス電話機(DECT-PS)では、電話機のサービスメニューでの通知先の登録はできません。Web 設定で登録してください。

メッセージ録音の電話での通知先を登録する（録音通知設定）

メールボックスごとに、メッセージが録音されたときの通知先の電話番号と時間帯を登録します。また、前回の録音通知で通知先が不応答 / 使用中だった場合には今回の新たなメッセージ録音で電話への通知（再通知）が行われないように、設定することができます。これにより、前回の録音通知で通知先が不応答 / 使用中だった場合の再通知（リトライ）と、新たにメッセージが録音されたときの通知が重複しないようにすることができます。

この設定は、電話機のサービスメニューおよび Web 設定から設定できます。ここでは、電話機からの設定について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

MEMO

一般ユーザ電話機では、ご自分の内線または自テナントに指定された共通メールボックスへのメッセージ録音の通知について設定できます。また、システム管理電話機では、全メールボックスへのメッセージ録音の通知について設定できます。

工事設定

通知先の電話が不応答 / 使用中でメッセージ録音通知が失敗したときには、新たにメッセージが録音されなくても、再度、メッセージ録音通知が行われます（リトライ）。リトライの有無やリトライ回数の設定は工事者が行います。販売店にお問い合わせください。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［5：録音関連設定］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
5 録音関連設定
6 ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
7 応答ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ管理

「録音関連設定」メニューが表示されます。

3 で［2：メールボックス録音通知］を選択して、確定を押す

システム管理電話機では［2：メールボックス録音通知］を、一般ユーザ電話機では［1：メールボックス録音通知］を選択します。

≪録音関連設定≫
2 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ録音通知
3 ﾒｯｾｰｼﾞの一括削除
4 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ暗証番号

「メールボックス指定」画面が表示されます。

4 メールボックス番号を入力して、確定を押す

メールボックス番号を入力する代わりに、で、メールボックスを順番に検索することができます。

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ指定≫
No>---
↑↓：候補検索

「録音通知設定」メニューが表示されます。

5 で［1：通知先 No 指定］を選択して、確定を押す

≪録音通知設定≫
1 通知先 No 指定
2 通知可能時間帯指定
3 ﾒｯｾｰｼﾞ録音再通知

「通知先 No 指定」画面が表示されます。

6 通知先の電話番号を特番から入力して、確定を押す

特番には、自動選局特番（例えば 0）などを入力します（「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照）。

≪通知先 No 指定≫
↑↓：電話帳指定

通知先の電話番号が登録され、「録音通知設定」メニューが表示されます。

7 で［2：通知可能時間帯指定］を選択して、確定を押す

≪録音通知設定≫
1 通知先 No 指定
2 通知可能時間帯指定
3 ﾒｯｾｰｼﾞ録音再通知

「通知可能時間帯」画面が表示されます。

つづく➡

8 通知する時間帯を入力して、確定を押す

≪通知可能時間帯≫
--:--〜--:--

(00:00 〜 23:59)

メッセージ録音通知が行われる時間帯が設定され、「録音通知設定」メニューが表示されます。

MEMO

00:00 〜 00:00：「終日」の指定方法。24 時間メッセージ録音通知が動作します。同一の時間を指定した場合は終日とみなします。

8:00 〜 18:00：通常の指定方法。8:00 〜 18:00 までメッセージ録音通知を行います。

18:00 〜 8:00：日をまたぐ指定方法。18:00 から翌日の 8:00 までメッセージ録音通知を行います。

※時刻は 00:00 〜 23:59 まで 1 分刻みで指定できます。

9 で [3：メッセージ録音再通知] を選択して、確定を押す

≪録音通知設定≫
1 通知先 No 指定
2 通知可能時間帯指定
3 ﾒｯｾｰｼﾞ録音再通知

「メッセージ録音再通知」画面が表示されます。

10 で再通知の動作を選択して、確定を押す

[1: 再通知しない] または [2: 再通知する] のどちらかを選択します。

≪メッセージ録音再通知≫
1 再通知しない
2 再通知する＊

- [1: 再通知しない] を選択した場合、新たにメッセージが録音されても、前回の録音通知で通知先が不応答 / 使用中だった場合は、メッセージ録音通知は行われません。
- [2: 再通知する] を選択した場合、新たにメッセージが録音されると、前回の録音通知で通知先が不応答 / 使用中だった場合でも、メッセージ録音通知が行われます（初期設定）。

メッセージ録音の再通知の方法が設定され、「録音通知設定」メニューに戻ります。

MEMO

手順 10 で [1: 再通知しない] を選択した場合でも、メールボックス内に残っているすべての未再生メッセージを再生したあとであれば、メッセージ録音通知が行われます。

メッセージ録音の E メールでの通知先を登録する（録音通知設定）

メールボックスごとに、メッセージが録音されたときの通知先の E メールアドレスを登録します。

通知先 E メールアドレスは、電話機のサービスメニューからは登録できません。Web 設定で登録してください。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

また、E メールによる通知の場合、メッセージが録音されると即座に通知（メール送信）されます。通知する時間帯や再通知の設定はできません。

MEMO

- メールサーバへの送信に失敗した場合は、メールは破棄されます。リトライ送信は行われません。
- Web 設定へのログイン時、一般ユーザの場合は、ご自分の内線または自テナントに指定された共通メールボックスへのメッセージ録音の通知について設定できます。また、管理ユーザの場合は、全メールボックスへのメッセージ録音の通知について設定できます。

＜ E メール通知で送信されるメールの例＞

タイトル：【MBX11】新規メッセージがありました
本文：
【MBX11】に新規録音がありました。
（メッセージを聴取するには、電話番号「XXXXXXXXXX」にかけてください。）
件数 3 件／新規 2 件
最新 1 件メッセージの情報は下記の通りです。
「相手名称」　○○太郎
「相手番号」　XXXXXXXXXX
「メモ」　○○○株式会社
「着信情報」　外線 001
「録音日時」　4 月 13 日（水）午後 10:15
「録音時間」　0 分 50 秒

各録音機能でメッセージ録音通知の有無と録音通知方法を選択する

メッセージ録音通知機能を使用するには、通知先を登録したあと、以下の各録音機能でそれぞれ、録音通知の有無と以下のいずれかの録音通知方法を選択する必要があります。

- 電話での通知（電話呼出）
- E メールでの通知（E メール通知）
- 電話と E メールの両方での通知（電話呼・E メール通知）

※ P.270 ～ P.271 の操作または Web 設定の「録音通知先設定」で登録したメッセージ録音の通知先は、以下のすべての機能で使用されます。

録音機能	録音通知の有無と通知方法を選択する操作	参照先
留守番機能	－	－
応答録音（留守録）（留守番モード自動切替時）	留守番機能の動作設定として選択します。電話機のサービスメニューまたは Web 設定で設定できます。	「自動切替時の留守番機能の動作を設定する」（➡ P.233）
応答録音（留守録）（留守番モード手動切替時）	留守番機能の動作設定として選択します。電話機のサービスメニューまたは Web 設定で設定できます。	「留守モード中のメッセージ録音通知の有無と録音通知方法を選択する」（➡ P.232）
ワンショット留守番	留守番機能の動作設定として選択します。電話機のサービスメニューまたは Web 設定で設定できます。	「ワンショット留守番」（➡ P.242）
各種代行機能	－	「各種代行機能」（➡ P.245）
外線着信代行	販売店による工事設定が必要です。	「外線着信代行を設定する」（➡ P.252）
不在代行	不在代行の動作設定として選択します。電話機のサービスメニュー、特番、または Web 設定で設定できます。	「不在代行を設定する」（➡ P.245）
無応答代行	無応答代行の動作設定として選択します。電話機のサービスメニューまたは Web 設定で設定できます。	「無応答代行を設定する」（➡ P.250）
圏外代行	圏外代行の動作設定として選択します。電話機のサービスメニューまたは Web 設定で設定できます。	「圏外代行を設定する」（➡ P.251）
話中代行	話中代行の動作設定として選択します。電話機のサービスメニューまたは Web 設定で設定できます。	「話中代行を設定する」（➡ P.249）
通話録音機能	－	－
通話録音（通話メモ）	録音通知の有無は、初期設定で「通知無し」に設定されています。初期設定を変更するには工事設定が必要ですが、通話録音中に（録音通知）を押すことで、現在録音中の通話に対する録音通知の有無を切り替えることができます。 録音通知方法は、初期設定「電話呼出」です。変更する場合は販売店による工事設定が必要です。 ※通話録音中の通話を保留した場合、再応答後の録音通知の設定は、録音メッセージの保存先メールボックスで設定されている通知設定に切り替わります。	「通話を録音する」（➡ P.253）
自動通話録音	通話録音（通話メモ）と同じです。	「自動で通話が録音されるように設定 / 解除する（自動通話録音）」（➡ P.256）
公 - 公転送自動通話録音	販売店による工事設定が必要です（初期設定：通知無し）。	外線着信を共通電話帳に登録されている番号と一致する番号へ自動転送して、相手が応答したとき、自動的に通話録音を開始する機能です。 この機能を使用する場合は販売店にご相談ください。
クイックメッセージ録音	販売店による工事設定が必要です（初期設定：通知無し）。 ※外線 / 専用線からのメッセージの録音時のみ通知することができます。	「メールボックスにメッセージを録音する（クイックメッセージ録音）」（➡ P.268）
メールボックス間メッセージ転送	販売店による工事設定が必要です（初期設定：通知無し）。	「録音されているメッセージを他のメールボックスへ転送する（メールボックス間メッセージ転送）」（➡ P.266）

録音メッセージにコメントを追加する(コメント登録)

メールボックスに保存されている録音メッセージに、コメントを付けることができます。
メッセージにコメントを付けておくと、パソコン上で **Web 設定**を使ってメッセージを検索するときに、キーワード(検索条件)として利用できるので便利です。例えば、折り返し電話が必要なお客様からの録音メッセージに、「折り返し電話する」というコメントを付けておくことができます。

保存されているメッセージにコメントを付けるには、以下の 3 つの方法があります。

(1)メッセージ再生中に (コメント n)を押す
(2)メッセージ一覧表示中に対象のメッセージを選択して、 (コメント n)を押す
(3)**Web 設定**のボイスメール管理画面で、対象のメッセージのコメントを選択する

ここでは、(1)と(2)の電話機での操作について説明します。(3)の **Web 設定**でのボイスメール管理については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

通話録音中のメッセージにその場でコメントを付けることもできます。「通話録音にコメントを付ける(コメント登録)」(➡ P.255)を参照してください。

MEMO

- (コメント n)はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」(➡ P.28)を参照してください。
- (コメント n)の登録時には、付加情報としてコメント番号(1 ～ 50)を選択します。各コメント番号にはあらかじめ、コメント文を登録しておきます(全角 10 文字まで)。コメントの登録は **Web 設定**で行います(最大 50 個)。コメントの登録方法については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

※ n は 1 ～ 50 のいずれかの数字を示しています。

再生中のメッセージにコメントを付ける

1 録音されているメッセージを再生する(➡ P.263)

2 メッセージ再生中、 (コメント n)を押す

- n はコメント番号(1 ～ 50)です。

```
0001: 内線 10                新規
10月24日(木)  午後10:00
機能 操作ガイド            再生中
```

(詳細表示)

↓ (コメント n)

```
0001: 内線 10                新規
10月24日(木)  午後10:00
折り返し電話する           再生中
```

- (コメント n)に登録されているコメント文が、電話機のディスプレイの 4 行目に表示されます。
- (コメント n)ランプが点灯(赤)します。

メッセージ一覧からコメントを付ける

1 メッセージ一覧を表示する(➡ P.263)

メッセージの一覧表示と詳細表示については、「メッセージの状態表示」(➡ P.220)を参照してください。

2 で対象のメッセージを選択状態にして、 (コメント n)を押す

- n はコメント番号(1 ～ 50)です。

```
メールサービス        MBX:11
0001: 内線 10              *
0002:1234567890            C
0003:3876543210
```

(一覧表示)

↓ (コメント n)

```
メールサービス        MBX:11
0001: 内線 10              *
0002:1234567890            C
0003:3876543210            @
```

(一覧表示)

- 対象のメッセージの行の右から 2 桁目に「@」が表示されます。
- (コメント n)ランプが点灯(赤)します。

MEMO

- 点灯している (コメント n)を再度押すと、メッセージからコメントを削除できます。
- ほかのコメントが登録されている (コメント n)を押すと、コメントを変更できます。最後に押されたボタンに登録されているコメントが優先されます。

操作ガイドを表示して操作する

ボイスメールの「操作ガイド」を電話機のディスプレイに表示して、ダイヤルボタンでの操作を確認することができます。操作ガイドは、録音件数表示画面またはメッセージ再生（詳細表示）画面表示中に、（機 能）を押すことで表示できます。

1 メールボックスにログオンする（➡ P.260）

録音件数表示画面が表示されます。

```
メールサービス        MBX：11
 件数       1件／新規      1件

機能 操作ガイド
```

ここで操作ガイドを表示する場合は、手順３へ進みます。

2 録音メッセージを再生する（➡ P.263）

録音メッセージ（詳細表示）画面が表示されます。

```
0001: 内線 10                新規
10月24日（木） 午後10：00

機能 操作ガイド          再生中
```

3 （機 能）を押す

操作ガイド画面が表示されます。

```
3: 消去     7: 保存     13: ﾒｯｾｰｼﾞ転送
4: 巻戻し   6: 早送り    8: 日時確認
5: 次ﾒｯｾｰｼﾞ             15: 前ﾒｯｾｰｼﾞ
11: 一時停止            12: 頭出し再生
```

※無操作のまま５秒経過、またはもう一度（機 能）を押すと、操作ガイドは終了し元のメールサービス画面に戻ります。

MEMO

カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）/ マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の操作ガイド画面は以下のとおりです。

```
3: 消去      7: 保存
4: 巻戻し    6: 早送り
5: 次 MSG   15: 前 MSG
```

```
11: 一時停止
12: 頭出し再生
13:MSG 転送   8: 日時
```

MEMO

- メールサービスの動作は、操作ガイドを表示しても継続します。例えば、（機 能）を押す前にガイダンスや録音メッセージが流れていた場合、操作ガイド表示中も継続して流れます。
- 録音メッセージ再生の一時停止中 / 停止中も、（機 能）を押して操作ガイドを表示することができます。

4 操作ガイドに表示されている番号（例えば、[ナ JKL 5]）をダイヤルする

押した番号のメールサービスの動作が実行されます。

例えば、[ナ JKL 5]を押した場合は、次メッセージが再生され、録音メッセージ（詳細）画面が表示されます。

```
0001: 内線 10                新規
10月24日（木） 午後10：00

機能 操作ガイド          再生中
```

（詳細表示）

※操作ガイドに表示されていない番号をダイヤルした場合、操作は無効となり操作ガイド画面の表示が継続されます。

録音メッセージを外部に保存する

外部保存設定で、自動保存を設定すると、録音メッセージを一括で外部の FTP サーバへ転送することができます。また、Web 設定を利用して、手動で録音メッセージを個別または一括で自席のパソコンに保存したり、主装置内から削除することができます。

MEMO
- FTP サーバやパソコンに録音メッセージを転送・保存すると、「メールボックス番号＋録音日時＋管理番号 .WAV」のような名前の wav 形式のファイルとして転送・保存されます（例：MBX80_201301260118_0007.WAV）。
- wav 形式ファイルは、Windows Media Player 等を使用してパソコン上で再生することができます。

Web 設定を利用してメッセージを保存 / 削除する（メッセージ外部保存（手動））

Web 設定のボイスメール管理メニューから、メールボックスごとに録音一覧を表示することができます。一覧表示画面から、任意の録音メッセージを選択して、個別または一括で取得してパソコンへ保存したり、削除することができます。
詳細については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

※録音メッセージのパソコンへの保存 / 削除は電話機からは操作できません。

MEMO
- 外部取得（自動）が動作している間は「メールボックス処理中です」が表示され、内蔵ボイスメール管理を使用できません。
- 内線 / テナントに割り付けられていないメールボックスは、手動によるアクセス制限を設けられません。

外部 FTP サーバへの自動保存を設定する（メッセージ外部保存（自動））

Web 設定の外部保存設定メニューから、外部 FTP サーバへの保存の有無や自動保存する時間の設定、FTP アカウントや送信先ドメイン /IP アドレスなどを設定します。また、FTP サーバの保存先のフォルダを指定することもできます。
指定された日時または指定された間隔で、内蔵ボイスメールの録音内容が LAN 経由で FTP サーバへ転送されます。
詳細については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

※ FTP サーバへの自動保存では、システム内の録音メッセージが一括で転送されます。

MEMO
- 外部 FTP サーバへ転送･保存できた録音メッセージファイルは「送信済」として管理されます。未保存の録音メッセージファイルが 1 件もない場合は、外部 FTP サーバへの自動保存は動作しません。
- 外部保存時のメッセージ自動削除は、システム一括での指定となり、メッセージボックスごとには指定できません。
- 自動転送中のメールボックスにログオンすることはできません（アクセス不可ガイダンスが流れます）。また、ログオン中のメールボックスは、自動転送対象外となります。

第６章　コードレスセット編

6-1 お使いになる前に …… 278
6-2 使用上のご注意 …… 284
6-3 電話機の調節 …… 290
6-4 サービスメニューの使いかた …… 297
6-5 カールコードレス電話機（CL）の独自機能 …… 305
6-6 電話のかけかた …… 307
6-7 電話の受けかた …… 317
6-8 保留のしかた …… 320
6-9 転送のしかた …… 324

6-1 お使いになる前に

この章では、カールコードレス電話機（CL）とコードレス電話機（WSd）の子機の操作について説明します。この 2 種類のコードレス電話機（子機）は、親機が異なるだけで、電話機やボタンの形状、ディスプレイ表示、操作方法などはすべて同じです。
カールコードレス電話機（CL）の親機は電話機、コードレス電話機（WSd）の親機は基地局です（➡ P.280）。

※カールコードレス電話機（CL）の親機の操作は、多機能電話機と同じです。操作方法については、多機能電話機の操作説明（第 1 章～第 5 章）を参照してください。

MEMO

この章の操作では、親機および充電器から上げている状態を基本としているので、カールコードレス電話機（CL）（子機）を親機または充電器から持ち上げる操作や置く操作、およびコードレス電話機（WSd）（子機）を充電器から持ち上げる操作や置く操作については、操作説明では省略しています。

略図の説明

カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）

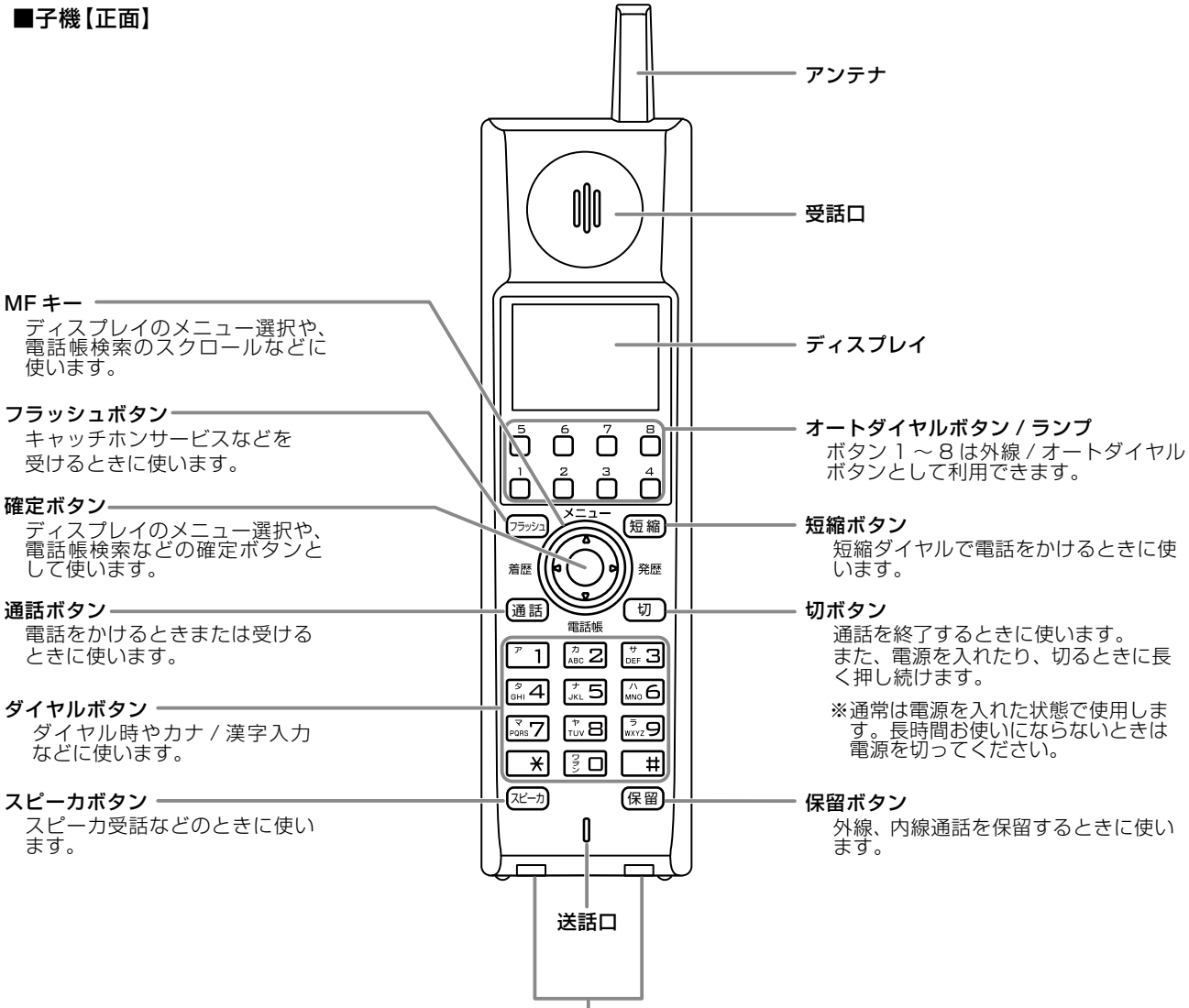
略図	説明
ア 1 カ ABC 2 サ DEF 3 タ GHI 4 ナ JKL 5 ハ MNO 6 マ PQRS 7 ヤ TUV 8 ラ WXYZ 9 ワ 0 # ＊	ダイヤルボタン
フラッシュ 短縮 切 通話 スピーカ 保留	各機能名称のボタン / ランプ
確定	MF キーの確定ボタン

略図	説明
◎	MF キーの上下左右
□（XXX）	機能を割り付けられた オートダイヤルボタン / ランプ （XXX は機能名）

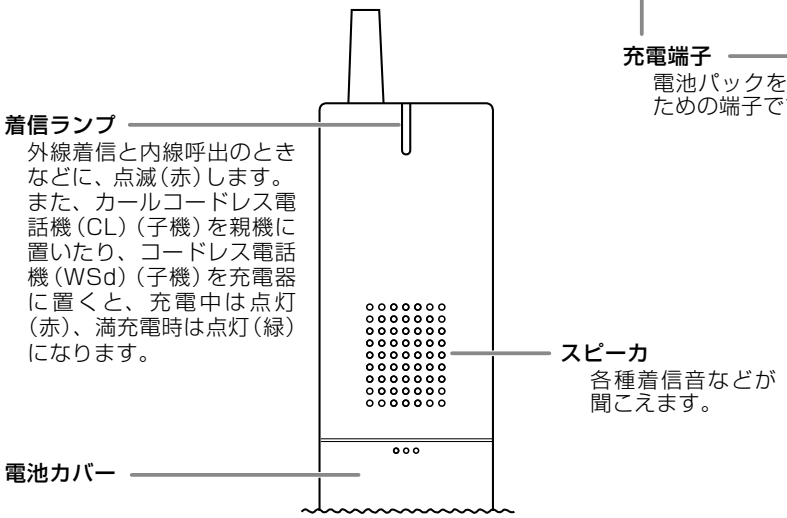
各部の名称とはたらき

カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）

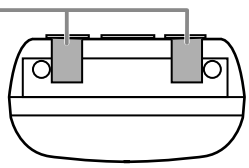
■子機【正面】



■子機【背面】



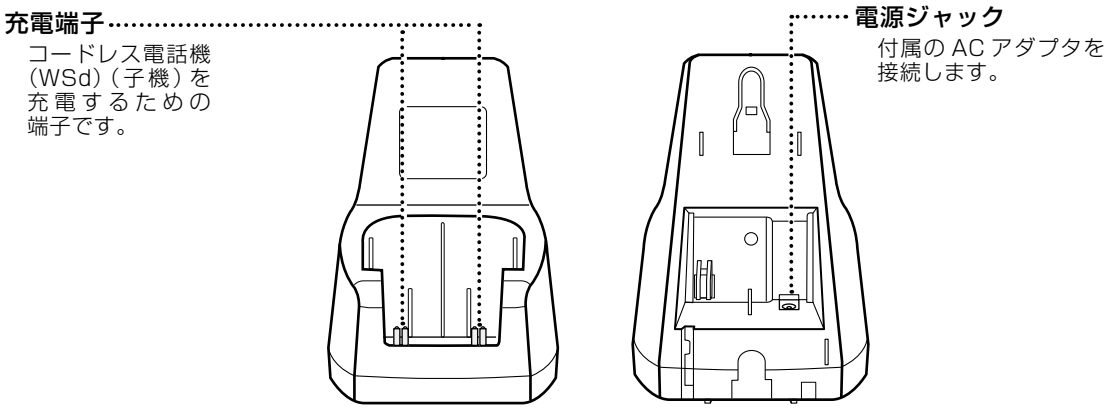
■子機【底面】



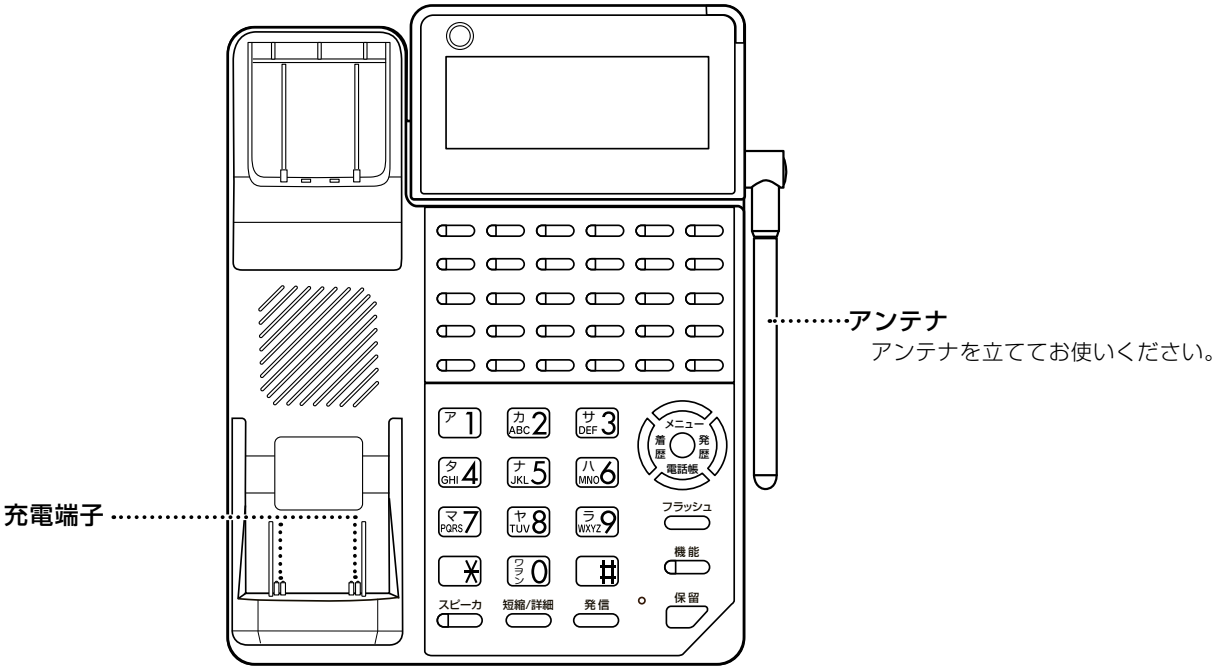
充電端子
電池パックを充電するための端子です。

コードレス電話機（WSd）（充電器）

■充電器正面　■充電器裏面

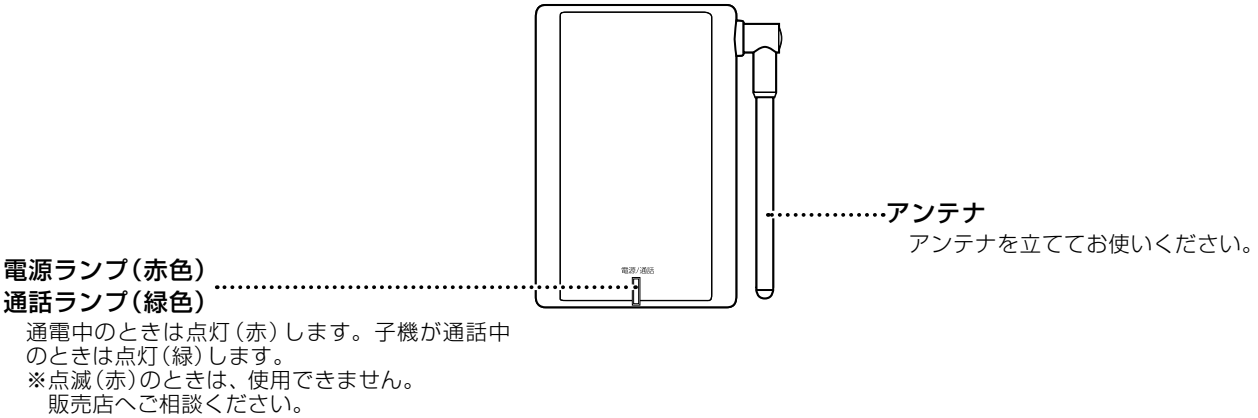


カールコードレス電話機（CL）（親機）



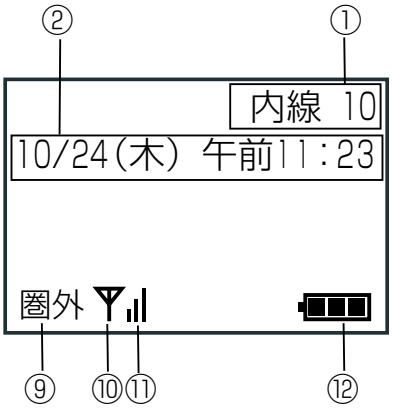
- カールコードレス電話機（CL）（親機）は、充電端子、アンテナ以外は、多機能電話機の名称と同じです。
- カールコードレス電話機（CL）（親機）の「角度調節のしかた」と「パネルの取り外しかた」は、多機能電話機と同じです。「1-2 電話機の調節」（➡ P.8）を参照してください。

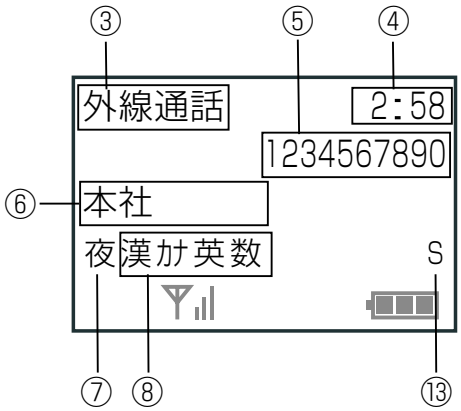
コードレス電話機（WSd）（親機）



ディスプレイ表示

ディスプレイの見かた



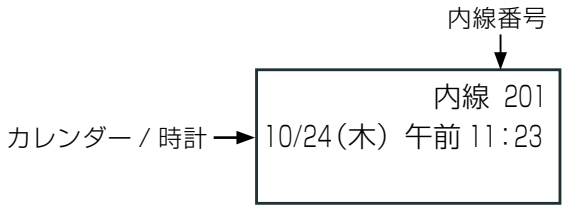


番号	表示例	内容
①	内線 10	自内線番号を表示する
②	10/24(木) 午前 11:23	カレンダー、時計を表示する
③	外線通話	通話種別(このほか、外線発信、内線着信、会議通話などの項目名を表示する)(➡ P.282)を参照
④	2:58	通話時間
⑤	1234567890	相手の番号情報
⑥	本社	電話帳登録情報 (相手の電話番号が電話帳に登録されている場合に表示される)
⑦	夜	夜間モード(夜間 A-1 ～ A-3 または夜間 B)に設定すると表示される
⑧	漢 カ 英 数	文字入力時のモードを表示する
⑨	圏外	子機と親機の距離が離れすぎると表示される
⑩		親機の電波を受信し着信可能な待ち受け状態になったときに表示する
⑪		4 段階の電波の強さ(電界強度)を表示する
⑫		電池残量を 5 段階で表示する
⑬	S	外線の着信音を止めると表示する

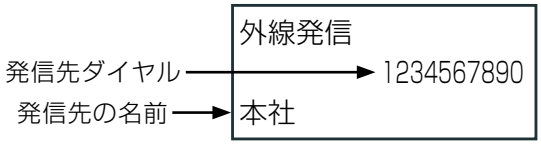
※カールコードレス電話機(CL)(親機)のディスプレイ表示については、第 1 章の「ディスプレイ表示」(➡ P.4)を参照してください。

ディスプレイ画面の例

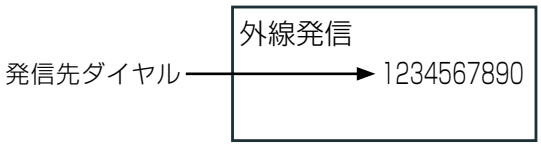
■ 待受画面



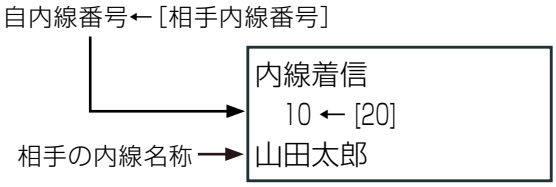
■ 外線発信中：電話帳で発信したとき



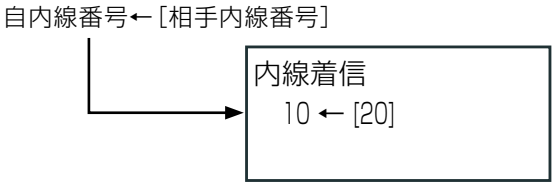
■ 外線発信中：電話帳に登録がないとき



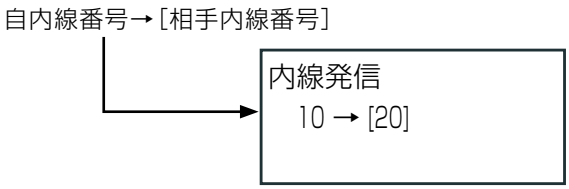
■ 内線着信：相手内線に内線名称が登録されているとき



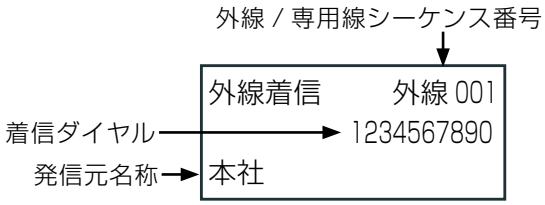
■ 内線着信：相手内線に内線名称が登録されていないとき



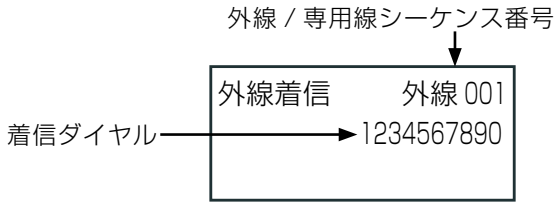
■ 内線発信：相手内線に内線名称が登録されていないとき



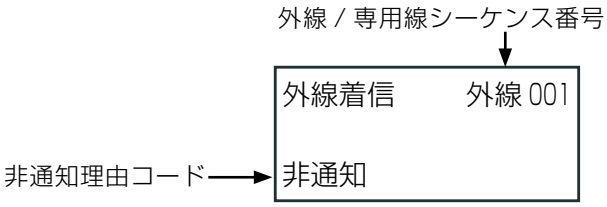
■ 外線着信：電話帳に名前の登録があるとき



■ 外線着信：電話帳に登録がないとき

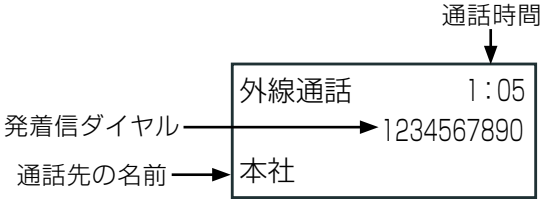


■ 外線着信中：非通知のとき

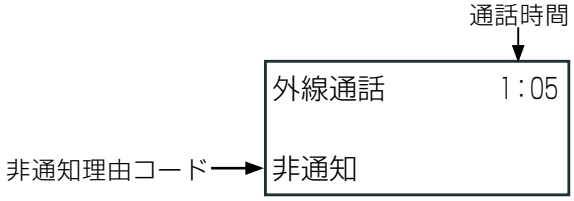


※非通知理由コードには、「表示圏外」「非通知」「公衆電話」のいずれかが表示されるか、コードなし（何も表示されない）の場合があります。

■ 外線通話中：電話帳に名前の登録があるとき

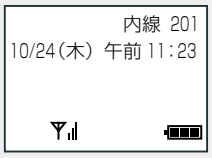


■ 外線通話中：非通知のとき



MEMO

最下行には、下の例のように電波状態と電池残量が常に表示されています。



本書で記載している機能説明のディスプレイには、この電波状態と電池残量を記載していません。

ランプ表示

ここでは、カールコードレス電話機（CL）とコードレス電話機（WSd）特有のランプ表示について説明します。
ここで説明していないランプ表示は、多機能電話機と同じです。第 1 章の「ランプ表示」（➡ P.6）を参照してください。

■ カールコードレス電話機（CL）（子機）、コードレス電話機（WSd）（子機）

ランプの種類	ランプのつきかた（色）	ランプの意味（電話機の状態）	備　考
着信 / 充電ランプ	点灯（赤）	充電中	子機独自機能
	点灯（緑）	満充電	

■ コードレス電話機（WSd）（親機）

ランプの種類	ランプのつきかた（色）	ランプの意味（電話機の状態）	備　考
電源 / 通話ランプ	消灯	電源 OFF	
	遅点滅（赤）（0.5 秒間隔で点滅）	電源 ON（システム ID エラー）	
	遅点滅（緑）（0.5 秒間隔で点滅）	電源 ON（子機登録中）	
	間隙点灯 2（赤） （0.7 秒点灯のあと、0.1 秒間隔で 1 回点滅）	電源 ON（子機圏外）	
	点灯（赤）	電源 ON（待受状態）	
	点灯（緑）	電源 ON（通話中）	

工事設定

システム ID エラーのようなシステム関連のエラーが発生した場合は、販売店にご連絡ください。

音の種類一覧

種類			音	発生源
発信音	外線発信音		ツーーー	受話口またはスピーカ
	内線発信音		ツーツー…	
呼出音（➡ P.417）	音声呼び		プー	
	信号呼び		プルルルル・・・プルルルル…	
着信音	内線着信音	音声呼び	プープープー	スピーカ
		信号呼び	プルルプルルプルルプルル・・・	
	外線、PBX 経由外線		プルルルル・・・プルルルル…	
	DIL、DID、外線の強制転送 PBX 経由の DIL、DID		プルプルプル・・・プルプルプル…	
	PBX 経由内線、 内線の強制転送		プルプル・・・プルプル…	
	PBX 外線経由の DIL/DID、 強制転送		プルプルプル・・・プルプルプル…	
	通話中の外線		着信音と同じ	受話口
	通話中のドアホン		ピンポーン （通常のドアホン着信時とは異なる）	
話中音			ツーッツーッ…	受話口またはスピーカ
登録完了音			ピー	
保留音			メロディ♪	受話口またはスピーカ
保留警告音			ピリリリピリリリ…	スピーカ
エラー音			ピーピー	受話口またはスピーカ
付加番号 DID の内線発信音、 リモートコールバックの内線発信音			プププププ・・・	外線に送出
付加番号 DID の話中音			プップーッ（3 回繰り返し）	
付加番号 DID の呼出音			プルルルル・・・プルルルル…	

※上の表の「…」は、音の繰り返しを示しています。「・・・」は音が鳴っていない状態を示しています。

6-2 使用上のご注意

カールコードレス電話機（CL）（親機 / 子機）、コードレス電話機（WSd）（親機 / 子機）を使用するときは、以下の点にご注意ください。

①カールコードレス電話機（CL）（親機）/ コードレス電話機（WSd）（親機）のアンテナは、垂直に立てて使用してください。

②カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）は、お使いになる前に充電してください。
約 8 時間以上の充電で約 8 時間の連続通話ができます。

③カールコードレス電話機（CL）（子機）を充電するときは、必ずカールコードレス電話機（CL）（親機）のスタンドを立てて使用してください。充電不良の原因となります。

④カールコードレス電話機（CL）（親機）にはカールコードレス電話機（CL）（子機）以外の子機を置かないでください。また、カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）を他の充電器に置かないでください。
その状態では充電ができません。

⑤カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）の電池パックは、専用のものを使用してください。

⑥親機の上に、物を載せないでください。雑音が入ることがあります。

⑦カールコードレス電話機（CL）とコードレス電話機（WSd）を合わせて複数台ご使用の場合、他の子機をカールコードレス電話機（CL）（親機）に置きますと、注意音が約 2 秒間隔で鳴りますが、故障ではありません。子機を元のカールコードレス電話機（CL）（親機）に置いてください。

無線に関するご注意

カールコードレス電話機（CL）（親機 / 子機）、コードレス電話機（WSd）（親機 / 子機）を使用するときの無線に関する注意点は以下のとおりです。

①デジタル信号技術を使用することにより、傍受されにくくなっておりますが、電波を使用しているため、通常の手段を超えた方法で第三者が故意に通話の内容を傍受する場合がまったくないとはいえません。この点について十分配慮してご使用ください。機密が必要な通話は、多機能電話機をご使用になることをお勧めします。

②親機のアンテナは折りたたまずに、まっすぐ上向きに立てた状態で使用してください。

③無線の特性により、動作（表示や音）が遅れる場合があります。

④端末の特性により、外線発信時のダイヤル操作で、通話ボタンを押したあとにダイヤルした場合、少し遅れてダイヤル表示されますので、ダイヤル入力後に発信ボタンを押す操作（プリセットダイヤル）での運用を推奨いたします。

⑤移動しながら使用するときは、位置や向きによって雑音が入ることがあります。

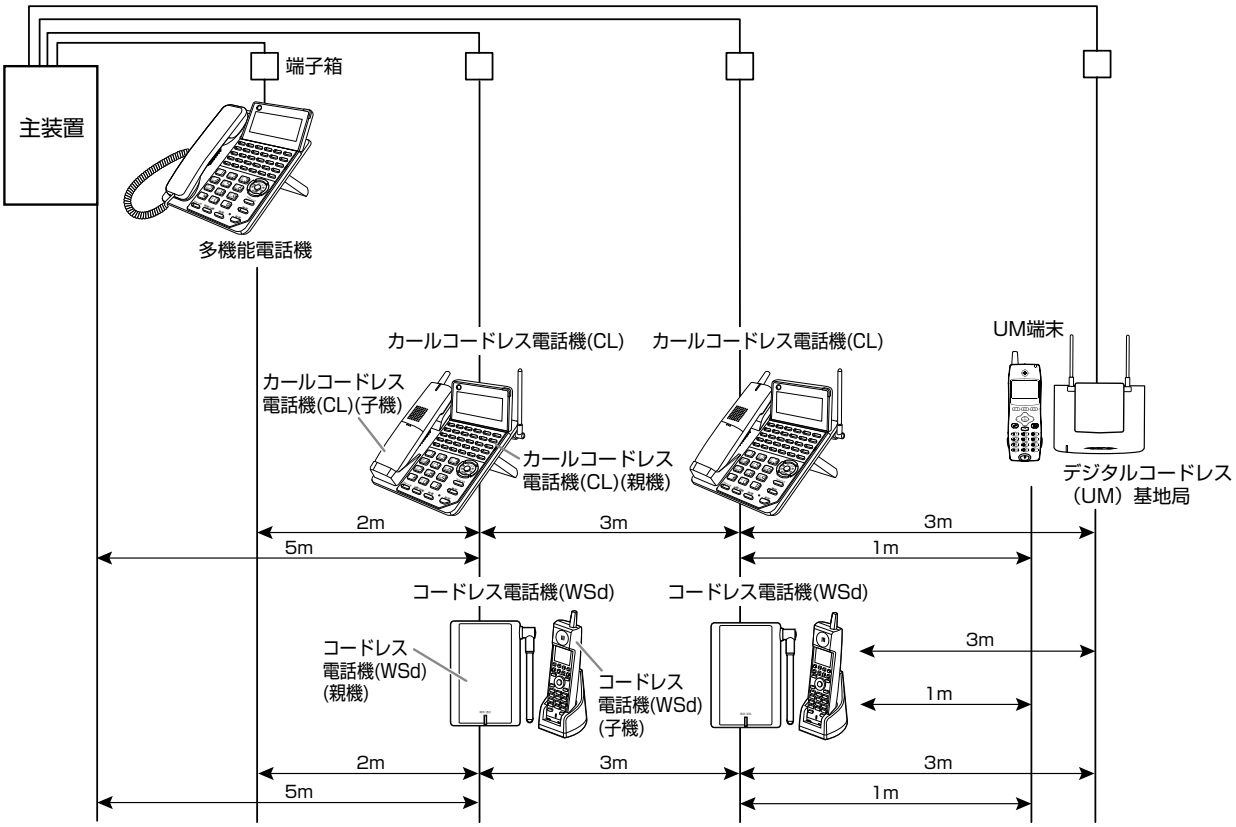
⑥通常半径 100m（見通し距離）以内でご使用できますが、親機と子機の間に下記の障害物などがあると、通話中に雑音が入ったり、子機に「圏外」と表示され使えなくなることがあります。このため、設置環境を確認のうえ、親機の設置場所を決めてください。なお、設置環境によりますが、送信出力の設定で使用距離を延ばすことができます。送信出力の設定については販売店にご相談ください。

［影響する設置環境］金属製のドア、アルミはく入りの断熱材が入っている壁、コンクリートや金属製の壁。
なお、金属製以外の遮蔽物であっても電波の伝播に影響が出ることがあります。

⑦通話中に雑音が入ることがあるため、カールコードレス電話機（CL）子機同士間、コードレス電話機（WSd）子機同士間、および両製品の子機間は 3 m以上離して設置してください。また、親機は主装置から 5 m以上、多機能電話機から 2 m以上、他の親機（接続装置、デジタルコードレス（UM）基地局を含む）から 3 m以上、UM 端末から 1m 以上、子機はデジタルコードレス（UM）基地局から 3m 以上、UM 端末から 1 m以上離して設置してください。

MEMO

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）については、第 8 章の「無線に関するご注意」（➡ P.356）を参照してください。



電波に関するご注意

カールコードレス電話機（CL）およびコードレス電話機（WSd）は、1.9GHz 帯を使用する時分割多元接続方式広帯域デジタルコードレス電話機です。
電話機には、それを示す右記のマークが張り付けられています。

1.9-D

電話機を使用するときは、以下の点にご注意ください。

- ラジオ、テレビ、その他無線機器およびアンテナ線から 3m 以上離してください。雑音や映像の乱れの原因になります。
- その他、下記の機器の周辺では、音声が途切れたり、使えなくなることがあります。また、相手の機器の動作にも影響を与えることがあります。できるだけ、設置場所や使用場所を離してください。

  ［影響する機器］火災報知器、マイクロ波治療器、自動ドア、自動制御機器

- この機器は同一周波数を使用する他の無線局と電波干渉が発生しないように考慮されていますが、万一、この機器からの他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに子機の電波の発射を停止（子機の電池パックを取り外します）してください。それでも現象が改善しない場合には、親機の電波が影響している可能性があるため、お買い上げになった販売店へご連絡いただき電波の発射を停止するよう処置を講じてください。

  また、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてお買い上げになった販売店へご相談ください。

子機が圏外にでると

①通話中に、親機と子機の距離が遠くなり子機が通話圏外にでると、子機のディスプレイに「圏外」が表示され、通話圏外警報音が鳴ります。

②通話圏外では電話をかけることも、受けることもできません。電話がかかってきても、着信音が鳴りません。

電池パックの取り付け

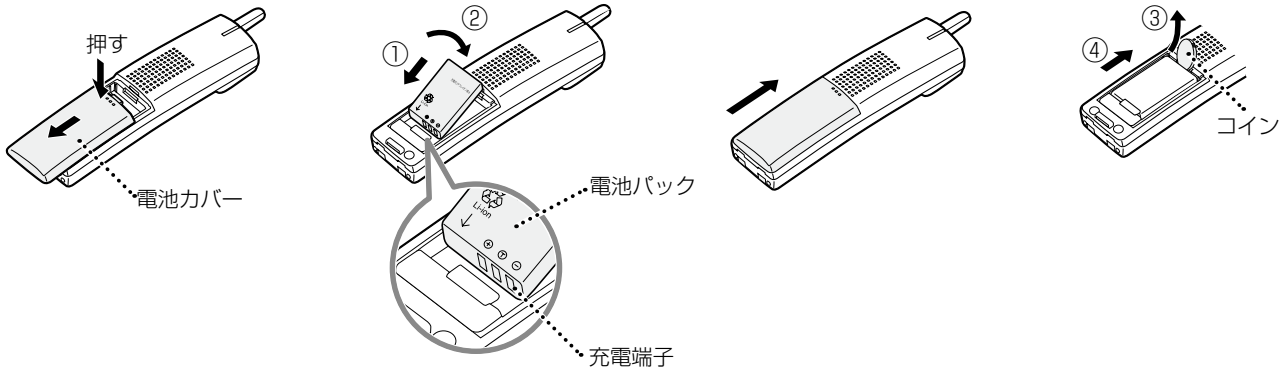
1. 電池カバーを押しながらスライドさせて、電池カバーを取り外します。

2. 電池パックのラベル面を上にして、①方向に差し込みながら、②方向にはめ込みます。

- 子機と電池パックの充電端子が接触します。

3. 「カチッ」と音がするまで、電池カバーを押し込みます。

- 電池パックを取り外すときは、電池パックを③方向にコインで持ち上げながら、④方向に取り外します。



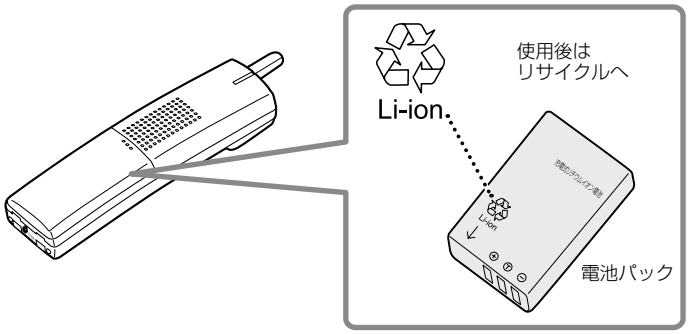
電池パックの交換

子機の電池パックは、消耗品です。満充電しても、続けて通話できる時間が極端に短くなった場合は、新しい電池パックをお買い求めのうえ交換してください。

- 電池パックの購入方法については、お買い上げになった販売店などへお問い合わせください。
- 電池パックの抜き差しを行うと、ディスプレイに一時的に▪▭が表示されますが故障ではありません。

●リサイクル推進のお願い

子機の電池パックはリサイクル可能な貴重な資源です。電池交換などで使用済みの電池パックを廃棄するときは、お買い上げになった販売店またはお近くのリチウムイオン電池リサイクル協力店へお持ちいただき、リサイクル推進にご協力をお願いいたします。



⚠ 危険	
強制	**電池パックはプラス⊕・マイナス⊖の向きが決められています。コードレス電話機に接続するときは、プラス⊕、マイナス⊖の向きを確かめてください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。
禁止	**電池パックを単体では充電しないでください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。
禁止	**電池パックは、指定の電話機以外には使用しないでください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。
禁止	**電池パックを分解・改造しないでください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。
強制	**電池パックを使用する場合は、以下のことを必ず守ってください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。 ・火の中に投入したり、加熱しない ・直接はんだ付けしない ・プラス⊕・マイナス⊖を針金などの金属類で接触させない ・水・雨水・海水・薬品などにつけたり、ぬらさない ・ネックレスなどの金属製品と一緒に持ち運んだり、保管しない ・針を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたり、投げつけない
強制	**電池パック内部の液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください**
⚠ 注意	
強制	**電池パックは、事故防止のため、小さいお子様の手の届かないところに保管してください。誤飲、感電の原因となります**

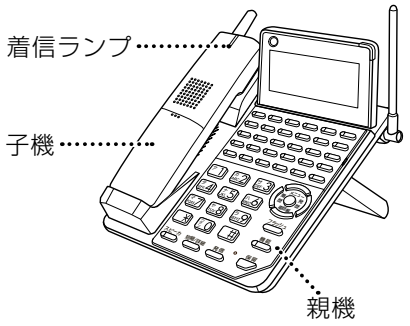
充電と接続のしかた

カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）の充電やコードレス電話機（WSd）の AC アダプタの接続は、次のようになります。

①カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）はお買い上げ時、電池パックは装着されておりません。お使いになる前に電池パックを装着してください（➡ P.286）。

②はじめてお使いになるときや新しい電池パックに交換したときは、必ず 8 時間以上充電してください。

カールコードレス電話機（CL）



●カールコードレス電話機（CL）（子機）を充電するときは、必ずカールコードレス電話機（CL）（親機）のスタンドを立てて使用してください。充電不良の原因となります。

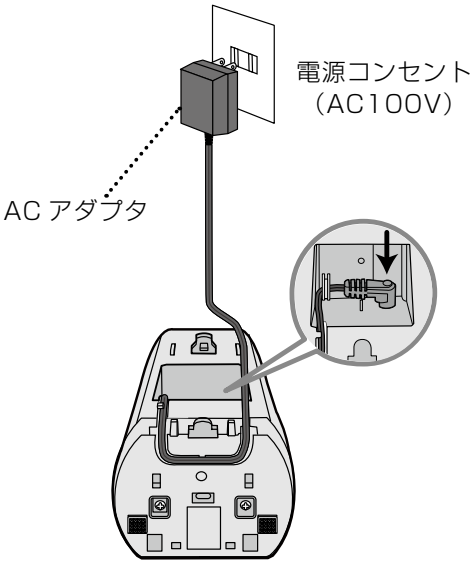
●カールコードレス電話機（CL）（子機）を充電する場合には、ダイヤル面を裏にしてカールコードレス電話機（CL）（親機）に置いてください。

●カールコードレス電話機（CL）（子機）が充電されているときは、カールコードレス電話機（CL）（子機）の着信ランプが点灯（赤）します。満充電になると、点灯（緑）します。

●カールコードレス電話機（CL）（子機）を親機に置いたときに、

- 子機の着信ランプが点灯（赤）後、すぐに点灯（緑）に切り替わる場合：
  充電端子の接触不良が考えられます。親機と子機の充電端子および電池パックの充電端子を綿棒などでふいて確認してください。
- 子機の着信ランプが点滅（赤）する場合：
  電池パックの不良（劣化など）が考えられます。電池パックを交換して確認してください。

コードレス電話機（WSd）



●コードレス電話機（WSd）（子機）を充電する場合は、ダイヤル面を表にして充電器に置いてください。

●コードレス電話機（WSd）（子機）充電中は、ディスプレイに「充電中」と表示され、カールコードレス電話機（CL）（子機）と同様に着信ランプが点灯（赤）します。満充電になると、点灯（緑）します。

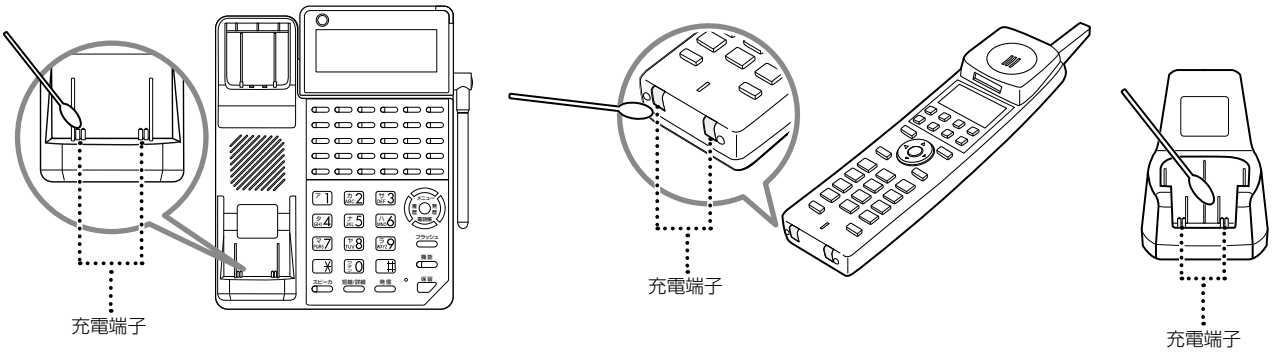
MEMO

- 子機を使用しないときは、カールコードレス電話機（CL）（親機）や充電器に置いてください。
- 充電中や充電直後に子機の電池カバー付近が温かいことがありますが、異常ではありません。
- 満充電時の使用時間は、カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）ともに次のとおりです。

連続通話時間	連続待受時間※ 1	満充電までの時間
約 8 時間	約 24 時間	約 8 時間

※ 1 電源が入った状態で、通話をしないで親機の電波だけを正常に受信できる平均的な時間です。

充電端子のお手入れ



①親機、子機および充電器の充電端子（金属部分）は、いつもきれいに保つようにしてください。

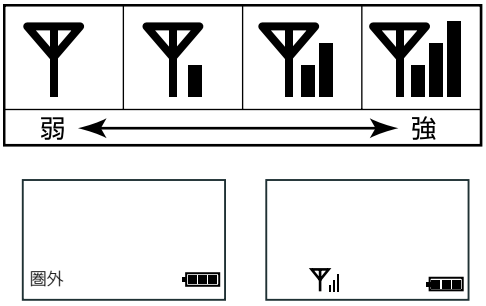
②端子が汚れていると充電できなくなることがありますので、月に 1 回以上、乾いた綿棒などで清掃してください。

※シンナー、ベンジンなどを使用すると表面を傷めたり、変色したりすることがありますので、使用しないでください。

電波の強さ

カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）は、親機からの電波状態を 4 段階で表します。

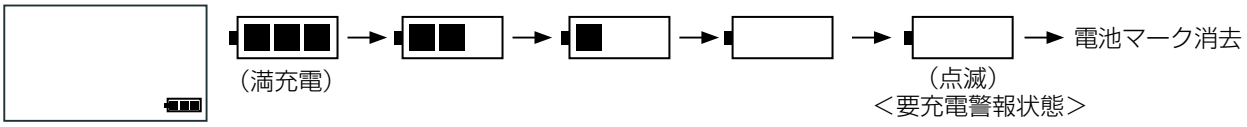
- 電話をかける前に電波の強さを確認してください。



強	受信状態が良好です。
弱	電話がかかりにくくなったり、通話が切れることがあります。 （電波状態の良い場所へ移動してください）
圏外	電話をかけることも受けることもできません。 圏外に近づくと、警報音が鳴り、ディスプレイの最下段の左端に圏外ピクトが点滅します。 圏外になると、圏外ピクトが点灯し、通話が切れます。

電池残量

カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）のディスプレイには、電池の残容量が下図の 5 段階で表示されます。充電の目安としてお使いください。



電池残量が少なくなった場合は、満充電になるまで充電してください。

●要充電警報状態のときは、約 10 秒ごとに要充電警報音が鳴ります。

●通話中に要充電警報音が鳴り始めると、約 90 秒で通話が切れます。

●要充電警報音が鳴ってから充電すると、約 8 時間で通常使用状態になり、約 8 時間の連続通話ができます。

※子機を電池パックを取り外した状態で、親機や充電器に置かないでください。

※要充電警報状態のまま充電せずに放置すると、子機が使用できない状態となりますが、故障ではありません。子機を親機または充電器に置いて充電してください。このとき、子機の着信ランプがすぐに点灯（赤）しないことがありますが、故障ではありません。約 10 ～ 20 分後に着信 / 充電ランプが点灯（赤）します。

6-3 電話機の調節

ここでは、ディスプレイの調整や音量の調節と、ハンズフリー応答や子機サイレントなどの便利な機能の設定について説明します。

MEMO

各種機能の設定や調整には、電話機のサービスメニューを使います。サービスメニューについては、「6-4 サービスメニューの使いかた」(➡ P.297)を参照してください。

電話機ディスプレイの表示形式を設定する

電話機のディスプレイのコントラストを 8 段階で調整することができます。またバックライトの ON/OFF を設定することができます。

ディスプレイのコントラストを調整する

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[表示設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「表示形式設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[LCD コントラスト調整] を選択して、確定を押す

≪表示形式設定≫
LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整
LCD ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ設定

「LCD コントラスト調整」画面が表示されます。

4 LCD コントラストを指定して、確定を押す

≪ LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整≫
△ : 濃 ▽ : 薄
ﾚﾍﾞﾙ : 5 <1-8>

LCD コントラストが設定され、「表示形式設定」メニューに戻ります。

ディスプレイのバックライトを設定する

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[表示設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「表示形式設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[LCD バックライト設定] を選択して、確定を押す

≪表示形式設定≫
LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整
LCD ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ設定

「LCD バックライト設定」画面が表示されます。

4 LCD バックライトの ON/OFF を指定して、確定を押す

≪ LCD ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ設定≫
ON＊
OFF

バックライトの ON/OFF が設定され、「表示形式設定」メニューに戻ります。

音量を調節する

カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）では、各種音量をサービスメニューから調節できます。

着信音量を調節する

着信音量は、3 段階で調節することができます。外線、内線、ドアホンの着信音量を調節できます。

外線着信音量を調節する

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[着信音量] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
着信音量
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量

「着信音量」メニューが表示されます。

4 ◎で、[外線着信音量] を選択して、確定を押す

≪着信音量≫
外線着信音量
内線着信音量

「外線着信音量」画面が表示されます。

5 ◎で、外線着信音量を指定して、確定を押す

≪外線着信音量≫
△:大 ▽:小
ﾚﾍﾞﾙ:2 <1-3>

外線着信音量が設定され、「着信音量」メニューに戻ります。

内線着信音量を調節する

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[着信音量] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
着信音量
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量

「着信音量」メニューが表示されます。

4 ◎で、[内線着信音量] を選択して、確定を押す

≪着信音量≫
外線着信音量
内線着信音量

「内線着信音量」画面が表示されます。

5 ◎で、内線着信音量を指定して、確定を押す

≪内線着信音量≫
△:大 ▽:小
ﾚﾍﾞﾙ:2 <1-3>

内線着信音量が設定され、「着信音量」メニューに戻ります。

ドアホン着信音量を調節する

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[着信音量] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
着信音量
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量

「着信音量」メニューが表示されます。

4 ◎で、[ドアホン着信音量] を選択して、確定を押す

≪着信音量≫
内線着信音量
ﾄﾞｱﾎﾝ着信音量

「ドアホン着信音量」画面が表示されます。

5 ドアホン着信音量を指定して、確定を押す

≪ﾄﾞｱﾎﾝ着信音量≫
△:大 ▽:小
ﾚﾍﾞﾙ:2 <1-3>

ドアホン着信音量が設定され、「着信音量」メニューに戻ります。

MEMO

保留 を押すと、上位メニューに戻ります。

受話音量を調節する（ハンドセット受話音量）

通話中に受話口から聞こえる音量を 3 段階で調節することができます。

通話中に受話音量を調節するには

1 受話器で通話中

2 ◎を押して受話音量を調節する

- ◎を押すと、受話器から聞こえる音声が大きくなります。
- ◎を押すと、受話器から聞こえる音声が小さくなります。

3 適切な音量になったら、◎から指を離す

受話音量が設定されます。

待受中に受話音量を調節するには

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[ハンドセット受話音量] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
着信音量
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量

「ハンドセット受話音量」画面が表示されます。

4 ハンドセット受話音量を指定して、確定を押す

≪ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量≫
△:大 ▽:小
ﾚﾍﾞﾙ:2 <1-3>

ハンドセット受話音量が設定され、「音設定」メニューに戻ります。

スピーカ受話音量を調節する

通話中にスピーカから聞こえる音量を 3 段階で調節することができます。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[スピーカ受話音量] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量
ｽﾋﾟｰｶ受話音量

「スピーカ受話音量」画面が表示されます。

4 スピーカ受話音量を指定して、確定を押す

≪ｽﾋﾟｰｶ受話音量≫
△:大 ▽:小
ﾚﾍﾞﾙ:2 <1-3>

スピーカ受話音量が設定され、「音設定」メニューに戻ります。

ボタン押下音を切り替える

ボタンを押したときの音を鳴らすか鳴らさないかを、ON/OFF で設定できます。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[ボタン押下音設定] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
ｽﾋﾟｰｶ受話音量
ﾎﾞﾀﾝ押下音設定

「ボタン押下音設定」画面が表示されます。

4 ボタン押下音を設定して、確定を押す

≪ﾎﾞﾀﾝ押下音設定≫
ON*
OFF

ボタン押下音の ON/OFF が設定され、「音設定」メニューに戻ります。

話中に別の着信があったときの着信音を設定する

通話中に着信があったときに、着信音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。

1 **待受画面で、確定または▲を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 **▲▼で、[音設定] を選択して、確定を押す**

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 **▲▼で、[各種音種] を選択して、確定を押す**

≪音設定≫
ﾎﾞﾀﾝ押下音設定
各種音種

「各種音種」メニューが表示されます。

4 **[話中着信音設定] を選択して、確定を押す**

≪各種音種≫
話中着信音設定

「話中着信音設定」画面が表示されます。

5 **話中着信音を設定して、確定を押す**

≪話中着信音設定≫
着信音有り＊
着信音無し

話中着信音が設定され、「各種音種」メニューに戻ります。

便利な機能を設定する

FAX 内線を設定する

内線ごとに FAX を指定して、指定した FAX で着信応答したときに、FAX 着信をお知らせすることができます。指定できる FAX は内線ごとに 2 台までです（ただし、FAX1/FAX2 に同じ FAX を指定することはできません）。複数の内線で同じ FAX を指定することもできます。FAX 着信お知らせ機能の詳細については、第 3 章の「FAX に着信があったことを内線電話機で表示する（FAX 着信お知らせ）」（➡ P.157）を参照してください。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[その他] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
表示設定
その他

3 ◎で、[システム設定] を選択して、確定を押す

≪その他≫
ｼｽﾃﾑ設定
電話機

4 ◎で、[FAX 設定] を選択して、確定を押す

≪ｼｽﾃﾑ設定≫
FAX 設定
MFP 表示設定

5 ◎で、[FAX1] または [FAX2] を選択して、確定を押す

≪ FAX 設定≫
FAX1
FAX2

6 内線対象を指定して、確定を押す

内線番号を入力する代わりに◎で内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
0010

内線対象が設定され、「FAX 設定」メニューに戻ります。

内線ハンズフリー応答を設定する

電話機のマイクが ON に設定されていると、内線音声呼出にハンズフリーで応答できるようになります。内線グループ音声呼出にはハンズフリー応答できません。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[その他] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
表示設定
その他

3 ◎で、[電話機] を選択して、確定を押す

≪その他≫
ｼｽﾃﾑ設定
電話機

4 ◎で、[ハンズフリー応答設定] を選択して、確定を押す

≪電話機≫
ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰ応答設定
子機ｻｲﾚﾝﾄ設定

5 ◎で、[する] を選択して、確定を押す

≪ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰ応答設定≫
する
しない＊

ハンズフリー応答が設定され、「電話機」メニューに戻ります。

MEMO

ハンズフリー応答を設定するには、あらかじめマイク機能を□に登録しておき、□（マイク）を押して設定 / 解除することもできます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）を参照してください。

子機サイレントを設定する

子機サイレントを設定しておくと、一時的に子機の着信音を鳴らさないようにすることができます。

1 **待受画面で、確定または◎を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 **◎で、[その他] を選択して、確定を押す**

≪ﾒﾆｭｰ≫
表示設定
その他

3 **◎で、[電話機] を選択して、確定を押す**

≪その他≫
ｼｽﾃﾑ設定
電話機

4 **◎で、[子機サイレント設定] を選択して、確定を押す**

≪電話機≫
ﾊﾝｽﾞﾌﾘｰ応答設定
子機ｻｲﾚﾝﾄ設定

5 **◎で、[ON] を選択して、確定を押す**

≪子機ｻｲﾚﾝﾄ設定≫
ON
OFF ＊

子機サイレントが設定され、「電話機」メニューに戻ります。

MEMO

- 子機サイレントモード中は、カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機）のディスプレイに「S」がピクト表示されます。

- 子機サイレントモード中に、外線着信があると、ディスプレイに外線着信と表示されます。
- 子機サイレントモードでは、話中着信音も鳴動しなくなります。

子機サイレントボタンを使う

1 **待受画面で、□（子機サイレント）を押す**

- □（子機サイレント）ランプが点灯（赤）します。
- 子機サイレントが設定されます。

MEMO

この機能を使う前に、子機サイレント機能をあらかじめ□に登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）を参照してください。

6-4 サービスメニューの使いかた

待受画面から確定または◎を押すと、メインメニューが表示されます。◎でメニュー項目を選択して確定を押すことにより、各種機能を選択できます。選択できる機能は下表のとおりです。

サービスメニューで使用するボタンの使いかたなどについては、「1-3 サービスメニューの使いかた」（➡ P.17）を参照してください。

サービスメニュー一覧

メインメニュー	サブメニュー	参照ページ
履歴（発信 / 着信）	発信履歴	P.311
	共通着信履歴	−
	個別着信履歴	−
電話帳	新規登録	−
	一覧表示	−
	番号検索	P.309
内線一覧	一覧表示	−
	内線検索	−
	内線カナ検索	−
オートダイヤル	ファンクション割付	P.298
	メールボックス割付	P.300
	DSS 割付	P.301
	ワンタッチ割付	P.302
	電話帳ワンタッチ割付	P.304
	割付クリア	P.299
音設定	着信音量	P.291
	ハンドセット受話音量	P.292
	スピーカ受話音量	P.293
	ボタン押下音設定	P.293
	各種音種	P.294
表示設定	LCD コントラスト調整	P.290
	LCD バックライト設定	P.290
その他	システム設定	P.295
	電話機	P.295
		P.296

※各内線から使用する FAX を選択します。

※ハンズフリー応答をするかどうかを設定します。

※子機サイレントの ON/OFF を設定します。

カールコードレス電話機（CL）の場合、子機でメニュー操作をしているときに、親機で以下の操作を行った場合は、メニューが終了し、それぞれ以下のような状態になります。

親機での操作	メニュー終了後の状態
電話機コードを引き抜く	使用不可状態になります。
緊急地震速報受信	緊急地震速報画面へ

MEMO

カールコードレス電話機（CL）の親機と子機の間で切り替えについては、「6-5 カールコードレス電話機（CL）の独自機能」（➡ P.305）を参照してください。

サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける

(オートダイヤル)に特定の機能や電話番号などを割り付けると、カールコードレス電話機(CL)(子機)やコードレス電話機(WSd)(子機)からも各種機能の設定や変更の操作ができるようになります。

カールコードレス電話機(CL)(子機)には、初期設定で(外線)のみが割り付けられています。また、コードレス電話機(WSd)(子機)には、初期設定で(外線)と(自己保留)が割り付けられています。
オートダイヤルボタンに登録できる機能や付加情報については「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。

工事設定

(外線)と(自己保留)が割り付けられているボタンには機能を登録することはできません。(外線)の割り付けを解除してオートダイヤルボタンとして使用したい場合は、販売店にご相談ください。

オートダイヤルボタンに機能を登録する

1 待受画面で、確定または を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で、[オートダイヤル] を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
オートダイヤル
音設定

3 で、[ファンクション割付] を選択して、確定を押す

≪オートダイヤル≫
ファンクション割付
メールボックス割付

4 機能を登録するを押す

≪ファンクション割付≫
F--:---

↓

≪ファンクション割付≫
F08:--
未登録

- のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3 行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

- 同じ操作で、に登録されている機能を確認することができます。
- 手順 1 ～ 3 の代わりに 保留 → を押すこともできます(「A-4 登録モード一覧表」(➡ P.423)を参照)。

5 機能種別番号を指定する

- 機能種別番号については、「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。

  例えば、代理応答であれば、機能種別番号 を入力します。
- 機能種別番号を入力する代わりにで機能名の候補を表示して選択することもできます。

≪ファンクション割付≫
F08:03
代理応答

6 確定を押す

- 機能種別によっては、このあと付加情報を設定する必要があります。付加情報の入力が必要な場合は、手順 7 へ進みます。
- 付加情報が必要でない機能種別の場合は、機能が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

7 (付加情報が必要な機能種別の場合)付加情報を入力する

必要な付加情報については、「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。

例えば、代理応答であれば、「1:全て」、「2:内線のみ」、「3:内線 + 専用線」、「4:外線のみ」から選択します。

8 確定を押す

に機能が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[オートダイヤル] を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
オートダイヤル
音設定

3 ◎で、[割付クリア] を選択して、確定を押す

≪オートダイヤル≫
電話帳ワンタッチ割付
割付クリア

4 登録を削除する□を押す

≪割付クリア≫
F■—>

↓□

≪割付クリア≫
F■5>
リダイヤル

□のファンクション番号が表示されます。画面は、リダイヤル機能が登録されている 5 番の□を押した場合の例です。3 行目に機能名が表示されます。

MEMO

事前に□に割り付けられている機能を確認するには、保留→ワンタッチ□のあとに、□を押します。電話機のディスプレイに、機能名が表示されます。

5 登録を削除する機能名が表示されていることを確認して、確定を押す

≪割付クリア≫
F■5>
リダイヤル

□に登録されていた機能がクリアされ、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する

メールボックスとは、電話の音声メッセージを録音して格納しておくことができる箱のようなものです。それぞれの箱には、番号（メールボックス番号）が付けられ、番号を指定して、メールボックス内のメッセージを再生したり、削除したりすることができます。メールボックスについての詳細は、第５章の「メールサービスを利用する」（➡ P.259）を参照してください。

□にメールボックス番号を登録しておくと、□を押すことで、登録した番号のメールボックスにアクセスすることができるようになり、また、メールボックスに未聴取のメッセージがあるときは、□（メールボックス）のランプが点滅（緑）するので、メールボックスにメッセージがあるかどうかを確認することができます。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[オートダイヤル] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
音設定

3 ◎で、[メールボックス割付] を選択して、確定を押す

≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付

4 メールボックスを登録する□を押す

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付≫
F■->MBX----

↓□

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付≫
F05>MBX■---
未登録

- □のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、３行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

- 同じ操作で、□に登録されている機能を確認することができます。
- 手順１～３の代わりに 保留 → 4 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

5 メールボックス番号を入力する

- 主装置内蔵のメールボックスのメールボックス番号は、１～４桁です。
- メールボックス番号を入力する代わりに◎でメールボックス番号を順番に検索することができます。

（メールボックス番号 10 の入力例）

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付≫
F05>MBX1■--

MEMO

内線メールボックスの番号（内線番号）と共通メールボックスの番号を選択できます。

6 確定を押す

7 メールボックス表示種別を選択して、確定を押す

登録後の□を押したとき、メールの内容を一覧で表示するか、詳細画面で１件ずつ表示するかを選択します。

≪ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ表示種別≫
詳細＊
一覧

□にメールボックス番号が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

MEMO

登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.299）を参照してください。

オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する

オートダイヤルボタン□に内線番号を登録すると、内線相手の使用状態のわかる BLF（Busy Lamp Field）ランプとして、また登録された内線にワンタッチで電話をかけられる DSS（Direct Station Selection）ボタンとして使用することができます。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[オートダイヤル] を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
オートダイヤル
音設定

3 ◎で、[DSS 割付] を選択して、確定を押す

≪オートダイヤル≫
メールボックス割付
DSS 割付

4 内線番号を登録する□を押す

≪ DSS 割付≫
F■-〉

↓□

≪ DSS 割付≫
F05〉
未登録

- □のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3 行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

- 同じ操作で、□に登録されている機能を確認することができます。
- 手順 1 ～ 3 の代わりに 保留 → 9 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

5 ファンクション番号を確認または変更して、確定を押す

6 登録する内線番号を入力する

内線番号を入力する代わりに◎で内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
1000

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

7 確定を押す

□に内線 DSS（内線番号）が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

MEMO

- 登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.299）を参照してください。
- DSS のランプ表示の種類は以下のとおりです。

相手内線の状態	ランプの光りかた
待機状態	消灯
登録相手からの着信中	速点滅（赤）
使用中 / 不在設定中	点灯（赤）
受話器を戻し忘れたとき（相手内線がアナログ電話機のときのみ）	間隙速点滅（赤）

オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）

相手先の電話番号を□に登録すると、登録した□を押すだけで登録先に電話をかけることができます。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[オートダイヤル] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
音設定

3 ◎で、[ワンタッチ割付] を選択して、確定を押す

≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
DSS 割付
ﾜﾝﾀｯﾁ割付

4 登録する□を押す

≪ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
F■->

↓□

≪ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
F05>
未登録

- □のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3 行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO
- 同じ操作で、□に登録されている機能を確認することができます。
- 手順 1 ～ 3 の代わりに 保留 → 2 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

5 ファンクション番号を確認または変更して、確定を押す

「ワンタッチ割付」編集メニューが表示されます。

6 ◎で、[TEL NO] を選択して、確定を押す

≪ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
TEL NO>
発信付加情報

7 登録する電話番号を入力する

電話番号は最大 32 桁まで入力できます（0 ～ 9、＊、#）。

≪ TEL NO 指定≫
■

短縮 で特殊コード（-、P、E、[ ]）の入力（切替）が可能です（第 1 章の「相手先の電話番号を入力する」（➡ P.40）を参照）。

8 確定を押す

9 ◎で、番号種別を選択して、確定を押す

[外線]、[特番展開]（主装置に接続されている内線の場合）、[PBX]（構内交換機に接続されている内線 / 専用線の場合）、[方路指定]（方路を指定する場合）から選択します。

≪番号種別≫
外線＊
特番展開

- [方路指定] 以外を選択した場合は、□に電話番号が登録され、「ワンタッチ割付」編集画面に戻ります。発信付加情報を設定する場合は、手順 12 へ進んでください。
- [方路指定] を選択した場合は、手順 10 へ進みます。

10 （[方路指定] を選択した場合）方路番号（00 ～ 63）を指定する

方路番号を入力する代わりに◎で方路番号を順番に検索することができます。

≪方路指定≫
NO>■-

工事設定

方路番号については、販売店にご相談ください。

11 確定を押す

- 発信付加情報の設定が不要の場合は、ここで登録は完了です。
- 発信付加情報を設定する場合は、手順 12 へ進んでください。

つづく➡

12 で、[発信付加情報] を選択して、確定を押す

≪ワンタッチ割付≫
TEL NO>1234567890
発信付加情報

13 で [ACR 利用] を選択して、確定を押す

≪発信付加情報≫
ACR 利用
発番号通知

14 で ACR を利用するかどうかを選択して、確定を押す

≪ ACR 利用≫
利用しない
利用する*

ACR 利用の有無が設定され、「発信付加情報」画面に戻ります 。

15 で [発番号通知] を選択して、確定を押す

≪発信付加情報≫
ACR 利用
発番号通知

16 で発番号の通知設定を指定して、確定を押す

[通知しない]、[通知する]、[網に従う] のいずれかを指定します。

≪発番号通知≫
通知しない
通知する

発番号通知が設定され、「発信付加情報」画面に戻ります。

MEMO

- 登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」(➡ P.299)を参照してください。
- 手順 7 で電話番号の代わりに機能特番を入力して、手順 9 で [特番展開] を選択すると、□に機能特番を登録することができます。使用できる機能特番については、「A-5 機能特番の一覧」(➡ P.424) を参照してください。

オートダイヤルボタンに電話帳を登録する（電話帳ワンタッチ割付）

電話帳にあらかじめ電話番号を登録しておき、登録先の電話帳メモリ番号を□に登録すると、□を押すだけで電話帳に登録された相手先に電話をかけることができます。電話帳に登録されている相手先へワンタッチで電話をかけたい場合は、この機能を使うと便利です。
電話帳への登録や電話帳メモリ番号については、「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、［オートダイヤル］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
音設定

3 ◎で、［電話帳ワンタッチ割付］を選択して、確定を押す

≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
ﾜﾝﾀｯﾁ割付
電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付

4 電話帳メモリ番号を登録する□を押す

≪電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
F■->

↓□

≪電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
F05>
未登録

- □のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO
同じ操作で、□に登録されている機能を確認することができます。

5 ファンクション番号を確認または変更して、確定を押す

「電話帳指定」画面が表示されます。

6 ◎で、［共通電話帳］または［個別電話帳］を選択して、確定を押す

≪電話帳指定≫
共通電話帳
個別電話帳

MEMO
共通電話帳と個別電話帳については「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

7 電話帳メモリ番号（0000 ～ 9999）を入力して電話帳を検索する

- 例えば、0001 のように入力します。
- メモリ番号を入力する代わりに◎で、前候補 / 次候補を表示することもできます。

（メモリ番号 0001 を指定するときの入力例）

≪共ﾒﾓﾘ NO 指定≫
0001
本社

入力したメモリ番号に登録されている名称または電話番号が 3 行目に表示されます。

8 確定を押す

9 検索結果一覧から登録対象を選択して、確定を押す

≪共通電話帳一覧≫
0001：本社
0002: 支社

□に電話帳メモリ番号が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

MEMO
登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.299）を参照してください。

6-5 カールコードレス電話機（CL）の独自機能

カールコードレス電話機（CL）の親機と子機の間で通話を切り替える機能について説明します。

カールコードレス電話機（CL）（親機 / 子機）のメニュー操作について

カールコードレス電話機（CL）では、親機 / 子機の両方でメニュー操作ができます。ただし、一方がメニュー操作中のとき、他方ではメニュー操作ができません。

MEMO

- カールコードレス電話機（CL）（親機）でメニュー操作中の場合、カールコードレス電話機（CL）（子機）のディスプレイには次のように表示されます。

親機ﾒﾆｭｰ操作中

- カールコードレス電話機（CL）（子機）でメニュー操作中の場合、カールコードレス電話機（CL）（親機）のディスプレイには次のように表示されます。

子機ﾒﾆｭｰ操作中

カールコードレス電話機（CL）（子機）から（親機）へ通話を切り替える

カールコードレス電話機（CL）（子機）で通話中（またはスピーカ受話中）のとき、カールコードレス電話機（CL）（親機）での通話に切り替えることができます。

マイク設定がオフのときは、通話相手の声をスピーカから聞くだけでこちらの声は相手に流れませんが、マイク設定がオンのときは、こちらの声が相手に流れます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

親機でハンズフリー通話または親機でスピーカ受話したい場合

■ 子機で通話中の場合の操作

1 子機で、外線または内線通話中

2 親機の（スピーカ）を押す

3 子機を親機に置く

- 親機のスピーカから相手の声が聞こえます。
- マイク設定がオンの場合は親機でハンズフリー通話ができます。
- マイク設定がオフの場合は親機でスピーカ受話状態になります。

■ 子機でスピーカ受話中の場合の操作

1 子機で、スピーカ受話中

2 子機を親機に置く

3 親機の（スピーカ）を押す

- 親機のスピーカから相手の声が聞こえます。
- マイク設定がオンの場合は親機でハンズフリー通話ができます。
- マイク設定がオフの場合は親機でスピーカ受話状態になります。

カールコードレス電話機（CL）（親機）から（子機）へ通話を切り替える

カールコードレス電話機（CL）（親機）でのスピーカ受話の状態から、カールコードレス電話機（CL）（子機）で通話できるように切り替えることができます。

子機で話したい場合

1 **親機で、スピーカ受話中**

2 **（子機を親機に置いている場合）**
子機を親機から上げる
（子機を親機に置いていない場合）
子機の（通話）を押す

子機で相手と通話できるようになります。

MEMO

親機の（スピーカ）を押しても、子機のスピーカには切り替わりません。

6-6 電話のかけかた

外線にかける

電話をかける（外線発信）

外線ボタンを押す場合

1 相手先の電話番号をダイヤルする

2 ランプが消灯している（外線）を押す

相手先が応答したら通話します。

3 通話が終了したら、（切）を押す

（外線）ランプは消灯します。

MEMO

（外線）は初期設定で（　）に登録されています。

工事設定

（フラッシュ）を押して、外線呼出をキャンセルできるように設定することができます。販売店にご相談ください。

自動選局特番を入力する場合

1 （通話）を押す

子機から内線発信音が聞こえます。

2 自動選局特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。
- 子機から外線発信音が聞こえます。

3 相手先の電話番号をダイヤルする

相手先が応答したら通話します。

4 通話が終了したら、（切）を押す

（外線）ランプは消灯します。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

最後にかけた相手に再度かける（リダイヤル）

リダイヤルボタンを押す場合

1 （リダイヤル）を押す

- 子機から外線発信音が聞こえます。
- 最後にかけた電話番号へ自動発信します。

MEMO

この機能を使う前に、リダイヤル機能をあらかじめ に登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）を参照してください。

工事設定

（リダイヤル）、または 短縮 # を押したあと、即時発信ではなく発信先を電話機のディスプレイに表示し、相手の電話番号を確認してから発信するように設定することができます。販売店にご相談ください。

リダイヤル特番を入力する場合

1 通話 を押す

子機から内線発信音が聞こえます。

2 リダイヤル特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 子機から外線発信音が聞こえます。
- 最後にかけた電話番号へ自動発信します。

MEMO

- 発信履歴を利用する場合は、 短縮 # を押します。最後にかけた電話番号へ自動発信します（ 短縮 を押すと、ディスプレイに [#：リダイヤル] と表示されます）。
- サービスメニューで発信履歴を表示して、リダイヤルすることもできます。「サービスメニュー一覧」（➡ P.297）を参照してください。

電話帳から電話をかける（電話帳発信）

電話帳に電話番号や名前を登録しておくことで、電話帳を利用して電話をかけることができます。以下の 2 種類のかけかたがあります。

- 「名前を検索してかける」（➡ P.309）
- 「電話帳メモリ番号を指定してかける」（➡ P.310）

詳細については、第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63）を参照してください。
また、電話帳登録のしかたについては、「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

名前を検索してかける

電話帳に登録されている電話番号を名前で検索（カナ検索）して表示し、電話をかけることができます。

1 **待受画面で、確定を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 **で［電話帳］を選択して、確定を押す**

≪ﾒﾆｭｰ≫
履歴（発信 / 着信）
電話帳

3 **で［番号検索］を選択して、確定を押す**

≪電話帳≫
一覧表示
番号検索

4 **で［共通電話帳］または［個別電話帳］を選択して、確定を押す**

［個別電話帳］を選択した場合は、「内線対象指定」画面が表示されます。内線を指定して、確定を押したあと手順 5 へ進んでください。

≪電話帳指定≫
共通電話帳
個別電話帳

5 **で［カナ検索］を選択して、確定を押す**

≪共-電話帳検索≫
ﾒﾓﾘ NO 検索
ｶﾅ検索

MEMO

手順 1 ～ 5 の代わりに、待受画面で を押して「カナ検索」画面を表示することもできます。

6 **検索する名称の先頭から 1 ～ 5 文字を入力して、確定を押す**

例えば「スズキイチロウ」を「スズキ」でカナ検索する場合

≪共-ｶﾅ検索≫　＜半＞
＜ｽｽﾞｷ▌

MEMO

- カナ入力の方法は、第 1 章の「カナ（半角）の入力方法」（➡ P.25）を参照してください。
- 短縮 を押すたびに文字入力モード（［半角］カナ→英→数）を切り替えることができます。

7 **かけたい相手が選択されていることを確認して、確定を押す**

≪共通電話帳一覧≫
0011:鈴木一郎
0012:田中携帯

MEMO

手順 7 で、確定の代わりに 通話 を押すと、自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。このあとは、手順 10 へ進みます。

8 **で［発信］を選択して、確定を押す**

≪共-電話帳≫ NO:0011
鈴木一郎
発信

- 電話番号が複数（最大 3 件）登録されている場合は、確定を押したあと、電話帳番号選択メニューが表示されます。
- 複数登録されていない場合は、確定を押したあと、「外線発信」の画面が表示され、ダイヤルをはじめます。

つづく➡

9 （番号選択メニューが表示された場合）◎で電話番号を選択して確定を押す

≪共- TEL NO ≫ NO:0011
鈴木一郎
1>0123456789

↓ 確定

外線発信
0123456789
鈴木一郎

- 画面の 2 段目に電話番号、3 段目に相手の名前が表示されます。
- 「外線発信」画面が表示されると同時に、外線とつながり、ダイヤルをはじめます。

10 通話が終了したら、切 を押す

電話帳メモリ番号を指定してかける

電話帳に登録されている電話番号を電話帳メモリ番号で検索して、電話をかけることができます。

1 「名前を検索してかける」（➡ P.309）の手順 1 ～ 4 の操作をする

2 ◎で［メモリ NO 検索］を選択して、確定を押す

≪共-電話帳検索≫
ﾒﾓﾘ NO 検索
ｶﾅ検索

3 検索するメモリ番号をダイヤルして、確定を押す

≪共-ﾒﾓﾘ NO 検索≫
0011
鈴木一郎

MEMO

- 登録済みのメモリ番号を指定すると 3 行目に名称（名称登録されていない場合は電話番号）が表示されます。
- ◎を押すと、次候補 / 前候補を表示します。
- # を押すと、リダイヤルします。

4 かけたい相手が選択されていることを確認して、確定を押す

≪共通電話帳一覧≫
0011:鈴木一郎
0012:田中携帯

MEMO

手順 4 で、確定の代わりに 通話 を押すと、自動的に外線とつながり、ダイヤルをはじめます。

5 以降の操作は、「名前を検索してかける」（➡ P.309）の手順 8 ～ 11 の操作をする

MEMO

- 短縮 ＋電話帳メモリ番号＋ 通話 を押して、すばやく電話をかけることもできます。
  また、内線捕捉状態で、共通電話帳特番＋電話帳メモリ番号を入力して、すばやく電話をかけることもできます。

※電話帳メモリ番号は、共通電話帳のものを使用します。個別電話帳のメモリ番号を使用する場合は、＊ を押して個別電話帳に切り替えてからメモリ番号を入力してください。

オートダイヤル機能を使ってかける（電話帳ワンタッチ / ワンタッチボタン）

（オートダイヤル）に電話番号や電話帳を割り付けておくと、指定した相手の電話番号にワンタッチで発信できます。

1 **（電話帳ワンタッチ）または（ワンタッチボタン）を押す**

相手先が応答したら通話します。

MEMO

この機能を使う前に、あらかじめ（電話帳ワンタッチ）または（ワンタッチボタン）を登録して、に電話帳メモリ番号や電話番号を登録しておきます。登録方法は「オートダイヤルボタンに電話帳を登録する（電話帳ワンタッチ割付）」（➡ P.304）または「オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）」（➡ P.302）を参照してください。

発信履歴 / 着信履歴から電話する（履歴発信）

電話をかけた相手やかかってきた相手の電話番号を日時とともに発信履歴 / 着信履歴として記録することができます。記録した発信履歴や着信履歴の電話番号で、電話をかけることができます。
ただし、着信時は利用する回線で、電話会社が提供する番号表示サービスの契約が必要です。

1 **待受画面で、着信履歴の場合はを、発信履歴の場合はを押す**

履歴が記録されている場合は、電話機のディスプレイに一覧表示されます（内線と外線の履歴は混在して表示されます）。

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯

2 **で、かけたい相手の履歴を選択して、確定を押す**

短縮を押すたびに、一覧表示と詳細表示を切り替えられます。

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
（一覧表示）

短縮

0000:1234567
本社
10 月 24 日（木） PM10:15
（詳細表示）

3 **で［発信］を選択して、確定を押す**

≪発信履歴≫ NO:0000
本社
発信

確定

外線発信
1234567
本社

この画面が表示されると同時に、自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。

4 **通話が終了したら、切を押す**

MEMO

- 着信履歴には、共通着信履歴と個別着信履歴の 2 種類があります。
- 手順 2 で、確定の代わりに通話または（外線）を押すと、手順 3 の操作を行わずにダイヤルすることができます。
- 手順 3 で［184 発信］または［186 発信］を選択すると、発信時に、自分の電話番号を相手に知らせないか（発番号非通知）知らせるか（発番号通知）を選ぶことができます。詳細は第 3 章の「外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える」（➡ P.86）を参照してください。

便利な外線発信機能

外線で会議する（会議通話）

通話中に他の内線 / 外線 / 専用線を音声会議に招集し、最大 4 者間で同時通話することができます。

外線 1 人と内線 2 人で会議する場合

■会議を招集する側

1 外線通話中に（自己保留）を押す

- 保留中は相手に保留音が流れます。
- 通話中だった外線には保留音が流れます。

2 会議に招集する内線番号を入力する

相手応答後、会議することを伝えます。

3 （会議）を押す

三者通話になります。

MEMO

この機能を使う前に、あらかじめ に、（自己保留）と（会議）を登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）を参照してください。

MEMO

会議通話中は会議参加者がディスプレイに表示されます。

```
会議通話          0:01
[20]   L1
```

上記の場合は、内線 20 と外線 1 が会議通話に参加していることを表しています。

■招集される側

1 内線着信音が鳴る

2 通話 を押す

- 相手と通話します。
- 相手が会議操作を行うと会議通話になります。

MEMO

- あらためて別の電話を呼び出して、4 人による会議通話ができます。
- 会議通話している内線の電話を切ると、他に内線の参加者がいる場合は通話がそのまま継続されます。他の参加者が外線 / 専用線のみの場合、すべての通話が終了します。
- 他の参加者が外線または専用線の場合に、招集者のみが会議通話から抜けるには、フラッシュ を押します。

内線にかける

内線番号をダイヤルしてかける（内線発信）

内線を呼び出して通話します。

1 通話 または スピーカ を押す

子機から内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を入力する

相手先が応答したら通話します。

3 通話が終了したら、切 を押す

便利な内線発信機能

続けて別の内線を呼び出す（リセットコール）

内線を呼び出している相手が話中または不応答の場合に別の内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の電話機を呼び出します。

1 通話 または スピーカ を押す

子機から内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を入力する

呼出音または話中音が聞こえます。

3 別の内線番号を入力する

- 呼出音が聞こえます。
- 相手先が応答したら通話します。

4 通話が終了したら、切 を押す

グループ内の内線電話を一斉に呼び出す（内線グループ音声呼出）

内線グループ音声呼出特番＋内線グループ番号を押すことにより、グループ別（または一斉）に音声呼び出しができます。内線グループ音声呼出応答特番＋内線グループ番号を押して応答します。

工事設定

グループ番号については、販売店にお問い合わせください。

呼び出す側

1 **通話 を押す**

子機から内線発信音が聞こえます。

2 **内線グループ音声呼出特番を押す**

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

3 **内線グループ番号（000 ～ 127）を押す**

指定したグループに所属する内線電話が一斉に呼び出されます。初期設定では、グループ番号 000 には、すべての内線電話が登録されています（ ＊ を押しても一斉に呼び出せます）。

4 **相手に呼びかける**

相手が応答したら、通話ができる状態になります。

MEMO

グループ音声呼出される内線は、そのグループ内の待受状態の内線です。ただしマルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）、SIP 電話機、アナログ電話機を呼び出すことはできません。

応答する側

1 **スピーカから呼び出す音声が聞こえる**

音声呼出予告音が鳴ってから、声が聞こえます。

2 **通話 を押す**

- スピーカからの音声は聞こえなくなります。
- 子機から内線発信音が聞こえます。

3 **内線グループ音声呼出応答特番を押す**

特番の初期設定については「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

4 **内線グループ番号（3 桁）を入力する**

- 呼び出されているグループ番号がディスプレイに表示されます。
- 呼び出されているグループの番号を入力します。
- 通話ができる状態になります。

5 **通話が終了したら、切 を押す**

構内放送する（構内放送呼出）

構内放送で個別または一斉に呼び出します。電話機から応答することができます。

構内放送で呼び出す

1 **通話 を押す**

子機から内線発信音が聞こえます。

2 **外部スピーカ呼出特番と 0 ～ 6 のいずれかを押す**

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 0 ：一斉
  1 ～ 6 ：放送装置（外部スピーカ）番号
  （S タイプ主装置の場合、 1 ～ 2 ）
- チャイム音が流れます。

3 **放送する**

MEMO

構内放送中はディスプレイに次のように表示されます。外部スピーカの名称が登録されている場合には、例のように 3 行目に表示されます。

```
放送呼出
  外部ｽﾋﾟｰｶ1
1Fフロア
```

呼び出しに応答する

1 **外部スピーカから音声が聞こえる**

2 **通話 を押す**

子機から内線発信音が聞こえます。

3 **外部スピーカ応答特番と 0 ～ 6 のいずれかを押す**

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 0 ：一斉
  1 ～ 6 ：放送装置（外部スピーカ）番号
  （S タイプ主装置の場合、 1 ～ 2 ）
- 相手と通話できるようになり、外部スピーカからの音声が聞こえなくなります。

工事設定

放送呼出特番、放送呼出応答特番は初期値が設定されています。変更したい場合は、販売店にご相談ください。

ドアホンを呼び出す（ドアホン呼出）

電話機からドアホンを音声で呼び出すことができます。また呼び出したあと、マイクがオフの場合にはドアホンの周辺音をモニタすることができます。

ドアホンアクセス特番による操作

1 **通話 を押す**

子機から内線発信音が聞こえます。

2 **ドアホンアクセス特番を押す**

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

3 **ドアホン番号を押す**

- ドアホン番号には、ア 1 ～ ラ WXYZ 9（M/L タイプ主装置の場合）、または ア 1 ～ サ DEF 3（S タイプ主装置の場合）のいずれかを入力します。
- ドアホンと通話できます。
- スピーカ を押すと、ドアホン周辺の音をモニタできます。

ドアホンボタンによる操作

1 **通話 を押す**

子機から内線発信音が聞こえます。

2 **□（ドアホン＋ドアホン番号）を押す**

- ドアホンと通話できます。
- スピーカ を押すと、ドアホン周辺の音をモニタできます。

工事設定

□（ドアホン＋ドアホン番号）はあらかじめ □ に登録しておきます。登録については、販売店にご相談ください。ドアホン番号は、M/L タイプ主装置の場合は、1 ～ 9、S タイプ主装置の場合は 1 ～ 3 を登録できます。

MEMO

カールコードレス電話機（CL）の親機がスピーカ受話（オンフック）状態でドアホン呼出操作をすると、ドアホンからの受話ができ、内線からの送話はできません。子機を上げれば、ドアホンと通話できます。スピーカ受話状態のときにマイクが ON になっている場合、ドアホンとハンズフリー通話できます。工事設定が必要です。

6-7 電話の受けかた

外線を受ける

外線ボタンを押して受ける（任意外線着信応答）

1 **着信音が鳴る**

外線着信音が鳴ります。

2 **点滅している（外線）を押す**

- 通話ができる状態になります。
- 点滅していたランプは、点灯（緑）に変わります。

3 **通話が終了したら、（切）を押す**

（外線）ランプは消灯します。

MEMO

（外線）は初期設定で（　）に登録されています。

通話ボタンを押して受ける

1 **着信音が鳴る**

外線着信音が鳴ります。

2 **（通話）を押す**

外線相手と通話します。

3 **通話が終了したら、（切）を押す**

内線を受ける

1 **着信音が鳴る**

内線着信音が鳴ります。

2 **（通話）または（スピーカ）を押す**

通話ができる状態になります。

3 **通話が終了したら、（切）を押す**

便利な内線受信機能

代理応答グループ内の別の電話を受ける（代理応答）

内線が所属する代理応答グループ内の別の電話機にかかってきた着信を受けることができます。

1 他の内線の着信音が鳴る

内線着信音が鳴ります。

2 （代理応答）を押す

- （代理応答）の代わりに、通話＋代理応答特番を押しても電話を受けられます。
- 通話ができる状態になります。

3 通話が終了したら、切を押す

MEMO

- （代理応答）は、あらかじめに登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）、および「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」（➡ P.427）を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 代理応答グループ設定で、内線ごとにどの代理応答グループに属するかを設定します。内線は、1 つの代理応答グループにのみ登録できます。

他の代理応答グループの電話を受ける（グループ指定代理応答）

グループ指定代理応答特番と代理応答グループ番号を押すことにより、自分の内線が所属していない代理応答グループの着信にも応答することができます。

工事設定

本機能を利用するには、他グループ代理応答許容を「許容」に設定する必要があります。販売店にご相談ください。

1 他の内線の着信音が鳴る

内線着信音が鳴ります。

2 （指定代理応答）を押す

（指定代理応答）の代わりに、通話＋グループ指定代理応答特番を押すこともできます。

3 着信中のグループ番号（2 桁）を入力して、確定を押す

- グループ番号は、00 ～ 99 の番号です。
- ＊を押すと全グループ、＃を押すと同じグループへの着信を代理応答することができます。
- 通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら、切を押す

MEMO

- （指定代理応答）は、あらかじめに登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）、および「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」（➡ P.427）を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

ドアホンからの呼び出しで通話する（ドアホン着信）

ドアホンからの呼び出しに電話機で応答することができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 ドアホン着信音が鳴る

- 子機のスピーカからドアホン着信音（チャイム音）が鳴ります。
- ◯（ドアホン）ランプが点滅（赤）します。

MEMO

- 待機中にドアホンに着信した場合は、ドアホンチャイム音またはメロディ音が鳴ります。
- 通話中にドアホンに着信すると、子機の受話口からドアホン着信の音と似た音が聞こえます。

2 通話 を押すか、または点滅（赤）している ◯（ドアホン）を押す

- ◯（ドアホン）ランプが点灯（緑）します。
- ドアホンと通話できます。
- ドアホン着信音が鳴り始めてから約 25 秒以内に応答してください（約 25 秒以上経過すると応答することができません）。

3 通話が終了したら、切 を押す

工事設定

◯（ドアホン＋ドアホン番号）はあらかじめ◯に登録しておきます。登録については、販売店にご相談ください。ドアホン番号は、M/L タイプ主装置の場合は、1 ～ 9、S タイプ主装置の場合は 1 ～ 3 を登録できます。

6-8 保留のしかた

通話相手に一時お待ちいただく場合は、保留機能を使用します。保留には、以下のような 4 つの種類があります。状況に応じて使い分けてください。詳細については、「2-5 通話を保留する」(➡ P.74)を参照してください。

- システム保留
  システム内の他の電話機からでも再応答(保留解除)できるように保留します。
- 自己保留
  保留したのと同じ電話機からのみ再応答(保留解除)することができます。
- パーク保留
  パークグループ内の他の電話機からでも再応答(保留解除)できるように保留します。
- 一時保留
  外線ボタン、パークボタン、自己保留ボタンが割り付けられていない電話機で保留操作を行うと、一時保留状態になります。一時保留の場合は、内線捕捉中メニューから「自己保留再応答」を選択、またはいったん受話器を置いたあとの呼び返しに応答することで再応答(保留解除)することができます。

システム保留

システム内の他の電話機でも再応答できるように保留する(システム保留)

外線 / 専用線 /MSA(➡ P.414)それぞれの通話中に 保留 を押すことにより、通話を保留します。保留操作をした内線以外のシステム内の他の電話機からも保留した通話に再応答することができます。
内線での通話中は、この操作では保留できません。パーク保留で保留してください(➡ P.322)。

通話をシステム保留する

1 外線通話中の相手に保留することを伝える

2 保留 を押す

- 子機は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。外線を保留した場合は、その ▢ (外線) ランプが点滅(緑)し、他の電話機は点滅(赤)します。

3 切 を押す

保留したのと同じ電話機で再応答する

1 点滅(緑)している ▢ (外線)を押す

- 通話ができる状態になります。
- 点滅していたランプは、点灯(緑)に変わります。

2 通話が終了したら、切 を押す

▢ (外線) ランプは消灯します。

MEMO
保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、▢ (外線) ランプを速い点滅にして知らせます(長時間保留警報)。

他の電話機で保留を再応答する

1 点滅(赤)している ▢ (外線)を押す

- 通話ができる状態になります。
- 点滅していたランプは、点灯(緑)に変わります。

2 通話が終了したら、切 を押す

▢ (外線) ランプは消灯します。

自己保留

他の電話機では再応答できないように保留する（自己保留）

通話中に（自己保留）を押すことにより、通話を保留できます。保留に対して再応答できるのは、自己保留した内線からのみです。

通話を自己保留する

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 （自己保留）を押す

- 子機は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- （自己保留）ランプは中点滅（緑）します。

3 （切）を押す

MEMO

- コードレス電話機（WSd）の初期割り付けでは、（自己保留）は右上の（8 番）に登録されています。
- カールコードレス電話機（CL）（子機）には、初期割り付けされていませんので、自己保留機能をあらかじめに登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）を参照してください。
- 保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、（自己保留）ランプを間隙速点滅（緑）にして知らせます。

自己保留ボタンで再応答する

1 点滅（緑）している（自己保留）を押す

- 通話ができる状態に戻ります。
- （自己保留）ランプは消灯します。

2 通話が終了したら、（切）を押す

パーク保留

パークグループ内の他の電話機でも再応答できるように保留する（パーク保留）

通話中に（パーク保留）を押すことにより、通話を保留できます。保留操作をした内線以外からも保留に対して再度応答することができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

通話をパーク保留する（パーク保留ボタン）

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 （パーク）を押す

- 子機は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- （パーク）ランプは点滅（緑）します。また、他の電話機の（パーク）ランプは点滅（赤）します。

3 切 を押す

MEMO

この機能を使う前に、パーク保留機能をあらかじめに登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）を参照してください。

保留したのと同じ電話機で再応答する（パーク保留ボタン）

1 点滅（緑）している（パーク）を押す

- 通話ができる状態になります。
- （パーク）ランプは消灯します。

2 通話が終了したら、切 を押す

MEMO

保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、（パーク）ランプを速い点滅にして知らせます（長時間保留警報）。

他の電話機で保留を再応答する（パーク保留ボタン）

1 点滅（赤）している（パーク）を押す

- 通話ができる状態になります。
- （パーク）ランプは消灯します。

2 通話が終了したら、切 を押す

MEMO

同じ番号の（パーク）がに割り付けられた電話機どうしでパーク保留を共有できます。課内、グループなど共有したいグループ単位で同一のパーク番号を割り付けることで効果的に運用できます。

通話をパーク保留する（パーク保留 / 応答特番）

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 （自己保留）を押す

3 パーク保留 / 応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

4 パークトランク番号を 3 桁で入力する

- パークトランク 5 の場合は、0 0 5 を入力します。
- 子機は内線発信音に変わります。
- パークトランク 5 にパーク保留され、（パーク 5）ランプが中点滅（緑）します。また、他の電話機の（パーク 5）ランプは点滅（赤）します。
- 保留中は相手に保留音が流れます。

MEMO

パークトランクはシステムで 128 個あります。

5 切 を押す

再応答する（パーク保留 / 応答特番）

1 通話 を押す

子機から内線発信音が聞こえます。

2 パーク保留 / 応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

3 パークトランク番号を 3 桁で入力する

保留したときと同じパークトランク番号を入力します。上の保留時の例では、パークトランク 5 なので、0 0 5 を入力します。

- （パーク 5）ランプが消灯します。
- パーク保留されていた相手と通話できます。

4 通話が終了したら、切 を押す

MEMO

保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、（パーク 5）ランプを速い点滅にして知らせます（長時間保留警報）。

6-9 転送のしかた

通話を手動で転送する方法について説明します。詳細については、「2-6 通話を転送する（手動転送）」（➡ P.77）を参照してください。

ダイヤル転送

現在通話中の相手を内線通話後に転送する（ダイヤル転送）

転送先の電話番号をダイヤルして、相手が応答してから転送します。

転送する側の操作

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 （保留）を押す

- 子機は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- （外線）ランプは点滅（緑）に変わります。

> **MEMO**
> 手順 2 で（保留）の代わりに（自己保留）を使用することもできます。

3 転送先の電話番号をダイヤルする

- 転送先が外線の場合は、（外線）を押したあと、電話番号をダイヤルします。
- 転送先が応答します。

4 転送先に用件を伝える

例えば、「･･･から電話が入っています」と伝えます。

5 （フラッシュ）を押す

- 通話が転送されます。
- 転送した外線の（外線）ランプは点灯（赤）に変わります。

6 （切）を押す

> **MEMO**
> - 転送先が電話に出なかったときは、保留応答と同じ操作（➡ P.320 または P.321）で、再度元の相手と通話できます。
> - 設定によっては、手順 5 で（切）を押して転送することもできます。初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。

転送される側の操作

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 （通話）を押す

- 転送する側と通話します。
- 転送する側が転送操作をすると、自動的に転送されます。

3 転送された相手と通話する

4 通話が終了したら、（切）を押す

口頭転送

システム保留 / パーク保留した外線を転送する（口頭転送）

外線を保留してから転送先に呼びかけます。転送先は内線電話のみです。保留中の外線番号やパーク番号を口頭で伝えて、通話を転送します。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

転送する側の操作

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 （保留）を押す

- 受話口からの音が内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- 保留した（外線）ランプまたは（パーク）ランプは、点滅（緑）します。

3 転送先に呼びかける

例えば、「田中さん、5 番にお電話です。」と呼びかけます。

4 （切）を押す

MEMO

- 転送先が一定時間内に応答しない場合は、スピーカから警告音が鳴ります。この場合は、点滅している（外線）または（パーク）を押すと、保留が解除され相手との通話に戻ることができます。
- 手順 2 で、（保留）の代わりに（パーク）を押して転送することもできます。その場合は、口頭で転送先にパーク番号を伝えてください。
- 内線通話はシステム保留できません。内線通話を口頭転送する場合は、パーク保留を利用してください。

転送される側の操作

1 呼びかけられた人が（通話）を押す

子機から内線発信音が聞こえます。

2 点滅している（外線）または（パーク）を押す

- この場合は、呼ばれた田中さんは（外線）または（パーク）を押します。
- 通話ができる状態になります。
- （外線）ランプは点灯（緑）に変わります。
- （パーク）ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、（切）を押す

（外線）ランプは消灯します。

不在転送の設定

不在転送の設定をする

外線 / 専用線または内線からの個別着信時に不在転送が設定されていると、あらかじめ設定した不在転送先に転送することができます。

不在転送先の設定については、第 3 章の「不在時にかかってきた電話を転送する（不在転送）」（➡ P.113）または『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

MEMO

転送先をメールボックスにすると、ガイダンス応答（代行）することができます。

不在ボタンで設定する場合

1 待受状態で、（不在）を押す

「不在理由選択」画面が表示されます。

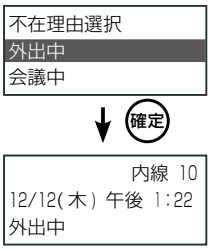
2 で不在理由を選択して、確定を押す

- 不在理由を以下の 9 つから選択します。

  選択できる不在理由は以下のとおりです（初期設定の場合）。

  外出中、会議中、来客中、食事中、出張中、休暇中、帰宅、直帰、直行直帰

- 登録完了音が鳴り、不在転送が設定されます。
- ディスプレイの 3 行目に不在理由が表示されます。不在理由を設定していない場合は、「不在」が表示されます。



MEMO

- この機能を使う前に、あらかじめ に（不在）を登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）を参照してください。
- 不在理由の名称は編集することができます（テナントごと）。編集は、多機能電話機で行ってください。
- 不在転送の設定を解除するには、待受状態で、点灯（赤）している（不在）を押します。

不在ボタンでフォロミー設定する場合

自分の席の電話機にかかってくる内線着信を、移動先の内線に転送するように登録することができます（フォロミー）。フォロミー操作を行うと、自分の席の電話機が不在 ON に設定されます。フォロミー操作は、移動先の内線電話機から行います。

以下の操作説明では、自分の内線番号は 10、移動先の内線番号は 11 として説明します。

1 移動先の内線電話機（例：内線 11）で、（不在）を押す

「不在理由選択」画面が表示されます。

2 ＊を押す

「内線対象指定」画面が表示されます。

3 自身の内線番号を入力（例：内線 10）して、確定を押す

- 登録完了音が鳴り、内線 10 から内線 11 へのフォロミーが設定されます。
- 内線 10 のディスプレイの 3 行目に不在理由が表示されます。
- 内線 11 は待受状態になります。

MEMO

この機能は、移動先の内線からのみ設定できます。

チェンジオーバー

内線 / 外線 / 専用線との通話中、電話をかけてきた人と、転送先（取次ぎ先）の人と交互に通話することができます。

MEMO

この機能を使う前に、（自己保留）をあらかじめに登録してください。チェンジオーバー機能を使用する場合は、付加情報（動作指定）として、「チェンジオーバー」を選択してください。オートダイヤルボタンの登録方法および付加情報については、「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.298）および「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」（➡ P.427）を参照してください。

かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する（チェンジオーバー）

チェンジオーバーを使用するときは、通話をまず自己保留（一時保留）した状態で、他の相手（取次ぎ先）と通話を開始します。（自己保留）を押すことで双方の相手と交互に切り替えて話すことができます。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 （自己保留）を押す

- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 取次ぎ先の電話番号をダイヤルする

- 取次ぎ先が外線の場合は、（外線）を押したあと、電話番号をダイヤルします。
- 取次ぎ先が応答します。

4 取次ぎ先に用件を伝える

例えば、「･･･から電話が入っています」と伝えます。

5 （自己保留）を押して、かかってきた相手と再び通話する

例えば、「申し訳ありません。・・・はただ今、電話に出ることができません。ご用件をお聞かせください。」と伝えます。ご用件を伺ったあと、再度待っていただくよう伝えます。

6 （自己保留）を押して、取次ぎ先との通話を再開して用件を伝える

- 保留の相手には、保留音が流れます。
- 以降も（自己保留）を押す操作を繰り返すことで、取次ぎ先とかかってきた相手と交互に通話ができます。

7 かかってきた相手と取次ぎ先で話してもらう場合は、（フラッシュ）を押す

かかってきた相手と取次ぎ先がつながります（転送）。

8 （切）を押す

MEMO

取次ぎ先が電話に出なかったときは、（自己保留）を押すと、再度元の相手と通話することができます。

取次ぎ先の人の操作

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 （通話）を押して用件を聞く

3 例えば、発信元にどのような用件か聞いて欲しいと返答する

電話を受けた人が（自己保留）を押すと、保留音が流れます。

4 保留が解除され、電話がつながるので、用件を聞く

電話を受けた人が（フラッシュ）を押すと、かかってきた相手（発信元）と自動的につながります（転送）。

5 発信元と通話する

6 通話が終了したら、（切）を押す

第 7 章　アナログ電話機編

7-1 アナログ電話機の利用 …… 330
7-2 電話のかけかた …… 334
7-3 電話の受けかた …… 338
7-4 保留のしかた …… 341
7-5 転送のしかた …… 343

7-1 アナログ電話機の利用

アナログ電話機を利用する

このシステムでアナログ電話機や FAX を利用する場合、アナログ電話機接続回路や単独電話増設パッケージを介してアナログ電話機を接続します。

工事設定

- 内線で利用できるアナログ電話機の台数は、主装置のタイプによって異なります。販売店にご相談ください。
- アナログ電話機の接続時には、ダイヤル種別（パルス式 / プッシュ式）の設定が必要です。
  また、着信種別ごとの着信音の設定や、ファクシミリやナンバーディスプレイ対応機種の使用設定など、使用環境に合わせた設定もできます。詳しくは、販売店にご相談ください。

アナログ電話機の基本操作

アナログ電話機で利用できる機能のほとんどは、フッキングと特番ダイヤルの組み合わせで操作できます。

フッキング操作について

通話中に電話機のフックスイッチを「ポンッ」と押すことをフッキング操作と呼びます。
アナログ電話機では、通話の保留時や、さまざまな機能の利用開始時にフッキング操作を行います。

MEMO

アナログ電話機によっては、フッキング専用のボタンがあります。

フッキング操作のときに長くフックスイッチを押していると、電話が切れたり（転送のときなど）、呼び返しで着信音が鳴ったり（保留操作のときなど）しますので、ご注意ください。

特番ダイヤルについて

アナログ電話機で利用できる特番は以下のとおりです。特番の初期設定の値や付加情報については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

- 自動選局
- リダイヤル
- 共通電話帳
- パーク保留 / 応答
- 代理応答
- グループ指定代理応答
- 不在
- FAX 転送
- フックフラッシュ送出
- 会議
- 外線転送
- 内線グループ音声呼出
- 外部スピーカ呼出
- 外部スピーカ応答
- 夜間切替
- 留守切替
- ドアロックリリース
- （W 機能）外線自動転送＆留守番
- （W 機能）外線自動転送 & 手動夜間設定
- （W 機能）留守番＆手動夜間設定
- 不在転送登録

アナログ電話機特有の機能について

アナログ電話機接続回路や単独電話増設ポートまたはパッケージを介してアナログ電話機を接続することで、アナログ電話機特有の機能（ナンバーディスプレイ機能、切断信号の送出機能）が利用できるようになります。

ナンバーディスプレイについて

ナンバーディスプレイ対応のアナログ電話機を接続すると、外線から電話をかけてきた相手の電話番号をディスプレイで確認できます。

工事設定

ナンバーディスプレイ機能を利用するには、工事設定が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

ナンバーディスプレイを使用する設定にしているとき、ナンバーディスプレイに対応していないアナログ電話機を接続すると、一次着信音が約 6 秒間鳴ってから通常の着信音が鳴ります。

切断信号の送出について

アナログ電話機で着信に応答した場合や、アナログ電話機から電話をかけた場合に、通話相手が先に電話を切ると、相手が電話を切ったことが信号により通知されます。この信号を受けると、アナログ電話機側には話中音が聞こえます。

ファクシミリを利用する

アナログ電話機接続回路や単独電話増設パッケージにファクシミリを接続し、ファクシミリを利用することができます。FAX 着信が入ると、自動または手動で FAX を受信できます。

このシステムには、以下のファクシミリ機能が用意されています。

- 「FAX を自動受信する（TEL/FAX 自動切替）」（➡ P.332）
- 「転送先ファクシミリを指定する（FAX 転送先指定）」（➡ P.332）
- 「FAX 着信を手動で転送する」（➡ P.333）

工事設定

- システム内で利用できるファクシミリの台数は、主装置のタイプによって異なります。販売店にご相談ください。
- ファクシミリ機能を利用するには、FAX の受信方法（自動 / 手動）や転送先ファクシミリなど、各種設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
- ナンバーディスプレイ設定時に、ナンバーディスプレイ対応のファクシミリを接続すると、アナログ電話機と同様にナンバーディスプレイ機能を利用できます。詳しくは、販売店にご相談ください。

MEMO

FAX 送信など、ファクシミリ独自の操作については、ファクシミリに付属している取扱説明書を参照してください。

FAX を自動受信する（TEL/FAX 自動切替）

TEL/FAX 自動切替で、FAX 着信を自動検出するように設定することで、FAX 着信が入ると、自動的にファクシミリで受信できるようになります。

転送先ファクシミリを指定する（FAX 転送先指定）

テナント（➡ P.416）ごとに FAX 着信の転送先を指定することができます。FAX 着信が入ると、あらかじめ設定された着信方法（TEL/FAX 自動切替）に従って、転送先ファクシミリに FAX 着信を転送することができます。

FAX 着信を手動で転送する

TEL/FAX 自動切替で FAX 着信を自動検出しないように設定した場合、FAX 着信に応答し、手動で転送することができます。以下の 2 通りの方法で FAX を転送できます。

- 「FAX 着信に応答して転送する（オンフック FAX 転送）」（➡ P.333）
- 「FAX 着信を保留してから転送する（FAX 転送特番）」（➡ P.333）

FAX 着信に応答して転送する（オンフック FAX 転送）

オンフック FAX 転送を設定すると、FAX 着信に応答したあと、一定時間内に受話器を置く（オンフックする）ことで、あらかじめ指定してある自分のテナント内のファクシミリへ FAX を転送することができます。

工事設定

オンフック FAX 転送の設定については、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

FAX 着信音が聞こえます。

2 受話器を置く

指定したファクシミリへ転送されます。

MEMO

オンフックによる FAX 転送中は、相手に対して保留音が流れます。

FAX 着信を保留してから転送する（FAX 転送特番）

着信応答したあとに保留して、FAX 転送特番を押すことにより、あらかじめ指定してある自分のテナント内のファクシミリへ FAX を転送することができます。

1 受話器を上げる

FAX 着信音が聞こえます。

2 フッキング操作をする

- 保留状態となり、受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 FAX 転送特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 指定したファクシミリに転送されます。

4 受話器を置く

7-2 電話のかけかた

外線にかける

受話器を上げて電話をかける（自動選局発信）

外線に電話をかけます。

1 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 自動選局特番（例えば［0］）を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 外線とつながり、外線発信音に変わります。

3 相手先の電話番号をダイヤルする

相手先が応答したら通話します。

4 通話が終了したら、受話器を置く

最後にかけた相手に再度かける（リダイヤル）

1 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 リダイヤル特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 相手先が応答したら通話します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

受話器を上げてダイヤルするだけでかける（オフフック自動外線捕捉）

受話器を上げてダイヤルするだけで、外線に電話をかけることができます。

1 受話器を上げる

外線とつながり、外線発信音に変わります。

2 相手先の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話できます。

3 通話が終了したら、受話器を置く

工事設定

この機能を使用するには、あらかじめオフフック自動ダイヤル番号に自動選局特番（例えば［0］）を登録しておく必要があります。販売店にご相談ください。

便利な外線発信機能を利用する

電話帳メモリ番号から電話をかける（電話帳発信）

電話帳に登録された電話帳メモリ番号から電話をかけることができます。

1 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 共通電話帳特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 電話帳メモリ番号を入力する

- 例えば、0002 のように入力します。
- 相手先が応答したら通話します。

4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO
- 個別電話帳を使用する場合は、手順 2 で個別電話帳特番を押してください。個別電話帳特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 電話帳メモリ番号や共通電話帳、個別電話帳についての詳細は、「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

外線で会議する（会議通話）

通話中に他の内線 / 外線 / 専用線を音声会議に招集し、最大 4 者間で同時通話することができます。

外線と通話中に会議を招集する

1 外線通話中

2 フッキング操作をする

- 保留状態となり、受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 会議特番を押す

会議特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

4 会議に参加させる内線番号をダイヤルする

相手先が応答したら通話します。

5 フッキング操作をする

会議通話になります。

MEMO
- 他の内線を会議に加える場合は、手順 2 ～ 5 を繰り返します。
- 外線 4 人の会議通話はできません。

招集された会議に参加する

1 招集された内線の着信音が鳴る

2 受話器を上げる

- 内線相手と通話します。
- 内線相手がフッキング操作を行うと会議通話になります。

内線にかける

内線番号をダイヤルしてかける（内線発信）

内線を呼び出して通話します。

1 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を入力する

相手先が応答したら通話します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

工事設定

内線を利用するには、ダイヤル種別（パルス式 / プッシュ式指定）の設定が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

便利な内線発信機能を利用する

グループ内の内線電話を一斉に呼び出す（内線グループ音声呼出）

アナログ電話機からグループ内のすべての内線を音声で一斉に呼び出すことができます。

1 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 内線グループ音声呼出特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 内線グループ番号（000 ～ 127）を押す

MEMO

グループ内にアナログ電話機、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）、SIP 電話機が含まれる場合、これらの電話機は内線グループ呼出の対象外となります。

構内放送する（構内放送呼出）

構内放送装置を接続し、構内放送で外部スピーカを個別または一斉に呼び出すことができます。構内放送装置は 6 台（S タイプ主装置では 2 台）まで接続できます。

工事設定

構内放送装置の接続については、販売店にご相談ください。

構内放送で呼び出す

電話機からの操作で、構内放送から呼び出しを行います。

1 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 外部スピーカ呼出特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 放送装置番号を押す

- [0]：一斉放送
- [1]～[6]：放送装置番号
  （S タイプ主装置の場合は、[1]～[2]）
- チャイム音が聞こえます。

4 受話器で呼びかける

例えば「○○さん」と呼びかけると、構内放送のスピーカから呼びかけた声が流れます。

相手が応答すると通話することもできます。

5 放送を終わるときは受話器を置く

呼び出しに応答する

構内放送の呼び出しを電話機から受けることができます。

1 構内放送による呼び出しがあったら、受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 外部スピーカ応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 放送装置番号を押す

- [1]～[6]：放送装置番号
  （S タイプ主装置の場合は、[1]～[2]）
- 構内放送した相手とつながり、通話することができます。
- 一斉放送に応答する場合は、[0]～[6]（S タイプ主装置の場合は、[0]～[2]）のいずれかで応答できます。

4 通話が終了したら受話器を置く

7-3 電話の受けかた

外線を受ける

受話器を上げて外線を受ける

受話器を上げるだけで外線着信に応答できます。

1 着信音が鳴る

2 受話器を上げる

外線相手と通話します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

内線を受ける

受話器を上げて内線を受ける

自分にかかってきた内線着信は、受話器を上げるだけで応答できます。

1 着信音が鳴る

2 受話器を上げる

内線相手と通話します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

便利な受信機能を利用する

代理応答グループ内の他の電話を受ける（代理応答）

所属する代理応答グループ内の他の内線にかかってきた着信を受けることができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 代理応答グループ内の他の内線に着信が入る

2 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

3 代理応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

4 通話をする

5 通話が終了したら、受話器を置く

他の代理応答グループの電話を受ける（グループ指定代理応答）

自分の内線が所属していない他の代理応答グループの着信にも応答できます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 他の代理応答グループの内線に着信が入る

2 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

3 グループ指定代理応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

4 代理応答グループ番号（00 ～ 99）を押す

代理応答グループ番号の代わりに以下を押しても応答できます。

- ＊：全グループの着信が対象
- ＃：自分の所属するグループ内に限定

MEMO

ダイヤル種別がパルス方式の場合、＊、＃は入力できません。

5 通話をする

6 通話が終了したら、受話器を置く

通話中に他の電話を受ける（キャッチホン）

外線通話中に他の着信が入ったときに、通話を保留して着信に応答することができます。
また、フッキング操作＋フックフラッシュ送出特番を押すことにより通話相手を切り替えることができます。

工事設定

キャッチホンを利用するには、NTT とのキャッチホン契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

1 外線との通話中

キャッチホン音が聞こえます。

2 相手に待ってもらうように伝えて、フッキング操作をする

- 保留状態となり、受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 フックフラッシュ送出特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

4 割り込みの相手と通話する

5 割り込みの相手との通話が終わったら、再度、フッキング操作のあと、フックフラッシュ送出特番を押す

6 元の相手と通話する

ドアホンからの呼び出しに応答する（ドアホン着信）

ドアホンからの呼び出しに電話機から応答できます。

工事設定

ドアホンの接続については、販売店にご相談ください。

1 ドアホンの着信音が鳴る

ドアホンのチャイムが聞こえます。

2 受話器を上げる

- ドアホンと通話することができます。
- ドアホン着信音が鳴り始めてから約 25 秒以内に受話器を上げてください（約 25 秒以上経過すると応答することができません）。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

ドアホンについては、第 4 章の「ドアホンとの接続」（➡P.202）を参照してください。

7-4 保留のしかた

電話を一時的に保留する

外線 / 内線を保留する（一時保留）

アナログ電話機では、フッキング操作（➡ P.331）により通話を一時的に保留することができます。一時保留中にフッキング操作を行うと通話に戻ることができます。

通話を保留する

1 外線または内線通話中

2 フッキング操作をする

- 保留状態となり、受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

MEMO

受話器を置くと、呼び返しがあり、元の通話に戻ります。

通話に戻る

1 保留した電話機で、フッキング操作をする

外線相手と再通話することができます。

パーク保留機能を利用する

外線 / 内線を保留する(パーク保留)

パーク保留とは、外線または内線通話を保留し、別の電話機から再通話できる機能です。
パーク保留を行うと、保留した通話があらかじめ用意されている共通領域(パークトランク)に転送されます。任意の電話機から転送先のパークトランクを指定することにより、保留されている通話に戻ることができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

パーク保留する

1 外線または内線通話中

2 フッキング操作をする

- 保留状態となり、受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 パーク保留 / 応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡P.418)を参照してください。

4 パークトランク番号(000 ～ 127)を押す

5 受話器を置く

再通話する

1 他のアナログ電話機で、受話器を上げる

2 パーク保留 / 応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡P.418)を参照してください。

3 パーク保留されているパークトランク番号を押す

- 保留したときと同じパークトランク番号を押します。
- パーク保留されていた相手と通話できます。

7-5 転送のしかた

電話を転送する

転送先と通話してから転送する（ダイヤル転送）

転送先の電話番号をダイヤルして、通話してから転送します。

転送する側

1 外線または内線通話中

通話中の相手に転送することを伝えます。

2 フッキング操作をする

- 保留状態となり、受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 転送先の電話番号をダイヤルする

- 外線に転送する場合は、外線発信の特番（自動選局特番など）を押します。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

- 転送相手が応答したら、用件を伝えます。
  例：「○○○さんから電話です。」

4 受話器を置く

通話が自動的に転送されます。

転送される側

1 着信音が鳴る

2 受話器を上げる

- 転送する側と通話します。
- 相手が電話を切ると、通話が自動的に転送されます。

電話を強制的に転送する

内線通話をしないで直接外線を転送する（強制転送）

外線を保留して内線通話で転送先に転送することを伝えずに転送します。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

転送する側

1 外線通話中

通話中の相手に転送することを伝えます。

2 フッキング操作をする

- 保留状態となり、受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 転送先の内線番号をダイヤルする

4 転送先が応答する前に、受話器を置く

外線が自動的に転送されます。

転送される側

1 着信音が鳴る

2 受話器を上げる

外線が自動的に転送され、外線相手と通話できます。

不在転送を利用する

不在転送の設定をする

外線 / 専用線または内線からの個別着信時に不在転送が設定されていると、あらかじめ設定されている不在転送先に転送することができます。

不在転送先の設定については、第 3 章の「不在時にかかってきた電話を転送する（不在転送）」（➡ P.113）または『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

不在転送を設定する

1 **受話器を上げる**

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 **不在特番を押す**

不在特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 **不在理由を指定する**

- 不在理由の番号 1 ～ 9 のいずれかを入力します。
- 登録完了音が鳴り、不在転送が設定されます。

MEMO

選択できる不在理由は以下のとおりです。

0：解除、1：外出中、2：会議中、3：来客中、4：食事中、
5：出張中、6：休暇中、7：帰宅、8：直帰、
9：直行直帰

不在転送を解除する

1 **受話器を上げる**

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 **不在特番を押す**

不在特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

3 **不在解除番号 [0] を押す**

登録完了音が鳴り、不在転送が解除されます。

チェンジオーバー機能を利用する

内線 / 外線 / 専用線との通話中、電話をかけてきた人と、転送先（取次ぎ先）の人と交互に通話することができます。

工事設定

この機能を使用するには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する（チェンジオーバー）

チェンジオーバーを使用するときは、通話をまずフッキング操作（➡P.331）で一時保留した状態で、他の相手（取次ぎ先）と通話を開始します。フッキング操作をすることで双方の相手と交互に切り替えて話すことができます。

電話を受けた人の操作

1 外線または内線通話中

通話中の相手に待っていただくよう伝えます。

2 フッキング操作をする

- 保留状態となり、受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 取次ぎ先の電話番号をダイヤルする

- 外線に転送する場合は、外線発信の特番（自動選局特番など）を押します。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

4 取次ぎ先に用件を伝える

例えば、「･･･から電話が入っています」と伝えます。

5 フッキング操作をして、かかってきた相手と再び通話する

例えば、「申し訳ありません。・・・はただ今、電話に出ることができません。ご用件をお聞かせください。」と伝えます。ご用件を伺ったあと、再度待っていただくよう伝えます。

6 フッキング操作をして、取次ぎ先との通話を再開して用件を伝える

- 保留の相手には、保留音が流れます。
- 以降もフッキング操作を繰り返すことで、取次ぎ先とかかってきた相手と交互に通話ができます。

7 かかってきた相手と取次ぎ先で話してもらう場合は、受話器を置く

かかってきた相手と取次ぎ先がつながります（転送）。

MEMO

取次ぎ先が電話に出なかったときは、フッキング操作で、再度元の相手と通話することができます。

取次ぎ先の人の操作

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 受話器を上げて用件を聞く

3 例えば、発信元にどのような用件か聞いて欲しいと返答する

電話を受けた人がフッキング操作をすると、保留音が流れる。

4 保留が解除され、電話がつながるので、用件を聞く

電話を受けた人が電話を切ると、かかってきた相手（発信元）と自動的につながります（転送）。

5 発信元と通話する

6 通話が終了したら、受話器を置く

第８章　マルチラインシステムコードレス電話機編

8-1 お使いになる前に …… 348
8-2 使用上のご注意 …… 356
8-3 サービスメニュー / ローカルメニューの使いかた …… 370
8-4 電話機の調節 …… 378
8-5 電話のかけかた …… 385
8-6 電話の受けかた …… 395
8-7 保留のしかた …… 398
8-8 転送のしかた …… 402
8-9 便利な機能 …… 405

8-1 お使いになる前に

この章では、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の使いかたについて説明します。

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は、主装置に接続された接続装置（DECT-CS）を利用して、オートダイヤルボタン付き内線電話機として利用できます。

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の特長

■ 同一事業所内で移動して使用できる

接続装置（DECT-CS）からの電波の届く範囲（エリア）であれば、他のコードレス電話機と同様に、事業所内で自由に移動しながら、電話機を利用することができます。

接続装置（DECT-CS）から半径約 100m 程度（見通し距離）まで、話しながら移動できます。また、複数の接続装置（DECT-CS）が設置されていれば、各接続装置のサービスエリア内を自由に移動できます（ハンドオーバ）。

※通話できる範囲から外れたときは、警告音と画面表示（「圏外」と表示）でお知らせします（➡ P.358）。

MEMO

ハンドオーバ機能とは、通話中に電話機を持って事業所内を移動したとき、電波状態のよい他の接続装置に接続して、通話を継続できるようにする機能です。

■ 利用可能な接続装置の選択（アンテナサーチ機能）

アンテナサーチ機能を利用すると、最も距離が近く接続状態の良い接続装置（DECT-CS）を選択し接続し直すことができます。待受状態のままシステム内を移動したときなどに利用します（➡ P.358）。

■ ダイヤルライト（➡ P.384）/ 液晶バックライト（➡ P.383）

ボタンの操作をしているときや着信時などに、ダイヤルボタンやディスプレイ画面が明るく光るように設定することができます。

■ キーロック（➡ P.406）とダイヤルロック（➡ P.407）

ボタンをロックすることで、誤操作を防止したり、他人に電話機を使用されないようにすることができます。

■ 他の事業所でも使用できる

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は、同一事業所内だけでなく、他の事業所に移動して利用することができます。

事業所を移動したときは自動的に設定が切り替わります（※）。自動的に切り替わらない場合は手動で事業所を選択することができます（➡ P.411）。

（※）自動的に切り替わるのは、切り替え前の接続が圏外（圏外ピクトが点灯）になった場合のみです。

MEMO

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は、最大 10 箇所の事業所に登録することができます。

工事設定

各事業所への登録は工事者が行います。販売店にご相談ください。

■ 省電力モードの利用とスリープ状態

一定時間何も操作しない状態が続くと、電池の消費を抑えるために待受状態からスリープ状態に変わります（スリープ状態の画面（➡ P.354））。

スリープ状態のときは以下の操作が行えます。

切	→ 待受状態に戻る（➡ P.368）
確定（2 秒以上長押し）	→ ローカルメニューの起動
マナー＃（2 秒以上長押し）	→ マナーモード切替（➡ P.381）
ロック＊（2 秒以上長押し）	→ キーロック切替（➡ P.406）

工事設定

省電力モードについては販売店にご相談ください。

■ ダイヤルボタンで電話に応答（エニーキー応答）

エニーキー応答を設定しておくと、電話がかかってきたとき、ダイヤルボタン（0～9、ロック＊）を押すだけで、応答することができます（➡ P.406）。

略図の説明

充電器から上げている状態（待受状態）を基本とします。

略図	説明
ア 1 カ ABC 2 サ DEF 3 タ GHI 4 ナ JKL 5 ハ MNO 6 マ PQRS 7 ヤ TUV 8 ラ WXYZ 9 ワ 0 マナー # ロック ＊	ダイヤルボタン
フラッシュ 短縮 切 通話 スピーカ 保留	各機能名称のボタン / ランプ
確定	MF キーの確定ボタン

略図	説明
	MF キーの上下左右
1 2 3 4 5 6 7 8 (XXX)	機能を割り付けられた オートダイヤルボタン / ランプ （XXX は機能名）

MEMO

- この章の操作では、電話機を充電器から上げている状態（待受状態）を基本としているので、電話機を充電器から持ち上げる操作や置く操作については、操作説明では省略しています。
- 一定時間何も操作しない状態が続くと、電池の消費を抑えるために待受状態からスリープ状態に変わります。スリープ状態から操作を開始するときは、切 を押して、待受状態に戻してから、操作を開始してください。

各部の名称とはたらき

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）

【正面】

着信 / 充電ランプ
外線着信と内線呼出のときなどに、点滅します。
また、充電中は点灯（赤）、充電完了で点灯（緑）になります。

MF キー
ディスプレイのメニュー選択や、電話帳検索のスクロールなどに使います。

フラッシュボタン
キャッチホンサービスなどを受けるときに使います。

確定ボタン
ディスプレイのメニュー選択や、電話帳検索などの確定ボタンとして使います。

通話ボタン
電話をかけるときまたは受けるときに使います。

ダイヤルボタン
ダイヤル時やカナ / 漢字入力などに使います。

スピーカボタン
スピーカ受話などのときに使います。

アンテナ

受話口

ディスプレイ

オートダイヤルボタン / ランプ
ボタン 1 ～ 8 は外線 / オートダイヤルボタンとして利用できます。

短縮ボタン
短縮ダイヤルで電話をかけるときに使います。

切ボタン
通話を終了するときに使います。
また、電源を入れたり、切るときに長く押し続けます。
※通常は電源を入れた状態で使用します。長時間お使いにならないときは電源を切ってください。

保留ボタン
外線、内線通話を保留するときに使います。

送話口

【右面】

充電ケーブルコネクタ
Micro USB ケーブルで接続し、充電できます。

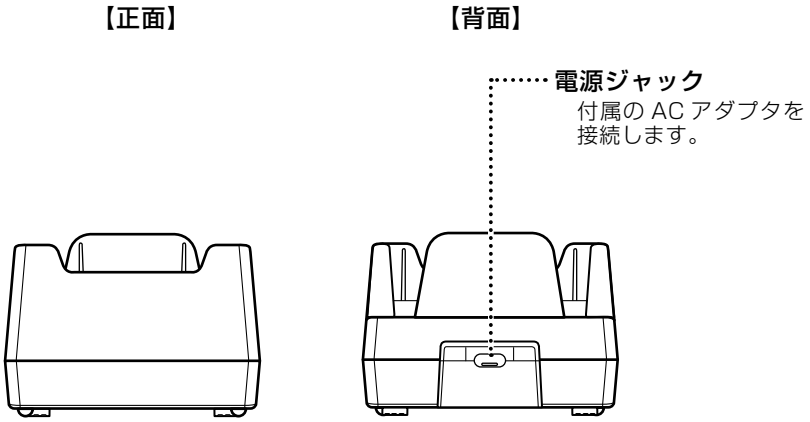
【背面】

イヤホンマイクコネクタ
イヤホンマイク（市販品）のプラグを接続するコネクタです。

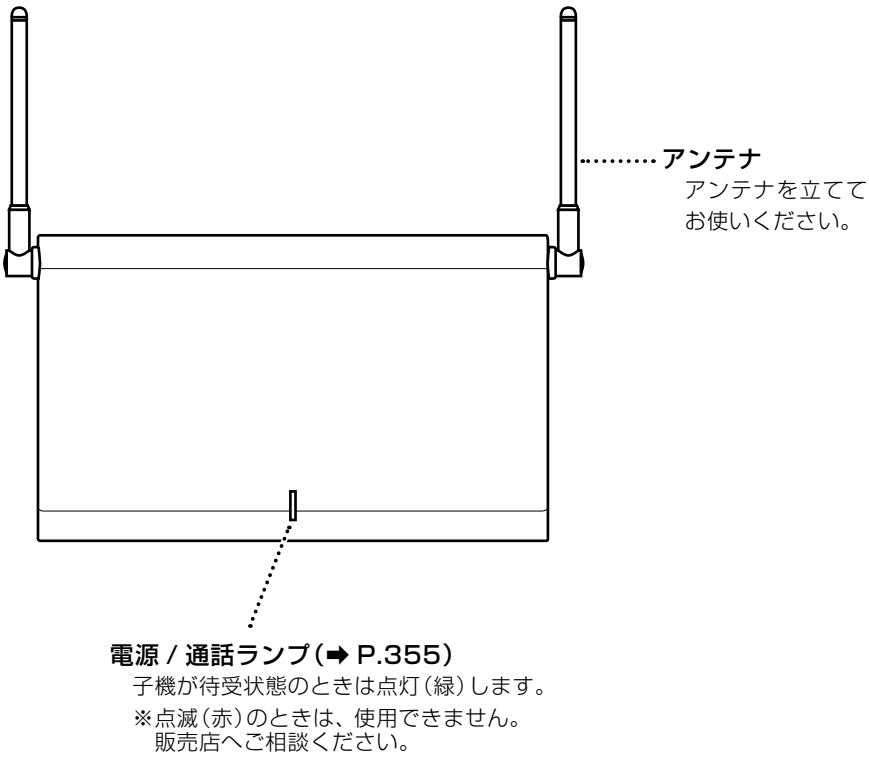
スピーカ
各種着信音などが聞こえます。

電池カバー

充電器



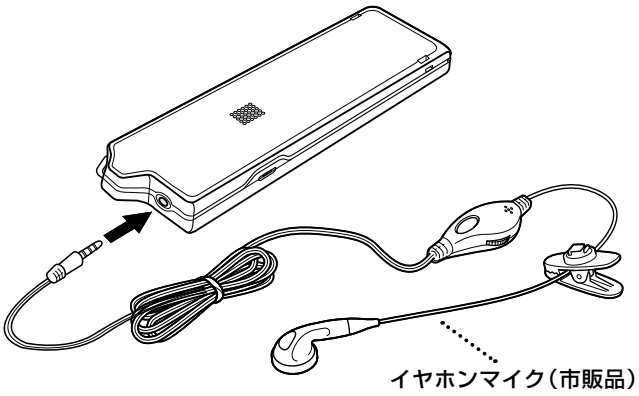
マルチラインシステムコードレス接続装置（DECT-CS）



イヤホンマイクとハンドストラップの取り付け

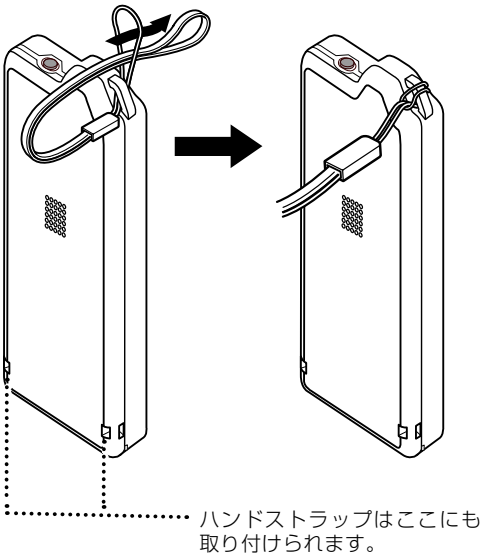
イヤホンマイクコネクタ

イヤホンマイク（市販品）のプラグを接続するコネクタ。
丸型プラグ方式（φ 3.5 4 極ミニプラグ（CTIA））のものを使用してください。
イヤホンマイクは、奥まで挿入したことを確認してご使用ください。



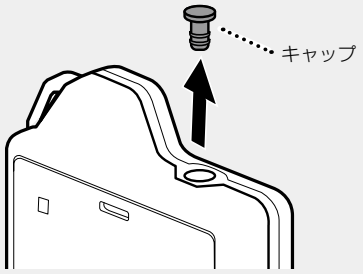
ハンドストラップの取り付けかた

ハンドストラップの取り付け方法は次のとおりです。



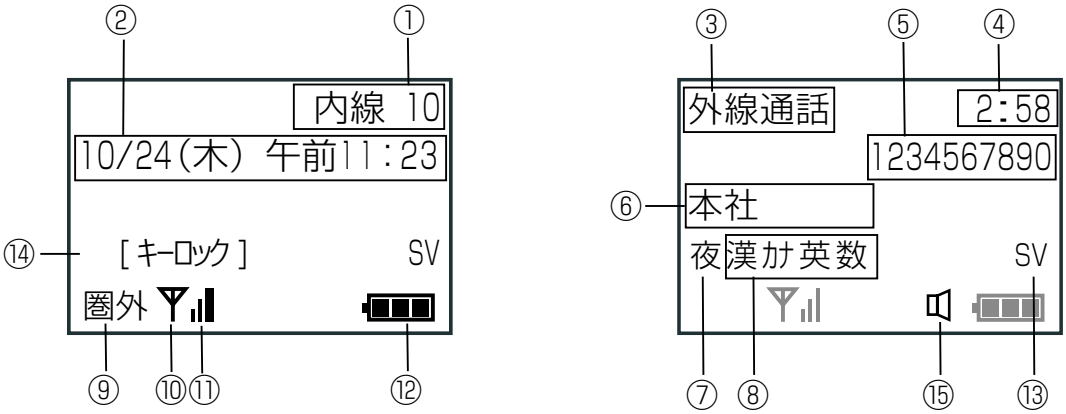
MEMO

イヤホンマイクコネクタにはキャップが取付けられています。イヤホンマイク（市販品）使用時は、キャップを取り外してから使用してください。また、イヤホンマイク使用後は、取り外したキャップを取付けてください。



ディスプレイ表示

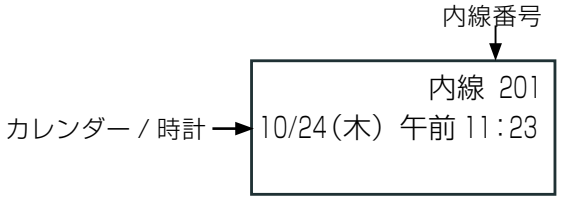
ディスプレイの見かた



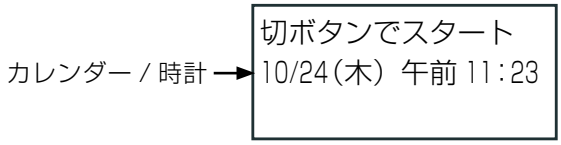
番号	表示例	内容
①	内線 10	自内線番号を表示する
②	10/24(木) 午前 11:23	カレンダー、時計を表示する
③	外線通話	通話種別(このほか、外線発信、内線着信、会議通話などの項目名を表示する)(➡ P.354)
④	2:58	通話時間
⑤	1234567890	相手の番号情報
⑥	本社	電話帳登録情報 (相手の電話番号が電話帳に登録されている場合に表示される)
⑦	夜	夜間モード(夜間 A-1 ～ A-3 または夜間 B)に設定すると表示される
⑧	漢 カ 英 数	文字入力時のモードを表示する
⑨	圏外	電話機と接続装置の距離が離れすぎると表示される(➡ P.358) ※同時に 2 行目に「接続されていません」と表示される
⑩		接続装置の電波を受信し着信可能な待ち受け状態になったときに表示する ※アンテナサーチ中は点滅する(➡ P.358)
⑪		4 段階の電波の強さ(電界強度)を表示する(➡ P.369)
⑫		電池残量を 5 段階で表示する(➡ P.369)
⑬	S / V / SV	現在の設定の状態が次のように表示される S :音なしバイブレーション OFF(➡ P.381) V :バイブレーション ON(➡ P.382) SV :音なしバイブレーション ON(➡ P.381)
⑭	[ｷｰﾛｯｸ] / [ﾀﾞｲﾔﾙﾛｯｸ]	ボタン操作規制(ロック)の現在の設定が次のように表示される [ｷｰﾛｯｸ] :キーロックが設定されている(➡ P.406) [ﾀﾞｲﾔﾙﾛｯｸ] : ダイヤルロックが設定されている(➡ P.407) ※両方設定されているときは [ｷｰﾛｯｸ] が表示される
⑮		スピーカ受話状態のとき表示される(➡ P.410)

ディスプレイ画面の例

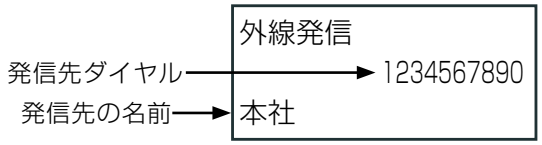
■待受画面



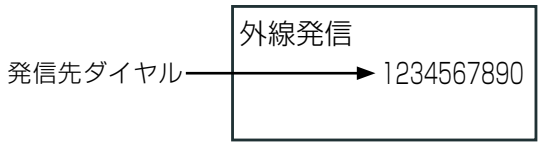
■スリープ画面



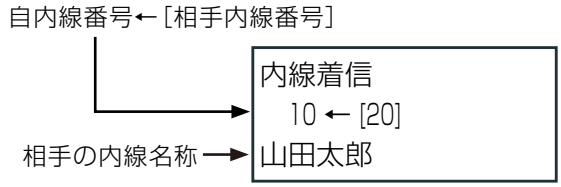
■外線発信中：電話帳で発信したとき



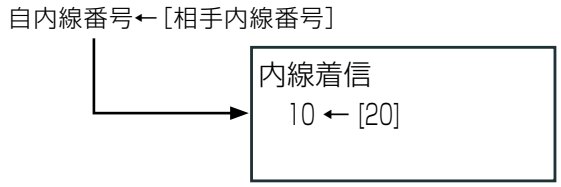
■外線発信中：電話帳に登録がないとき



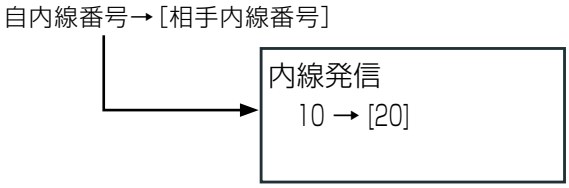
■内線着信：相手内線に内線名称が登録されているとき



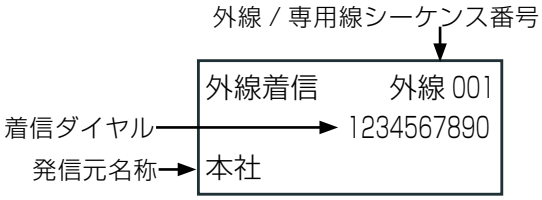
■内線着信：相手内線に内線名称が登録されていないとき



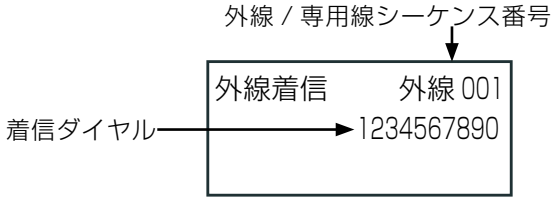
■内線発信：相手内線に内線名称が登録されていないとき



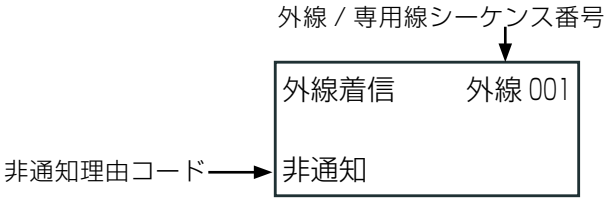
■外線着信：電話帳に名前の登録があるとき



■外線着信：電話帳に登録がないとき

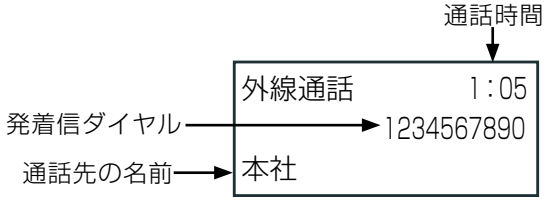


■外線着信中：非通知のとき

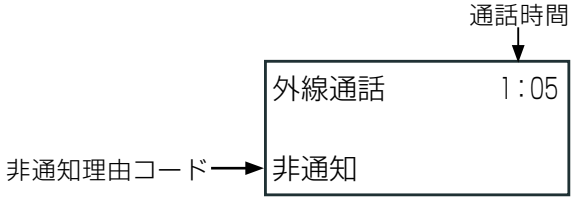


※非通知理由コードには、「表示圏外」「非通知」「公衆電話」のいずれかが表示されるか、コードなし（何も表示されない）の場合があります。

■外線通話中：電話帳に名前の登録があるとき

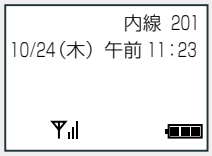


■外線通話中：非通知のとき



MEMO

最下行には、下の例のように電波状態と電池残量が常に表示されています。



本書で記載している機能説明のディスプレイには、この電波状態と電池残量を記載していません。

ランプ表示

ここでは、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）特有のランプ表示について説明します。ここで説明していないランプ表示は、多機能電話機と同じです。第 1 章の「ランプ表示」（➡ P.6）を参照してください。

■ マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）

ランプの種類	ランプのつきかた（色）	ランプの意味（電話機の状態）
着信 / 充電ランプ	点灯（赤）	充電中
	点灯（緑）	満充電
	速点滅（赤）	充電異常（※ 2）
	消灯	待受状態
	速点滅（※ 1）	各種着信中

※ 1：着信ランプの色は、7 色から選択することができます。着信ランプの色の設定については、第 1 章の「着信ランプ表示色の設定（着信種別や各種状態別）」（➡ P.58）を参照してください。

※ 2：充電異常が表示された場合は、すぐに電源を切り、販売店にご相談ください。

■ マルチラインシステムコードレス接続装置（DECT-CS）

ランプの種類	ランプのつきかた（色）	ランプの意味（電話機の状態）
電源 / 通話ランプ	消灯	電源 OFF、運用停止中
	遅点滅（赤）（0.5 秒間隔で点滅）	ロータリ SW 範囲外
	遅点滅（緑）（0.5 秒間隔で点滅）	子機登録中
	中点滅（赤）	CS 付加 ID 重複エラー
	速点滅（赤）（0.1 秒間隔で点滅）	エコーキャンセラ異常検出
	速点滅（緑）（0.1 秒間隔で点滅）	活性処理中
	間隙点滅（赤）	1 ポート目未接続
	間隙点灯 2（緑） （0.7 秒点灯のあと、0.1 秒間隔で 1 回点滅）	子機通話中（音声チャネル使用）
	間隙点滅（青）	ログ収集中
	点灯（赤）	通話 / データ通信：ビジー中
	点灯（緑）	待受状態

工事設定

CS 付加 ID 重複エラーやエコーキャンセラ異常検出のようなシステム関連のエラーが発生した場合は、販売店にご連絡ください。

音の種類一覧

種類		音	発生源
発信音	外線発信音	ツーーー	受話口またはスピーカ
	内線発信音	ツーツー…	
呼出音 （➡ P.417）	音声呼び	プー	
	信号呼び	プルルルル・・・プルルルル…	
着信音	内線着信音（信号呼び）	プルルプルルプルルプルル・・・	スピーカ
	外線、PBX 経由外線	プルルルル・・・プルルルル…	
	DIL、DID、外線の強制転送 PBX 経由の DIL、DID	プルプルプル・・・プルプルプル…	
	PBX 経由内線、 内線の強制転送	プルプル・・・プルプル…	
	PBX 外線経由の DIL/DID、 強制転送	プルプルプル・・・プルプルプル…	
	通話中の外線	プー・・・プー…	
登録完了音		ピー	スピーカ
保留音		メロディ♪	受話口またはスピーカ
保留警告音		ピリリリピリリリ…	スピーカ
無線接続開始音		プルップルッ	スピーカ

※上の表の「…」は、音の繰り返しを示しています。「・・・」は音が鳴っていない状態を示しています。

8-2 使用上のご注意

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）を使用するときは、以下の点にご注意ください。

①マルチラインシステムコードレス接続装置（DECT-CS）のアンテナは、電波強度の測定を行い最適な角度に立てて使用してください。

②マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は、お使いになる前に充電してください。
充電器で 8 時間以上または USB 充電で 5 時間以上の充電で約 7 時間の連続通話ができます。

③マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の電池パックや充電器は、専用のものを使用してください。

無線に関するご注意

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）を使用するときの無線に関する注意点は以下のとおりです。

①デジタル信号技術を使用することにより、傍受されにくくなっておりますが、電波を使用しているため、通常の手段を超えた方法で第三者が故意に通話の内容を傍受する場合がまったくないとはいえません。この点について十分配慮してご使用ください。機密が必要な通話は、多機能電話機をご使用になることをお勧めします。

②マルチラインシステムコードレス接続装置（DECT-CS）のアンテナは折りたたまず使用してください。

③無線の特性により、動作（表示や音）が遅れる場合があります。

④電話機（DECT-PS）の特性により、外線発信時のダイヤル操作で、通話ボタンを押したあとにダイヤルした場合、少し遅れてダイヤル表示されますので、ダイヤル入力後に発信ボタンを押す操作（プリセットダイヤル）での運用を推奨いたします。

⑤移動しながら使用するときは、位置や向きによって雑音が入ることがあります。

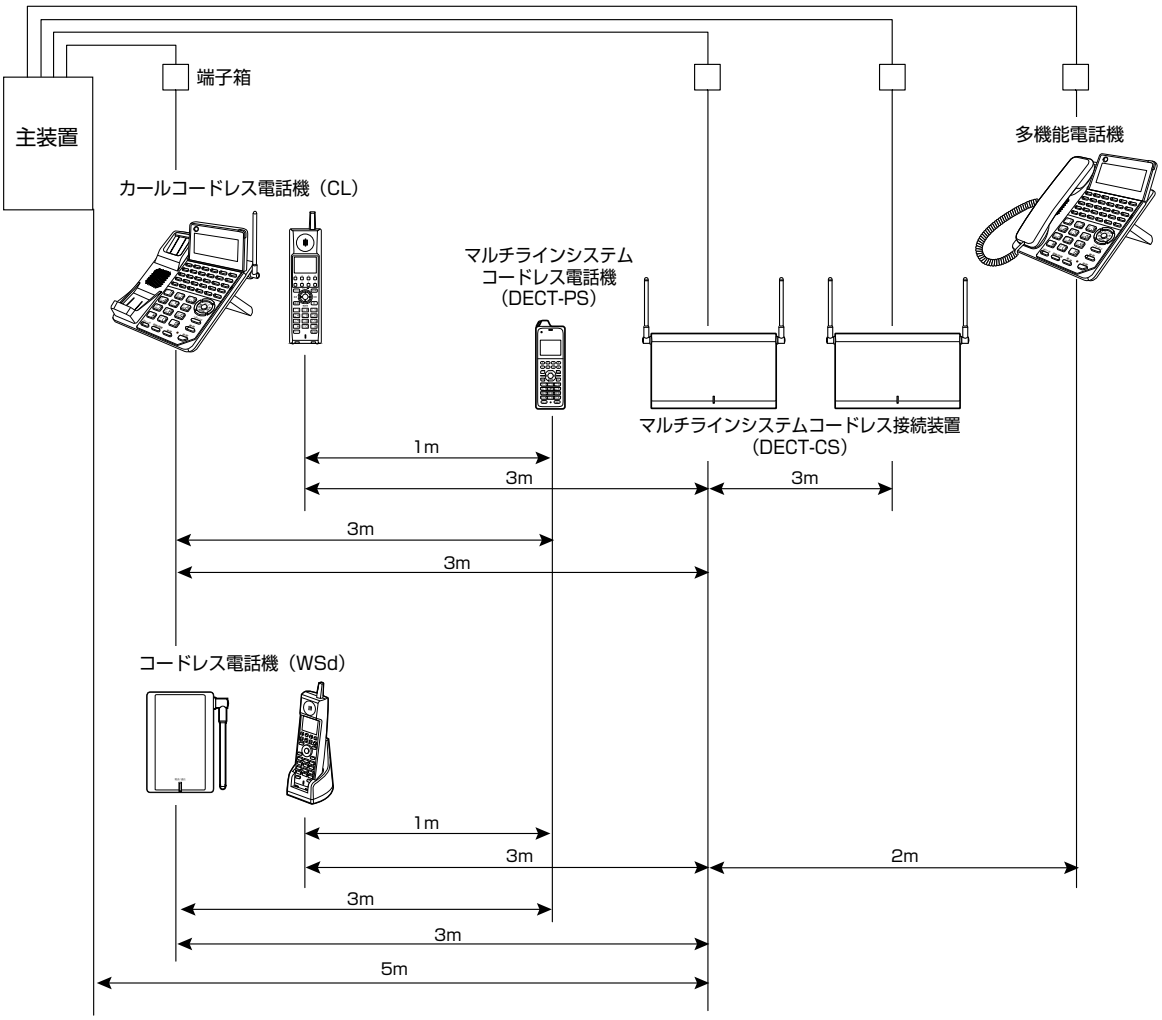
⑥通常半径 100m（見通し距離）以内でご使用できますが、接続装置（DECT-CS）と電話機（DECT-PS）の間に下記の障害物などがあると、通話中に雑音が入ったり、電話機（DECT-PS）に「圏外」と表示され使えなくなることがあります。このため、設置環境を確認のうえ、接続装置（DECT-CS）の設置場所を決めてください。なお、設置環境によりますが、送信出力の設定で使用距離を延ばすことができます。送信出力の設定については販売店にご相談ください。

［影響する設置環境］金属製のドア、アルミはく入りの断熱材が入っている壁、コンクリートや金属製の壁。
なお、金属製以外の遮蔽物であっても電波の伝播に影響が出ることがあります。

⑦通話中に雑音が入ることがあるため、電話機（DECT-PS）同士間は 1 m以上離して設置してください。また、接続装置（DECT-CS）は主装置から 5 m以上、多機能電話機から 2 m以上、他の親機（接続装置（DECT-CS）、カールコードレス電話機（CL）親機、コードレス電話機（WSd）接続装置を含む）から 3 m以上離して設置してください。

MEMO

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）を使用する場合、同一システム内でデジタルコードレス電話機（UM）を使用することはできません。



MEMO

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）を使用する場合、同一システム内でデジタルコードレス電話機（UM）を使用することはできません。

電波に関するご注意

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は、1.9GHz 帯を使用する時分割多元接続方式広帯域デジタルコードレス電話機です。
電話機には、それを示す右記のマークが張り付けられています。

1.9-D

電話機を使用するときは、以下の点にご注意ください。

- 市販されているコードレス電話機を本電話機（DECT-PS）と一緒に使用しないでください。電波干渉により、正常に動作しません。
- ラジオ、テレビ、その他無線機器およびアンテナ線から 3m 以上離してください。雑音や映像の乱れの原因になります。
- その他、下記の機器の周辺では、音声が途切れたり、使えなくなることがあります。また、相手の機器の動作にも影響を与えることがあります。できるだけ、設置場所や使用場所を離してください。

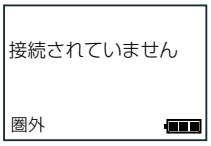
  ［影響する機器］火災報知器、マイクロ波治療器、自動ドア、自動制御機器

- この機器は同一周波数を使用する他の無線局と電波干渉が発生しないように考慮されていますが、万一、この機器からの他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電話機（DECT-PS）の電波の発射を停止（電池パックを取り外します）してください。それでも現象が改善しない場合には、接続装置（DECT-CS）の電波が影響している可能性があるため、お買い上げになった販売店へご連絡いただき電波の発射を停止するよう処置を講じてください。

  また、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてお買い上げになった販売店へご相談ください。

電話機が圏外にでると

①通話中に、マルチラインシステムコードレス接続装置（DECT-CS）とマルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の距離が遠くなり電話機（DECT-PS）が通話圏外にでると、電話機（DECT-PS）のディスプレイに「接続されていません」と表示されます。また、ディスプレイの最下段にも「圏外」が表示され、通話圏外警報音が鳴ります。



工事設定

通話圏内（接続装置（DECT-CS）の近く）にいるのに、「圏外」と表示される場合は、「B-1 故障かな？とお考えになる前に」（➡ P.438）をご確認のうえ、販売店にご相談ください。

②通話圏外では電話をかけることも、受けることもできません。電話がかかってきても、着信音が鳴りません。

③通話圏外（または電源が OFF）の電話機（DECT-PS）に、外線 / 専用線または内線からの個別着信があったとき、あらかじめ設定した転送先へ着信を転送することができます（圏外転送、圏外代行）。
圏外転送 / 圏外代行の設定は、自テナントグループ内の多機能電話機（システム管理電話機）のサービスメニュー、および Web 設定から内線ごとに設定できます。
設定手順については、第 3 章の「圏外の電話機にかかってきた電話を転送する（圏外転送）」（➡ P.129）、第 5 章の「圏外代行を設定する」（➡ P.251）、または『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

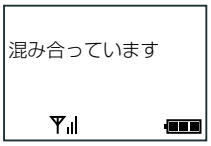
④圏外転送先または圏外代行先を設定していない状態で、通話圏外（または電源が OFF）の電話機（DECT-PS）に着信があった場合、電話をかけた相手には以下のような圏外ガイダンスが流れます。

「電波が届かないか子機の電源が切られております。」

⑤通話中に「接続されていません」と表示される場合がありますが、一定時間内に圏内に戻れば、通話状態に戻ります。

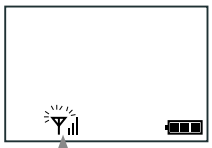
接続装置が混み合っているときは

操作時に、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）のディスプレイに「混み合っています」と表示されることがあります。そのような場合は、他の接続装置（DECT-CS）の場所に移動するか、またはアンテナサーチ（➡ P.358）をご利用ください。



利用可能な接続装置を選択するには（アンテナサーチ）（電話機独自機能）

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は、自動的に接続装置（DECT-CS）を選択して接続しますが、待受状態で移動したときは、最も距離の近い接続装置が選択されないときがあります。そのようなときは、アンテナサーチ機能を使用して、利用可能な接続装置を選択し接続し直すことができます。
アンテナサーチ機能を使用するには、短縮 を 2 秒以上押します。



アンテナサーチを実行すると、
アンテナピクトが点滅します。
点灯後しばらくすると、
利用可能な接続装置に接続します。

電波の特性について

●本電話機は電波を利用しているため、サービスエリア内であっても電波の届かないところ、電波の弱いところでは通話ができないことがあります。

- 周囲の環境（壁、家具、什器など）によっては使用範囲が狭くなります。特にサービスエリアの端のほうでは、体の向きを変えたり、周囲で人が移動しただけで電波状態が変わり通話がとぎれたりすることがあります。
- 通話中に電波の届かないところや電波の弱いところに移動した場合は、通話がとぎれたり切れたりすることがあります。
- トラックや車、オートバイが近くを通ったとき、電波が乱れて通話がとぎれたりすることがあります。

デジタル方式の特性について

●デジタル方式の特徴として、電波状態が悪いところであっても高品質な通話を保つことができますが、電波状態が一定以上悪くなった場合には、突然通話がとぎれることがあります。あらかじめご了承ください。

●本製品は、デジタル信号を利用した通話を傍受されにくい商品ですが、電波を利用している関係上、通常の手段を超える方法がとられた場合には、第三者が故意または偶然に通話を受信することも考えられます。この点に十分配慮してご使用ください。

他の機器への影響について

●テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。

●電話機、ファクシミリなどに近いと通話に雑音が入ったりすることがあります。

●補聴器などをしながらご使用になると、補聴器に雑音が入ることがあります。

●自動車の車種によっては、まれに車両電子機器に影響を与える場合があります。

使用場所について

●製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。電話機が正常に動作しないことがあります。

●冷蔵倉庫などで電話機の使用温度範囲内であっても、出入りすることにより内部が結露して電話機が正常に動作しないことがあります。

- 正常に動作しなくなったときは、電池パックを外し、十分に時間がたってから電源を入れるようにしてください。

●金属製家具などの近くは避けてください。

- 電波が飛びにくくなります。

●電気製品・AV・OA 機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（コンピュータ、電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、ファクシミリ、蛍光灯、ワープロ、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。

- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- 放送局や無線局などが近く、雑音が大きいときは、使用できないことがあります。

●硫化水素が発生する場所（温泉地など）では、電話機などの寿命が短くなることがあります。

●電磁誘導による充電の方式をとっています。

- 本商品を AM ラジオの近くに置かないでください。AM ラジオに雑音が入ることがあります。
- 電磁波や磁力を出すもの（テレビ、スピーカなど）の近くに置かないでください。充電できない場合があります。

お願い

●本商品をご使用中、本商品を触ると温かく感じることがありますが、故障ではありませんので、安心してご使用ください。

●本商品のボタンを、強く押しすぎないようにしてください。故障や誤入力の原因となることがあります。

防水 / 防塵性能について

電話機本体は、電池カバーをしっかり閉めた状態で、IPX5 相当 /IPX7 相当の防水性能（当社試験方法による）、および IP5X 相当の防塵性能を有しておりますが、これは完全防水 / 防塵を保証するものではありません。
次の注意事項をお読みになり、適切な方法で利用されますようお願いします。

防水 / 防塵性能について

■ IPX5 相当の防水性能

電話機本体は IPX5 相当の防水性能を有しています。
防水性能 IPX5 相当とは、電話機本体の電池カバーをしっかり閉めた状態で、内径 6.3㎜のノズルを用いて、約 3 mの距離から約 12.5 リットル / 分の水を 3 分以上注水する条件で、あらゆる方向からのノズルによる噴流水によっても、電話機としての性能を保つことを意味します。

■ IPX7 相当の防水性能

電話機本体は IPX7 相当の防水性能を有しています。
防水性能 IPX7 相当とは、電話機本体を常温の水道水、かつ水深 1 m の静水に、電池カバーをしっかり閉めた状態で静かに沈め、30 分間放置後に取り出したあとに電話機としての機能を有することを意味します。

※耐水圧設計ではありませんので、高い水圧で水をかけたり、長時間水中に放置したりなどはしないでください。

■ IP5X 相当の防塵性能

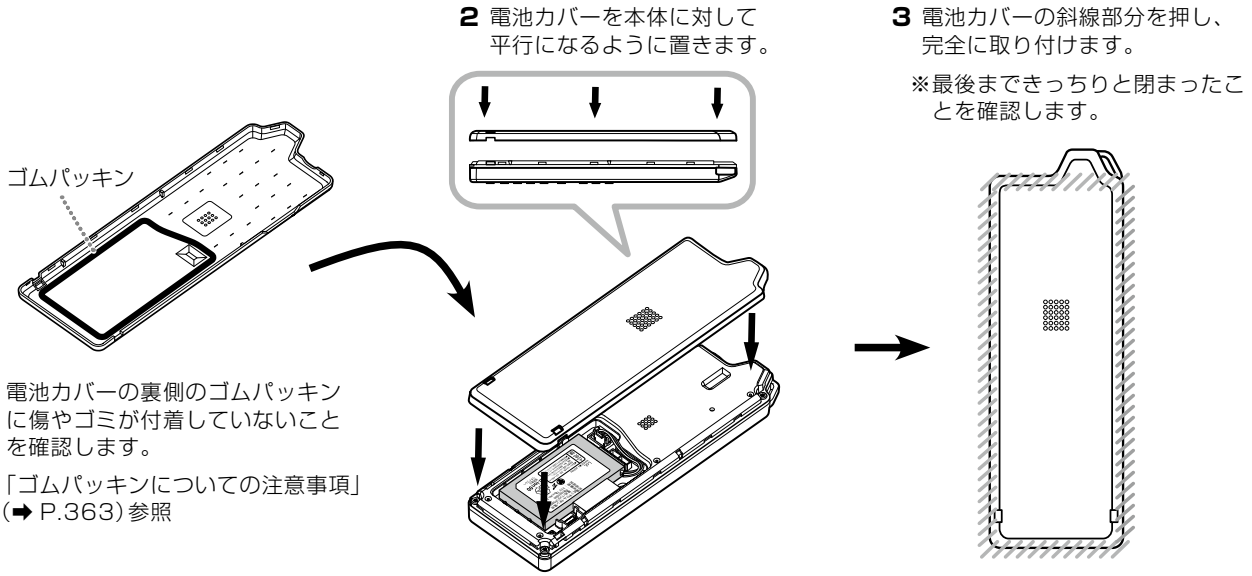
電話機本体は IP5X 相当の防塵性能を有しています。
防塵性能 IP5X 相当とは、保護度合いを指し、直径 75 μ m 以下の塵埃（じんあい）が入った装置に電話機を 8 時間入れかくはんさせ、取り出したときに通信機器の機能を有し、かつ安全を維持することを意味します。

MEMO

実際の使用にあたって、すべての状況で動作を保証するものではありません。弊社内で調査した結果、お客様の不適切な使用による故障と判明した場合には、保証対象外となります。

ご使用の前には

防水性を保持するために、次の点を必ずご確認ください。



注意

- 電池カバーを閉じるときに、電池パックのコードを挟まないように十分注意してください。
- 電池カバーの開閉などをするときはしっかりと閉じて使用してください。また、電池カバーにゴミなどが付着しないようにしてください。
- ゴムパッキンの接触面に微細なゴミ（髪の毛 1 本、砂粒 1 個、微細な繊維など）がわずかでも挟まると、本体内部に浸水する原因となります。微細なゴミが付着している場合には、乾いた柔らかい清潔な布で拭き取ってください。

電話機本体の防水 / 防塵上の注意事項

- 電池カバーを電話機本体に取り付けて、しっかり閉めてください。電池カバーが浮いているところがないことを確認してからご使用ください。すき間に髪の毛１本程度の微細なものでも挟まった場合、水が付着した際に本体内部に浸水することがあります。
- 電池カバーが開いている状態で水などの液体がかかった場合、本体内部に浸水し、感電や故障の原因となることがあります。その場合には、使用を中止し、電源を切り、電池パックを外し、販売店にご相談ください。
- 水につけた状態では使用しないでください（ボタン操作も含む）。また水中に長時間放置しないでください。故障の原因になります。電話機本体は水に浮きません。
- 手が濡れているときや電話機本体に水滴が付いている状態で、電池カバーの開閉をしないでください。
- 電池カバーのゴムパッキンに水滴や汚れ、砂粒、泥などがわずかでも付着している場合、乾いた柔らかい清潔な布で拭き取ってください。
- 海水、温泉、プールの水や、石けん、洗剤、シャンプー、リンス、入浴剤、薬品などの入った水には絶対につけないでください。もし、誤って付着した場合、そのままにせず、速やかに洗面器などに溜めた水道水で洗ってください。洗う際にはブラシなどは使用せず、電池カバーが開かないように押さえたままで洗ってください。また、蛇口からの流水は直接当てないでください。洗濯機や超音波洗浄機等で洗わないでください。
- 受話口、送話口、スピーカなどを先がとがったものでつつかないでください。防水 / 防塵性能が損なわれる原因となります。
- 受話口、送話口、スピーカ、イヤホンマイクコネクタに水滴を残さないでください。通話不良の原因となるおそれがあります。
- 充電ケーブルコネクタに水滴を残さないでください。濡れている状態で接続すると、異常発熱、故障、火災、やけど、感電などの原因となります。
- 電話機本体は耐熱設計ではありません。熱湯をかけたり、サウナで使用したり、またドライヤなどの熱風を当てたりしないでください。
- 電話機本体は防湿設計ではありません。お風呂場、キッチンなど、湿気の多い場所には長時間放置しないでください。
- 電話機本体の防水性能は、常温の真水・水道水にのみ対応しています。
- 電話機本体を落下させると、衝撃により傷の発生や防水 / 防塵性能を劣化させることがあります。電話機本体を落下させるなどした場合には、防水 / 防塵性能の保証を負いかねます。取扱いには十分ご注意ください。
- 電池カバーが破損した場合には内部に水が入り、感電や電池の腐食など故障の原因となります。その場合は電池カバーを交換してください。
- 電話機本体を砂浜などの上に直接置かないでください。受話口、送話口、スピーカなどに砂粒などが入り、音が聴き取りにくくなるおそれがあります。
- 電話機本体に使用する充電器、AC アダプタ、電池パックなどは防水 / 防塵性能を有してはおりません。水分や湿気のある場所で使用しないでください。

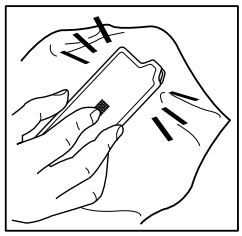
濡れたときには

電話機本体が濡れたときには、乾いた手で、乾いた柔らかい清潔な布を使って、次の手順で丁寧に拭いてください。

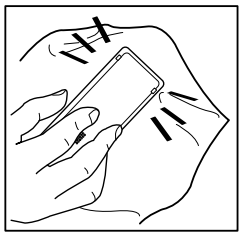
1 電源を切る

2 受話口、送話口、スピーカ、イヤホンマイクコネクタ、充電ケーブルコネクタに入った水を軽くたたいて布で拭き取る

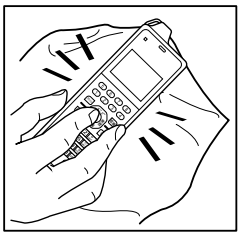
● 受話口の場合



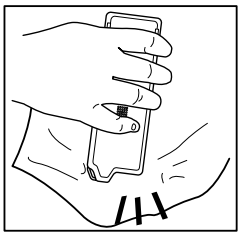
● 送話口の場合



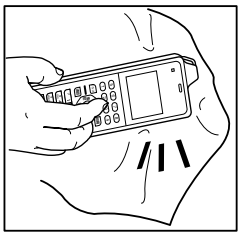
● スピーカの場合



● イヤホンマイクコネクタの場合



● 充電ケーブルコネクタの場合



3 電話機本体全体を拭く

4 電源を入れる

- 寒冷地で電話機本体に水滴が付着したまま放置すると凍結することがあります。凍結した状態で使用すると故障の原因になりますので、水分が付着したら必ず拭き取ってください。
- 電話機本体に水や雪がついた状態のままにすると、本体に付着した水や、すき間に溜まった水で服やバッグを濡らす場合がありますのでご注意ください。
- 電子レンジ、オーブンやドライヤ等で乾燥させないでください。

利用シーン別の注意事項

■ 雨の中で

- 電池カバーをしっかり閉じた状態で、雨の中で使用することができます。
- やや強い雨※1 の中で、傘をささずに通話できます。
- 雨の中や、手が濡れているとき、あるいは水滴が付いたままでの電池カバーの取り外しは絶対に行わないでください。

※1：やや強い雨とは、1 時間の雨量が 10mm 以上 20mm 未満。

■ 洗う

- 汚れた場合、洗面器などに溜めた水道水で洗うことができます。
- 洗う際にはブラシなどは使用せず、電池カバーが開かないように手で押さえたまま洗ってください。
- 耐水圧設計ではありませんので、水道の蛇口やシャワーなどから直接流水をかけないでください。また、洗面器などの水の中に、長時間放置しないでください。
- 電話機本体は水に浮きません。水の中に投げ入れたりせずに、手で持った状態で取り扱ってください。
- 電話機本体を洗濯機や超音波洗浄機や食器洗い機などに入れて洗わないでください。

■ お風呂場で

- 電池カバーをしっかり閉じた状態で、お風呂場で使用することができます。濡れた手で持って通話することもできますが、湯船にはつけないでください。
- 水道水や真水の中につけることはできますが、温泉や石けん、洗剤、シャンプー、リンス、入浴剤などの入った水にはつけないでください。
- 水につけた状態では使用しないでください（ボタン操作も含む）。故障の原因になります。
- 耐水圧設計ではありませんので、水道の蛇口やシャワーなどから直接流水をかけないでください。
- 使用する場所によっては、電波が入りにくくなることがあります。
- 使用場所の急激な温度の変化は、結露の原因となり、故障につながります。寒い場所から暖かいお風呂場などに電話機本体を持ち込む場合には、電話機本体が常温になったことを確認してから持ち込んでください。
- ディスプレイパネルの内側に結露が発生した場合には、結露が取れるまで常温の状態で放置してください。
- お風呂場での長時間のご使用は避けてください。
- 電話機本体を浴槽につけたり、落下させたりしないよう注意してください。
- 電話機本体は耐熱設計ではありません。熱湯につけたり、サウナで使用したり、温風（ドライヤなど）を当てたりしないでください。
- 周囲温度 0℃～ 40℃、湿度 35% ～ 85% の範囲で使用してください。
- 充電器、AC アダプタ、電池パックなどは防水性能を有してはおりません。お風呂場には持ち込まないでください。

■ キッチンで

- 電池カバーをしっかり閉じた状態で、キッチンで使用することができます。
- 石けん、洗剤、調味料、ジュース、お茶、果汁など、水道水以外のものをかけたり、つけたりしないでください。
- 耐熱設計ではありませんので、ポットのお湯などの熱湯や冷水をかけたり、つけたりしないでください。
- 耐水圧設計ではありませんので、水道の蛇口やシャワーなどから直接流水をかけないでください。
- 耐熱設計ではありませんので、コンロのそばや冷蔵庫の中など、極端に高温・低温になるところには置かないでください。

■ プールサイドで

- 電池カバーをしっかり閉じた状態で、プールサイドで使用することができます。
- 濡れた手で持って通話することもできますが、プールの水などの薬品が含まれている水につけたり、落下させたりしないでください。
- 水につけた状態では使用しないでください（ボタン操作も含む）。故障の原因になります。
- プールの水がかかった場合は、洗面器などに水道水を溜めて洗い流してください。洗う際にはブラシなどは使用せず、電池カバーが開かないように手で押さえたまま洗ってください。
- 炎天下で高温になる場所で使用したり、放置したりしないでください。

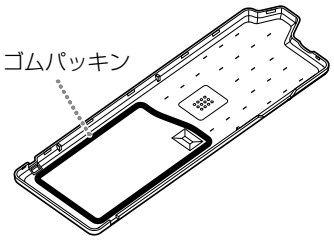
充電する際の注意事項

充電器、AC アダプタ、電池パックなどは防水 / 防塵性能を有してはおりません。充電時、および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- 水に濡れたあとに充電する場合は、乾いた柔らかい清潔な布で水を拭き取ってから充電してください。
- AC アダプタに濡れた手で触れないでください。感電の原因となります。
- 充電器・AC アダプタは、水のかからない場所で使用してください。濡れた状態で使用すると火災・感電の原因となります。
- 充電器・AC アダプタは、お風呂場、キッチン、サウナ、洗面所などの水周りや湿気の多い場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

ゴムパッキンについての注意事項

電池カバーの裏のゴムパッキンは、電話機本体を密閉することで防水 / 防塵の機能を果たします。防水 / 防塵性能を保持するには、以下の点に注意してください。



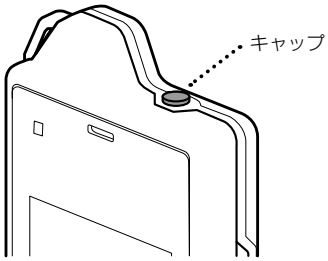
- ゴムパッキンをはがしたり、傷付けたりしないでください。
- 電池カバーを閉める際はゴムパッキンを挟み込まないよう注意してください。挟み込んだまま無理やり閉めようとすると、ゴムパッキンが傷付き、防水 / 防塵性能が保持できなくなる場合があります。
- 常温の真水や水道水以外の液体（海水、温泉、プールの水や、石けん、洗剤、シャンプー、リンス、入浴剤、薬品、汗などの入った水）が付着すると、防水性能を維持できなくなる場合があります。
- 電池カバー開閉などをするときは手袋などをしたまま操作しないでください。また、カバーにゴミなどが付着しないようにしてください。ゴムパッキンの接触面に微細なゴミ（髪の毛 1 本、砂粒 1 個、微細な繊維など）がわずかでも挟まると、本体内部に浸水する原因となることがあります。微細なゴミが付着している場合は、乾いた柔らかい清潔な布で拭き取ってください。
- 電池カバーのすき間に、先のとがったものを差し込まないでください。ゴムパッキンが傷つくおそれがあり、本体内部に浸水する原因となります。

注意

- 防水 / 防塵性能を維持するため、異常の有無にかかわらず２年に１回の定期的なメンテナンスをお勧めします。
- メンテナンスは有償にて承ります。詳しくは、販売店までお問い合わせください。

イヤホンマイクコネクタのキャップについての注意事項

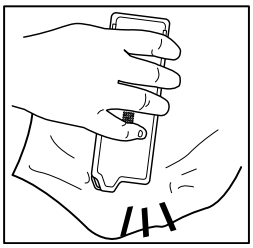
イヤホンマイクコネクタにはキャップが取付けられています。
イヤホンマイク（市販品）使用時は、キャップを取り外してから使用してください。
また、イヤホンマイク使用後は、取り外したキャップを取付けてください。



注意

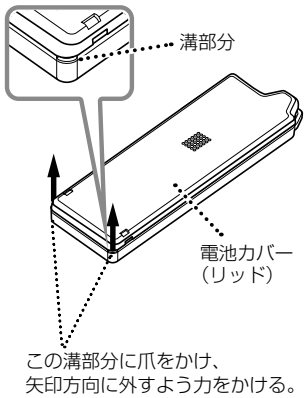
電話機本体が濡れたときや、イヤホンマイクコネクタ内部に水やゴミ等が入ったときには、乾いた手で、乾いた柔らかい清潔な布を使って、次の手順で丁寧に拭いてください。

1. 電源を切る
2. キャップを取り外して、キャップの水やゴミ等を拭き取る
3. イヤホンマイクコネクタ内に入った水やゴミ等は、イヤホンマイクコネクタ側を右図のように下にし、電話機本体を軽くたたいて、布で拭き取る
4. 電話機本体全体を拭く
5. そのまま十分に自然乾燥させる
6. 取り外したキャップを取り付ける
7. 電源を入れる



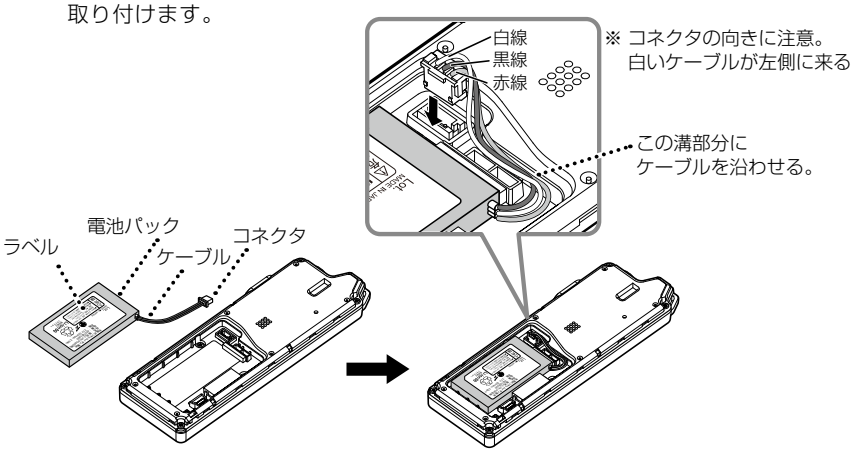
電池パックの取り付け

1 電池カバーの溝に爪をかけ、電池カバーを取り外します。

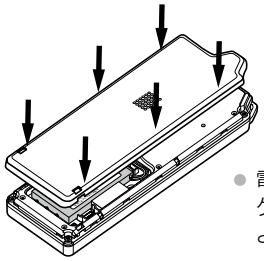


2 電池パックのラベル面を上にして、電池パックを取り付けます。

- ケーブルはしっかりと差し込み、挟まないように注意して収納してください。



3 電池カバーを押し込みます。



- 電池カバーで電池パックのケーブルを挟み込まないように注意してください。

MEMO

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の電源が入ったままで電池パックを取り外すと、故障の原因になります。

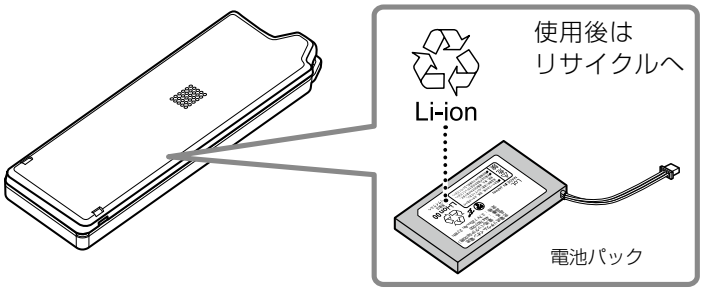
電池パックの交換

電池パックは、消耗品です。満充電しても、続けて通話できる時間が極端に短くなった場合は、新しい電池パックをお買い求めのうえ交換してください。

- 電池パックの購入方法については、お買い上げになった販売店などへお問い合わせください。
- 電池パックの抜き差しを行うと、ディスプレイに一時的に▪▭が表示されますが故障ではありません。

●リサイクル推進のお願い

電池パックはリサイクル可能な貴重な資源です。電池交換などで使用済みの電池パックを廃棄するときは、お買い上げになった販売店またはお近くのリチウムイオン電池リサイクル協力店へお持ちいただき、リサイクル推進にご協力をお願いいたします。



⚠ 危険	
禁止	**電池パックの充電は、専用の充電器、AC アダプタを使用して行ってください** その他の充電条件で充電すると、電池パックの液もれ、発熱、破裂により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
強制	**電池パックはプラス⊕・マイナス⊖の向きが決められています。コードレス電話機に接続するときは、プラス⊕、マイナス⊖の向きを確かめてください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。
禁止	**電池パックを単体では充電しないでください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。
禁止	**電池パックは、指定の電話機以外には使用しないでください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。
禁止	**電話機に使用する電池は同梱の電池パックまたは、同一の電池パックを使用してください**
強制	**電池パックを使用する場合は、以下のことを必ず守ってください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。 ・火の中に投入したり、加熱しない ・直接はんだ付けしない ・プラス⊕・マイナス⊖を針金などの金属類で接触させない ・水・雨水・海水・薬品などにつけたり、ぬらさない ・ネックレスなどの金属製品と一緒に持ち運んだり、保管しない ・針を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたり、投げつけない ・電池カバーを取り付けるとき、電池パックのコードを挟まない ・外装チューブ（被覆）をはがしたり、傷つけない
禁止	**電池コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください** 電池コードが破損し、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。
禁止	**電池パックを分解・改造しないでください** 電池パックの液もれ･発熱･破壊により、火災･感電･やけど･けがの原因となります。
強制	**電池パック内部の液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください**
強制	**電池パックの液もれや異臭がするときは直ちに電源を切り、火気より遠ざけてください**
強制	**不要になったリチウムイオン電池を廃棄するときは、ショート防止のために、電極に絶縁テープを貼り、地方自治体の条例や規則に従うようにしてください** 電極がショートすると、破裂、発火の原因となります。

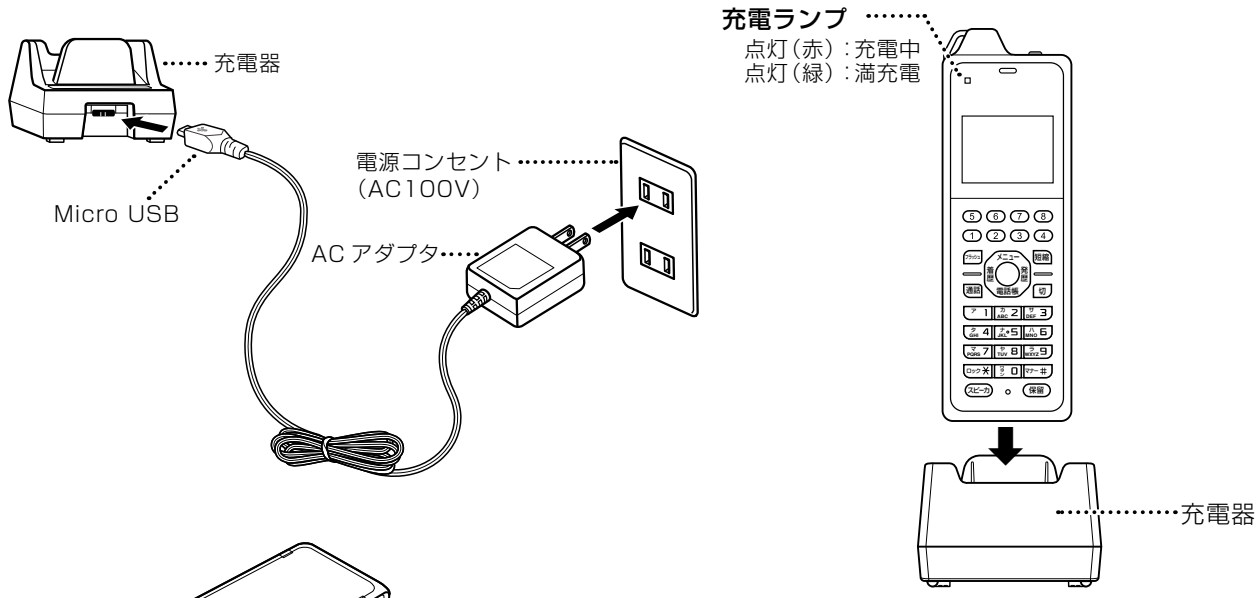
⚠ 警告	
強制	**電池パックが液もれしたり、異臭がするときは、すぐに火気から遠ざけてください**
強制	**充電器や AC アダプタの電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また、半年から 1 年に 1 回は電源プラグを電源コンセントから抜いて点検、清掃をしてください** ほこりにより、火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関してはお買い求めの販売店にご相談ください。
強制	**無接点充電器にアルミなどのシールや金属製のものや異物など、電話機以外を置かないでください** 金属が熱くなり、火災・やけどなどの原因となることがあります。
強制	**高精度な制御や、微弱な信号を取り扱う電子機器の近くで使用しないでください** 電子機器が誤動作するなど影響が出る可能性があります。また、使用を制限された場所での使用はお控えください。 （ご注意いただきたい電子機器の例：補聴器・医療用電子機器（ペースメーカーなど）・火災報知機・自動ドア・自動制御機器など）
禁止	**無接点充電器や電話機に水滴のついたまま充電しないでください** 火災・故障の原因となります。
禁止	**充電ケーブルコネクタに水滴のついたまま充電しないでください** 感電・異常発熱・故障・火災・やけどなどの原因となります。
禁止	**火のそばや炎天下などの高温の場所や、布団等かぶせた状態で充電はしないでください** 高温になると危険を防止する保護装置が働き、充電できなくなったり、保護装置が壊れる原因となります。
禁止	**膨れた電池パックを無理に取り付けないでください** 電池パックが変形し、電池パック内部の保護機構が壊れることで、発熱、破裂、発火の原因となります。 電池パックが膨張した場合は、速やかに新しい電池パックと交換してください。
⚠ 注意	
強制	**電池パックは、事故防止のため、小さいお子様の手の届かないところに保管してください。誤飲、感電の原因となります**
注意	**長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず充電器の電源プラグをコンセントから抜いてください。また電話機の電源を切り、電池パックも取り出してください**
強制	**充電は周囲温度 5℃～ 35℃の範囲で行ってください** 正常な充電ができなかったり、故障の原因となります。
注意	**十分充電しても使用できる時間が短くなった場合は電池パックの寿命の可能性があります。お買い求めの販売店に電池パックの交換をお申し付けください**
注意	**電池パックは 2 年程度で交換してください** 長期間電池パックを装着したままでご使用になると、液もれによるトラブルが発生する場合があります。
強制	**充電時以外は専用 AC アダプタをコンセントから抜いてください** 発火・故障の原因となります。

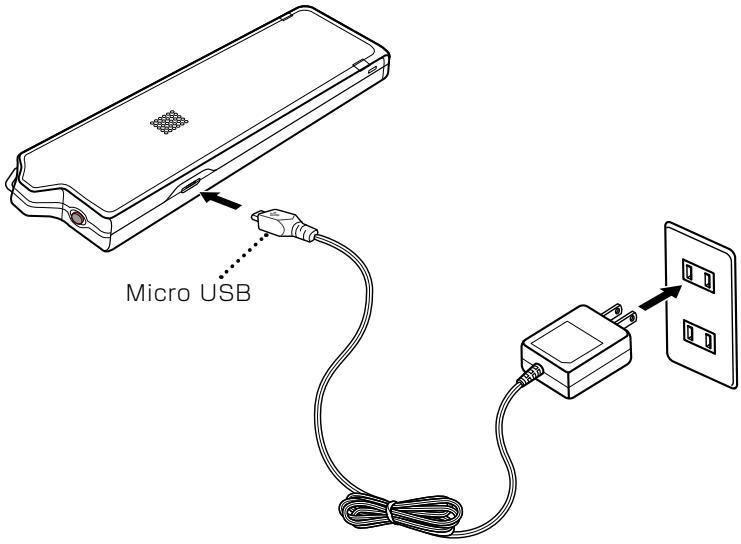
充電と接続のしかた

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の充電や AC アダプタの接続は、次のようになります。

①マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）にはお買い上げ時、電池パックは接続されておりません。お使いになる前に電池パックを接続してください（➡ P.364）。

②はじめてお使いになるときや新しい電池パックに交換したときは、必ず充電器で 8 時間以上または USB 充電で 5 時間以上充電してください。





●マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）を充電する場合は、ダイヤル面を表にして充電器に置いてください。

● AC アダプタの DC プラグ（Micro USB）を直接、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の充電ケーブルコネクタに差し込むことで、電池パックの充電が可能です（USB 充電）。

●マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）充電中は、ディスプレイに「≪充電中≫」と表示され、着信ランプが点灯（赤）します。満充電になると、点灯（緑）し、ディスプレイに「≪満充電≫」と表示されます。充電中に異常があった場合には、着信ランプが速点滅（赤）します。

MEMO

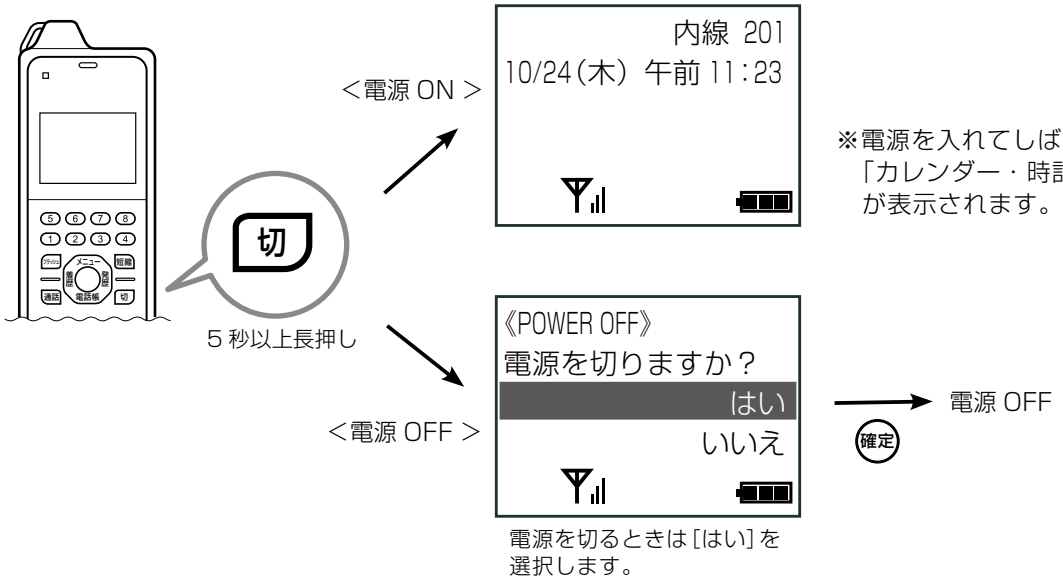
- 充電中のマルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）や充電器、および AC アダプタは温かくなりますが、異常ではありません。
- 充電器は平らなところに置いてください。充電器が傾いていると充電できない場合があります。
- 充電器で充電中に通話をしないでください。充電が終わらない場合があります。
- マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は、電源が「入」・「切」のどちらでも充電できます。
- 満充電時の使用時間、および要充電警報状態から満充電までの充電時間は次のとおりです。
  時間は目安ですので、使用環境や使用状況により変動します。

連続通話時間	連続待受時間※ 1		満充電までの時間	
	省電力モード：オン	省電力モード：オフ	充電器	USB 充電
約 7 時間	約 160 時間	約 24 時間	約 8 時間	約 5 時間

※ 1 電源が入った状態で、通話やランプ表示などを行わない状態で、親機の電波だけを正常に受信できる平均的な時間です。

電源を入れる / 電源を切る

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の電源を入れたり、電源を切ったりするときは 切 を 5 秒以上押します。



MEMO

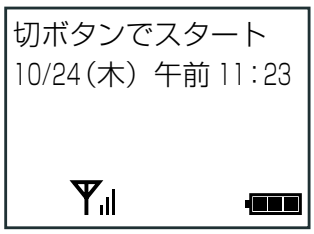
電源を一度切って再度、電源を入れる場合は、3 秒以上待ってから入れます。

スリープ状態の解除について

一定時間何も操作しない状態が続くと、電池の消費を抑えるために待受状態からスリープ状態（スリープ画面）に変わります。スリープ状態を解除するには 切 を押してください。

また、スリープ状態から操作を開始するときは、 切 を押して、待受状態に戻してから、操作を開始してください。

＜スリープ画面＞



MEMO

スリープ状態のときは以下の操作が行えます。

切	→ 待受状態に戻る
確定（2 秒以上長押し）	→ ローカルメニューの起動
マナー＃（2 秒以上長押し）	→ マナーモード切替（➡ P.381）
ロック＊（2 秒以上長押し）	→ キーロック切替（➡ P.406）

- 確定 長押しの場合は、ローカルメニューの操作完了後、すぐにスリープ画面に戻ります。
- マナー＃ および ロック＊ 長押しの場合は、スリープ画面のまま、該当するピクト表示のみが変わります。

無線接続開始音について

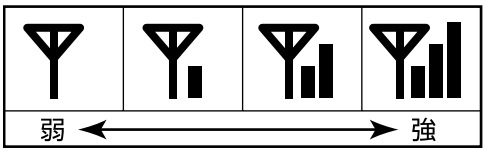
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）では、待機状態からいずれかのボタンを押したとき、またはクイック通話（➡ P.405）が ON の場合に充電台から上げるなどの操作をしたとき、無線に接続したことを知らせる「無線接続開始音」（プルップルッ）が鳴ります（初期設定）。鳴らないように設定することもできます（➡ P.382）。

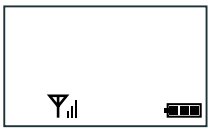
※すでに通信中の場合など、無線接続のタイミングにより鳴らない場合もあります。

電波の強さ

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は、接続装置（DECT-CS）からの電波状態を 4 段階で表します。

- 電話をかける前に電波の強さを確認してください。

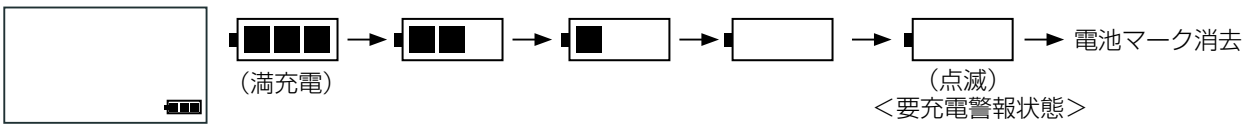




強	受信状態が良好です。
弱	電話がかかりにくくなったり、通話が切れることがあります。 （電波状態の良い場所へ移動してください）
圏外	電話をかけることも受けることもできません。 圏外に近づくと、警報音が鳴り、ディスプレイの最下段の左端に圏外ピクトが点滅します。 圏外になると、圏外ピクトが点灯し、通話が切れます。

電池残量

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）のディスプレイには、電池の残容量が下図の 5 段階で表示されます。充電の目安としてお使いください。



電池残量が少なくなった場合は、満充電になるまで充電してください。

- ●要充電警報状態のときは、約 10 秒ごとに要充電警報音が鳴ります。
- ●通話中に要充電警報音が鳴り始めると、約 90 秒で通話が切れます。
- ●要充電警報音が鳴ってから充電すると、充電器で約 8 時間または USB 充電で約 5 時間で通常使用状態になり、約 7 時間の連続通話ができます。

※電池パックを取り外した状態で、充電器に置かないでください。

※要充電警報状態のまま充電せずに放置すると、電話機が使用できない状態となりますが、故障ではありません。電話機を充電器に置いて充電してください。このとき、電話機の着信ランプがすぐに点灯（赤）しないことがありますが、故障ではありません。約 10 ～ 20 分後に着信 / 充電ランプが点灯（赤）します。

※圏外の状態が長時間続く場合は、電話機（DECT-PS）の電源を切ることをお勧めします。圏外では電池の減りが早いため、圏内に戻ったときすぐに使用できなくなることがあります。

8-3 サービスメニュー / ローカルメニューの使いかた

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）では、サービスメニューとローカルメニュー（電話機独自機能）の 2 種類のメニューが使用できます。

- 待受画面から確定または▲を押すと、サービスメニューのメインメニュー画面が表示されます。
- 待受画面で確定を 2 秒以上押すと、ローカルメニュー画面が表示されます。
- ローカルメニュー画面で 切 を押すと、待受画面に戻ります。フラッシュを押すと 1 つ前のメニュー項目画面に戻ります。

◀▶でメニュー項目を選択して確定を押すことにより、各種機能を選択できます。
選択できる機能は以下の一覧のとおりです。サービスメニューおよびローカルメニューで使用するボタンの使いかたなどについては、「1-3 サービスメニューの使いかた」（➡ P.17）を参照してください。

サービスメニュー / ローカルメニュー一覧

■ サービスメニュー

メインメニュー	サブメニュー	参照ページ
履歴（発信 / 着信）	発信履歴	P.390
	共通着信履歴	−
	個別着信履歴	−
電話帳	新規登録	−
	一覧表示	−
	番号検索	P.387
内線一覧	一覧表示	−
	内線検索	−
	内線カナ検索	−
オートダイヤル	ファンクション割付	P.371
	メールボックス割付	P.373
	DSS 割付	P.374
	ワンタッチ割付	P.375
	電話帳ワンタッチ割付	P.377
	割付クリア	P.372
音設定	着信音量	P.378
	ハンドセット受話音量	P.379
	スピーカ受話音量	P.380
	ボタン押下音設定	P.380
	各種音種	P.409
表示設定	LCD コントラスト調整	P.383
	LCD バックライト設定	P.383
その他	システム設定	P.410
	電話機	P.406

※各内線から使用する FAX を選択します。

※エニーキー応答をするか設定します。

■ ローカルメニュー（電話機独自機能）

ローカルメニュー	参照ページ
1: マナー設定	P.381
2: ダイヤルロック	P.407
3: バイブレータ	P.382
4: クイック通話	P.405
5: ダイヤルライト	P.384
6: 暗証番号登録	P.408
7: トーン送出先	P.409
8: 無線接続開始音	P.382
9: システム選択	P.411
0: バージョン確認	−

MEMO

- サービスメニューの画面が表示されているときに、（機能）を押したあと、未登録のオートダイヤルボタンを押すと、このボタンを、表示中のメニュー画面への**メニューショートカットボタン**として割り付けることができます（この機能を使う前に、（機能）をあらかじめに登録しておきます。「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.371）を参照してください）。
- にメニューショートカットを登録しておくと、待受画面から、該当する（メニューショートカット）を押すことで、そのボタンに登録された任意のメニュー画面を 1 つの操作で表示することができ、メニュー操作の各階層をショートカットで起動することができます。
- メニューショートカットに登録できるメニュー画面については、「A-8 メニューショートカット一覧表」（➡ P.432）を参照してください。

サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける

(オートダイヤル)に特定の機能や電話番号などを割り付けると、マルチラインシステムコードレス電話機(DECT-PS)からも各種機能の設定や変更の操作ができるようになります。

マルチラインシステムコードレス電話機(DECT-PS)には、初期設定で(外線)と(自己保留)が割り付けられています。

オートダイヤルボタンに登録できる機能や付加情報については「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。

工事設定

(外線)と(自己保留)が割り付けられているボタンには機能を登録することはできません。(外線)の割り付けを解除してオートダイヤルボタンとして使用したい場合は、販売店にご相談ください。

オートダイヤルボタンに機能を登録する

1 待受画面で、確定または を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で、[オートダイヤル] を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
オートダイヤル
音設定

3 で、[ファンクション割付] を選択して、確定を押す

≪オートダイヤル≫
ファンクション割付
メールボックス割付

4 機能を登録する を押す

≪ファンクション割付≫
F■:--

↓

≪ファンクション割付≫
F08:■
未登録

- のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

- 同じ操作で、に登録されている機能を確認することができます。
- 手順1～3の代わりに 保留 → 0 を押すこともできます(「A-4 登録モード一覧表」(➡ P.423)を参照)。

5 機能種別番号を指定する

- 機能種別番号については、「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。

  例えば、代理応答であれば、機能種別番号 0 3 を入力します。
- 機能種別番号を入力する代わりに で機能名の候補を表示して選択することもできます。

≪ファンクション割付≫
F08:03
代理応答

6 確定を押す

- 機能種別によっては、このあと付加情報を設定する必要があります。付加情報の入力が必要な場合は、手順7へ進みます。
- 付加情報が必要でない機能種別の場合は、機能が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

7 (付加情報が必要な機能種別の場合) 付加情報を入力する

必要な付加情報については、「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.427)を参照してください。

例えば、代理応答であれば、「1:全て」、「2:内線のみ」、「3:内線+専用線」、「4:外線のみ」から選択します。

8 確定を押す

に機能が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する

1 待受画面で、確定または▲を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[オートダイヤル] を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
オートダイヤル
音設定

3 ◎で、[割付クリア] を選択して、確定を押す

≪オートダイヤル≫
電話帳ワンタッチ割付
割付クリア

4 登録を削除する□を押す

≪割付クリア≫
F[■]->

↓□

≪割付クリア≫
F[5]>
リダイヤル

□のファンクション番号が表示されます。
画面は、リダイヤル機能が登録されている 5 番の□を押した場合の例です。3 行目に機能名が表示されます。

MEMO

事前に□に割り付けられている機能を確認するには、保留→0のあとに、□を押します。電話機のディスプレイに、機能名が表示されます。

5 登録を削除する機能名が表示されていることを確認して、確定を押す

≪割付クリア≫
F[5]>
リダイヤル

□に登録されていた機能がクリアされ、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する

メールボックスとは、電話の音声メッセージを録音して格納しておくことができる箱のようなものです。それぞれの箱には、番号(メールボックス番号)が付けられ、番号を指定して、メールボックス内のメッセージを再生したり、削除したりすることができます。メールボックスについての詳細は第5章の「メールサービスを利用する」(➡ P.259)を参照してください。

□にメールボックス番号を登録しておくと、□を押すことで、登録した番号のメールボックスにアクセスすることができるようになり、また、メールボックスに未聴取のメッセージがあるときは、□(メールボックス)のランプが点滅(緑)するので、メールボックスにメッセージがあるかどうかを確認することができます。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[オートダイヤル] を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
オートダイヤル
音設定

3 ◎で、[メールボックス割付] を選択して、確定を押す

≪オートダイヤル≫
ファンクション割付
メールボックス割付

4 メールボックスを登録する□を押す

≪メールボックス割付≫
F■->MBX----

↓□

≪メールボックス割付≫
F05>MBX■---
未登録

- □のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

- 同じ操作で、□に登録されている機能を確認することができます。
- 手順1～3の代わりに保留→タ GHI 4を押すこともできます(「A-4 登録モード一覧表」(➡ P.423)を参照)。

5 メールボックス番号を入力する

- 主装置内蔵のメールボックスのメールボックス番号は、1～4桁です。
- メールボックス番号を入力する代わりに◎でメールボックス番号を順番に検索することができます。

(メールボックス番号10の入力例)

≪メールボックス割付≫
F05>MBX1■--

MEMO

内線メールボックスの番号(内線番号)と共通メールボックスの番号を選択できます。

6 確定を押す

7 メールボックス表示種別を選択して、確定を押す

登録後の□を押したとき、メールの内容を一覧で表示するか、詳細画面で1件ずつ表示するかを選択します。

≪メールボックス表示種別≫
詳細*
一覧

□にメールボックス番号が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

MEMO

登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」(➡ P.372)を参照してください。

オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する

オートダイヤルボタン に内線番号を登録すると、内線相手の使用状態のわかる BLF（Busy Lamp Field）ランプとして、また登録された内線にワンタッチで電話をかけられる DSS（Direct Station Selection）ボタンとして使用することができます。

1 待受画面で、確定 または を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で、[オートダイヤル] を選択して、確定 を押す

≪メニュー≫
オートダイヤル
音設定

3 で、[DSS 割付] を選択して、確定 を押す

≪オートダイヤル≫
メールボックス割付
DSS 割付

4 内線番号を登録する を押す

≪ DSS 割付≫
F■-〉

↓

≪ DSS 割付≫
F05〉
未登録

- のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3 行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

- 同じ操作で、 に登録されている機能を確認することができます。
- 手順 1 ～ 3 の代わりに 保留 → ラ WXYZ 9 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

5 ファンクション番号を確認または変更して、確定 を押す

6 登録する内線番号を入力する

内線番号を入力する代わりに で内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
1000

入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

7 確定 を押す

に内線 DSS（内線番号）が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

MEMO

- 登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.372）を参照してください。
- DSS のランプ表示の種類は以下のとおりです。

相手内線の状態	ランプの光りかた
待機状態	消灯
登録相手からの着信中	速点滅（赤）
使用中 / 不在設定中	点灯（赤）
受話器を戻し忘れたとき（相手内線がアナログ電話機のときのみ）	間隙速点滅（赤）

オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）

相手先の電話番号を ▭ に登録すると、登録した ▭ を押すだけで登録先に電話をかけることができます。

1 待受画面で、確定 または ◎ を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎ で、[オートダイヤル] を選択して、確定 を押す

≪メニュー≫
オートダイヤル
音設定

3 ◎ で、[ワンタッチ割付] を選択して、確定 を押す

≪オートダイヤル≫
DSS 割付
ワンタッチ割付

4 登録する ▭ を押す

≪ワンタッチ割付≫
F■->

↓ ▭

≪ワンタッチ割付≫
F■5>
未登録

- ▭ のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3 行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO

- 同じ操作で、▭ に登録されている機能を確認することができます。
- 手順 1 ～ 3 の代わりに 保留 → カ ABC 2 を押すこともできます（「A-4 登録モード一覧表」（➡ P.423）を参照）。

5 ファンクション番号を確認または変更して、確定 を押す

「ワンタッチ割付」編集メニューが表示されます。

6 ◎ で、[TEL NO] を選択して、確定 を押す

≪ワンタッチ割付≫
TEL NO>
発信付加情報

7 登録する電話番号を入力する

電話番号は最大 32 桁まで入力できます（0 ～ 9、＊、#）。

≪ TEL NO 指定≫
■

短縮 で特殊コード（-、P、E、[ ]）の入力（切替）が可能です（第 1 章の「相手先の電話番号を入力する」（➡ P.40）を参照）。

8 確定 を押す

9 ◎ で、番号種別を選択して、確定 を押す

[外線]、[特番展開]（主装置に接続されている内線の場合）、[PBX]（構内交換機に接続されている内線 / 専用線の場合）、[方路指定]（方路を指定する場合）から選択します。

≪番号種別≫
外線＊
特番展開

- [方路指定] 以外を選択した場合は、▭ に電話番号が登録され、「ワンタッチ割付」編集画面に戻ります。発信付加情報を設定する場合は、手順 12 へ進んでください。
- [方路指定] を選択した場合は、手順 10 へ進みます。

10 （[方路指定] を選択した場合）方路番号（00 ～ 63）を指定する

方路番号を入力する代わりに ◎ で方路番号を順番に検索することができます。

≪方路指定≫
NO>■-

工事設定

方路番号については、販売店にご相談ください。

11 確定 を押す

- 発信付加情報の設定が不要の場合は、ここで登録は完了です。
- 発信付加情報を設定する場合は、手順 12 へ進んでください。

つづく➡

12 で、[発信付加情報] を選択して、確定を押す

≪ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
TEL NO>1234567890
発信付加情報

13 で [ACR 利用] を選択して、確定を押す

≪発信付加情報≫
ACR 利用
発番号通知

14 で ACR を利用するかどうかを選択して、確定を押す

≪ ACR 利用≫
利用しない
利用する*

ACR 利用の有無が設定され、「発信付加情報」画面に戻ります 。

15 で [発番号通知] を選択して、確定を押す

≪発信付加情報≫
ACR 利用
発番号通知

16 で発番号の通知設定を指定して、確定を押す

[通知しない]、[通知する]、[網に従う] のいずれかを指定します。

≪発番号通知≫
通知しない
通知する

発番号通知が設定され、「発信付加情報」画面に戻ります。

MEMO

- 登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」(➡ P.372) を参照してください。
- 手順 7 で電話番号の代わりに機能特番を入力して、手順 9 で [特番展開] を選択すると、□ に機能特番を登録することができます。使用できる機能特番については、「A-5 機能特番の一覧」(➡ P.424) を参照してください。

オートダイヤルボタンに電話帳を登録する（電話帳ワンタッチ割付）

電話帳にあらかじめ電話番号を登録しておき、登録先の電話帳メモリ番号を□に登録すると、□を押すだけで電話帳に登録された相手先に電話をかけることができます。電話帳に登録されている相手先へワンタッチで電話をかけたい場合は、この機能を使うと便利です。
電話帳への登録や電話帳メモリ番号については、「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[オートダイヤル] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ
音設定

3 ◎で、[電話帳ワンタッチ割付] を選択して、確定を押す

≪ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ≫
ﾜﾝﾀｯﾁ割付
電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付

4 電話帳メモリ番号を登録する□を押す

≪電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
F■->

↓□

≪電話帳ﾜﾝﾀｯﾁ割付≫
F■5>
未登録

- □のファンクション番号が表示されます。
- すでに機能が登録されているボタンを押した場合は、3行目に機能名が表示されます。上書きしたくない場合は、機能がまだ登録されていないボタンを押し直してください。

MEMO
同じ操作で、□に登録されている機能を確認することができます。

5 ファンクション番号を確認または変更して、確定を押す

「電話帳指定」画面が表示されます。

6 ◎で、[共通電話帳] または [個別電話帳] を選択して、確定を押す

≪電話帳指定≫
共通電話帳
個別電話帳

MEMO
共通電話帳と個別電話帳については「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

7 電話帳メモリ番号（0000 ～ 9999）を入力して電話帳を検索する

- 例えば、0001 のように入力します。
- メモリ番号を入力する代わりに◎で、前候補 / 次候補を表示することもできます。

（メモリ番号 0001 を指定するときの入力例）

≪共-ﾒﾓﾘ NO 指定≫
000■
本社

入力したメモリ番号に登録されている名称または電話番号が3行目に表示されます。

8 確定を押す

9 検索結果一覧から登録対象を選択して、確定を押す

≪共通電話帳一覧≫
0001：本社
0002: 支社

□に電話帳メモリ番号が登録され、「オートダイヤル」メニュー画面に戻ります。

MEMO
登録を削除するには、「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.372）を参照してください。

8-4 電話機の調節

ここでは、音量の調節やディスプレイの明るさなどの調整について説明します。

MEMO

各種機能の設定や調整には、電話機のサービスメニューとローカルメニュー（電話機独自機能）を使います。サービスメニューとローカルメニューについては、「8-3 サービスメニュー / ローカルメニューの使いかた」（➡ P.370）を参照してください。

音量を調節する

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）では、各種音量をサービスメニューまたはローカルメニューから調節できます。

着信音量を調節する

着信音量は、3 段階で調節することができます。外線、内線、ドアホンの着信音量を調節できます。

外線着信音量を調節する

1 待受画面で、確定 または ◎ を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎ で、[音設定] を選択して、確定 を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎ で、[着信音量] を選択して、確定 を押す

≪音設定≫
着信音量
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量

「着信音量」メニューが表示されます。

4 ◎ で、[外線着信音量] を選択して、確定 を押す

≪着信音量≫
外線着信音量
内線着信音量

「外線着信音量」画面が表示されます。

5 ◎ で、外線着信音量を指定して、確定 を押す

≪外線着信音量≫
△：大 ▽：小
ﾚﾍﾞﾙ：2 <1-3>

外線着信音量が設定され、「着信音量」メニューに戻ります。

内線着信音量を調節する

1 待受画面で、確定 または ◎ を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎ で、[音設定] を選択して、確定 を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎ で、[着信音量] を選択して、確定 を押す

≪音設定≫
着信音量
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量

「着信音量」メニューが表示されます。

4 ◎ で、[内線着信音量] を選択して、確定 を押す

≪着信音量≫
外線着信音量
内線着信音量

「内線着信音量」画面が表示されます。

5 ◎ で、内線着信音量を指定して、確定 を押す

≪内線着信音量≫
△：大 ▽：小
ﾚﾍﾞﾙ：2 <1-3>

内線着信音量が設定され、「着信音量」メニューに戻ります。

ドアホン着信音量を調節する

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[着信音量] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
着信音量
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量

「着信音量」メニューが表示されます。

4 ◎で、[ドアホン着信音量] を選択して、確定を押す

≪着信音量≫
内線着信音量
ﾄﾞｱﾎﾝ着信音量

「ドアホン着信音量」画面が表示されます。

5 ドアホン着信音量を指定して、確定を押す

≪ﾄﾞｱﾎﾝ着信音量≫
△:大 ▽:小
ﾚﾍﾞﾙ:2 <1-3>

ドアホン着信音量が設定され、「着信音量」メニューに戻ります。

MEMO

保留 を押すと、上位メニューに戻ります。

受話音量を調節する（ハンドセット受話音量）

通話中に受話口から聞こえる音量を 3 段階で調節することができます。

通話中に受話音量を調節するには

1 受話器で通話中

2 ◎を押して受話音量を調節する

- ◎を押すと、受話器から聞こえる音声が大きくなります。
- ◎を押すと、受話器から聞こえる音声が小さくなります。

3 適切な音量になったら、◎から指を離す

受話音量が設定されます。

待受中に受話音量を調節するには

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[ハンドセット受話音量] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
着信音量
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量

「ハンドセット受話音量」画面が表示されます。

4 ハンドセット受話音量を指定して、確定を押す

≪ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量≫
△:大 ▽:小
ﾚﾍﾞﾙ:2 <1-3>

ハンドセット受話音量が設定され、「音設定」メニューに戻ります。

スピーカ受話音量を調節する

通話中にスピーカから聞こえる音量を 3 段階で調節することができます。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[スピーカ受話音量] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
ﾊﾝﾄﾞｾｯﾄ受話音量
ｽﾋﾟｰｶ受話音量

「スピーカ受話音量」画面が表示されます。

4 スピーカ受話音量を指定して、確定を押す

≪ｽﾋﾟｰｶ受話音量≫
△:大 ▽:小
ﾚﾍﾞﾙ:2 <1-3>

スピーカ受話音量が設定され、「音設定」メニューに戻ります。

ボタン押下音を切り替える

ボタンを押したときの音を鳴らすか鳴らさないかを、ON/OFF で設定できます。

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[ボタン押下音設定] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
ｽﾋﾟｰｶ受話音量
ﾎﾞﾀﾝ押下音設定

「ボタン押下音設定」画面が表示されます。

4 ボタン押下音を設定して、確定を押す

≪ﾎﾞﾀﾝ押下音設定≫
ON*
OFF

ボタン押下音の ON/OFF が設定され、「音設定」メニューに戻ります。

マナーモードを設定する（電話機独自機能）

マナーモードを設定すると、受話口から聞こえる音や圏外警報音以外の音が鳴らなくなります。
マナーモード時のバイブレーションの設定（着信時の振動）は、初期設定では ON になっています。この設定は、ローカルメニューで変更できます（「マナーモード時のバイブレーションの設定」（➡ P.381）を参照）。

1 **マナー＃ を 2 秒以上押す**

マナーモードが設定され、ディスプレイ 4 行目に「SV」（または「S」）が表示されます。

```
              内線 10
10/24(木) 午前 11:23

                  SV
```

- S　：バイブレーション OFF のとき
- SV　：バイブレーション ON のとき（初期設定）

MEMO

- マナーモードは次の状態のとき、設定 / 解除できます。
  - ・圏外状態
  - ・待受状態（スリープ画面表示中も含む）
  - ・着信状態
- マナーモード時でも、着信時のランプ表示やディスプレイ表示は保たれます。
- マナーモード時のバイブレーション設定が ON の場合は、充電器に置いた状態でも着信時に振動します。
- マナーモード時のバイブレーション設定が ON の場合でも、エラー時や登録完了時に振動しません。
- マナーモードを解除するには、マナー＃ を 2 秒以上押します。解除するとディスプレイに表示されていた「SV」（または「S」）が消えます。
- マナーモードは、電源を切っても解除されません。

マナーモード時のバイブレーションの設定

マナーモード時のバイブレーションの設定はローカルメニューで変更します。初期値は ON です。

1 **待受画面で、確定 を 2 秒以上押す**

電話機のディスプレイにローカルメニューが表示されます。

2 **◎ で、[1：マナー設定] を選択して、確定 を押す**

```
ﾒﾆｭｰ一覧
1:ﾏﾅｰ設定
2:ﾀﾞｲﾔﾙﾛｯｸ
3:ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰﾀ
```

3 **◎ で、マナーモード時のバイブレーションの ON/OFF を選択して、確定 を押す**

```
ﾏﾅｰ設定

ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰｼｮﾝ ON
ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰｼｮﾝ OFF
```

マナーモード時のバイブレーションの ON/OFF が設定され、ローカルメニューに戻ります。

着信を振動で知らせる（バイブレータ着信）（電話機独自機能）

この機能を ON に設定すると、着信時にバイブレータによる振動でお知らせします。初期値は OFF です。
ローカルメニューで設定します。

1 **待受画面で、確定を 2 秒以上押す**

電話機のディスプレイにローカルメニューが表示されます。

2 **で、[3：バイブレータ] を選択して、確定を押す**

メニュー一覧
1：マナー設定
2：ダイヤルロック
3：バイブレータ

3 **で、バイブレータ着信の ON/OFF を選択して、確定を押す**

バイブレータ
バイブレーション ON
バイブレーション OFF

完了音が鳴り、バイブレータ着信の ON/OFF が設定され、ローカルメニューに戻ります。

MEMO

- バイブレータ着信が ON のときは、ディスプレイの 4 行目に「V」が表示されます（マナーモード中を除く）。

内線 10
10/24（木） 午前 11：23
V

- バイブレータ着信が ON のときは、充電器に置いた状態でも、着信時に振動します。

無線接続開始音を切り替える（電話機独自機能）

待機状態からいずれかのボタンを押したとき、またはクイック通話（➡ P.405）が ON の場合に充電台から上げるなどの操作をしたとき、無線に接続したことを知らせる「無線接続開始音」（プルップルッ）が鳴ります。
ローカルメニューで、無線接続開始音が鳴らないように設定することができます。初期値は ON（鳴る）です。

1 **待受画面で、確定を 2 秒以上押す**

電話機のディスプレイにローカルメニューが表示されます。

2 **で、[8：無線接続開始音] を選択して、確定を押す**

メニュー一覧
7：トーン送出先
8：無線接続開始音
9：システム選択

3 **で、無線接続開始音の ON/OFF を選択して、確定を押す**

無線接続開始音
無線接続開始音 ON
無線接続開始音 OFF

完了音が鳴り、無線接続開始音の ON/OFF が設定され、ローカルメニューに戻ります。

電話機のディスプレイとボタンの明るさを調節する

電話機のディスプレイのコントラストを 8 段階で調整することができます。また、ディスプレイやボタンのバックライトの ON/OFF を設定することができます。

ディスプレイのコントラストを調整する

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[表示設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「表示形式設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[LCD コントラスト調整] を選択して、確定を押す

≪表示形式設定≫
LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整
LCD ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ設定

「LCD コントラスト調整」画面が表示されます。

4 LCD コントラストを指定して、確定を押す

≪ LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整≫
△ : 濃 ▽ : 薄
ﾚﾍﾞﾙ : 5 <1-8>

LCD コントラストが設定され、「表示形式設定」メニューに戻ります。

ディスプレイのバックライトを設定する

1 待受画面で、確定または◎を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 ◎で、[表示設定] を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
音設定
表示設定

「表示形式設定」メニューが表示されます。

3 ◎で、[LCD バックライト設定] を選択して、確定を押す

≪表示形式設定≫
LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ調整
LCD ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ設定

「LCD バックライト設定」画面が表示されます。

4 LCD バックライトの ON/OFF を指定して、確定を押す

≪ LCD ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ設定≫
ON*
OFF

バックライトの ON/OFF が設定され、「表示形式設定」メニューに戻ります。

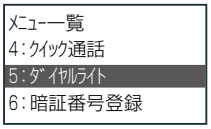
ボタンのバックライトを設定する（ダイヤルライト）（電話機独自機能）

ダイヤルライトがONに設定されていると、ボタンの操作や着信時などに、ダイヤルボタンにあるバックライト（白）が点灯 / 点滅します。ローカルメニューでバックライトが光らないように設定することができます。初期値はONです。

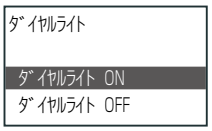
1 **待受画面で、確定を2秒以上押す**

電話機のディスプレイにローカルメニューが表示されます。

2 **で、[5：ダイヤルライト] を選択して、確定を押す**



3 **で、ダイヤルボタンのバックライトのON/OFFを選択して、確定を押す**



完了音が鳴り、ダイヤルボタンのバックライトのON/OFFが設定され、ローカルメニューに戻ります。

MEMO

ダイヤルライトがONに設定されていても、ディスプレイのバックライトがOFFに設定されている場合はダイヤルライトは光りません。ディスプレイのバックライトの設定については、「ディスプレイのバックライトを設定する」（➡ P.383）を参照してください。

8-5 電話のかけかた

外線にかける

電話をかける（外線発信）

外線ボタンを押す場合

1 相手先の電話番号をダイヤルする

2 ランプが消灯している（外線）を押す

相手先が応答したら通話します。

3 通話が終了したら、切を押す

（外線）ランプは消灯します。

MEMO

（外線）は初期設定で に登録されています。

工事設定

フラッシュを押して、外線呼出をキャンセルできるように設定することができます。販売店にご相談ください。

自動選局特番を入力する場合

1 通話を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 自動選局特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。
- 受話口から外線発信音が聞こえます。

3 相手先の電話番号をダイヤルする

相手先が応答したら通話します。

4 通話が終了したら、切を押す

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

最後にかけた相手に再度かける（リダイヤル）

リダイヤルボタンを押す場合

1 （リダイヤル）を押す

- 受話口から外線発信音が聞こえます。
- 最後にかけた電話番号へ自動発信します。

MEMO

この機能を使う前に、リダイヤル機能をあらかじめ に登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.371）を参照してください。

工事設定

（リダイヤル）、または 短縮 マナー＃ を押したあと、即時発信ではなく発信先を電話機のディスプレイに表示し、相手の電話番号を確認してから発信するように設定することができます。販売店にご相談ください。

リダイヤル特番を入力する場合

1 通話 を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 リダイヤル特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 受話口から外線発信音が聞こえます。
- 最後にかけた電話番号へ自動発信します。

MEMO

- 発信履歴を利用する場合は、短縮 マナー＃ を押します。最後にかけた電話番号へ自動発信します（短縮 を押すと、ディスプレイに [#：リダイヤル] と表示されます）。
- サービスメニューで発信履歴を表示して、リダイヤルすることもできます。「サービスメニュー / ローカルメニュー一覧」（➡ P.370）を参照してください。

電話帳から電話をかける（電話帳発信）

電話帳に電話番号や名前を登録しておくことで、電話帳を利用して電話をかけることができます。以下の 3 種類のかけかたがあります。

- 「短縮ボタンですばやくメモリ番号を指定する」（➡ P.387）
- 「名前を検索してかける」（➡ P.388）
- 「電話帳メモリ番号を指定してかける」（➡ P.389）

詳細については、第 2 章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）」（➡ P.63）を参照してください。
また、電話帳登録のしかたについては、「1-7 電話帳の登録」（➡ P.37）を参照してください。

短縮ボタンですばやくメモリ番号を指定する

電話帳のメモリ番号を指定して、登録されている電話番号から電話をかけます。

1 短縮 を押す

電話機のディスプレイに次のような画面が表示されます。

```
≪共通-ﾒﾓﾘ NO 発信≫
----
*:個別切替 #:ﾘﾀﾞｲﾔﾙ
```

MEMO

上の画面で ロック＊ を押すと、共通電話帳と個別電話帳を切り替えることができます。また、 ﾏﾅｰ＃ を押すと、リダイヤル発信（➡ P.386）が可能です。

2 電話帳メモリ番号（2 ～ 4 桁）を入力する

例えば、0011 のように入力します。
（メモリ番号 0011 を指定するときの入力例）

```
≪共通-ﾒﾓﾘ NO 発信≫
001
*:個別切替 #:ﾘﾀﾞｲﾔﾙ
```

3 かけたい相手が選択されていることを確認または変更して、確定 を押す

短縮 を押すたびに、一覧表示と詳細表示を切り替えられます。詳細表示で ◎ を押すと、電話番号 2、電話番号 3（電話番号が複数登録されている場合）を表示できます。

```
≪共通電話帳一覧≫
0011:鈴木一郎
0012:田中携帯
```

（一覧表示）

↕ 短縮

```
共通:0011
01234567
鈴木一郎
```

（詳細表示）

4 ◎ で［発信］を選択して、確定 を押す

```
≪共-電話帳≫ NO:0011
鈴木一郎
発信
```

- 電話番号が複数（最大 3 件）登録されている場合は、確定 を押したあと、電話帳番号選択メニューが表示されます。
- 複数登録されていない場合は、確定 を押したあと、「外線発信」の画面が表示され、ダイヤルをはじめます。

5 （番号選択メニューが表示された場合）◎ で電話番号を選択して、確定 を押す

```
≪共- TEL NO ≫ NO:0011
鈴木一郎
1>0123456789
```

↓ 確定

```
外線発信
          0123456789
鈴木一郎
```

- 画面の 2 段目に電話番号、3 段目に相手の名前が表示されます。
- 「外線発信」画面が表示されると同時に、外線とつながり、ダイヤルをはじめます。
- 相手が応答すると、通話できます。

6 通話が終了したら、切 を押す

MEMO

- 手順 3 で、確定 の代わりに、通話 を押すと、手順 4 を省略して、ダイヤルをはじめます。
- 発信時に、自分の電話番号を相手に知らせないか（発番号非通知）知らせるか（発番号通知）を選ぶことができます。第 3 章の「外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える」（➡ P.86）を参照してください。

名前を検索してかける

電話帳に登録されている電話番号を名前で検索（カナ検索）して表示し、電話をかけることができます。

1 待受画面で、確定を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で［電話帳］を選択して、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
履歴（発信 / 着信）
電話帳

3 で［番号検索］を選択して、確定を押す

≪電話帳≫
一覧表示
番号検索

4 で［共通電話帳］または［個別電話帳］を選択して、確定を押す

［個別電話帳］を選択した場合は、「内線対象指定」画面が表示されます。内線を指定して、確定を押したあと手順 5 へ進んでください。

≪電話帳指定≫
共通電話帳
個別電話帳

5 で［カナ検索］を選択して、確定を押す

≪共-電話帳検索≫
ﾒﾓﾘ NO 検索
ｶﾅ検索

MEMO

手順 1 ～ 5 の代わりに、待受画面で を押して「カナ検索」画面を表示することもできます。

6 検索する名称の先頭から 1 ～ 5 文字を入力して、確定を押す

例えば「スズキイチロウ」を「スズキ」でカナ検索する場合

≪共-ｶﾅ検索≫　＜半＞
＜ｽｽﾞｷ

MEMO

- カナ入力の方法は、第 1 章の「カナ（半角）の入力方法」（➡ P.25）を参照してください。
- 短縮 を押すたびに文字入力モード（［半角］カナ→英→数）を切り替えることができます。

7 かけたい相手が選択されていることを確認して、確定を押す

≪共通電話帳一覧≫
0011:鈴木一郎
0012:田中携帯

MEMO

手順 7 で、確定の代わりに 通話 を押すと、自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。このあとは、手順 10 へ進みます。

8 で［発信］を選択して、確定を押す

≪共-電話帳≫ NO:0011
鈴木一郎
発信

- 電話番号が複数（最大 3 件）登録されている場合は、確定を押したあと、電話帳番号選択メニューが表示されます。
- 複数登録されていない場合は、確定を押したあと、「外線発信」の画面が表示され、ダイヤルをはじめます。

9 （番号選択メニューが表示された場合）で電話番号を選択して確定を押す

≪共- TEL NO ≫ NO:0011
鈴木一郎
1>0123456789

↓ 確定

外線発信
0123456789
鈴木一郎

- 画面の 2 段目に電話番号、3 段目に相手の名前が表示されます。
- 「外線発信」画面が表示されると同時に、外線とつながり、ダイヤルをはじめます。

10 通話が終了したら、切 を押す

電話帳メモリ番号を指定してかける

電話帳に登録されている電話番号を電話帳メモリ番号で検索して、電話をかけることができます。

1 「名前を検索してかける」(➡ P.388) の手順 1 ～ 4 の操作をする

2 ◎で [メモリ NO 検索] を選択して、確定を押す

≪共-電話帳検索≫
メモリ NO 検索
カナ検索

3 検索するメモリ番号をダイヤルして、確定を押す

≪共-メモリ NO 検索≫
0011
鈴木一郎

MEMO

- 登録済みのメモリ番号を指定すると 3 行目に名称（名称登録されていない場合は電話番号）が表示されます。
- ◎を押すと、次候補 / 前候補を表示します。
- マナー#を押すと、リダイヤルします。

4 かけたい相手が選択されていることを確認して、確定を押す

≪共通電話帳一覧≫
0011:鈴木一郎
0012:田中携帯

MEMO

手順 4 で、確定の代わりに通話を押すと、自動的に外線とつながり、ダイヤルをはじめます。

5 以降の操作は、「名前を検索してかける」(➡ P.388) の手順 8 ～ 11 の操作をする

MEMO

- 短縮 ＋電話帳メモリ番号＋ 通話 を押して、すばやく電話をかけることもできます。
  また、内線捕捉状態で、共通電話帳特番＋電話帳メモリ番号を入力して、すばやく電話をかけることもできます。

※電話帳メモリ番号は、共通電話帳のものを使用します。個別電話帳のメモリ番号を使用する場合は、ロック＊を押して個別電話帳に切り替えてからメモリ番号を入力してください。

オートダイヤル機能を使ってかける（電話帳ワンタッチ / ワンタッチボタン）

（オートダイヤル）に電話番号や電話帳を割り付けておくと、指定した相手の電話番号にワンタッチで発信できます。

1 **（電話帳ワンタッチ）または（ワンタッチボタン）を押す**

相手先が応答したら通話します。

MEMO

この機能を使う前に、あらかじめ（電話帳ワンタッチ）または（ワンタッチボタン）を登録して、に電話帳メモリ番号や電話番号を登録しておきます。登録方法は「オートダイヤルボタンに電話帳を登録する（電話帳ワンタッチ割付）」（➡ P.377）または「オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）」（➡ P.375）を参照してください。

発信履歴 / 着信履歴から電話する（履歴発信）

電話をかけた相手やかかってきた相手の電話番号を日時とともに発信履歴 / 着信履歴として記録することができます。記録した発信履歴や着信履歴の電話番号で、電話をかけることができます。
ただし、着信時は利用する回線で、電話会社が提供する番号表示サービスの契約が必要です。

1 **待受画面で、着信履歴の場合は を、発信履歴の場合は を押す**

履歴が記録されている場合は、電話機のディスプレイに一覧表示されます（内線と外線の履歴は混在して表示されます）。

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯

2 **で、かけたい相手の履歴を選択して、確定を押す**

短縮を押すたびに、一覧表示と詳細表示を切り替えられます。

≪発信履歴一覧≫
0000: 本社
0001: 田中携帯
（一覧表示）

短縮

0000:1234567
本社
10 月 24 日（木） PM10:15
（詳細表示）

3 **で［発信］を選択して、確定を押す**

≪発信履歴≫ NO:0000
本社
発信

確定

外線発信
1234567
本社

この画面が表示されると同時に、自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。

4 **通話が終了したら、切を押す**

MEMO

- 着信履歴には、共通着信履歴と個別着信履歴の 2 種類があります。
- 手順 2 で、確定の代わりに通話または（外線）を押すと、手順 3 の操作を行わずにダイヤルすることができます。
- 手順 3 で［184 発信］または［186 発信］を選択すると、発信時に、自分の電話番号を相手に知らせないか（発番号非通知）知らせるか（発番号通知）を選ぶことができます。詳細は第 3 章の「外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える」（➡ P.86）を参照してください。

内線にかける

内線番号をダイヤルしてかける（内線発信）

内線を呼び出して通話します。

1 通話 または スピーカ を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を入力する

相手先が応答したら通話します。

3 通話が終了したら、切 を押す

便利な内線発信機能

続けて別の内線を呼び出す（リセットコール）

内線を呼び出している相手が話中または不応答の場合に別の内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の電話機を呼び出します。

1 通話 または スピーカ を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を入力する

呼出音または話中音が聞こえます。

3 別の内線番号を入力する

- 呼出音が聞こえます。
- 相手先が応答したら通話します。

4 通話が終了したら、切 を押す

グループ内の内線電話を一斉に呼び出す（内線グループ音声呼出）

内線グループ音声呼出特番＋内線グループ番号を押すことにより、グループ別（または一斉）に音声呼び出しができます。

工事設定

グループ番号については、販売店にお問い合わせください。

呼び出す側

1 通話 を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 内線グループ音声呼出特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

3 内線グループ番号（000 ～ 127）を押す

指定したグループに所属する内線電話が一斉に呼び出されます。初期設定では、グループ番号000には、すべての内線電話が登録されています（ロック＊ を押しても一斉に呼び出せます）。

4 相手に呼びかける

相手が応答したら、通話ができる状態になります。

呼び出される側

MEMO

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）では、内線グループ音声呼出の発信操作は可能ですが、着信、応答操作はできません。

構内放送する(構内放送呼出)

構内放送で個別または一斉に呼び出します。電話機から応答することができます。

構内放送で呼び出す

1 通話 を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 外部スピーカ呼出特番と 0 ～ 6 のいずれかを押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡P.418)を参照してください。
- 0 :一斉
  1 ～ 6 :放送装置(外部スピーカ)番号
  (S タイプ主装置の場合、1 ～ 2)
- チャイム音が流れます。

3 放送する

MEMO

構内放送中はディスプレイに次のように表示されます。外部スピーカの名称が登録されている場合には、例のように3行目に表示されます。

```
放送呼出
  外部ｽﾋﾟｰｶ1
1Fフロア
```

呼び出しに応答する

1 外部スピーカから音声が聞こえる

2 通話 を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

3 外部スピーカ応答特番と 0 ～ 6 のいずれかを押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡P.418)を参照してください。
- 0 :一斉
  1 ～ 6 :放送装置(外部スピーカ)番号
  (S タイプ主装置の場合、1 ～ 2)
- 相手と通話できるようになり、外部スピーカからの音声が聞こえなくなります。

工事設定

放送呼出特番、放送呼出応答特番は初期値が設定されています。変更したい場合は、販売店にご相談ください。

ドアホンを呼び出す（ドアホン呼出）

電話機からドアホンを音声で呼び出すことができます。また呼び出したあと、マイクがオフの場合にはドアホンの周辺音をモニタすることができます。

ドアホンアクセス特番による操作

1 通話 を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 ドアホンアクセス特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

3 ドアホン番号を押す

- ドアホン番号には、ア 1 ～ ラ WXYZ 9（M/L タイプ主装置の場合）、または ア 1 ～ サ DEF 3（S タイプ主装置の場合）のいずれかを入力します。
- ドアホンと通話できます。
- スピーカ を押すと、ドアホン周辺の音をモニタできます。

ドアホンボタンによる操作

1 通話 を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 ▭（ドアホン＋ドアホン番号）を押す

- ドアホンと通話できます。
- スピーカ を押すと、ドアホン周辺の音をモニタできます。

工事設定

▭（ドアホン＋ドアホン番号）はあらかじめ ▭ に登録しておきます。登録については、販売店にご相談ください。ドアホン番号は、M/L タイプ主装置の場合は、1 ～ 9、S タイプ主装置の場合は 1 ～ 3 を登録できます。

8-6 電話の受けかた

外線を受ける

外線ボタンを押して受ける（任意外線着信応答）

1 着信音が鳴る

外線着信音が鳴ります。

2 点滅している（外線）を押す

- 通話ができる状態になります。
- 点滅していたランプは、点灯（緑）に変わります。

3 通話が終了したら、切を押す

（外線）ランプは消灯します。

MEMO

（外線）は初期設定で に登録されています。

MEMO

着信中に 切 を押すと、着信音とバイブレータの振動を止めることができます（着信メロディやドアホンチャイムも同様）。着信音と振動を止めても着信状態は継続します。

通話ボタンを押して受ける

1 着信音が鳴る

外線着信音が鳴ります。

2 通話を押す

外線相手と通話します。

3 通話が終了したら、切を押す

内線を受ける

1 着信音が鳴る

内線着信音が鳴ります。

2 通話または スピーカ を押す

通話ができる状態になります。

3 通話が終了したら、切を押す

MEMO

着信中に 切 を押すと、着信音とバイブレータの振動を止めることができます（着信メロディやドアホンチャイムも同様）。着信音と振動を止めても着信状態は継続します。

便利な内線受信機能

代理応答グループ内の別の電話を受ける（代理応答）

内線が所属する代理応答グループ内の別の電話機にかかってきた着信を受けることができます。

1 他の内線の着信音が鳴る

内線着信音が鳴ります。

2 [ ]（代理応答）を押す

- [ ]（代理応答）の代わりに、[通話]＋代理応答特番を押しても電話を受けられます。
- 通話ができる状態になります。

3 通話が終了したら、[切]を押す

MEMO

- [ ]（代理応答）は、あらかじめ[ ]に登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.371）、および「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」（➡ P.427）を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。
- 代理応答グループ設定で、内線ごとにどの代理応答グループに属するかを設定します。内線は、1 つの代理応答グループにのみ登録できます。

他の代理応答グループの電話を受ける（グループ指定代理応答）

グループ指定代理応答特番と代理応答グループ番号を押すことにより、自分の内線が所属していない代理応答グループの着信にも応答することができます。

工事設定

本機能を利用するには、他グループ代理応答許容を「許容」に設定する必要があります。販売店にご相談ください。

1 他の内線の着信音が鳴る

内線着信音が鳴ります。

2 [ ]（指定代理応答）を押す

[ ]（指定代理応答）の代わりに、[通話]＋グループ指定代理応答特番を押すこともできます。

3 着信中のグループ番号（2 桁）を入力して、[確定]を押す

- グループ番号は、00 ～ 99 の番号です。
- [ロック＊]を押すと全グループ、[マナー#]を押すと同じグループへの着信を代理応答することができます。
- 通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら、[切]を押す

MEMO

- [ ]（指定代理応答）は、あらかじめ[ ]に登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.371）、および「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」（➡ P.427）を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡ P.418）を参照してください。

ドアホンからの呼び出しで通話する（ドアホン着信）

ドアホンからの呼び出しに電話機で応答することができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 ドアホン着信音が鳴る

- ドアホン着信音（チャイム音）が鳴ります。
- （ドアホン）ランプが点滅（赤）します。

MEMO

- 待機中にドアホンに着信した場合は、ドアホンチャイム音またはメロディ音が鳴ります。
- 通話中にドアホンに着信すると、受話口から通常のドアホン着信時とは異なる音（プー）が鳴ります。

2 通話を押すか、または点滅（赤）している（ドアホン）を押す

- （ドアホン）ランプが点灯（緑）します。
- ドアホンと通話できます。
- ドアホン着信音が鳴り始めてから約 25 秒以内に応答してください（約 25 秒以上経過すると応答することができません）。

3 通話が終了したら、切を押す

工事設定

（ドアホン＋ドアホン番号）はあらかじめ に登録しておきます。登録については、販売店にご相談ください。ドアホン番号は、M/L タイプ主装置の場合は、1 ～ 9、S タイプ主装置の場合は 1 ～ 3 を登録できます。

8-7 保留のしかた

通話相手に一時お待ちいただく場合は、保留機能を使用します。保留には、以下のような 4 つの種類があります。状況に応じて使い分けてください。詳細については、「2-5 通話を保留する」(➡ P.74)を参照してください。

- システム保留
  システム内の他の電話機からでも再応答(保留解除)できるように保留します。
- 自己保留
  保留したのと同じ電話機からのみ再応答(保留解除)することができます。
- パーク保留
  パークグループ内の他の電話機からでも再応答(保留解除)できるように保留します。
- 一時保留
  外線ボタン、パークボタン、自己保留ボタンが割り付けられていない電話機で保留操作を行うと、一時保留状態になります。一時保留の場合は、内線捕捉中メニューから「自己保留再応答」を選択、またはいったん受話器を置いたあとの呼び返しに応答することで再応答(保留解除)することができます。

システム保留

システム内の他の電話機でも再応答できるように保留する(システム保留)

外線 / 専用線 /MSA(➡ P.414)それぞれの通話中に 保留 を押すことにより、通話を保留します。保留操作をした内線以外のシステム内の他の電話機からも保留した通話に再応答することができます。

内線での通話中は、この操作では保留できません。パーク保留で保留してください(➡ P.400)。

通話をシステム保留する

1 外線通話中の相手に保留することを伝える

2 保留 を押す

- 受話口からの音が内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。外線を保留した場合は、その (外線)ランプが点滅(緑)し、他の電話機は点滅(赤)します。

3 切 を押す

保留したのと同じ電話機で再応答する

1 点滅(緑)している (外線)を押す

- 通話ができる状態になります。
- 点滅していたランプは、点灯(緑)に変わります。

2 通話が終了したら、切 を押す

(外線)ランプは消灯します。

> **MEMO**
> 保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、 (外線)ランプを速い点滅にして知らせます(長時間保留警報)。

他の電話機で保留を再応答する

1 点滅(赤)している (外線)を押す

- 通話ができる状態になります。
- 点滅していたランプは、点灯(緑)に変わります。

2 通話が終了したら、切 を押す

(外線)ランプは消灯します。

自己保留

他の電話機では再応答できないように保留する（自己保留）

通話中に（自己保留）を押すことにより、通話を保留できます。保留に対して再応答できるのは、自己保留した内線からのみです。

通話を自己保留する

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 （自己保留）を押す

- 受話口からの音が内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- （自己保留）ランプは中点滅（緑）します。

3 切 を押す

MEMO

- マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の初期割り付けでは、（自己保留）は右上の（8番）に登録されています。
- 手順 3 のあと、すぐにスピーカから警告音が鳴り、着信 / 充電ランプが点滅（水色）して、呼び返しを知らせます。

自己保留ボタンで再応答する

1 点滅（緑）している（自己保留）を押す

- 通話ができる状態に戻ります。
- （自己保留）ランプは消灯します。

2 通話が終了したら、切 を押す

パーク保留

パークグループ内の他の電話機でも再応答できるように保留する（パーク保留）

通話中に（パーク保留）を押すことにより、通話を保留できます。保留操作をした内線以外からも保留に対して再度応答することができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

通話をパーク保留する（パーク保留ボタン）

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 （パーク）を押す

- 受話口からの音が内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- （パーク）ランプは点滅（緑）します。また、他の電話機の（パーク）ランプは点滅（赤）します。

3 切 を押す

MEMO

この機能を使う前に、パーク保留機能をあらかじめ に登録しておきます。登録方法は「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.371）を参照してください。

保留したのと同じ電話機で再応答する（パーク保留ボタン）

1 点滅（緑）している（パーク）を押す

- 通話ができる状態になります。
- （パーク）ランプは消灯します。

2 通話が終了したら、切 を押す

MEMO

保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、（パーク）ランプを速い点滅にして知らせます（長時間保留警報）。

他の電話機で保留を再応答する（パーク保留ボタン）

1 点滅（赤）している（パーク）を押す

- 通話ができる状態になります。
- （パーク）ランプは消灯します。

2 通話が終了したら、切 を押す

MEMO

同じ番号の（パーク）が に割り付けられた電話機どうしでパーク保留を共有できます。課内、グループなど共有したいグループ単位で同一のパーク番号を割り付けることで効果的に運用できます。

通話をパーク保留する（パーク保留 / 応答特番）

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 （自己保留）を押す

3 パーク保留 / 応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

4 パークトランク番号を 3 桁で入力する

- パークトランク 5 の場合は、0 0 5 を入力します。
- 受話口からの音が内線発信音に変わります。
- パークトランク 5 にパーク保留され、（パーク 5）ランプが中点滅（緑）します。また、他の電話機の（パーク 5）ランプは点滅（赤）します。
- 保留中は相手に保留音が流れます。

MEMO

パークトランクはシステムで 128 個あります。

5 切 を押す

再応答する（パーク保留 / 応答特番）

1 通話 を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 パーク保留 / 応答特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」（➡P.418）を参照してください。

3 パークトランク番号を 3 桁で入力する

保留したときと同じパークトランク番号を入力します。上の保留時の例では、パークトランク 5 なので、0 0 5 を入力します。

- （パーク 5）ランプが消灯します。
- パーク保留されていた相手と通話できます。

4 通話が終了したら、切 を押す

MEMO

保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、（パーク 5）ランプを速い点滅にして知らせます（長時間保留警報）。

8-8 転送のしかた

通話を手動で転送する方法について説明します。詳細については、「2-6 通話を転送する（手動転送）」（➡ P.77）を参照してください。

ダイヤル転送

現在通話中の相手を内線通話後に転送する（ダイヤル転送）

転送先の電話番号をダイヤルして、相手が応答してから転送します。

転送する側の操作

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 保留 を押す

- 受話口からの音が内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- （外線）ランプは点滅（緑）に変わります。

> **MEMO**
> 手順 2 で 保留 の代わりに （自己保留）を使用することもできます。

3 転送先の電話番号をダイヤルする

- 転送先が外線の場合は、（外線）を押したあと、電話番号をダイヤルします。
- 転送先が応答します。

4 転送先に用件を伝える

例えば、「･･･から電話が入っています」と伝えます。

5 フラッシュ を押す

- 通話が転送されます。
- 転送した外線の（外線）ランプは点灯（赤）に変わります。

6 切 を押す

> **MEMO**
> - 転送先が電話に出なかったときは、保留応答と同じ操作（➡ P.398 または P.399）で、再度元の相手と通話できます。
> - 設定によっては、手順 5 で 切 を押して転送することもできます。初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。

転送される側の操作

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 通話 を押す

- 転送する側と通話します。
- 転送する側が転送操作をすると、自動的に転送されます。

3 転送された相手と通話する

4 通話が終了したら、切 を押す

口頭転送

システム保留 / パーク保留した外線を転送する（口頭転送）

外線を保留してから転送先に呼びかけます。転送先は内線電話のみです。保留中の外線番号やパーク番号を口頭で伝えて、通話を転送します。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

転送する側の操作

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 保留 を押す

- 受話口からの音が内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- 保留した（外線）ランプまたは（パーク）ランプは、点滅（緑）します。

3 転送先に呼びかける

例えば、「田中さん、5番にお電話です。」と呼びかけます。

4 切 を押す

MEMO

- 転送先が一定時間内に応答しない場合は、スピーカから警告音が鳴ります。この場合は、点滅している（外線）または（パーク）を押すと、保留が解除され相手との通話に戻ることができます。
- 手順2で、保留 の代わりに（パーク）を押して転送することもできます。その場合は、口頭で転送先にパーク番号を伝えてください。
- 内線通話はシステム保留できません。内線通話を口頭転送する場合は、パーク保留を利用してください。

転送される側の操作

1 呼びかけられた人が 通話 を押す

受話口から内線発信音が聞こえます。

2 点滅している（外線）または（パーク）を押す

- この場合は、呼ばれた田中さんは（外線）または（パーク）を押します。
- 通話ができる状態になります。
- （外線）ランプは点灯（緑）に変わります。
- （パーク）ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、切 を押す

（外線）ランプは消灯します。

チェンジオーバー

内線 / 外線 / 専用線との通話中、電話をかけてきた人と、転送先（取次ぎ先）の人と交互に通話することができます。

MEMO

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）では、初期設定で右上の（8 番）に（自己保留）が割り付けられています。チェンジオーバー機能を使用する場合は、（自己保留）の付加情報（動作指定）として、「チェンジオーバー」を選択してください。オートダイヤルボタンの登録方法および付加情報については、「サービスメニューでオートダイヤルボタンに各種機能を割り付ける」（➡ P.371）および「A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表」（➡ P.427）を参照してください。

かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する（チェンジオーバー）

チェンジオーバーを使用するときは、通話をまず自己保留（一時保留）した状態で、他の相手（取次ぎ先）と通話を開始します。（自己保留）を押すことで双方の相手と交互に切り替えて話すことができます。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 （自己保留）を押す

- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 取次ぎ先の電話番号をダイヤルする

- 取次ぎ先が外線の場合は、（外線）を押したあと、電話番号をダイヤルします。
- 取次ぎ先が応答します。

4 取次ぎ先に用件を伝える

例えば、「･･･から電話が入っています」と伝えます。

5 （自己保留）を押して、かかってきた相手と再び通話する

例えば、「申し訳ありません。・・・はただ今、電話に出ることができません。ご用件をお聞かせください。」と伝えます。ご用件を伺ったあと、再度待っていただくよう伝えます。

6 （自己保留）を押して、取次ぎ先との通話を再開して用件を伝える

- 保留の相手には、保留音が流れます。
- 以降も（自己保留）を押す操作を繰り返すことで、取次ぎ先とかかってきた相手と交互に通話ができます。

7 かかってきた相手と取次ぎ先で話してもらう場合は、フラッシュを押す

かかってきた相手と取次ぎ先がつながります（転送）。

8 切を押す

MEMO

取次ぎ先が電話に出なかったときは、（自己保留）を押すと、再度元の相手と通話することができます。

取次ぎ先の人の操作

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 通話を押して用件を聞く

3 例えば、発信元にどのような用件か聞いて欲しいと返答する

電話を受けた人が（自己保留）を押すと、保留音が流れます。

4 保留が解除され、電話がつながるので、用件を聞く

電話を受けた人がフラッシュを押すと、かかってきた相手（発信元）と自動的につながります（転送）。

5 発信元と通話する

6 通話が終了したら、切を押す

8-9 便利な機能

ここでは、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）の便利な機能（以下の機能）について説明します。

- 「充電器から上げるだけで電話をかけられるように設定する（クイック通話）（電話機独自機能）」（➡ P.405）
- 「ダイヤルボタンを押すだけで着信に応答する（エニーキー応答設定）」（➡ P.406）
- 「誤操作を防止する（キーロック）（電話機独自機能）」（➡ P.406）
- 「他人に電話をかけられないようにする（ダイヤルロック）（電話機独自機能）」（➡ P.407）
- 「ダイヤルロックの暗証番号を設定する（暗証番号登録）（電話機独自機能）」（➡ P.408）
- 「イヤホンマイク接続時の着信音等の出力先を変更する（トーン送出先）（電話機独自機能）」（➡ P.409）
- 「話中に別の着信があったときの着信音を設定する」（➡ P.409）
- 「相手の音声をスピーカで聞く（スピーカ受話）」（➡ P.410）
- 「FAX 内線を設定する」（➡ P.410）
- 「接続システムを確認 / 選択する（システム選択）（電話機独自機能）」（➡ P.411）

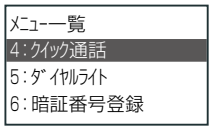
充電器から上げるだけで電話をかけられるように設定する（クイック通話）（電話機独自機能）

この機能を ON に設定すると、電話機を充電器から持ち上げるだけで、通話を押したのと同じ状態になり、電話がかけられるようになります。また、充電器に置いただけで、切を押したのと同じ状態になり、電話を切ることができるようになります。初期値は OFF です。ローカルメニューで設定します。

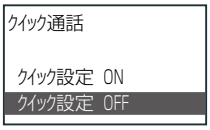
1 待受画面で、確定を 2 秒以上押す

電話機のディスプレイにローカルメニューが表示されます。

2 で、[4：クイック通話] を選択して、確定を押す



3 で、クイック通話の ON/OFF を選択して、確定を押す



完了音が鳴り、クイック通話の ON/OFF が設定され、ローカルメニューに戻ります。

MEMO

- キーロックまたはダイヤルロックが設定されているときは、クイック通話の設定は無効です。
- クイック通話の設定が ON のときは、着信中に切の代わりに電話機を充電器に置くと、着信音やバイブレータの振動を止められます。着信音やバイブレータが停止しても着信状態は継続しているので、受話器を上げると応答できます。

ダイヤルボタンを押すだけで着信に応答する（エニーキー応答設定）

着信時に［通話］でなく、［0］～［9］、［ロック＊］のいずれかのダイヤルボタンを押して応答できるように設定できます。サービスメニューで設定します。

MEMO

エニーキー応答では、［マナー＃］を押して応答することはできません。

1 待受画面で、［確定］または［◎］を押す

電話機のディスプレイにサービスメニューのメインメニューが表示されます。

2 ［◎］で［その他］を選択して、［確定］を押す

≪メニュー≫
表示設定
その他

「その他」メニューが表示されます。

3 ［◎］で［電話機］を選択して、［確定］を押す

≪その他≫
システム設定
電話機

「電話機」メニューが表示されます。

4 ［エニーキー応答設定］を選択して、［確定］を押す

≪電話機≫
エニーキー応答設定

「エニーキー応答設定」画面が表示されます。

5 エニーキー応答設定のする / しないを指定して、［確定］を押す

≪エニーキー応答設定≫
する
しない＊

エニーキー応答のする / しないが設定され、「電話機」メニューに戻ります。

誤操作を防止する（キーロック）（電話機独自機能）

電話機からのボタン誤操作を規制するために、キー操作（ボタン操作）を無効にできます。

1 ［ロック＊］を 2 秒以上押す

キーロックが設定され、ディスプレイ 4 行目に「［キーロック］」と表示されます。

内線 10
10/24（木） 午前 11：23

［キーロック］

MEMO

- キーロックは次の状態のとき、設定 / 解除できます。
  - ・圏外状態
  - ・待受状態（スリープ画面表示中も含む）
  - ・着信状態
- キーロックを解除するには、［ロック＊］を 2 秒以上押します。解除するとディスプレイに表示されていた［キーロック］が消えます。
- キーロック中に有効な操作は、以下のとおりです。
  - ・着信に対する応答操作：［通話］を 2 秒以上押す
  - ・キーロック解除操作：［ロック＊］を 2 秒以上押す
  - ・電源 OFF 操作：［切］を 5 秒以上押す
- キーロックの設定は、電源を切ると解除されます。
- クイック通話（➡ P.405）を設定していても、キーロック中は無効になります。
- キーロック中は、無効な操作のボタン押下音は鳴りません。また、ディスプレイのバックライト、ダイヤルライトも点灯しません。
- キーロック中に着信応答（［通話］を 2 秒以上押す）すると、一時的にキーロックが解除されますが、通話が終わると再びキーロック状態になります。

他人に電話をかけられないようにする（ダイヤルロック）（電話機独自機能）

ダイヤルロックを ON に設定すると、他の人がこの電話機を使用して電話をかけたり、電話帳を開いたりできなくなります。初期値は OFF です。ダイヤルロックの設定 / 解除は、ローカルメニューで行います。

ダイヤルロックを設定するには、まず暗証番号を設定する必要があります（初期値：0000）。「ダイヤルロックの暗証番号を設定する（暗証番号登録）（電話機独自機能）」（➡ P.408）の操作で設定してください。

ダイヤルロックを設定する

1 **待受画面で、確定を 2 秒以上押す**

電話機のディスプレイにローカルメニューが表示されます。

2 **で、[2：ダイヤルロック] を選択して、確定を押す**

```
メニュー一覧
1：マナー設定
2：ダイヤルロック
3：バイブレータ
```

3 **ダイヤルロックの暗証番号（4 桁）を入力して、確定を押す**

```
ダイヤルロック
現在：OFF

暗証番号          ****
```

- 暗証番号を入力すると画面には「＊」が表示されます。
- 桁数に過不足がある状態や暗証番号を間違えた状態で、確定を押すと、画面に「暗証番号が違います」と表示されます。
- 暗証番号を間違えたときは、フラッシュを押して 1 文字ずつ削除してから入力し直してください。

設定が終わると完了音が鳴り、ダイヤルロックが ON に設定されて、ローカルメニューに戻ります。

MEMO

ダイヤルロックが設定されると、ディスプレイの 4 行目に「[ダイヤルロック]」と表示されます（キーロック中を除く）。

```
                内線 10
10/24（木） 午前 11：23

 [ダイヤルロック]
```

ダイヤルロックを解除する

MEMO

キーロックが設定されている場合は、先にキーロックを解除してください。

1 **「ダイヤルロックの設定」の手順 1 ～ 2 を行う**

2 **ダイヤルロックの暗証番号（4 桁）を入力して、確定を押す**

```
ダイヤルロック
現在：ON

暗証番号          ****
```

設定が終わると完了音が鳴り、ダイヤルロックが解除され、ローカルメニューに戻ります。

MEMO

- ダイヤルロックを解除すると、ディスプレイに表示されていた [ダイヤルロック] が消えます。
- 電源を切ってもダイヤルロック状態は継続されます。

MEMO

- ダイヤルロック中に有効な操作は、以下のとおりです。
  - ・着信に対する応答操作：　通話 を 2 秒以上押す
  - ・ローカルメニュー操作：　確定 を 2 秒以上押す
  - ・キーロック設定 / 解除操作：　ロック＊ を 2 秒以上押す
  - ・電源 OFF 操作：　切 を 5 秒以上押す
- 電源を切ってもダイヤルロック状態は継続されます。
- クイック通話（➡ P.405）を設定していても、ダイヤルロック中は無効になります。
- ダイヤルロック中は、無効な操作のボタン押下音は鳴りません。また、ディスプレイのバックライト、ダイヤルライトも点灯しません。
- ダイヤルロック中に着信応答（通話 を 2 秒以上押す）すると、一時的にダイヤルロックが解除されますが、通話が終わると再びダイヤルロック状態になります。

  ただし、確定 と 短縮 は着信応答時もロック解除されません（サービスメニューと電話帳メモリ検索は操作不可）。

ダイヤルロックの暗証番号を設定する（暗証番号登録）（電話機独自機能）

ダイヤルロックの暗証番号を設定します。ここで設定した暗証番号は、ダイヤルロックの設定 / 解除の操作（➡ P.407）で使用します。初期値は 0000 です。暗証番号はローカルメニューで設定します。

注意

暗証番号は大切に保管し、忘れないでください。

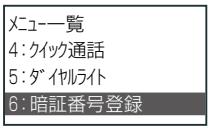
工事設定

暗証番号を忘れた場合は、販売店にご相談ください。

1 待受画面で、確定を 2 秒以上押す

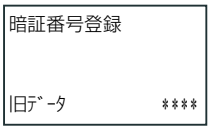
電話機のディスプレイにローカルメニューが表示されます。

2 で、[6：暗証番号登録] を選択して、確定を押す



3 現在の暗証番号（4 桁）を入力して、確定を押す

- 暗証番号の初期値は 0000 です。

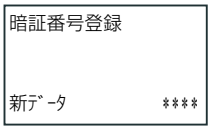


- 暗証番号を入力すると画面には「＊」が表示されます。
- 桁数に過不足がある状態や暗証番号を間違えた状態で、確定を押すと、画面に「暗証番号が違います」と表示されます。
- 暗証番号を間違えたときは、フラッシュを押して 1 文字ずつ削除してから入力し直してください。

正しい暗証番号を入力すると、新しい暗証番号を入力する画面が表示されます。

4 新しい暗証番号（4 桁）を入力して、確定を押す

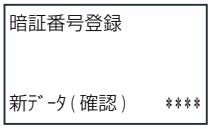
暗証番号には、0 ～ 9 の 4 桁の数字を登録できます。登録する暗証番号を入力してください。



- 暗証番号を入力すると画面には「＊」が表示されます。

続けて、新しい暗証番号を確認する画面が表示されます。

5 確認用に、新しい暗証番号をもう一度入力して、確定を押す



- 桁数に過不足がある状態や暗証番号を間違えた状態で、確定を押すと、画面に「暗証番号が違います」と表示されます。

正しい暗証番号を入力すると、完了音が鳴り、新しい暗証番号が登録され、ローカルメニューに戻ります。

イヤホンマイク接続時の着信音等の出力先を変更する（トーン送出先）（電話機独自機能）

イヤホン接続時の着信音や圏外警報音の出力先をスピーカまたはイヤホンに変更できます。
初期値はスピーカです。ローカルメニューで設定します。

1 待受画面で、確定を 2 秒以上押す

電話機のディスプレイにローカルメニューが表示されます。

2 で、[7：トーン送出先] を選択して、確定を押す

メニュー一覧
7：トーン送出先
8：無線接続開始音
9：システム選択

3 で、イヤホン接続時の着信音等の出力先を選択して確定を押す

トーン送出先
スピーカ
イヤホン

完了音が鳴り、イヤホン接続時の着信音等の出力先が設定され、ローカルメニューに戻ります。

MEMO

発信中や通話中の圏外警報音は、[トーン送出先] で設定した出力先とは関係なく、そのときの発信音や音声の出力先から流れます。例えば、スピーカ受話で通話しているときに圏外警報音が鳴った場合、[トーン送出先] が「イヤホン」に設定されていても、スピーカから聞こえます。

話中に別の着信があったときの着信音を設定する

通話中に着信があったときに、着信音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。

1 待受画面で、確定または を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 で、[音設定] を選択して、確定を押す

≪メニュー≫
音設定
表示設定

「音設定」メニューが表示されます。

3 で、[各種音種] を選択して、確定を押す

≪音設定≫
ボタン押下音設定
各種音種

「各種音種」メニューが表示されます。

4 [話中着信音設定] を選択して、確定を押す

≪各種音種≫
話中着信音設定

「話中着信音設定」画面が表示されます。

5 話中着信音を設定して、確定を押す

≪話中着信音設定≫
着信音有り＊
着信音無し

話中着信音が設定され、「各種音種」メニューに戻ります。

相手の音声をスピーカで聞く（スピーカ受話）

相手との通話中に、相手の音声を電話機のスピーカを通して聞こえるように、切り替えることができます（受話器での通話からスピーカでの受話への切替）。

1 **通話中に スピーカ を押す**

- 相手の声が スピーカから聞こえます。
- ディスプレイには、スピーカ受話状態であることを示す「🔊」がピクト表示されます。

2 **（スピーカ受話から通常の通話に戻す場合） スピーカ を押す**

- スピーカ受話が解除され、通常の受話器による通話に戻ります。
- ディスプレイに表示されていたスピーカ受話のピクト表示「🔊」が消えます。

MEMO

- スピーカ受話中は を押して、スピーカの音量が調節できます。
- マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）では、マイクがオンの状態でスピーカ受話を行っても、ハンズフリー通話状態になりません。

FAX 内線を設定する

内線ごとに FAX を指定して、指定した FAX で着信応答したときに、FAX 着信をお知らせすることができます。指定できる FAX は内線ごとに 2 台までです（ただし、FAX1/FAX2 に同じ FAX を指定することはできません）。複数の内線で同じ FAX を指定することもできます。FAX 着信お知らせ機能の詳細については、第 3 章の「FAX 着信のお知らせを表示 / 確認する」（➡ P.157）を参照してください。

1 **待受画面で、確定 または を押す**

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

2 **で、[その他] を選択して、確定 を押す**

≪メニュー≫
表示設定
その他

3 **で、[システム設定] を選択して、確定 を押す**

≪その他≫
システム設定
電話機

4 **で、[FAX 設定] を選択して、確定 を押す**

≪システム設定≫
FAX 設定
MFP 表示設定

5 **で、[FAX1] または [FAX2] を選択して、確定 を押す**

≪ FAX 設定≫
FAX1
FAX2

6 **内線対象を指定して、確定 を押す**

内線番号を入力する代わりに で内線番号を順番に検索することができます。

≪内線対象指定≫
0010

内線対象が設定され、「FAX 設定」メニューに戻ります。

接続システムを確認 / 選択する（システム選択）（電話機独自機能）

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は、自事業所内だけでなく、他の事業所に移動して利用することができます。
他の事業所に移動したときは、移動先のシステムに合わせて電話機の設定データが自動的に切り替わります（※）。自動的に切り替わらない場合は手動で切り替える必要があります。
（※）自動的に切り替わるのは、切り替え前の接続が圏外「圏外ピクトが点灯」になった場合のみです。

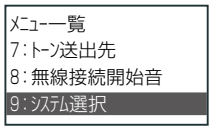
手動で切り替えるには、あらかじめ電話機に登録されているシステム名（移動先のシステム名）を指定します。これにより、移動先のシステム向きの設定データに切り替えることができます。
この操作はローカルメニューで行います。

ローカルメニューでは、接続中のシステムを確認したり、接続するシステムを選択できます。
工場出荷時の初期値は「システム 01」です。

1 **待受画面で、確定を 2 秒以上押す**

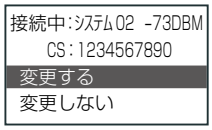
電話機のディスプレイにローカルメニューが表示されます。

2 **で、[9：システム選択] を選択して、確定を押す**



3 **で、[変更する] を選択して、確定を押す**

＜システム 02 に接続中の画面例＞



- 「-73dBm」は電界強度レベルの RSSI 値（dBm）を示しています（-85 以上が圏内）。
- 「CS：」の後ろの数値は、接続装置（DECT-CS）の ID を示しています。

4 **で、移動先のシステムを選択して、確定を押す**

- 選択できるシステムは [システム 01] ～ [システム 10] のいずれかです。
- 前回この操作で選択したシステム名の横には「優先」と表示されます。

登録完了音が鳴り、指定したシステムが選択され、ローカルメニューに戻ります。

工事設定

1 台の電話機には、最大 10 箇所のシステムが登録できます。登録されているシステムの番号と実際の事業所との関連については、販売店にお問い合わせください。

MEMO

- 接続中にこの操作を行った場合は、選択したシステムへの再接続が行われます。
- 選択したシステムが接続可能でなかった場合は、ここで選択したシステム番号から順番に接続可能なシステムが検索されます。
- 主装置が管理しているシステム設定は、システム間を移動した場合は引き継がれません。このため、オートダイヤルボタンの割付や各種音量調整などが移動前の動作と異なることがあります。

付録 A

A-1 用語説明 …… 414
A-2 特番一覧 …… 418
A-3 各種機能の初期設定値 …… 422
A-4 登録モード一覧表 …… 423
A-5 機能特番の一覧 …… 424
A-6 メロディ一覧 …… 426
A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表 …… 427
A-8 メニューショートカット一覧表 …… 432

A-1 用語説明

英数字

ACR（LCR）
ダイヤルされた内容によって、最適なキャリア（通信網を提供している会社）を選択して発信できる機能。

DGL、DGL グループ（Direct Group Line）
着信の 1 つの形式で、内線を例えば組織ごとにグループ化し、発信者はそのグループを指定して発信することで、グループ内の内線すべてを呼び出せる機能。
着信は 1 つの DGL ボタンに先着順でキューイングされます。
※キューイングとは、着信を先着順に並べて管理する手法のこと。人間でいうと行列に相当します。

DSS（ボタン）内線 DSS（Direct Station Selection）
相手の内線電話をワンタッチのボタン操作で直接呼び出す機能。オートダイヤルボタンに DSS 機能を割り付け、そのボタンに登録された内線をワンタッチで呼び出すことができます。割り付けたボタンのランプの状態で、相手の電話機が使用中かどうかを知ることができます。
参照：第 1 章の「オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する」（➡ P.34）

IVR（Interactive Voice Response）
対象外線に着信の際、あらかじめ用意された音声による案内の再生や、電話をかけてきた相手のダイヤル操作に応じてあらかじめ設定された着信先に着信させることができる機能です。
参照：第 3 章の「音声自動応答（IVR）機能を利用する」（➡ P.96）

MSA、MSA グループ（Multi-Station Access）
着信の 1 つの形式で、内線を例えば組織ごとにグループ化し、発信者はそのグループを指定して発信することで、グループ内の内線すべてを呼び出せる機能。着信は 1 つのボタンに対し 1 つ割り当てられます。MSA ボタンを使用して発信や保留もできます。いくつボタンを割り付けるかは、工事者が設定します。

SIP 電話機
SIP プロトコルに準拠した、VoIP 電話機。

VoIP
音声を IP プロトコル上に載せてパケットで通信するプロトコル。
VoIP 外線は、IP 電話サービスで通話できる外線のことで、例えば、ひかり電話などがあります。

Web 設定
Web ブラウザを使用して、各種の設定がユーザでできる機能。Web ブラウザでの設定はユーザが設定できるもののみになります。ログイン時のユーザレベル（一般ユーザレベル、システム管理者レベル）により、設定できる項目が異なります。

W 機能セット、W 機能特番
特番またはボタン操作で指定された 2 つのモードを同時に設定 / 解除ができる機能。

あ

一般系着信、一般着信
複数の電話機に同時に着信する着信方法の総称。外線着信（一般系）、DGL/MSA 着信、などが該当します。

一般ユーザ電話機
一般ユーザレベルの操作が行える内線電話機。
システム管理電話機からサービスメニューで、電話機をシステム管理電話機に設定できます。また、システム管理電話機を一般ユーザ電話機に変更できます。

いらっしゃいませンサ
いらっしゃいませンサモードにすると、人感センサで来客を検知すると、電話機のディスプレイに「いらっしゃいませ」という表示や、外部機器からのガイダンス送出ができる機能。無人の受付などで利用します。
参照：『取扱説明書（セーフティ機能編）』

オフフック状態
電話機の受話器を電話機から上げた状態。

音声自動応答（IVR）
➡ IVR（Interactive Voice Response）

オンフック状態
電話機の受話器が電話機に置かれた状態。

か

会議通話
外線または内線で通話中に電話をかけ、他者を通話に加えて 3 人以上で同時に通話できる機能。会議通話には、最大 4 人まで参加できます。
参照：第 4 章の「会議通話を招集する（会議通話）」（➡ P.179）

外線 / 専用線シーケンス番号
テナントごとに外線に割り付けた番号のこと。

キーパッド
キーパッドモード
ISDN 外線と通話中にキーパッドファシリティ情報を外線に送出できる状態。
ボイスワープなどの登録で使用します。
参照：第 4 章の「迷惑電話お断りサービスを利用する」（➡ P.193）

共通メールボックス
テナントなどにくくりつけられた内蔵ボイスメールシステム用のメールボックス。
複数内線で共通に使用できます。主に、留守番機能で使用します。メールボックス番号は 4 桁までになります（➡内線メールボックス）
参照：第 5 章の「ボイスメールのシステム概要」（➡ P.216）

クイックログオン
メールアクセス時、メールボックスを指定しないでアクセスできる機能。ログオン先のメールボックスがわかっている場合に適用される機能です。
メールボックスボタンを押した場合、メールボックスボタンに割り付けられたメールボックスにアクセスします。メールアクセス特番＋メールボックス番号の操作をメールボックスボタンの 1 操作で実現できるため、クイックログオンと呼んでいます。

コールウェイティング
話中の内線にかけた場合、相手が空き状態になるまで待っていると、自動的に相手を呼び出す機能。

個別系着信、個別着信
一つの指定した電話機に着信する方法の総称。DIL、DID、内線着信などが相当します。

さ

サービスクラス
内線ごとに、どこまでの発信を許容するかを指定するデータ。

最終保留
一番最近に保留した呼（システム保留、パーク保留、自己保留、一時保留）のこと。
最終保留された保留呼は続けて、発信操作をすることで着信した内線にダイヤル転送と強制転送ができます。

システム管理電話機
システム全体（自テナント）に関連する操作が可能な内線電話機。
システム管理電話機からサービスメニューで、電話機をシステム管理電話機に設定できます。また、システム管理電話機を一般ユーザ電話機に変更できます。

自動選局
入力したダイヤルを分析して、発信できる外線を自動的に捕捉して発信する機能。

シナリオ
IVR のサービスを提供するにあたり、電話をかけてきた相手のダイヤル操作に応じた動作や再生するガイダンス等の進行手順を記述した一連の処理定義です。
参照：第 3 章の「音声自動応答（IVR）機能を利用する」（➡ P.96）

専用線
企業で独占的に借りている回線のこと。

側音
受話器で通話中に自分の話した声が受話側に返ってくる音のこと。側音があることで、エコーを和らげる効果があります。

た

チェンジオーバー
現在の通話相手（取次ぎ先）と保留中の相手（電話をかけてきた人）と交互に切り替えて話すことができる機能。

着信形式、
着信方式、
着信種別
外線からの着信に対して、どのような着信方法で着信させるかを指定した設定データ。
着信形式には、一般着信、DGL/MSA 着信、DIL 着信、着番号 DID、付加番号 DID、着信代行、i・ナンバー、発番号 DID、モデムダイヤルイン、IVR 着信などがあります。
着番号 DID の場合は着番号ごとに着信形式を指定します。

ですく deRSS
RSS サイトより RSS コンテンツ（新聞見出しなど）を取得して、多機能電話機のディスプレイにスクロールして表示する機能。
参照：第 4 章の「コンテンツ情報を電話機に表示する（ですく deRSS）」（➡ P.198）

テナント
電話機を運用する単位（例えば組織、店舗）で分けたグループのこと。
テナントに従うサービス：発信可能外線、着信可能外線、昼夜切替、祝祭日、留守番、自動外線転送（転送電話）

テナントグループ
複数のテナントをグループ化して、大きな運用単位を形成したグループのこと。
テナントグループに従うサービス：着信履歴、迷惑電話拒否、発信禁止番号

電話帳グループ
電話帳を 0 から 9 の 10 のグループに分けて使用できる機能のグループ番号。
共通電話帳をグループ分けして、用途の違う使いかたができます。
参照：第 1 章の「電話帳グループの登録」（➡ P.49）

特定日
テナントごとに運用によって休日と平日を設定できるもの。例えば会社の創立記念日や部門ごとに変動する夏季休暇などを休日として特定日設定できます。

特番
電話機から機能を指定する番号のこと。例えば、外線に発信する場合に一般的にダイヤルされる 0 も特番に相当します。内線番号も特番で指定します。
参照：「A-2 特番一覧」（➡ P.418）

特番展開
番号種別の一種。サービスメニューや Web 設定の操作で番号を入力するとき、種別が「特番展開」になっている場合は、通常、特番を含めて番号を入力します。

な

内線グループ
内線代表や内線音声呼出などで使用するグループ。テナントとは別のグループを設定します。

内線メールボックス
内線にくくりつけられたメールボックス。メールボックス番号は内線番号と同じです（➡ 共通メールボックス）。
代行時のメールボックスになります。また通話録音した場合のデフォルトのメールボックスになります。
参照：第 5 章の「ボイスメールのシステム概要」（➡ P.216）

ネスティング
電話帳の中に、別の電話帳番号を登録できる機能。
参照：第 3 章の「複数の電話帳メモリ番号を組み合わせて発信する（ネスティングダイヤル）」（➡ P.84）

乗り換え、外線乗り換え
現在通話中の呼を切断して、別の呼に乗り換える機能。
利用シーン：
外線と通話中に外線からの着信があり、現在の通話を終了して着信に応答しようとした場合、着信している外線ボタンを押すことで現在の通話を切断して、着信に応答できます。受話器をわざわざ戻す必要がありません。

は

ハウラ音
受話器を上げたまま放置した場合に受話器外れ状態を警告するために、受話器から送出される大きな音。

パークシーケンス番号
パーク保留する際にパークボタンの番号をテナントごとに指定した番号。テナントが異なれば、同じシーケンス番号が指定できます。
利用シーン：
テナント 1 でパークトランク 001、002、003 を使用しそれぞれパークシーケンス番号を 000、001、002 とします。テナント 2 でパークトランク 004、005、006 を使用し、それぞれのパークシーケンス番号を 000、001、002 に割り当てます。
テナント 1 でもテナント 2 でもパークシーケンス保留特番 +000 の操作でテナント 1 ではパークトランク 001 にテナント 2 ではパークトランク 004 に保留できます。

パークトランク番号
システム全体のパーク保留（パークボタンに保留された呼）を識別する番号。
この番号で、保留をトランク（回線）と同じように見たてて管理します。

発番号通知、外線発番号通知
ISDN 外線に発番号を通知するかどうかを指定する設定。「通知する」「通知しない」「網に従う」の 3 つの設定があります。「網に従う」（電話会社との契約に従う）の場合は、電話会社との契約に従った発番号（通知する / しない）を電話網が付けてくれます。

番号種別
オートダイヤルや電話帳に登録した番号がどんな番号であるかを、区別するもの。
番号の登録と一緒に登録します。
例えば 123456 と登録された番号が市内番号なのか、専用線の番号なのか、PBX の内線の番号なのかは番号だけでは識別できないので、それを識別するために使用するものです。

秘話解除
秘話モードを解除すること。電話機は通常 1 対 1 の通話で、他人が聞くことができない秘話モードになっています。これを解除することで、3 人以上で通話ができるようになります(多者通話)。
会議参加(最大 4 者)、または通話中に別の相手にダイヤルして会議通話(最大 4 者)を行うときに使用します。
参照:第 4 章の「外線通話中に他者を割り込ませる(外線秘話解除)」(➡ P.180)

プリセット
外線を捕捉してから発信するのではなく、あらかじめ番号を入力して番号がそろった所で発信する発信方法のこと。携帯電話での発信方法がこれにあたります。

フォロミー
自分の席の電話機にかかってくる内線を、移動先の内線に転送するように、移動先の電話機から登録することができる機能。

閉番号
専用線で複数のシステムを接続した場合、直接内線番号をダイヤルするだけで、他システムの内線に接続することができる番号です。

ボイスメール(機能)
相手のメールボックスに電話で音声のメッセージを送ることができる機能。
E メールのように相手が不在のときもメッセージを送っておくこと(留守番機能、代行機能)や、一度に複数の人にメッセージを送ることもできます。その他にも、通話を録音したり(通話録音)、外出先から自分のメールボックスを確認する(留守リモコン)など便利な機能があります。

ボイスワープ
NTT アナログ /INS 外線の付加サービスの 1 つ。転送電話機能のこと。

方路(方路番号)
同一の網に接続された外線の束をグループ化したもの。このグループを方路といい、グループ番号を方路番号といいます。

設定例:
NTT 外線を方路 0、PBX 外線を方路 1、専用線を方路 2 とすることで、方路選局発信で NTT や PBX や専用線を区別して発信できます。

保留警報状態
保留状態(システム保留、パーク保留、自己保留、一時保留)が設定時間以上続いて、保留警告音が鳴っている状態。

ま

メールボックス用電話帳
共通電話帳の一部で、メールボックスを登録した電話帳のこと。通話録音などの録音先の指定として使用します。

利用シーン:
コールセンター業務で通話録音する際に、その録音内容を残すメールボックス(担当部署の指定のために)を電話帳から選択して指定します。

メニューショートカット
特定のメニュー機能に飛べるボタンのこと。オートダイヤルボタンに登録します。
頻繁に使うメニュー機能を登録しておくことで、面倒なメニュー操作が楽になります。
参照:「A-8 メニューショートカット一覧表」(➡ P.432)
「1-3 サービスメニューの使いかた」(➡ P.17)

モード
機能の有効 / 無効を操作によって切り替えたときの状態のこと。
例えば不在モードとは不在状態になっている状態を示します。

や

呼出音
電話をかけたときに自分に聞こえる呼び出し音のこと。
リングバックトーン(RBT:Ring Back Tone)

ら

留守番電話機
留守モニタができる電話機。テナント内に 1 台設定できます。
参照:第 5 章の「留守番機能」(➡ P.224)

留守番モニタ
留守番応答時、留守番電話機で留守の録音内容をモニタ(聴取)している状態。
留守番モニタ中に留守番電話機の受話器を上げると、留守番モニタしていた着信者と通話できます。
いわゆる家庭の留守番電話機能。
参照:第 5 章の「留守番モニタ(居留守応答)」(➡ P.240)

留守リモコン
外線から留守モードの設定 / 解除や留守録音された用件の再生 / 消去ができる機能。
参照:第 3 章の「外出先から留守番電話機能を利用する(留守リモコン)」(➡ P.139)

A-2 特番一覧

特番サービスを利用すると、オートダイヤルボタンのない電話機でも、以下のような機能を行うことができます。特番は 1 ～ 3 桁の番号で設定されています。

工事設定

特番の初期値が設定されていない機能を利用する場合や、すでに設定されている特番の初期値を変更する場合には、工事設定が必要になります。詳しくは販売店にご相談ください。

呼種別 No.	特番名	初期値	付加データ	特番入力後に入力する情報
01	内線番号	S タイプ主装置： 10 ～ 39 [2 桁] M/L タイプ主装置： 100 ～ 399 [3 桁]	内線番号桁数（1 ～ 4）	–
02	閉番号	–	方路番号（0 ～ 63）、 閉番号桁数（1 ～ 11）	–
03	拡張内線番号	–	拡張内線番号桁数（1 ～ 4）	–
04	共通メールボックス番号（※）	80 ～ 89（2 桁）	共通 MBX 番号桁数（1 ～ 8）	–
08	迂回閉番号	–	閉番号桁数（1 ～ 4）、 迂回グループ番号（0 ～ 29）	–
09	迂回方路選局	–	迂回グループ番号（0 ～ 29）	–
10	方路選局	–	方路番号（0 ～ 63）	–
11	固定選局	–	回線種別（1 ～ 3） 1：VoIP、 2：ひかり、 3：PHS	–
12	自動選局	0	–	–
13	指定外線捕捉	963	–	外線番号 / 専用線番号 （01 ～ 99、001 ～ 192）
14	指定 MSA 捕捉	–	MSA グループ番号 （00 ～ 99、000 ～ 254）、 および MSA シーケンス番号 （0 ～ 254）	–
15	リダイヤル	964	–	–
16	共通電話帳	6	–	電話帳メモリ番号 （0000 ～ 9999）
17	個別電話帳	–	–	電話帳メモリ番号 （0000 ～ 9999）
19	パークシーケンス保留 / 応答	–	–	パークシーケンス番号 （000 ～ 127）

呼種別 No.	特番名	初期値	付加データ	特番入力後に入力する情報
20	パーク保留 / 応答	968	–	パークトランク番号 (000 ～ 127)
21	代理応答	966 (全て)	0:全て、 1:内線のみ、 2:内線 + 専用線、 3:外線のみ	–
22	任意パーク保留	–	–	–
23	グループ指定代理応答	960 (全て)	0:全て、 1:内線のみ、 2:内線 + 専用線、 3:外線のみ	代理応答グループ番号 (00 ～ 99)、 ＊(全グループ)、 ＃(自分の所属するグループ内)
24	集中着信	–	–	0:解除 1:登録
25	不在	–	–	不在理由を以下から選択。 0:解除、1:外出中、2:会議中、 3:来客中、4:食事中、 5:出張中、6:休暇中、 7:帰宅、8:直帰、 9:直行直帰
26	FAX 転送	999	–	–
27	DGL 呼数制限	–	–	0:解除、1:登録 + DGL グループ番号 (00 ～ 99、000 ～ 254)
28	最終保留応答	＊2	–	–
30	トーンオーバーライド (※)	–	–	–
31	フックフラッシュ送出	–	–	–
32	会議	–	–	–
33	内線割り込み通話	–	–	内線番号
35	内線予約	–	–	–
36	パークシーケンス保留	–	–	パークシーケンス番号 (000 ～ 127)
37	パーク保留	–	–	パークトランク番号 (000 ～ 127)
38	外線転送	–	付加情報 1 外線転送モード 1 ～ 8 付加情報 2 テナント番号 00 ～ 99	–
39	緊急一斉呼出	–	–	–
40	内線グループ音声呼出	＊0 (外部スピーカ無し)	0:外部スピーカ無し、 1 ～ 6:外部スピーカ番号(工事設定:1 ～ 6)、 7:全外部スピーカ	＊(全グループ)、 内線グループ番号(000 ～ 127)
42	内線グループ音声呼出応答	＃0	–	＊(全グループ)、 内線グループ番号(000 ～ 127)

呼種別No.	特番名	初期値	付加データ	特番入力後に入力する情報
43	外部スピーカ呼出	＊9	–	外部スピーカ番号 0：一斉（全スピーカ）、 M/L タイプ主装置の場合： 1 ～ 6、 S タイプ主装置の場合： 1 ～ 2
44	外部スピーカ応答	＃9	–	外部スピーカ番号 0：一斉（全スピーカ）、 M/L タイプ主装置の場合： 1 ～ 6、 S タイプ主装置の場合： 1 ～ 2
45	DGL グループ呼出	–	–	DGL グループ番号 （00 ～ 99、000 ～ 254）
46	メールアクセス	91	–	–
47	ドアホンアクセス	98	–	ドアホン番号 0：一斉（全ドアホン）、 M/L タイプ主装置の場合： 1 ～ 9、 S タイプ主装置の場合： 1 ～ 3
48	MSA グループ呼出（※）	–	–	MSA グループ番号 （00 ～ 99、000 ～ 254）
50	夜間切替	–	付加情報 1 テナント番号 00 ～ 99 付加情報 2 夜間モード： 1：夜間 A-1 2: 夜間 A-2 3: 夜間 A-3 4: 夜間 B	–
51	留守切替	–	付加情報 1 テナント番号 00 ～ 99 付加情報 2 （無し）	–
52	ドアロックリリース	–	電気錠番号 1 ～ 9	–
53	（W 機能）外線自動転送＆留守番	–	外線転送モード 1 ～ 8	–
54	（W 機能）外線自動転送＆手動夜間設定	–	付加情報 1 外線転送モード 1 ～ 8 付加情報 2 夜間モード： 1：夜間 A-1 2: 夜間 A-2 3: 夜間 A-3 4: 夜間 B	–
55	（W 機能）留守番＆手動夜間設定	–	夜間モード： 1：夜間 A-1 2: 夜間 A-2 3: 夜間 A-3 4: 夜間 B	–
61	ウェイクアップコール	–	–	0：解除 1：登録 登録の場合： 時刻 4 桁固定（0000 ～ 2359）
65	ハードフォン連携解除	–	–	–

呼種別No.	特番名	初期値	付加データ	特番入力後に入力する情報
73	音声非圧縮特番	–	–	–
74	転送リモコン(※)	92	–	–
75	留守リモコン(※)	93	–	–
76	セーフティリモコン	–	1. セーフティリモコン A 2. セーフティリモコン B	–
77	自動録音	–	–	自動録音モード 0:解除、1:設定
78	FMC 付加番号 DID 発信(※)	–	–	–
81	不在転送登録	–	–	着信回線種別(「詳細設定」の場合) 0:一括登録 1:内線着信 2:外線着信 3:専用線着信 4:発番号別 ※着信回線種別のあと、転送先を入力。詳細は、第 3 章の「不在転送先を設定する(不在転送設定) ー特番ー」(➡ P.115)を参照。

- (※)を付けた特番以外は、内線捕捉中に使用できる特番です。
- 共通メールボックス番号特番は、メールボックス指定時にのみ使用できます。
- トーンオーバーライド特番は、話中音(ビジートーン)が聞こえているときに使用できます。
- 内線番号特番、内線予約特番は、内線捕捉中のほか、話中音(ビジートーン)が聞こえているときにも使用できます。
- 転送リモコンと留守リモコンは、SIP 専用線での付加番号 DID 着信時は無効な特番です。
- 内線グループ音声呼出は、外線での付加番号 DID 着信時は無効な特番です。

A-3 各種機能の初期設定値

ここでは、特番サービスやオートダイヤルボタン以外の初期設定について、一覧でまとめて記載します。

機能名	初期設定値	操作説明の記載箇所
内線個別呼出（音声 / 信号）	トーン（信号）呼出	● 第 2 章の「内線番号をダイヤルしてかける（内線個別呼出（音声 / 信号））」（➡ P.67） ● 第 6 章の「内線番号をダイヤルしてかける（内線発信）」（➡ P.313） ● 第 7 章の「内線番号をダイヤルしてかける（内線発信）」（➡ P.336） ● 第 8 章の「内線番号をダイヤルしてかける（内線発信）」（➡ P.391）
ダイヤル転送	オンフックでの転送が可 ※ただし、外線への転送は不可	● 第 2 章の「転送先と通話してから転送する（ダイヤル転送）」（➡ P.78） ● 第 6 章の「現在通話中の相手を内線通話後に転送する（ダイヤル転送）」（➡ P.324） ● 第 7 章の「転送先と通話してから転送する（ダイヤル転送）」（➡ P.343） ● 第 8 章の「現在通話中の相手を内線通話後に転送する（ダイヤル転送）」（➡ P.402）
誤動作防止機能（内線自動給電停止）	給電を停止する	● 付録 B の「誤動作防止機能について」（➡ P.441）
転送中着信鳴動	鳴動する	● 第 3 章の「外線自動転送中に転送先と着信先の内線を同時に呼び出す（転送中着信鳴動）」（➡ P.109）
昼夜モードの切替設定	手動優先	● 第 3 章の「時間帯により着信形式を切り替える（夜間モード切替）」（➡ P.146）
通話録音保留応答時の MBX 切替指定	保留応答者の内線メールボックス	● 第 5 章の「通話録音（通話メモ）」（➡ P.253）

■ メールボックスの録音メッセージの状況と着信ランプのつきかた

メールボックスの録音メッセージの状況	着信ランプのつきかた（初期設定）
録音メッセージあり（新規メッセージあり）	遅点滅
録音メッセージあり（新規メッセージなし）	消灯
録音メッセージなし	消灯

■ ボイスメールシステムの動作条件（［ボイスメール属性］メニュー）

番号	項目	設定範囲	初期値
1	自動再生指定	自動再生する / 自動再生しない	自動再生する
2	自動消去指定	自動消去する / 自動保存する	自動保存する
3	再生順序指定	新しい順 / 古い順	新しい順
4	連続再生指定	連続再生する / 連続再生しない	連続再生する
5	メッセージ録音最大時間 ※留守番等	1 ～ 255 分	6 分
6	メッセージ録音最小時間	3 ～ 255 秒	3 秒
7	メッセージ再生スキップタイマ	5 ～ 60 秒	5 秒
8	通話録音時メッセージ録音最大時間	1 ～ 255 分	10 分
9	操作時メッセージ消去	ログオフ時 / 即時	ログオフ時

操作説明の記載箇所：第 5 章の「ボイスメールシステムの動作条件を設定する」（➡ P.267）

A-4 登録モード一覧表

待受状態で、保留を押すと、登録モードに入ることができます。
多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機 / 子機）、コードレス電話機（WSd）（子機）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）で操作できます。
登録モードからの終了操作は、サービスメニューと同じです。多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）はスピーカを押す、カールコードレス電話機（CL）（子機）、コードレス電話機（WSd）（子機）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は切を押すと待受画面に戻ります。

登録モードでは、以下の登録操作を行うことができます。

保留のあとに押すボタン	登録操作	表示されるサービスメニュー画面	参照先など
0	オートダイヤルボタンへの機能の割付	「ファンクション割付」画面	「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）
1	–	–	–
2	オートダイヤルボタンへの電話番号の割付（ワンタッチ割付）	「ワンタッチ割付」画面	「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに電話番号を登録する（ワンタッチ割付）」（➡ P.31）
3	内線相手により着信音色を区別するように設定（注）	「内線別着信音種」画面	第 1 章の「着信音色の選択」（➡ P.55）
4	オートダイヤルボタンへのメールボックスの割付	「メールボックス割付」画面	「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する」（➡ P.33）
5	システムでの ACR の利用の有無を設定（注）	「ACR 利用」画面 ※システム管理電話機のみ	–
6	不在代行や留守番機能で利用する応答用ガイダンスの録音（注）	「ユーザガイダンス指定」画面 ※システム管理電話機のみ	第 4 章の「代行 / 留守番 /IVR の応答ガイダンスを録音する（ユーザガイダンス録音）」（➡ P.211） 「5-3 基本的な使いかた」（➡ P.224）
7	内線名称の登録	システム管理電話機： 「内線対象指定」画面 →「名称登録」画面 一般ユーザ電話機： 「名称登録」画面	待機時内線番号 / 名称表示 「1-6 電話機への機能の登録」の「内線名称の登録」（➡ P.35）
8	システム共通カレンダーの日時の変更（注）	「日時変更」画面 ※システム管理電話機のみ	「1-5 カレンダー / 時計の設定」（➡ P.27）
9	オートダイヤルボタンへの内線 DSS ボタンの割付	「DSS 割付」画面	「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに内線 DSS 機能を登録する」（➡ P.34）
#	外線または内線の収容位置の確認（注）	「内線 / 外線収容位置」画面	内線の場合、指定した内線または自分の電話機の内線番号 / 端末番号 / 収容位置、端末種別を確認できます。 外線の場合、指定した（外線）の収容位置を表示します。
短縮/詳細	共通電話帳の登録	「メモリ番号指定」画面 ※システム管理電話機のみ	「1-7 電話帳の登録」の「登録先のメモリ番号を指定する」（➡ P.38）
機能	登録モードのショートカットヘルプの表示	–	–
（共通電話帳）	共通電話帳の登録	システム管理電話機： 「メモリ番号指定」画面 ※一般ユーザ電話機では操作できません。	あらかじめ、には、共通電話帳を割り付けておきます。 「1-7 電話帳の登録」の「登録先のメモリ番号を指定する」（➡ P.38）
（個別電話帳）	個別電話帳の登録	システム管理電話機： 「内線番号入力」画面 →「メモリ番号指定」画面 一般ユーザ電話機： 「メモリ番号指定」画面	あらかじめ、には、個別電話帳を割り付けておきます。 「1-7 電話帳の登録」の「登録先のメモリ番号を指定する」（➡ P.38）
（通話録音）	自動通話録音のオン / オフの切替	–	第 5 章の「自動で通話が録音されるように設定 / 解除する（自動通話録音）」（➡ P.256）

（注）多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）のみ適用されます。

A-5 機能特番の一覧

(機能)を押したあとに、番号をダイヤルすることにより、各サービスを実行することができます。これを機能特番と呼びます。機能特番の番号は固定です。
通常の特番サービス(➡ P.418)とは違い、(機能)を押して操作するため、通話中でも入力が可能です。
また、機能特番を入力している途中で(機能)を押すと、機能特番の入力のキャンセルができます。

機能特番は、(機能)がない電話機(コードレス電話機(WSd)、マルチラインシステムコードレス電話機(DECT-PS)など)で利用する場合でも、オートダイヤルボタンに(機能)を割り付けることにより操作できます。
また、オートダイヤルボタンにワンタッチダイヤルとして機能特番を登録することにより、ワンタッチボタンを押すだけで実行することができます。ただし、機能特番には、ワンタッチボタンを押したあと確認画面が表示されるものもあります。その場合は、必要な操作を行ったあと、(確定)を押して実行することができます。

機能特番の一覧は以下のとおりです。

機能特番の番号	機能名称	説明と参照先	備考
0	キーパッドファシリティ切替	キーパッドファシリティ送出モードをオンにすると、ISDN 回線通話中からのダイヤルをキーパッドファシリティとして送出することができます。 **参照:**第 4 章の「迷惑電話お断りサービスを利用する」(➡ P.193)	※ ISDN 外線のみ
1	ハンズフリー応答の設定 / 解除(マイクのオン / オフ)	内線、外線 / 専用線通話時に受話器を使わずに電話機内蔵のマイクとスピーカで通話できるようになります。 **参照:**第 3 章の「受話器を置いたままで通話する(ハンズフリー通話)」(➡ P.99)	–
2	送話ミュートの設定 / 解除	送話ミュートを設定することにより、受話器(ハンドセット)での通話時またはハンズフリー通話時の音声(送話)を通話相手に聞こえないようにすることができます。 **参照:**第 3 章の「通話相手にこちらの音声を聞こえないようにする(送話ミュート)」(➡ P.100)	–
3	外線捕捉時表示番号の確認	外線との通話中に、この操作を行うと、捕捉している外線の外線捕捉自己番号が電話機のディスプレイに表示されます(外線捕捉自己番号を設定している場合のみ)。	–
4	内線番号の確認	指定した内線または自分の電話機の内線番号 / 端末番号 / 収容位置、端末種別を電話機のディスプレイに表示して確認できます。	※多機能電話機、カールコードレス電話機(CL)(親機)のみ操作可能
5	リモート保守許可	工事者のリモート保守を許可します。 ※インターネット契約をした回線が主装置に接続されている必要があります。また、VPN(Virtual Private Network)接続の設定が必要です。	※多機能電話機、カールコードレス電話機(CL)(親機)のみ操作可能
60X	ドアロック指定解錠	ドアホン通話中、内線通話中、内線捕捉中にドアロックを開錠することができます。 **参照:**第 4 章の「電気錠を解錠する(ドアロックリリース)」(➡ P.204)	機能特番の番号の X には、以下の電気錠番号を入力できます。 M/L タイプ主装置の場合:1 ~ 9、S タイプ主装置の場合:1 ~ 3
61	遠隔保守開始	工事者の遠隔保守を許可します。 ※インターネット契約をした回線が主装置に接続されている必要があります。	※多機能電話機、カールコードレス電話機(CL)(親機)のみ操作可能
62	遠隔保守停止	工事者の遠隔保守を停止します。 ※インターネット契約をした回線が主装置に接続されている必要があります。	※多機能電話機、カールコードレス電話機(CL)(親機)のみ操作可能
63	PC 保守アクセス表示	遠隔保守は工事者が保守コンソール(PC 保守)を使用して行います。この機能特番を押すと、保守コンソールのアクセス状態を電話機のディスプレイに表示することができます。 ※インターネット契約をした回線が主装置に接続されている必要があります。	※多機能電話機、カールコードレス電話機(CL)(親機)のみ操作可能
66	主装置情報収集機能(情報 / ログファイル送信)	主装置で保持している各種情報を情報収集サーバへ送信することができます。 ※インターネット契約をした回線が主装置に接続されている必要があります。	※多機能電話機、カールコードレス電話機(CL)(親機)のみ操作可能
67	DECT-PS ログ収集機能	マルチラインシステムコードレス接続装置(DECT-CS)と電話機(DECT-PS)のログを収集することができます。 ※ログ収集の対象は運用中の全 DECT-PS と運用中の全 DECT-CS です。	※多機能電話機、カールコードレス電話機(CL)(親機)のみ操作可能

機能特番の番号	機能名称	説明と参照先	備考
84	回線使用制限（外線話中設定）の設定 / 解除	回線を閉塞状態にすることにより、一時的に回線の使用を制限することができます。複数の電話機から同一の外線 / 専用線 /MSA ボタンに対して閉塞の設定 / 解除ができます（その場合はあとの操作を反映します）。 **参照：**第 4 章の「外線 / 専用線からの着信を一時的に制限する（回線使用制限）」（➡ P.184）	機能特番を押したあと、閉塞の設定 / 解除する回線のボタンを押します。
87XXYYY または 87XXXYYY	DGL 一時呼数変更	指定した DGL グループの電話機に着信させる呼数を一時的に制限します。 ※この機能特番を登録したワンタッチボタンを押すと、一時的に着信制限する呼数を入力する画面が表示されます。実行するには、着信呼数を入力して（確定）を押してください。 **参照：**第 4 章の「DGL グループ電話機への着信呼数を制限する（DGL 呼数制限）」（➡ P.186）	2 桁モードの場合 XX：00 ～ 99（DGL グループ番号） 3 桁モードの場合 XXX：000 ～ 254（DGL グループ番号） YYY：000 ～ 255（着信呼数）
881X	【W 機能特番】 ・外線自動転送モード ・留守番モード	2 つの機能が登録できる機能特番です。この機能特番を操作することで、「外線自動転送モード」と「留守番モード」を一括でセット状態にすることができます。 またセット状態中に同操作を行うことで、解除状態にすることができます。 **参照：**第 3 章の「2 つの機能を 1 つの操作で設定できるようにする（W 機能セット）」（➡ P.154）	X：1 ～ 8（外線転送 1 ～ 8） ※多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）のみ操作可能
882XY	【W 機能特番】 ・外線自動転送モード ・手動夜間設定	2 つの機能が登録できる機能特番です。この機能特番を操作することで、「外線自動転送モード」と「手動夜間設定」を一括でセット状態にすることができます。 またセット状態中に同操作を行うことで、解除状態にすることができます。 **参照：**第 3 章の「2 つの機能を 1 つの操作で設定できるようにする（W 機能セット）」（➡ P.154）	X：1 ～ 8（外線転送 1 ～ 8） Y：1 ～ 5（1：昼間、2：夜間 A-1、3：夜間 A-2、4：夜間 A-3、5：夜間 B） ※多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）のみ操作可能
883X	【W 機能特番】 ・留守番モード ・手動夜間設定	2 つの機能が登録できる機能特番です。この機能特番を操作することで、「留守番モード」と「手動夜間設定」を一括でセット状態にすることができます。 またセット状態中に同操作を行うことで、解除状態にすることができます。 **参照：**第 3 章の「2 つの機能を 1 つの操作で設定できるようにする（W 機能セット）」（➡ P.154）	X：1 ～ 5（1：昼間、2：夜間 A-1、3：夜間 A-2、4：夜間 A-3、5：夜間 B） ※多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）のみ操作可能
884X	【W 機能特番】 ・外線着信鳴動拒否設定 ・不在設定（不在モード）	2 つの機能が登録できる機能特番です。この機能特番を操作することで、「外線着信鳴動拒否設定」と「不在設定（不在モード）」を一括でセット状態にすることができます。 またセット状態中に同操作を行うことで、解除状態にすることができます。 **参照：**第 3 章の「2 つの機能を 1 つの操作で設定できるようにする（W 機能セット）」（➡ P.154）	X：1 ～ 9（不在理由 1 ～ 9） ※多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）のみ操作可能
93X	BGM 放送の設定 / 解除	BGM 音源を接続して、電話機のスピーカから BGM を流すことができます。 BGM 放送の設定を ON にすると、内線が待機状態のときに BGM が流れます（各種着信鳴動中を除きます）。設定により、外部スピーカからも流すことができます。 ※この機能特番を登録したワンタッチボタンを押すと、外部音源の番号を確認する画面が表示されます。実行するには、ダイヤルボタンで外部音源の番号を入力したあと、（確定）を押してください。 **参照：**第 4 章の「外部音源との接続」（➡ P.206）	X：1 ～ 3（外部音源 1 ～ 3） ※多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）のみ操作可能
98	緊急地震速報キャンセル	主装置に緊急地震速報配信システムを接続することにより、電話機のディスプレイおよび外部スピーカから緊急地震速報を確認することができます。 地震速報中にこの操作を行うことで、地震速報の表示とガイダンスをキャンセルして、平常の状態に戻すことができます。 **参照：**第 4 章の「緊急地震速報を受信する（緊急地震速報）」（➡ P.200）	–
99	機能ランプ強制解除（機能セット一括削除）	電話機ごとに設定されている機能のうち、不在モード（不在転送）、外線着信鳴動拒否、子機サイレントを一括して解除できます。 ※この機能特番を登録したワンタッチボタンを押すと、確認画面が表示されます。実行するには、（確定）を押してください。	※ SIP 電話機以外の電話機 ただし、「子機サイレント」は、カールコードレス電話機（CL）（子機）、コードレス電話機（WSd）（子機）のみ

A-6 メロディー覧

保留メロディー覧

No	保留メロディ	作曲者名
1	愛の挨拶	ELGAR EDWARD
2	さくら	森山 直太郎
3	夏を抱きしめて	春畑 道哉
4	秋桜	さだ まさし
5	Everything	松本 俊明
6	花	ORANGE RANGE
7	世界に一つだけの花	槙原 敬之
8	ニューヨーク・シティ・セレナーデ	ALLEN PETER W
9	組曲「惑星」の木星	Gustav Holst
10	カノン	Johann Pachelbel
11	ユーザメロディ 1	−
12	ユーザメロディ 2	−
13	ユーザメロディ 3	−
14	ユーザメロディ 4	−

着信メロディー覧

No	着信メロディ	作曲者名
1	愛の挨拶	ELGAR EDWARD
2	さくら	森山 直太郎
3	夏を抱きしめて	春畑 道哉
4	秋桜	さだ まさし
5	Everything	松本 俊明
6	花	ORANGE RANGE
7	世界に一つだけの花	槙原 敬之
8	ニューヨーク・シティ・セレナーデ	ALLEN PETER W
9	組曲「惑星」の木星	Gustav Holst
10	カノン	Johann Pachelbel
11	黒電話	−
12	ステーション	−
13	ハープ	−
14	朝	−
15	ネクストステージ	−
16	琴	−
17	ユーザメロディ 1	−
18	ユーザメロディ 2	−
19	ユーザメロディ 3	−
20	ユーザメロディ 4	−

A-7 オートダイヤルボタン機能一覧表

各電話機のオートダイヤルボタンに割付できる機能（機能種別番号と機能名）および付加情報は、以下のとおりです。

機能種別No	機能名
01	リダイヤル
02	電話帳
03	代理応答
04	指定代理応答
05	夜間切替
06	クラス切替
08	自己保留
09	着信ウェイト
10	留守番
11	着信拒否切替
12	不在
13	通話表示
14	会議
15	内線予約
16	通話モニタ
17	PB 信号
18	キーパッド
21	発信
24	録音通知
25	時刻アラーム
26	着信表示
27	用件操作

機能種別No	機能名
28	ワン留守
29	通話録音
30	メールアクセス
31	録音終了
32	一時停止
33	録音転送※ 1
34	停電
35	拡張表示
36	着信拒否
37	コメント
38	外線転送
39	FAX
40	いらっしゃいまセンサ
41	警戒
42	MFP
43	消耗品
45	緊急一斉呼出
46	送話ミュート
47	サイレント
48	子機サイレント
49	マイク
50	電話帳ワンタッチ

機能種別No	機能名
51	ワンタッチボタン
52	DSS
53	メールボックス
54	ホテル管理 ※ 1
55	集中着信
59	DGL 呼数制限
60	機能
61	フラッシュ
62	W 機能（外線自動転送＆留守録）
63	W 機能（外線時号転送＆手動夜間設定）
64	W 機能（留守番＆手動夜間設定）
65	W 機能（着信鳴動拒否＆不在モード）
66	外線 / 専用線
67	ドアホン
68	DGL
69	MSA
70	方路発信
71	応答
72	パーク
74	メニューショートカット

※ 1　M/L タイプのみ割付可能

機能種別No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
01	リダイヤル	—	—	—	—	—
02	電話帳	電話帳種別（個別 / 共通）	1：共通電話帳 2：個別電話帳	—	—	—
03	代理応答	応答種別	1：全て 2：内線のみ 3：内線 + 専用線 4：外線のみ	—	—	代理応答グループ内の着信を代理応答
04	指定代理応答	応答種別	1：全て 2：内線のみ 3：内線 + 専用線 4：外線のみ	—	—	指定した代理応答グループ内の着信を代理応答（本ボタンを押したあとにグループ番号をダイヤル）
05	夜間切替	テナント番号	00 ～ 99	ワンタッチ切替	1; なし 2：夜間 A-1 3：夜間 A-2 4：夜間 A-3 5：夜間 B	—

機能種別No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
06	クラス切替	—	—	—	—	—
07	—	—	—	—	—	—
08	自己保留	動作指定	1:乗り換え 2:チェンジオーバー	—	—	初期設定で割付済(カールコードレス電話機(CL)(子機)を除く)
09	着信ウェイト	—	—	—	—	—
10	留守番	テナント番号	00 ～ 99	留守番動作指定	1: 設定に従う 2:ユーザ選択方式	—
11	着信拒否切替	テナント番号	00 ～ 99	—	—	多機能電話機、カールコードレス電話機(CL)(親機)のみ割付可能
12	不在	—	—	—	—	—
13	通話表示	—	—	—	—	—
14	会議	—	—	—	—	—
15	内線予約	—	—	—	—	—
16	通話モニタ	—	—	—	—	—
17	PB 信号	—	—	—	—	—
18	キーパッド	—	—	—	—	—
19	—	—	—	—	—	—
20	—	—	—	—	—	—
21	発信	—	—	—	—	—
22	—	—	—	—	—	—
23	—	—	—	—	—	—
24	録音通知	—	—	—	—	—
25	時刻アラーム	—	—	—	—	多機能電話機、カールコードレス電話機(CL)(親機)のみ割付可能
26	着信表示	—	—	—	—	—
27	用件操作	操作種別	1:前のメッセージ 2:次のメッセージ 3:頭出し 4:保存 5:消去 6:一時停止 7:早送り 8:巻戻し 9:メッセージ転送	メールボックス番号(1 ～ 4 桁) ※付加情報 1 が「9:メッセージ転送」の場合のみ設定	0000 ～ 9999	
28	ワン留守	—	—	—	—	ワンショット留守番機能を起動する
29	通話録音	—	—	—	—	通話録音を開始する。通話録音中に押すと通話録音を取り消す。
30	メールアクセス	—	—	—	—	メールアクセスする
31	録音終了	—	—	—	—	通話録音を終了する

機能種別No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
32	一時停止	—	—	—	—	通話メモ録音を一時停止する
33	録音転送	—	—	—	—	録音転送を実施する
34	停電	—	—	—	—	—
35	拡張表示	—	—	—	—	発着歴の桁あふれ表示用
36	着信拒否	—	—	—	—	—
37	コメント	コメント番号	01 ～ 50	—	—	録音中に押すことで録音メッセージにタイトルかコメントを登録可能
38	外線転送	外線転送モード	1 ～ 8	テナント番号	00 ～ 99	—
39	FAX	FAX 番号（FAX1/FAX2）	1、2	—	—	FAX への着信の有無を表示
40	いらっしゃいまセンサ	いらっしゃいまセンサグループ	1：いらっしゃいまセンサ A 2：いらっしゃいまセンサ B	—	—	いらっしゃいまセンサ A / いらっしゃいまセンサ B のモード設定 / 解除。 マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は割付不可
41	警戒	セーフティグループ	1：警戒 A 2：警戒 B	—	—	セーフティ A / セーフティ B のモード設定 / 解除。 マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は割付不可
42	MFP	プリンタ No	01 ～ 30： プリンタ番号	—	—	プリンタ複合機（MFP）の現在の状態を表示する
43	消耗品	プリンタ No	00：全プリンタ 01 ～ 30： プリンタ番号	—	—	プリンタ複合機（MFP）の消耗品情報を表示する
44	—	—	—	—	—	—
45	緊急一斉呼出	—	—	—	—	多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）のみ割付可能
46	送話ミュート	—	—	—	—	—
47	サイレント	—	—	—	—	多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）のみ割付可能
48	子機サイレント	—	—	—	—	カールコードレス電話機（CL）（子機）、コードレス電話機（WSd）（子機）のみ割付可能
49	マイク	—	—	—	—	マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は割付不可

機能種別No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
50	電話帳ワンタッチ	電話帳種別（個別 / 共通）	—	（電話帳メモリ番号）	—	［ファンクション割付］メニューではなく、［電話帳ワンタッチ割付］メニューで登録（➡ P.30）
51	ワンタッチボタン	ダイヤル情報最大32 桁（※） ※ネスティング入力可	—	（番号種別）	—	［ファンクション割付］メニューではなく、［ワンタッチ割付］メニューで登録（➡ P.31）
52	DSS	内線番号最大 4 桁	0000 ～ 9999	—	—	［ファンクション割付］メニューではなく、［DSS 割付］メニューで登録（➡ P.34）
53	メールボックス	共通内線番号（1 ～ 4 桁）	0000 ～ 9999	表示種別	1：詳細 2：一覧	メールセンターにアクセスする（クイックログオン）。 メールアクセス / クイックメッセージ録音でメールボックス番号を指定する。 ［ファンクション割付］メニューではなく、［メールボックス割付］メニューで登録（➡ P.33）
54	ホテル管理	0：チェックイン 1： チェックアウト 2：清掃開始 3：清掃完了 4：点検完了 5：外出 6：在室 7：ウェイクアップコール 8：メッセージウェイティング 9：客室情報表示 10：故障 11：ルームチェンジ	0～19（予備含む）	—	—	マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）は割付不可。 販売店による工事設定のみ可能
55	集中着信	—	—	—	—	—
56	—	—	—	—	—	—
57	—	—	—	—	—	—
58	—	—	—	—	—	—
59	DGL 呼数制限	DGL グループ番号	00 ～ 99/ 000 ～ 254	—	—	—
60	機能	—	—	—	—	—
61	フラッシュ	—	—	—	—	—
62	W 機能（外線自動転送＆留守録）	外線転送モード	1 ～ 8	—	—	—
63	W 機能（外線自動転送＆手動夜間設定）	外線転送モード	1 ～ 8	夜間モード	1：夜間 A-1 2：夜間 A-2 3：夜間 A-3 4：夜間 B	—

機能種別No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
64	W 機能（留守番＆手動夜間設定）	夜間モード	1：夜間 A-1 2：夜間 A-2 3：夜間 A-3 4：夜間 B	—	—	—
65	W 機能（着信鳴動拒否＆不在モード）	不在理由	1 ～ 9	—	—	—
66	外線 / 専用線	外線番号（回線 / 仮想 SC）	01.00 ～ 24.99/ 40.00 ～ 41.26	—	—	販売店による工事設定のみ可能。 外線ボタンは、初期設定で割付済
67	ドアホン	ドアホン番号	1 ～ 9（M/L タイプ主装置の場合）、 1 ～ 3（S タイプ主装置の場合）	—	—	販売店による工事設定のみ可能
68	DGL	DGL グループ番号	000 ～ 254	—	—	販売店による工事設定のみ可能
69	MSA	MSA グループ番号	000 ～ 254	シーケンス番号	000 ～ 254	販売店による工事設定のみ可能
70	方路発信	方路番号	00 ～ 63	—	—	販売店による工事設定のみ可能
71	応答	方路指定	0：指定無し、 1：指定有り	（方路指定有りのときだけ）方路番号	00 ～ 63	販売店による工事設定のみ可能
72	パーク	パーク番号	000 ～ 127	—	—	パーク保留 / 保留応答する。 販売店による工事設定のみ可能。
73	—	—	—	—	—	—
74	メニューショートカット	—	—	—	—	サービスメニューからのみ割付可能
75	—	—	—	—	—	—

A-8 メニューショートカット一覧表

オートダイヤルボタンにメニューショートカットを登録しておくと、待機中にメニューショートカットボタンを押すことで、そのボタンに登録された任意のメニュー画面を 1 操作で表示することができ、メニュー操作の各階層をショートカットで起動することができます。
ここでは、メニューショートカットに登録できるメニュー画面について、一覧でまとめてあります。

■ メニューショートカットボタンを割り付けるには

登録したいサービスメニューの画面を表示した状態で、機能を押したあと、未登録のオートダイヤルボタンを押します。この操作により を、表示中のメニュー画面へのメニューショートカットボタンとして割り付けることができます。

MEMO

- 機能がない電話機（コードレス電話機（WSd）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）など）で利用する場合でも、オートダイヤルボタンに（機能）を割り付けることにより操作できます。オートダイヤルボタンへの機能の割り付けについては、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」（➡ P.28）を参照してください。
- メニューショートカットボタンの割り付けを解除する方法は、オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する方法と同じです。第 1 章の「オートダイヤルボタンへの機能の登録を削除する」（➡ P.29）を参照してください。

■ メニューショートカットに登録できるメニュー画面

：システム管理電話機でのみ操作可能（一般ユーザ電話機では操作できない）項目

注意

システム管理電話機でメニューショートカットボタンを登録したあと、その電話機を一般ユーザ電話機に変更した場合は、システム管理電話機でのみ操作可能なメニューを登録したメニューショートカットボタンはエラーになります。

メニュー階層 1	メニュー階層 2	メニュー階層 3	メニュー階層 4	メニュー階層 5
1. 履歴（発信 / 着信）	1. 発信履歴	–	–	–
	2. 共通着信履歴	–	–	–
	3. 個別着信履歴	–	–	–
2. 電話帳	1. 新規登録	1. 共通電話帳	–	–
		2. 個別電話帳	XXX（内線番号）	–
	2. 一覧表示	1. 共通電話帳一覧	–	–
		2. 個別電話帳一覧	–	–
	3. 番号検索	1. 共通電話帳	1. メモリ No. 検索	–
			2. カナ検索	–
		2. 個別電話帳	XXX（内線番号）	1. メモリ No. 検索
				2. カナ検索
	4. 電話帳グループ	1. 共通電話帳	–	–
		2. 個別電話帳	XXX（内線番号）	–
3. 内線一覧	1. 一覧表示	–	–	–
	2. 内線検索	–	–	–
	3. 内線カナ検索	–	–	–
4. 転送設定	1. 不在転送設定	–	–	–
	2. 話中転送設定	–	–	–
	3. 無応答転送設定	–	–	–
	4. 圏外転送設定	–	–	–
	5. 外線転送設定	–	–	–
	6. DGL 無応答転送設定	–	–	–

メニュー階層 1	メニュー階層 2	メニュー階層 3	メニュー階層 4	メニュー階層 5
	7. MSA 無応答転送設定	−	−	−
	8. 一般無応答転送設定	−	−	−
	9. 転送リモコン用暗証番号	−	−	−
5. 録音関連設定	1. 留守番設定	−	−	−
	2. メールボックス録音通知設定	−	−	−
	3. メッセージの一括削除	−	−	−
	4. メールボックス暗証番号	−	−	−
	5. ボイスメール属性	−	−	−
6. オートダイヤル	1. ファンクション割付	−	−	−
	2. メールボックス割付	−	−	−
	3. DSS 割付	−	−	−
	4. ワンタッチ割付	−	−	−
	5. 電話帳ワンタッチ割付	−	−	−
	6. 割付クリア	−	−	−
7. 応答ガイダンス管理	1. 転送元ガイダンス設定	−	−	−
	2. 転送先ガイダンス設定	−	−	−
	3. ユーザガイダンス管理	−	−	−
	4. 着信ウェイトガイダンス	−	−	−
8. 音設定	1. 着信音量	1. 外線着信音量	−	−
		2. 内線着信音量	−	−
		3. ドアホン着信音量	−	−
		4. 話中着信音量	−	−
	2. ハンドセット受話音量	−	−	−
	3. スピーカ受話音量	−	−	−
	4. メロディ設定	−	−	−
	5. ボタン押下音設定	−	−	−
	6. 側音量	−	−	−
	7. 各種音種	1. 外線別着信音種	−	−
		2. 内線別着信音種	−	−
		3. 話中着信音設定	−	−
		4. 標準保留音種	−	−
		5. システム間外線着信音	XXX（SIP 専用線グループ番号）	−
9. 表示設定	1. 着信ランプ	1. 外線一般系着信	−	−
		2. 外線個別着信	−	−
		3. 専用線着信	−	−
		4. 内線着信	−	−
		5. ドアホン着信	−	−
		6. 録音表示	−	−
		7. 時刻アラーム	−	−
		8. FAX 着信	−	−
		9. 不応答着信	−	−
	2. 履歴表示設定	1. 発信履歴	−	−
		2. 着信履歴	−	−

メニュー階層 1	メニュー階層 2	メニュー階層 3	メニュー階層 4	メニュー階層 5
	3. 表示形式設定	1. 着信表示設定	−	−
		2. 待機表示設定	−	−
		3. 時刻表示設定	−	−
		4. 表示文字設定	−	−
		5. LCD コントラスト調整	−	−
		6. LCD バックライト設定	−	−
0. その他	1. システム情報	1. システムバージョン確認	−	−
		2. 内外線収容位置表示	−	−
	2. システム設定	1. システム管理電話機設定	−	−
		2. ACR 利用	−	−
		3. 全電話機アラーム解除	−	−
		4. 理由表示設定	−	−
		5. 迷惑電話番号	−	−
		6. 発信禁止番号	−	−
		7. FAX 設定	−	−
		8. チャイムタイマ設定	−	−
	3. カレンダー / 時計設定	1. 日時変更	−	−
		2. 祝祭日登録	−	−
		3. 特定日登録	−	−
		4. 休日パターン	−	−
	4. 電話機	1. 外線着信鳴動拒否	−	−
		2. ハンズフリー応答設定	−	−
		3. 時刻アラーム	−	−
		4. ヘッドセット接続設定	−	−
		5. 子機サイレント設定 ※カールコードレス電話機（CL）（子機）、コードレス電話機（WSd）（子機）のみ	−	−
		6. エニーキー応答設定 ※マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）のみ	−	−
	5. ネットワーク	1. 主装置	−	−
		2. IPST	−	−
		3. SIPT	−	−
		4. その他 IP	−	−
		5. IPHO	−	−
		6. IPKD	−	−
		7. IPFU	−	−
		8. BRGI	−	−
		9. IPVMLC	−	−
		0. IPZC	−	−
	6. セーフティ設定	1. セーフティグループ A	−	−
		2. セーフティグループ B	−	−
		3. 威嚇音設定	−	−

メニュー階層 1	メニュー階層 2	メニュー階層 3	メニュー階層 4	メニュー階層 5
	7. 名称設定	1. DGL グループ名称	−	−
		2. MSA グループ名称	−	−
		3. テナント名称	−	−
		4. ドアホン名称	−	−
		5. 外部スピーカ名称	−	−
		6. リレー名称	−	−
		7. 外部センサ名称	−	−
		8. メールボックス名称	−	−
	8. コンテンツ設定	1. ですく deRSS 利用設定	−	−
		2. コンテンツ表示	−	−
	9. 手動バックアップ	−	−	−

付録 B

B-1 故障かな？とお考えになる前に …… 438

B-1 故障かな？とお考えになる前に

こんなとき	お確かめください
多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）（親機）	
すべての電話機の表示が消えている。 またはランプが点灯しない。	● 主装置の電源プラグが電源コンセントから抜けていませんか。
電話機の表示が消えている。 またはランプが点灯しない。	● 電話機コードのモジュラープラグが外れていませんか。
電話機の表示が消えている。 または黒く表示されている。	● コントラストがかすれていませんか。 ● コントラスト調整を行ってください。（➡ P.15） ● 誤動作防止機能が働いていませんか。（➡ P.441）
電話機の（機 能）のランプが消えなくなった。	● 誤って機能が登録されている可能性があります。機能セット一括解除の操作を行って解除してください。（➡ P.440）
カールコードレス電話機（CL）（子機）、コードレス電話機（WSd）（子機）	
子機がまったく作動しない。	● 電池残量が少なくありませんか。（➡ P.289） ● 誤動作防止機能が働いていませんか。（➡ P.441）
子機から着信音が鳴らない。	● 着信音量が「OFF」になっていませんか。（➡ P.291）（表示部に「S」マークが付いていませんか（➡ P.281）） ● 親機と離れすぎていませんか。（➡ P.285）
子機で（通話）を押すとエラー音が聞こえる。	● 親機の電話機コードのモジュラープラグが外れていませんか。 ● 親機と離れすぎていませんか。（➡ P.285） ● 子機を他の電話機の近くに置いていませんか。（➡ P.284）
子機を充電器に置いても、充電器の充電ランプが点灯しない。	● 充電端子が汚れていませんか。（➡ P.289） ● 充電器の AC アダプタが電源コンセントから外れていませんか。（➡ P.288）
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）	
まったく作動しない。	● 電源は入っていますか。（➡ P.368） ● 電池残量が少なくありませんか。（➡ P.369） ● 電池パックは十分に充電されていますか。また、AC アダプタが充電器または電源コンセントから抜けていませんか。（➡ P.367） ● 電池パックは正しく取り付けられていますか。（➡ P.364） ● 電池パックは消耗していませんか。（➡ P.364） ● 誤動作防止機能が働いていませんか。（➡ P.441）
電話がかけられない。 または、着信音が鳴らない。	● 着信音量が「OFF」になっていませんか。（➡ P.378）（表示部に「S」マークが付いていませんか）（➡ P.381） ● 電池パックは十分に充電されていますか。（➡ P.367） ● 接続装置から離れすぎていたり、表示部に「圏外」と表示されていませんか。（➡ P.358） ● 近くに雑音を発生する機器がありませんか。 ● 着信音が鳴らないように設定されていませんか。（➡ P.382） ● 接続装置の電話機コードが正しく接続され電源と通話のランプが正常に点灯または点滅していますか。（➡ P.351）
通話が時々とぎれる。	● 接続装置から離れすぎていませんか。（➡ P.356） ● 近くに雑音を発生する機器がありませんか。また、接続装置との間に電波をさえぎる障害物はありませんか。 ● アンテナの向きを変えたり、場所を移動すると良くなりませんか。（➡ P.358）

こんなとき	お確かめください
電話機で 通話 を押すとエラー音が聞こえる。	● 接続装置の電話機コードのモジュラープラグが外れていませんか。（➡ P.351） ● 接続装置と離れすぎていませんか。（➡ P.356） ● 他の電話機の近くに置いていませんか。（➡ P.356）
充電中に充電ランプが点灯しない。	● AC アダプタが充電器または電源コンセントから抜けていませんか。（➡ P.367）
規定時間以上充電しても使用できない。	● AC アダプタが充電器または電源コンセントから抜けていませんか。（➡ P.367） ● 電池パックが寿命になっていませんか。（➡ P.364）
発信や着信応答の操作ができない。	● アンテナの表示が消灯していませんか。消灯している場合は、点灯を待ってから、もう一度操作してください。 ● キーロックが設定されていませんか。（➡ P.406） ● ダイヤルロックが設定されていませんか。（➡ P.407）
接続装置（DECT-CS）の近くにいても「圏外」と表示される。	● 故障または接続装置（DECT-CS）の子機最大登録数を超えている可能性があります。販売店にご相談ください。

機能ランプをリセットするには

外線着信鳴動拒否、不在設定、不在転送などの設定で、機能ランプが点灯したままになることがあります。
そのような場合は、機能ランプのリセットを行ってください。
機能ランプをリセットすると、各電話機に設定されている外線着信鳴動拒否、不在設定、不在転送のすべてが解除されます。
機能ランプをリセットするには、機能特番「機能セット一括解除」を利用します。機能特番については、「A-5 機能特番の一覧」（➡ P.424）を参照してください。

1 機能 を押す

- 待受状態で使用します。
- 機能 ランプは点灯（赤）します。

2 ラ9 ラ9 を押す

≪機能ランプ強制解除≫

機能 ランプが点滅（赤）します。

3 機能 を押す

≪機能ランプ強制解除≫
解除しました

機能 ランプが消灯します。
しばらくすると、待受画面に戻ります。

MEMO

- オートダイヤルボタンにワンタッチダイヤルとして機能特番 99 を登録することにより、ワンタッチボタンを押すだけで実行することができます。
- 機能 がない電話機（コードレス電話機（WSd）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）など）で利用する場合でも、オートダイヤルボタンに（機能）を割り付けることにより操作できます。

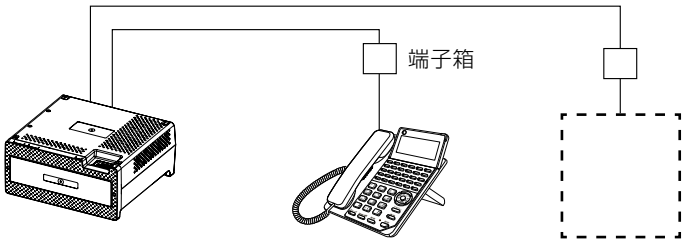
誤動作防止機能について

端子箱に一定時間（※ 1）電話機が接続されていないと、設定により（※ 2）誤動作防止機能が自動的に働きます。この機能が働くと、内線電話機への給電が停止されるため、内線電話機を端子箱に接続しても動作しません。

内線電話機をご使用になりたいときは、主装置の電源スイッチをいったん切るか、他の電話機から解除操作を行ってください。

※ 1：電源スイッチを入れてから約 24 時間または、電話機を端子箱から外して 24 時間以上経過すると誤動作防止機能が働きます。

※ 2：誤動作防止機能の初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」（➡ P.422）を参照してください。



MEMO

誤動作防止機能が自動的に働くのは、多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）、コードレス電話機（WSd）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）です。

誤動作防止機能を解除するには（給電停止中の内線電話機の給電を開始するには）

内線一覧または詳細画面で内線を選択して、給電停止中の内線電話機の給電を開始することができます。

1 内線一覧または詳細画面で、内線名称を登録 / 修正したい内線を選択して、確定を押す

内線一覧または詳細画面の表示については、「内線一覧 / 詳細画面を表示する」（➡ P.161）を参照してください。

≪内線一覧≫
内線 10　：山田太郎
内線 11　？佐藤部長
内線 12　X鈴木

2 で［4：子機給電］を選択して、確定を押す

内線 10
山田太郎
3名称削除
4子機給電

3 で［＊：はい］を選択して、確定を押す

≪子機給電≫
給電を開始しますか？
1いいえ
＊はい

MEMO

- ここでの「子機」は、主装置に接続されている内線電話機です。
- 誤動作防止機能の解除の操作ができるのは、多機能電話機、カールコードレス電話機（CL）、コードレス電話機（WSd）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）です。
- 以下のような場合は子機給電開始時にエラーになり、電話機のディスプレイに「電話機給電できません」と表示されます。
  ①すでに給電中の内線を選択した場合（すでに給電 ON 中）
  ②対象となる電話機（上記）以外を選択した場合（給電対象外内線）
  ③省エネモード中に給電開始操作を行った場合（省エネ給電 OFF 中）
  ④バッテリ給電中に給電開始操作を行った場合（バッテリ給電 OFF 中）

索 引

数字

184 発信 …… 86
186 発信 …… 86

D

DGL 一時呼数変更機能特番 …… 186
DGL グループ呼出特番 …… 91
DGL 呼数制限 …… 186
DGL 着信 …… 95
DGL 無応答転送設定 …… 126
DIL/DID 着信 …… 71
DSS 割付 …… 34

F

FAX 設定 …… 158
FAX 着信お知らせ …… 157
FAX 転送先指定 …… 332
FAX 転送特番 …… 333
FAX 内線の設定 …… 295, 410

I

INS ナンバーディスプレイ …… 190
INS ボイスワープ …… 190
INS ボイスワープセレクト …… 190
IP5X …… 360
IPX5 …… 360
IPX7 …… 360
IP アドレス …… 210
IP 電話サービス …… 194
IVR …… 96
i・ナンバー …… 136, 139, 192

L

LAN インターフェース …… 195
LCD コントラスト調整 …… 15, 290, 383
LCD バックライト設定 …… 16, 290, 383

M

MBX 転送 …… 266
MSA 着信 …… 95

P

PBX 外線接続 …… 197
PB エンド・ツー・エンド通信 …… 101
PB 信号手動切替 …… 101

S

SIP 専用線 …… 196

T

TEL/FAX 自動切替 …… 332

V

VoIP 外線 …… 194

W

WAN インターフェース …… 195
Web 設定 …… 209
W 機能セット …… 154

あ

相手先登録 …… 105
アナログ電話機
　特番ダイヤル …… 331
　特有の機能 …… 331
　ファクシミリの利用 …… 332
　フッキング操作 …… 331
暗証番号登録（ダイヤルロック）（DECT-PS 独自機能）
…… 408
アンテナサーチ（DECT-PS 独自機能） …… 358

い

一時保留 …… 341
一般系無応答転送 …… 125
一般無応答タイマ指定 …… 125
一般無応答転送設定 …… 125
一般ユーザ電話機 …… 7
イヤホンマイク接続時のトーン送出先設定（DECT-PS 独自機能） …… 409
居留守応答 …… 240

え

エニーキー応答設定 …… 406
遠隔保守 …… 424

お

応答ガイダンス…… 211, 229
応答録音…… 239
オートダイヤルボタン
機能特番を登録する …… 32
機能の登録を削除する …… 29, 299, 372
機能を登録する …… 28, 298, 371
電話帳を登録する …… 30, 304, 377
電話番号を登録する …… 31, 302, 375
内線 DSS 機能を登録する …… 34, 301, 374
メールボックスを登録する …… 33, 300, 373
オートダイヤルボタン機能一覧…… 427
オートポーズ…… 197
オートリピート…… 84
音の種類一覧
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 283
多機能電話機 …… 7
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）…… 355
オフフック外線自動応答…… 70
オフフック自動外線捕捉…… 60, 334
オフフック自動ダイヤル…… 82
オフフック自動ダイヤル開始タイマ…… 82
音声自動応答（IVR）…… 96
音声呼出…… 67
オンフック FAX 転送 …… 333
オンフックダイヤル…… 82

か

カールコードレス電話機（CL）
親機から子機へ通話を切り替える …… 306
子機から親機へ通話を切り替える …… 305
メニュー操作 …… 305
会議通話…… 179, 312, 335
会議特番…… 335
［会議］ボタン…… 179
外線自動転送…… 103
設定項目 …… 104
転送モードを自動で ON/OFF …… 111
転送モードを手動で ON/OFF …… 110
回線使用制限…… 184
外線着信代行の設定…… 252
外線着信鳴動拒否…… 185
外線通話中にできる操作…… 171
外線通話中メニュー…… 170
外線転送起動時間…… 109
外線転送メール送信…… 200
外線発信…… 307, 385
外線秘話解除…… 180
外線別個別着信（DIL）…… 71
外線別着信音種…… 57, 94
ガイダンス応答録音…… 245
外部 FTP サーバへの保存 …… 275
外部音源との接続…… 206
外部スピーカ応答特番…… 201, 315, 337, 393
外部スピーカ呼出特番…… 201, 315, 337, 393
各種機能の初期設定値…… 422
カナ検索…… 65, 161, 173, 309, 388
画面の表示内容
詳細画面 …… 162
内線一覧 …… 162
カレンダー / 時計の設定…… 27

き

キーパッドファシリティ切替機能特番…… 193
キーロック（DECT-PS 独自機能） …… 406
記入シート…… 9
機能特番一覧…… 424
機能ボタン…… 32, 72, 99, 100, 424
機能ボタン＋短縮 / 詳細ボタン…… 84, 92
キャッチホン…… 188, 340
キャッチホンサービス…… 101
強制転送…… 79, 344
強制転送警報…… 79
共通電話帳…… 37
共通電話帳特番…… 335
緊急地震速報…… 200
緊急ダイヤル発信…… 88

く

クイック通話（DECT-PS 独自機能） …… 405
クイックメッセージ録音…… 268
クイックログオン…… 261
グループ指定代理応答…… 73, 318, 339, 396
グループ指定代理応答特番… 73, 318, 339, 396

け

圏外代行…… 251
圏外転送…… 129
設定項目 …… 130

こ

公一公接続…… 98
口頭転送…… 77, 325, 403
構内放送装置との接続…… 201
構内放送呼出…… 315, 337, 393
構内放送呼出応答…… 201
コールウェイティング…… 182
コールスピーカとの接続…… 206
コールピックアップ…… 73
子機サイレントの設定…… 296
子機（電話機）が圏外にでると …… 285, 358
故障かな？とお考えになる前に…… 438

個別電話帳…… 37
ゴムパッキン…… 363
コメント登録…… 255, 273
[コメント] ボタン…… 255, 273
コントラストの調整…… 15, 290, 383

さ

サービスメニュー
一般ユーザ電話機 …… 18
カールコードレス電話機(CL)(子機)/ コードレス電話機(WSd)(子機) …… 297
システム管理電話機 …… 19
ボタンの使いかた …… 17
マルチラインシステムコードレス電話機(DECT-PS) …… 370
最終保留応答特番…… 75, 76
在宅モード…… 238
再通知(メッセージ録音再通知)…… 271
[サイレント] ボタン…… 185

し

識別着信音…… 38, 41, 42
時刻アラーム…… 159
自己保留…… 76, 321, 399
システムカレンダー…… 149
システム全体の祝祭日 …… 150
自テナントの特定日 …… 153
タイマ連動設定 …… 149
テナントで使用する休日パターン …… 152
システム管理電話機…… 7
システム間連携機能…… 196
システム選択(DECT-PS 独自機能) …… 411
システム保留…… 75, 320, 398
指定外線捕捉…… 83
指定外線捕捉特番…… 83
[指定代理応答] ボタン…… 73
自動選局特番…… 60, 82, 334
自動選局発信…… 60, 334
自動通話録音…… 256
自動録音特番…… 256
集中着信…… 148
集中着信特番…… 148
充電端子のお手入れ…… 289
充電と接続のしかた…… 288, 367
終了ガイダンス…… 141
受話音量調節
多機能電話機 …… 10
省エネモード…… 208

す

スピーカ受話…… 100, 410
スピーカ受話音量の調節…… 11, 293, 380
スピーカボタン…… 82, 191

せ

切断信号の送出…… 331

そ

操作ガイド…… 220, 274
送話ミュート…… 100
側音量…… 13

た

代行機能…… 245
タイマ連動設定…… 111, 149
ダイヤル転送…… 78, 324, 343, 402
ダイヤルライト(DECT-PS 独自機能) …… 384
ダイヤルロック(DECT-PS 独自機能) …… 407
ダイヤルロックの暗証番号登録(DECT-PS 独自機能) …… 408
代理応答…… 73, 318, 339, 396
コールピックアップ …… 73
代理応答特番…… 73, 318, 339, 396
[代理応答] ボタン…… 73
多者通話…… 179
短縮 / 詳細ボタン(短縮ボタン)… 20, 40, 63, 387

ち

チェンジオーバー…… 80, 327, 346, 404
チャイムタイマ連動…… 160
着サブ DID …… 136, 139
着信ウェイトガイダンス…… 133
[着信ウェイト] ボタン…… 132
着信ウェイトメッセージ…… 132, 133
着信音量の調節
カールコードレス電話機(CL)(子機)/ コードレス電話機(WSd)(子機) …… 291
多機能電話機 …… 12
マルチラインシステムコードレス電話機(DECT-PS) …… 378
着信回線の種別…… 123
[着信拒否切替] ボタン…… 4, 178
[着信拒否] ボタン…… 177
着信形式の指定…… 43
着信種別…… 129
着信音色の選択…… 55
着信ランプ切替…… 51
着信ランプ表示色の設定…… 58
着信履歴メール送信…… 199
着番号 DID …… 71
昼夜モード…… 146
長時間保留警報…… 75, 320, 398

つ

通知可能時間帯…… 270
通話モニタ…… 181
通話録音（通話メモ）…… 253
［通話録音］ボタン…… 253, 254

て

ディスプレイ
コントラストの調整 …… 15, 290, 383
バックライト点灯の調整 …… 16, 290, 383
ディスプレイ画面の例
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 282
多機能電話機 …… 5
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 354
ディスプレイの見かた
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 281
多機能電話機 …… 4
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 353
停電用電話機…… 207
ですく deRSS …… 198
転送開始特番…… 189
転送先ガイダンス…… 131
転送先指定…… 107
転送先種別…… 113, 123, 129, 134
転送中着信鳴動…… 104, 109, 422
転送特番…… 190
転送元ガイダンス…… 131
転送元電話番号受信サービス…… 192
転送リモコン…… 136
転送リモコン特番…… 136
転送リモコン用暗証番号…… 138
電池残量
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 289
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 369
電池パック
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 286
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 364
電波に関する注意
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 285
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 357
電波の強さ
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 289
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 369
電話機操作規制（キーロック）…… 155
電話機の角度調節…… 8
電話機の正面図
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 279
多機能電話機 …… 2
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 350
電話帳グループ…… 40
着信ランプの色 …… 51
名前の登録 …… 50
電話帳に登録できる項目…… 38
電話帳の表示（一覧 / 詳細）…… 172
電話帳の編集・削除…… 47
電話帳発信…… 63, 309, 335, 387
電話帳ワンタッチ…… 30, 311, 390
電話番号検索…… 173

と

ドアホンアクセス特番…… 316, 394
ドアホン着信…… 319, 340, 397
ドアホン着信応答…… 202
ドアホンモニタ…… 204
ドアホン呼出…… 316, 394
ドアロック指定解錠機能特番…… 204
ドアロックリリース…… 204
登録モード一覧…… 423
トーンオーバーライド…… 183
トーンオーバーライド特番…… 183
トーン送出先（DECT-PS 独自機能） …… 409
特番一覧…… 418

な

内線 DGL 呼出 …… 91
内線一覧…… 161
子機給電 …… 441
呼び出し …… 162
内線オートリピート…… 92
内線キャンプオン…… 92
内線グループ音声呼出…… 90, 314, 336, 392
内線グループ音声呼出応答特番…… 90, 314
内線グループ音声呼出特番… 90, 314, 336, 392
内線グループ呼出…… 167
内線毎 FAX 指定 …… 158
内線個別呼出（音声 / 信号）…… 67
内線に転送
ワンタッチダイヤルボタン …… 97
内線発信…… 313, 336, 391
内線発着信履歴…… 69
内線ハンズフリー応答…… 72
内線ハンズフリー応答の設定…… 295

内線プリセット発信…… 68
内線別着信音種…… 55
内線捕捉状態…… 164
内線捕捉中メニュー…… 163
内線無応答タイマ指定…… 126
内線名称…… 35
内線予約特番…… 92
[内線予約] ボタン…… 92
内線リダイヤル…… 68
内線割り込み通話特番…… 180
内線ワンタッチコール…… 89
ナンバーディスプレイ…… 187, 331

に

任意外線着信応答…… 70
任意外線発信…… 60

ね

ネスティングダイヤル…… 84
ネットワーク…… 194

は

パーク保留…… 75, 322, 342, 400
パーク保留 / 応答特番…… 323, 342, 401
バイブレータ着信(DECT-PS 独自機能) …… 382
バックライト点灯の調整…… 16, 290, 383, 384
発信禁止番号登録…… 87
サービスメニューから …… 87
発着信履歴から …… 87
発信付加情報の選択…… 44
発信ボタン…… 60
発着信履歴から電話帳に登録する…… 46
バッテリーパワーセーブ…… 208
発番号 DID …… 136, 139
発番号ダイヤルイン…… 187
発番号通知…… 86
発番号非通知…… 86
発番号別着信音…… 187
パネル…… 9
ハンズフリー通話…… 99
ハンドセット受話音量調節…… 292, 379

ひ

ビハインド接続…… 197
表示可能文字数
電話帳登録名称 …… 39
標準保留音種…… 54

ふ

ファンクション割付…… 28
不応答着信(個別)お知らせ …… 156
フォロミー…… 121, 326
付加番号 DID …… 71, 143
不在 ON/OFF …… 119
不在代行の設定…… 245
不在転送…… 113, 326, 345
設定項目 …… 114, 117
不在転送先の設定…… 113, 115
不在転送登録特番…… 115, 116, 247
不在特番…… 119, 345
不在ボタン…… 326
不在理由の編集…… 120
フッキング信号…… 101
フッキング操作…… 331
フックフラッシュ送出…… 101
フックフラッシュ送出特番…… 340
プッシュ信号(PB) …… 145
フラッシュボタン… 61, 78, 79, 80, 86, 97, 155
プリセットダイヤル…… 61

へ

ヘッドセット
電話を受ける …… 206
電話をかける …… 206
ヘッドセットとの接続…… 205

ほ

ボイスメール機能…… 216
ボイスメールシステムの動作条件…… 267
ボイスワープ…… 189
防水 / 防塵性能…… 360
方路選局特番…… 83
方路選局発信…… 83
ボタン押下音切替…… 14, 293, 380
ボタンのバックライト点灯の調整(DECT-PS 独自機能) …… 384
保留音の設定…… 54

ま

マイクをオン…… 72
マナーモード時のバイブレーションの設定…… 381
マナーモードの設定 / 解除(DECT-PS 独自機能) …… 381

む

無応答代行の設定…… 250
無応答タイマ
一般系着信時 …… 125
個別着信時 …… 122
無応答転送…… 122
無応答転送の設定項目
一般系着信時 …… 128
個別着信時 …… 124
無線接続開始音（DECT-PS 独自機能） … 369, 382
無線に関する注意
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 284
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 356

め

鳴動電話機…… 91, 94, 95
迷惑着信拒否特番…… 193
迷惑電話お断りサービス…… 193
迷惑電話番号…… 176
迷惑電話番号の登録…… 176, 177
迷惑電話番号の変更…… 178
メールアクセス特番…… 261, 262
［メールアクセス］ボタン…… 260, 268
メールサービス…… 259
メールボックス…… 216
メールボックス暗証番号…… 222
変更する …… 223
メールボックス間メッセージ転送…… 266
メールボックスにログオン
外線から利用する …… 262
内線から利用する …… 260
メールボックスへ転送…… 266
メールボックス用電話帳…… 257
メールボックス録音通知…… 270
メールボックス割付…… 33
メッセージ一覧表示画面からできる操作…… 265
メッセージ外部保存（手動 / 自動）…… 275
メッセージ再生スキップタイマ…… 267
メッセージ再生中にできる操作…… 264
一時停止 / 再開 …… 264
早送り / 巻戻し …… 264
メッセージの保存 …… 264
メッセージの画面表示…… 220
メッセージの再生…… 263
メッセージの消去…… 265
メッセージへのコメントの追加…… 255, 273
メッセージ録音通知…… 141, 255, 269
メニューショートカット一覧…… 432
メモリ番号検索…… 64, 310, 389
メロディ一覧…… 426
メロディ設定…… 52

も

文字入力の方法
カナ（半角）の入力 …… 25
漢字（全角）の入力 …… 23
濁点・半濁点の入力 …… 21
文字入力ボタン一覧…… 22
文字入力モードの切り替え…… 20
文字の修正 / 挿入 / 削除…… 24
文字の入力…… 21
モデムダイヤルイン…… 71, 136, 139, 188

や

［夜間切替］ボタン…… 147
夜間モード
自動で切り替える …… 148
手動で切り替える …… 147

ゆ

ユーザガイダンス管理…… 211
ユーザガイダンス録音…… 211
試聴する …… 213
録音する …… 211

よ

［用件操作］ボタン…… 263, 264
用語説明…… 414

ら

ランプ表示
カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）（子機） …… 283
多機能電話機 …… 6
マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS） …… 355

り

リセットコール…… 89, 313, 391
リダイヤル…… 61, 308, 334, 386
リダイヤル特番…… 308, 334, 386
［リダイヤル］ボタン…… 61, 68
リモートコールバック…… 144
応答後の電話のかけかた …… 145
設定する …… 144
略図の説明…… xxvii, 278, 349
履歴の削除…… 66, 69
履歴発信…… 66, 311, 390

る

ルータ機能…… 195
留守番起動時間…… 238
留守番グループの動作選択…… 141
留守番電話機の切替…… 241
[留守番] ボタン…… 225
留守番モード…… 140, 224
自動切替 …… 233
設定 / 解除（手動切替） …… 225
留守番モニタ…… 240
留守番録音用メールボックス…… 141
留守リモコン…… 139
留守リモコン特番…… 139
留守リモコン用暗証番号…… 142

ろ

録音通知設定…… 270, 271
録音通知方法… 232, 236, 244, 246, 269, 272
[録音通知] ボタン…… 255
録音メッセージの外部保存…… 275
自動転送 …… 275
手動転送 …… 275

わ

話中代行の設定…… 249
話中着信音…… 93
話中着信音設定…… 294, 409
話中転送…… 134
設定項目 …… 135
割込通話…… 180
割付クリア…… 29, 299, 372
ワンショット留守番…… 242
応答する …… 244
ワンタッチダイヤル…… 62
ワンタッチボタン…… 311, 390
ワンタッチ割付…… 31, 32
[ワン留守] ボタン…… 242

操作早見表

電話をかける / 着信を受ける / 転送する / 電話帳登録 / カナ検索についての操作早見表です。
ここでは、以下の電話機の操作早見表を載せています。

- 多機能電話機
  カールコードレス電話機（CL）（親機）の操作は多機能電話機と同じです。
- カールコードレス電話機（CL）（子機）/ コードレス電話機（WSd）
- マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）
- デジタルコードレス電話機（UM）
- アナログ電話機

MEMO

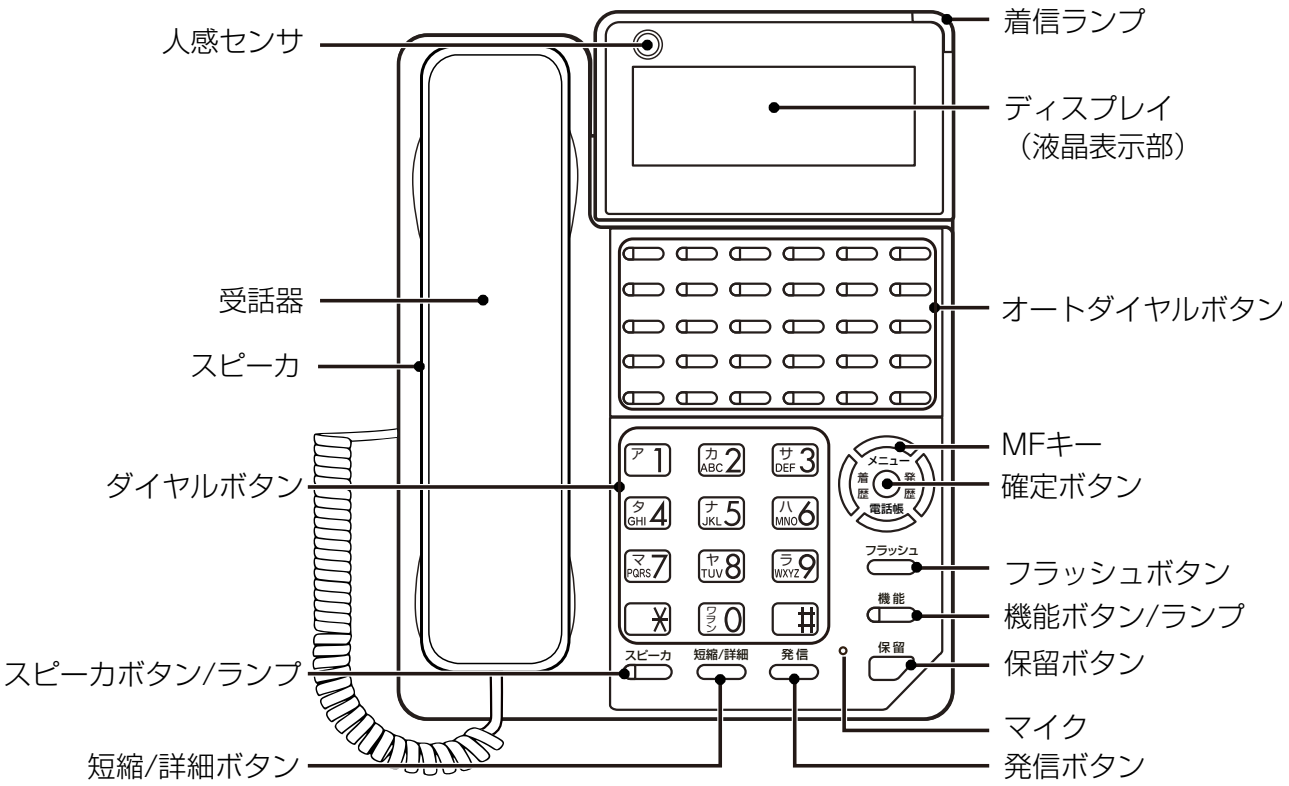
カールコードレス電話機（CL）（子機）、コードレス電話機（WSd）（子機）、マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）、デジタルコードレス電話機（UM）は、親機または充電器から上げている状態を基本とします。

PLATIA Ⅲ

操作早見表

多機能電話機
TD1010/TD1020

●詳しくは、取扱説明書をご覧ください。



（※）上図は、30 個のオートダイヤルボタンを持つ機種の絵です。
18 個のオートダイヤルボタンを持つ機種もあります。
2 つの機種の使いかたは同じです。

- 特番をダイヤルする箇所には、[　　]欄を設けていますので、実際にご使用になる特番をご記入ください。
- 特番については販売店にお問い合わせください。

音量の調節	(▽):音が小さくなる　(△):音が大きくなる
受話音量を調節する	通話中に(△)で音量を調節できます。
スピーカ受話音量を調節する	スピーカ受話中にスピーカからの音量を(△)で調節できます。
着信音量を調節する	着信中に(△)で音量を調節できます。 ● 一般系着信（一般着信、MSA 着信、DGL 着信）のときは、この方法では調節できません。 待受中に調節するには (確定) ➡ [ヤ TUV 8] [8：音設定] ➡ [ア 1] [1：着信音量] ➡ 着信音量の種類 ➡ (△)で音量を調節 ➡ (確定) ● 一般ユーザ電話機の場合には、(確定)のあと、[マ PQRS 7] [7：音設定] を選択します。 ● 着信音量の種類は、[1：外線着信音量]、[2：内線着信音量]、[3：ドアホン着信音量]、[4：話中着信音量] から選択します。

外　線

電話をかける	受話器を取ってかける	➡ (発信)、《自動選局特番[　　]》、または ランプが消灯している (外線) ➡ 電話番号 ➡ <通話> ➡ ● (ワンタッチボタン)、(短縮/詳細) などを押して電話をかけることもできます。
	電話番号を確認してからかける（プリセットダイヤル）	電話番号 ➡ (発信)、または ランプが消灯している (外線) ➡ 相手の応答する声が聞こえたら ➡ <通話> ➡ ● 電話番号を間違えたときは (フラッシュ) を押すと一文字ずつ消すことができます。
	最後にかけた相手にかけ直す（リダイヤル）	➡ (リダイヤル)、または (短縮/詳細) [#] ➡ <通話> ➡ ● (リダイヤル)はあらかじめ登録しておく必要があります。 ● (外線)を押してから (リダイヤル)を押すと、回線指定して電話できます。
電話を受ける		<着信音> ➡ ➡ 点滅している (外線) ➡ <通話> ➡ ● (外線)は初期設定で割り付けられています。 ● オフフック外線自動応答が設定されている場合は、(外線)を押さなくても通話できます。
保　留	外線を一時的に保留する（一時保留）	**保留するとき**： <通話中> ➡ [保留] ➡ <保留状態> ➡ ➡ <呼び返し> ➡ ➡ <通話> **通話に戻るとき**：
	他の電話機で取れないように保留する（自己保留）	**保留するとき**： <通話中> ➡ (自己保留) ➡ **通話に戻るとき**： 点滅している (自己保留) ➡ ➡ <通話> ● (自己保留)は初期設定で割り付けられています。保留した自分の電話機でのみ再応答できます。
	システムの中で取れるように保留する（システム保留）	**保留するとき**： <通話中> ➡ [保留] ➡ **通話に戻るとき**： 点滅している (外線) ➡ ➡ <通話> ● システム内の他の電話機から再応答できます。
	パークグループの中だけで取れるように保留する（パーク保留）	**保留するとき**： <通話中> ➡ (パーク) ➡ **通話に戻るとき**： 保留に使用した (パーク) ➡ ➡ <通話> ● パークグループ内の他の電話機からも再応答できます。 ● (パーク)はあらかじめ登録しておく必要があります。工事設定
転　送	口頭で取り次ぐ	**転送する人**：<通話中> ➡ [保留] ➡ ➡ 口頭で呼びかけて用件を伝える **転送を受ける人**： ➡ 点滅している (外線)または (パーク) ➡ <通話>
	転送先と通話してから転送する（ダイヤル転送）	**転送する人**：<通話中> ➡ [保留] ➡ 転送したい人の電話番号 ➡ <通話> ➡ (フラッシュ) ➡
	一斉・特定のグループを音声で呼び出して転送する	**転送する人**：<通話中> ➡ [保留] ➡《内線グループ音声呼出特番[　　]》 ➡ 内線グループ番号 ➡ 音声で呼び出す ➡ <内線通話>（相手が応答した場合） ➡ (フラッシュ) ➡ 内線グループ番号：[0][0][0]～[1][2][7] ● グループに所属する内線電話とグループ番号はあらかじめ登録しておきます。工事設定 ● 初期設定では、グループ番号 000 には、すべての内線電話が登録されています。 **転送を受ける人**：<音声呼出> ➡ ➡《内線グループ音声呼出応答特番[　　]》 ➡ 内線グループ番号（呼び出されているグループの番号） ➡ <内線通話> ➡ 転送する人が (フラッシュ) ➡ <通話>

内　線

電話をかける	内線を呼び出す （内線トーン（信号）呼出）	➡ 内線番号 ➡ <通話> ➡ ● 内線番号のあとに ＊ を複数回押すたびに、音声での内線呼び出しと着信音での内線呼び出しを交互に切り替えることができます。 ● 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック自動外線捕捉）を行っている場合、オフフックの前に スピーカ を押します。 ● （内線 DSS）にあらかじめ内線番号を割り付けておくとボタン１つで呼び出すことができます。
	音声で呼び出す （内線音声呼出）	➡ 内線番号 ➡ ＊ ➡ 呼びかける ➡ <通話> ➡ ● 内線番号のあとに ＊ を複数回押すたびに、音声での内線呼び出しと着信音での内線呼び出しを交互に切り替えることができます。
	内線番号を確認してからかける （プリセットダイヤル）	内線番号 ➡ スピーカ ➡ 相手の応答する声が聞こえたら ➡ <通話> ➡ ● 電話番号を間違えたときは フラッシュ を押して削除してください。
	最後にかけた相手にかけ直す （リダイヤル）	➡ （リダイヤル）➡ <通話> ➡ ● （リダイヤル）はあらかじめ登録しておく必要があります。
電話を受ける		<着信音または音声（着信ランプ点滅）> ➡ ➡ <通話> ➡
保　留	内線を一時的に保留する （一時保留）	**保留するとき**： <通話中> ➡ 保 留 ➡ <保留状態> ➡ ➡ <呼び返し> ➡ ➡ <通話> **通話に戻るとき**：
	他の電話機で取れないように保留する （自己保留）	**保留するとき**： <通話中> ➡ （自己保留） ➡ **通話に戻るとき**： 点滅している （自己保留） ➡ ➡ <通話> ● （自己保留）は初期設定で割り付けられています。保留した自分の電話機でのみ再応答できます。
	パークグループの中だけで取れるように保留する （パーク保留）	**保留するとき**： <通話中> ➡ （パーク） ➡ **通話に戻るとき**： 保留に使用した （パーク） ➡ ➡ <通話> ● パークグループ内の他の電話機からも再応答できます。 ● （パーク）はあらかじめ登録しておく必要があります。 工事設定
転　送	口頭で取り次ぐ	**転送する人**：<通話中> ➡ 保 留 または （パーク） ➡ ➡ 口頭で呼びかけて用件を伝える **転送を受ける人**： ➡ 点滅している （パーク） ➡ <通話> ● （パーク）はあらかじめ登録しておく必要があります。 工事設定
	転送先と通話してから転送する （ダイヤル転送）	**転送する人**：<通話中> ➡ 保 留 ➡ 転送したい人の内線番号 ➡ <通話> ➡ フラッシュ ➡
一斉・特定のグループを音声で呼び出す	呼び出す	➡ 《内線グループ音声呼出特番［　　］》 ➡ 内線グループ番号 ➡ 音声で呼び出す ➡ <内線通話>（相手が応答した場合） ➡ 内線グループ番号：0 0 0 ～ 1 2 7 ● グループに所属する内線電話とグループ番号はあらかじめ登録しておきます。 工事設定 ● 初期設定では、グループ番号 000 には、すべての内線電話が登録されています。
	受ける （呼び出しに答える）	➡ 《内線グループ音声呼出応答特番［　　］》 ➡ 内線グループ番号（呼び出されているグループの番号） ➡ <内線通話> ➡

不在時の設定

自動転送	不在時の転送を設定する	(不在) ➡ で不在理由を選択 ➡ 確定 ● (不在)はあらかじめ登録しておきます。 ● 不在理由は、9種類(1: 外出中、2: 会議中、3: 来客中、4: 食事中、5: 出張中、6: 休暇中、7: 帰宅、8: 直帰、9: 直行直帰)の中から選択できます(初期設定の場合)。
		➡《不在特番[ ]》➡ 1～9で不在理由を選択 ➡
	不在時の転送を解除する	点灯(赤)している(不在)
		➡《不在特番[ ]》➡ 0(不在解除) ➡
	不在時の転送先を設定する	確定 ➡ 4[4:転送設定] ➡ 1[1:不在転送設定] ➡ 内線番号 (不在転送を設定する内線電話機を指定) ➡ 着信種別 ➡ 転送先種別 ➡ 転送先の電話番号 ➡ 確定 ● 着信種別は、[1:内線着信転送]、[2:外線着信転送]、[3:専用線着信転送]、[4:発番号別転送]、[5:不在転送一括設定](すべての着信に対して同じ転送先を設定)から選択します。 ● 転送先種別は、[1:内線転送]、[2:外線転送]、[3:内線代表転送]、[4:DGLグループ]、[5:転送無し<切断>]、[6:転送無し<着信>]から選択します。

検索して電話をかける

サービスメニューを使う

1 待受状態で確定を押す

2 で[2:電話帳]を選び、確定を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
1履歴(発信/着信)
2電話帳
3内線一覧

3 で[3:番号検索]を選び、確定を押す

≪電話帳≫
1新規登録
2一覧表示
3番号検索

4 で[1:共通電話帳]を選び、確定を押す

≪電話帳指定≫
1共通電話帳
2個別電話帳

5 [2:カナ検索]を選び、確定を押す

≪共通-電話帳検索≫
1ﾒﾓﾘ No 検索
2ｶﾅ検索

6 検索する名前のフリガナを入力して確定を押す

≪共通-ｶﾅ検索≫ <半>
<ｽｽﾞｷ>
短縮:入力ﾓｰﾄﾞ切替

7 検索結果から で相手を選び、確定を押す

≪共通電話帳一覧≫
0011:鈴木一郎
0012:田中携帯
0002: 支社

8 で[1:発信]を選び、確定を押したあと、

≪共通-電話帳≫ No:0011
鈴木一郎
1発信
2184 発信

- 手順4で[2: 個別電話帳]を選択することもできます。
- メモリ番号から検索する場合は、手順5で[1:ﾒﾓﾘNo 検索]を選択したあと、登録されているメモリ番号を入力してください。
- 待受状態で を押すと手順6の≪共通-ｶﾅ検索≫画面が表示されます。フリガナは1～5文字で入力します。

短縮ダイヤルを使う

1 のあと、短縮/詳細を押す

2 メモリ番号を入力する

≪共通-ﾒﾓﾘ No 発信≫
0011
*個別切替 #ﾘﾀﾞｲﾔﾙ

3 かけたい相手が選択されていることを確認して、発信を押す

≪共通電話帳一覧≫
0011:鈴木一郎
0012:田中携帯
0002: 支社

- 複数の電話番号が登録されている場合は、1つの電話番号を選択してから発信します。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お買い上げ日	年　月　日
販売店名	電話(　　)　-

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、まずお買い上げの販売店へお申し付けください。

サクサ株式会社

1816BH 226-1 D

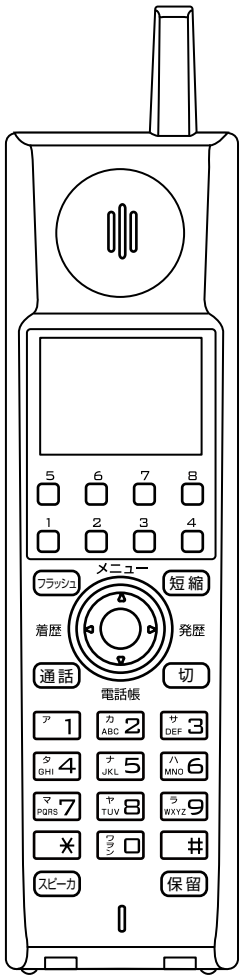
4438400500

PLATIA Ⅲ

操作早見表

コードレス電話機（WSd）（子機）
WS1000
カールコードレス電話機（CL）（子機）
CL1020

●詳しくは、取扱説明書をご覧ください。



電話をかける	外線にかける	通話 ➡《自動選局特番［　　］》➡ 電話番号 ➡ <通話> ➡ 切
		＜プリセットダイヤルの場合＞ 電話番号（※）➡ 通話 ➡ <通話> ➡ 切
	内線にかける	通話 ➡ 内線番号 ➡ <通話> ➡ 切
		＜内線プリセット発信の場合＞ 内線番号（※）➡ スピーカ ➡ <通話> ➡ 切
かけ直す		□（リダイヤル）➡ <通話> ➡ 切
		＜サービスメニューを使用する場合＞ ◎ ➡ ◎ で発信履歴を選択 ➡ 通話 ➡ <通話> ➡ 切
電話を受ける		<着信音> ➡ 通話 ➡ <通話> ➡ 切 ● 子機が親機または充電器にある場合には、通話の代わりに「子機を充電器からあげる」ことで受けることもできます。
一時的に保留する		<通話中> ➡ 保留 ➡ <保留状態> ➡ 切 ➡ <呼び返し> ➡ 通話 ➡ <通話> ➡ 切
転送	外線を口頭で転送	**（転送する人）** <通話中> ➡ 保留 ➡ 切 ➡ 口頭で連絡「○○さん△△番に外線です」 工事設定 ● 保留の代わりに□（パーク）を利用することもできます。
		（受ける人） 点滅している□（外線）➡ <通話> ➡ 切 工事設定 ● 転送する側が□（パーク）を押した場合、該当する番号の□（パーク）を押して応答できます。
	内線番号で転送	<通話中> ➡ 保留 ➡ 転送先内線番号 ➡ <通話> ➡ フラッシュ ➡ 切

（※）電話番号をダイヤルしてから 通話 を押して電話をかける（プリセットダイヤル）場合は、電話番号を間違えたときに次の操作でダイヤルしなおすことができます。

・ 番号の最後から１ケタずつ消すとき：フラッシュ
・ 番号すべてを消してダイヤルしなおすとき：切

- コードレス電話機（WSd）およびカールコードレス電話機（CL）の親機または充電器から上げている状態を基本とします。
- □（リダイヤル）、□（パーク）はあらかじめ登録しておきます。工事設定
- □（外線）は、初期設定で割り付けられています。
- 特番をダイヤルする箇所には、［　　］欄を設けていますので、実際にご使用になる特番をご記入ください。
- 特番については販売店にお問い合わせください。

自動転送	不在時の転送を設定する	(不在) ➡ ◎で不在理由を選択 ➡ 確定 ● (不在)はあらかじめ登録しておきます。
		通話 ➡《不在特番[　　]》➡ 1～9で不在理由を選択 ➡ 切
	不在時の転送を解除する	点灯(赤)している(不在)
		通話 ➡《不在特番[　　]》➡ 0(不在解除) ➡ 切
	不在時の転送先を設定する	**(内線/外線/専用線からの着信を内線に転送する場合)** 通話 ➡《不在転送登録特番[　　]》➡ 1～3で着信種別を選択(0:一括登録) ➡転送先の内線番号を入力➡ ＊ ➡ 0/1でツインコールの有無を選択 ➡ ＊ ➡ 切 **(内線/外線/専用線からの着信を外線に転送する場合)** 通話 ➡《不在転送登録特番[　　]》➡ 1～3で着信種別を選択(0:一括登録) ➡ ＊ ➡転送先種別0を選択➡転送先の電話番号を入力➡ ＊ ➡ 0/1でツインコールの有無を選択 ➡ ＊ ➡ 切　　※ [　　] は省略可 ● 発番号別の転送先設定(着信種別4)や内線 / 外線以外の転送先(転送先種別1～9)については、『取扱説明書(多機能電話機編)』または『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

検索して電話をかける

サービスメニューを使う

1 待受状態で確定を押す	2 ◎で[電話帳]を選び、確定を押す	3 ◎で[番号検索]を選び、確定を押す	4 ◎で[共通電話帳]を選び、確定を押す
	≪ﾒﾆｭｰ≫ 履歴(発信 / 着信) 電話帳	≪電話帳≫ 一覧表示 番号検索	≪電話帳指定≫ 共通電話帳 個別電話帳

5 ◎で「カナ検索」を選び、確定を押す	6 検索する名前の1～5文字を入力して確定を押す	7 検索結果から◎で相手を選び、確定を押す	8 ◎で[発信]を選び、確定を押す
≪共-電話帳検索≫ ﾒﾓﾘ NO 検索 ｶﾅ検索	≪共-ｶﾅ検索≫ <半> <ｽｽﾞｷ>	≪共通電話帳一覧≫ 0011:鈴木一郎 0012:田中携帯	≪共-電話帳≫ NO:0011 鈴木一郎 発信

- 手順 4 で[個別電話帳]を選択することもできます。
- メモリ番号から検索する場合は、手順 5 で[ﾒﾓﾘ NO 検索]を選択したあと、登録されているメモリ番号を入力してください。
- 待受状態で◎を押すと手順 6 の≪共-ｶﾅ検索≫画面が表示されます。
- 複数の電話番号が登録されている場合は、手順 8 のあと 1 つの電話番号を選択してから発信します。

短縮ダイヤルを使う

1 待受状態で短縮を押す	2 メモリ番号を入力する	3 かけたい相手が選択されていることを確認して、確定を押す	4 ◎で[発信]を選び、確定を押す
	≪共通-ﾒﾓﾘ NO 発信≫ 0011 ＊:個別切替　#:ﾘﾀﾞｲﾔﾙ	≪共通電話帳一覧≫ 0011:鈴木一郎 0012:田中携帯	≪共-電話帳≫ NO:0011 鈴木一郎 発信

- 複数の電話番号が登録されている場合は、手順 4 のあと 1 つの電話番号を選択してから発信します。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お買い上げ日	年　　月　　日
販売店名	電話(　　)　　-

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、まずお買い上げの販売店へお申し付けください。

サクサ株式会社

1822BH 226-1 D

4438401100

PLATIA Ⅲ

操作早見表

マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）
PS800（NB）

●詳しくは、取扱説明書をご覧ください。
●スリープ状態から操作する場合は、最初に［切］を押してください。

電話をかける	外線にかける	［通話］➡《自動選局特番［　　］》➡ 電話番号 ➡ <通話> ➡ ［切］
		＜プリセットダイヤルの場合＞ 電話番号（※）➡ ［通話］➡ <通話> ➡ ［切］
	内線にかける	［通話］➡ 内線番号 ➡ <通話> ➡ ［切］
		＜内線プリセット発信の場合＞ 内線番号（※）➡ ［スピーカ］➡ <通話> ➡ ［切］
かけ直す		［　］（リダイヤル）➡ <通話> ➡ ［切］
		＜サービスメニューを使用する場合＞ ［◎］➡［◎］で発信履歴を選択 ➡ ［通話］➡ <通話> ➡ ［切］
電話を受ける		<着信音> ➡ ［通話］➡ <通話> ➡ ［切］ ●「エニーキー応答」を設定しておくと、［ワ 0］～［ラ WXYZ 9］または［ロック ＊］のいずれかを押すだけで、電話を受けることができます。
一時的に保留する		<通話中>➡［保留］➡ <保留状態> ➡ ［切］➡ <呼び返し> ➡ ［通話］➡ <通話> ➡ ［切］
転送	外線を口頭で転送	**（転送する人）** <通話中>➡［保留］➡［切］➡ 口頭で連絡「○○さん△△番に外線です」 工事設定 ●［保留］の代わりに［　］（パーク）を利用することもできます。
		（受ける人） 点滅している［　］（外線）➡ <通話> ➡ ［切］ 工事設定 ●転送する側が［　］（パーク）を押した場合、該当する番号の［　］（パーク）を押して応答できます。
	内線番号で転送	<通話中> ➡［保留］➡ 転送先内線番号 ➡ <通話> ➡［フラッシュ］➡［切］
利用可能な接続装置に接続する（アンテナサーチ）		「混み合っています」が表示された状態 ➡［短縮］（2秒以上長押し）➡ <点滅> ➡ <点灯> ●アンテナサーチ実行中は、アンテナピクトが点滅します。接続装置（DECT-CS）に接続されると、アンテナピクトが点灯に戻ります。

（※）電話番号をダイヤルしてから［通話］を押して電話をかける（プリセットダイヤル）場合は、電話番号を間違えたときに次の操作でダイヤルしなおすことができます。

・番号の最後から１ケタずつ消すとき：［フラッシュ］
・番号すべてを消してダイヤルしなおすとき：［切］

- マルチラインシステムコードレス電話機（DECT-PS）を充電器から上げている状態を基本とします。
- ［　］（リダイヤル）、［　］（パーク）はあらかじめ登録しておきます。 工事設定
- ［　］（外線）は、初期設定で割り付けられています。
- 特番をダイヤルする箇所には、［　　］欄を設けていますので、実際にご使用になる特番をご記入ください。
- 特番については販売店にお問い合わせください。

自動転送	不在時の転送を設定する	(不在) ➡ で不在理由を選択 ➡ 確定 ● (不在)はあらかじめ登録しておきます。
		通話 ➡《不在特番[　　]》➡ ア 1 ～ WXYZ 9 で不在理由を選択 ➡ 切
	不在時の転送を解除する	点灯(赤)している (不在)
		通話 ➡《不在特番[　　]》➡ 0 (不在解除) ➡ 切
	不在時の転送先を設定する	**(内線/外線/専用線からの着信を内線に転送する場合)** 通話 ➡《不在転送登録特番[　　]》➡ ア 1 ～ DEF 3 で着信種別を選択(0 :一括登録) ➡転送先の内線番号を入力➡ ロック＊ ➡ 0 / ア 1 でツインコールの有無を選択➡ ロック＊ ➡ 切 **(内線/外線/専用線からの着信を外線に転送する場合)** 通話 ➡《不在転送登録特番[　　]》➡ ア 1 ～ DEF 3 で着信種別を選択(0 :一括登録) ➡ ロック＊ ➡ 転送先種別 0 を選択 ➡ 転送先の電話番号を入力 ➡ ロック＊ ➡ 0 / ア 1 でツインコールの有無を選択 ➡ ロック＊ ➡ 切　　※ は省略可 ● 発番号別の転送先設定(着信種別 GHI 4)や内線 /外線以外の転送先(転送先種別 ア 1 ～ WXYZ 9)については、『取扱説明書(多機能電話機編)』または『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

検索して電話をかける

サービスメニューを使う

1 待受状態で 確定 を押す

2 で[電話帳]を選び、確定 を押す

≪ﾒﾆｭｰ≫
履歴(発信 / 着信)
電話帳

3 で[番号検索]を選び、確定 を押す

≪電話帳≫
一覧表示
番号検索

4 で[共通電話帳]を選び、確定 を押す

≪電話帳指定≫
共通電話帳
個別電話帳

5 で「カナ検索」を選び、確定 を押す

≪共-電話帳検索≫
ﾒﾓﾘ NO 検索
ｶﾅ検索

6 検索する名前の1～5文字を入力して 確定 を押す

≪共-ｶﾅ検索≫ ＜半＞
＜ｽｽﾞｷ▌＞

7 検索結果から で相手を選び、確定 を押す

≪共通電話帳一覧≫
0011:鈴木一郎
0012:田中携帯

8 で[発信]を選び、確定 を押す

≪共-電話帳≫ NO:0011
鈴木一郎
発信

- 手順 4 で[個別電話帳]を選択することもできます。
- メモリ番号から検索する場合は、手順 5 で[ﾒﾓﾘ NO 検索]を選択したあと、登録されているメモリ番号を入力してください。
- 待受状態で を押すと手順 6 の≪共-ｶﾅ検索≫画面が表示されます。
- 複数の電話番号が登録されている場合は、手順 8 のあと 1 つの電話番号を選択してから発信します。

短縮ダイヤルを使う

1 待受状態で 短縮 を押す

2 メモリ番号を入力する

≪共通-ﾒﾓﾘ NO 発信≫
001▌
＊:個別切替　#:ﾘﾀﾞｲﾔﾙ

3 かけたい相手が選択されていることを確認して、確定 を押す

≪共通電話帳一覧≫
0011:鈴木一郎
0012:田中携帯

4 で[発信]を選び、確定 を押す

≪共-電話帳≫ NO:0011
鈴木一郎
発信

- 複数の電話番号が登録されている場合は、手順 4 のあと 1 つの電話番号を選択してから発信します。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お買い上げ日	年　　月　　日
販売店名	電話 (　　)　　-

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、まずお買い上げの販売店へお申し付けください。

サクサ株式会社

1831BH 226-1 D

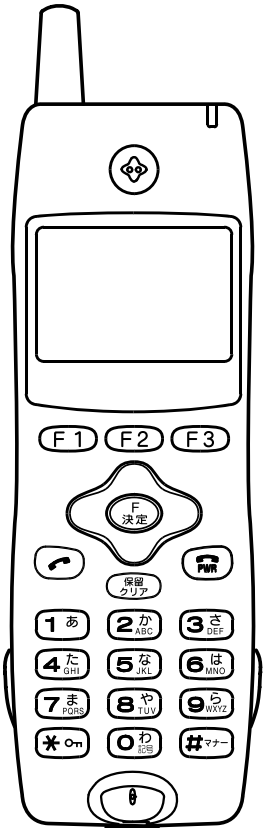
4438402000

PLATIA Ⅲ

操作早見表

デジタルコードレス電話機
UM7700

●詳しくは、取扱説明書をご覧ください。



電話をかける	外線にかける	➡《自動選局特番[　　]》➡ 電話番号 ➡<通話> ➡ PWR
		＜プリセットダイヤルの場合＞ 《自動選局特番[　　]》➡ 電話番号(※) ➡ ➡ <通話> ➡ PWR
	内線にかける	➡ 内線番号➡<通話> ➡ PWR
		＜内線プリセット発信の場合＞ 内線番号(※) ➡ ➡ <通話> ➡ PWR
かけ直す		➡《リダイヤル特番[　　]》➡<通話> ➡PWR
電話帳メモリ番号からかける		➡《共通電話帳特番[　　]》➡ 電話帳メモリ番号 ➡ <通話> ➡PWR
電話を受ける		<着信音> ➡ ➡ <通話> ➡ PWR
一時的に保留する		<通話中>➡ 保留クリア ➡<保留状態> ➡ PWR ➡<呼び返し> ➡ ➡ <通話> ➡PWR
転送	外線を口頭で転送	**(転送する人)** <通話中> ➡ 保留クリア ➡《パーク保留/応答特番[　　]》➡ パーク番号 (例: 0 0 2) ➡ 口頭で連絡「○○さん△△番に外線です」 ➡ PWR
		(受ける人) ➡《パーク保留/応答特番[　　]》➡ パーク番号(例: 0 0 2)➡ <通話> ➡ PWR
	内線番号で転送	<通話中> ➡ 保留クリア ➡ 転送先内線番号➡<通話> ➡ PWR　工事設定

（※）電話番号をダイヤルしてから を押して電話をかける（プリセットダイヤル）場合は、電話番号を間違えたときに次の操作でダイヤルしなおすことができます。

・番号の最後から１ケタずつ消すとき：保留クリア
・番号すべてを消してダイヤルしなおすとき：PWR

- 充電器から上げている状態を基本とします。
- 特番をダイヤルする箇所には、[　　] 欄を設けていますので、実際にご使用になる特番をご記入ください。
- 特番については販売店にお問い合わせください。

自動転送	不在時の転送を設定する	➡《不在特番[　　]》➡ 1～9で不在理由を選択 ➡
	不在時の転送を解除する	➡《不在特番[　　]》➡ 0（不在解除）➡
	不在時の転送先を設定する	**（内線/外線/専用線からの着信を内線に転送する場合）** ➡《不在転送登録特番[　　]》➡ 1～3で着信種別を選択（0：一括登録） ➡転送先の内線番号を入力➡ ➡ 0/1でツインコールの有無を選択 ➡ ➡ **（内線/外線/専用線からの着信を外線に転送する場合）** ➡《不在転送登録特番[　　]》➡ 1～3で着信種別を選択（0：一括登録） ➡ ➡転送先種別0を選択 ➡転送先の電話番号を入力➡ ➡ 0/1でツインコールの有無を選択 ➡ ➡ ※ [　　] は省略可 ● 発番号別の転送先設定（着信種別4）や内線 / 外線以外の転送先（転送先種別1～9）については、『取扱説明書（多機能電話機編）』または『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。
	圏外転送	圏外転送の登録はWeb設定で行います。 ※ 詳細については『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

ご注意

- この電話機では、発番号が非通知の電話を着信したときでも、電話機のディスプレイに「非通知番号」と表示されません。
- この電話機では、端末メニューで「発番号通知」を「オフ」を設定して発信しても非通知にはなりません。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　月　　日
販売店名	電話（　　）　　-

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、まずお買い上げの販売店へお申し付けください。

サクサ株式会社

1828BH 226-1 D

4438401700

PLATIA Ⅲ

操作早見表

アナログ電話機

●詳しくは、取扱説明書をご覧ください。

電話をかける	外線にかける	➡《自動選局特番[　　]》➡ 電話番号 ➡<通話> ➡
	内線にかける	➡ 内線番号➡<通話> ➡
かけ直す		➡《リダイヤル特番[　　]》➡<通話>➡
電話帳メモリ番号からかける		➡《共通電話帳特番[　　]》➡ 電話帳メモリ番号 ➡ <通話> ➡
電話を受ける		<着信音> ➡ ➡ <通話> ➡
一時的に保留する		<通話中> ➡ フッキング操作 ➡<保留状態> ➡ フッキング操作(または ➡ <呼び返し>) ➡ <通話> ➡
転送	内線番号で転送	<通話中> ➡ フッキング操作 ➡ 転送先内線番号 ➡ <通話> ➡ 工事設定
	外線を口頭で転送	**(転送する人)** <通話中> ➡ フッキング操作➡《パーク保留/応答特番[　　]》 ➡ (例: 0 0 1 パーク番号) ➡ 口頭で連絡「○○さん△△番に外線です」➡
		(受ける人) ➡《パーク保留/応答特番[　　]》➡(例: 0 0 1 パーク番号) ➡ <通話> ➡
	外線番号に転送	<通話中>➡ フッキング操作 ➡《自動選局特番[　　]》 ➡ 電話番号 ➡ <通話> ➡ 工事設定

- フッキング操作とは、通話中に電話機のフックスイッチを「ポンッ」と押すことをいいます。
- 特番をダイヤルする箇所には、[　　]欄を設けていますので、実際にご使用になる特番をご記入ください。
- 特番については販売店にお問い合わせください。

自動転送	不在時の転送を設定する	➡《不在特番[　　]》➡ 1 ～ 9 で不在理由を選択 ➡
	不在時の転送を解除する	➡《不在特番[　　]》➡ 0 (不在解除) ➡
	不在時の転送先を設定する	**(内線/外線/専用線からの着信を内線に転送する場合)** ➡《不在転送登録特番[　　]》➡ 1 ～ 3 で着信種別を選択(0 :一括登録) ➡転送先の内線番号を入力➡ ＊ ➡ 0 / 1 でツインコールの有無を選択 ➡ ＊ ➡ **(内線/外線/専用線からの着信を外線に転送する場合)** ➡《不在転送登録特番[　　]》➡ 1 ～ 3 で着信種別を選択(0 :一括登録) ➡ ＊ ➡転送先種別 0 を選択➡転送先の電話番号を入力➡ ＊ ➡ 0 / 1 でツインコールの有無を選択 ➡ ＊ ➡ ※ [　] は省略可 ● 発番号別の転送先設定(着信種別 4)や内線 / 外線以外の転送先(転送先種別 1 ～ 9)については、『取扱説明書(多機能電話機編)』または『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お買い上げ日	年　　月　　日
販売店名	電話 (　　)　　-

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、まずお買い上げの販売店へお申し付けください。

サクサ株式会社

1825BH 226-1 D

4438401400

お問い合わせ窓口のご案内

このたびは、当社の商品をお求めいただき、誠にありがとうございます。
商品についてのお問い合わせ、ご相談、アフターサービス（修理）などにつきましては、
お求めになられました販売店または下記の当社窓口にご相談ください。
なお、お客様との電話応対時においては、お問い合わせ・ご相談内容等の正確な把握、
今後のサービス向上のために、通話を録音させていただく場合があります。

《サクサグループ》

■お客様窓口（商品についてのお問い合わせ、ご相談）

サクサ株式会社　　**●お客様相談室：** ナビダイヤル ゼロゼロワン サクサ 0570-001-393
050-5507-8039

上記窓口・電話番号は都合により、変更になる場合がございます。その際は、お買い求め頂いた販売店にご相談いただくか、または、当社ホームページ（http://www.saxa.co.jp）より最新情報を入手してください。

PHS・IP 電話など、ナビダイヤル（0570 で始まる番号）がご利用できない場合は、050-5507-8039 にお問い合わせください。

当社では、今後も環境に配慮した製品の開発を推進し、サクサブランドのエコ商品をグループ一体となって生み出すことにより、地球環境保全に貢献していきたいと考えています。

サクサエコマークは、下記の条件を満たした商品に適用します。

サクサエコ商品認定基準

＜環境に配慮した材料の採用＞

・当社の定めた含有禁止物質を製品には使用しません。
・当社の定めた含有抑制物質については、その使用量を把握管理し抑制に努めます。
・酸性雨で地中に溶けだし人体に影響がある鉛については、使用量を把握管理し抑制に努めます。
・焼却時にダイオキシンが発生する恐れのある、ポリ塩化ビニル（PVC）や特定臭素難燃剤（PBDE 及び PBB）の使用を抑制します。
・廃棄時の環境影響に配慮した当社の基準で推奨するプラスチック材料や金属材料を使用します。

＜リサイクルしやすい設計＞

・リサイクルを容易にするために、プラスチック部品には材料名を表示します。
・リサイクルを考慮しプラスチック材料はできる限り統一しています。
・プラスチック材料への二次加工を抑制した設計を行います。

＜環境に配慮した梱包材＞

・緩衝材に発泡スチロールはできる限り使用しないようにしています。

＜省エネルギー＞

・省エネルギーを考慮した設計を行います。

＜事前評価＞

・設計・製造にあたっては、当社の定めた製品アセスメントを実施し、製品が環境に与える影響を評価しています。

この装置は、クラス A 機器です。
この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

本製品は、外国為替及び外国貿易法で定める規制対象貨物・技術に該当する製品です。
この製品を輸出する場合または国外に持ち出す場合は、日本国政府の輸出許可が必要です。

This product designed for use in Japan is a strategic product regulated under the Japanese Law. When you plan to export or take this product out of Japan, please obtain a permission from the Japanese Government.

Li-ion

リチウムイオン電池の
リサイクルに
ご協力ください

サクサ株式会社

1604BT 226-1 D

この資料の内容は、2022 年 6 月現在のものです。

4438087800